

salesforce

# Salesforce Summer '18 リリースノート

Salesforce, Summer '18

パーソナライズされたカスタマーエクスペリエンスへの道を切り開く



 @salesforcedocs

最終更新日: 2018/06/04

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2018 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

# 目次

Salesforce Summer '18 リリースノート	1
リリースノートの使用方法	4
機能が使用可能になる方法と状況	16
サポートされるブラウザ	60
Salesforce 全体	63
Lightning Experience	94
Lightning Essentials	107
Salesforce Einstein	109
セールス	112
サービス	195
分析	268
コミュニティ	346
Chatter	393
Files	399
モバイル	408
Financial Services Cloud	415
Health Cloud	420
カスタマイズ	426
セキュリティと ID	476
Salesforce IoT	512
開発	513
マーケティング	615
重要な更新	616
ドキュメントコンテンツ	617
その他の Salesforce 製品とサービス	623



# Salesforce Summer '18 リリースノート

Summer '18 リリースは、パーソナライズと統合がより進んだカスタマージャーニーを実現し、組織全体で顧客に関して知り得た情報の理解を深めて、チームがよりスマートに作業できるようにします。

このセクションの内容:

## リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

## 機能が使用可能になる方法と状況

Summer '18 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

## サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

## Salesforce 全体: 認知、採用、パーソナライズの手段の増加による Lightning Experience の生産性の向上

自動切り替えや機能応答画面を使用して、ユーザの Lightning Experience の認知と採用を促します。Lightning Experience の使用状況を追跡して、採用の理解を深め、最適化を促進します。URL が短く読みやすくなったため、クリックする前にアクセス先がわかります。より少ないクリック数で Lightning Experience のナビゲーションバーをパーソナライズできます。オブジェクトレベルの検索でグローバル検索を絞り込み、シノニムグループを作成することなく使用できます。リストビューの詳細な検索条件で、最も重要な項目を表示します。テーマベースのトピックでレコードを整理します。ガイド付きフロー、改善されたリンク共有、より多くの Lightning コンソール JavaScript API でコンソールアプリケーションを強化します。ガイダンスに従って各個人データの安全性と機密性を確保します。

## Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

## Essentials: 中小企業向けのセールスとサービス

小規模ビジネスを新たな高さに引き上げる準備はできていますか? Salesforce Lightning Essentials を使用すれば、企業のセールスおよびサービスのニーズを1つの場所で容易に管理できます。Lightning をすばやく拡張し、セールスとサービスの Lightning Essentials を使用して顧客の成功をサポートします。

## Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化

世界で最もスマートな CRM をユーザが最大限活用できるように、多くの標準 AI およびカスタム AI 機能が提供されています。ビジネスで次に起きることを予測し、実行する次の手順を把握するのに役立つ Einstein の新機能を以下に示します。

### セールス: インテリジェントな売上予測、改善されたキャンペーン管理、Lightning Dialer の機能強化

正式リリースされた Einstein 売上予測を使用して、よりスマートに作業を進めましょう。キャンペーンメンバーへのアクセス権を制御し、取引先別に追加します。Lightning Dialer 機能およびその他のツールで営業担当のパフォーマンスが向上します。

### サービス: Einstein ボット、Lightning のガイド付きエンゲージメント、および Lightning コミュニティの Field Service

チームのワークロードを軽減するために、パスワード要求のようなお決まりのケースをチームには転送しない Einstein ボットを構築します。Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用して、エージェントがフローの順序付きリストに従って、コールスクリプトをはじめとした複数のステップのアクションをコンソール内から直接実行できるようにします。Lightning のガイド付きエンゲージメントは Live Agent チャットでも使用できます。Snap-in の予定管理(ベータ)、Lightning コミュニティの完全サポート、最適化ルールといった堅牢なフィールドサービス機能を活用して、スケジュールの中断に対処します。オムニチャネルのスキルベースのルーティングやオムニチャネルの外部ルーティングなど、作業項目のエージェントへの転送方法の選択肢が増えていきます。横並び比較、翻訳記事のスマートリンク、Lightning Knowledge 移行ツールなど、Lightning Knowledge の翻訳管理機能を使用します。最後に、ケースチームやメールドラフトを使用してケースを効率的に管理します。

### Analytics: レポートとダッシュボード、および Einstein Analytics

レポートやダッシュボードについては、Lightning Experience レポートビルダー(正式リリース)、Lightning Experience 結合レポート(ベータ)、拡張サブスクリプションなどがこのリリースで導入されています。Einstein Analytics については、Salesforce オブジェクトの Einstein Discovery のおすすが正式リリースされ、ダッシュボードの条件付き書式やその他の数多くの新機能が導入されています。

### コミュニティ: 事前作成済みのテーマ、固定された投稿、スレッドの終了

この夏は、Community Cloud が素晴らしい新機能で波を起こします。コミュニティビルダーに標準搭載のテーマが導入されました。これでユーザはコミュニティのデザインを数クリックで変更できます。投稿の固定やスレッドの終了など、素晴らしい新機能をフィードに追加してください。コミュニティでこれほど楽しいことがあるのだから夏休みは必要ありませんね。

### Chatter: ユーザプロフィールの Trailhead バッジ、投稿およびコメント内のレコードリンク、固定表示投稿とコミュニティストリームの正式リリース

ユーザは、獲得した Trailhead バッジを自分のプロフィールページに表示できるようになりました。投稿またはコメントから、組織で使用可能なあらゆるレコードタイプにリンクできます。固定表示投稿およびクロスコミュニティストリームが正式にリリースされました。

### ファイル: ライブラリ管理の更新、ファイルのトピック、Quip Lightning コンポーネント

ファイルのワークフローが円滑になりました。メンバーシップの更新機能や空ライブラリの削除機能などを使用して、ライブラリを Lightning Experience から直接管理します。Quip Lightning コンポーネントをレコードにポップし、ユーザがレコードから Quip に直接アクセスできるようにします。トピックを使用してファイルを選定し、[最近のファイル] ドロップダウンで、最近参照したファイルをすばやく見つけます。

### モバイル: 外出先で実行できる操作の増加

Salesforce モバイルアプリケーションを使用すると、ユーザは外出中も生産性を維持できます。Chatter の機能強化、ケースのメール通知、ToDo と行動の件名などが追加されました。

### Financial Services Cloud: 個人取引先の機能強化、カスタマイズされたグループリレーションビュー、積み上げ集計の機能強化、Salesforce Inbox と Pardot の互換性

個人取引先を使用して、統合されたカスタマイズ可能なクライアントプロフィールを表示できます。個人取引先は、Salesforce モバイル、アドバイザー分析、パートナーコミュニティとカスタマーコミュニティで使用できるようになりました。拡張されたグループリレーションビューには、主要なカスタマーリレーションが表示されます。拡張された積み上げ集計を使用すると、ユーザは [プライマリグループ] ビューからすばやくアクションを実行して商談を成功させることができます。ルックアップによる積み上げ集計の計算を無効にして、データ読み込みを高速化します。Financial Services Cloud で Salesforce Inbox と Pardot を使用すると、アドバイザーとバンカーの生産性が向上します。その他にも、TellerAccess(窓口係アクセス)権限セットや操作性とアクセシビリティの改善など、多くの機能強化があります。

### Health Cloud: モジュール形式の追加、EHR インテグレーションの簡易化、Field Service Lightning のサポート

Health Cloud は Field Service Lightning をサポートするようになり、HL7 v2 標準を使用して電子健康カルテ (EHR) データを送受信するさまざまな標準の方法から選択できます。

**カスタマイズ: 数クリックでさらに賢くなる、外部サービスと時間項目の正式リリース、エラー処理の改善**  
新しい Einstein 次善アクション (パイロット) を使用して、今よりもスマートな組織になるための方法をカスタマイズします。外部サービス、カスタム時間項目、フローアクションとしての Lightning コンポーネント、およびフローフェーズの各機能をパイロット版またはベータ版から正式リリースしました。Lightning ページ、プロセス、フローを頻繁に使用している場合は、改善されたエラー処理が役立ちます。

### セキュリティとID: 新しい検証およびログイン方法、より多くのメールと項目の暗号化、状態チェックの機能強化、簡単になった [私のドメイン] 管理

ID トークンと確認リンクの有効期間を制御できるようになり、顧客が検証コードを使用してログインできるようになりました。より多くの項目を暗号化し、暗号化データを絞り込み、鍵素材をより詳細に制御します。状態チェックスコアをグレードによって一目で評価できます。Salesforce カスタマーサポートに連絡せずにサブドメインの名前を変更できます。

### Salesforce IoT: トラッカーを使用したオーケストレーションのトラブルシューティングおよび活動ログを使用したオーケストレーションの監視

Salesforce IoT Explorer Edition を使用して、接続デバイスからのイベントをほぼリアルタイムで処理し、顧客との有意義なインタラクションを作成します。このリリースには、新しいオーケストレーションの問題のトラブルシューティングに役立つ新しいトラッカー機能が含まれます。また、本番稼働中のオーケストレーションを監視するための活動ログも含まれており、すべてが適切に機能していることを確認できます。

### 開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

インテリジェンスが向上し、コンポーネントやAPIが新規追加および更新され、優れた開発ツールが導入されました。Lightning コンポーネント、Visualforce、または Apex を使用しても、あるいはお気に入りのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用しても、次の機能強化は、優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

### マーケティング: Lightning ホームページ、Google Analytics 360 インテグレーション、およびその他の機能

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアムプラットフォームです。あらゆるソースからの顧客利用データを 1 か所に表示し、ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化できます。最適なタイミングですべてのチャネルとデバイスにパーソナライズされたコンテンツを配信し、リアルタイムでアプローチを最適化してより優れた結果をもたらすことができるように、ビジネスでの各インタラクションの影響を評価します。

### 重要な更新

このリリースには、プロセス、フロー、HTMLベースのメールテンプレート、およびSandbox URLに関する新しい重要な更新が含まれます。また、@AuraEnabled Apex コントローラに関する重要な更新が延期されました。

### ヘルプ&トレーニング


Trailhead モジュールと手順の動画が追加されました。また、信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

### その他の Salesforce 製品とサービス

## リリースノートの使用方法

---

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

- PDF 版と HTML 版が用意されています。
  - HTML 版では、使用される言語はブラウザの設定によって決まります。言語を変更するには、下部にスクロールして [言語を変更] をクリックし、言語を選択します。
  - リリースノートは新機能や変更された機能に関するものであり、既知の問題に関するものではありません。既知の問題については Salesforce の「[既知の問題](#)」サイトを参照してください。
-  **メモ:** 新しいリリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しません。場合によっては、以前のリリースのドキュメントにリダイレクトされることがあります。
- 一部のドキュメントには、リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers でプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

このセクションの内容:

### 次のリリースに関する情報をよりすばやく把握

新しい形式のリリースノートでは、各機能または変更に関する最も重要な詳細を確認できます。リリース準備の計画が容易になるようにデザインされています。内容、対象、時期、対象ユーザ、理由、方法が説明されます。やるべきことは沢山ありますので、この方がすばやく把握できます!

### 検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

### Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Salesforce Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。また、今後数回のリリースでは Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

### お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。



### その他のリソース

これらのリリースノートの他にも、すばやく概要を把握するためのリソースが用意されています。

### リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

### フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

## 次のリリースに関する情報をよりすばやく把握

新しい形式のリリースノートでは、各機能または変更に関する最も重要な詳細を確認できます。リリース準備の計画が容易になるようにデザインされています。内容、対象、時期、対象ユーザ、理由、方法が説明されます。やるべきことは沢山ありますので、この方がすばやく把握できます!

**対象:** この変更は、APIの変更がリストされる [開発者] セクションのいくつかのエントリを除く、リリースノート全体に適用されます。

**対象ユーザ:** 新しい形式は、リリースノートを使用して次のリリースへの計画を立てるすべてのユーザが使用できます。

**理由:** リリースノートは、各リリースへの準備をするときに頼りにする主要なリソースです。準備では次のような情報が必要になります。

- 新規追加または変更される内容は?
- これらの変更が適用される対象は?
- これらの変更が行われる時期は?
- これらの変更の影響を受ける対象ユーザは?
- これらの新機能および変更に注意する必要がある理由は? 自分とユーザにとっての意味は?
- この新機能を設定する方法は?

ただし、すべてのトピックにこの6つの情報が含まれるとは限りません。たとえば、次のリリースによって [設定] で使用可能になる新しいオプションを説明するときには、[時期] セクションはありません。このセクションは、リリースの遅延について伝えるために使用するからです。

**方法:** この新しい形式はすでに手元にあります。設定は必要ありません! Summer '18 リリースノートを読めばわかるでしょう。新しい形式やリリースノートの使用方法についてのフィードバック、またはその他の改善に関するご要望、ご提案があれば、ぜひお寄せください。見解、提案、アイデアを共有するには、『[Salesforce Release Notes Survey \(Salesforce リリースノートのアンケート\)](#)』をご利用ください。

## 検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

### 環境

Lightning Experience、モバイル、および Salesforce Classic で使用できる機能を参照してください。

## エディション

使用可能な機能強化は、エディションごとに異なります。リリースノートを絞り込んで、ご使用のエディションでリリースされる機能強化のみを表示します。

## 機能の影響

有効化または設定しないとユーザが利点を得られない機能もあります。システム管理者は、リリースノートを絞り込むことでそれらの機能だけを表示したり、非表示にしたりできます。また、ユーザに対して自動的に有効になる機能のみを表示することもできます。

## 製品エリア

組織で使用する商品のみを表示します。組織がセールスを行いサポートは行わない場合、セールス関連のニュースのみが表示されるようにリリースノートを設定します。

リリースノートのリストを絞り込むには、画面の右側にある[条件を表示]をクリックします。

絞り込まれたリリースノートのリストを他のユーザと共有できます。検索条件を選択してURLをコピーし、そのURLを任意の方法で配信します。

## Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Salesforce Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。また、今後数回のリリースでは Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

この移行期間を成功させる鍵は、1つ、両方、またはすべての Salesforce 環境で使用できる機能を把握することです。そのため、リリースノートには情報が適用される最上位レベル(クラウド全体またはクラウド内の個々の機能)での環境情報を追加しました。いくつか例を見てみましょう。

- 新しい Service Cloud 機能は、両方のデスクトップ環境で使用可能であるため、リリースノートの [対象] セクションには「この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。」と記載されています。
- 新しい Sales Cloud 機能は、Lightning Experience でのみ使用可能であるため、リリースノートの [対象] セクションには「この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。」と記載されています。

主要機能が Salesforce アプリケーションでも使用可能な場合は、リリースノートの [対象] セクションでその点を示しています。新機能の完全なリストの「モバイル」セクションを確認することもできます。

## お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

IdeaExchange	実現したアイデア
<b>Salesforce 全体</b>	
Lightning にトピックを追加	トピックを使用したレコードの整理 (部分的に実施)
<b>セールス</b>	
キャンペーンビューからすべてのキャンペーンメンバーを一括メール送信	キャンペーンメンバーへのリストメールの送信
Lightning Experience - リードおよび取引先責任者リストビュー - キャンペーンによる絞り込み	キャンペーンでリードおよび取引先責任者リストビューの絞り込み
収益/数量スケジュール日に基づいた売上予測	Lightning Experience でのスケジュール日と商品提供日の売上予測を使用したより正確な売上予測
Lightning で ToDo リストビューを並び替える機能	リストビューの ToDo の機能強化
Lightning Experience の ToDo ページで ToDo リストを設定可能にする	
Lightning Experience で [ToDo] タブのカスタムリストビューをサポート	
Lightning での選択リストとしての ToDo 件名項目	ToDo と行動の定義済み件名の作成
テンプレートを使用して ToDo の件名を自動入力	
Lightning の ToDo を複数のユーザに割り当てる機能	ToDo の同僚用コピーの作成
HTML Lightning メールテンプレートを作成	HTML でメールテンプレートの効果を増大
編集可能な領域を使用して品質の高い HTML メールテンプレートを作成	
Lightning メールテンプレートの管理	Lightning メールテンプレートを 1 か所で管理
「設定・定義の参照」なしで公開テンプレートを管理	

IdeaExchange	実現したアイデア
Lightning Experience での Visualforce メールテンプレート	Visualforce メールテンプレートを Lightning Experience で使用
キャンペーンビューからすべてのキャンペーンメンバーを一括メール送信	キャンペーンおよびキャンペーンメンバーへのリストメールの送信
取引先、商談、キャンペーンなど、他のレコードに一括メールを関連付け	
Lightning のカレンダーでドラッグアンドドロップ機能を有効化	Lightning Experience でカレンダー項目をドラッグして更新
Lightning で個人取引先の設定にアクセス	Lightning Experience での個人取引先の設定
Lightning Experience で商品スケジュールを有効化	商品: Lightning Experience でのスケジュールの操作
取引先責任者でのパス	取引先責任者のパスによる営業担当の成功の促進
レポートとダッシュボード	
レポートとダッシュボードのフォルダ/サブフォルダのネスト	Lightning Experience でのレポートおよびダッシュボードフォルダの整理
ダッシュボードテーブルに通貨を表示 および	Lightning Experience のダッシュボードのグラフの機能強化
Lightning Experience ダッシュボードに数値全体を表示 および	
Lightning Experience の折れ線グラフに値を表示	
項目履歴レポートで[元の値]と[新しい値]で絞り込み	元の値と新しい値での項目履歴レポートの絞り込み
Lightning Experience レポートの印刷可能なビュー および	書式設定を保持したレポートのエクスポート
レポートの詳細をエクスポート	
[最終実行日] を[レポート] タブと [ダッシュボード] タブに追加	Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードビューの強化
Lightning Experience で日付によりレポートデータをグループ化	カスタマイズされた日付の粒度でレポートをグループ化
サービス	
作業指示でのパス	Field Service のパスを使用したチームのガイド
メールドラフトを自動保存	ケースの非公開メールドラフトで窮地を脱出
ドラフトメールを保存	ケースの非公開メールドラフトで窮地を脱出

IdeaExchange	実現したアイデア
コミュニティ	
カスタマイズ	
Visual Workflow に日付/時間データ型を追加	フロー画面での日付/時間値のキャプチャ
フロー内のコレクションのサイズ	新しい代入演算子を使用した有効なフェーズとコレクションの更新
Visual Workflow とワークフロートリガのデバッグ機能の改善 プロセスビルダーとフローの GUI テスト/デバッグ	Cloud Flow Designer でのフローのデバッグ
プロセスビルダー: エラーメッセージ	ユーザにとってわかりやすいプロセスエラー
フローインスタンスエラーメールに組織 ID を追加	フローまたはプロセスが失敗した組織名の取得
フロー障害メールとプロセスビルダーエラーメールの送信先を選択	フローおよびプロセスのエラーメールの受信者の制御
承認プロセスの差出人メールアドレスの変更機能	承認申請メール通知の送信者の上書き
カスタム時間項目	時間データ型を使用した時間の追跡 (正式リリース)
レコードに移動することでフローを「終了」する簡単な方法がフローデザイナーに必要	フローアクションとしての Lightning コンポーネントの使用 (正式リリース)
プロセスビルダー-すべて処理するか何も処理しない	プロセスでの作成および更新操作の部分的保存の有効化 (重要な更新)
どのアプリケーションが個人取引先で機能するかを示す AppExchange カテゴリ	AppExchange: 新しい検索条件とプロファイルの機能強化
<b>開発</b>	
「Switch」 または 「Case」 ステートメントを Apex に追加	Apex Switch ステートメントを使用したコードの簡略化
API 名で RecordTypeInfo を取得するメソッド	レコードタイプの API 参照名をより簡単に取得
SOQL count() クエリを単一行クエリとしてカウントするメソッド	クエリ行単位で制限にカウントされるようになった SOQL Count() 関数
Apex を使用した PageMessages のクリアのサポートを追加	テスト中の Visualforce ページのメッセージのクリア
パッケージのインストールおよびアップグレード後に「すべてのクラスをコンパイル」を実行	リリース時のコンパイル (正式リリース)
Apex 使用制限の 3,000,000 文字を増加する可能性	Apex コードサイズの制限の緩和

**IdeaExchange**

## 実現したアイデア

現在の操作および前後の状態を表すトリガコンテキストの列挙 **新規** Apex Enum

Use Custom Metadata Types in Formulas/Validation Rules (数式/ カスタムメタデータ型レコードを使用した複数の入力  
入力規則でのカスタムメタデータ型の使用) 規則の更新 (正式リリース)

## その他のリソース

これらのリリースノートの他にも、すばやく概要を把握するためのリソースが用意されています。

- [Release Readiness & Feature Adoption コミュニティ](#)。Salesforce エキスパートのコミュニティに参加しましょう。
- [リリースデモ](#)。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。
- [リリースの概要](#)。ユーザ向けの社内トレーニングを作成したり、設定画面を確認したり、機能の使用方法を学習したりします。
- [カスタマーサクセスのイベントカレンダー](#)リリースで検索したり、イベントに登録したりします。
- [Release Readiness の提供](#)。新しい機能を登録し、活用します。
- [Summer '18 リリース](#)。新しい機能を確認します。
- [Summer '18 リリースモジュール](#)。Summer '18 Trailhead バッジを取得します。
- [メンテナンス試験](#)。認定資格を更新します。

## リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

最新の情報 (以下の日付以降の差分) は[英語版](#)ご覧ください。

### 2018 年 6 月 13 日

**Salesforce サイトおよびポータルでのトピックの保護 (重要な更新)**

Summer '13 より前に作成された Salesforce サイトおよびポータルで外部ユーザに対してトピックを無効にする重要な更新のリリースノートが追加されました。

**Winter '19 での連動選択リストの更新**

次のリリースで予定されている変更を警告する新しいリリースノート。

### 2018 年 6 月 6 日

**Salesforce for Android/iOS の新機能**

Salesforce for Android/iOS のバージョン 16.0 が 2018 年 6 月 11 日の週に正式リリースされることが発表されました。ユーザ向けの新しい機能強化を確認してください。

**Service Cloud Mobile: 外出先でのケース管理 (ベータ)**

Service Cloud Mobile アプリケーションは、正式リリースの代わりにベータでリリースされます。

### Salesforce コンソール API

Lightning Experience でサポートされるオムニチャネルメソッドを知らせるリリースノートが追加されました。

### Lightning Experience 設定コンバータを使用した JavaScript ボタンの Lightning 対応の代替法への変換 (正式リリース)

この新しい正式リリース機能を知らせるリリースノートが追加されました。

### プロセスビルダーの項目ピッカーでサポートされるオプションのみ表示

プロセスビルダーの項目ピッカーには、サポートされないオプションが表示されなくなりました。

### Engagement Studio でのアドバイスの表示

Engagement Studio の新しい警告に関するリリースノートが追加されました。

### Twitter の投稿ポリシーの変更

Pardot から Twitter に対するソーシャル共有での新しい制限に関するリリースノートが追加されました。

### プロスペクトによる Engagement プログラムの繰り返しの許可 (ベータ)

繰り返し Engagement プログラム (ベータ) に関するリリースノートが追加されました。

### メールでの絵文字の使用

メールの本文と件名行での絵文字サポートに関するリリースノートが追加されました。

### 特定のプロスペクトとしてのメールのプレビュー

Pardot メールでのプロスペクトとしてのプレビュー機能に関するリリースノートが追加されました。

### モバイル用 Field Service: Android 4.0

モバイル用 Field Service Android 4.0 は、2018 年の 6 月末ではなく 7 月中旬にリリースされます。

### Salesforce Classic コンソールでの Visualforce ページのクリックジャック保護の有効化

Visualforce ページのクリックジャック保護を有効にする方法についての詳細が追加されました。

### Einstein 予測ビルダー: コードなしのカスタム AI の使用 (ベータ)

このベータ機能のリリースノートと関連リリースノート「希望する位置への Einstein 予測の表示 (ベータ)」が追加されました。

### Lightning コンポーネントの新しい Lightning ナビゲーション API

新しいナビゲーション API をサポートするコンテナが明記されました。

### パスワードなしのログインで容易になった外部ユーザのコミュニティへのログイン

パスワードなしのログインでの SMS 検証コードの使用に関するセキュリティ警告が追加されました。

### フランス語、ドイツ語、EU スペイン語での Pardot の使用 (ベータ)

このベータ機能のリリースノートが追加されました。

### コミュニティメンバーによるナレッジ記事の作成

コミュニティメンバーが API で記事を作成できることが明記されました。

### リリース時のコンパイル (正式リリース)

リリースオプションでのコンパイルの場所が [設定] の [Apex 設定] に修正されました。

### スケジュール済みアクションとフローインタビューの細分化された一括処理によるランタイムエラーの回避

Apex ガバナ制限が 1 時間あたり 100 個の SOQL クエリからトランザクションあたり 100 個の SOQL クエリに修正されました。

### スキャンされた PDF のプレビューを使用した問題の解決

この機能が正式リリースされたため、システム管理者は Salesforce に有効化を依頼する必要がなくなりました。

### 安全でない外部アセットイベント種別への一意の ID 項目の追加

新しい API 項目に関する情報が追加されました。

### 変更されたオブジェクト

Bulk API の PK Chunking ヘッダーで CaseHistory オブジェクトがサポートされるようになりました。

### Pardot for Lightning の 1 つのプラットフォームでの営業とマーケティングの連携 (ベータ)

このベータ機能のリリースノートが追加されました。

### 活動タイムラインの絞り込みオプションの追加

活動タイムラインに「活動タイムライン」という表示ラベルは使用されなくなったことが追加されました。

### Salesforce CLI: プラグイン開発サポート、合理化されたパッケージ化コマンド、拡張されたデバッグログ

Salesforce CLI v43 リリースの新機能、変更されたコマンドとパラメータ、およびプラグイン開発に関する情報が追加されました。

### パッケージの作成と管理の簡易化 (ベータ)

Salesforce CLI パッケージ化コマンドの新規追加と変更に関する情報が追加されました。

### VS Code 向け Salesforce 拡張機能: 新しいデバッグ

Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能の新機能、Apex Replay Debugger のリリースノートが追加されました。

## 2018 年 5 月 30 日

### Snapshot Analytics アプリケーションを使用した Salesforce の任意のデータのすばやいトレンド分析

Snapshot Analytics アプリケーションがリリースされました。

### 1 時間ごとのイベントログ取得によるアクティビティの可視性の改善 (正式リリース)

1 時間ごとのイベントログファイルのプロセスが明記されました。

### ロック済みパッケージのパイロットの一時停止

入念に検討した結果、ロック済みパッケージのパイロットを一時停止し、そのサポートを Summer '18 で中止することが決定されました。

### ページレイアウトでアクションとして使用されるカスタムボタンの削除禁止

ページレイアウトが崩れることを防ぐための変更に関する情報が追加されました。

### Lightning Experience と Salesforce モバイルアプリケーションの新しい URL 形式

/apex/pageName 形式を使用する Visualforce URL の動作に関する注記が追加されました。

### Visualforce メールテンプレートを Lightning Experience で使用

Visualforce メールテンプレートはケースで使用できないことが明記されました。

### 変更されたオブジェクト

Bulk API の PK Chunking ヘッダーで Event および EventRelation オブジェクトがサポートされるようになったことが追加されました。

### ヘルプ & トレーニング

[ヘルプ & トレーニング] セクションに新しい Trailhead モジュール、ビデオ、更新された信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが追加されました。



### 全体に対する割合注文商品のワークフローの改善

Salesforce CPQ 注文リリースノートへの若干の新規追加事項が追加されました。

### コミュニティ管理パッケージからのコミュニティのケースデフレクションダッシュボードの削除

AppExchange の Salesforce Community Management Package から Community Case ダッシュボードが削除されました。

### 削除済み: CPQ 計算のセキュリティの改善

この機能はまだ公開する準備が整っていないため、改善が加えられるまで削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

### slds-form\_inline スタイルの削除

一部の Lightning 基本コンポーネントで誤って使用されていたために削除された CSS スタイルに関する情報が追加されました。

## 2018 年 5 月 23 日

### Lightning Experience でのカレンダーの [新規行動] ボタンの上書き

[新規行動] アクションをビジネスプロセスにとって最も重要なアクションになるようにカスタマイズし、チームがカレンダーから直接そのアクションを実行できます。

### 事前作成済み権限セットによる Analytics プラットフォームの設定の簡易化

事前作成済み Analytics 権限セットの説明が追加されました。

### 非営利団体: 自分と自分のデータだけの Analytics アプリケーション

非営利団体向けの新しい Analytics テンプレートがリリースされました。

### 新しい変更セットコンポーネント

Snap-in リリースコンポーネントが追加されました。

### AppExchange プロファイルと設定の管理

AppExchange プロファイルの機能強化を知らせる注記が追加されました。

### Health Cloud でのロシア語、イタリア語、デンマーク語のサポート

拡張された言語オプションの通知が追加されました。

### Lightning コンポーネントの新しい \$Locale.dir 属性の削除

以前にはなかった不具合が原因で、新しい \$Locale.dir 属性は削除されました。

### Lightning Experience スタイルシートでのカスタムテーマのサポート

Visualforce ページの Lightning Experience テーマのサポートに関する注記が追加されました。

### Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

以前はドキュメントに記載されていなかった PackageInstallRequest オブジェクトの EnableRss 項目が追加されました。

### 必要に応じたデータ読み込みの高速化

システム管理者がデータ読み込みを高速化するルックアップによる積み上げ計算を無効にできる、2つのカスタム設定に関するリリースノートが追加されました。

## 2018 年 5 月 16 日

### Adoption Analytics アプリケーションのインサイトを使用した Analytics への投資の最大化

新しい Analytics テンプレートアプリケーションがリリースされました。

Salesforce Billing 機能「クレジットセンター」の通知が削除されました。これは今後のリリースで使用可能になります。

#### 新しいコンポーネントを使用したカスタムメールアプリケーションペインの作成

メール追跡機能はメールにのみ適用され、行動には適用されないことが明記されました。

#### プロスペクトの完全削除

顧客の要求に応じてプロスペクトデータを完全に削除します。

#### Pardot でのごみ箱内のプロスペクトの処理方法の変更

Pardot では、ごみ箱内のプロスペクトの追跡方法と、そのプロスペクトをどのアクティビティで復元できるかが変更されました。

#### Salesforce Engage の新しいオプションの設定

Salesforce Engage の設定オプションが追加されました。

#### Adoption Manager メールが無効化

Salesforce Adoption Manager メールはユーザに送信されなくなりました。

#### 一部の組織ではユーザによる使用は Lightning Experience のみに限定

2018 年 6 月より、特定のエディションの新しい組織では、エンドユーザによる使用は Lightning Experience のみに設定されます。

#### レポートおよびダッシュボード: Lightning Experience レポートビルダー(正式リリース)、Lightning 結合レポート(ベータ)、登録の改善

リリースの主要なレポートおよびダッシュボード機能のデモビデオへのリンクが追加されました。

#### 変更されたオブジェクト

API バージョン 42 以前と比べて、API バージョン 43 では NavigationMenuItem の Status 項目がデフォルトで異なる状況に設定され、異なるクエリ結果になることを記載するように更新されました。

#### AppExchange: 新しい検索条件とプロファイルの機能強化

AppExchange Web サイトの新しい検索条件を知らせる注記が追加されました。

#### 公開コンソールでのマーケティングリソースの送信

パートナーが Salesforce にマーケティングリソースを提供できる公開コンソールの機能強化を知らせる注記が追加されました。

#### スクラッチ組織: 使用可能な新機能

スクラッチ組織の StateAndCountryPicklist 機能のスペルミスが修正されました。

#### 画像のトリミングと色の上書きでテーマをカスタマイズ

Lightning Experience の読み込み画面でテーマブランド画像を使用できることを知らせる注記が追加されました。

#### カスタム検索条件を使用したディスパッチャコンソールリストビューのカスタマイズ

ディスパッチャコンソールからカスタム検索条件を管理するために必要なユーザ権限が明記され、検索条件を公開する方法が説明されています。

#### ディスパッチャコンソールの操作性の強化

今日の日付でガントチャートを読み込むように設定する手順が修正されました。

#### Lightning クイックアクションおよび Salesforce Classic パブリッシャーの JavaScript API

カスタム Visualforce および Lightning コンポーネントアクション種別で作成されたクイックアクションのサポートに関する注記が追加されました。

## 2018年5月9日

### 作業種別へのナレッジ記事の追加

Salesforce Classic、Lightning Experience、およびコンソールで、作業種別、作業指示、作業指示品目にナレッジ記事を添付する方法が明記されました。

### Apexを使用したロックアップによる積み上げ集計ルール再計算の自動化

Apex ジョブを使用して RBL ルールを実行することで、組織のロックアップによる積み上げ集計再計算を自動化します。

### Salesforce CPQ: 記帳レポート、迅速な注文作成、拡張された見積品目エディタのナビゲーション

Salesforce CPQ 214 以降、新規ユーザと既存のユーザがメジャー CPQ パッチおよびリリースに自動的にアップグレードされる注記が追加されました。

### 行動のエクスポート時の主催者と被招集者の詳細のエクスポートの停止

営業担当が行動の詳細ページから行動をエクスポートするときに、主催者、被招集者、および被招集者の状況は .ics ファイルにエクスポートされなくなりました。

### スクラッチ組織: 使用可能な新機能

スクラッチ組織を作成するときに、次の新機能を使用できるようになりました。

### Salesforce CLI: プラグイン開発サポート、合理化されたパッケージ化コマンド、拡張されたデバッグログ

Windows 10 Subsystem for Linux での Salesforce CLI のインストールはサポートされなくなりました。

### Salesforce Optimizer を使用した実装の評価

Salesforce Optimizer のバージョン 2.3 がバージョン 2.2 の以前の機能強化と共に発表されました。

## 2018年5月2日

### Analytics Adoption AppExchange パッケージを使用したチームによる Einstein Analytics の利用状況の確認

Analytics アセット利用状況に関するインサイトを有効化する新しい AppExchange パッケージ。

### お客様のご要望

当社が配信したアイデアが追加されました。

### 選択したレコードへのメールの記録

メールの参照または作成時に [メールを記録] オプションが常に表示されることが明記されました。

### リストメールの暗号化

タイトルから「ベータ」が削除されました。プラットフォームの暗号化が正式リリースされました。

### Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

EmbeddedServiceFieldService オブジェクトが追加されました。EmbeddedServiceConfig、EmbeddedServiceLiveAgent、および EmbeddedServiceQuickAction オブジェクトに関する情報が追加されました。

### Lightning コンポーネントでの Snap-ins 設定の取得

Live Agent ID に加えて、エージェントとチャットボットの画像 URL を取得できる機能が追加されました。

### さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

検索可能な項目のリストにケースコメントが追加されました。

### Shield Platform Encryption: 活動データ、カスタムオブジェクト名、絞り込みを保持した暗号化、鍵の管理オプションの追加

Summer '18 での Shield Platform Encryption の新機能に関するリリースノートが追加されました。

2018年4月23日

[Salesforce Summer '18 リリースノート](#)

公開済みプレビューリリースノート。

## フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- **フィードバックフォーム:** Salesforce ヘルプ、リリースノート、開発者ガイドのドキュメントには、フィードバックフォームと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter** — Twitter で [@salesforcedocs](#) をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。 [@salesforcedocs](#) 宛にツイートしてください。

## 機能が使用可能になる方法と状況

Summer '18 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

## サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
<a href="#">Lightning Experience</a> でサポートされるブラウザ	✓			
<a href="#">Microsoft Internet Explorer</a> バージョン11を使用した <a href="#">Lightning Experience</a> へのアクセスのサポートの延長			✓	
<a href="#">Salesforce Classic</a> でサポートされるブラウザ	✓			
<a href="#">Einstein Analytics</a> でサポートされるブラウザ	✓			

## Salesforce 全体

自動切換えや機能応答画面を使用して、ユーザの Lightning Experience の認知と採用を促します。Lightning Experience の使用状況を追跡して、採用の理解を深め、最適化を促進します。URL が短く読みやすくなったため、クリックする前にアクセス先がわかります。より少ないクリック数で Lightning Experience のナビゲーションバーをパーソナライズできます。オブジェクトレベルの検索でグローバル検索を絞り込み、シノニムグループを作成することなく使用できます。リストビューの詳細な検索条件で、最も重要な項目を表示します。テーマベースのトピックでレコードを整理します。ガイド付きフロー、改善されたリンク共有、より多くの Lightning コンソール JavaScript API でコンソールアプリケーションを強化します。ガイダンスに従って各個人データの安全性と機密性を確保します。

機能	システム管理者/ ユーザに対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
データ保護とプライバシーの規制 のガイダンスの取得	✓			
<b>Lightning Experience の採用: 新しい Salesforce の認知および採用の手段の増加</b>				
ユーザの Lightning Experience 採用を 促進	✓			
Lightning Experience の方がよい理由 の発見	✓			
準備状況レポートを Lightning Experience へのガイドにする		✓		
Lightning 利用状況アプリケーション でユーザの活動に関するインサ イトを取得		✓		
Adoption Manager メールが無効化	✓			
一部の組織ではユーザによる使用 は Lightning Experience のみに限定		✓		
Lightning Experience と Salesforce モ バイルアプリケーションの新しい URL 形式			✓	
Salesforce Optimizer を使用した実装 の評価		✓		
Lightning Experience 設定コンバータ を使用した JavaScript ボタンの Lightning 対応の代替法への変換 (正 式リリース)		✓		
<b>検索</b>				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
どこからでも簡単に目的のオブジェクトを検索	✓			
標準シノニムグループによる時間の節約	✓			
さらに多くのオブジェクトでの検索結果の絞り込み	✓			
検索のサポートの強化				
さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に	✓			
検索の見出語化でのヘブライ語のサポート	✓			
統合検索が Performance Edition で使用可能に	✓			
ナビゲーションバーをパーソナライズする時間の短縮	✓			
画像のトリミングと色の上書きでテーマをカスタマイズ		✓		
詳細な検索条件を使用したリストビューの合理化	✓			
検索条件ロジックを使用しているときのインライン編集	✓			
レコード詳細ページの編集集中に項目の連動関係を表示	✓			
トピックを使用したレコードの整理			✓	
コンソール				
フローによるコンソールユーザのガイド			✓	
新しい Lightning コンソール JavaScript API を使用したタブ更新の自動化、ナビゲーション項目の変更、ユーティリティ項目のクリックのリスン		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
ワークスペースと有効なサブタブをアドレスバーからコピーして共有	✓			
ワークスペースタブとサブタブでカスタム Lightning コンポーネントを開く		✓		
コンソールアプリケーションで右サイドバーと左サイドバーを固定			✓	
<b>Salesforce アンケート: 絞り込まれたデータを収集するオプションの追加</b>				
参加者の回答に基づいたアンケートの質問のカスタマイズ	✓			
アンケートのコピー	✓			
取引先責任者のアンケートへの招待の表示	✓			
評価質問のスケールの拡大による詳細な回答の取得	✓			
Cisco Spark および WebEx 権限の容易な割り当て			✓	
送信登録せずに非公開のフィードバックを送信	✓			

## Lightning Essentials

小規模ビジネスを新たな高さに引き上げる準備はできていますか? Salesforce Lightning Essentials を使用すれば、企業のセールスおよびサービスのニーズを1つの場所で容易に管理できます。Lightning をすばやく拡張し、セールスとサービスの Lightning Essentials を使用して顧客の成功をサポートします。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
<b>Sales Essentials</b>				
新しい設定アプリケーションで Salesforce のカスタマイズ			✓	
チームメイトを招待する機能を使用した Salesforce への同僚の追加			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
カスタムセールスフェーズを使用した生産性の向上			✓	
重複レコードの排除			✓	
<b>Service Essentials</b>				
Service Essentials でのフローとプロセスの作成			✓	
新しいウォークスルーで知る Service Cloud Mobile の概要			✓	

## セールス

正式リリースされた Einstein 売上予測を使用して、よりスマートに作業を進めましょう。キャンペーンメンバーへのアクセス権を制御し、取引先別に追加します。Lightning Dialer 機能およびその他のツールで営業担当のパフォーマンスが向上します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
<b>Sales Cloud Einstein</b>				
Einstein 売上予測			✓	
Einstein 商談スコアリング			✓	
Einstein リードスコアリング				
無関係な項目を無視することによるリードスコアリングモデルの最適化			✓	
Einstein リードスコアリング設定時のさらに詳しいガイダンス			✓	
Einstein 自動取引先責任者	✓			
Einstein 活動キャプチャ	✓			
Einstein インサイト	✓			
<b>Sales Cloud Einstein のその他の変更</b>				
Sales Cloud Einstein での Analytics アプリケーションの表示および編集			✓	



機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Sandbox でのインサイトの表示			✓	
中核的なセールス機能				
キャンペーン				
キャンペーンメンバーにアクセスできるユーザの制御			✓	
取引先のすべての取引先責任者のキャンペーンへの追加	✓			
キャンペーンメンバーへのリストメールの送信	✓			
キャンペーンでリードおよび取引先責任者リストビューの絞り込み	✓			
キャンペーン階層の表示の高速化	✓			
コラボレーション売上予測				
Lightning Experience でのスケジュール日と商品提供日の売上予測を使用したより正確な売上予測			✓	
商談リストでの商品ファミリの合計の表示			✓	
リード				
取引先責任者-to-複数取引先でのリードの取引開始、その他の取引開始の機能強化			✓	
リードを安全にマージできるユーザの制御			✓	
商品				
取引先				
Lightning Experience での個人取引先の設定		✓		
個人取引先のクイックアクションの改善	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
パッケージをアンインストールした後の問題を新しい検証プロセスで回避		✓		
パス				
取引先責任者のパスによる営業担当の成功の促進			✓	
パスからの連動選択リストの更新			✓	
生産性機能				
<b>Lightning Dialer</b>				
通話の監視による営業担当の指導 (正式リリース)			✓	
異なる種別の見込み客に合わせた録音済みボイスメールメッセージ	✓			
見込み客との通話時に同一地区内の番号を表示			✓	
Lightning Dialer のその他の変更	✓			
<b>Einstein 活動キャプチャ</b>				
自動ログの提供			✓	
活動タイムラインでのメールインサイトを使用したよりスマートなメールの処理			✓	
Einstein 活動キャプチャでのすべての活動履歴へのアクセス	✓			
データポリシーの管理			✓	
<b>活動</b>				
リストビューのToDoの機能強化	✓			
ToDoの同僚用コピーの作成	✓			
ToDoと行動の定義済み件名の作成			✓	
活動タイムラインの絞り込みオプションの追加	✓			
活動の安全とセキュリティの維持			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
<b>メール操作環境</b>				
キャンペーンおよびキャンペーンメンバーへのリストメールの送信	✓			
正確なリストメールを送信するためのキャンペーンによる絞り込み	✓			
リストメールの暗号化			✓	
クリックの省略 — メール添付ファイルのドラッグ	✓			
メールコンポーザボタンの新しい場所	✓			
ドメインごとのメールリレーの設定		✓		
<b>メールテンプレート</b>				
Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用をセキュアなブラウザに制限 (重要な更新)		✓		
Lightning メールテンプレートを1か所で管理	✓			
Salesforce Classic メールテンプレート設定の新しい名前			✓	
HTML でメールテンプレートの効果を増大	✓			
新しい差し込み言語によるメールテンプレートの取引先責任者、リード、ユーザ差し込み項目の統合		✓		
Visualforce メールテンプレートを Lightning Experience で使用	✓			
<b>Kanban</b>	✓			
<b>カレンダー</b>				
Lightning Experience でカレンダー項目をドラッグして更新	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Lightning Experience のカレンダー ビューの強化	✓			
Lightning Experience でのカレンダーの [新規行動] ボタンの上書き			✓	
セールスコンソール				
<b>Inbox</b>				
Einstein メールインサイトを使用し た優先度の予測			✓	
すべての Inbox ユーザに Activities ダッ シュボードへのアクセス権を付与			✓	
推奨されるコネクションを使用し たネットワークの拡大			✓	
データ品質				
重複管理: カスタムオブジェクトで の重複ジョブの実行			✓	
Lightning Data: より明確な表示ラベル、項目の対応付けの制御、レビュー済み状況、通貨の換算				
データインテグレーション表示ラ ベルの変更	✓			
Lightning Data 更新時の項目の対応付 けの詳細な制御			✓	
信頼できるレビューしたレコード の状況	✓			
Lightning Data レコードの通貨の値の 換算			✓	
ベンダーの一意の ID を使用したデー タインテグレーションルールの一 致の指定	✓			
Lightning Data の一致の最小信頼性ス コアのテストによる重要な決定の 後押し			✓	
取引先をインポートする前の Lightning Data クレジットの残りの表 示	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
<b>Lightning for Gmail</b>				
改良されたデザインで必要な機能に焦点を絞る	✔			
選択したレコードへのメールの記録	✔			
<b>Microsoft® インテグレーション</b>				
<b>Lightning for Outlook</b>				
改良されたデザインで必要な機能に焦点を絞る	✔			
選択したレコードへのメールの記録	✔			
新しいコンポーネントを使用したカスタムメールアプリケーションペインの作成			✔	
<b>Salesforce for Outlook</b>				
Winter '19 で使用できなくなる Salesforce for Outlook	✔			
<b>Salesforce CPQ と Salesforce Billing</b>				
<b>Salesforce CPQ</b>				
記帳による正確な収益レポートの生成	✔			
少ない手順で請求書および収益ワークフローの最適化	✔			
少ない価格一覧での迅速な注文の作成	✔			
サブスクリプション変換項目の廃止	✔			
見積品目エディタ内のすばやい移動	✔			
Salesforce CPQ のその他の変更	✔			
<b>Salesforce Billing</b>				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
収益契約を使用した収益スケジュールのグループ化	✓			
<b>Pardot</b>				
プロスペクトの完全削除		✓		
Pardot でのごみ箱内のプロスペクトの処理方法の変更	✓			
Pardot for Lightning の 1 つのプラットフォームでの営業とマーケティングの連携 (ベータ)			✓	
ランディングページに反応型レイアウトを使用	✓			
Salesforce ファイルを使用した Engage メールのパersonナライズ			✓	
Salesforce Engage の新しいオプションの設定		✓		
Web サイトの値がない取引先とリードの一致	✓			
取引先に一致するリードの偽陽性の減少	✓			
プロスペクトによる Engagement プログラムの繰り返しの許可 (ベータ)			✓	
特定のプロスペクトとしてのメールのプレビュー	✓			
メールでの絵文字の使用	✓			
Engagement Studio でのアドバイスの表示				
Twitter の投稿ポリシーの変更	✓			
フランス語、ドイツ語、EU スペイン語での Pardot の使用 (ベータ)	✓			
<b>Sales Cloud のその他の変更</b>				
Lightning Experience の取引先リストビューをテリトリーで絞り込み	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
行動のエクスポート時の主催者と被招集者の詳細のエクスポートの停止	✓			

## サービス

チームのワークロードを軽減するために、パスワード要求のようなお決まりのケースをチームには転送しない Einstein ボットを構築します。Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用して、エージェントがフローの順序付きリストに従って、コールスクリプトをはじめとした複数のステップのアクションをコンソール内から直接実行できるようにします。Lightning のガイド付きエンゲージメントは Live Agent チャットでも使用できます。Snap-in の予定管理 (ベータ)、Lightning コミュニティの完全サポート、最適化ルールといった堅牢なフィールド サービス機能を活用して、スケジュールの中断に対処します。オムニチャネルのスキルベースのルーティングやオムニチャネルの外部ルーティングなど、作業項目のエージェントへの転送方法の選択肢が増えています。横並び比較、翻訳記事のスマートリンク、Lightning Knowledge 移行ツールなど、Lightning Knowledge の翻訳管理機能を使用します。最後に、ケースチームやメールドラフトを使用してケースを効率的に管理します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein ボット			✓	
ケース管理				
サービスコンソール				
サービスコンソールでのフローおよびケースチームを使用したより迅速なケースの解決			✓	
Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したコンソールでのサービスプロセスの実施 (正式リリース)			✓	
ケース				
Lightning Experience でのケースチームの作成			✓	
ケースの非公開メールドラフトで窮地を脱出			✓	
Lightning Experience での Apex を使用したデフォルトメール項目値の設定			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Lightning Experience でのケースフィードパブリッシャー API の使用			✓	
より多くのオブジェクトに対して一括クイックアクションを実行			✓	
ケースのクローズ時に社内コメントを入力			✓	
ケース変更のメール通知の送信			✓	
ケースフィードでメールにすばやく応答	✓			
ドラッグアンドドロップによるメールへのファイル添付	✓			
個々のケースフィード投稿へのリンクの共有	✓			
グローバル検索を使用したケースコメントの検索	✓			
オムニチャネル				
スキルベースのルーティング (正式リリース) を使用した適切なエージェントへの適切な作業の転送			✓	
異なるスキルセットへの作業項目の転送	✓			
Omni-Channel Supervisor でスキルにより転送された作業を確認			✓	
外部ルーティング (正式リリース) を使用したサードパーティ作業項目の転送			✓	
オムニチャネルユーティリティでの「新規」作業と「私の作業」の確認	✓			
Lightning Experience でのオムニチャネルの設定	✓			
マクロとクイックテキスト				



機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
カーソル位置にテキストを挿入するマクロの作成	✓			
クイックテキスト所有者からキューへの変更	✓			
エンタイトルメント管理				
フィールドサービス				
作業種別へのナレッジ記事の追加			✓	
Field Service のパスを使用したチームのガイド			✓	
メンテナンス計画の作業指示の自動生成			✓	
取引先、取引先責任者、および場所に関連するメンテナンス計画の表示			✓	
作業指示とサービス予定に保存されたデータの Shield による暗号化			✓	
フィールドサービスに対する条件ベースの共有ルールの作成			✓	
サービスレポートの関連リストの絞り込み (正式リリース)			✓	
Lightning コミュニティでのフィールドサービスの管理			✓	
より大きなサービステリトリー階層の作成	✓			
タイムシートの通貨コードの編集			✓	
Snap-In 予定管理: 顧客が予定を予約、変更、キャンセルできるようにする (ベータ)			✓	
Field Service 管理パッケージ: リソーススケジュールの最適化、ガントチャートのライブ更新、カスタムリスト検索条件				
一度に1人のリソースの日を最適化			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
ガントチャートのライブ更新による派遣担当者の操作性の改善 (ベータ)			✓	
カスタム検索条件を使用したディスプレイコンソールリストビューのカスタマイズ			✓	
セカンダリテリトリメンバーの業務時間の適用			✓	
ディスプレイコンソールの操作性の強化			✓	
ディスプレイコンソールタスクの合理化			✓	
サポートコミュニティ予定管理 (ベータ)			✓	
<b>モバイル用 Field Service: Android 4.0</b>				
Field Service アプリケーション (Android および iOS) での Lightning のアクションの使用			✓	
オフライン Chatter の機能強化による明確なコミュニケーション			✓	
スケジュール画面のカスタムリストビューの作成			✓	
連動選択リストを使用した適切な選択			✓	
ナレッジ記事で画像を使用して要点を説明			✓	
複数のロケーションからの製品の消費 (ベータ)			✓	
クイックアクションとしてのフローの接続			✓	
関連リストを使用した Salesforce アプリケーションへのリンク			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
リソース不在のカスタマイズによる画面スペースの最大化			✓	
バーコードスキャナで時間を節約			✓	
サービスレポートの複数の署名の取得			✓	
チャンネル				
<b>Live Agent</b>				
チャットおよび Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したケースの解決			✓	
Live Agent の受信メッセージ通知でエージェントの目を引く	✓			
Lightning Experience で Live Agent のファイル添付をプレビュー	✓			
Lightning Experience での Live Chat の訪問者ページのカスタマイズ		✓		
ガイド付き設定フローを使用した Lightning Experience の Live Agent の設定	✓			
<b>Snap-in チャット</b>				
チャットエージェントの勤務時間外のケースの収集			✓	
Lightning コンポーネントによる Snap-In 最小化時のカスタマイズ			✓	
Lightning コンポーネントでの Snap-ins 設定の取得			✓	
転送順序の適切な設定-チャットのエージェントへの割り当て方法の調整			✓	
チャット開始前の顧客の順番の表示			✓	
独自のチャット用カスタムイベントの作成			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
最新機能を使用するためのバージョン 5.0 コードスニペットへの更新		✓		
Live Agent 設定フローによる Snap-In チャットのクイックスタート		✓		
チャット中の送信されたファイルのプレビュー	✓			
モバイルアプリケーション用 Snap-in			✓	
CTI			✓	
ナレッジ				
Lightning Experience での翻訳申請	✓			
翻訳記事とマスタ記事の横並び比較	✓			
翻訳での作成アクションの使用	✓			
リッチテキスト項目へのスマートリンクの挿入	✓			
言語スイッチャコンポーネントを使用した言語の即時の切り替え	✓			
Lightning Knowledge 検索結果における記事のフロート表示テキスト	✓			
Service Essentials への Lightning Knowledge の追加		✓		
Lightning Knowledge 移行ツールを使用した Lightning Knowledge への移行 (ベータ)		✓		
Service Cloud Mobile	✓			
その他の変更				
サービスの設定のデザインの変更		✓		

## 分析

レポートやダッシュボードについては、Lightning Experience レポートビルダー (正式リリース)、Lightning Experience 結合レポート (ベータ)、拡張サブスクリプションなどがこのリリースで導入されています。Einstein Analytics については、Salesforce オブジェクトの Einstein Discovery のおすすが正式リリースされ、ダッシュボードの条件付き書式やその他の数多くの新機能が導入されています。

機能	システム管理者/ ユーザに対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
<b>レポートとダッシュボード</b>				
<b>レポート</b>				
Lightning レポートビルダーを使用したレポートの再考 (正式リリース)			✓	
Lightning Experience での結合レポートの導入 (ベータ)			✓	
書式設定を保持したレポートのエクスポート			✓	
カスタマイズされた日付の粒度でレポートをグループ化			✓	
元の値と新しい値での項目履歴レポートの絞り込み	✓			
改善された実行ページによるパフォーマンスの向上 (ベータ)				
Lightning Experience のレポートのその他の機能強化			✓	
<b>ダッシュボード</b>				
ダッシュボードコンポーネントから Web サイトまたは Salesforce レコードへのリンク	✓			
レポートからダッシュボードへのレポートの追加	✓			
ダッシュボードコンポーネントでのソースレポートグラフの使用	✓			
Lightning テーブルでのデータのグループ化および測定	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Lightning Experience のダッシュボード のグラフの機能強化	✓			
Lightning Experience のダッシュボード のその他の機能強化	✓			
フォルダ				
Lightning Experience のレポートおよび ダッシュボードビューの強化	✓			
Lightning Experience でのレポートおよ びダッシュボードフォルダの整理	✓			
サブスクリプション				
Lightning Experience での他のユーザの ダッシュボード登録の追加	✓			
<b>Einstein Analytics</b>				
オンボーディング、パーソナライズ、コラボレーション				
事前作成済み権限セットによる Analytics プラットフォームの設定の 簡易化			✓	
ヘルプメニューと Analytics 体験アプ リケーションからより多くのこと を学ぶ	✓			
ダッシュボードビューに通知から 直接移動	✓			
アノテーションを使用したダッシュ ボードビューの共有	✓			
アプリケーションの構築				
対話形式のクエリの改善による探 索用語の拡張 (ベータ)			✓	
グラフのより簡単な特定	✓			
比較テーブル列の別名のカスタマ イズ	✓			
条件付き書式を使用したデータの 自動強調表示	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
大きなダッシュボードの分割によるパフォーマンス改善 (正式リリース)	✓			
地図をズームインして地域に焦点を当てる			✓	
日付検索条件の迅速な追加	✓			
データセットのディメンション値の表示ラベルと色の変更	✓			
テーブルに表示されるデフォルトのデータセット項目の選択	✓			
同期されたアプリケーションのナビゲーションでアセットを整理	✓			
REST API の更新		✓		
Analytics テンプレートルールファイルのテスト		✓		
Analytics グラフとダッシュボードのその他の機能強化	✓			
データインテグレーション				
新しいコネクタと制限の改定による接続可能なデータの増加		✓		
接続ごとの複製のスケジュール		✓		
リモート接続の作成権限の変更		✓		
より多くの外部データファイルのアップロード		✓		
より多くのデータフローの作成と実行、フローインジケータを使用した使用量の追跡		✓		
データの形が崩れていても、データフローへの追加に問題なし		✓		
データセットレシピでの行の追加		✓		
複数選択項目を使用してレシピでの数式の作成を高速化		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Einstein Analytics で Salesforce 共有設定をより多く継承			✓	
<b>事前作成済みテンプレートおよびアプリケーション</b>				
ビジネスインテリジェンスへの近道となる新しいテンプレート	✓			
Snapshot Analytics アプリケーションを使用した Salesforce の任意のデータのすばやいトレンド分析	✓			
Adoption Analytics アプリケーションのインサイトを使用した Analytics への投資の最大化	✓			
非営利団体: 自分と自分のデータだけの Analytics アプリケーション	✓			
Analytics Adoption AppExchange パッケージを使用したチームによる Einstein Analytics の利用状況の確認	✓			
B2B Marketing Analytics での上位の取引先の識別および追跡	✓			
<b>モバイルアプリケーション</b>				
Einstein for iOS/Android でのお気に入りのグラフとテーブルの使用	✓			
Einstein Analytics for iOS のその他の機能強化	✓			
Einstein Analytics for Android のその他の機能強化	✓			
Salesforce オブジェクトでの Einstein Discovery のおすすめの表示 (正式リリース)			✓	

## コミュニティ

この夏は、Community Cloud がすばらしい新機能で波を起こします。コミュニティビルダーに標準搭載のテーマが導入されました。これでユーザはコミュニティのデザインを数クリックで変更できます。投稿の固定やス



レッドの終了など、すばらしい新機能をフィードに追加してください。コミュニティでこれほど楽しいことがあるのだから夏休みは必要ありませんね。

機能	システム管理者/ ユーザに対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
<b>コミュニティビルダー</b>				
Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新			✓	
カスタマーサービス (Napili) の新しい名前		✓		
テーマを変更してコミュニティのデザインをすばやく更新		✓		
順次表示による顧客のコミュニティ環境の改善			✓	
Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの構築および配布 (リリース遅延)			✓	
利用者の削除		✓		
ナビゲーションメニューとタイトルメニューの変更をドラフトとして保存		✓		
CMS Connect JSON を使用したコミュニティへの CMS コンテンツの表示 (正式リリース)		✓		
CMS Connect JSON 用の指定ログイン情報の設定 (正式リリース)		✓		
SEO の改善によるコンテンツ検出の向上		✓		
トピックの詳細および検索結果の記事タイトルの <h1> タグを上書きしている場合の <h3> への更新		✓		
一部の Lightning コミュニティコンポーネントの <ui:button> の更新			✓	
<b>コミュニティビルダーコンポーネント</b>				
Lightning コミュニティでのフィールドサービスデータへのアクセス			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コミュニティメンバーへの推奨アクションと提案 (Pilot)				✓
一時停止中のフローの表示と再開をユーザに許可		✓		
コミュニティでの活動タイムラインの使用		✓		
コミュニティのカレンダーの柔軟性向上	✓			
言語ピッカーの名前変更、およびその他の改善			✓	
カスタマーサポートへの連絡ボタンを使用したコミュニティユーザによるケースの作成		✓		
ケースデフレクションコンポーネントと【カスタマーサポートへの連絡】フォームコンポーネントでの容易なトピックの選択、[ファイルのアップロード] ボタンの表示レベルのカスタマイズ、その他		✓		
【カスタマーサポートへの連絡】の件名行を監視して顧客の懸念事項を追跡		✓		
顧客によるコミュニティからの予定の予約 (ベータ)			✓	
Snap-In チャットコンポーネントの活用		✓		
ユーザ設定の[接続済みソース]タブの非表示		✓		
Winter '19 での連動選択リストの更新			✓	
セキュリティ				
取引先ロールを最適化してパフォーマンスの向上と組織の拡張を図る (正式リリース)			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
パスワードの代わりに ID 検証方法で容易になったコミュニティユーザのログイン			✓	
お知らせメールのコミュニティリンクの有効期限		✓		
24 時間後に期限切れになる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンク (リリース遅延)		✓		
パスワードを忘れた場合のメールに記載されたリンクをすぐに期限切れにしない		✓		
ユーザが確認および管理できるようになった検証方法		✓		
ID トークンの発行者 URL から削除された末尾のスラッシュ		✓		
HTTP または HTTPS が必須になった認証プロバイダエンドポイント		✓		
ID トークンの有効期間と利用者の設定 (リリース遅延)		✓		
Salesforce ユーザとコミュニティユーザで異なるログインポリシーの設定 (ベータ)		✓		
コミュニティの外部ユーザの ID を検証するオプションの名前変更		✓		
ヘッドマークアップが有効であることの確認		✓		
コミュニティエンゲージメント				
レコグニションバッジでコミュニティメンバーを祝福 (ベータ)			✓	
マーケティングジャーニーを使用してメンバーの質問および回答活動に褒賞を与える			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
一括投稿を使用して複数のメンバーに一度に連絡		✓		
更新されたエンゲージメントキューページの外観		✓		
<b>Lightning コミュニティの Chatter</b>				
コミュニティでの会話の完了			✓	
フィードでの投稿の固定 (正式リリース)			✓	
Salesforce 内でのコミュニティストリームの確認 (正式リリース)			✓	
記事のトピックの非表示		✓		
モバイルのプロファイルにメッセージボタンを新しく表示	✓			
メールへのリッチパブリッシャーアプリケーションの表示	✓			
プラス投票のメール通知の取得	✓			
<b>パートナーコミュニティ</b>				
外部の代理管理者によるチームの管理 (ベータ)		✓		
代理管理者によるブランドアセットの管理と共有 (ベータ)			✓	
キャンペーンマーケットプレイスでより詳細な情報を提供 (正式リリース)		✓		
市場開発資金の機能強化			✓	
チャンネルプログラムまたはレベルに基づいた利用者のターゲティング			✓	
データをより安全な方法でチャンネルマネージャおよびパートナーユーザと共有	✓			
<b>コミュニティのファイル</b>				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
ライブラリの管理			✓	
ライブラリメンバーシップの管理 (正式リリース)			✓	
コミュニティのライブラリの外観 のカスタマイズ			✓	
ファイル詳細ページによるコミュ ニティファイルの機能強化			✓	
コミュニティでの Quip 文書および Quip シートのプレビュー			✓	
コミュニティのその他の変更				
コミュニティメンバーによるナレッ ジ記事の作成			✓	
ロックアウトメールテンプレート のカスタマイズ			✓	
Community 360 を使用してサポート の電話での顧客の雰囲気の評価 (パ イロット)		✓		
Community 360 でのより多くのオブ ジェクトの活動の表示、レコード 検索条件の追加		✓		
コミュニティ管理パッケージから のコミュニティのケースデフレク ションダッシュボードの削除		✓		
「セルフサービスユーザの編集」 権限を「カスタマーユーザの管理」 に名前変更		✓		
Salesforce サイトおよびポータルで のトピックの保護 (重要な更新)			✓	

## Chatter

ユーザは、獲得した Trailhead バッジを自分のプロフィールページに表示できるようになりました。投稿またはコメントから、組織で使用可能なあらゆるレコードタイプにリンクできます。固定表示投稿およびクロスコミュニティストリームが正式にリリースされました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
<b>ユーザプロフィールおよびフィード</b>				
自分のプロフィールにTrailheadバッジを表示	✓			
投稿またはコメントから最も関連性の高いレコードへのリンク	✓			
フィードでの投稿の固定 (正式リリース)			✓	
コンテキストを切り替えずにコミュニティストリームを確認 (正式リリース)	✓			
<b>Chatter のその他の変更</b>				
空状態メッセージの内容の追加	✓			
Salesforce Classic の Chatter スプラッシュスクリーン の廃止	✓			
Summer '18 で廃止される Chatter デスクトップ	✓			

## Files

ファイルのワークフローが円滑になりました。メンバーシップの更新機能や空ライブラリの削除機能などを使用して、ライブラリを Lightning Experience から直接管理します。Quip Lightning コンポーネントをレコードにポップし、ユーザがレコードから Quip に直接アクセスできるようにします。トピックを使用してファイルを選定し、[最近のファイル] ドロップダウンで、最近参照したファイルをすばやく見つけます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
新しい方法でのライブラリ管理			✓	
[ファイル]ホームからのライブラリ メンバーシップの管理 (正式リリース)			✓	
[最近のファイル]ドロップダウンを 使用した迅速なファイルの検索	✓			
ファイル詳細ページからのファイル トピックの管理			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Salesforce Classic でのファイルプレビューの更新	✓			
スキャンされた PDF のプレビューを使用した問題の解決				✓
Quip ファイルへのアクセス	✓			
Quip ドキュメントおよびシートのプレビュー			✓	
ファイルのその他の変更				
ウィークリーデータのエクスポ ートへのファイルリンクの追加		✓		
Flash 廃止への準備	✓			
SharePoint (社内) 用 Files Connect の 廃止	✓			
Files Sync の廃止	✓			

## モバイル

Salesforce モバイルアプリケーションを使用すると、ユーザは外出中も生産性を維持できます。Chatter の機能強化、ケースのメール通知、ToDo と行動の件名などが追加されました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
Salesforce アプリケーション				
Salesforce for Android/iOS の新機能	✓			
Salesforce アプリケーションのすべての新機能				
モバイルで投稿、アンケート、質 問を共有	✓			
モバイルでリッチテキストを取得 (正式リリース)	✓			
重複メンションの削除	✓			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
よりリッチな完全なコンテンツの転送通知でユーザに絶えず最新情報を伝達(リリース遅延)	✓			
更新された Apple Push Notification Service for iOS 通知	✓			

## Financial Services Cloud

個人取引先を使用して、統合されたカスタマイズ可能なクライアントプロフィールを表示できます。個人取引先は、Salesforce モバイル、アドバイザー分析、パートナーコミュニティとカスタマーコミュニティで使用できるようになりました。拡張されたグループリレーションビューには、主要なカスタマーリレーションが表示されます。拡張された積み上げ集計を使用すると、ユーザは「プライマリグループ」ビューからすばやくアクションを実行して商談を成功させることができます。ルックアップによる積み上げ集計の計算を無効にして、データ読み込みを高速化します。Financial Services Cloud で Salesforce Inbox と Pardot を使用すると、アドバイザーとバンカーの生産性が向上します。その他にも、Teller Access (窓口係アクセス) 権限セットや操作性とアクセシビリティの改善など、多くの機能強化があります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
個人取引先を使用したユーザエクスペリエンスの向上			✓	
グループリレーションビューのカスタマイズ			✓	
プライマリグループへの商談の積み上げ集計			✓	
必要に応じたデータ読み込みの高速化			✓	
Apex を使用したルックアップによる積み上げ集計ルール再計算の自動化			✓	
Salesforce Inbox での生産性の向上			✓	
Salesforce Pardot を使用したよりスマートなマーケティングの自動化			✓	
Teller Access (窓口係アクセス) 権限セットによる窓口係の稼働			✓	



機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
活動と複数の取引先責任者の関連付け			✓	
アクセシビリティの機能強化	✓			
すべての Financial Services Cloud ユーザが必要な権限セットライセンス			✓	

## Health Cloud

Health Cloud は Field Service Lightning をサポートするようになり、HL7 v2 標準を使用して電子健康カルテ (EHR) データを送受信するさまざまな標準の方法から選択できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
HL7V2.xでの電子健康カルテの操作			✓	
Health Cloud をモバイルデバイスで使用			✓	
新しいAPIによる「患者」のサポート			✓	
より柔軟な患者情報の表示			✓	
すべての Health Cloud ユーザが必要な権限セットライセンス			✓	
Health Cloud でのロシア語、イタリア語、デンマーク語のサポート				✓
操作性の強化	✓			
新規追加または変更された Health Cloud Lightning コンポーネント			✓	
Health Cloud メタデータ:新しい型		✓		

## カスタマイズ

新しい Einstein 次善アクション (パイロット) を使用して、今よりもスマートな組織になるための方法をカスタマイズします。外部サービス、カスタム時間項目、フローアクションとしての Lightning コンポーネント、および

びフローフェーズの各機能をパイロット版またはベータ版から正式リリースしました。Lightning ページ、プロセス、フローを頻繁に使用している場合は、改善されたエラー処理が役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein 予測ビルダー:コードなしのカスタム AI の使用 (ベータ)				✔
Einstein 次善アクション:戦略を使用した提案アクションとオファー (パイロット)				✔
<b>外部サービス</b>				
外部サービスの作成(正式リリース)		✔		
外部サービスのユーザインターフェースの改善		✔		
外部サービスの編集		✔		
外部サービススキーマを使用した取得文字列の増加		✔		
外部サービスフローで処理される応答コードの増加		✔		
<b>データ保護とプライバシー</b>				
レコードのマージ時にどのデータプライバシーレコードを保持するのかを決定			✔	
個人オブジェクトでの標準オブジェクト機能のサポート	✔			
ユーザの要求に応じて個人データを Salesforce で使用不可に			✔	
<b>Lightning フロー</b>				
<b>設計</b>				
Essentials Edition および Professional Edition でのフローの構築		✔		
フローでの Lightning コンポーネントを使用したローカルアクションの実行 (正式リリース)		✔		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
フェーズを使用したフローの進行状況の追跡 (正式リリース)		✓		
新しい代入演算子を使用した有効なフェーズとコレクションの更新		✓		
フロー画面での日付/時間値のキャプチャ		✓		
プロセスビルダーの項目ピッカーでサポートされるオプションのみ表示		✓		
フローの配布				
Lightning コンソールアプリケーションのサブタブとしてフローを起動 (正式リリース)		✓		
戦略を使用してユーザとコミュニティメンバーにフローを推奨 (パイロット)				✓
デバッグ				
Cloud Flow Designer でのフローのデバッグ		✓		
プロセスおよびフローのエラーメール: 組織 ID および受信者制御と共に正式リリース		✓		
トランザクション単位のガバナ制限に対するプロセスとフローの使用状況の監視		✓		
フローおよびプロセスの一括操作がサポートされていることの確認		✓		
ランタイム				
ユーザにとってわかりやすいプロセスエラー	✓			
スケジュール済みアクションとフローインタビューの細分化された一括処理によるランタイムエラーの回避		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
フローおよびプロセスのクエリの一括実行の導入 (重要な更新)			✓	
プロセスでの作成および更新操作の部分的保存の有効化(重要な更新)			✓	
ユーザセッションの終了時にフローインタビューを終了	✓			
<b>Lightning アプリケーションビルダー</b>				
破損したコンポーネントによる Lightning ページの破損の解消		✓		
コンソールサイドバーへの固定領域の追加			✓	
バッジ Lightning コンポーネントを使用した獲得済み Trailhead バッジの表示		✓		
メールアプリケーションペインの新しいコンポーネント			✓	
Lightning ユーザへの提案アクションとオファー (パイロット)				✓
Lightning コンポーネントを使用した Visualforce ページでの CSRF 保護		✓		
<b>項目</b>				
時間データ型を使用した時間の追跡 (正式リリース)		✓		
必要な場所での Einstein 予測の表示 (ベータ)				✓
<b>Salesforce Connect</b>				
カスタム HTTP ヘッダーを使用して、より多くのコンテキスト情報を外部システムに渡す		✓		
トリガを使用して、OData 4.0 アダプタを使用する外部オブジェクトのデータ変更を追跡 (ベータ)				✓
開発者のための関連更新		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
<b>一般設定</b>				
Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの作成 (リリース遅延)			✓	
承認申請メール通知の送信者の上書き		✓		
アクションの選択リスト項目の定義済み値の設定での数式の使用		✓		
トランスレーションワークベンチを使用して翻訳されたカスタムクイックアクションの成功メッセージの表示		✓		
Standard Permission Set のオブジェクト詳細の表示		✓		
更新された通貨コード		✓		
ペルーの通貨形式の更新		✓		
メタデータ API を使用したカスタム設定リストビューの取得		✓		
ページレイアウトでアクションとして使用されるカスタムボタンの削除禁止		✓		
<b>AppExchange</b>				
新しいフィルタを使用した AppExchange ソリューションのすばやい検索	✓			
AppExchange プロファイルと設定の管理	✓			

## セキュリティと ID

ID トークンと確認リンクの有効期間を制御できるようになり、顧客が検証コードを使用してログインできるようになりました。より多くの項目を暗号化し、暗号化データを絞り込み、鍵素材をより詳細に制御します。状態チェックスコアをグレードによって一目で評価できます。Salesforce カスタマーサポートに連絡せずにサブドメインの名前を変更できます。

機能	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者/ 開発者に対する 有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
<b>認証と ID</b>				
パスワードなしのログインで容易になった外部ユーザのコミュニティへのログイン			✓	
Apex を使用したパスワードなしのログインと検証方法の実装		✓		
ユーザの電話番号入力に柔軟に対応		✓		
ユーザが確認および管理できるようになった検証方法			✓	
Salesforce ユーザとコミュニティユーザで異なるログインポリシーの設定 (ベータ)		✓		
内部コミュニティユーザのログインの追跡			✓	
ID トークンの有効期間と利用者の設定 (リリース遅延)		✓		
OAuth 2.0 アセットトークンフローのアセットトークンへの対象ユーザ要求の追加		✓		
お知らせメールのリンクの有効期限設定		✓		
パスワードを忘れた場合のメールに記載されたリンクをすぐに期限切れにしない		✓		
24 時間後に期限切れになる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンク (リリース遅延)		✓		
ID トークンの発行者 URL から削除された末尾のスラッシュ		✓		
HTTP または HTTPS が必須になった認証プロバイダエンドポイント		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
OAuth 1.x のコールバック URL の登録		✓		
ユーザがログアウトしたときにカスタムアプリケーションロジックをトリガ(ベータ)				✓
軽量な、連絡先のない外部 ID ユーザの作成(ベータ)		✓		
外部 ID ユーザのコミュニティセッションの延長による顧客エンゲージメントの向上(ベータ)			✓	
コミュニティの外部ユーザの ID を検証するオプションの名前変更		✓		
<b>Salesforce Shield</b>				
<b>Shield Platform Encryption: 活動データ、カスタムオブジェクト名、絞り込みを保持する暗号化、鍵管理オプションの追加</b>				
リストメールの暗号化			✓	
作業指示およびサービス予定の項目の暗号化			✓	
活動の暗号化項目(正式リリース)			✓	
カスタムオブジェクト名の暗号化(ベータ)			✓	
メール-to-ケースフィードおよびメールメッセージの暗号化(ベータ)			✓	
リッチテキストエリア項目の暗号化(ベータ)			✓	
Shield の絞り込みを保持する暗号化により大文字と小文字を区別する完全一致を取得(正式リリース)			✓	
Einstein Analytics データの暗号化の有効化(正式リリース)			✓	
重複管理で使用される一致ルールでの暗号化項目の参照(ベータ)			✓	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
鍵の管理タスクでの高保証セッションの必要性 (正式リリース)			✓	
BYOK による鍵派生の除外 (正式リリース)			✓	
イベント監視:1時間ごとのイベントログ、継続コールアウトサマリーイベント種別、Lightning イベント種別のデータの追加				
1時間ごとのイベントログ取得によるアクティビティの可視性の改善 (正式リリース)		✓		
イベントログファイルでの非同期コールアウトのパフォーマンスの測定		✓		
イベントログファイルを使用した外部のオブジェクトデータコールアウトの追跡 (正式リリース)		✓		
新しい項目による Lightning Experience のユーザアクションのより包括的な追跡		✓		
API イベント種別のクエリ項目の廃止		✓		
安全でない外部アセットイベント種別への一意の ID 項目の追加		✓		
ログインタイムアウトのユーザ向けのわかりやすい表示		✓		
トランザクションセキュリティ Entity イベント種別のリソースオプションの更新		✓		
Event Monitoring Analytics アプリケーションの設定の新しい名称		✓		
状態チェック				
状態チェックのグレードによるセキュリティの評価		✓		



機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
状態チェックの新しいセキュリティ設定および変更されたセキュリティ設定		✔		
その他の変更				
必要に応じた私のドメインの名前の変更				
Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保(重要な更新)				
Salesforce での外部ホスト名の値の指定		✔		

## Salesforce IoT

Salesforce IoT Explorer Edition を使用して、接続デバイスからのイベントをほぼリアルタイムで処理し、顧客との有意義なインタラクションを作成します。このリリースには、新しいオーケストレーションの問題のトラブルシューティングに役立つ新しいトラッカー機能が含まれます。また、本番稼働中のオーケストレーションを監視するための活動ログも含まれており、すべてが適切に機能していることを確認できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
本番で有効化する前にトラッカーを使用してオーケストレーションをトラブルシューティング			✔	
活動ログを使用したオーケストレーションの継続的なパフォーマンスの監視			✔	

## 開発

インテリジェンスが向上し、コンポーネントや API が新規追加および更新され、優れた開発ツールが導入されました。Lightning コンポーネント、Visualforce、または Apex を使用しても、あるいはお気に入りのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用しても、次の機能強化は、優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
<b>Lightning コンポーネント</b>				
重要な更新「暗黙的な共有を行う @AuraEnabled Apex コントローラに対して without sharing を使用」の延期			✓	
必要なユーザにのみデバッグモードを有効化			✓	
Lightning コンポーネントの新しい Lightning ナビゲーション API		✓		
Lightning コンポーネントライブラリの正式リリース	✓			
コンポーネントの CSS クラス名の更新			✓	
slds-form_inline スタイルの削除			✓	
Lightning コンテナコンポーネントのセキュリティの新たな機能強化		✓		
Locker Service の変更		✓		
サーバから Blob を返すときに汎用エラーが発生しない		✓		
新規追加または変更された Lightning コンポーネント		✓		
新規追加または変更された Lightning イベント		✓		
新規追加または変更された Lightning インターフェース		✓		
非推奨になった JavaScript API メソッド		✓		
<b>Einstein Platform Services</b>				
無料の予測が 2 倍に増加		✓		
Einstein プラットフォームサービスの非公開鍵のリセット		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
更新トークンを使用したアクセス トークンの生成		✓		
<b>Einstein Vision: 画像データセットと画像モデルの削除</b>				
画像データセットの削除によって 返される状況コードと応答の変更		✓		
明示的な削除による画像モデルの 削除		✓		
画像データセットまたはモデルの 削除状況の取得		✓		
<b>Einstein Language: テキストデータセットとテキストモデルの削除</b>				
テキストデータセットの削除によっ て返される新しい状況コードと応 答		✓		
明示的な削除によるテキストモデ ルの削除		✓		
テキストデータセットまたはモデ ルの削除状況の取得		✓		
<b>Visualforce</b>				
Visualforce ページへの Lightning Experience スタイルシートの適用(正 式リリース)		✓		
Lightning Experience スタイルシート の更新		✓		
Lightning Experience スタイルシート でのカスタムテーマのサポート		✓		
JavaScript でユーザに表示する Salesforce テーマをすばやく識別		✓		
Salesforce Classic コンソールでの Visualforce ページのクリックジャッ ク保護の有効化		✓		
<b>Apex</b>				
Apex Switch ステートメントを使用 したコードの簡略化		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
レコードタイプのAPI参照名をより簡単に取得		✓		
クエリ行単位で制限にカウントされるようになったSOQL Count()関数		✓		
テスト中のVisualforceページのメッセージのクリア		✓		
リリース時のコンパイル (正式リリース)		✓		
テスト実行時のコードカバレッジ情報の収集の除外		✓		
パッケージの新しい Apex アクセス修飾子の使用		✓		
Apexコードサイズの制限の緩和(リリース遅延)		✓		
Apex 例外メール受信者がプロセスおよびフローエラーメールを受信できる			✓	
<b>Apex: 新規および変更されたクラス、Enum、およびインターフェース</b>				
新規 Apex クラス		✓		
変更された Apex クラス		✓		
新規 Apex Enum		✓		
変更された Apex インターフェース		✓		
<b>ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum</b>				
新規および変更された Chatter in Apex クラス		✓		
新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス		✓		
新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス		✓		
新規および変更された Chatter in Apex Enum		✓		
メタデータ				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
メタデータカバー率を一目で確認		✓		
カスタムメタデータ型				
カスタムメタデータ型レコードを使用した複数の入力規則の更新 (正式リリース)		✓		
メタデータ API を使用したカスタムメタデータ型リストビューの取得		✓		
新しい変更セットコンポーネント		✓		
変更セットが使用できなくなるタイミング		✓		
メタデータ API		✓		
<b>Tooling API</b>				
Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト		✓		
Tooling API におけるコールおよびリソースの変更		✓		
		<b>API</b>		
新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト				
新しいオブジェクト		✓		
変更されたオブジェクト		✓		
SOQL		✓		
SOSL		✓		
<b>REST API</b>				
新しいリソースと変更されたリソース		✓		
<b>SOAP API</b>				
新規、変更、および廃止されたコール		✓		
<b>Chatter REST API</b>				
新規および変更された Chatter REST API リソース		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ		✓		
新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ		✓		
レポートおよびダッシュボード REST API				
新しいリソース: folders/<folderid>/children		✓		
新しいメソッド: GET folders		✓		
変更されたリソース: /analytics/reports、/analytics/dashboards および folders		✓		
ユーザインターフェース API				
リストビューの UI の構築		✓		
最後に使用したリストビューの UI の構築		✓		
アプリケーションの UI の構築		✓		
ユーザインターフェース API のその他の変更		✓		
Bulk API		✓		
パブリッシャーおよびクイックアクション JavaScript API			✓	
Salesforce コンソール API		✓	✓	
\$CustomMetadata グローバル変数		✓		
デバッグ				
Visual Studio Code の新しいデバッガを使用したバグの排除 (リリース遅延)			✓	
更新されたログ行を使用した効果的なデバッグログの解析		✓		
ログ制限の変更によるデバッグログの保存容量の増加		✓		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者 の設定が必要	Salesforce に連 絡して有効化
新しいログ行によるフローとプロセスのトラブルシューティング		✓		
<b>VS Code 向け Salesforce 拡張機能</b>				
Apex Replay Debugger を使用してすべての組織を無料でデバッグ (Beta) (リリース遅延)			✓	
Force.com IDE 2 (ベータ) の終了			✓	
Salesforce CLI (リリース遅延)		✓		
スクラッチ組織		✓		
<b>エンタープライズメッセージング</b>				
Apex でのプロセスおよびフローイベント登録者のテスト		✓		
オンデマンドでのテストイベントの配信		✓		
Apex テストでの登録者情報へのアクセス		✓		
再試行回数が多すぎて Apex トリガが一時停止されている場合に通知を受信		✓		
プラットフォームイベントの DateTime 項目でのミリ秒数の取得		✓		
<b>パッケージ化</b>				
パッケージの作成と管理の簡易化 (ベータ) (リリース遅延)		✓		
パッケージインストール時に有効なレコードが削除されないように拡張検証で予防		✓		
ロック済みパッケージのパイロットの一時停止		✓		
<b>ISVforce</b>				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/ 開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
<a href="#">Lightning Bolt ソリューションを使用した迅速なビジネスソリューションの稼働開始 (リリース遅延)</a>			✔	
<a href="#">公開コンソールでのマーケティンググリソースの送信</a>		✔		

## サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つかりやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

対象: すべてのエディションで使用できます。

このセクションの内容:

### [Lightning Experience でサポートされるブラウザ](#)

Lightning Experience でサポートされるブラウザと制限事項を確認してください。

### [Microsoft Internet Explorer バージョン 11 を使用した Lightning Experience へのアクセスのサポートの延長](#)

以前、Lightning Experience の Internet Explorer バージョン 11 (IE11) のサポート終了日が 2017 年 12 月 16 日だとお知らせしました。フィードバックを受けて、IE11 の延長サポートを提供することになりました。この延長サポートは 2020 年 12 月 31 日まで利用できます。

### [Salesforce Classic でサポートされるブラウザ](#)

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9、10、11 および macOS の Apple® Safari® バージョン 11.x でサポートされています。また、Microsoft Edge、Mozilla® Firefox®、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。いくつかの制限事項があります。

### [Einstein Analytics でサポートされるブラウザ](#)

Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

## Lightning Experience でサポートされるブラウザ

Lightning Experience でサポートされるブラウザと制限事項を確認してください。

対象: Lightning Experience は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition で使用できます。

### メモ:

- Salesforce では、Salesforce Classic、Lightning Experience、または Salesforce モバイル Web のコンテンツを表示する WebView や同様のコントロールを埋め込む非ブラウザアプリケーションはサポートされていません。



ん。このコントロール種別を埋め込むアプローチの例として、Salesforce Mobile SDK、Microsoft の WebBrowser コントロール、Electron の埋め込み Chromium ブラウザ、iOS の UIWebView および WKWebView、Android の WebView などが挙げられます。

- モバイルブラウザで Lightning Experience にアクセスすることはできません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce でサポートされるモバイルブラウザのリストについては、「Salesforce アプリケーションの要件」を参照してください。

**重要:** Internet Explorer 11 による Lightning Experience へのアクセスは、Summer '16 以降サポートされなくなります。

- 2017 年 12 月 16 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。
- IE11 の延長サポートを選択すると、2020 年 12 月 31 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience およびコミュニティにアクセスできます。
- IE11 での Lightning Experience の使用には、**重大なパフォーマンスの問題**があります。
- コミュニティビルダーで Internet Explorer 11 を使用しないことを強くお勧めします。
- この変更は、Salesforce Classic には影響しません。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Lightning Experience	IE 11 (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	最新	最新	最新	11.x+
Lightning コンソールアプリケーション	IE 11 (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	最新	最新	最新	11.x+
Lightning コミュニティ	IE 11 (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	最新	最新	最新	11.x+
設定に関する特別な考慮事項?	なし	なし	なし	なし	なし
制限事項?	あり	あり	なし	あり	あり

**メモ:** 「最新バージョン」の用語は、ブラウザベンダによって定義されます。ブラウザのサポートを使用して「最新バージョン」の意味を確認してください。

## Microsoft Internet Explorer バージョン 11 を使用した Lightning Experience へのアクセスのサポートの延長

以前、Lightning Experience の Internet Explorer バージョン 11 (IE11) のサポート終了日が 2017 年 12 月 16 日だとお知らせしました。フィードバックを受けて、IE11 の延長サポートを提供することになりました。この延長サポートは 2020 年 12 月 31 日まで利用できます。

**対象:** Lightning Experience は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition で使用できます。


この延長期間によって、Lightning Experience の利点を利用しながら IE11 から最新の安全なブラウザに移行する時間を確保できると信じています。

IE11 の延長サポートについての詳細 (サポート対応される事項、サポート対応されない事項、実行する必要がある手順など) は、「[Microsoft Internet Explorer バージョン 11 を使用した Lightning Experience へのアクセスのサポート終了](#)」を参照してください。

## Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9、10、11 および macOS の Apple® Safari® バージョン 11.x でサポートされています。また、Microsoft Edge、Mozilla® Firefox®、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。いくつか制限事項があります。

**対象:** Salesforce Classic はすべてのエディションで使用できます。

 **メモ:** モバイルブラウザでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce でサポートされるモバイルブラウザについては、「[Salesforce アプリケーションの要件](#)」を参照してください。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Salesforce Classic	IE 9+	最新	最新	最新	11.x+
Salesforce コンソール	IE 9+	最新	最新	最新	なし
設定に関する特別な考慮事項?	あり	なし	なし	あり	なし
制限事項?	あり	あり	なし	なし	あり

 **メモ:**

- 「最新バージョン」の用語は、ブラウザベンダによって定義されます。ブラウザのサポートを使用する際に「最新バージョン」の意味を確認してください。
- Salesforce Classic での Microsoft® Internet Explorer® バージョン 7 および 8 のサポートは、Summer '15 をもって終了しています。

## Einstein Analytics でサポートされるブラウザ

Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

## Salesforce 全体: 認知、採用、パーソナライズの手段の増加による Lightning Experience の生産性の向上

自動切り替えや機能応答画面を使用して、ユーザの Lightning Experience の認知と採用を促します。Lightning Experience の使用状況を追跡して、採用の理解を深め、最適化を促進します。URL が短く読みやすくなったため、クリックする前にアクセス先がわかります。より少ないクリック数で Lightning Experience のナビゲーションバーをパーソナライズできます。オブジェクトレベルの検索でグローバル検索を絞り込み、シノニムグループを作成することなく使用できます。リストビューの詳細な検索条件で、最も重要な項目を表示します。テーマベースのトピックでレコードを整理します。ガイド付きフロー、改善されたリンク共有、より多くの Lightning コンソール JavaScript API でコンソールアプリケーションを強化します。ガイダンスに従って各個人データの安全性と機密性を確保します。

このセクションの内容:

### データ保護とプライバシーの規制のガイダンスの取得

データ保護とプライバシーの規制に関する規制を順守してください。順守する規制やポリシーにかかわらず、要件を満たす最適な方法を評価するのに役立つガイダンスを提供します。

### Lightning Experience の採用: 新しい Salesforce の認知および採用の手段の増加

組織の Lightning Experience への完全移行はまだ道半ばです。どうすればユーザが新しい Salesforce を活用してくれるでしょうか? ユーザがなかなか Salesforce Classic から移行しない場合は、週次で自動的に切り替えることで Lightning Experience を使い続けるように促します。新しい学習応答画面では、Salesforce Classic ユーザに、見落としていた Lightning Experience の機能が表示されます。いつもどおりに Lightning Experience 準備状況チェックを実行して、Summer '18 の変更が Salesforce 実装にどう影響するのかを調べてください。また、Lightning Experience への移行時に使用状況を追跡して、採用の理解を深め、最適化を促進します。

### Lightning Experience と Salesforce モバイルアプリケーションの新しい URL 形式

正式なサポートです。新しい URL 形式が現れました。ポインタを組織の領域に設定した場合、短くてわかりやすい URL を利用できるようになりました。

### Salesforce Optimizer を使用した実装の評価

Optimizer により、機能の最適な管理方法について迷うことがなくなり、ユーザは効率的に作業できます。Salesforce は、レポートを継続的に拡張して機能を追加していますが、Optimizer レポートのバージョン 2.3 が使用できるようになりました。リリース全体で Salesforce Optimizer レポートのその他の更新を確認してください。

### Lightning Experience 設定コンバータを使用した JavaScript ボタンの Lightning 対応の代替法への変換 (正式リリース)

JavaScript ボタンによって、Lightning Experience への移行が妨げられている場合、Lightning Experience 設定コンバータが役に立ちます。数回クリックするだけで、組織の単純な JavaScript ボタンをスキャンして、ポインタ & クリックの代替機能に変換し、直接組織にすべてリリースします。

### 検索:適切な絞り込み結果を得るためのオブジェクトレベルの検索、標準シノニムグループ、検索条件の増加

簡単にグローバル検索を検索可能な任意のオブジェクトに絞り込み、標準シノニムを作成することなく使用し、検索結果を商談、リード、取引先責任者などのオブジェクトによって絞り込み、その他の機能強化を使用します。

### ナビゲーションバーをパーソナライズする時間の短縮

ユーザが Lightning アプリケーションのナビゲーションを簡単にパーソナライズできるようにするための変更が加えられました。ユーザは拡張されたユーザインターフェースで瞬時に作業に戻ることができます。また、ユーザはナビゲーションバー内の目的の場所に項目をドラッグするだけで順序をすばやく調整できます。

### 画像のトリミングと色の上書きでテーマをカスタマイズ

写真編集ソフトウェアで時間を無駄にせずに、テーマによく合った外観にすることができます。トリミングおよびサイズ変更ツールを使用して、画像の使用する部分を選択できます。写真をアップロードした後、周囲をドラッグしてトリミングします。または、画像のズームを調整して最終的な外観にサイズ変更します。ツール内でブランド色も変更できます。

### 詳細な検索条件を使用したリストビューの合理化

詳細なリストビュー検索条件を使用するために Salesforce Classic に切り替える必要はなくなりました。Lightning Experience で詳細な検索条件を使用してリストビューの重要なデータを見つけ、ワークフローの効率を飛躍的に高めることができます。

### 検索条件ロジックを使用しているときのインライン編集

インライン編集と検索条件ロジックを同時に使用できるようになり、リストビューが強化されました。設定は不要です。Lightning Experience で、検索条件ロジックを使用しているリストビューのインライン編集をすぐに開始できます。ただし、いくつかの例外があります。インライン編集は複数レコードタイプのリストビューや編集可能でない項目では機能しません。また、Salesforce Classic では、検索条件ロジックを使用しているときのインライン編集はサポートされていません。

### レコード詳細ページの編集時に項目の連動関係を表示

レコード詳細ページで選択リストまたはチェックボックスを編集時に、すべての連動項目と制御項目を簡単に表示して更新できるようになりました。

### トピックを使用したレコードの整理

トピックを使用すると、レコードをテーマ別に整理できます。トピックコンポーネントをレコードページに追加することで、Lightning Experience のレコードでトピックを使用できるようになりました。トピックはすべての利用可能な標準オブジェクトで自動的に有効になります。Salesforce Classic のレコードでトピックを使用していた場合、トピックコンポーネントを追加すると、ユーザは Lightning Experience の同じレコードで、以前に追加したトピックを参照できます。

### Lightning コンソールアプリケーション: ガイド付きフロー、API の増加、ワークスペースリンクの共有

Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用してコンソールアプリケーションを強化し、コンソールユーザがビジネスプロセスにしたがって作業できるようにします。また、増加した Lightning コンソール JavaScript API を使用してコンソールアプリケーションをカスタマイズすることもできます。コンソールにリンク共有が導入されました。コンソールユーザはこれを使用して、サブタブを含むワークスペースへのリンクを他のユーザと共有できます。

**Salesforce アンケート: 絞り込まれたデータを収集するオプションの追加**

Salesforce アンケートを使用すると、必要なデータのみを収集する洗練されたアンケートをより詳細に制御して作成できます。

**Cisco Spark および WebEx 権限の容易な割り当て**

Cisco Spark for Salesforce または WebEx for Salesforce を有効にした場合、デフォルトでは、すべてのユーザにアクセス権が与えられます。この権限をオフにして、一部のユーザにアクセス権を付与できます。

**送信登録せずに非公開のフィードバックを送信**

ヘルプメニューのリンクを使用して Lightning Experience に関するフィードバックを送信する場合、連絡先情報の送信を明示的に選択する必要はありません。お客様の情報は常に機密性と安全性が確保され、フィードバックフォーム送信の1年後に削除されます。

## データ保護とプライバシーの規制のガイダンスの取得

データ保護とプライバシーの規制に関する規制を順守してください。順守する規制やポリシーにかかわらず、要件を満たす最適な方法を評価するのに役立つガイダンスを提供します。

**対象:** この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**理由:** データ保護とプライバシーの規制で、各個人データの安全性と機密性を確保することが求められる場合があります。顧客データを収集および処理している多くの会社にとって重要な規制には、次のようなものがあります。

- 一般データ保護規則 (GDPR)、EU
- 個人情報保護法 (PIPA)、日本
- 医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律 (HIPAA)、米国
- プライバシー法、オーストラリア
- 個人情報保護および電子文書法 (PIPEDA)、カナダ

**方法:** 「[データ保護とプライバシー](#)」で共通するプライバシーの原則に関するガイダンスを提供します。

関連トピック:

[データ保護とプライバシー: 個人オブジェクトの機能強化](#)

## Lightning Experience の採用: 新しい Salesforce の認知および採用の手段の増加

組織の Lightning Experience への完全移行はまだ道半ばです。どうすればユーザが新しい Salesforce を活用してくれるでしょうか? ユーザがなかなか Salesforce Classic から移行しない場合は、週次で自動的に切り替えることで Lightning Experience を使い続けるように促します。新しい学習応答画面では、Salesforce Classic ユーザに、見落としていた Lightning Experience の機能が表示されます。いつもどおりに Lightning Experience 準備状況チェックを実行して、Summer '18 の変更が Salesforce 実装にどう影響するのかを調べてください。また、Lightning Experience への移行時に使用状況を追跡して、採用の理解を深め、最適化を促進します。

## このセクションの内容:

### ユーザの Lightning Experience 採用を促進

追加の設定なしで採用を増やす方法が新たに実装されました。Lightning Experience へのアクセス権を持つユーザは、週次で自動的に Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えられます。ユーザのオンボーディングエクスペリエンスを最適化するために、切り替え時には使用開始のためのリソースが表示されます。

### Lightning Experience の方がよい理由の発見

2018年4月、Salesforce は、Lightning Experience がシステム管理者やユーザの作業の迅速化とスマート化にどう役立つのかをユーザに伝える機能応答画面のロールアウトを開始しました。この応答画面は、Salesforce Classic でユーザが、ToDo、カレンダー、ダッシュボードといった特定の機能を使用したときにのみ表示されます。機能に関する学習はコンテキスト内で行われた場合に最も効果を発揮するため、ユーザには Lightning Experience で同じ機能を使用する方法が示されます。2018年を通して、Salesforce は他の応答画面をロールアウトして学習とオンボーディングを容易にします。

### 準備状況レポートを Lightning Experience へのガイドにする

準備状況チェックを実行して、評価する機能について Lightning Experience の最新情報を入手できます。Summer '18 の特筆すべき点として、新しい Lightning サンプルコンポーネントに置き換え可能な JavaScript ボタンに関する助言があります。設定作業に関する、ステップごとの具体的なサポートも得られます。しばらく準備状況をチェックしていなかった場合は、もう一度実行することをお勧めします。それによって、最近の他の更新も確認できます。これには、ルックアップ検索条件と Salesforce ナレッジに関する新しい助言「Which Features Are Ready?」（使用可能な機能は?）という再設計されたレポートサマリーセクションなどがあります。Plus、Premier Success Plan、および Signature Success Plan のお客様には、それらのプログラム専用のカスタマイズされたコンテンツも表示されます。

### Lightning 利用状況アプリケーションでユーザの活動に関するインサイトを取得

Lightning Experience の採用と利用状況を追跡できます。Lightning 利用状況アプリケーションには、日次および月次の有効ユーザ数、Salesforce Classic に切り替えたユーザ数などのグラフが含まれます。これらの定量化可能な基準により、ユーザのエクスペリエンスを理解し、トレーニングとその他のサポートのリソースを最適化しやすくなります。

### Adoption Manager メールが無効化

Salesforce アプリケーションと Lightning Experience の採用を促進する Salesforce Adoption Manager メールは、2018年6月30日前後からユーザに送信されなくなります。Adoption Manager を有効にするための設定ページも削除されます。システム管理者には、Lightning Experience に切り替えるようにユーザに促し、オンボーディングとアシスタンス用のアプリケーション内メッセージを管理する別の方法が提供されます。

### 一部の組織ではユーザによる使用は Lightning Experience のみに限定

2018年6月より、特定のエディションの新しい組織では、エンドユーザによる使用は Lightning Experience のみに設定されます。該当する組織の管理ユーザは、Salesforce Classic にもアクセスできますが、Lightning Experience を無効にしたり、Salesforce Classic へのアクセス権限をユーザに付与したりすることはできません。

## ユーザの Lightning Experience 採用を促進

追加の設定なしで採用を増やす方法が新たに実装されました。Lightning Experience へのアクセス権を持つユーザは、週次で自動的に Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えられます。ユーザのオンボーディングエクスペリエンスを最適化するために、切り替え時には使用開始のためのリソースが表示されます。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**時期:** 自動切換えは、2018 年 5 月 11 日以降に使用できます。

**対象ユーザ:** Lightning Experience へのアクセス権を持つユーザのみが切り替えられます。

**理由:** Lightning Experience のすべての優れた機能と生産性の向上効果について再確認が必要なユーザのために、それらの情報を切り替え時に表示して、探索の開始を補助します。

**方法:** 切り替えを毎日または毎週のどちらの頻度で実行するのかわを選択します。デフォルトは毎週です。おおよそのリセット時間は、毎日場合は午前 1:00、毎週の場合は日曜日の午前 1:00 です。この時間は、ユーザのインスタンスをサポートするデータセンターのローカル時間です。切り替えは、ユーザが次回ログインしたときに実行されます。

切り替え後のログイン時、ユーザには、歓迎のメッセージ、動画、Trailhead モジュール、およびヘルプリソースが表示されます。ユーザは Salesforce Classic に戻ることができますが、ログイン時に Lightning Experience に切り替えられます。

切り替えを無効化する場合は、組織全体で無効にするのではなく、権限セットを使用して特定のユーザのグループのみを対象にすることをお勧めします。

Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Lightning*」と入力し、[Lightning Experience] を選択します。Lightning Experience 移行アシスタントの [ユーザを設定] タブに移動します。

#### 関連トピック:

[ヘルプ: Lightning Experience にとどまるようにユーザを促す \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## Lightning Experience の方がよい理由の発見

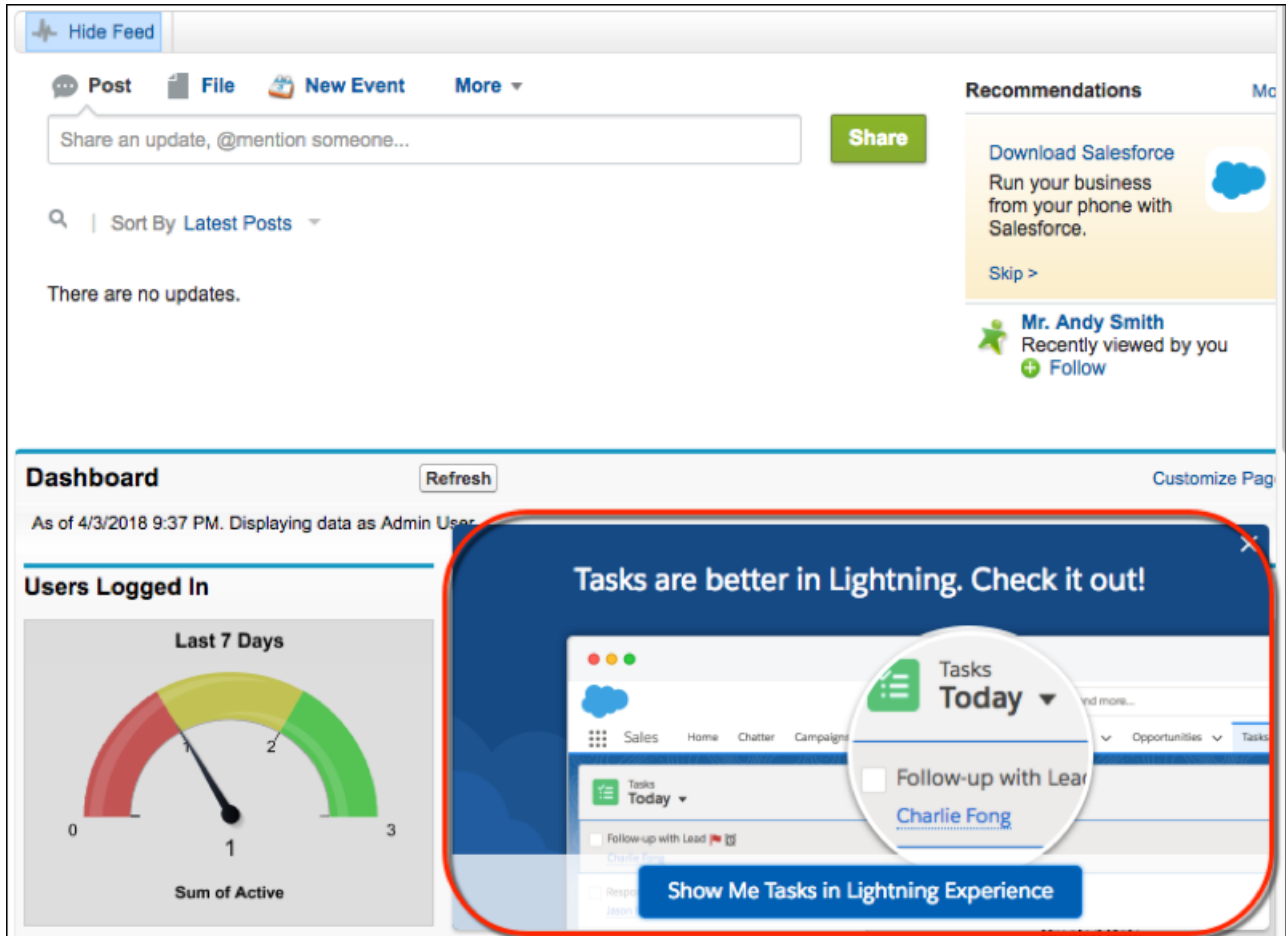
2018 年 4 月、Salesforce は、Lightning Experience がシステム管理者やユーザの作業の迅速化とスマート化にどう役立つのかをユーザに伝える機能応答画面のロールアウトを開始しました。この応答画面は、Salesforce Classic でユーザが、ToDo、カレンダー、ダッシュボードといった特定の機能を使用したときのみ表示されます。機能に関する学習はコンテキスト内で行われた場合に最も効果を発揮するため、ユーザには Lightning Experience で同じ機能を使用する方法が示されます。2018 年を通して、Salesforce は他の応答画面をロールアウトして学習とオンボーディングを容易にします。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザ:** Lightning Experience へのアクセス権を持つユーザにのみ機能応答画面が表示されます。

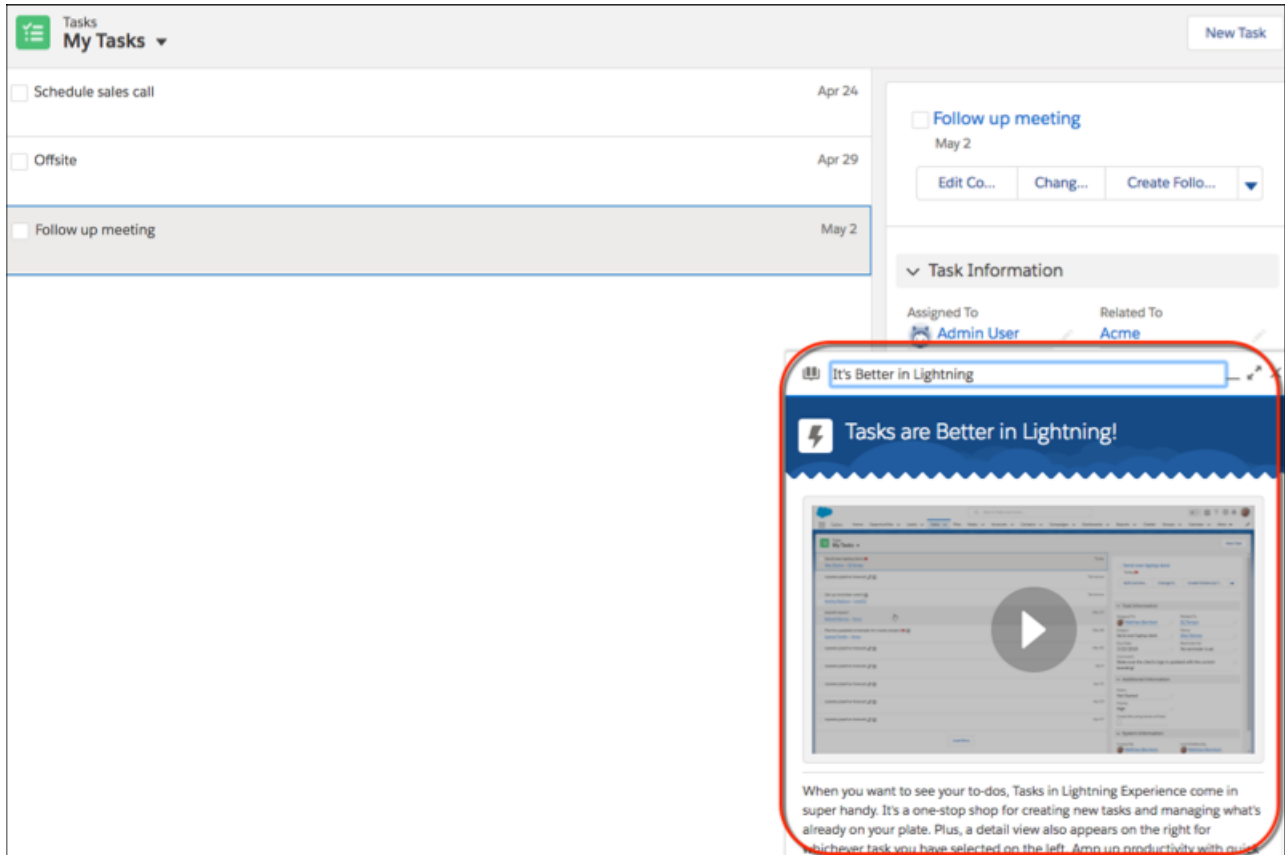
**時期:** 2018 年 4 月からユーザへの応答画面の表示が開始されます。リリースの期間全体にわたって、新しい機能応答画面がロールアウトされます。

**理由:** この機能応答画面は、ユーザが特定のアクション (ToDo の表示など) を実行したときのみ表示されます。



ユーザが新しいインターフェースで機能を探査することを選択すると、役に立つヒントと Lightning Experience で作業をどのように迅速化およびスマート化できるのかを説明する短い動画で、まずは迎えられます。





方法: どの応答画面を表示するのかを制御し、組織の Lightning Experience ロールアウトプロセスで最も効果的なものを選択できます。Lightning Experience の [設定] で、[クイック検索] ボックスに「オンボーディング & アシスタンス」と入力します。

[オンボーディング & アシスタンス] 設定ページから [今すぐ Lightning Experience を試す] 応答画面を制御することもできます。この応答画面は、Lightning Experience の方がよりスマートにすばやく作業できることをユーザに伝えます。応答画面は、英語だけでなく Lightning Experience でサポートされているすべての言語で使用できます。

#### 関連トピック:

[ヘルプ: Lightning Experience で作業するようにユーザを促す \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## 準備状況レポートを Lightning Experience へのガイドにする

準備状況チェックを実行して、評価する機能について Lightning Experience の最新情報を入手できます。Summer '18 の特筆すべき点として、新しい Lightning サンプルコンポーネントに置き換え可能な JavaScript ボタンに関する助言があります。設定作業に関する、ステップごとの具体的なサポートも得られます。しばらく準備状況をチェックしていなかった場合は、もう一度実行することをお勧めします。それによって、最近の他の更新も確認できます。これには、ルックアップ検索条件と Salesforce ナレッジに関する新しい助言「Which Features Are Ready?」(使用可能な機能は?) という再設計されたレポートサマリーセクションなどがあります。Plus、Premier Success Plan、および Signature Success Plan のお客様には、それらのプログラム専用のカスタマイズされたコンテンツも表示されます。


**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および SalesforceA に適用されます。

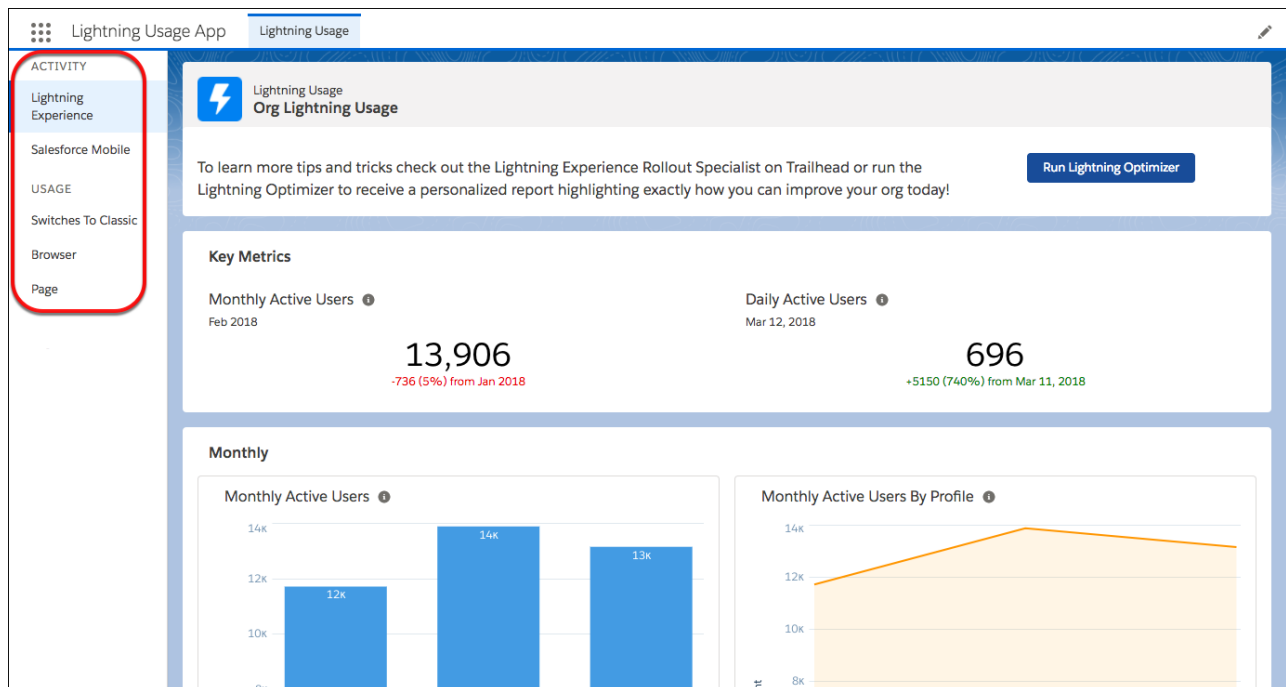
**方法:** [設定] から準備状況チェックを実行します。[移行アシスタント] タイルの [使用を開始する] をクリックします。[準備状況をチェック] タブで、[準備状況をチェック] をクリックします。

## Lightning 利用状況アプリケーションでユーザの活動に関するインサイトを取得

Lightning Experience の採用と利用状況を追跡できます。Lightning 利用状況アプリケーションには、日次および月次の有効ユーザ数、Salesforce Classic に切り替えたユーザ数などのグラフが含まれます。これらの定量化可能な基準により、ユーザのエクスペリエンスを理解し、トレーニングとその他のサポートのリソースを最適化しやすくなります。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Lightning 利用状況アプリケーションは、Sandbox 組織では使用できません。

**方法:** Lightning 利用状況アプリケーションにアクセスするには、 をクリックし、「Lightning 利用状況」と入力し、「Lightning 利用状況」をクリックします。ページの左側にある [活動] または [利用状況] のタブをクリックして関連するデータを表示します。



Lightning 利用状況アプリケーションの API には、Lightning 利用状況総計値を表すオブジェクトが含まれます。「新しいオブジェクト」の LightningToggleMetrics、LightningUsageByAppTypeMetrics、LightningUsageByBrowserMetrics、LightningUsageByFlexiPageMetrics、LightningUsageByPageMetrics オブジェクトを参照してください。

## Adoption Manager メールの無効化

Salesforce アプリケーションと Lightning Experience の採用を促進する Salesforce Adoption Manager メールは、2018 年 6 月 30 日前後からユーザに送信されなくなります。Adoption Manager を有効にするための設定ページも削除されます。システム管理者には、Lightning Experience に切り替えるようにユーザに促し、オンボーディングとアシスタンス用のアプリケーション内メッセージを管理する別の方法が提供されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience とすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。メールは Salesforce のフルライセンスを持つユーザにのみ送信されていました。コミュニティ、パートナー、および Chatter ユーザは含まれません。

関連トピック:

[Lightning Experience の採用: 新しい Salesforce の認知および採用の手段の増加](#)

## 一部の組織ではユーザによる使用は Lightning Experience のみに限定

2018 年 6 月より、特定のエディションの新しい組織では、エンドユーザによる使用は Lightning Experience のみに設定されます。該当する組織の管理ユーザは、Salesforce Classic にもアクセスできますが、Lightning Experience を無効にしたり、Salesforce Classic へのアクセス権限をユーザに付与したりすることはできません。

対象: この変更は、Sales Cloud Professional および Service Cloud Essentials エディションのトライアルおよび購入済みサブスクリプションに適用されます。Sales Cloud Essentials エディションはすでにこのように設定されています。

理由: Lightning Experience をご利用いただいた場合、生産性が Salesforce Classic 使用時よりも 41% 向上します。新しいお客様にこのような生産性の向上を享受していただくために、新しい Salesforce 組織についてはこのような設定変更を実施することになりました。

方法: この変更が適用される新しい組織で、ユーザが Salesforce Classic にもアクセスが必要と思われる場合は、Salesforce サポートにケースを登録して例外処理を申請してください。

例外処理を申請する手順は、次のとおりです。

1. Salesforce の [ヘルプ & トレーニング] ポータルのヘルプファインダに移動し、Salesforce ログイン情報でログインします。
2. [機能制限および機能有効化] トピックをクリックし、[その他] カテゴリをクリックします。
3. [新規ケースを登録] をクリックします。
4. [件名] 項目に 「*Enable Classic*」 (Classic の有効化) と入力します。
5. [説明] 項目に申請理由と Salesforce Classic へのエンドユーザアクセスに関する詳細を入力します。
6. OrgId が正しいことを確認し、ケースを送信します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience Only Editions \(Lightning Experience のみのエディション\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

## Lightning Experience と Salesforce モバイルアプリケーションの新しい URL 形式

正式なサポートです。新しい URL 形式が現れました。ポインタを組織の領域に設定した場合、短くてわかりやすい URL を利用できるようになりました。

**対象:** この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience 標準アプリケーション、Lightning Experience コンソールアプリケーション、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションの URL に適用されます。コミュニティに影響はありません。

**理由:** 新しい URL 形式はこれまでよりも可読性が向上しており、認証前に Lightning Experience URL にアクセスしたときに予期しない場所に移動する問題に対応しています。

この新しい形式の例を次にいくつか示します。


- オブジェクトのホームページ
  - 以前の形式: `https://<lightning.domain.com>/one/one.app/#/sObject/Account/home`
  - 新しい形式: `https://<lightning.domain.com>/lightning/o/Account/home`
- レコードページ
  - 以前の形式:  
`https://<lightning.domain.com>/one/one.app#/sObject/006R000000245p1IAA/view`
  - 新しい形式:  
`https://<lightning.domain.com>/lightning/r/Opportunity/006R000000245p1IAA/view`

`/lightning` が `/one/one.app` をどのように置き換えたかがわかりますか? 保存した URL やメールに含めた URL など、`/one/one.app` を使用する既存の URL は引き続き機能します。実行されるたびに、新しい形式に変換されます。

コンソールアプリケーションで、ブラウザのアドレスバーから直接 URL をコピーし、新しい URL 形式を使用してワークスペースと有効なサブタブを共有できます。Lightning コンソール JavaScript API で新しい URL を使用することもできます。便利ですね。

**方法:** URL を解析するカスタムコンポーネントやインストール済みの Lightning コンポーネント、特に `window.location` または `aura:locationChange` イベントに依存するロジックを持つコンポーネントは、この変更後に破損するか、異なる方法で動作する場合があります。

`/one/one.app?myparam1=xyz&myparam2=abc` のように `/one/one.app` にクエリ文字列パラメータを追加している場合、`/lightning?0.myparam1=xyz&0.myparam2=abc` と書き換えられます。

 **メモ:** ファイルパスに `/apex/pageName` が含まれる Visualforce ページ URL は、新しい URL 形式に変換されません。これらの URL では、実行時に引き続き `/one/one.app` URL 形式が使用されます。

詳細は、[FAQ](#) を参照してください。

関連トピック:

[ワークスペースと有効なサブタブをアドレスバーからコピーして共有](#)

## Salesforce Optimizer を使用した実装の評価

Optimizer により、機能の最適な管理方法について迷うことがなくなり、ユーザは効率的に作業できます。Salesforce は、レポートを継続的に拡張して機能を追加していますが、Optimizer レポートのバージョン 2.3 が使用できるようになりました。リリース全体で Salesforce Optimizer レポートのその他の更新を確認してください。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**時期:** 2018 年 2 月以降、Optimizer では次のユーザライセンスのみが評価されます。

- Chatter Only (Chatter Plus)
- Company Community ユーザ
- Lightning Platform App Subscription
- Lightning Platform - One App
- Knowledge 限定ユーザ
- Salesforce
- Salesforce Platform

2018 年 2 月以降、Optimizer では [私のドメイン] が組織で有効になっているかどうか評価されます。

2018 年 4 月のバージョン 2.3 リリースでは、Salesforce モバイルアプリケーションの Chatter 採用が評価されなくなりなります。

**方法:** [設定] から Salesforce Optimizer を実行します。[クイック検索] ボックスに「オプティマイザ」と入力し、[オプティマイザ] を選択します。[レポート実行] を選択します。

開始するにあたって、さらにヘルプが必要ですか? 新しい動画をご覧ください。

🔗 [Improve Your Org with Salesforce Optimizer \(Salesforce Optimizer を使用した組織の改善\) \(英語のみ\)](#)

また、「[Clean Up and Supercharge Your Org with Salesforce Optimizer \(Salesforce Optimizer を使用した組織のクリーンアップと大幅な強化\)](#)」 Web セミナーにサインアップしたり、「[Optimizer Rescue \(Optimizer レスキュー\)](#)」にサインアップして Salesforce エキスパートのサポートを受けたりできます。

## Lightning Experience 設定コンバータを使用した JavaScript ボタンの Lightning 対応の代替法への変換 (正式リリース)

JavaScript ボタンによって、Lightning Experience への移行が妨げられている場合、Lightning Experience 設定コンバータが役に立ちます。数回クリックするだけで、組織の単純な JavaScript ボタンをスキャンして、ポイント & クリックの代替機能に変換し、直接組織にすべてリリースします。

**対象:** この機能は、すべてのエディションの Lightning Experience で使用できます。

**時期:** Lightning Experience 設定コンバータの正式リリースは、2018 年 6 月 1 日です。

**対象ユーザ:** このツールを使用するには、「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限があり、組織に [私のドメイン] がリリースされている必要があります。

**理由:** Lightning Experience 設定コンバータは、組織の JavaScript ボタンの実行内容を調べ、元のボタンに触れることなく Lightning コンポーネント、クイックアクション、またはその他の宣言型ソリューションとして再作成し

ます。変更をコミットする前に、新しいコンポーネントのコードまたは宣言型ステップをプレビューして、必要に応じて代替機能が動作することを確認できます。

方法: Lightning Experience 設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールで、本番組織では動作しません。Sandbox 組織または開発者組織で実行してから、変更を本番組織に移行します。

使用を開始するには、Sandbox 組織または Developer Edition 組織のログイン情報を使用して <https://lightning-configuration.salesforce.com/> にアクセスします。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience Configuration Converter Considerations \(Lightning Experience 設定コンバータの考慮事項\)](#)

## 検索: 適切な絞り込み結果を得るためのオブジェクトレベルの検索、標準シノニムグループ、検索条件の増加

簡単にグローバル検索を検索可能な任意のオブジェクトに絞り込み、標準シノニムを作成することなく使用し、検索結果を商談、リード、取引先責任者などのオブジェクトによって絞り込み、その他の機能強化を使用します。

#### このセクションの内容:

##### どこからでも簡単に目的のオブジェクトを検索

オブジェクトを検索するとき、無駄なく、アプリケーション内のどこからでも、目的の結果のみを表示します。グローバル検索ボックスの横にあるドロップダウンリストで、検索可能な任意のオブジェクトを選択します。検索語を入力すると、インスタント結果と全文検索結果の両方がそのオブジェクトに制限されます。

##### 標準シノニムグループによる時間の節約

シノニムグループのお陰で、ユーザは適切な検索語を入力するときに迷わずにすみ、時間を節約できます。(「安全帽」、「ヘルメット」、「兜」のどれがよいか、などです。)Salesforce に標準シノニムグループが導入されたため、時間を節約できます。標準シノニムグループには、一般的に関連付けられる用語 (file と document や password と credentials など) が含まれています。標準シノニムは、すべての組織の Salesforce ナレッジオブジェクトで使用できます。

##### さらに多くのオブジェクトでの検索結果の絞り込み

似ている名前の商談(またはリードや取引先責任者)が多数存在し、探しているものを見つけるための時間は限られています。今回のリリースでは、取引先とファイルに加えて、商談、リード、取引先責任者、ケース、ToDo、メモ、ダッシュボード、人の検索結果も絞り込めるようになりました。

##### 検索のサポートの強化

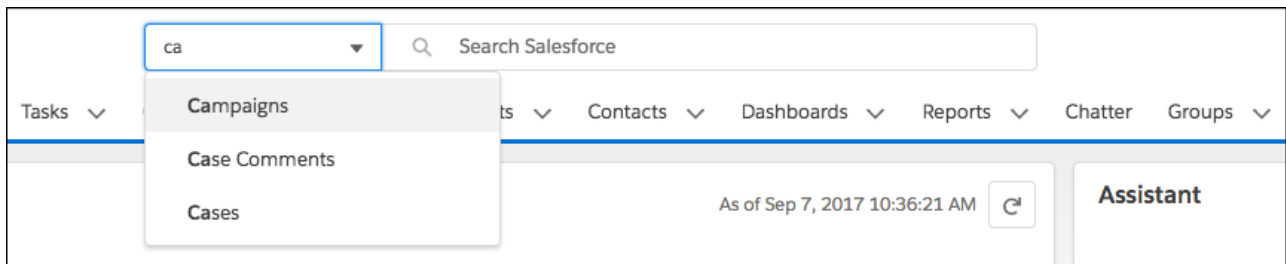
全体的な検索の操作性が強化されています。

## どこからでも簡単に目的のオブジェクトを検索

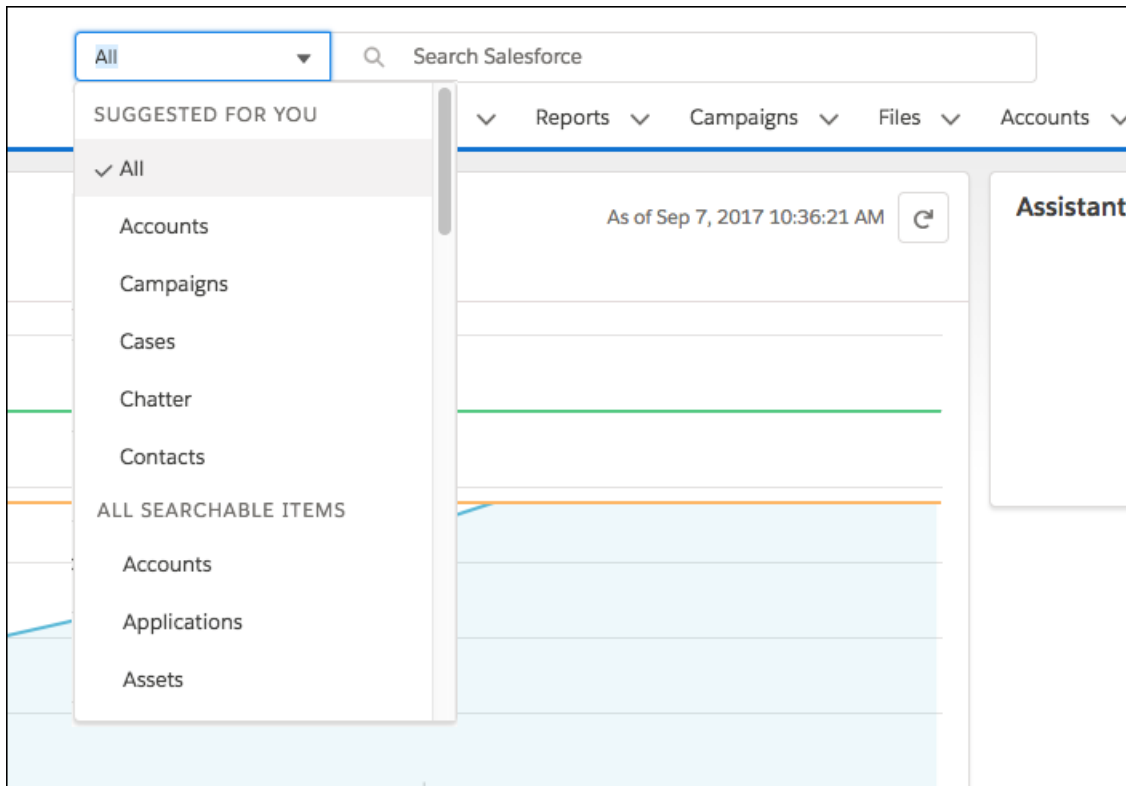
オブジェクトを検索するときに、無駄なく、アプリケーション内のどこからでも、目的の結果のみを表示します。グローバル検索ボックスの横にあるドロップダウンリストで、検索可能な任意のオブジェクトを選択します。検索語を入力すると、インスタント結果と全文検索結果の両方がそのオブジェクトに制限されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

理由: オブジェクト種別による検索は新しいものではありませんが、より簡単で迅速に行えるようになりました。オブジェクト名を入力して、ドロップダウンから [検索を制限] を選択する必要がなくなりました。検索可能な任意のオブジェクトの名前をドロップダウンで選択するか入力するだけで、検索を絞り込むことができます。



特に頻繁に使用するオブジェクトが最上部に表示され、その後に検索可能なオブジェクトの完全なリストがアルファベット順で表示されます。



オブジェクトを選択しない場合、検索は通常どおり機能し、入力中にさまざまなオブジェクトからの一致が返されます。[上位の結果] ページには、最も頻繁に使用するオブジェクトの最も関連性の高い一致が表示されません。

## 標準シノニムグループによる時間の節約

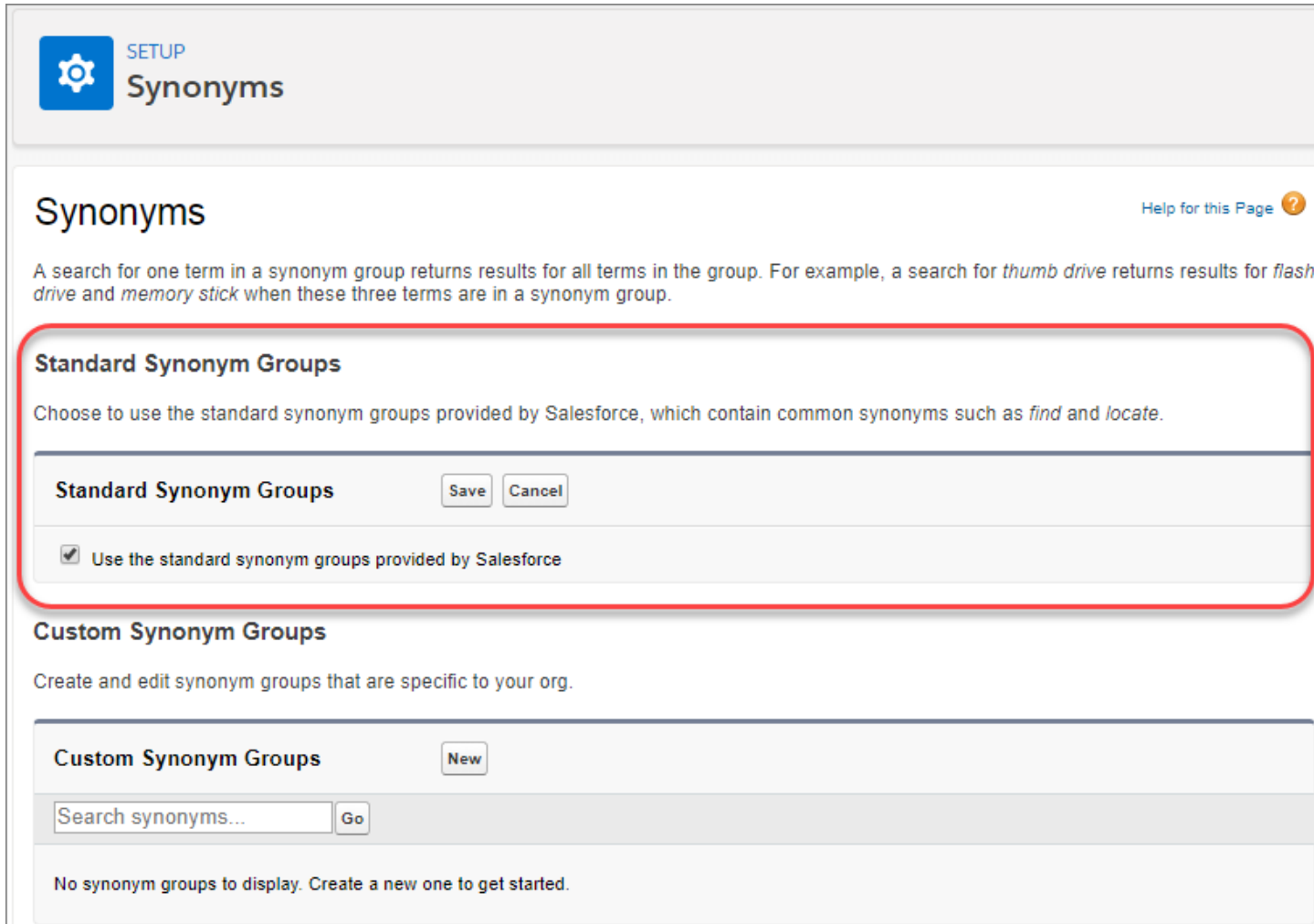
シノニムグループのおかげで、ユーザは適切な検索語を入力するときに迷わずにすみ、時間を節約できます。(「安全帽」、「ヘルメット」、「兜」のどれがよいか、などです。)Salesforce に標準シノニムグループが導入されたため、時間を節約できます。標準シノニムグループには、一般的に関連付けられる用語 (file と document や password と credentials など) が含まれています。標準シノニムは、すべての組織の Salesforce ナレッジオブジェクトで使用できます。

**対象:** この変更は、すべてのエディションの Salesforce Classic、Lightning Experience、および Salesforce アプリケーション (iOS、Android、モバイルブラウザ) に適用されます。

**理由:** シノニムグループを作成する時間をかけずに、その利点を得ることができます。標準シノニムグループには、次のような一般的な英語のシノニムが含まれています。

- file、document
- configuration、config
- db、database
- credentials、password
- pictures、photos
- hi、hello
- PO、order





**Standard Synonym Groups**

Choose to use the standard synonym groups provided by Salesforce, which contain common synonyms such as *find* and *locate*.

**Standard Synonym Groups**

Use the standard synonym groups provided by Salesforce

**Custom Synonym Groups**

Create and edit synonym groups that are specific to your org.

**Custom Synonym Groups**

Search synonyms...

No synonym groups to display. Create a new one to get started.

方法: 標準シノニムはデフォルトで有効になっています。シノニムグループを編集または参照することはできませんが、すべての標準シノニムグループを無効にすることはできます。組織や業界に固有の関連語を含むシノニムグループを作成することは引き続き可能です。カスタムシノニムグループを追加するプロセスは変更されていません。

## さらに多くのオブジェクトでの検索結果の絞り込み

似ている名前の商談(またはリードや取引先責任者)が多数存在し、探しているものを見つけるための時間は限られています。今回のリリースでは、取引先とファイルに加えて、商談、リード、取引先責任者、ケース、ToDo、メモ、ダッシュボード、人の検索結果も絞り込めるようになりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

理由: キーワード検索だけでは不十分な場合があります。検索結果ページの左側でサポート対象のオブジェクトを選択し、条件を適用することによって結果をさらに絞り込むことができます。

The screenshot shows the Salesforce search interface. At the top, there is a search bar with 'acme' entered. Below it, the navigation menu includes 'Sales', 'Home', 'Opportunities', 'People', 'Leads', 'Tasks', 'Campaigns', 'Files', and 'More'. The main content area is titled 'Opportunities' and shows '2 Results' filtered by 'Opportunity Name' and sorted by 'Relevance'. A table lists the results:

OPPORTUNITY NAME	ACCOUNT NAME	STAGE	CLOSE DATE
Acme - 200 Widgets	Acme	Prospecting	9/18/2015
Acme - 600 Widgets	Acme	Needs Analysis	7/16/2015

On the left side, the 'REFINE BY' section allows filtering by 'Opportunity Name' (with 'widgets' entered), 'Account Name', 'Stage' (Choose...), and 'Close Date' (Choose...).

方法:[設定]から、オブジェクトマネージャで各オブジェクトの[検索レイアウト]に移動します。ユーザが絞り込む項目を[検索結果]レイアウトに追加します。サポートされる項目のデータ型は、チェックボックス、電話番号、選択リスト、テキスト、URLです。暗号化された項目を絞り込むことはできません。

## 検索のサポートの強化

全体的な検索の操作性が強化されています。

このセクションの内容:

### さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

リストメール (旧称は一括メール) が検索可能になりました。ケースコメントも検索可能になりました。

### 検索の見出語化でのヘブライ語のサポート

ヘブライ語の見出語化がサポートされるようになり、より良い検索結果が得られます。見出語化は、単語のバリエーションをグループ化する方法です。たとえば、「fast」を検索すると、「faster」、「fasting」、「fastest」を含む一致が得られます。

### 統合検索が Performance Edition で使用可能に

統合検索を使用すると、簡単に外部の検索エンジンを組織に追加できます。この機能が、Performance Edition でサポートされるようになりました。

## さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

リストメール (旧称は一括メール) が検索可能になりました。ケースコメントも検索可能になりました。

対象: リストメールは、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのエディションのモバイルアプリケーションの全バージョンで検索可能です。ケースコメントは、Essentials Editions、Group Editions、Professional Editions、Enterprise Editions、Performance Editions、Unlimited Editions、および Developer Edition の Lightning Experience で検索可能です。

## 検索の見出語化でのヘブライ語のサポート

ヘブライ語の見出語化がサポートされるようになり、より良い検索結果が得られます。見出語化は、単語のバリエーションをグループ化する方法です。たとえば、「fast」を検索すると、「faster」、「fasting」、「fastest」を含む一致が得られます。

対象: この変更は、Database.com Edition を除くすべてのエディションの Salesforce Classic、Lightning Experience、および Salesforce アプリケーション (iOS、Android、モバイルブラウザ) に適用されます。

## 統合検索が Performance Edition で使用可能に

統合検索を使用すると、簡単に外部の検索エンジンを組織に追加できます。この機能が、Performance Edition でサポートされるようになりました。

対象: これらの変更は、Database.com Edition を除くすべてのエディションの Salesforce Classic、Lightning Experience、および Salesforce アプリケーション (iOS、Android、モバイルブラウザ) に適用されます。

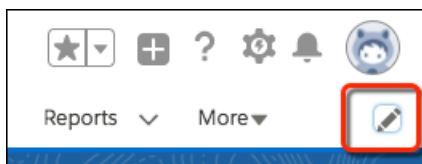
## ナビゲーションバーをパーソナライズする時間の短縮

ユーザが Lightning アプリケーションのナビゲーションを簡単にパーソナライズできるようにするための変更が加えられました。ユーザは拡張されたユーザインターフェースで瞬時に作業に戻ることができます。また、ユーザはナビゲーションバー内の目的の場所に項目をドラッグするだけで順序をすばやく調整できます。

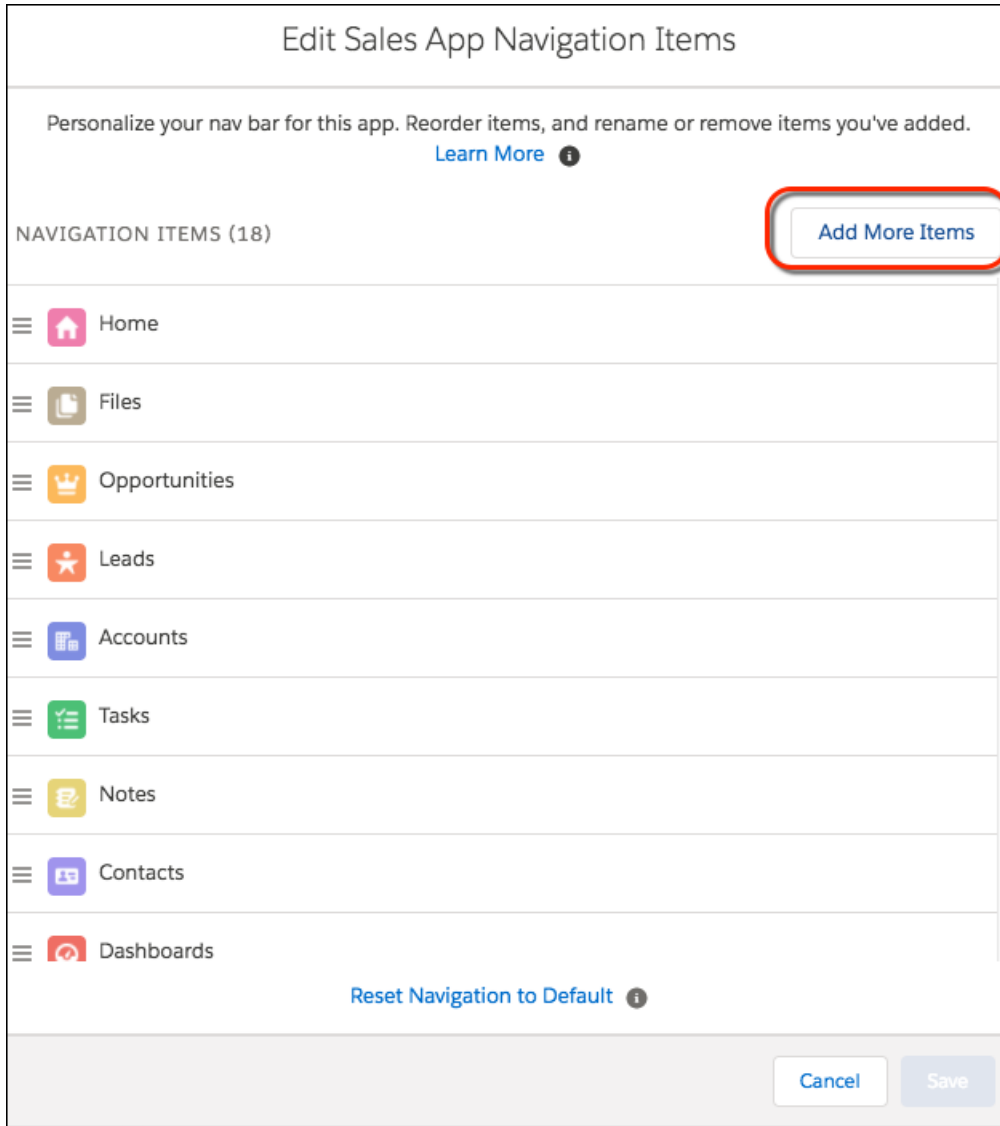
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 拡張されたナビゲーションバーエディタで、より簡単にお気に入りやすべての使用可能な項目を検索して、追加する項目を選択できます。新しいエディタでは、ユーザは一時タブの使用を最小限に抑えることができます。

方法: ナビゲーションバー内に項目をドラッグして並び替えます。さらに変更するには、ナビゲーションバーの鉛筆アイコンをクリックして開始します。



[さらに項目を追加] をクリックします。



特定のアプリケーションでユーザーにナビゲーションバーをパーソナライズさせたくない場合は、パーソナライズを無効にできます。Lightning Experience の [設定] でアプリケーションマネージャに移動します。目的のアプリケーションを編集します。[アプリケーションオプション] ページで、[エンドユーザーによるこのアプリケーションのナビゲーション項目のパーソナライズを無効にする] を選択します。パーソナライズを無効にした場合、または Salesforce Classic アプリケーションの場合、ユーザーはナビゲーションバーを変更できません。

ユーザーがアプリケーション外部の項目にアクセスするとき一時タブが作成されないようにする場合、同じページからこの動作を無効にできます。

#### 関連トピック:

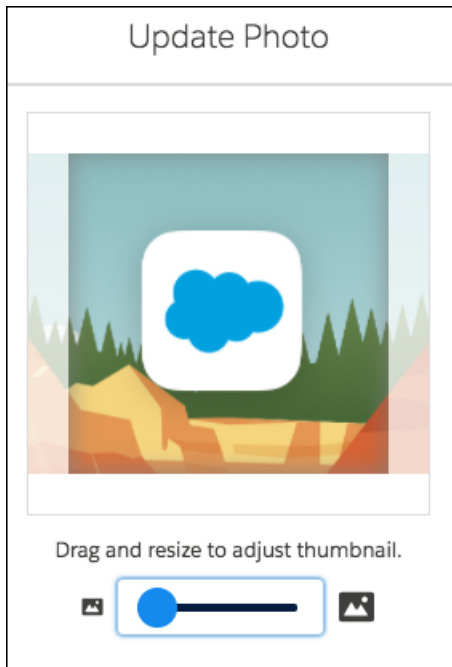
[ヘルプ: Lightning Experience のナビゲーションバーのパーソナライズ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## 画像のトリミングと色の上書きでテーマをカスタマイズ

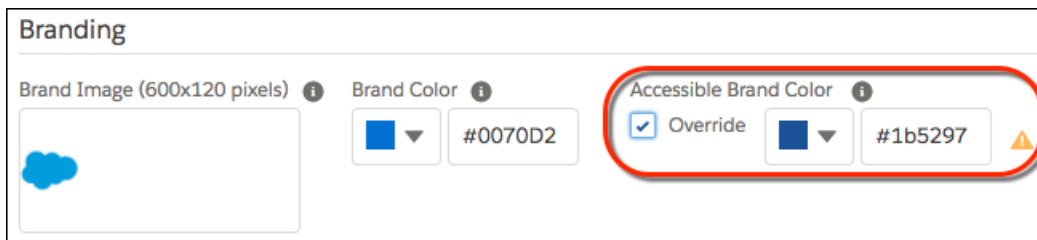
写真編集ソフトウェアで時間を無駄にせずに、テーマによく合った外観にすることができます。トリミングおよびサイズ変更ツールを使用して、画像の使用する部分を選択できます。写真をアップロードした後、周囲をドラッグしてトリミングします。または、画像のズームを調整して最終的な外観にサイズ変更します。ツール内でブランド色も変更できます。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

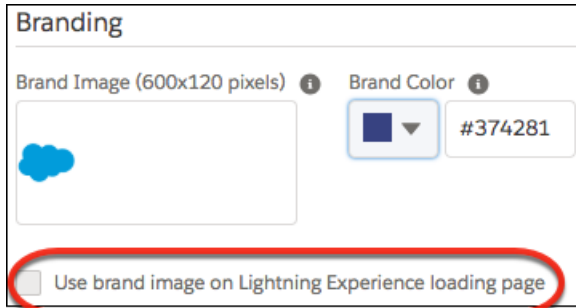
**理由:** 画像をアップロードします。すばやくトリミングとサイズ変更を行うことができます。



指定したブランド色をカスタムテーマで変更してWCAG2.0準拠にできます。懸案となっていた、ブランド色を調整してアクセシビリティ対応の読みやすいページを実現する方法が確立されました。ただし、正確なブランド色を表示する場合は、アクセシビリティ対応のブランド色を上書きできます。



Lightning Experience 読み込み中ページでテーマのブランド画像を使用することもできます。



方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「テーマおよびブランド設定」と入力し、[テーマおよびブランド設定] を選択します。

関連トピック:

[ヘルプ: Lightning Experience での組織のブランド設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)


## 詳細な検索条件を使用したリストビューの合理化

詳細なリストビュー検索条件を使用するために Salesforce Classic に切り替える必要はなくなりました。Lightning Experience で詳細な検索条件を使用してリストビューの重要なデータを見つけ、ワークフローの効率を飛躍的に高めることができます。


対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 最新のメールキャンペーンから営業キューに追加された進行中のリードをすべて表示したいですか? 成立の確度が高いアジアの商談についてはどうでしょう? 最も関連性の高い情報を必要なときに明らかにすることで、取引先、取引先責任者、リード、商談、カスタムオブジェクトをしっかりと把握できます。この新しい検索条件で次のような絞り込みができます。

- 取引先をテリトリーで絞り込み
- 取引先、ケース、商談をチームで絞り込み
- 取引先責任者をキャンペーンで絞り込み
- リードをキューおよびキャンペーンで絞り込み
- 商談をテリトリーで絞り込み
- カスタムオブジェクトをキューで絞り込み

 **メモ:** テリトリーによる商談の絞り込みは、元のテリトリー管理機能でのみ使用できます。エンタープライズテリトリー管理では使用できません。

これらの検索条件は既存の項目の絞り込みと一緒に使用できるため、微妙な差異のあるリストビューを作成してチームと共有できます。

方法: この新しい検索条件は簡単に使用できます。オブジェクトを選択し、 をクリックして [条件] パネルにアクセスします。ここから、追加する検索条件を選択します。他の検索条件オプションと同じ場所に新しい検索条件オプションが表示されます。

## 検索条件ロジックを使用しているときのインライン編集

インライン編集と検索条件ロジックを同時に使用できるようになり、リストビューが強化されました。設定は不要です。Lightning Experienceで、検索条件ロジックを使用しているリストビューのインライン編集をすぐに開始できます。ただし、いくつかの例外があります。インライン編集は複数レコードタイプのレストランビューや編集可能でない項目では機能しません。また、Salesforce Classicでは、検索条件ロジックを使用しているときのインライン編集はサポートされていません。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

## レコード詳細ページの編集集中に項目の連動関係を表示

レコード詳細ページで選択リストまたはチェックボックスを編集集中に、すべての連動項目と制御項目を簡単に表示して更新できるようになりました。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** このオプションは、レコード詳細のインライン編集と、レコードに対する [新規]、[編集]、および [コピー] オプションで使用できます。クイックアクションの [作成] と [更新]、レストランビューのインライン編集、セールスパスフェーズのインライン編集では使用できません。

Mode of transportation  
--None--  
[View all dependencies](#)

関連項目を表示するには、選択リストまたはチェックボックスの下にあるリンクを使用します。必要に応じて項目を更新し、[適用] をクリックし、[保存] をクリックします。

Edit Dependencies

Mode of transportation  
--None--

Class of Transportation ⓘ  
--None--

Seat Position  
--None--

Payment Type  
--None--

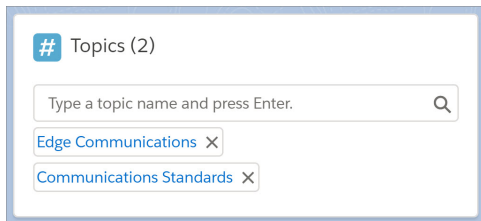
Cancel Apply

## トピックを使用したレコードの整理

トピックを使用すると、レコードをテーマ別に整理できます。トピックコンポーネントをレコードページに追加することで、Lightning Experienceのレコードでトピックを使用できるようになりました。トピックはすべての利用可能な標準オブジェクトで自動的に有効になります。Salesforce Classicのレコードでトピックを使用していた場合、トピックコンポーネントを追加すると、ユーザはLightning Experienceの同じレコードで、以前に追加したトピックを参照できます。

**対象:** この機能は Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の新機能です。

**理由:** ユーザはトピックを使用して、項目に何を表示しているかに関する情報と、顧客からの情報を提供できます。たとえば、サポートエージェントが通信標準に関心がある場合、通信情報が含まれるあらゆるファイルに通信標準のトピックを追加できます。サポートエージェントは、通信標準のテーマを含めたいと考えているケース、取引先責任者、または他のあらゆるレコードに同じトピックを追加できます。レコードページにトピックコンポーネントを追加すると、ユーザはレコードのトピックの参照、追加、削除を容易に行うことができます。



レコードのトピックはトピック詳細ページへのリンクになります。Chatterが有効になっている場合、トピック詳細ページには、同じトピックの投稿とコメントが表示されます。

**方法:** Lightning Experienceのレコードページを作成し、トピックコンポーネントを追加します。トピックコンポーネントは既存のレコードページにも追加できます。タイトル、トピックエディタに表示するプレースホルダテキスト、および [表示件数を増やす] リンクを表示する前に表示するトピック数を設定できます。



組織がレコードでトピックを使用する方法についてさらに理解を深めるには、[トピックの割り当て]を主オブジェクトに設定したカスタムレポートタイプを作成します。

関連トピック:

[Chatter 機能: Lightning Experience の考慮事項](#)

[IdeaExchange: Include Topics in Lightning \(Lightning へのトピックの追加\)](#)

## Lightning コンソールアプリケーション: ガイド付きフロー、API の増加、ワークスペースリンクの共有

Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用してコンソールアプリケーションを強化し、コンソールユーザがビジネスプロセスにしたがって作業できるようにします。また、増加した Lightning コンソール JavaScript API を使用してコンソールアプリケーションをカスタマイズすることもできます。コンソールにリンク共有が導入されました。コンソールユーザはこれを使用して、サブタブを含むワークスペースへのリンクを他のユーザと共有できます。

**メモ:** Lightning コンソールアプリケーションは、まだ Salesforce Classic コンソールアプリケーションと完全に同じ機能を使用できるわけではありません。たとえば、転送通知やマルチモニターサポートなどの Salesforce Classic コンソールアプリケーションの一部の機能は、Lightning コンソールアプリケーションでは使用できません。詳細はこちら。

Salesforce Classic コンソールアプリケーションを Lightning Experience にアップグレードまたは移行することはできません。

## このセクションの内容:

### フローによるコンソールユーザのガイド

Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用することで、強力なコンソールアプリケーションとビジネスプロセスを統合できます。Salesforce の自動化ツールを使用してフローをレコードに関連付けた後、複数ステップのプロセスにコンソールユーザを誘導します。フローに関連付けられているレコードをユーザが開くと、フローがサブタブとして起動します。また、特定のチャンネル (電話やチャットなど) のフローを設定したり、ユーザが最初と最後に実行するフローを指定したりすることもできます。

### 新しい Lightning コンソール JavaScript API を使用したタブ更新の自動化、ナビゲーション項目の変更、ユーティリティ項目のクリックのリスン

Salesforce は Lightning コンソール JavaScript API に、より多くのメソッドを追加するよう取り組んできました。Salesforce コンソールインテグレーションツールキットの JavaScript API で実行できたいくつかの機能が Lightning Experience で使用できるようになりました。Lightning コンソール JavaScript API に新しく追加されたメソッドは、`focusNavigationItem()`、`getNavigationItems()`、`getSelectedNavigationItem()`、`refreshNavigationItem()`、`refreshTab()`、`onUtilityClick()` です。

### ワークスペースと有効なサブタブをアドレスバーからコピーして共有

エージェント、営業担当、および他のコンソールユーザは URL をアドレスバーから直接コピーしてワークスペースと有効なサブタブをすばやく共有できます。

### ワークスペースタブとサブタブでカスタム Lightning コンポーネントを開く

URL が古くなることを心配する必要はなくなりました。`openTab()` と `openSubtab()` を新しい `lightning:isUrlAddressible` コンポーネントと共に使用して、カスタム Lightning コンポーネントをワークスペースで直接開きます。

### コンソールアプリケーションで右サイドバーと左サイドバーを固定

固定領域は、ユーザが Lightning コンソールアプリケーションのサブタブ間を移動しても、表示されたままになっています。前回のリリースでは、固定領域 Lightning ページテンプレートが導入されました。このリリースでは、別のテンプレートが導入されます。[コンソール: 固定された左右のサイドバー] テンプレートを使用して Lightning コンソールアプリケーションをカスタマイズすると、ユーザは両側のサイドバーでレコード情報を参照したり、使用したりできます。

## 関連トピック:

[Salesforce コンソール API](#)

[Lightning Experience と Salesforce モバイルアプリケーションの新しい URL 形式](#)

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience コンソールの制限事項 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## フローによるコンソールユーザのガイド

Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用することで、強力なコンソールアプリケーションとビジネスプロセスを統合できます。Salesforce の自動化ツールを使用してフローをレコードに関連付けた後、複数ステップのプロセスにコンソールユーザを誘導します。フローに関連付けられているレコードをユーザが開くと、フローがサブタブとして起動します。また、特定のチャンネル (電話やチャットなど) のフローを設定したり、ユーザが最初と最後に実行するフローを指定したりすることもできます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

[Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したコンソールでのサービスプロセスの実施\(正式リリース\)](#)

## 新しい Lightning コンソール JavaScript API を使用したタブ更新の自動化、ナビゲーション項目の変更、ユーティリティ項目のクリックのリスン

Salesforce は Lightning コンソール JavaScript API に、より多くのメソッドを追加するよう取り組んできました。Salesforce コンソールインテグレーションツールキットの JavaScript API で実行できたいくつかの機能が Lightning Experience で使用できるようになりました。Lightning コンソール JavaScript API に新しく追加されたメソッドは、`focusNavigationItem()`、`getNavigationItems()`、`getSelectedNavigationItem()`、`refreshNavigationItem()`、`refreshTab()`、`onUtilityClick()` です。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

 **メモ:** これらに対応する Salesforce コンソールインテグレーションツールキットメソッドが Visualforce ページや Web タブから呼び出された場合、それらは Lightning Experience で機能します。

関連トピック:

[Salesforce コンソール API](#)

[Salesforce コンソール開発者ガイド: focusNavigationItem](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce コンソール開発者ガイド: getNavigationItems](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce コンソール開発者ガイド: getSelectedNavigationItem](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce コンソール開発者ガイド: refreshNavigationItem](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce コンソール開発者ガイド: refreshTab](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[Salesforce コンソール開発者ガイド: onUtilityClick](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

## ワークスペースと有効なサブタブをアドレスバーからコピーして共有

エージェント、営業担当、および他のコンソールユーザは URL をアドレスバーから直接コピーしてワークスペースと有効なサブタブをすばやく共有できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

**方法:** ワークスペースとサブタブの情報が含まれる URL の例を次に示します。

```
https://<lightning.domain.com>/lightning/r/<subtab recordId>?ws=/lightning/r/<workspace recordId>
```

関連トピック:

[Lightning Experience と Salesforce モバイルアプリケーションの新しい URL 形式](#)

## ワークスペースタブとサブタブでカスタム Lightning コンポーネントを開く

URL が古くなることを心配する必要はなくなりました。openTab() と openSubtab() を新しい lightning:isUrlAddressible コンポーネントと共に使用して、カスタム Lightning コンポーネントをワークスペースで直接開きます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

**理由:** lightning:isUrlAddressible は force:navigateToComponent を上回る次の利点をコンソールアプリケーションに提供します。

- アプリケーションが将来の URL 形式の変更に対応できます。
- タブのユーザフレンドリーな URL を生成します。
- ユーティリティ、フロート表示、または別のページからコールされた場合でも Lightning コンポーネントをワークスペースタブまたはサブタブとして開きます。
- コンポーネントをワークスペースタブまたはサブタブとしてプログラムで開くことができるかどうかを制御できます。
- uid パラメータを使用して、条件に応じて特定のコンポーネントを複数回開いたり、すでに開いているワークスペースタブまたはサブタブにリダイレクトしたりするためのメカニズムを使用できます。

**方法:** コンポーネントに lightning:isUrlAddressible を実装し、ワークスペースタブまたはサブタブでコンポーネントを開くために使用できる pageReference を生成します。

関連トピック:

[Lightning コンポーネントの新しい Lightning ナビゲーション API](#)

[Using Page References to Open Tabs and Subtabs in Lightning \(ページの参照を使用して Lightning でタブとサブタブを開く\)](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

## コンソールアプリケーションで右サイドバーと左サイドバーを固定

固定領域は、ユーザが Lightning コンソールアプリケーションのサブタブ間を移動しても、表示されたままになっています。前回のリリースでは、固定領域 Lightning ページテンプレートが導入されました。このリリースでは、別のテンプレートが導入されます。[コンソール:固定された左右のサイドバー]テンプレートを使用して Lightning コンソールアプリケーションをカスタマイズすると、ユーザは両側のサイドバーでレコード情報を参照したり、使用したりできます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

[コンソールサイドバーへの固定領域の追加](#)

## Salesforce アンケート: 絞り込まれたデータを収集するオプションの追加

Salesforce アンケートを使用すると、必要なデータのみを収集する洗練されたアンケートをより詳細に制御して作成できます。

このセクションの内容:

### [参加者の回答に基づいたアンケートの質問のカスタマイズ](#)

アンケートのすべての質問を参加者にクリックさせる必要がなくなりました。代わりに、ロジックルールを使用して、以前の質問への回答に基づいて参加者に特定のフォローアップ質問を提示できます。ロジックルールを追加すれば、参加者は無関係の質問に目を通す必要がなくなり、より正確なデータを収集できます。

### [アンケートのコピー](#)

アンケートをコピーしてその質問とロジックを複製できれば、新しく作り直す必要はありません。アンケートをコピーすると、そのコピーはデータベースの元のアンケートに関連付けられません。コピーしたアンケート用に新しいアンケートレコードが作成されます。

### [取引先責任者のアンケートへの招待の表示](#)

取引先責任者レコードを参照するときに、その取引先責任者が招待されているアンケートが表示されるようになりました。以前は、取引先責任者がアンケートに招待されているかどうかを判断できませんでした。その結果、一部の取引先責任者にアンケートへの招待が複数回送信されていました。

### [評価質問のスケールの拡大による詳細な回答の取得](#)

幅広くなった評価スケールを使用して、より詳しい回答を得ます。1～10のスケールの質問を作成できます。以前は、評価質問は1～5でした。

## 参加者の回答に基づいたアンケートの質問のカスタマイズ

アンケートのすべての質問を参加者にクリックさせる必要がなくなりました。代わりに、ロジックルールを使用して、以前の質問への回答に基づいて参加者に特定のフォローアップ質問を提示できます。ロジックルールを追加すれば、参加者は無関係の質問に目を通す必要がなくなり、より正確なデータを収集できます。

**対象:** この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、すべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**対象ユーザー:** ユーザーは Health Cloud へのアクセス権があるか、アンケートを作成する Survey Creator ライセンスが割り当てられている必要があります。

**理由:** たとえば、重要なミーティングの出席者にアンケートを送信するとします。出席者に食事制限があるかどうか知る必要があります。出席者が「はい」と回答した場合、食物アレルギーについて質問するフォローアップを実行できます。出席者が「いいえ」と回答した場合、食物アレルギーに関する質問はスキップできます。

The screenshot displays the 'Survey Question Logic' configuration interface. It features a white modal window with a blue border. At the top, the title 'Survey Question Logic' is centered. Below the title, there are two main sections. The first section, labeled 'If', contains a text input field with the question 'Do you have any dietary restrictions?'. Below this, the 'Answer' section shows a dropdown menu set to 'equals' and another dropdown menu set to 'Yes'. A plus sign icon and the text 'Add Condition' are positioned between the two sections. The second section, labeled 'Go To', contains a dropdown menu with the question 'What are your dietary restrictions?'. At the bottom center of the modal is a blue button labeled 'Create a Logic Rule'. In the bottom right corner, there is a 'Close' button. The background of the page is a blurred view of a survey question titled 'Nut Allergy'.

## アンケートのコピー

アンケートをコピーしてその質問とロジックを複製できれば、新しく作り直す必要はありません。アンケートをコピーすると、そのコピーはデータベースの元のアンケートに関連付けられません。コピーしたアンケート用に新しいアンケートレコードが作成されます。

**対象:**この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、すべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**方法:**アンケートビルダーで [...] をクリックし、[コピーを作成] を選択します。

## 取引先責任者のアンケートへの招待の表示

取引先責任者レコードを参照するときに、その取引先責任者が招待されているアンケートが表示されるようになりました。以前は、取引先責任者がアンケートに招待されているかどうかを判断できませんでした。その結果、一部の取引先責任者にアンケートへの招待が複数回送信されていました。

**対象:**この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、すべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**方法:**まず、取引先責任者レコードのページレイアウトに [アンケートへの招待] 関連リストを追加します。

取引先責任者がアンケートに招待されているかどうかを確認するには、取引先責任者レコードに移動します。取引先責任者が少なくとも 1 つのアンケートに招待されている場合、その取引先責任者レコードの下部に [アンケートへの招待] 関連リストが表示されます。

## 評価質問のスケールの拡大による詳細な回答の取得

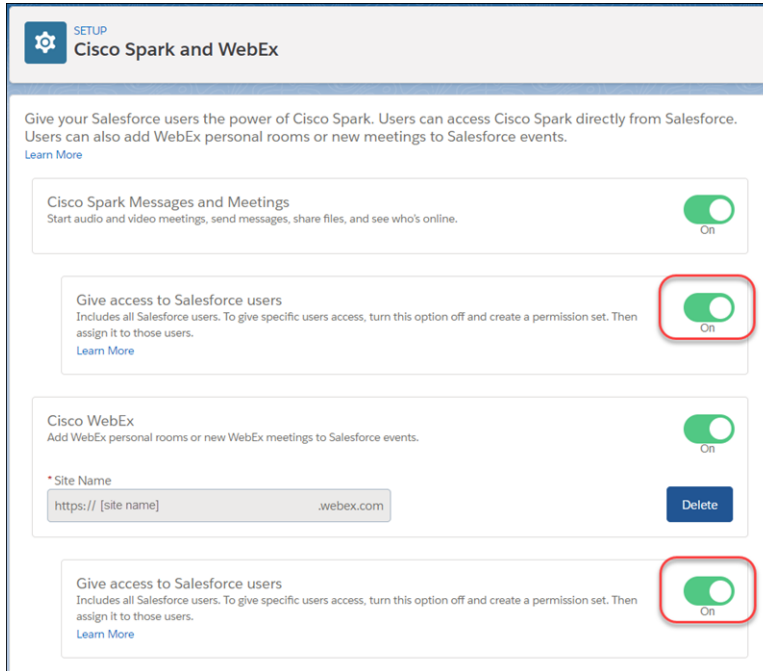
幅広くなった評価スケールを使用して、より詳しい回答を得ます。1～10のスケールの質問を作成できます。以前は、評価質問は 1～5 でした。

**対象:**この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、すべてのバージョンのモバイルアプリケーションのすべてのアンケートに適用されます。

## Cisco Spark および WebEx 権限の容易な割り当て

Cisco Spark for Salesforce または WebEx for Salesforce を有効にした場合、デフォルトでは、すべてのユーザにアクセス権が与えられます。この権限をオフにして、一部のユーザにアクセス権を付与できます。

**対象:**この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。



方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Cisco Spark および WebEx」と入力し、[Cisco Spark および WebEx] を選択します。[Cisco Spark および WebEx] の [設定] ページで、切り替えボタンを使用してユーザーにアクセス権を付与します。

## 送信登録せずに非公開のフィードバックを送信

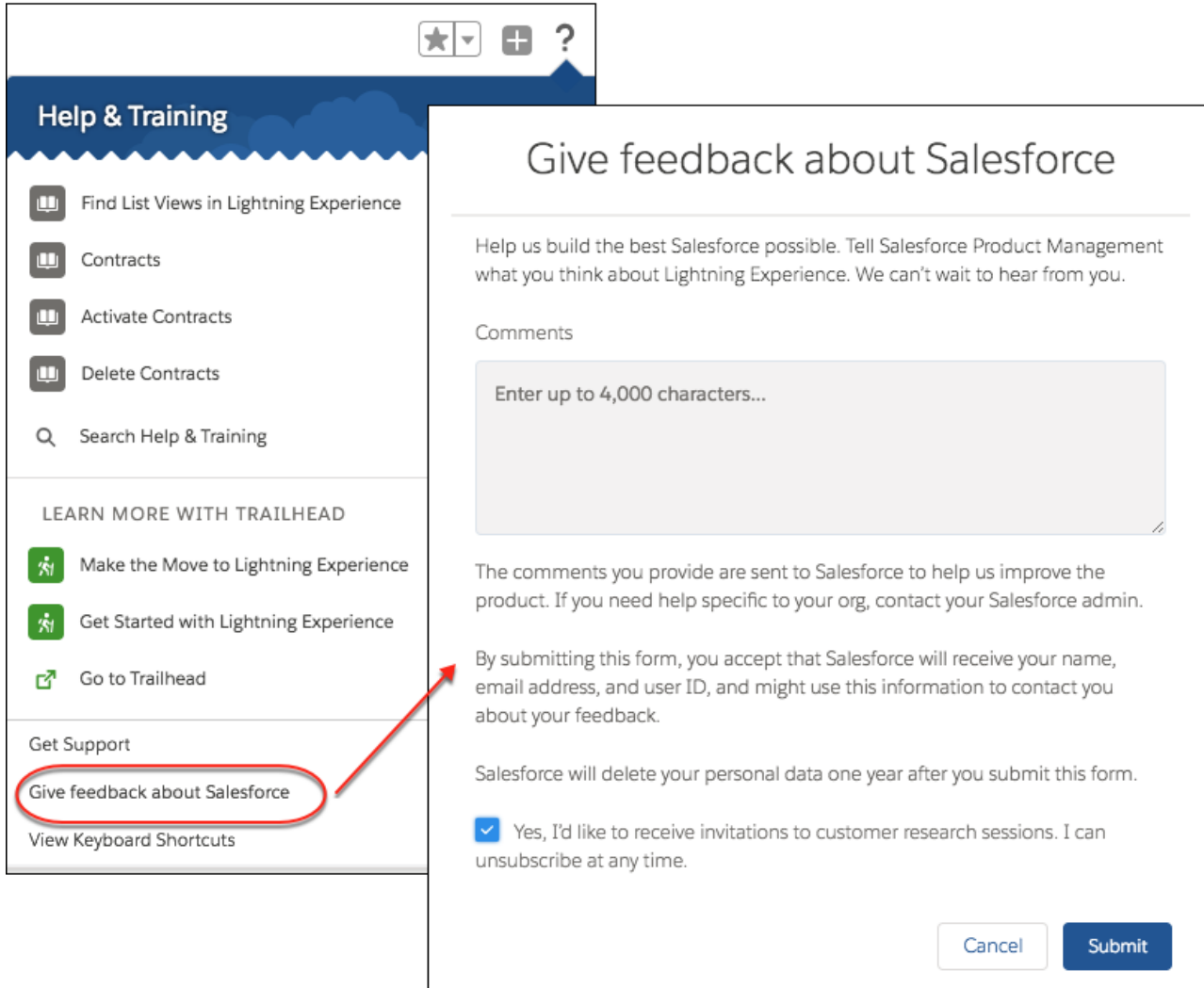
ヘルプメニューのリンクを使用して Lightning Experience に関するフィードバックを送信する場合、連絡先情報の送信を明示的に選択する必要はありません。お客様の情報は常に機密性と安全性が確保され、フィードバックフォーム送信の1年後に削除されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

理由: 以前は、フィードバックを送信するときに、Salesforce にお客様の名前、メールアドレス、およびユーザー ID も送信することを指定できました。フィードバックと共にお客様の基本的な連絡先情報が安全に送信され、1年後に削除されるようになりました。

お客様のコメントや提案は製品の改善に役立ちます。カスタマーリサーチセッションへの招待も希望する場合は、フォームでその選択を行うことができます。





The screenshot shows the Salesforce Help & Training sidebar on the left and a feedback form on the right. The sidebar includes sections for 'Help & Training', 'LEARN MORE WITH TRAILHEAD', and 'Get Support'. The 'Give feedback about Salesforce' link in the 'Get Support' section is circled in red, with a red arrow pointing to the feedback form.

## Give feedback about Salesforce

Help us build the best Salesforce possible. Tell Salesforce Product Management what you think about Lightning Experience. We can't wait to hear from you.

Comments

Enter up to 4,000 characters...

The comments you provide are sent to Salesforce to help us improve the product. If you need help specific to your org, contact your Salesforce admin.

By submitting this form, you accept that Salesforce will receive your name, email address, and user ID, and might use this information to contact you about your feedback.

Salesforce will delete your personal data one year after you submit this form.

Yes, I'd like to receive invitations to customer research sessions. I can unsubscribe at any time.

Cancel Submit

### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのヘルプの検索](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

# Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

このセクションの内容:

## このリリースの Lightning Experience の機能

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

## Summer '18 の Lightning Experience で動作が異なる機能と使用できない機能

Lightning Experience の新機能と機能強化に関する次のトピックを参照して、ビジネスに不可欠な機能がこのリリースで制限されたり、使用できなくなったりしていないか確認してください。

## エディション

使用可能なエディション:  
**Group** Edition、  
**Professional** Edition、  
**Enterprise** Edition、  
**Performance** Edition、  
**Unlimited** Edition、および  
**Developer** Edition

## このリリースの Lightning Experience の機能

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

[Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス](#)

## Salesforce 全体

[データ保護とプライバシーの規制のガイダンスの取得](#)

[Lightning Experience と Salesforce モバイルアプリケーションの新しい URL 形式](#)

[Salesforce Optimizer を使用した実装の評価](#)

[Lightning Experience 設定コンバータを使用した JavaScript ボタンの Lightning 対応の代替法への変換 \(正式リリース\)](#)

[ナビゲーションバーをパーソナライズする時間の短縮](#)

[画像のトリミングと色の上書きでテーマをカスタマイズ](#)

[詳細な検索条件を使用したリストビューの合理化](#)

[検索条件ロジックを使用しているときのインライン編集](#)

[レコード詳細ページの編集集中に項目の連動関係を表示](#)

[トピックを使用したレコードの整理](#)

[Lightning コンソールアプリケーション: ガイド付きフロー、API の増加、ワークスペースリンクの共有](#)

[Cisco Spark および WebEx 権限の容易な割り当て](#)

## 送信登録せずに非公開のフィードバックを送信

**Lightning Experience の採用: 新しい Salesforce の認知および採用の手段の増加**

**ユーザの Lightning Experience 採用を促進**

Lightning Experience の方がよい理由の発見

**準備状況レポートを Lightning Experience へのガイドにする**

Lightning **利用状況アプリケーション**でユーザの活動に関するインサイトを取得

Adoption Manager **メールの無効化**

一部の組織ではユーザによる使用は Lightning Experience のみに限定

## 検索

どこからでも簡単に目的のオブジェクトを検索

標準シノニムグループによる時間の節約

さらに多くのオブジェクトでの検索結果の絞り込み

検索のサポートの強化

**Salesforce アンケート**: 絞り込まれたデータを収集するオプションの追加

参加者の回答に基づいたアンケートの質問のカスタマイズ

アンケートのコピー

取引先責任者のアンケートへの招待の表示

評価質問のスケールの拡大による詳細な回答の取得

## Lightning Essentials

### Sales Essentials

新しい設定アプリケーションで Salesforce のカスタマイズ

チームメイトを招待する機能を使用した Salesforce への同僚の追加

カスタムセールスフェーズを使用した生産性の向上

重複レコードの排除

### Service Essentials

Service Essentials でのフローとプロセスの作成

新しいウォークスルーで知る Service Cloud Mobile の概要

## セールス

Sales Cloud Einstein: 売上予測の正式リリース、レポートの追加、インサイトの改善

中核的なセールス機能

キャンペーン: キャンペーンメンバーの共有、取引先ベースのマーケティング、その他の機能強化

コラボレーション売上予測: 詳細な売上予測と売上予測オプション

リード: 取引先責任者-to-複数取引先での取引開始、リードマージの安全な制御

商品: Lightning Experience でのスケジュールの操作

取引先: Lightning Experience で使用可能な個人取引先の設定、カスタムクイックアクション、新しいパッケージ検証

パス: 取引先責任者のパス、連動選択リストのサポート

### 生産性機能

Lightning Dialer: 通話監視、複数のボイスメール、ローカルプレゼンス

Einstein 活動キャプチャ: 提供範囲の拡大、メールインサイト、改善された活動タイムライン

活動: ToDo リストビュー、ToDo の一括作成、定義済みの件名、その他

メール操作: キャンペーンのリストメール、取引先責任者とリードのキャンペーンによる絞り込み、メール添付ファイルの管理

メールテンプレート: メールテンプレート管理の簡略化、新しい差し込み項目言語、カスタムHTMLメールテンプレート

Kanban: 連動選択リストの更新

カレンダー: Lightning Experience での操作性の改善

セールスコンソール: 固定サイドバー、Lightning コンソール API など

Inbox: メールインサイトおよび活動ダッシュボードへの追加アクセス

### データ品質

重複管理: カスタムオブジェクトでの重複ジョブの実行

Lightning Data: より明確な表示ラベル、項目の対応付けの制御、レビュー済み状況、通貨の換算

### Lightning for Gmail

改良されたデザインで必要な機能に焦点を絞る

選択したレコードへのメールの記録

### Microsoft® インテグレーション

Lightning for Outlook: 焦点を絞ったデザインとメールの記録操作の改善

Salesforce for Outlook: 最新バージョンおよび最も強力な機能へのアップグレード

### Salesforce CPQ と Salesforce Billing

Salesforce CPQ: 記帳レポート、迅速な注文作成、拡張された見積品目エディタのナビゲーション

Salesforce Billing: 新しい収益契約

### Pardot

Pardot for Lightning の 1 つのプラットフォームでの営業とマーケティングの連携(ベータ)

Salesforce ファイルを使用した Engage メールのパersonナライズ

Web サイトの値がない取引先とリードの一致

取引先に一致するリードの偽陽性の減少

### Sales Cloud のその他の変更

Lightning Experience の取引先リストビューをテリトリーで絞り込み

## サービス

Einstein ボットによる解決: ボットを使用したサービスチームの生産性の向上 (正式リリース)

### ケース管理

サービスコンソール: Lightning のガイド付きエンゲージメント、ケースチーム、メールの機能強化

ケース: ケースチーム、メールドラフト、Apex メール項目など

オムニチャネル: Lightning Experience の作業項目の転送オプションの増加

生産性ツール: マクロとクイックテキストの軽微な改善

エンタイトルメント管理: エージェントが誤ってマイルストーンを完了としてマークすることの防止

### フィールドサービス

#### 作業種別へのナレッジ記事の追加

Field Service のパスを使用したチームのガイド

メンテナンス計画の作業指示の自動生成

取引先、取引先責任者、および場所に関連するメンテナンス計画の表示

作業指示とサービス予定に保存されたデータの Shield による暗号化

フィールドサービスに対する条件ベースの共有ルールの作成

サービスレポートの関連リストの絞り込み (正式リリース)

Lightning コミュニティでのフィールドサービスの管理

より大きなサービステリトリー階層の作成

タイムシートの通貨コードの編集

Snap-In 予定管理: 顧客が予定を予約、変更、キャンセルできるようにする (ベータ)

Field Service 管理パッケージ: リソーススケジュールの最適化、ガントチャートのライブ更新、カスタムリスト検索条件

モバイル用 Field Service: Android 4.0

### チャネル

Live Agent: Lightning Experience でのチャットの改善

Snap-In チャット: チャットの改善とバージョン 5.0 コードスニペット

モバイルアプリケーション用 Snap-in: 機能性および迅速性が高く、無駄のないアプリケーションの作成

CTI: フローによるコールセンターエージェントのガイド

### ナレッジ

Lightning Experience での翻訳申請

翻訳記事とマスタ記事の横並び比較

翻訳での作成アクションの使用

リッチテキスト項目へのスマートリンクの挿入

言語スイッチャコンポーネントを使用した言語の即時の切り替え

Lightning Knowledge 検索結果における記事のフロート表示テキスト

Service Essentials への Lightning Knowledge の追加

Lightning Knowledge 移行ツールを使用した Lightning Knowledge への移行 (ベータ)

その他の変更

サービスの設定のデザインの変更

## 分析

レポートとダッシュボード

レポート: Lightning レポートビルダー (正式リリース)、改善された実行ページ (ベータ)、Lightning 結合レポート (ベータ)

ダッシュボード: Lightning テーブルの改善、レポートのグラフ設定の使用、ダッシュボードへのレポートの追加

フォルダ: サブフォルダを使用した整理、レポートおよびダッシュボードリストのカスタマイズ

登録: ダッシュボードの登録の拡張

**Einstein Analytics**

Analytics オンボーディング、設定、パーソナライズ、コラボレーション: 学習リソースの増加、通知とアノテーションの機能強化

Analytics アプリケーションの構築: 条件付き書式、地図のカスタマイズ、ダッシュボードページ

Analytics データインテグレーション: 新しいコネクタ、接続による複製のスケジュール、レシピへの行の追加

Analytics 事前作成済みアプリケーション: 新しい Analytics テンプレート、B2B Marketing Analytics の取引先ベースのマーケティング

Salesforce オブジェクトでの Einstein Discovery のおすすめの表示 (正式リリース)

## コミュニティ

コミュニティビルダー

Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新

カスタマーサービス (Napili) の新しい名前

テーマを変更してコミュニティのデザインをすばやく更新

順次表示による顧客のコミュニティ環境の改善

Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの構築および配布

利用者の削除

ナビゲーションメニューとタイルメニューの変更をドラフトとして保存

CMS Connect JSON を使用したコミュニティへの CMS コンテンツの表示 (正式リリース)

CMS Connect JSON 用の指定ログイン情報の設定 (正式リリース)

## SEO の改善によるコンテンツ検出の向上

トピックの詳細および検索結果の記事タイトルの <h1> タグを上書きしている場合の <h3> への更新  
一部の Lightning コミュニティコンポーネントの <uibutton> の更新

## コミュニティビルダーコンポーネント

Lightning コミュニティでのフィールドサービスデータへのアクセス

コミュニティメンバーへの推奨アクションと提案 (Pilot)

一時停止中のフローの表示と再開をユーザに許可

コミュニティでの活動タイムラインの使用

コミュニティのカレンダーの柔軟性向上

言語ピッカーの名前変更、およびその他の改善

カスタマーサポートへの連絡ボタンを使用したコミュニティユーザによるケースの作成

ケースデフレクションコンポーネントと【カスタマーサポートへの連絡】フォームコンポーネントでの容易なトピックの選択、[ファイルのアップロード] ボタンの表示ラベルのカスタマイズ、その他

【カスタマーサポートへの連絡】の件名行を監視して顧客の懸念事項を追跡

顧客によるコミュニティからの予定の予約 (ベータ)

Snap-In チャットコンポーネントの活用

ユーザ設定の [接続済みソース] タブの非表示

Winter '19 での連動選択リストの更新

## セキュリティ

取引先ロールを最適化してパフォーマンスの向上と組織の拡張を図る (正式リリース)

パスワードの代わりに ID 検証方法で容易になったコミュニティユーザのログイン

お知らせメールのコミュニティリンクの有効期限

24 時間後に期限切れになる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンク

パスワードを忘れた場合のメールに記載されたリンクをすぐに期限切れにしない

ユーザが確認および管理できるようになった検証方法

ID トークンの発行者 URL から削除された末尾のスラッシュ

HTTP または HTTPS が必須になった認証プロバイダエンドポイント

ID トークンの有効期間と利用者の設定

Salesforce ユーザとコミュニティユーザで異なるログインポリシーの設定 (ベータ)

コミュニティの外部ユーザの ID を検証するオプションの名前変更

ヘッドマークアップが有効であることの確認

コミュニティエンゲージメント

レコグニションバッジでコミュニティメンバーを祝福 (ベータ)

マーケティングジャーニーを使用してメンバーの質問および回答活動に褒賞を与える

一括投稿を使用して複数のメンバーに一度に連絡  
更新されたエンゲージメントキューページの外観

#### Lightning コミュニティの Chatter

コミュニティでの会話の完了

フィードでの投稿の固定 (正式リリース)

Salesforce 内でのコミュニティストリームの確認 (正式リリース)

記事のトピックの非表示

モバイルのプロファイルにメッセージボタンを新しく表示

メールへのリッチパブリッシャーアプリケーションの表示

プラス投票のメール通知の取得

パートナーコミュニティ

外部の代理管理者によるチームの管理 (ベータ)

代理管理者によるブランドアセットの管理と共有 (ベータ)

キャンペーンマーケットプレイスでより詳細な情報を提供 (正式リリース)

市場開発資金の機能強化

チャンネルプログラムまたはレベルに基づいた利用者のターゲティング

データをより安全な方法でチャンネルマネージャおよびパートナーユーザと共有

コミュニティのファイル

ライブラリの管理

ライブラリメンバーシップの管理 (正式リリース)

コミュニティのライブラリの外観のカスタマイズ

ファイル詳細ページによるコミュニティファイルの機能強化

コミュニティでの Quip 文書および Quip シートのプレビュー

コミュニティのその他の変更

コミュニティメンバーによるナレッジ記事の作成

ロックアウトメールテンプレートのカスタマイズ

Community 360 を使用してサポートの電話での顧客の雰囲気の評価 (パイロット)

Community 360 でのより多くのオブジェクトの活動の表示、レコード検索条件の追加

コミュニティ管理パッケージからのコミュニティのケースデフレクションダッシュボードの削除

「セルフサービスユーザの編集」権限を「カスタマーユーザの管理」に名前変更

Salesforce サイトおよびポータルでのトピックの保護 (重要な更新)

## Chatter

ユーザプロフィールおよびフィード



自分のプロフィールに Trailhead バッジを表示  
投稿またはコメントから最も関連性の高いレコードへのリンク  
フィードでの投稿の固定 (正式リリース)  
コンテキストを切り替えずにコミュニティストリームを確認 (正式リリース)  
Chatter のその他の変更  
空状態メッセージの内容の追加

## Files

新しい方法でのライブラリ管理  
[ファイル] ホームからのライブラリメンバーシップの管理 (正式リリース)  
[最近のファイル] ドロップダウンを使用した迅速なファイルの検索  
ファイル詳細ページからのファイルトピックの管理  
スキャンされた PDF のプレビューを使用した問題の解決  
Quip ファイルへのアクセス  
Quip ドキュメントおよびシートのプレビュー  
ファイルのその他の変更  
ウィークリーデータのエクスポートへのファイルリンクの追加  
SharePoint (社内) 用 Files Connect の廃止

## Financial Services Cloud

個人取引先を使用したユーザエクスペリエンスの向上  
グループリレーションビューのカスタマイズ  
プライマリグループへの商談の積み上げ集計  
必要に応じたデータ読み込みの高速化  
Apex を使用したルックアップによる積み上げ集計ルール再計算の自動化  
Salesforce Inbox での生産性の向上  
Salesforce Pardot を使用したよりスマートなマーケティングの自動化  
Teller Access (窓口係アクセス) 権限セットによる窓口係の稼働  
活動と複数の取引先責任者の関連付け  
アクセシビリティの機能強化  
すべての Financial Services Cloud ユーザが必要な権限セットライセンス

## カスタマイズ

Einstein 予測ビルダー: コードなしのカスタム AI の使用 (ベータ)

Einstein 次善アクション: 戦略を使用した提案アクションとオファー (パイロット)

## 外部サービス

外部サービスの作成 (正式リリース)

外部サービスのユーザインターフェースの改善

外部サービスの編集

外部サービススキーマを使用した取得文字列の増加

外部サービスフローで処理される応答コードの増加

データ保護とプライバシー

レコードのマージ時にどのデータプライバシーレコードを保持するのかを決定

個人オブジェクトでの標準オブジェクト機能のサポート

ユーザの要求に応じて個人データを Salesforce で使用不可に

## Lightning フロー

フローおよびフロー設計: より多くの方法で Lightning コンポーネントを使用、フェーズの正式リリース、コレクションの代入演算子の増加

フローの配布: サブタブとしてのフローの起動、推奨フローの表示

プロセスおよびフローのデバッグ: 実行時のデバッグの詳細、エラーメールの改善、ログ行の増加

プロセスおよびフローランタイム: ユーザに表示されるエラーの改善、エラーとロールバックを回避する方法の追加

## Lightning アプリケーションビルダー

破損したコンポーネントによる Lightning ページの破損の解消

コンソールサイドバーへの固定領域の追加

バッジ Lightning コンポーネントを使用した獲得済み Trailhead バッジの表示

メールアプリケーションペインの新しいコンポーネント

Lightning ユーザへの提案アクションとオファー (パイロット)

Lightning コンポーネントを使用した Visualforce ページでの CSRF 保護

## 項目

時間データ型を使用した時間の追跡 (正式リリース)

必要な場所での Einstein 予測の表示 (ベータ)

## Salesforce Connect

カスタム HTTP ヘッダーを使用して、より多くのコンテキスト情報を外部システムに渡す

トリガを使用して、OData 4.0 アダプタを使用する外部オブジェクトのデータ変更を追跡 (ベータ)

## 開発者のための関連更新

### 一般設定

Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの作成

承認申請メール通知の送信者の上書き

アクションの選択リスト項目の定義済み値の設定での数式の使用

トランスレーションワークベンチを使用して翻訳されたカスタムクイックアクションの成功メッセージの表示

Standard Permission Set のオブジェクト詳細の表示

更新された通貨コード

ペルーの通貨形式の更新

メタデータ API を使用したカスタム設定リストビューの取得

ページレイアウトでアクションとして使用されるカスタムボタンの削除禁止

### AppExchange

新しいフィルタを使用した AppExchange ソリューションのすばやい検索

AppExchange プロファイルと設定の管理

## セキュリティと ID

### 認証と ID

パスワードなしのログインで容易になった外部ユーザのコミュニティへのログイン

Apex を使用したパスワードなしのログインと検証方法の実装

ユーザの電話番号入力に柔軟に対応

ユーザが確認および管理できるようになった検証方法

Salesforce ユーザとコミュニティユーザで異なるログインポリシーの設定 (ベータ)

内部コミュニティユーザのログインの追跡

ID トークンの有効期間と利用者の設定

OAuth 2.0 アセットトークンフローのアセットトークンへの対象ユーザ要求の追加

お知らせメールのリンクの有効期限設定

パスワードを忘れた場合のメールに記載されたリンクをすぐに期限切れにしない

24 時間後に期限切れになる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンク

ID トークンの発行者 URL から削除された末尾のスラッシュ

HTTP または HTTPS が必須になった認証プロバイダエンドポイント

OAuth 1.x のコールバック URL の登録

ユーザがログアウトしたときにカスタムアプリケーションロジックをトリガ (ベータ)

軽量な、連絡先のない外部 ID ユーザの作成 (ベータ)

外部 ID ユーザのコミュニティセッションの延長による顧客エンゲージメントの向上 (ベータ)

コミュニティの外部ユーザの ID を検証するオプションの名前変更

### Salesforce Shield

Shield Platform Encryption: 活動データ、カスタムオブジェクト名、絞り込みを保持する暗号化、鍵管理オプションの追加

イベント監視: 1時間ごとのイベントログ、継続コールアウトサマリーイベント種別、Lightning イベント種別のデータの追加

状態チェック

状態チェックのグレードによるセキュリティの評価

状態チェックの新しいセキュリティ設定および変更されたセキュリティ設定

その他の変更

必要に応じた私のドメインの名前の変更

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新)

Salesforce での外部ホスト名の値の指定

## Salesforce IoT

本番で有効化する前にトラッカーを使用してオーケストレーションをトラブルシューティング

活動ログを使用したオーケストレーションの継続的なパフォーマンスの監視

## 開発

Lightning コンポーネント: ユーザレベルのデバッグモード、新しいナビゲーション API、コンポーネントライブラリの正規リリース

Visualforce: Lightning Experience のスタイル設定とセキュリティ強化

Apex

API

VS Code 向け Salesforce 拡張機能: 新しいデバッガ

Salesforce CLI: プラグイン開発サポート、合理化されたパッケージ化コマンド、拡張されたデバッグログ

スクラッチ組織: 使用可能な新機能

### Einstein Platform Services

無料の予測が 2 倍に増加

Einstein プラットフォームサービスの非公開鍵のリセット

更新トークンを使用したアクセストークンの生成

Einstein Vision: 画像データセットと画像モデルの削除

Einstein Language: テキストデータセットとテキストモデルの削除

メタデータ

メタデータカバー率を一目で確認

カスタムメタデータ型: 複数の入力規則の同時更新、メタデータ API を使用したカスタムメタデータ型リストビューの取得

新しい変更セットコンポーネント

変更セットが使用できなくなるタイミング

## メタデータ API

### デバッグ

Visual Studio Code の新しいデバッガを使用したバグの排除

更新されたログ行を使用した効果的なデバッグログの解析

ログ制限の変更によるデバッグログの保存容量の増加

新しいログ行によるフローとプロセスのトラブルシューティング

### エンタープライズメッセージング

Apex でのプロセスおよびフローイベント登録者のテスト

オンデマンドでのテストイベントの配信

Apex テストでの登録者情報へのアクセス

再試行回数が多すぎて Apex トリガが一時停止されている場合に通知を受信

プラットフォームイベントの DateTime 項目でのミリ秒数の取得

### パッケージ化

パッケージの作成と管理の簡易化 (ベータ)

パッケージインストール時に有効なレコードが削除されないように拡張検証で予防

ロック済みパッケージのパイロットの一時停止

### ISVforce

Lightning Bolt ソリューションを使用した迅速なビジネスソリューションの稼働開始

公開コンソールでのマーケティングリソースの送信

## ドキュメントコンテンツ

動画を見る (英語のみ)

## Summer '18 の Lightning Experience で動作が異なる機能と使用できない機能

Lightning Experience の新機能と機能強化に関する次のトピックを参照して、ビジネスに不可欠な機能がこのリリースで制限されたり、使用できなくなったりしていないか確認してください。

- ☑ **メモ:** Lightning Experience で使用できない機能とその制限事項の完全なリストは、Salesforce ヘルプの「Lightning Experience と Salesforce Classic 間の機能の違い」を参照してください。Salesforce ヘルプにおける、使用できない機能と制限事項の完全なリストはまもなく更新されます。

このセクションの内容:

**セールス機能:** Lightning Experience の考慮事項

**生産性の機能:** Lightning Experience の考慮事項

**Chatter 機能:** Lightning Experience の考慮事項

## セールス機能: Lightning Experience の考慮事項

ここでは、Lightning Experience で営業チームに発生する可能性がある問題について説明します。

### 特定の取引先チームメンバーへの参照のみアクセス権

ロール階層で取引所有者よりも上位にあるユーザは、チームメンバーを取引先に追加できますが、参照のみアクセス権に制限されます。この制限は、それらのユーザが同じ取引先の子取引先責任者も所有している場合に適用されます。

## 生産性の機能: Lightning Experience の考慮事項

Lightning Experience で Salesforce 生産性ツールを使用するときに発生する可能性がある問題について説明します。新しいユーザインターフェースでは、一部の Salesforce 機能を使用できません。また、一部の機能は Salesforce Classic と同等ではありません。

### 活動: 行動とカレンダーのみ

#### ドラッグによる行動の編集

ユーザは、カレンダーに追加した行動とその他のレコードをドラッグして、Lightning Experience カレンダー上で編集できます。ただし、ユーザが取引先責任者やリードをカレンダーにドラッグして、その人物とのミーティングを作成することはできません。ユーザが終日の行動を時間枠にドラッグして、開始時刻と終了時刻を追加することもできません(その逆も不可)。Lightning Experience カレンダーでは、ユーザに Salesforce Classic で作成した定期的な行動が表示されますが、それらの行動をドラッグして編集することはできません。Lightning Experience でカレンダーのドラッグ操作を有効にするのにシステム管理者による設定は必要ありません。

#### [新規行動] ボタンの上書き

カスタム Lightning コンポーネントを作成して、カスタマイズしたアクションでカレンダーの [新規行動] ボタンを上書きできます。Lightning コンポーネントには標準の行動項目のみを含めることができ、Lightning コンポーネントを Salesforce アプリケーションの [新規行動] ボタンの上書きに使用することはできません。ユーザがカレンダーの時間枠をクリックする場合、ユーザには引き続き標準の行動アクションが表示されます。

## Chatter 機能: Lightning Experience の考慮事項

ここでは、Lightning Experience でユーザが Chatter または Salesforce コミュニティを使用してコラボレーションするときに想定される問題について説明します。一部のコラボレーション機能はサポートされていません。また、一部の機能は Salesforce Classic と同等ではありません。

### トピック

- トピックをレコードに割り当ててはできますが、トピック詳細ページに [レコード] タブはありません。トピックを使用してリストビューを絞り込むことはできません。
- Lightning Experience のオブジェクトにトピックの [設定] ページはありません。

## Essentials: 中小企業向けのセールスとサービス

---

小規模ビジネスを新たな高さに引き上げる準備はできていますか? Salesforce Lightning Essentials を使用すれば、企業のセールスおよびサービスのニーズを1つの場所で容易に管理できます。Lightning をすばやく拡張し、セールスとサービスの Lightning Essentials を使用して顧客の成功をサポートします。

このセクションの内容:

### Sales Cloud Essentials: 設定の改善、ユーザの追加、カスタムフェーズ

チームメイトの招待と基本営業設定アプリケーションで、Sales Cloud Lightning Essentials の使用開始がいつでも簡単になります。また、営業担当が販売を開始する準備が整ったら、さまざまな業界固有のセールスフェーズからビジネスニーズに合うものを選択して迅速に販売できるようにします。

### Service Essentials: プロセスとフローサポート、新しいウォークスルー

Service Essentials でフローとプロセスを使用します。また、新しい Service Cloud Mobile アプリケーションのツアーを開始して、サポートチームが居場所を問わずケースに対応できるようにする方法を確認します。

## Sales Cloud Essentials: 設定の改善、ユーザの追加、カスタムフェーズ

チームメイトの招待と基本営業設定アプリケーションで、Sales Cloud Lightning Essentials の使用開始がいつでも簡単になります。また、営業担当が販売を開始する準備が整ったら、さまざまな業界固有のセールスフェーズからビジネスニーズに合うものを選択して迅速に販売できるようにします。

このセクションの内容:

### 新しい設定アプリケーションで Salesforce のカスタマイズ

わかりやすい進行状況バーを利用することで、従来よりも簡単かつ迅速に Salesforce をカスタマイズし、設定できます。

### チームメイトを招待する機能を使用した Salesforce への同僚の追加

チームメイトを招待する機能を使用して、簡単に同僚を Sales Cloud Lightning Essentials に追加できます。そうすると、会社全体がすぐに稼働できます。

### カスタムセールスフェーズを使用した生産性の向上

営業担当はカスタムフェーズを使用して、商談成立、投資の確保、およびプロジェクトの早期終了に必要な情報を得ることができます。


### 重複レコードの排除

Salesforce でレコード管理を行いながら営業担当が継続して販売できるようにします。Sales Cloud Lightning Essentials で重複管理を使用できるようになり、自動的にデータをクリーンな状態に保つことができます。重複レコードの排除により、チームはセールスデータが最新であることを、会社は顧客データベースが正確であることを確信できます。

## 新しい設定アプリケーションで Salesforce のカスタマイズ

わかりやすい進行状況バーを利用することで、従来よりも簡単かつ迅速に Salesforce をカスタマイズし、設定できます。


対象: この変更は Sales Cloud Lightning Essentials に適用されます。

方法: Lightning Essentials ホームページから設定アプリケーションにアクセスします。  をクリックし、[基本営業設定] を選択します。

## チームメイトを招待する機能を使用した Salesforce への同僚の追加

チームメイトを招待する機能を使用して、簡単に同僚を Sales Cloud Lightning Essentials に追加できます。そうすると、会社全体がすぐに稼働できます。


対象: この変更は Sales Cloud Lightning Essentials に適用されます。

方法: Lightning Essentials ホームページから  をクリックし、[基本営業設定] を選択します。次に、[推奨設定] で [チームメイトとコラボレーションする] をクリックします。営業担当の情報を追加したら終了です。

## カスタムセールスフェーズを使用した生産性の向上

営業担当はカスタムフェーズを使用して、商談成立、投資の確保、およびプロジェクトの早期終了に必要な情報を得ることができます。


対象: この変更は Sales Cloud Lightning Essentials に適用されます。

方法:  をクリックし、[基本営業設定] を選択します。[推奨設定] で [セールスパスを計画する] をクリックします。

理由: カスタムフェーズでは、商談を迅速に成立させたり、次のプロジェクトを無事に完了させたりするためのジャストインタイムのガイダンスを営業担当に提供できます。テンプレートを選択するか、独自のテンプレートを作成して、一貫性のあるセールスエクスペリエンスを顧客に提供し、営業担当が成功に必要な情報を取得できるようにします。

Customize Your Stages

Stage Name	Stage Description	Status	Probability
New	You've converted that lead and set up your first meeting.	Open Won Lost	10%
Needs Analysis	After you've had a great first meeting, you've got requirem	Open Won Lost	20%
Proposal Creation	You're ready to finalize a proposal. Remember to update!	Open Won Lost	30%
Proposal Presentation	Get your customer to commit or ask for clarifications.	Open Won Lost	50%
Negotiation	Reach out to your legal team or draw up a standard contr	Open Won Lost	90%
Closed Won	That PO is approved and you've officially crushed it.	Open Won Lost	100%

Back  Next

## 重複レコードの排除

Salesforce でレコード管理を行いながら営業担当が継続して販売できるようにします。Sales Cloud Lightning Essentials で重複管理を使用できるようになり、自動的にデータをクリーンな状態に保つことができます。重複レコードの排除により、チームはセールスデータが最新であることを、会社は顧客データベースが正確であることを確信できます。

対象: この変更は Sales Cloud Lightning Essentials に適用されます。



理由: 重複管理により、重複する取引先責任者、取引先、リードが1つのレコードに自動的にマージされます。

方法: 重複管理は、一致ルールの標準セットを備えた Sales Cloud Lightning Essentials ですべての営業担当が使用できます。その後、重複レコードを作成または編集するときに営業担当にアラートが通知されます。必要に応じて、ビジネスニーズに合わせてルールをカスタマイズできます。

関連トピック:

[https://help.salesforce.com/articleView?id=managing\\_duplicates\\_overview.htm&type=5](https://help.salesforce.com/articleView?id=managing_duplicates_overview.htm&type=5)

## Service Essentials: プロセスとフローサポート、新しいウォークスルー

Service Essentials でフローとプロセスを使用します。また、新しい Service Cloud Mobile アプリケーションのツアーを開始して、サポートチームが居場所を問わずケースに対応できるようにする方法を確認します。

このセクションの内容:

[Service Essentials でのフローとプロセスの作成](#)

最大5つの有効なフローと5つの有効なプロセスを使用して、サービスプロセスを自動化します。なお、フローは、Essential でサポートされていない Apex やコミュニティなどの他の機能と統合できます。

[新しいウォークスルーで知る Service Cloud Mobile の概要](#)

Service Cloud Mobile が提供する内容に関して、ウォークスルーによるツアーを開始します。チームは、担当するケースを Android および iOS のモバイルデバイスで処理できます。

### Service Essentials でのフローとプロセスの作成

最大5つの有効なフローと5つの有効なプロセスを使用して、サービスプロセスを自動化します。なお、フローは、Essential でサポートされていない Apex やコミュニティなどの他の機能と統合できます。

### 新しいウォークスルーで知る Service Cloud Mobile の概要

Service Cloud Mobile が提供する内容に関して、ウォークスルーによるツアーを開始します。チームは、担当するケースを Android および iOS のモバイルデバイスで処理できます。

関連トピック:

[Service Cloud Mobile: 外出先でのケース管理 \(ベータ\)](#)

## Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化

---

世界で最もスマートな CRM をユーザが最大限活用できるように、多くの標準 AI およびカスタム AI 機能が提供されています。ビジネスで次に起きることを予測し、実行する次の手順を把握するのに役立つ Einstein の新機能を以下に示します。

## セールス

### Einstein 売上予測: 売上予測の改善 (正式リリース)

Einstein 売上予測の準備が本格的に整いました。過去のデータに基づいて営業チームの商談に関する予測が行われ、売上予測の精度が改善されます。Lightning Experience では、重要業績評価指標 (KPI)、有用な売上予測グラフ、および最新の総計値が 1 日に数回更新されて、表示されます。Salesforce Classic では、レポートでチームの売上予測を把握します。

### Einstein 商談スコアリング: 商談スコアに基づくレポートの作成

商談のカスタムレポートタイプを作成するときに [スコア] 項目を使用できるようになりました。たとえば、スコアによって商談をバケット化するレポートタイプを作成し、商談金額に加重を設定し、商談が成立する可能性に注文がどのように影響するのかを表示できます。

### Einstein 自動取引先責任者: すべての提案を 1 か所で確認

営業担当は、Einstein によって Salesforce に追加するように提案されたすべての取引先責任者と取引先責任者の役割を一目で確認できます。新しいリストビューには、Einstein の検出結果と、提案が承諾、却下、または無視されたかが表示されます。営業担当はリストビューから直接アクションを実行することもできます。

### Einstein 活動キャプチャ: メールに関するインサイトの取得

Einstein 活動キャプチャによって Salesforce レコードに関連付けられたメールには、可能な場合はインサイトが含まれるようになりました。活動タイムラインとメールの詳細に表示されるメールインサイトは、営業担当がメールで顧客とやりとりするときに活用できます。Einstein 活動キャプチャユーザの活動タイムラインも改善され、データの収集および処理方法を詳細に制御できます。

### Einstein インサイト: 接続済みメールなしでのインサイト

営業担当は、メールアカウントを Salesforce に接続せずに、Einstein 活動キャプチャを使用して、さらに多くの取引先および商談インサイトを表示できるようになりました。競合他社がメンションされたかどうか、主な取引先責任者がいなくなるかどうかなど、商談の主要なインサイトを従来よりも簡単に把握できます。

### 無関係な項目を無視することによるリードスコアリングモデルの最適化

ビジネスでリード品質に影響しないリード項目を使用している場合、Einstein にそれらの項目を無視するように指示し、スコアリングモデルをいっそうシンプルに、高速に、そしてスマートにします。一部のビジネスは、リードの取引開始の可能性に影響しない項目を使用しています。たとえば、リードの取引が開始されなかった理由を示す項目があるとします。Einstein にそれらの項目を無視するように指示すれば、リードスコアがより正確になります。

### Einstein リードスコアリング設定時のさらに詳しいガイダンス

ビジネスにとって適切な設定を理解しやすくなりました。各設定の選択時に、その決定に関する詳細情報が表示されます。

### Sales Cloud Einstein での Analytics アプリケーションの表示および編集

Sales Cloud Einstein 権限セットライセンスに「Analytics データフローの編集」権限が追加されました。この権限を使用して、ユーザは Einstein Analytics アプリケーションでのデータフローの表示、アプリケーションの作成と編集、既存のアプリケーションのトラブルシューティングを行うことができます。

### Sandbox でのインサイトの表示

取引先インサイトと商談インサイトは Sandbox 環境で使用することができ、どれほど簡単にインサイトを設定できるのか、またインサイトが営業チームにどのように表示されるのかを確認できます。

## サービス

### Einstein ボットによる解決: ボットを使用したサービスチームの生産性の向上 (正式リリース)

Einstein ボットを使用して、サービスエージェントが作業しやすくなります。よく発生する定型的な顧客の要求をボットで処理できます。これによって、エージェントは、人間が処理することが望ましい複雑な課題に時間を割けるようになります。顧客からの注文状況の単純な確認、パスワードのリセット、店舗の営業時間や所在地の問い合わせであれば、問題ありません。休んでいる間に Einstein ボットが処理します。

## 分析

### Salesforce オブジェクトでの Einstein Discovery のおすすめの表示 (正式リリース)

Einstein Discovery の予測機能を使用して、日々の業務の意思決定を改善します。いくつかの設定を行うことで、Einstein Discovery は結果を予測したり、選択した Salesforce オブジェクトの方策を推奨したりできます。

### 対話形式のクエリの改善による探索用語の拡張 (ベータ)

1～2個の一般的な単語を使用するだけで、データクエリを開始して、自動的に設定されたグラフで回答を参照できます。対話形式の探索はまだベータですが、機能が大幅に強化され、使いやすくなっています。たとえば、複雑なセンテンスを解析できるようになり、基準やグループの数の制限がなくなっています。

## カスタマイズ

### Einstein 予測ビルダー: コードなしのカスタム AI の使用 (ベータ)

Salesforce のほぼすべての標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトでカスタム予測を使用して、ビジネスプロセスをよりスマートで予測的にすることができます。予測しようとしている内容に標準の Einstein ソリューションが適さない場合は、Einstein 予測ビルダーで独自の予測モデルを作成できます。そして何よりも、それをコードなしで数回クリックするだけで構築できます。

### Einstein 次善アクション: 戦略を使用した提案アクションとオファー (パイロット)

Salesforce の内部および外部のビジネスルール、予測モデル、およびデータを統合し、適切な提案を、適切なタイミングで、適切なユーザに提供します。特定の条件下でのみ関連を持つアクションや提案はないでしょうか。たとえば、特定の顧客にのみ提案する必要があるアップグレードです。または、顧客をサポートするためのサービスエージェント用のアクションが複数あり、最も適切なアクションにエージェントを誘導したいと考えていませんか。その場合は、Einstein 次善アクションを確認してください。

## セキュリティと ID

### Event Monitoring Analytics アプリケーションの設定の新しい名称

他の Einstein Analytics アプリケーションは今後 [イベント監視] に統合される予定です。それに合わせて [設定] のオプションのテキストを変更しました。

## 開発

### 無料の予測が 2 倍に増加

無料サービスに、カレンダー月あたり 2,000 件の予測が含まれるようになりました(1,000 件から増加)。予測は、Einstein Vision と Einstein Language で同じように使用できます。

#### Einstein プラットフォームサービスの非公開鍵のリセット

Einstein アカウントにサインアップすると、.pem ファイルの形式で非公開鍵を取得できます。この鍵は、API コールを実行するために必要なアクセストークンを生成するために使用します。ただし、アクシデントが起こることはあるものです。非公開鍵を失った場合は、新しいものを要求できます。

#### 更新トークンを使用したアクセストークンの生成

非公開鍵の代わりに更新トークンを使用してアクセストークンを生成できます。更新トークンは、有効期限のない JWT トークンです。更新トークンを使用して、認証された API コールを実行することはできません。

#### Einstein Vision: 画像データセットと画像モデルの削除

Einstein Vision では、AI の力を利用して深層学習モデルをトレーニングし、大規模な画像を認識および分類することが可能です。事前にトレーニングされた分類子を活用するか、独自のカスタム分類子をトレーニングして、固有の使用事例を解決します。

#### Einstein Language: テキストデータセットとテキストモデルの削除

Einstein Language API を使用して、アプリケーションの自然言語処理を作成し、テキスト内の強力なインサイトを得ます。Language API には、Einstein Intent API と Einstein Sentiment API が含まれます。

#### 関連トピック:

[Einstein for Marketing Cloud 2018 年 4 月リリースノート: Einstein エンゲージメントスコアリングへの Einstein 分割の導入](#)

## セールス: インテリジェントな売上予測、改善されたキャンペーン管理、Lightning Dialer の機能強化

---

正式リリースされた Einstein 売上予測を使用して、よりスマートに作業を進めましょう。キャンペーンメンバーへのアクセス権を制御し、取引先別に追加します。Lightning Dialer 機能およびその他のツールで営業担当のパフォーマンスが向上します。

#### このセクションの内容:

##### [Sales Cloud Einstein: 売上予測の正式リリース、レポートの追加、インサイトの改善](#)

Einstein 売上予測を使用して、売上予測の精度を高めます。商談スコアに基づくレポートを作成し、リードの採点方法を詳細に制御します。さらに、営業担当は商談インサイトを得るために Einstein 活動キャプチャからメールアカウントを接続する必要がなくなりました。メールインサイトが追加されたので、Einstein 活動キャプチャを使用する理由が増えました。

##### [中核的なセールス機能:改善されたキャンペーン管理、売上予測種別の追加、リードの取引開始および商品スケジュールの機能強化](#)

キャンペーンメンバーへのアクセス権を制御し、取引先別に追加します。商品またはスケジュール日で売上を予測します。取引先責任者-to-複数取引先のサポートが向上し、営業担当はリードの取引開始中に商談をすばやく追加できます。また、Lightning Experience に商談スケジュールが追加されます。

### 生産性機能: Lightning Dialer の改善、メールインサイト、リストメール機能の追加

通話監視や複数のボイスメールメッセージなど、Lightning Dialer の多数の新機能が導入されました。また営業担当は、重要な営業状況を関連メールと共に確認し、リストメールをキャンペーンに送信できるようになりました。

### データ品質: 重複管理、Lightning Data

カスタムオブジェクトで重複ジョブを実行して重複レコードを特定します。また Lightning Data により、使いやすさの向上、一致率の向上、より正確な状況、および通貨の換算という利点が得られます。

### Lightning for Gmail: 焦点を絞ったデザインとメールの記録操作の改善

営業担当が Gmail™ と Google Calendar™ で Salesforce レコードをより迅速に処理できるようになりました。アプリケーション機能と Salesforce データが整理されてスペースが最大化され、アクセスしやすくなりました。メールの記録操作が改善され、従来よりも簡単にメールを Salesforce レコードに記録できるようになりました。

### Microsoft® インテグレーション: 焦点を絞ったデザイン、メールの記録操作の改善、Salesforce for Outlook の更新

営業担当は Microsoft® Outlook® で直接、Salesforce の商談の作業ができます。Lightning for Outlook では、商品デザインが更新され、メールの記録操作が改善されました。まだ Salesforce for Outlook を使用している場合は、最新のバグ修正を確認してください。

### Salesforce CPQ と Salesforce Billing

見積、提案、および契約を迅速かつ正確に提供します。柔軟なツールと規約で請求および支払プロセスを自動化します。Salesforce CPQ と Salesforce Billing は、見積の作成、商談の成立、請求書の決済、収益のレポートを行うための、エンドツーエンドソリューションです。

### Pardot: プロスペクトの完全削除、反応型レイアウト、特定のプロスペクトとしてのプレビュー、繰り返し Engagement プログラムなど

ごみ箱からプロスペクトを完全に削除したり、Engage メールに Salesforce ファイルを挿入したり、新しい事前作成済みのレイアウトを使用して反応型ランディングページを作成したり、一致リードコンポーネントを使用して一致率を向上させたりできます。また、特定のプロスペクトとしてメールをプレビューしたり、Engagement プログラムを繰り返すことをプロスペクトに許可したりできます。

### Sales Cloud のその他の変更

Lightning Experience の取引先リストビューをテリトリーで絞り込みます。行動のエクスポート時に主催者、被招集者、および被招集者の状況の項目がエクスポートされなくなりました。

## Sales Cloud Einstein: 売上予測の正式リリース、レポートの追加、インサイトの改善

Einstein 売上予測を使用して、売上予測の精度を高めます。商談スコアに基づくレポートを作成し、リードの採点方法を詳細に制御します。さらに、営業担当は商談インサイトを得るために Einstein 活動キャプチャからメールアカウントを接続する必要がなくなりました。メールインサイトが追加されたので、Einstein 活動キャプチャを使用する理由が増えました。

- ☑ **メモ:** 一部のサービスおよびサブスクリプションでは、有料オプションの Sales Cloud Einstein が用意されています。価格設定についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

## このセクションの内容:

### Einstein 売上予測: 売上予測の改善 (正式リリース)

Einstein 売上予測の準備が本格的に整いました。過去のデータに基づいて営業チームの商談に関する予測が行われ、売上予測の精度が改善されます。Lightning Experience では、重要業績評価指標 (KPI)、有用な売上予測グラフ、および最新の総計値が1日に数回更新されて、表示されます。Salesforce Classic では、レポートでチームの売上予測を把握します。

### Einstein 商談スコアリング: 商談スコアに基づくレポートの作成

商談のカスタムレポートタイプを作成するときに[スコア]項目を使用できるようになりました。たとえば、スコアによって商談をバケット化するレポートタイプを作成し、商談金額に加重を設定し、商談が成立する可能性に注文がどのように影響するのかを表示できます。

### Einstein リードスコアリング: 分析中の無関係な項目の無視、設定の明確化

リードスコア分析中に役に立たない項目を無視するように Einstein に指定し、設定の明確なガイダンスを得ます。

### Einstein 自動取引先責任者: すべての提案を1か所で確認

営業担当は、Einstein によって Salesforce に追加するように提案されたすべての取引先責任者と取引先責任者の役割を一目で確認できます。新しいリストビューには、Einstein の検出結果と、提案が承諾、却下、または無視されたかが表示されます。営業担当はリストビューから直接アクションを実行することもできます。

### Einstein 活動キャプチャ: メールに関するインサイトの取得

Einstein 活動キャプチャによって Salesforce レコードに関連付けられたメールには、可能な場合はインサイトが含まれるようになりました。活動タイムラインとメールの詳細に表示されるメールインサイトは、営業担当がメールで顧客とやりとりするときに活用できます。Einstein 活動キャプチャユーザの活動タイムラインも改善され、データの収集および処理方法を詳細に制御できます。

### Einstein インサイト: 接続済みメールなしでのインサイト

営業担当は、メールアカウントを Salesforce に接続せずに、Einstein 活動キャプチャを使用して、さらに多くの取引先および商談インサイトを表示できるようになりました。競合他社がメンションされたかどうか、主な取引先責任者がいなくなるかどうかなど、商談の主要なインサイトを従来よりも簡単に把握できます。

### Sales Cloud Einstein のその他の変更

使い勝手を向上するために加えられたその他の変更について説明します。

## Einstein 売上予測: 売上予測の改善 (正式リリース)

Einstein 売上予測の準備が本格的に整いました。過去のデータに基づいて営業チームの商談に関する予測が行われ、売上予測の精度が改善されます。Lightning Experience では、重要業績評価指標 (KPI)、有用な売上予測グラフ、および最新の総計値が1日に数回更新されて、表示されます。Salesforce Classic では、レポートでチームの売上予測を把握します。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

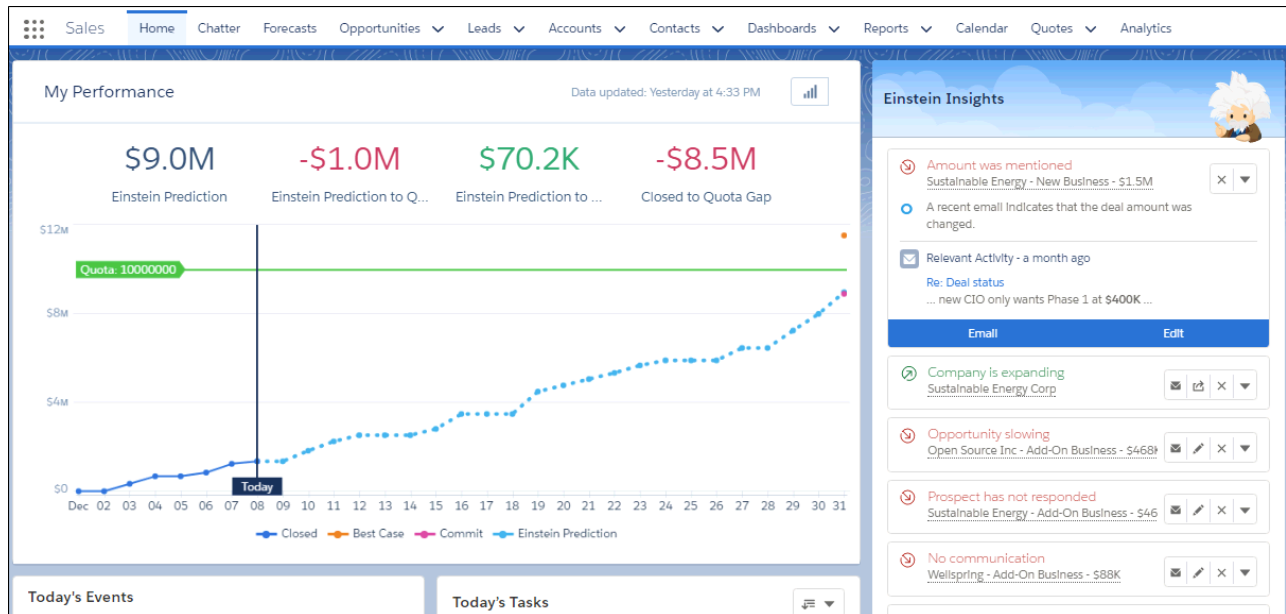
**対象ユーザ:** Einstein 売上予測はマネージャのみが使用でき、現在は月別の売上予測を行う組織に制限されています。商談の分割はサポートされません。

Einstein 売上予測を使用するには、以下のものが組織に必要です。

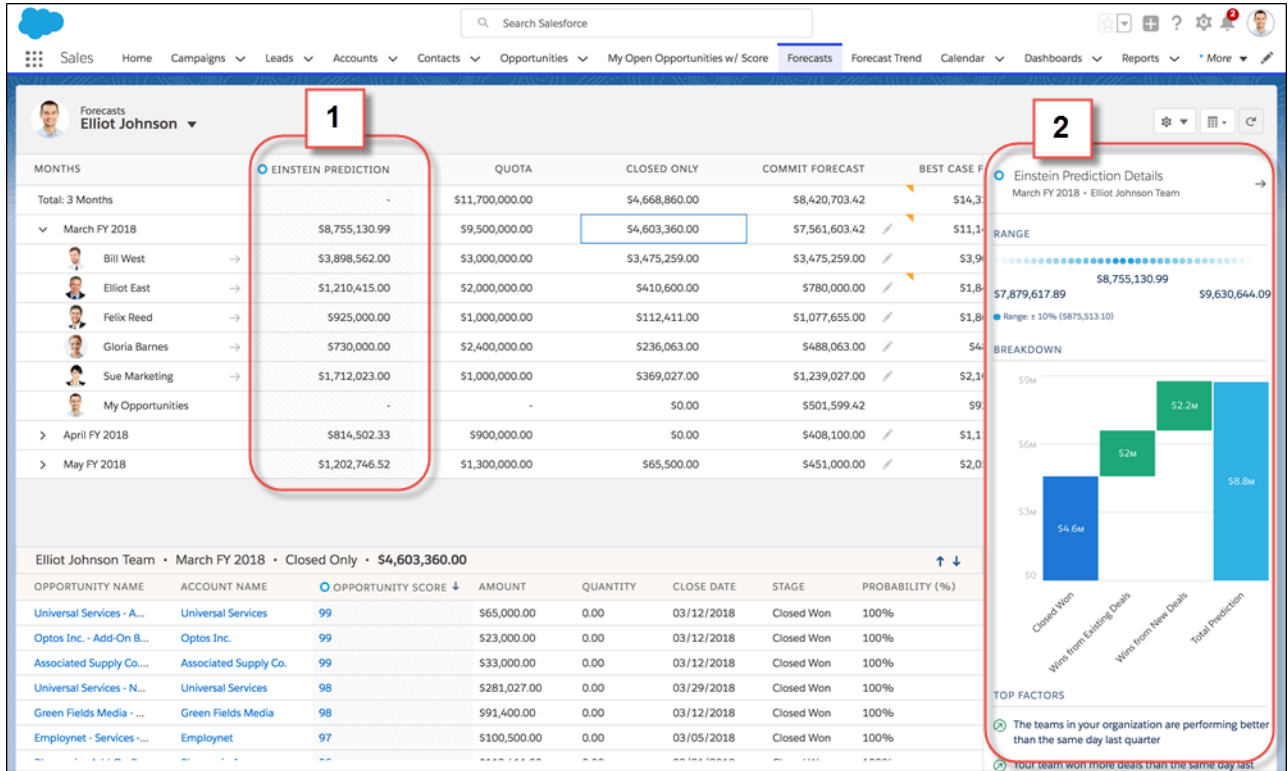
- 有効なコラボレーション売上予測と設定済みの売上予測階層

- 標準の商談オブジェクトと [金額] および [完了予定日] 項目を使用した 2 年分の商談履歴
- [商談 (収益)] 売上予測種別を使用する、月別に設定された売上予測 (四半期別は不可)
- 有効な標準会計年度 (カスタム会計年度は不可)

理由: Einstein 売上予測では、データサイエンスと営業チームの商談についての機会学習を利用して、売上予測の精度を向上します。



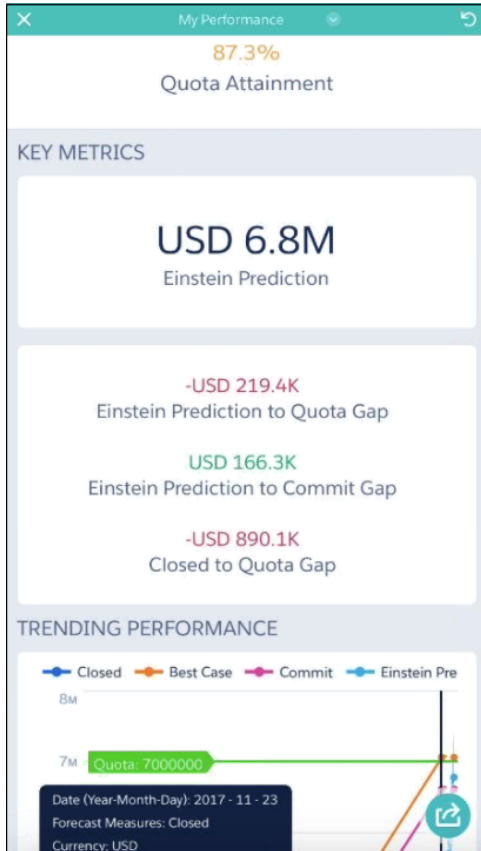
予測グラフには、チームの過去の商談と今後の業績に関する予測が表示されます。グラフには、Einsteinの予測と販売目標の比較、達成予測商談と最善達成予測に基づく比較が含まれます。グラフ上には KPI も表示できます。



売上予測ページの Einstein 予測項目 (1) には、チームとチームメンバーごとに予測金額の中央値が表示されます。売上予測は、月末までに完了予定日を迎える、すべての進行中の商談に基づいています。十分な履歴データが使用できない、あるいは予測範囲が広すぎて実用的でない場合は、予測が表示されないこともあります。予測値の範囲や寄与した要因など、各予測に関する詳細を表示することもできます (2)。

マルチ通貨を使用していない限り、予測は常に米ドル単位です。マルチ通貨を使用している場合、金額は、設定した固定換算レートにより、ユーザが選択した通貨に換算されます。





Analytics アプリケーションを使用すると、Einstein 売上予測にモバイルデバイスからでもアクセスできるようになります。外出中に、主要業績指標と予測グラフを確認してください。

方法: 使用を開始するには、[設定] の [Einstein 売上予測] ページで機能を有効にします。組織のホームページをカスタマイズした場合は、ホームページに手動でパフォーマンスグラフを追加します。

関連トピック:

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## Einstein 商談スコアリング: 商談スコアに基づくレポートの作成

商談のカスタムレポートタイプを作成するときに[スコア]項目を使用できるようになりました。たとえば、スコアによって商談をバケット化するレポートタイプを作成し、商談金額に加重を設定し、商談が成立する可能性に注文がどのように影響するのかを表示できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: まず、商談を主オブジェクト、商談スコアを第2オブジェクトとして使用するカスタムレポートタイプを作成します。次に、必要なデータに焦点を絞る条件を追加します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein 商談スコアリングのカスタムレポートタイプの作成 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## Einstein リードスコアリング: 分析中の無関係な項目の無視、設定の明確化

リードスコア分析中に役に立たない項目を無視するように Einstein に指定し、設定の明確なガイダンスを得ます。

このセクションの内容:

### 無関係な項目を無視することによるリードスコアリングモデルの最適化

ビジネスでリード品質に影響しないリード項目を使用している場合、Einstein にそれらの項目を無視するように指示し、スコアリングモデルをいっそうシンプルに、高速に、そしてスマートにします。一部のビジネスは、リードの取引開始の可能性に影響しない項目を使用しています。たとえば、リードの取引が開始されなかった理由を示す項目があるとします。Einstein にそれらの項目を無視するように指示すれば、リードスコアがより正確になります。

### Einstein リードスコアリング設定時のさらに詳しいガイダンス

ビジネスにとって適切な設定を理解しやすくなりました。各設定の選択時に、その決定に関する詳細情報が表示されます。

## 無関係な項目を無視することによるリードスコアリングモデルの最適化

ビジネスでリード品質に影響しないリード項目を使用している場合、Einstein にそれらの項目を無視するように指示し、スコアリングモデルをいっそうシンプルに、高速に、そしてスマートにします。一部のビジネスは、リードの取引開始の可能性に影響しない項目を使用しています。たとえば、リードの取引が開始されなかった理由を示す項目があるとします。Einstein にそれらの項目を無視するように指示すれば、リードスコアがより正確になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 設定時に、分析にすべての項目は含めないように Einstein に指示し (1)、無視する項目を選択解除します (2)。

Should Einstein consider all lead fields?

Do you want Einstein to consider all lead fields?

Yes, use all lead fields (Recommended)

No, ignore certain lead fields (Advanced) **1**

**⚠ Be careful about ignoring fields**  
Ignore fields only if you are sure they have no effect on a lead's chances of converting.  
Mistakenly ignoring influential fields makes lead scores less accurate.

Should I tell Einstein to ignore any fields? (Advanced)

Some businesses use fields that don't affect the lead's chance of converting. For example, you might have a field that isn't used until after a lead converts.

Telling Einstein to ignore those fields yields more accurate lead scores

Before ignoring a field, make sure the field doesn't affect the lead's chance of converting. Ignoring fields that do affect lead quality decreases the accuracy of your lead scores.

If you're not sure about whether to ignore a particular field, contact Salesforce Support.

[Learn More](#)

Back Next

Should Einstein consider all lead fields?

**1** Deselect fields to ignore during score analysis

Field Show

All Fields

FIELD LABEL	FIELD NAME	DATA TYPE	TYPE
<input checked="" type="checkbox"/>	Address	Address	textarea Standard Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Annual Revenue	AnnualRevenue	currency Standard Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Company	Company	string Standard Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Company	Teafwe_f3w4t__c	double Custom Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Created By	CreatedById	reference Standard Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Data.com Key	Jigsaw	string Standard Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Description	Description	textarea Standard Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Do Not Call	DoNotCall	boolean Standard Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Email	Email	email Standard Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Email Opt Out	HasOptedOutOfE...	boolean Standard Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Fax	Fax	phone Standard Field
<input checked="" type="checkbox"/>	Fax Opt Out	HasOptedOutOfFax	boolean Standard Field

**2**

Ignored Fields

Should I tell Einstein to ignore any fields? (Advanced)

Some businesses use fields that don't affect the lead's chance of converting. For example, you might have a field that isn't used until after a lead converts.

Telling Einstein to ignore those fields yields more accurate lead scores

Before ignoring a field, make sure the field doesn't affect the lead's chance of converting. Ignoring fields that do affect lead quality decreases the accuracy of your lead scores.

If you're not sure about whether to ignore a particular field, contact Salesforce Support.

[Learn More](#)

Back Next

**警告:** 項目を無視する前に、その項目がリードの取引開始の可能性に影響しないことを確認してください。リードの品質に影響する項目を無視すると、リードスコアの精度が低くなります。特定の項目を無視すべきかどうか判断できない場合は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。Einstein の分析にはすべての標準項目を含めることをお勧めします。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein リードスコアリングの有効化\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

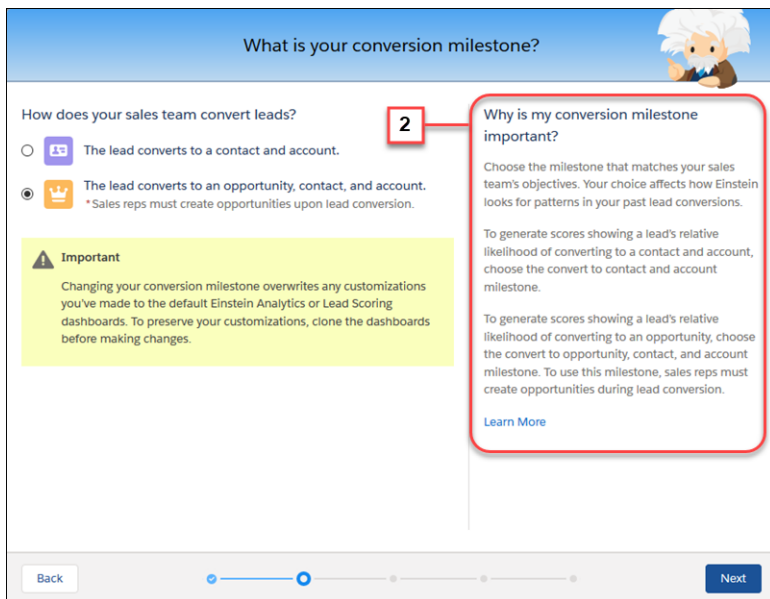
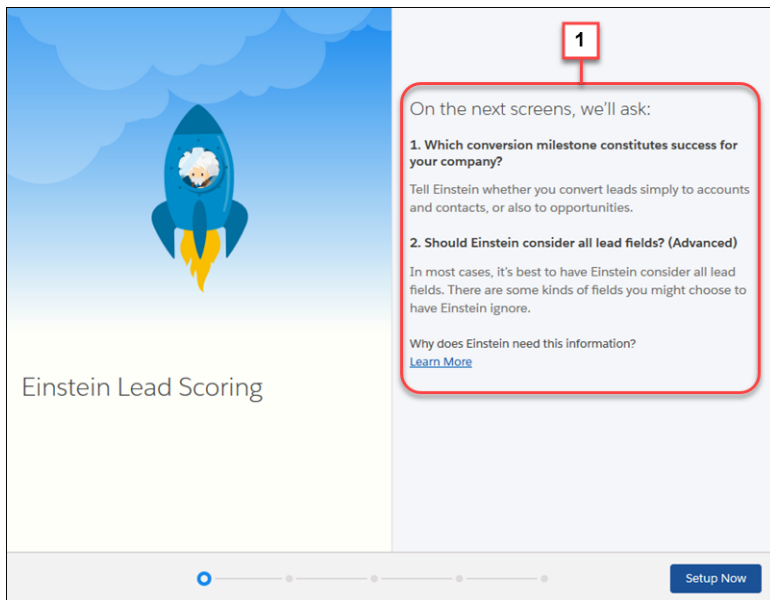
[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## Einstein リードスコアリング設定時のさらに詳しいガイダンス

ビジネスにとって適切な設定を理解しやすくなりました。各設定の選択時に、その決定に関する詳細情報が表示されます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** 各ステップを完了するために役立つ情報と共に (2)、その後のステップが明確に表示されます (1)。各画面の [詳細はこちら] リンクをクリックすると、さらに詳しい情報が表示されます。



#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein リードスコアリングの有効化\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

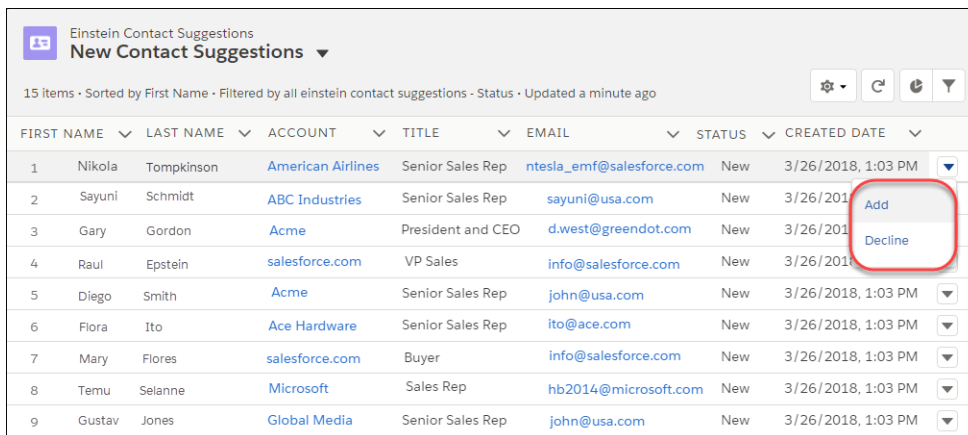
## Einstein 自動取引先責任者: すべての提案を1か所で確認

営業担当は、EinsteinによってSalesforceに追加するように提案されたすべての取引先責任者と取引先責任者の役割を一目で確認できます。新しいリストビューには、Einsteinの検出結果と、提案が承諾、却下、または無視されたかが表示されます。営業担当はリストビューから直接アクションを実行することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

理由: Einstein の提案と実行されたアクション (存在する場合) の完全なリストを見ることで、システム管理者と営業担当は Einstein 自動取引先責任者がデータにどのような影響を及ぼしているかを明確に把握できます。さらに、どの営業担当が時間を節約できるこの機能を活用しているかを確認できます。営業担当はリストビューから提案を追加したり却下したりできるため、最新データの把握がこれまで以上に簡単になります。

方法: アプリケーションランチャーから、[Einstein 取引先責任者の提案] または [Einstein 取引先責任者の役割の提案] 項目を選択します。提案で、Salesforce に何が追加され、何が却下されたかを確認します。行レベルのアクションを使用して、新規状況の提案を追加または却下します。



FIRST NAME	LAST NAME	ACCOUNT	TITLE	EMAIL	STATUS	CREATED DATE	
1	Nikola	Tompkinson	American Airlines	Senior Sales Rep	ntesla_emf@salesforce.com	New	3/26/2018, 1:03 PM
2	Sayuni	Schmidt	ABC Industries	Senior Sales Rep	sayuni@usa.com	New	3/26/2018, 1:03 PM
3	Gary	Gordon	Acme	President and CEO	d.west@greendot.com	New	3/26/2018, 1:03 PM
4	Raul	Epstein	salesforce.com	VP Sales	info@salesforce.com	New	3/26/2018, 1:03 PM
5	Diego	Smith	Acme	Senior Sales Rep	john@usa.com	New	3/26/2018, 1:03 PM
6	Flora	Ito	Ace Hardware	Senior Sales Rep	ito@ace.com	New	3/26/2018, 1:03 PM
7	Mary	Flores	salesforce.com	Buyer	info@salesforce.com	New	3/26/2018, 1:03 PM
8	Temu	Selanne	Microsoft	Sales Rep	hb2014@microsoft.com	New	3/26/2018, 1:03 PM
9	Gustav	Jones	Global Media	Senior Sales Rep	john@usa.com	New	3/26/2018, 1:03 PM

### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Einstein 自動取引先責任者 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## Einstein 活動キャプチャ: メールに関するインサイトの取得

Einstein 活動キャプチャによってSalesforceレコードに関連付けられたメールには、可能な場合はインサイトが含まれるようになりました。活動タイムラインとメールの詳細に表示されるメールインサイトは、営業担当がメールで顧客とやりとりするときに活用できます。Einstein 活動キャプチャユーザの活動タイムラインも改善され、データの収集および処理方法を詳細に制御できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Sales Cloud Einstein または Inbox ライセンスで Einstein 活動キャプチャを使用している場合、メールインサイトはデフォルトで有効になります。

関連トピック:

[活動タイムラインでのメールインサイトを使用したよりスマートなメールの処理](#)

[Einstein 活動キャプチャでのすべての活動履歴へのアクセス](#)

[データポリシーの管理](#)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## Einstein インサイト: 接続済みメールなしでのインサイト

営業担当は、メールアカウントを Salesforce に接続せずに、Einstein 活動キャプチャを使用して、さらに多くの取引先および商談インサイトを表示できるようになりました。競合他社がメンションされたかどうか、主な取引先責任者がいなくなるかどうかなど、商談の主要なインサイトを従来よりも簡単に把握できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

理由: これまではほとんどの場合、営業担当にインサイトが表示されるには、接続済みメールアカウントが必要でした。営業担当は、Einstein 活動キャプチャを使用しなくても、すべての取引先インサイトと複数の商談インサイトを表示できるようになりました。

関連トピック:

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## Sales Cloud Einstein のその他の変更

使い勝手を向上するために加えられたその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

[Sales Cloud Einstein での Analytics アプリケーションの表示および編集](#)

Sales Cloud Einstein 権限セットライセンスに「Analytics データフローの編集」権限が追加されました。この権限を使用して、ユーザは Einstein Analytics アプリケーションでのデータフローの表示、アプリケーションの作成と編集、既存のアプリケーションのトラブルシューティングを行うことができます。

[Sandbox でのインサイトの表示](#)

取引先インサイトと商談インサイトは Sandbox 環境で使用することができ、どれほど簡単にインサイトを設定できるのか、またインサイトが営業チームにどのように表示されるのかを確認できます。

## Sales Cloud Einstein での Analytics アプリケーションの表示および編集

Sales Cloud Einstein 権限セットライセンスに「Analytics データフローの編集」権限が追加されました。この権限を使用して、ユーザは Einstein Analytics アプリケーションでのデータフローの表示、アプリケーションの作成と編集、既存のアプリケーションのトラブルシューティングを行うことができます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** データフローを表示または編集するには、Analytics でギアアイコン(  )をクリックし、[データマネージャ]をクリックして[データフロー & レシピ]タブをクリックします。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: データフローエディタを使用したデータフローの設定\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## Sandbox でのインサイトの表示

取引先インサイトと商談インサイトは Sandbox 環境で使用することができ、どれほど簡単にインサイトを設定できるのか、またインサイトが営業チームにどのように表示されるのかを確認できます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されません。

**方法:** Einstein 準備状況評価を使用して、組織がインサイトを生成するためのデータ要件を満たしているかどうかを確認します。Sandbox 環境のインサイトは、Sandbox データが更新された場合にのみ更新されます。Sandbox 環境のデータは不完全な場合があるので、Sandbox に表示される内容に基づいてインサイトの精度を評価することはしないでください。

#### 関連トピック:

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## 中核的なセールス機能: 改善されたキャンペーン管理、売上予測種別の追加、リードの取引開始および商品スケジュールの機能強化

キャンペーンメンバーへのアクセス権を制御し、取引先別に追加します。商品またはスケジュール日で売上を予測します。取引先責任者-to-複数取引先のサポートが向上し、営業担当はリードの取引開始中に商談をすばやく追加できます。また、Lightning Experience に商談スケジュールが追加されます。

#### このセクションの内容:

[キャンペーン: キャンペーンメンバーの共有、取引先ベースのマーケティング、その他の機能強化](#)

キャンペーンメンバーへのアクセスの制御、取引先別のキャンペーンメンバーの追加、キャンペーンメンバーへのリストメールの送信、キャンペーン階層へのアクセスの迅速化などを行うことができます。

[コラボレーション売上予測: 詳細な売上予測と売上予測オプション](#)

スケジュール日と商品提供日に基づいて商談収益および数量の売上予測を行えるようになりました。売上予測ページの商談リストに商品ファミリの合計を表示することもできます。

### リード: 取引先責任者-to-複数取引先での取引開始、リードマージの安全な制御

取引先責任者-to-複数取引先機能のサポートが向上し、リードの取引開始が迅速化されます。営業担当はリードの取引開始中に商談をすばやく追加できます。また、リードのマージおよび削除ができるユーザーを詳細に制御します。

### 商品: Lightning Experience でのスケジュールの操作

商品スケジュールが Lightning Experience で完全に使用可能になり、営業担当は 1 か所ですべてを実行できるようになりました。Lightning Experience から離れることなく、商談の収益および数量スケジュールを設定、更新、削除できます。商品スケジュールを使用しているためユーザーを Lightning Experience に切り替えられずにいましたか? もうためらう必要はありません。

### 取引先: Lightning Experience で使用可能な個人取引先の設定、カスタムクイックアクション、新しいパッケージ検証

Lightning Experience で個人取引先を簡単に使用できます。個人取引先のページレイアウトやカスタムクイックアクションを 1 か所で設定できます。さらに、新しいパッケージ検証により、有効な個人取引先および法人取引先レコードが誤って削除されないようになります。

### パス: 取引先責任者のパス、連動選択リストのサポート

パスは、チームのプロセスが円滑に実行されるようにするためのものです。パスを設定することで、営業担当者が取引先責任者との強固な関係を築くのに役立ちます。また、連動選択リストを更新することで、作業を中断しなくても、パスに沿った移動が容易になります。

## キャンペーン: キャンペーンメンバーの共有、取引先ベースのマーケティング、その他の機能強化

キャンペーンメンバーへのアクセスの制御、取引先別のキャンペーンメンバーの追加、キャンペーンメンバーへのリストメールの送信、キャンペーン階層へのアクセスの迅速化などを行うことができます。

このセクションの内容:

### キャンペーンメンバーにアクセスできるユーザーの制御

リードと取引先責任者がキャンペーンに追加されている場合でも、そのリードと取引先責任者の詳細を非公開にします。マーケティング部門が特定のキャンペーンメンバーの詳細のみを表示できるようにします。キャンペーンメンバーの共有ルールは、リードと取引先責任者のルールまたはキャンペーンから継承できます。

### 取引先のすべての取引先責任者のキャンペーンへの追加

マーケティングユーザは、キャンペーンにメンバーを追加するとき、取引先に焦点を絞ることができます。ユーザは取引先責任者を取引先名で検索し、キャンペーンに一部またはすべての取引先責任者を追加できます。

### キャンペーンメンバーへのリストメールの送信

マーケティングユーザは、キャンペーンのメンバーに直接リストメールを送信することで、時間と労力を軽減できます。メールはキャンペーンの活動タイムラインに表示され、キャンペーンレコードに関連付けられます。



### キャンペーンでリードおよび取引先責任者リストビューの絞り込み

マーケティングユーザは、[リード]タブまたは[取引先責任者]タブから移動することなく、キャンペーンに関連付けられているすべてのリードまたは取引先責任者を検索できます。

### キャンペーン階層の表示の高速化

キャンペーンがどの程度マーケティング戦略に適しているかとその結果をすばやく確認できます。マーケティングユーザは、ワンクリックでキャンペーン詳細ページからキャンペーンの階層ビューに移動できるようになりました。キャンペーン階層を使用して、特定のマーケティングプログラム内またマーケティング活動内でキャンペーンをグループ化すると、関連するマーケティング活動とその結果を効率的に分析するのに役立ちます。

## キャンペーンメンバーにアクセスできるユーザの制御

リードと取引先責任者がキャンペーンに追加されている場合でも、そのリードと取引先責任者の詳細を非公開にします。マーケティング部門が特定のキャンペーンメンバーの詳細のみを表示できるようにします。キャンペーンメンバーの共有ルールは、リードと取引先責任者のルールまたはキャンペーンから継承できます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**方法:** ユーザにそのユーザがアクセス権を持つリードまたは取引先責任者レコードのキャンペーンメンバーのみの表示を許可するには、[共有設定]で[リードまたは取引先責任者に連動]を選択します。キャンペーンにアクセスできるユーザにキャンペーンメンバーの詳細の表示を許可するには、[キャンペーンに連動]を選択します。

ユーザのロールまたはプロファイルで指定されたアクセス権は、組織の共有設定よりも優先されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 組織の共有設定の設定](#)

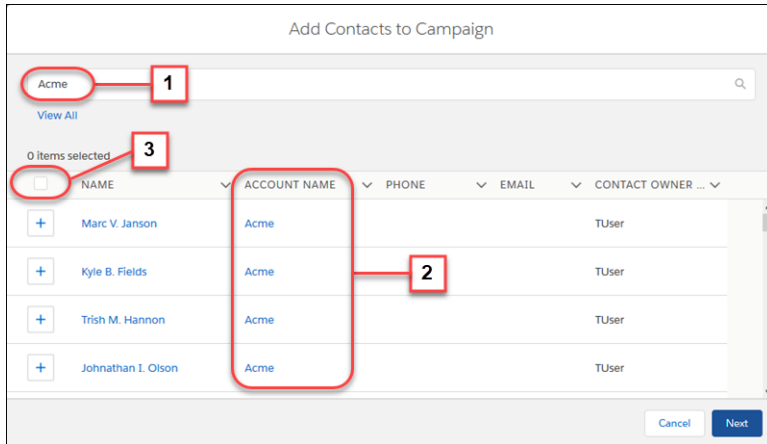
## 取引先のすべての取引先責任者のキャンペーンへの追加

マーケティングユーザは、キャンペーンにメンバーを追加するとき、取引先に焦点を絞ることができます。ユーザは取引先責任者を取引先名で検索し、キャンペーンに一部またはすべての取引先責任者を追加できます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:** たとえば、あなたの会社はレストランに対して販売を行っているとします。マーケティングユーザがパンの販売数を増やすためのキャンペーンに取り組んでいる場合、まだパンを購入していない取引先のみを対象にするとよいでしょう。取引先をすばやく検索し、その取引先責任者をキャンペーンに追加できるようになりました。

**方法:** キャンペーン内の [キャンペーンメンバー] 関連リストから、[取引先責任者の追加] をクリックします。取引先名を検索します (1)。その取引先の取引先責任者のリストが表示されます (2)。次に、キャンペーンに追加する一部またはすべて (3) の取引先責任者を選択します。



### キャンペーンメンバーへのリストメールの送信

マーケティングユーザは、キャンペーンのメンバーに直接リストメールを送信することで、時間と労力を軽減できます。メールはキャンペーンの活動タイムラインに表示され、キャンペーンレコードに関連付けられます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** キャンペーンの [キャンペーンメンバー] 関連リストか、キャンペーンで絞り込まれた取引先責任者またはリードリストビューで、[リストメールの送信] をクリックします。

関連トピック:

[キャンペーンおよびキャンペーンメンバーへのリストメールの送信](#)

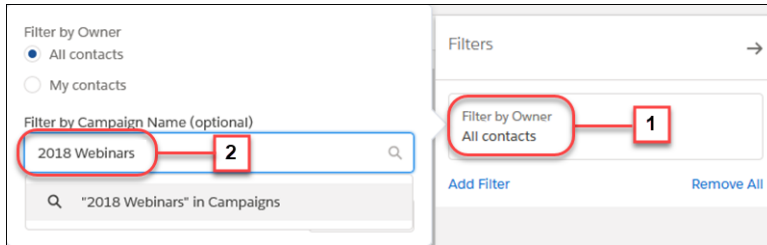
*Idea Exchange:* [Mass Email All Campaign Members from the Campaign view \(キャンペーンビューからのすべてのキャンペーンメンバーの一括メール送信\)](#)

### キャンペーンでリードおよび取引先責任者リストビューの絞り込み

マーケティングユーザは、[リード] タブまたは [取引先責任者] タブから移動することなく、キャンペーンに関連付けられているすべてのリードまたは取引先責任者を検索できます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** リードまたは取引先責任者リストビューを作成する場合は、[所有者別に絞り込み] をクリックして (1)、キャンペーン名を追加します (2)。



#### 関連トピック:

[正確なリストメールを送信するためのキャンペーンによる絞り込み](#)


[Idea Exchange: Lightning Experience - Lead and Contact List View - Campaign filter \(Lightning Experience - リードおよび取引先責任者リストビュー - キャンペーンによる絞り込み\)](#)

## キャンペーン階層の表示の高速化

キャンペーンがどの程度マーケティング戦略に適しているかとその結果をすばやく確認できます。マーケティングユーザは、ワンクリックでキャンペーン詳細ページからキャンペーンの階層ビューに移動できるようになりました。キャンペーン階層を使用して、特定のマーケティングプログラム内またマーケティング活動内でキャンペーンをグループ化すると、関連するマーケティング活動とその結果を効率的に分析するのに役立ちます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** キャンペーン詳細ページで、[キャンペーン階層の表示] () をクリックします。

 **メモ:** [キャンペーン階層の表示] ボタンは、コミュニティでは機能しません。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: キャンペーン階層の表示](#)

[Salesforce ヘルプ: キャンペーン階層統計の表示](#)

[Salesforce ヘルプ: キャンペーン階層の設定](#)

## コラボレーション売上予測: 詳細な売上予測と売上予測オプション

スケジュール日と商品提供日に基づいて商談収益および数量の売上予測を行えるようになりました。売上予測ページの商談リストに商品ファミリの合計を表示することもできます。

#### このセクションの内容:

[Lightning Experience でのスケジュール日と商品提供日の売上予測を使用したより正確な売上予測](#)

営業チームがスケジュール日と商品提供日に基づいて商談収益および数量の売上予測を行えるようにします。スケジュール日または商品提供日による売上予測では、商談完了日による売上予測よりも正確な期待売が表示されます。

### 商談リストでの商品ファミリの合計の表示

営業チームの売上予測が商品ファミリに基づく場合、営業担当には商品ファミリの売上予測金額の集計元が明確に表示されます。売上予測ページの商談リストには、商談全体の合計ではなく、商品ファミリの売上予測金額に積み上げ集計される商品ファミリの合計が表示されます。

## Lightning Experience でのスケジュール日と商品提供日の売上予測を使用したより正確な売上予測

営業チームがスケジュール日と商品提供日に基づいて商談収益および数量の売上予測を行えるようにします。スケジュール日または商品提供日による売上予測では、商談完了日による売上予測よりも正確な期待売上が表示されます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:** スケジュール日による売上予測の場合、Salesforce は商品スケジュールの [日付] および [収益] または [数量] 項目の値を使用して売上予測金額を計算します。商談商品にスケジュールがない場合、Salesforce は商品の [日付] および [合計金額] または [数量] 項目を使用します。

次に例を示します。

完了予定日が 2018 年 6 月 30 日の \$12,000 の商談があり、毎月 \$1,000 の収益がスケジュールされています。

- 完了予定日による売上予測の場合、6 月の売上予測にはこの商談の \$12,000 が含まれます。
- スケジュール日による売上予測の場合、6 月の売上予測にはこの商談の \$1,000 が含まれます。

商品提供日による売上予測の場合、Salesforce は各商談商品の [日付] および [合計金額] または [数量] 項目の値を使用して売上予測金額を計算します。商品に日付がない場合、Salesforce は商談の [完了予定日] および [金額] または [数量] 項目を使用します。

次に例を示します。

完了予定日が 2018 年 6 月 30 日の \$10,000 の商談があり、\$4,000 のラップトップと \$6,000 のデスクトップの 2 つの商品があります。\$4,000 の商品提供日は 2018 年 6 月 30 日です。\$6,000 の商品提供日は 2018 年 5 月 31 日です。

- 完了予定日による売上予測の場合、5 月の売上予測にはこの商談の金額は含まれません。6 月の売上予測にはこの商談の \$10,000 が含まれます。
- 商品提供日による売上予測の場合、5 月の売上予測にはこの商談の \$6,000 が含まれます。6 月の売上予測にはこの商談の \$4,000 が含まれます。

スケジュール日または商品提供日による売上予測の場合、商談リストの [売上予測金額] 列には商談金額全体ではなく売上予測に加算される金額が表示されます。

OPPORTUNITY NAME	ACCOUNT NAME	FORECASTED AMOUNT
Amptech Corporation...	Amptech Corporation	3,000.00
General Utilities - Ne...	General Utilities	6,000.00
Plasmosis, Inc. - New ...	Plasmosis, Inc.	15,000.00
Missoula & Sons Inc. - ...	Missoula & Sons Inc.	25,000.00
Datanet, Inc. - New B...	Datanet, Inc.	13,000.00
Datanet, Inc. - Add-O...	Datanet, Inc.	12,000.00

さらに、スケジュール日または商品提供日による売上予測の場合、[売上予測データ]を主オブジェクトとして使用するカスタムレポートタイプには、スケジュール日と商品提供日の売上予測値が表示されます。

方法: スケジュール日による売上予測を行うには、商品スケジュールが有効で、期待売上を反映するように設定されていることを確認します。商品提供日による売上予測を行うには、期待売上を反映するように商品提供日が定義されていることを確認します。

[設定]の[売上予測の設定]ページで、商談収益または数量の売上予測種別を追加し、[スケジュール日]または[商品提供日]を売上予測の日付種別として選択します。

スケジュール日または商品提供日の売上予測種別を追加すると、その種別の商談リストに[売上予測金額]列が追加されます。

Selected Columns
Opportunity Name
Account Name
Forecasted Amount
Close Date
Stage
Probability (%)
Forecast Category
Owner Full Name

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 商談収益および数量の売上予測の日付種別の選択](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

### 商談リストでの商品ファミリの合計の表示

営業チームの売上予測が商品ファミリに基づく場合、営業担当には商品ファミリの売上予測金額の集計元が明確に表示されます。売上予測ページの商談リストには、商談全体の合計ではなく、商品ファミリの売上予測金額に積み上げ集計される商品ファミリの合計が表示されます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** 商談の総額が \$10,000 であるとして。ただし、ハードウェアファミリの商談商品の合計は \$3,000 のみです。商談リストの [売上予測金額] 列には、\$3,000 が表示され、ハードウェア商品ファミリからの収益に関する正確性の高い予測を営業チームに提供します。

OPPORTUNITY NAME	ACCOUNT NAME	FORECASTED AMOUNT
Amptech Corporation...	Amptech Corporation	3,000.00
General Utilities - Ne...	General Utilities	6,000.00
Plasmosis, Inc. - New ...	Plasmosis, Inc.	15,000.00
Missoula & Sons Inc. - ...	Missoula & Sons Inc.	25,000.00
Datanet, Inc. - New B...	Datanet, Inc.	13,000.00
Datanet, Inc. - Add-O...	Datanet, Inc.	12,000.00

**方法:** Salesforce 組織が Summer '18 以降に作成されている場合、商談リストに [売上予測金額] 列が含まれます。組織が Summer '18 より前に作成された場合、商談リストに [売上予測金額] 列を追加することをお勧めします。

Selected Columns
Opportunity Name
Account Name
Forecasted Amount
Close Date
Stage
Probability (%)
Forecast Category
Owner Full Name

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: コラボレーション売上予測の商談リストの項目の表示](#)

## リード: 取引先責任者-to-複数取引先での取引開始、リードマージの安全な制御

取引先責任者-to-複数取引先機能のサポートが向上し、リードの取引開始が迅速化されます。営業担当はリードの取引開始中に商談をすばやく追加できます。また、リードのマージおよび削除ができるユーザを詳細に制御します。

このセクションの内容:

### 取引先責任者-to-複数取引先でのリードの取引開始、その他の取引開始の機能強化

ビジネスで取引先責任者-to-複数取引先を使用している場合、営業担当がリードを既存の取引先責任者に変換するときに、取引先責任者を新規または既存の取引先に関連付けることができるようになりました。営業担当は、商談名をクリックして、[リードの取引の開始]ウィンドウの[商談]セクションを展開できるようになりました。Salesforce Classic で、[設定]の[デフォルトで[リードの取引の開始]ウィンドウの[商談を作成しない]]を選択]オプションを使用できるようになりました。

### リードを安全にマージできるユーザの制御

新しいリード設定と組織の共有設定に加えられた変更により、リードのマージおよび削除ができるユーザの制御が向上します。組織の共有設定の[公開/参照・更新・所有権の移行]は、組織に[組織全体のマージおよび削除]設定もある場合にのみ、リードのマージおよび削除をユーザに許可するようになりました。

## 取引先責任者-to-複数取引先でのリードの取引開始、その他の取引開始の機能強化

ビジネスで取引先責任者-to-複数取引先を使用している場合、営業担当がリードを既存の取引先責任者に変換するときに、取引先責任者を新規または既存の取引先に関連付けることができるようになりました。営業担当は、商談名をクリックして、[リードの取引の開始]ウィンドウの[商談]セクションを展開できるようになりました。Salesforce Classic で、[設定]の[デフォルトで[リードの取引の開始]ウィンドウの[商談を作成しない]]を選択]オプションを使用できるようになりました。

**対象:** これらの変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**方法:** 自動的に変更が表示されるものと、ユーザアクションが必要になるものがあります。

- リードの取引開始中の取引先責任者-to-複数取引先に関するサポートは自動的に表示されます。

- [リードの取引の開始] ウィンドウの [商談] セクションを展開するには、商談名をクリックします。
- [設定] から、[クイック検索] ボックスに「リードの設定」と入力し、[リードの設定] をクリックします。[デフォルトで [リードの取引の開始] ウィンドウの [商談を作成しない] を選択] を選択します。

## リードを安全にマージできるユーザの制御

新しいリード設定と組織の共有設定に加えられた変更により、リードのマージおよび削除ができるユーザの制御が向上します。組織の共有設定の [公開/参照・更新・所有権の移行] は、組織に [組織全体のマージおよび削除] 設定もある場合にのみ、リードのマージおよび削除をユーザに許可するようになりました。

対象: これらの変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

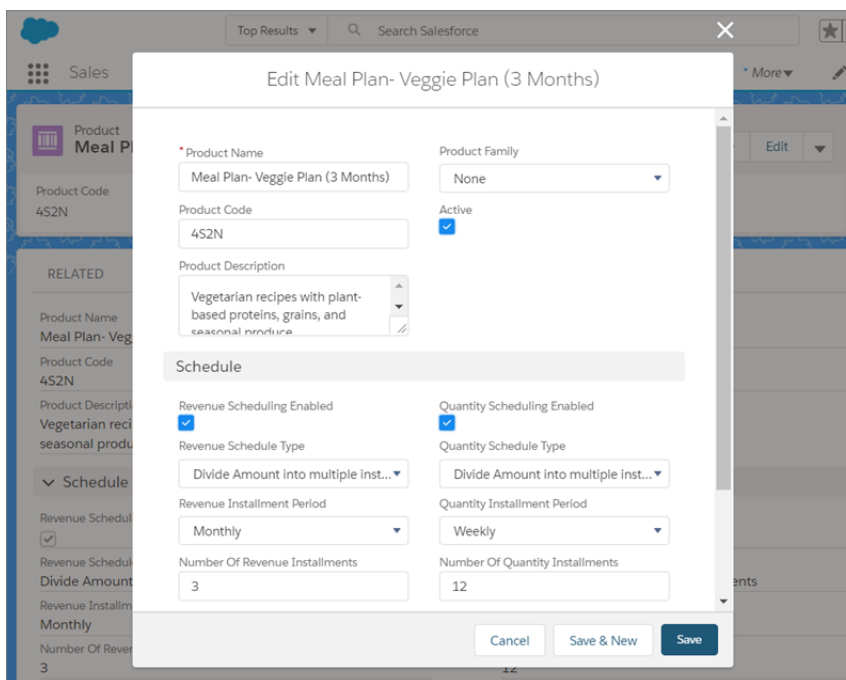
方法: 既存の組織では以前の動作に依存している可能性があるため、この新しい設定はデフォルトで有効になっています。Summer '18 以降に作成された新規組織では、この新しい設定はデフォルトで無効です。

## 商品: Lightning Experience でのスケジュールの操作

商品スケジュールが Lightning Experience で完全に使用可能になり、営業担当は 1 か所ですべてを実行できるようになりました。Lightning Experience から離れることなく、商談の収益および数量スケジュールを設定、更新、削除できます。商品スケジュールを使用しているためユーザを Lightning Experience に切り替えられずにいましたか? もうためらう必要はありません。

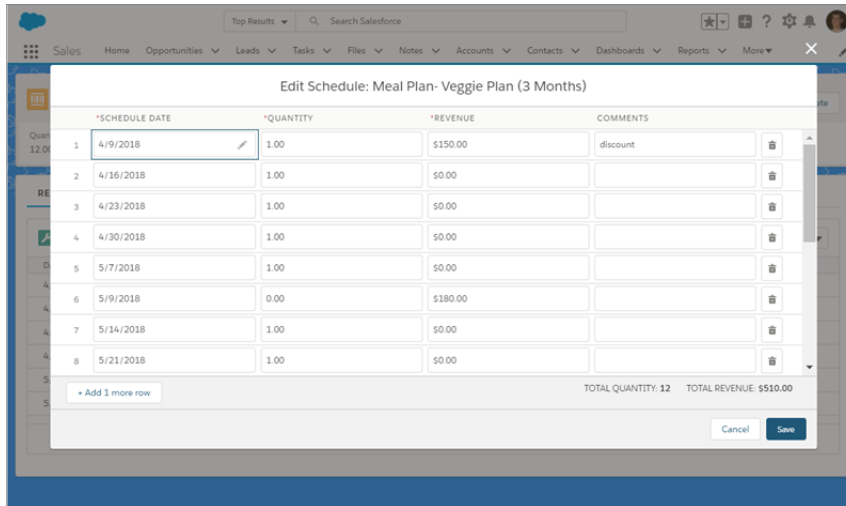
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: この変更は、商品スケジュールを有効にした組織のすべてのユーザが使用できます。商品スケジュールをオンまたは設定するには、[設定] で [商品スケジュール] を検索します。





商品の詳細ページでデフォルトのスケジュールを設定、更新、削除します。



または、商談の詳細ページで商談商品のスケジュールを設定、再設定、更新、削除します。

## 取引先: Lightning Experience で使用可能な個人取引先の設定、カスタムクイックアクション、新しいパッケージ検証

Lightning Experience で個人取引先を簡単に使用できます。個人取引先のページレイアウトやカスタムクイックアクションを1か所で設定できます。さらに、新しいパッケージ検証により、有効な個人取引先および法人取引先レコードが誤って削除されないようになります。

このセクションの内容:

### Lightning Experience での個人取引先の設定

Salesforce Classic への切り替えに伴う時間の浪費を避けて、個人取引先のページレイアウト、レコードタイプ、コンパクトレイアウトを設定します。

### 個人取引先のクイックアクションの改善

営業担当がクイックアクションを使用して個人取引先を作成または更新するときに、正しい名前項目 (敬称)、[名]、[ミドルネーム]、[姓]が表示されるようになりました。これにより、クイックアクションを使用する場所 (関連レコードコンポーネントなど) に関係なく、営業担当は簡単かつ正確に情報を追加および更新できます。

### パッケージをアンインストールした後の問題を新しい検証プロセスで回避

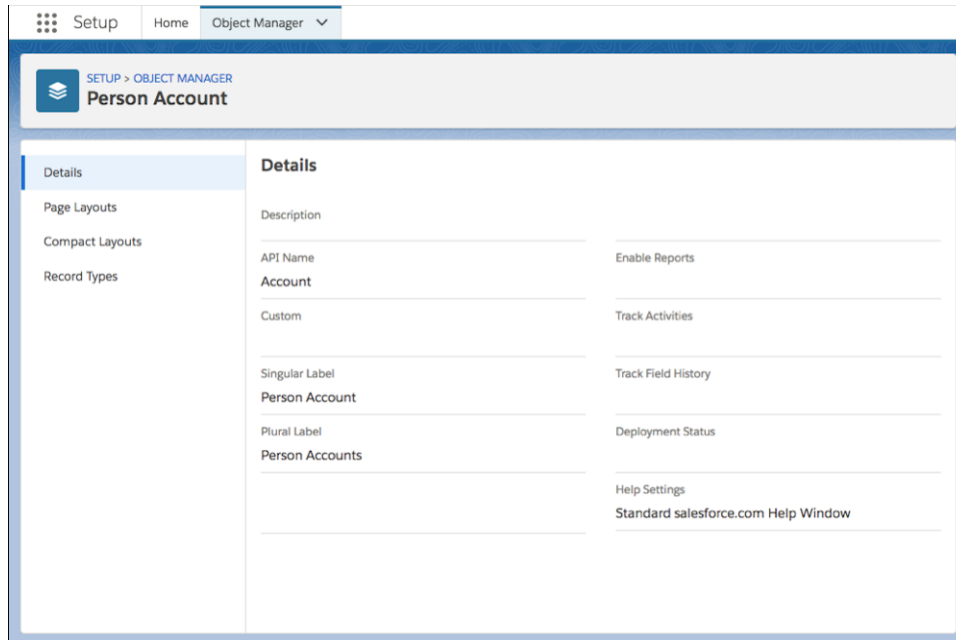
有効な取引先レコードをすべて削除することで発生しうる問題を避けるために、検証プロセスを追加しました。取引先レコードを含むパッケージをアンインストールするときに、検証プロセスは少なくとも1つの法人取引先または個人取引先レコードが残るようにします。

## Lightning Experience での個人取引先の設定

Salesforce Classic への切り替えに伴う時間の浪費を避けて、個人取引先のページレイアウト、レコードタイプ、コンパクトレイアウトを設定します。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** Lightning Experience で個人取引先を設定するには、個人取引先のオブジェクト管理設定から [ページレイアウト]、[コンパクトレイアウト]、[レコードタイプ] に移動します。



#### 関連トピック:

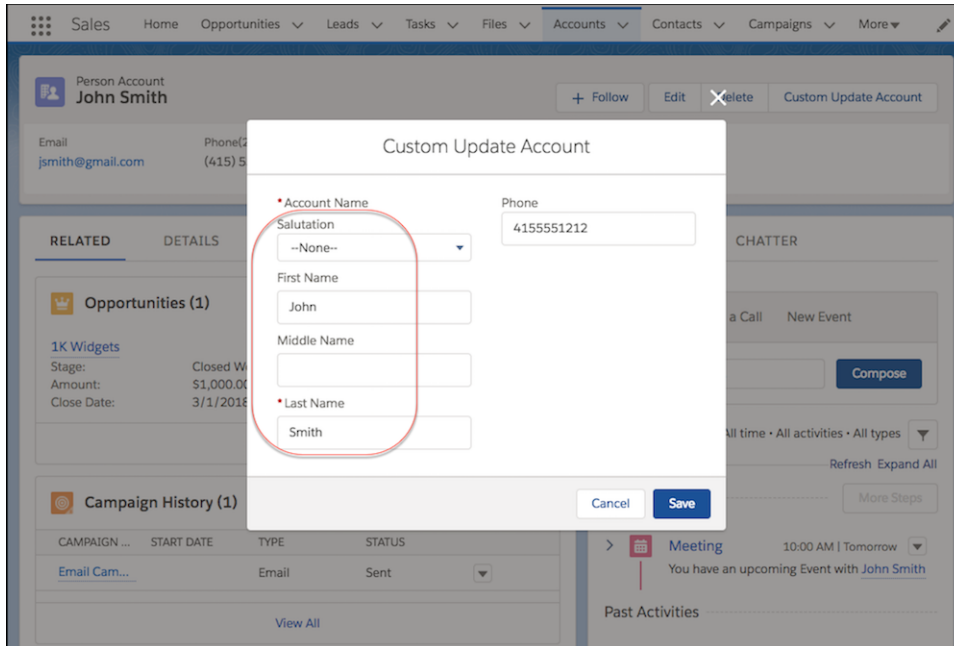
[IdeaExchange: Access Person Account Setup in Lightning \(Lightning での個人取引先設定へのアクセス\)](#)

### 個人取引先のクイックアクションの改善

営業担当がクイックアクションを使用して個人取引先を作成または更新するときに、正しい名前項目 ([敬称]、[名]、[ミドルネーム]、[姓]) が表示されるようになりました。これにより、クイックアクションを使用する場所 (関連レコードコンポーネントなど) に関係なく、営業担当は簡単かつ正確に情報を追加および更新できます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:** 以前は、営業担当に個人取引先ではなく法人取引先の名前項目が表示されていたため、作業を保存しようとするときに問題になることがありましたが、個人取引先の名前項目を簡単に確認できるようになり、クイックアクションで大幅に時間を節約できます。



方法: 個人取引先のカスタムアクションをすでに設定している場合、何もする必要はありません。個人取引先のカスタムアクションを設定するには、取引先のオブジェクト管理設定から[ボタン、リンク、およびアクション]に移動します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: オブジェクト固有のクイックアクションの作成](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

## パッケージをアンインストールした後の問題を新しい検証プロセスで回避

有効な取引先レコードをすべて削除することで発生しうる問題を避けるために、検証プロセスを追加しました。取引先レコードを含むパッケージをアンインストールするときに、検証プロセスは少なくとも1つの法人取引先または個人取引先レコードが残るようにします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

## パス: 取引先責任者のパス、連動選択リストのサポート

パスは、チームのプロセスが円滑に実行されるようにするためのものです。パスを設定することで、営業担当者が取引先責任者との強固な関係を築くのに役立ちます。また、連動選択リストを更新することで、作業を中断しなくても、パスに沿った移動が容易になります。

このセクションの内容:

### 取引先責任者のパスによる営業担当の成功の促進

取引先責任者のパスを使用できるようになりました。会社の取引先責任者との関係を強化するために重要なフェーズを定義できます。プロセスの各フェーズで参考になるヒントとガイダンスを提供して、営業担当の成功を促進します。

### パスからの連動選択リストの更新

連動選択リストで、営業担当がパスに沿ってスムーズに移動できるようになりました。次のステップに連動項目がある場合、営業担当がパスからレコードを更新するときに、すべての連動項目にアクセスして更新できます。

## 取引先責任者のパスによる営業担当の成功の促進

取引先責任者のパスを使用できるようになりました。会社の取引先責任者との関係を強化するために重要なフェーズを定義できます。プロセスの各フェーズで参考になるヒントとガイダンスを提供して、営業担当の成功を促進します。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** 取引先責任者のパスを設定するには、パスの土台となるカスタム選択リストを作成します。

関連トピック:

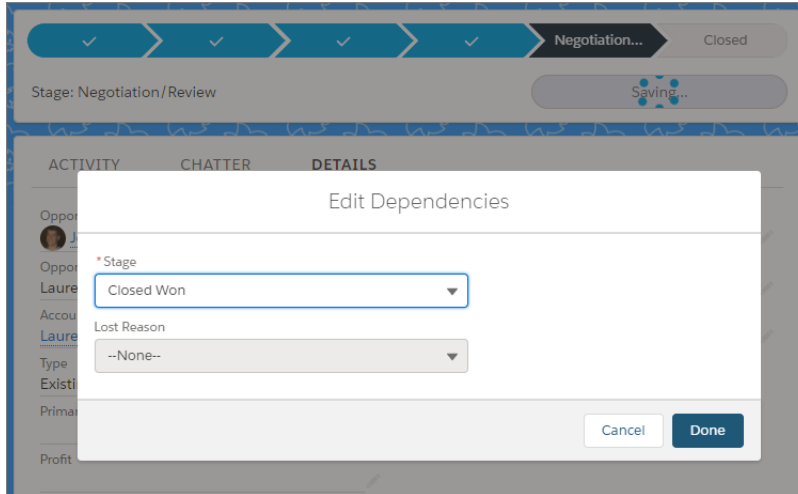
[Salesforce ヘルプ: パスの設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## パスからの連動選択リストの更新

連動選択リストで、営業担当がパスに沿ってスムーズに移動できるようになりました。次のステップに連動項目がある場合、営業担当がパスからレコードを更新するときに、すべての連動項目にアクセスして更新できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** 営業担当が連動関係を持つステップにレコードを移動しようとするとき、連動関係を更新するように促されます。



## 生産性機能: Lightning Dialer の改善、メールインサイト、リストメール機能の追加

通話監視や複数のボイスメールメッセージなど、Lightning Dialer の多数の新機能が導入されました。また営業担当は、重要な営業状況を関連メールと共に確認し、リストメールをキャンペーンに送信できるようになりました。

このセクションの内容:

### Lightning Dialer: 通話監視、複数のボイスメール、ローカルプレゼンス

通話監視を使用して、より適切なコーチングを営業担当に提供します。Dialer では、複数の録音済みボイスメールメッセージを作成でき、つながらなかった通話を記録できるようになりました。

### Einstein 活動キャプチャ: 提供範囲の拡大、メールインサイト、改善された活動タイムライン

Einstein 活動キャプチャを使用するのに Sales Cloud Einstein または Inbox ライセンスは必要ありません。さらに、メールインサイトと改善された活動タイムラインが追加されて、営業担当はインサイトを含む活動に集中できます。また、データの収集と処理の方法も制御できるようになりました。

### 活動: ToDo リストビュー、ToDo の一括作成、定義済みの件名、その他

ToDo リストビューでは、テーブルビュー、分割ビュー、Kanban ビューが提供され、営業担当の生産性が飛躍的に向上します。営業担当が ToDo と行動に使用できる定義済みの件名を作成し、同僚のために ToDo のコピーを作成できます。さらに、活動タイムラインには、営業担当が関わっている ToDo のみに焦点を絞るための新しい条件オプションが追加されています。

### メール操作: キャンペーンのリストメール、取引先責任者とリードのキャンペーンによる絞り込み、メール添付ファイルの管理

ユーザは、リストメールをキャンペーンとキャンペーンメンバーに送信したり、取引先責任者とリードのリストビューをキャンペーンによって絞り込んだり、メールの添付ファイルをドラッグによって簡単に含めたりすることができます。リストメールのメールアドレスを暗号化することもできます。

### メールテンプレート: メールテンプレート管理の簡略化、新しい差し込み項目言語、カスタムHTMLメールテンプレート

営業担当は、さらに柔軟に Lightning メールテンプレートを使用できます。1 か所で Lightning メールテンプレートを管理し、それらを新しい差し込み項目言語で機能強化し、カスタムHTMLメールテンプレートを作成し、Salesforce Classic で作成した Visualforce メールテンプレートを再利用できます。営業担当が Salesforce Classic でメールテンプレートを使用する必要がある場合、そのメニュー項目名は変更されています。

### Kanban: 連動選択リストの更新

連動選択リストで、営業担当がレコードを別の列に移動できるようになりました。選択リストに連動項目がある場合、営業担当が Kanban ビューからレコードを更新するときに、すべての連動項目にアクセスして更新できます。

### カレンダー: Lightning Experience での操作性の改善

Lightning Experience に切り替えたとき、カレンダーを最大限に活用できます。カレンダー項目を処理するためにレコードを開いて時間を無駄にする必要がありません。営業担当が、行動やその他のレコードをカレンダー上でドラッグして開始日や開始時刻を更新できるようになりました。さらに、画面上の領域をより詳細に制御できるようになったため、カレンダーから直接詳細を表示するためのスペースを広く取れます。また、カレンダー上のボタンを Lightning コンポーネントで上書きすることで、[新規行動]アクションのデザインをカスタマイズできるようになりました。

### セールスコンソール: 固定サイドバー、Lightning コンソール API など


セールスコンソールで使用できる Lightning コンソールアプリケーションは、常に改善されています。レコード情報を左右のサイドバーに固定する機能が追加されました。また、Lightning コンソール Javascript API に、以前は Salesforce Classic でのみ使用可能だったメソッドが追加されました。

### Inbox: メールインサイトおよび活動ダッシュボードへの追加アクセス

Einstein メールインサイトにより、受信箱がさらにスマートになります。さらに、すべての Inbox ユーザが活動ダッシュボードを表示できます。

## Lightning Dialer: 通話監視、複数のボイスメール、ローカルプレゼンス

通話監視を使用して、より適切なコーチングを営業担当に提供します。Dialerでは、複数の録音済みボイスメールメッセージを作成でき、つながらなかった通話を記録できるようになりました。

 **メモ:** 現時点では、米国とカナダへの発信電話のみがサポートされています。

このセクションの内容:

### 通話の監視による営業担当の指導(正式リリース)

パーソナライズされたコーチングで、営業担当の営業テクニックを改善します。通話監視を使用して、営業担当の対話の強みと弱みを特定し、コーチングによって全体的な営業パフォーマンスを改善できます。

### 異なる種別の見込み客に合わせた録音済みボイスメールメッセージ

営業担当は、異なる種別の見込み客に合わせて複数のボイスメールメッセージを録音し、録音済みメッセージを受信者のボイスメールボックスにドロップ(送信)できます。Voicemail Dropの録音は1つのみという制限がなくなりました。メッセージを残す時間が短縮されれば、営業により多くの時間を割くことができます。

### 見込み客との通話時に同一地区内の番号を表示

チームの通話にエンゲージする顧客の数を増やしましょう。ローカルプレゼンスでは、営業担当が通話している見込み客と同じ市外局番で電話番号が動的に表示されるため、さらに多くの通話が応答されるようになります。電話番号は組織専用です。見込み客が電話を掛けなおすと、ローカルプレゼンスにより、最初に通話した営業担当に転送されます。

### Lightning Dialer のその他の変更

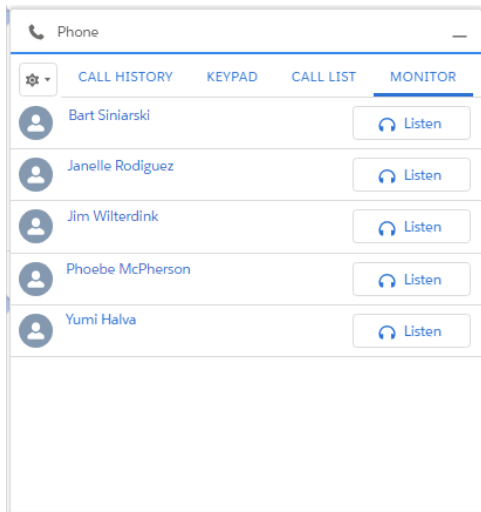
これまで発信中は、つながらなかった通話のメモを取ったり、通話を記録したりできない発信中状態が表示されました。Lightning Dialer は、発信中に自動的に [有効] 画面に移行するようになりました。見込み客が応答しない場合でも通話の詳細を記録できます。

## 通話の監視による営業担当の指導 (正式リリース)

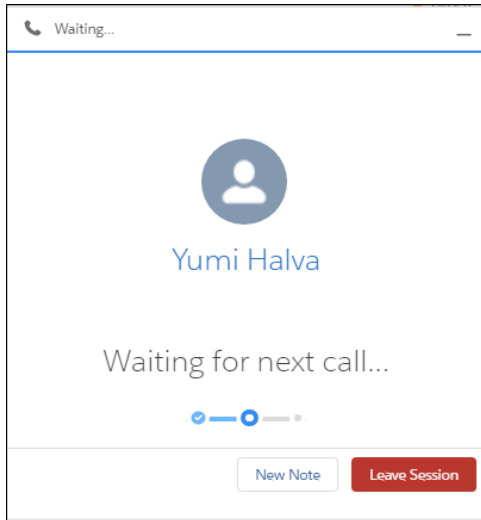
パーソナライズされたコーチングで、営業担当の営業テクニックを改善します。通話監視を使用して、営業担当の対話の強みと弱みを特定し、コーチングによって全体的な営業パフォーマンスを改善できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

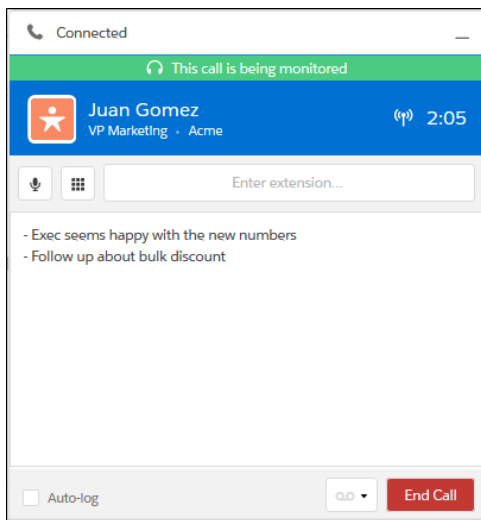
**理由:** 営業マネージャは、通話パネルの [監視] タブから営業担当を指導できます。パネルには、ロール階層に基づいてマネージャより 1 つ下のレベルのユーザが表示されます。マネージャは、[リスン] をクリックして 1 人の営業担当の通話を無音で監視できます。



Dialer は営業担当の次の電話を待ち、営業担当が電話をかけると、自動的にマネージャにつながります。



つながると、営業担当の通話相手に関連するレコードがマネージャに表示されます。マネージャは、監視セッションに関連するメモを作成することもできます。通話は無音で監視され、マネージャからの音声は通話に転送されません。通話が監視されている場合、営業担当にはバナーが表示されます。



法律で義務付けられている場合、ユーザは通話受信者に通話監視について通知し、通話受信者から要請されれば監視を中止する必要があります。

方法: 通話監視を使用するには、組織にロール階層が設定されている必要があります。

ユーザが通話監視を使用できるようにするには、「Dialer 監視へのアクセス」権限を使用した権限セットを作成し、関連するマネージャに割り当てます。

マネージャが一度に指導できる営業担当は1人だけです。監視されるのは発信電話のみです。通話監視は着信電話には使用できません。監視されるのはアウトバウンドコールのみです。監視された通話では、営業担当とマネージャ両方の通話時間がカウントされるため、通常の通話の2倍の分数が使用されます。




## 異なる種別の見込み客に合わせた録音済みボイスメールメッセージ

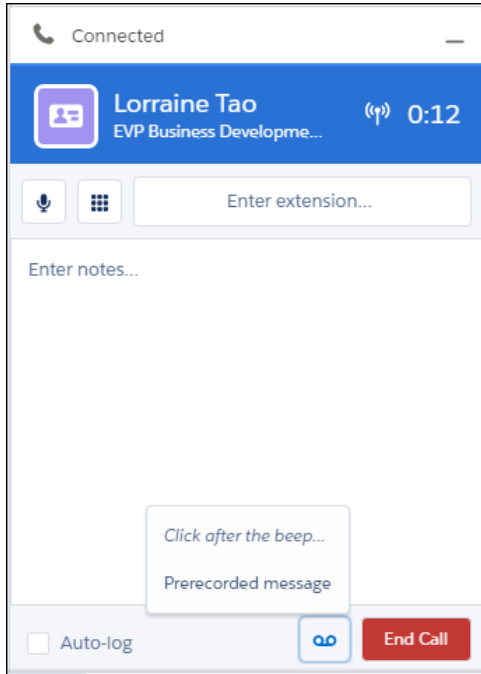
営業担当は、異なる種別の見込み客に合わせて複数のボイスメールメッセージを録音し、録音済みメッセージを受信者のボイスメールボックスにドロップ(送信)できます。Voicemail Dropの録音は1つのみという制限がなくなりました。メッセージを残す時間が短縮されれば、営業により多くの時間を割くことができます。

**対象:**この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

**理由:**個人設定の通話パネルから [Voicemail Drop 設定] を選択できます。最良の結果を得るには、録音が開始されたらすぐにメッセージを始めることをお勧めします。メッセージは最長1分間です。

Voicemail Greeting Message		New	Delete
My Greeting			
▶ [Progress Bar] 0:10			
Voicemail Drop Message		New	
TITLE	MESSAGE	CREATED DATE	
1 Longer voicemail message	▶ [Progress Bar] 0:26	4/6/2018	🗑️
2 Standard voicemail message (English)	▶ [Progress Bar] 0:17	4/6/2018	🗑️
3 Standard voicemail message (Spanish)	▶ [Progress Bar] 0:17	4/6/2018	🗑️

ボイスメールメッセージをドロップするには、ビープ音の直後に  をクリックしてメッセージを選択します。最大10件のメッセージを作成できます。



### 見込み客との通話時に同一地区内の番号を表示

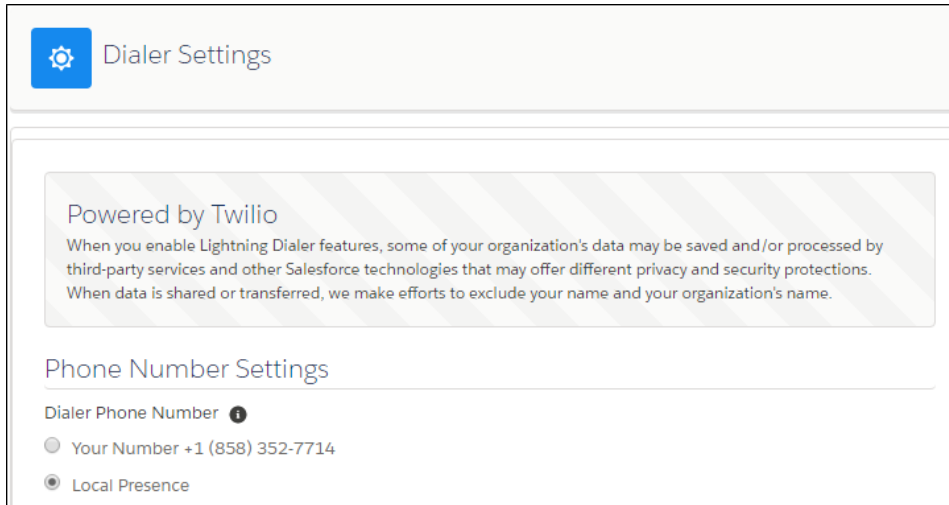
チームの通話にエンゲージする顧客の数を増やしましょう。ローカルプレゼンスでは、営業担当が通話している見込み客と同じ市外局番で電話番号が動的に表示されるため、さらに多くの通話が応答されるようになります。電話番号は組織専用です。見込み客が電話を掛けなおすと、ローカルプレゼンスにより、最初に通話した営業担当に転送されます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザー:** ローカルプレゼンスを使用するには、Dialer インバウンドと Dialer アウトバウンドの両方のライセンスが必要です。ローカルプレゼンスは米国のお客様のみが使用でき、米国の番号にのみダイヤルするために使用することを目的としています。

**理由:** 同一地区内の市外局番が表示されると、エンゲージメントが高まり、通話がより適切に見えるようになります。ローカルプレゼンス番号は組織専用です。

営業担当は、発信電話に表示される番号を個人設定から選択します。



方法: ローカルプレゼンスを有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「ローカルプレゼンス」と入力し、[ローカルプレゼンス] を選択します。最初に通話した担当者が退職した場合でも、折り返しかかってきた通話が必ず組織につながるように、デフォルトのコールバック番号を指定します。

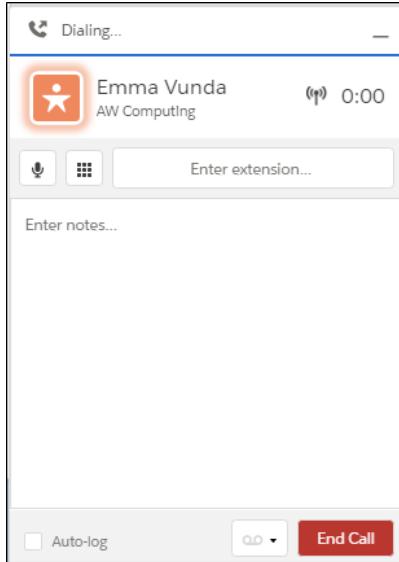
### Lightning Dialer のその他の変更

これまで発信中は、つながらなかった通話のメモを取ったり、通話を記録したりできない発信中状態が表示されました。Lightning Dialer は、発信中に自動的に [有効] 画面に移行するようになりました。見込み客が応答しない場合でも通話の詳細を記録できます。

対象: これらの変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

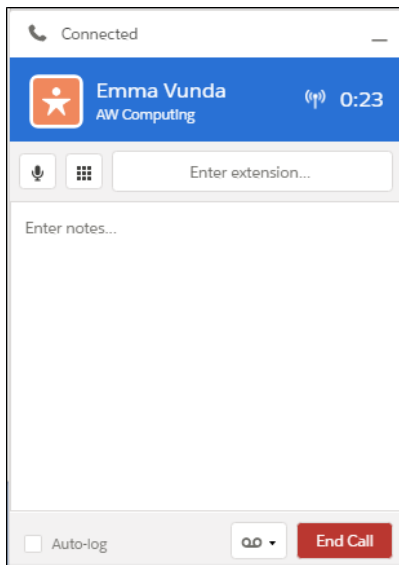
### 見込み客への発信中にメモを取る

営業担当は、電話がつながる前にメモを取ることができます。



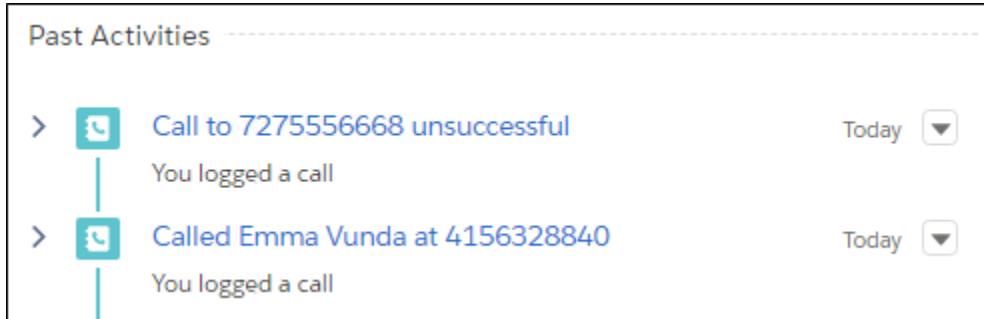
### 電話がつながったときの表示

呼び出し中状態から電話がつながると、色の推移で表示されます。



### 通話試行の記録

以前は、つながった通話のみが記録されていました。営業担当は、すべての通話試行を簡単に追跡できるようになりました。



## Einstein 活動キャプチャ: 提供範囲の拡大、メールインサイト、改善された活動タイムライン

Einstein 活動キャプチャを使用するのに Sales Cloud Einstein または Inbox ライセンスは必要ありません。さらに、メールインサイトと改善された活動タイムラインが追加されて、営業担当はインサイトを含む活動に集中できます。また、データの収集と処理の方法も制御できるようになりました。

このセクションの内容:

### 自動ログの提供

より多くの営業担当が、ログ記録を止めて、よりスマートな営業活動を開始できるようになります。Sales Cloud ライセンスを持つユーザは、Einstein 活動キャプチャを使用し、自動的にメールと行動を関連する Salesforce レコードに関連付けることができます。Sales Cloud Einstein または Inbox ライセンスはもう必要ありません。

### 活動タイムラインでのメールインサイトを使用したよりスマートなメールの処理

最適なタイミングで最適な応答を送信できます。Einstein 活動キャプチャを使用すると、ユーザは Einstein メールインサイトを取得できます。Einstein メールインサイトによって、重要な営業コンテキストが、関連するメールの横に表示され、最適なタイミングで最適な応答をより簡単に送信できるようになります。営業担当は、表示対象としてメールインサイトを含むメールのみか、すべての活動を選択できます。また、ニーズの変化に応じて表示対象を切り替えることができます。メールインサイトは、活動タイムラインと Inbox に表示されます。

### Einstein 活動キャプチャでのすべての活動履歴へのアクセス

Einstein 活動キャプチャユーザは、[すべての活動履歴] ページからすべての過去の活動とアーカイブ済みの活動にアクセスできるようになりました。活動履歴を参照することで、顧客エンゲージメントのコンテキストを理解し、特定の活動を見つけることができます。

### データポリシーの管理

Einstein 活動キャプチャと Inbox で顧客データを収集および処理する方法をより詳細に制御できるようになりました。新しい [メールと行動を削除] 設定を使用すると、Salesforce でユーザの活動が保存されることや活動タイムラインに表示されることを防ぐことができます。[機械学習から除外] 設定を使用すると、特定のユーザに関連付けられた今後のメールと行動が、機械学習モデルやサードパーティのデータ強化の対象となりません。

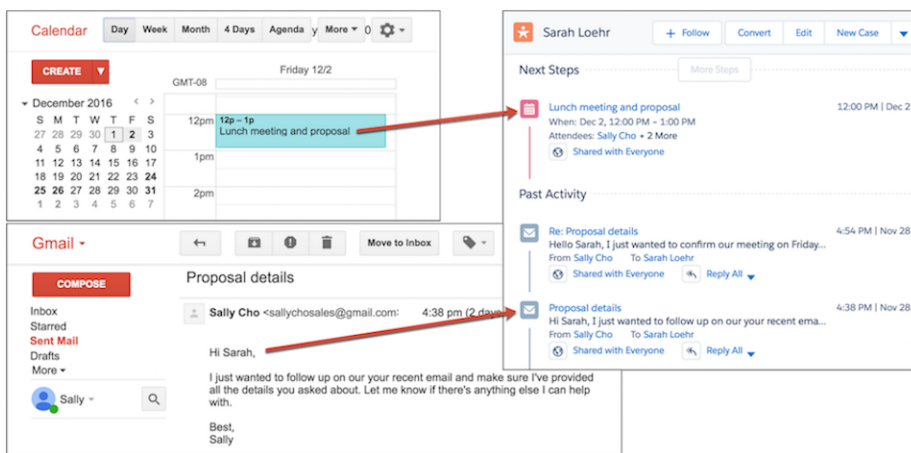
## 自動ログの提供

より多くの営業担当が、ログ記録を止めて、よりスマートな営業活動を開始できるようになります。Sales Cloud ライセンスを持つユーザは、Einstein 活動キャプチャを使用し、自動的にメールと行動を関連する Salesforce レコードに関連付けることができます。Sales Cloud Einstein または Inbox ライセンスはもう必要ありません。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Einstein 活動キャプチャを使用するには、Sales Cloud ユーザは標準 Einstein 活動キャプチャ権限セットが必要です。

理由: 営業チームが Google™ または Microsoft® のアカウントを Salesforce に接続すると、そのアカウントの活動は、Salesforce の法人取引先、個人取引先、取引先責任者、リード、商談、見積、契約に表示されます。さらに、営業担当は Activities ダッシュボードへの参照のみアクセス権を取得して、営業活動のサマリーを表示できます。



方法: [設定] で、Einstein 活動キャプチャの下にある設定アシスタントに移動します。設定アシスタントのガイドに従って、Einstein 活動キャプチャを設定および有効化するためのすべての手順を実行します。次に、標準 Einstein 活動キャプチャ権限セットを最大 100 件の Sales Cloud ユーザに割り当てます。

## 活動タイムラインでのメールインサイトを使用したよりスマートなメールの処理

最適なタイミングで最適な応答を送信できます。Einstein 活動キャプチャを使用すると、ユーザは Einstein メールインサイトを取得できます。Einstein メールインサイトによって、重要な営業コンテキストが、関連するメールの横に表示され、最適なタイミングで最適な応答をより簡単に送信できるようになります。営業担当は、表示対象としてメールインサイトを含むメールのみか、すべての活動を選択できます。また、ニーズの変化に応じて表示対象を切り替えることができます。メールインサイトは、活動タイムラインとInboxに表示されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、すべての Einstein 活動キャプチャユーザが使用できます。

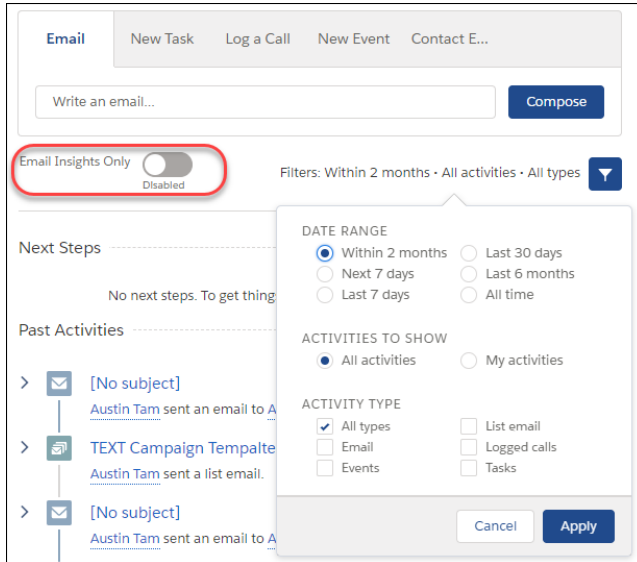
理由: メールインサイトは、営業担当に次のステップの計画に使用可能な情報を提供します。たとえば、メールインサイトに [スケジュール Intent] が表示された場合、営業担当は、リードがミーティングの設定または再

スケジュールに関心を持っていることを把握できます。営業担当は、新規または更新したミーティングの招待で迅速に対応できます。

The screenshot displays a Salesforce activity timeline for Heidi Samuels. It is divided into two main sections: 'Next Steps' and 'Past Activity'. The 'Next Steps' section shows an upcoming event with Heidi Samuels. The 'Past Activity' section shows a list of email activities, with a filter applied to show only 'Insights'. The insights shown are 'Scheduling Intent', 'Pricing Intent', 'Executive Involved', and 'Out of Office', all of which are circled in red. The timeline shows a sequence of email activities from 4:07 PM on Oct 24.

Activity	Insight	Time
This event isn't shared with you ...ask to share Upcoming event with Heidi Samuels		4:07 PM - Oct 24
This email isn't shared with you ...ask to share Alyssa Daniels sent an email to Heidi Samuels	Scheduling Intent	4:07 PM - Oct 24
Re: Salesforce Proposal Amanda Kelley sent an email to Simon Fraser	Pricing Intent	4:07 PM - Oct 24
Re: Salesforce Proposal Simon Fraser sent an email to Amanda Kelley		4:07 PM - Oct 24
Re: Salesforce Proposal Amanda Kelley sent an email to Simon Fraser		4:07 PM - Oct 24
This email isn't shared with you ...ask to share Heidi Samuels sent an email to Alyssa Daniels	Executive Involved	4:07 PM - Oct 24
Re: Salesforce Proposal Simon Fraser sent an email to Amanda Kelley		4:07 PM - Oct 24
This email isn't shared with you ...ask to share Alyssa Daniels sent an email to Heidi Samuels	Out of Office	4:07 PM - Oct 24
This email isn't shared with you ...ask to share Heidi Samuels sent an email to Alyssa Daniels		4:07 PM - Oct 24

営業担当は、インサイトを含むメールのみを表示するようにタイムラインを絞り込むことで、活動タイムラインから不要な情報を除外できます。



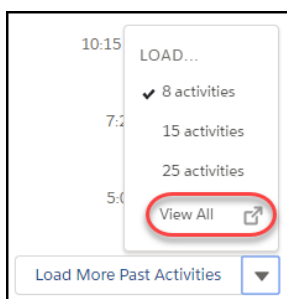
方法: メールインサイトは、Einstein 活動キャプチャを有効にすると使用できるようになります。Sales Cloud Einstein または Inbox ライセンスで Einstein 活動キャプチャを使用している場合、メールインサイトはデフォルトで有効になります。Sales Cloud ライセンスのみで Einstein 活動キャプチャを使用している場合、メールインサイトを有効にする前にメールインサイトサービスの利用規約を確認して同意する必要があります。

## Einstein 活動キャプチャでのすべての活動履歴へのアクセス

Einstein 活動キャプチャユーザは、[すべての活動履歴] ページからすべての過去の活動とアーカイブ済みの活動にアクセスできるようになりました。活動履歴を参照することで、顧客エンゲージメントのコンテキストを理解し、特定の活動を見つけることができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 活動タイムラインで、[過去の活動をさらに表示] ドロップダウンリストから [すべて表示] を選択します。



**メモ:** [すべての活動履歴] ページに表示されるのは、Salesforce で生成された活動のみです。Einstein 活動キャプチャによって追加された活動は表示されません。



## データポリシーの管理

Einstein 活動キャプチャと Inbox で顧客データを収集および処理する方法をより詳細に制御できるようになりました。新しい[メールと行動を削除]設定を使用すると、Salesforce でユーザの活動が保存されることや活動タイムラインに表示されることを防ぐことができます。[機械学習から除外]設定を使用すると、特定のユーザに関連付けられた今後のメールと行動が、機械学習モデルやサードパーティのデータ強化の対象となりません。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: これらの設定を使用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「データポリシー」と入力します。[Einstein 活動キャプチャ] の下の [データポリシー] をクリックします。

## 活動: ToDo リストビュー、ToDo の一括作成、定義済みの件名、その他

ToDo リストビューでは、テーブルビュー、分割ビュー、Kanban ビューが提供され、営業担当の生産性が飛躍的に向上します。営業担当が ToDo と行動に使用できる定義済みの件名を作成し、同僚のために ToDo のコピーを作成できます。さらに、活動タイムラインには、営業担当が関わっている ToDo のみに焦点を絞るための新しい条件オプションが追加されています。

このセクションの内容:

### リストビューの ToDo の機能強化

ToDo のリストビューを表示できるようになり、営業担当ができることが増えました。組み込みのリストビュー検索条件を使用して ToDo をすばやく見つけることができ、列は並び替え可能です。また、検索条件を適用して表示を絞り込むことができます。

### ToDo の同僚用コピーの作成

営業担当は ToDo を作成するとき、その ToDo を他のユーザやグループに割り当てることができます。各ユーザはそれぞれ ToDo のコピーを取得します。この方法により、営業担当はすばやく ToDo を一括作成できます。

### ToDo と行動の定義済み件名の作成

営業担当は定義済み件名値を使用して ToDo と行動をより早く作成できます。何が営業担当にとって最も有用であるかに基づいて件名値を定義します。

### 活動タイムラインの絞り込みオプションの追加

営業担当は、活動タイムラインを絞り込むことで、自分の活動に注目できます。さらに、タイムラインに条件サマリーが表示されるため、営業担当は条件を開いて何が有効かを確認する必要がなくなりました。また、[デフォルト (常時)] 条件が [常時] に名称変更されました。

### 活動の安全とセキュリティの維持

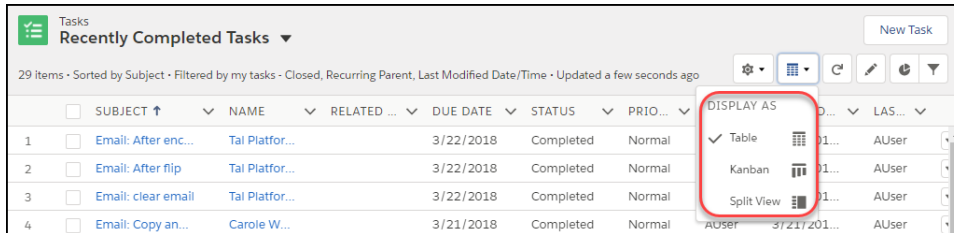
会社が個人識別情報に関する規制と義務のコンプライアンスを維持できるようにします。Shield Platform Encryption を使用して、活動内の ToDo コメントや行動の説明のセキュリティを保護します。

## リストビューの ToDo の機能強化

ToDo のリストビューを表示できるようになり、営業担当ができることが増えました。組み込みのリストビュー検索条件を使用して ToDo をすばやく見つけることができ、列は並び替え可能です。また、検索条件を適用して表示を絞り込むことができます。

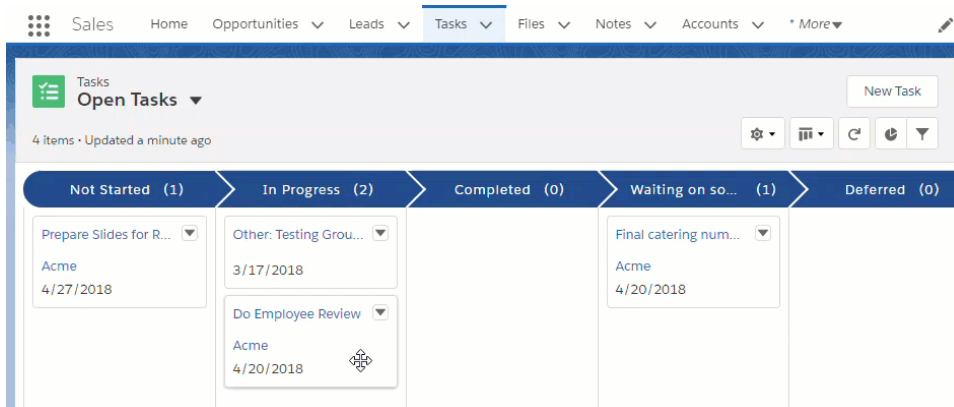
**対象:** この変更は、Personal Edition、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** ToDo を表示および管理するとき、営業担当は3つのビューで作業できます。



テーブルビューは、取引先責任者や取引先などのオブジェクトで使用できるため、多くのユーザが使い慣れています。

ユーザは [表示名] ドロップダウンリストからビューを変更できます。



Kanban ビューでは、ユーザは状況別に ToDo を表示できます。営業担当は ToDo をドラッグして状況を変更できます。

The screenshot shows the Salesforce 'Open Tasks' interface. On the left, a list of tasks is displayed with columns for 'DUE DATE', 'Task Name', and 'Assignee'. One task, 'Email: Copy and Paste test' by Carole White, is highlighted with a red box. On the right, the detailed view of this task is shown. At the top, the task title 'Email: Copy and Paste test' and date 'Mar 21' are highlighted with a red box. Below this are buttons for 'Edit Comments', 'Change Date', and 'Create Follow-Up Task'. The 'Task Information' section includes fields for 'Assigned To' (Admin User), 'Subject' (Email: Copy and Paste test), 'Due Date' (3/21/2018), and 'Comments' (To: info@salesforce.b5, CC: indy.kohl.test@gmail.com, Attachment: --none--). The 'Additional Information' section shows 'Status' (Waiting on someone else) and 'Priority' (Normal). The 'System Information' section shows 'Created By' (Admin User, 3/21/2018 2:08 PM) and 'Last Modified By' (Admin User, 3/27/2018 3:37 PM).

分割ビューでは、ユーザは ToDo の完全なリストを表示しながら 1つの ToDo をドリルダウンできます。

#### 関連トピック:

[Idea Exchange: Ability to Sort List Task List Views in Lightning \(Lightning で ToDo リストビューを並び替える機能\)](#)

[Idea Exchange: Make Task List Configurable in Tasks Page of Lightning Experience \(Lightning Experience の ToDo ページで ToDo リストを設定可能に\)](#)

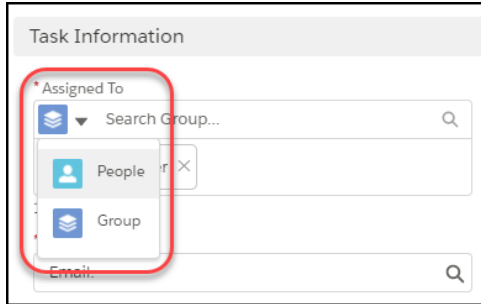
[Idea Exchange: Support Custom List Views for Tasks Tab in Lightning Experience \(Lightning Experience での \[ToDo\] タブのカスタムリストビューのサポート\)](#)

## ToDo の同僚用コピーの作成

営業担当は ToDo を作成するとき、その ToDo を他のユーザやグループに割り当てることができます。各ユーザはそれぞれ ToDo のコピーを取得します。この方法により、営業担当はすばやく ToDo を一括作成できます。

**対象:** この機能は、Personal Edition、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience で新しく導入されました。

**方法:** ToDo リストビューから ToDo を作成するとき、営業担当は他の人やグループ用に ToDo の個別のコピーを作成できます。



ToDo が保存されると、各ユーザは自分の名前が [割り当て先] 項目に表示された ToDo のコピーを入手します。

関連トピック:

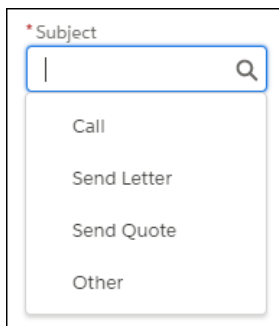
[Idea Exchange: Ability to Assign Tasks in Lightning to Multiple Users \(Lightning の ToDo を複数のユーザに割り当てる機能\)](#)

## ToDo と行動の定義済み件名の作成

営業担当は定義済み件名値を使用して ToDo と行動をより早く作成できます。何が営業担当にとって最も有用であるかに基づいて件名値を定義します。

**対象:** この機能は、Personal Edition、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションで使用できます。

**理由:** 営業担当は ToDo や行動を作成するときに、定義済みの件名 (電話、レターの送信、見積の送信など) を選択できます。これらの件名を使用することで、ToDo の種類に基づいて ToDo を整理して並び替えることができます。営業担当は、ToDo の種類を入力する必要がなく、ToDo の詳細な説明を追加することに集中できます。たとえば、営業担当は [電話] を選択してから、「今週金曜日のプレゼンテーションの確認」と追加できます。



後で営業マネージャがToDoを検索するときに、営業担当がToDoにどのような名前を付けたか(「電話」、「オフィス連絡」、「フォローアップの電話」など)を推測する必要がありません。共通のエントリである [電話] を使用することで、作業が簡単になります。

**方法:** [設定] から定義済み件名を作成できます。オブジェクトマネージャに移動し、[行動] または [ToDo] を選択します。[項目とリレーション] を選択して、[件名] を選択します。次の例では、Salesforce システム管理者がToDo 件名項目の値を事前に定義します。

Values	API Name	Default	Modified By
Call	Call	<input type="checkbox"/>	Tasks Admin User, 9/1/2017 1:32 PM
Send Letter	Send Letter	<input type="checkbox"/>	Tasks Admin User, 9/1/2017 1:32 PM
Send Quote	Send Quote	<input type="checkbox"/>	Tasks Admin User, 9/1/2017 1:32 PM
Other	Other	<input type="checkbox"/>	Tasks Admin User, 9/1/2017 1:32 PM

### 関連トピック:

[Idea Exchange: Task Subject Field as Picklist in Lightning \(Lightning での選択リストとしての ToDo 件名項目\)](#)

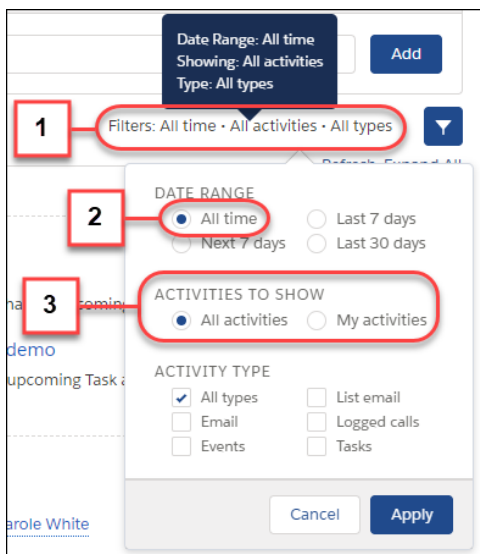
[Idea Exchange: Auto-Populate a Task Subject with a Template \(テンプレートを使用した ToDo 件名の自動入力\)](#)

## 活動タイムラインの絞り込みオプションの追加

営業担当は、活動タイムラインを絞り込むことで、自分の活動に注目できます。さらに、タイムラインに条件サマリーが表示されるため、営業担当は条件を開いて何が有効かを確認する必要がなくなりました。また、[デフォルト (常時)] 条件が [常時] に名称変更されました。

**対象:** この機能は、Personal Edition、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience で新しく導入されました。

**理由:** これらの変更により、活動タイムラインはさらに便利になりました。



条件のサマリーにユーザの条件設定が表示されます (1)。

[デフォルト (常時)] は [常時] と表示されるようになりました (2)。前のリリースと同じ日付範囲と活動種別を使用できますが、Einstein 活動キャプチャを使用しているユーザには、異なる日付範囲のセットが表示されます。

[表示する活動] オプション (3) では、営業担当が自分の活動のみを表示するかどうかを決定できます。たとえば、営業担当が、所有する取引先責任者にメールを送信すると、[私の活動]を選択したときにそれが表示されます。[すべての活動] オプションを選択すると、営業チームのすべての営業担当から取引先責任者へのメールが表示されます。

活動タイムラインに「活動タイムライン」の表示ラベルが含まれなくなりました。

## 活動の安全とセキュリティの維持

会社が個人識別情報に関する規制と義務のコンプライアンスを維持できるようにします。Shield Platform Encryption を使用して、活動内の ToDo コメントや行動の説明のセキュリティを保護します。

**対象:** この変更は、Contact Manager Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。Shield Platform Encryption では、Salesforce Shield を購入する必要があります。

**方法:** [設定] で、[クイック検索] ボックスに「プラットフォームの暗号化」と入力し、[プラットフォームの暗号化] の下で [暗号化ポリシー] を選択します。[項目を暗号化] を選択し、[編集] をクリックします。暗号化する項目を選択します。

関連トピック:

[活動の暗号化項目 \(正式リリース\)](#)

## メール操作: キャンペーンのリストメール、取引先責任者とリードのキャンペーンによる絞り込み、メール添付ファイルの管理

ユーザは、リストメールをキャンペーンとキャンペーンメンバーに送信したり、取引先責任者とリードのリストビューをキャンペーンによって絞り込んだり、メールの添付ファイルをドラッグによって簡単に含めたりすることができます。リストメールのメールアドレスを暗号化することもできます。

このセクションの内容:

### [キャンペーンおよびキャンペーンメンバーへのリストメールの送信](#)

営業担当はキャンペーンと個々のキャンペーンメンバーをリストメールの受信者として追加し、顧客へのリーチを広げることができます。リストメールは、受信者とその取引先に関する活動タイムラインに表示され、場合によってはキャンペーンにも表示されます。リストメールをログに記録すると、会社はメール活動をあらゆる角度から把握できます。

### [正確なリストメールを送信するためのキャンペーンによる絞り込み](#)

営業担当は、リードや取引先責任者のリストビューをキャンペーンメンバーシップによって絞り込むことで、より正確な受信者のセットを対象にしてリストメールを送信できます。たとえば、営業担当が展示会に招待した顧客のリストビューがあるとしみます。一部の顧客は、役員関与キャンペーンの対象となっています。この場合に、営業担当は、役員の協力を得ている顧客を簡単にフォローアップできるようになりました。

### [リストメールの暗号化](#)

会社が個人識別情報に関する規制と義務のコンプライアンスを維持できるようにします。Shield Platform Encryption を使用して、リストメールで使用される名前とメールアドレスを保護します。

### クリックの省略 — メール添付ファイルのドラッグ

何回もクリックしなくてもメールにファイルを添付できるようになりました。メールの本文にファイルをドラッグするだけです。

### メールコンポーザボタンの新しい場所

ファイルの添付、差し込み項目の挿入、テンプレートの使用、メールのプレビューの各ボタンがメールコンポーザの [関連先] 項目の上に表示されるようになりました。

### ドメインごとのメールリレーの設定

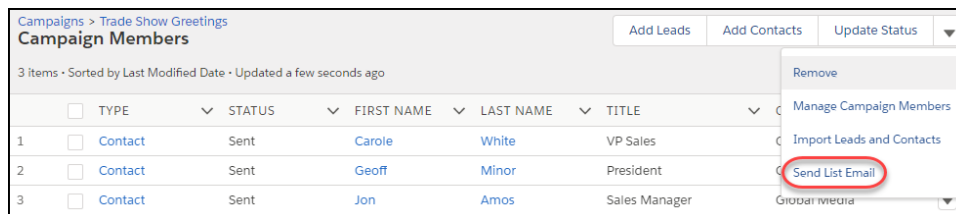
会社で複数のメールドメインからメールを送信する場合は、ドメインごとに個別のメールリレーを設定できるようになりました。メールリレーは、Salesforce から送信されたメールを会社のメールサーバを介して転送します。

## キャンペーンおよびキャンペーンメンバーへのリストメールの送信

営業担当はキャンペーンと個々のキャンペーンメンバーをリストメールの受信者として追加し、顧客へのリーチを広げることができます。リストメールは、受信者とその取引先に関する活動タイムラインに表示され、場合によってはキャンペーンにも表示されます。リストメールをログに記録すると、会社はメール活動をあらゆる角度から把握できます。

**対象:** この変更は、Contact Manager Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** キャンペーンを表示中に、営業担当は個々のキャンペーンメンバーまたはすべてのメンバーを選択し、アクションドロップダウンリストから [リストメールの送信] を選択できます。



### 関連トピック:

#### キャンペーンメンバーへのリストメールの送信

[Idea Exchange: Mass Email All Campaign Members From the Campaign View \(キャンペーンビューからのすべてのキャンペーンメンバーの一括メール送信\)](#)

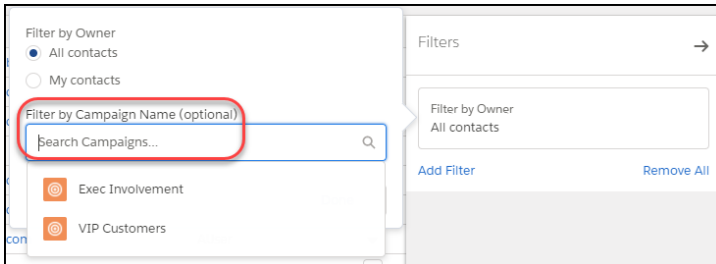
[Idea Exchange: Relate Mass Emails to Other Records, Such as Account, Opportunity, and Campaign \(他のレコード \(取引先、商談、キャンペーンなど\) への一括メールの関連付け\)](#)

## 正確なリストメールを送信するためのキャンペーンによる絞り込み

営業担当は、リードや取引先責任者のリストビューをキャンペーンメンバーシップによって絞り込むことで、より正確な受信者のセットを対象にしてリストメールを送信できます。たとえば、営業担当が展示会に招待した顧客のリストビューがあるとします。一部の顧客は、役員関与キャンペーンの対象となっています。この場合に、営業担当は、役員の協力を得ている顧客を簡単にフォローアップできるようになりました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** キャンペーンによって絞り込むには、取引先責任者またはリードのリストビューで、[所有者別に絞り込み]をクリックし、キャンペーンを選択します。そして、変更を保存します。



関連トピック:

[キャンペーンでリードおよび取引先責任者リストビューの絞り込み](#)

## リストメールの暗号化

会社が個人識別情報に関する規制と義務のコンプライアンスを維持できるようにします。Shield Platform Encryptionを使用して、リストメールで使用される名前とメールアドレスを保護します。

**対象:** この変更は、Contact Manager Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。Shield Platform Encryption では、Salesforce Shield を購入する必要があります。

**方法:** [設定] で、[クイック検索] ボックスに「プラットフォームの暗号化」と入力し、[プラットフォームの暗号化]の下で[暗号化ポリシー]を選択します。[項目を暗号化]を選択し、[編集]をクリックします。リストメールとリストメール送信結果を見つけて、暗号化する項目を選択します。

## クリックの省略 — メール添付ファイルのドラッグ

何回もクリックしなくてもメールにファイルを添付できるようになりました。メールの本文にファイルをドラッグするだけです。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[ドラッグアンドドロップによるメールへのファイル添付](#)

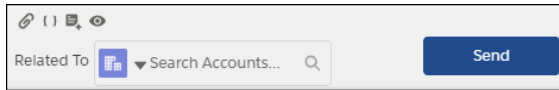
## メールコンポーザボタンの新しい場所

ファイルの添付、差し込み項目の挿入、テンプレートの使用、メールのプレビューの各ボタンがメールコンポーザの [関連先] 項目の上に表示されるようになりました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。



方法: ユーザがメールを作成するときにボタンはコンポーザの左隅に表示されます。



## ドメインごとのメールリレーの設定

会社で複数のメールドメインからメールを送信する場合は、ドメインごとに個別のメールリレーを設定できるようになりました。メールリレーは、Salesforce から送信されたメールを会社のメールサーバを介して転送します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: メールリレーを設定するには、「メール管理」、「アプリケーションのカスタマイズ」、「設定を参照」のユーザ権限が必要です。

方法:

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「メールリレーの有効化」と入力し、[メールリレーの有効化] を選択します。
2. 複数メールリレー機能を使用するには、[今すぐお試しください。] を選択します。既存のメールリレーがある場合、複数メールリレー機能を有効にすると、ホスト情報が保持されます。
3. メールリレーの設定後に、[クイック検索] ボックスに「メールドメイン検索条件」と入力し、[メールドメイン検索条件] を選択します。
4. [メールドメイン検索条件を作成] を選択します。

## メールテンプレート: メールテンプレート管理の簡略化、新しい差し込み項目言語、カスタム HTML メールテンプレート

営業担当は、さらに柔軟に Lightning メールテンプレートを使用できます。1 か所で Lightning メールテンプレートを管理し、それらを新しい差し込み項目言語で機能強化し、カスタム HTML メールテンプレートを作成し、Salesforce Classic で作成した Visualforce メールテンプレートを再利用できます。営業担当が Salesforce Classic でメールテンプレートを使用する必要がある場合、そのメニュー項目名は変更されています。

このセクションの内容:

### [Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用をセキュアなブラウザに制限 \(重要な更新\)](#)

この重要な更新は、Microsoft Internet Explorer から HTML ベースのメールテンプレート (カスタム、Visualforce、標準の HTML テンプレートなど) が使用されることを防ぎます。Internet Explorer は Salesforce コンテンツセキュリティポリシー (CSP) をサポートしていないため、必要なブラウザ保護を提供できません。Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox など、CSP をサポートするブラウザを使用することをお勧めします。

### [Lightning メールテンプレートを 1 か所で管理](#)

Lightning メールテンプレートの作成、編集、コピー、削除をすべて [メールテンプレート] ページから行うことができます。

### Salesforce Classic メールテンプレート設定の新しい名前

Salesforce Classic と Lightning Experience のメールテンプレートを区別するために、[メールテンプレート] が [Classic メールテンプレート] という名前に変更されました。

### HTML でメールテンプレートの効果を増大

メールにスタイル、タグ、属性を使用して、読者にとってより魅力的なものにします。Lightning メールテンプレートに HTML を追加できるようになりました。

### 新しい差し込み言語によるメールテンプレートの取引先責任者、リード、ユーザ差し込み項目の統合

Lightning メールテンプレートでは、新しい差し込み言語の Handlebars Merge Language (HML) で Salesforce Merge Language (SML) が置き換えられます。受信者に差し込み項目を指定すると、その差し込み項目には取引先責任者、リード、またはユーザの対応する項目が表示されます。取引先責任者、リード、ユーザをすべて 1 つのテンプレートで処理できるため、それぞれに別個のテンプレートを作成する必要がなくなります。引き続き SML テンプレートを使用することもできます。

### Visualforce メールテンプレートを Lightning Experience で使用

Salesforce Classic で作成した Visualforce メールテンプレートをすべて無駄にするのはやめましょう。営業担当はこれらのメールテンプレートを Lightning Experience で使用できます。Visualforce で使用できる機能の中には Lightning メールテンプレートで複製できないものもあるため、営業担当は Visualforce メールテンプレートを Lightning Experience で使用して、Visualforce 機能にアクセスできます。

## Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用をセキュアなブラウザに制限 (重要な更新)

この重要な更新は、Microsoft Internet Explorer から HTML ベースのメールテンプレート (カスタム、Visualforce、標準の HTML テンプレートなど) が使用されることを防ぎます。Internet Explorer は Salesforce コンテンツセキュリティポリシー (CSP) をサポートしていないため、必要なブラウザ保護を提供できません。Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox など、CSP をサポートするブラウザを使用することをお勧めします。

**対象:** この変更は、Personal Edition を除くすべてのエディションの Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** HTML ベースのテンプレートに Internet Explorer を使用しないことをお勧めしますが、この制限を上書きすることができます。[設定] の [セッション設定] の下にある [Internet Explorer を使用した Salesforce Classic の HTML ベースのメールテンプレートへのアクセスに対する制限を上書き] を選択します。

## Lightning メールテンプレートを 1 か所で管理

Lightning メールテンプレートの作成、編集、コピー、削除をすべて [メールテンプレート] ページから行うことができます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:** 営業担当は [メールテンプレート] ページを使用して、自分のすべての Lightning メールテンプレートを一元的に管理できます。

EMAIL TEMPLATE NAME	DESCRIPTION	LAST MODIFI...	LAST MODIFIED DATE
17 Lorem Ipsum 56 paragraphs	Lorem Ipsum 56 paragraphs	Admin User	3/23/2018 5:04 PM
18 New Account template created from record home		Admin User	3/20/2018 11:42 AM

営業担当はビューを作成できません。リストビューは参照のみ可能です。Classic メールテンプレートは、引き続き [設定] で管理します。

関連トピック:

[Salesforce Classic メールテンプレート設定の新しい名前](#)

[Idea Exchange: Lightning Email Template Management \(Lightning メールテンプレートの管理\)](#)

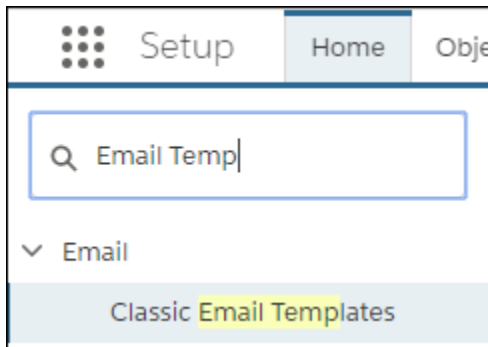
[Idea Exchange: Manage Public Templates Without View and Setup Configuration \(「設定・定義の参照」を必要としない公開テンプレートの管理\)](#)

## Salesforce Classic メールテンプレート設定の新しい名前


Salesforce Classic と Lightning Experience のメールテンプレートを区別するために、[メールテンプレート] が [Classic メールテンプレート] という名前に変更されました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** [設定] の名前 [Classic メールテンプレート] によって、このオプションが Classic メールテンプレート専用であることが明確になります。



**方法:** [設定] から、[クイック検索] ボックスに「メールテンプレート」と入力し、[Classic メールテンプレート] を選択します。

 **メモ:** Lightning Experience では、Classic メールテンプレートには [設定] を介してのみアクセスできます。

## HTML でメールテンプレートの効果を増大

メールにスタイル、タグ、属性を使用して、読者にとってより魅力的なものにします。Lightning メールテンプレートに HTML を追加できるようになりました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** Lightning メールテンプレートの作成または編集時に、[ソース]をクリックします。HTML タグおよびコンテンツを編集できます。プレビューを確認するには、再度[ソース]をクリックします。

The screenshot shows the 'New Email Template' form. The 'Email Template Name' is 'Trade Show Thanks' and the 'Related Entity Type' is '-- None --'. The 'Description' is 'Thanking booth visitors'. The 'Subject' is 'Thanks for Visiting!'. The 'HTML Value' field contains the following code:

```
<html style="overflow-y: hidden;">
<head>
<title></title>
</head>
<body><span style="font-size:12px;"><span style="font-family:arial, helvetica, sans-serif;">Dear&nbsp;{{Recipient.FirstName}},<br />
<br />
Thanks for visiting our booth at last week's trade show.<br />
<br />
Regards,<br />
<br />
{{Sender.FirstName}}</span></span></body>
</html>
```

#### 関連トピック:

[Idea Exchange: Create HTML Lightning Email Templates \(HTML Lightning メールテンプレートの作成\)](#)

[Idea Exchange: Create Quality HTML Email Templates with Editable Regions \(編集可能な領域を使用した品質の高いHTML メールテンプレートの作成\)](#)

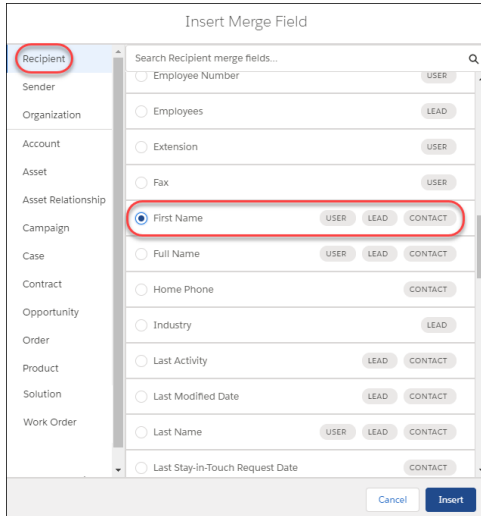
## 新しい差し込み言語によるメールテンプレートの取引先責任者、リード、ユーザ差し込み項目の統合

Lightning メールテンプレートでは、新しい差し込み言語の Handlebars Merge Language (HML) で Salesforce Merge Language (SML) が置き換えられます。受信者に差し込み項目を指定すると、その差し込み項目には取引先責任者、リード、またはユーザの対応する項目が表示されます。取引先責任者、リード、ユーザをすべて1つのテンプレートで処理できるため、それぞれに別個のテンプレートを作成する必要がなくなります。引き続き SML テンプレートを使用することもできます。

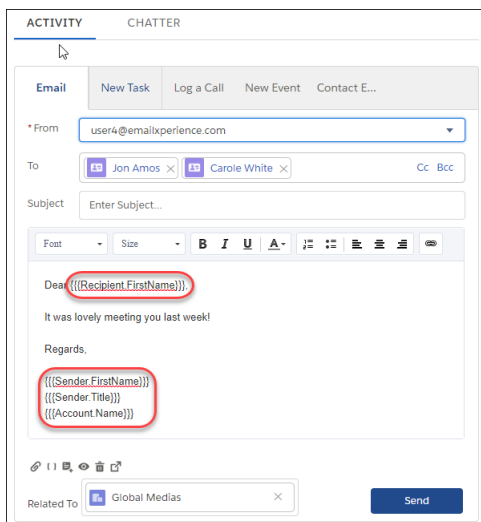
**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** Lightning Experience でテンプレートを作成するか、既存のテンプレートを開きます。

メールテンプレートで  をクリックして差し込み項目ピッカーを開き、差し込み項目を挿入します。



差し込み項目では新しい形式 `{{{Object.Field}}}` を使用します。



**メモ:** Salesforce の HML 実装は、Handlebars テンプレート言語に基づいていますが、すべての Handlebars 機能が含まれているわけではありません。


## Visualforce メールテンプレートを Lightning Experience で使用

Salesforce Classic で作成した Visualforce メールテンプレートをすべて無駄にするのはやめましょう。営業担当はこれらのメールテンプレートを Lightning Experience で使用できます。Visualforce で使用できる機能の中には Lightning メールテンプレートで複製できないものもあるため、営業担当は Visualforce メールテンプレートを Lightning Experience で使用して、Visualforce 機能にアクセスできます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** Visualforce メールテンプレートは通常のメールでのみ使用でき、リストメールでは使用できません。

テンプレートが挿入された後、件名と本文は参照のみになります。動的添付ファイルは表示されますが、無効で、削除できません。

 **メモ:** ケースで Visualforce メールテンプレートを使用することはできません。

関連トピック:

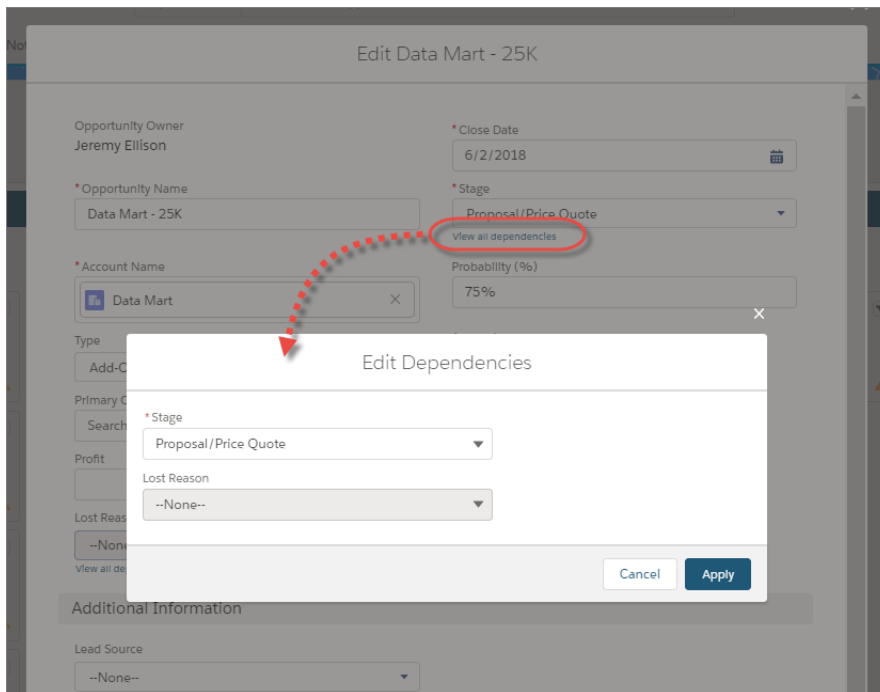
[Idea Exchange: Visualforce Email Templates in Lightning Experience \(Lightning Experience での Visualforce メールテンプレート\)](#)

## Kanban: 連動選択リストの更新

連動選択リストで、営業担当がレコードを別の列に移動できるようになりました。選択リストに連動項目がある場合、営業担当が Kanban ビューからレコードを更新するときに、すべての連動項目にアクセスして更新できます。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** Kanban ビューからレコードを編集し、連動選択リスト項目の下にある [すべての連動関係を参照] をクリックして、連動項目を表示および更新します。



## カレンダー: Lightning Experience での操作性の改善

Lightning Experienceに切り替えたとき、カレンダーを最大限に活用できます。カレンダー項目を処理するためにレコードを開いて時間を無駄にする必要がありません。営業担当が、行動やその他のレコードをカレンダー上でドラッグして開始日や開始時刻を更新できるようになりました。さらに、画面上の領域をより詳細に制御できるようになったため、カレンダーから直接詳細を表示するためのスペースを広く取れます。また、カレンダー上のボタンをLightning コンポーネントで上書きすることで、[新規行動]アクションのデザインをカスタマイズできるようになりました。

このセクションの内容:

### Lightning Experience でカレンダー項目をドラッグして更新

営業担当は、ミーティング、ToDo、またはその他の時間的制約のあるレコードを新しい時間枠にドラッグし、すばやく簡単にミーティングの再スケジュールや期日の更新を行うことができます。カレンダー上のレコードを更新するために、レコード詳細ページにクリックスルーする必要はありません。この機能は優れたアクセシビリティオプションをサポートしているため、営業担当はマウスまたはスペースキーと矢印キーを使用して項目をドラッグできます。

### Lightning Experience のカレンダービューの強化

カレンダーのサイドパネルの詳細を非表示にすることで、行動の詳細の編集や表示が(特に画面が小さなデバイスで)しやすくなります。

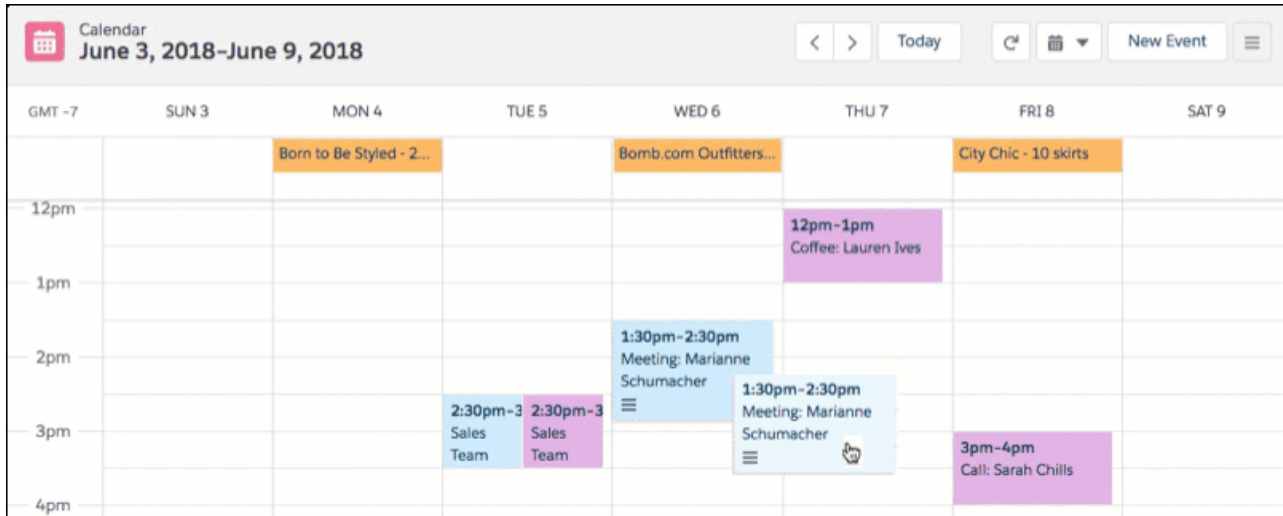
### Lightning Experience でのカレンダーの [新規行動] ボタンの上書き

[新規行動]アクションをビジネスプロセスにとって最も重要なアクションになるようにカスタマイズし、チームがカレンダーから直接そのアクションを実行できます。カスタム Lightning コンポーネントを使用すると、これが可能になります。

## Lightning Experience でカレンダー項目をドラッグして更新

営業担当は、ミーティング、ToDo、またはその他の時間的制約のあるレコードを新しい時間枠にドラッグし、すばやく簡単にミーティングの再スケジュールや期日の更新を行うことができます。カレンダー上のレコードを更新するために、レコード詳細ページにクリックスルーする必要はありません。この機能は優れたアクセシビリティオプションをサポートしているため、営業担当はマウスまたはスペースキーと矢印キーを使用して項目をドラッグできます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。



#### 関連トピック:

[生産性の機能: Lightning Experience の考慮事項](#)

[IdeaExchange: Enable Drag and Drop Functionality for Lightning Calendar \(Lightning カレンダーのドラッグアンドドロップ機能の有効化\)](#)

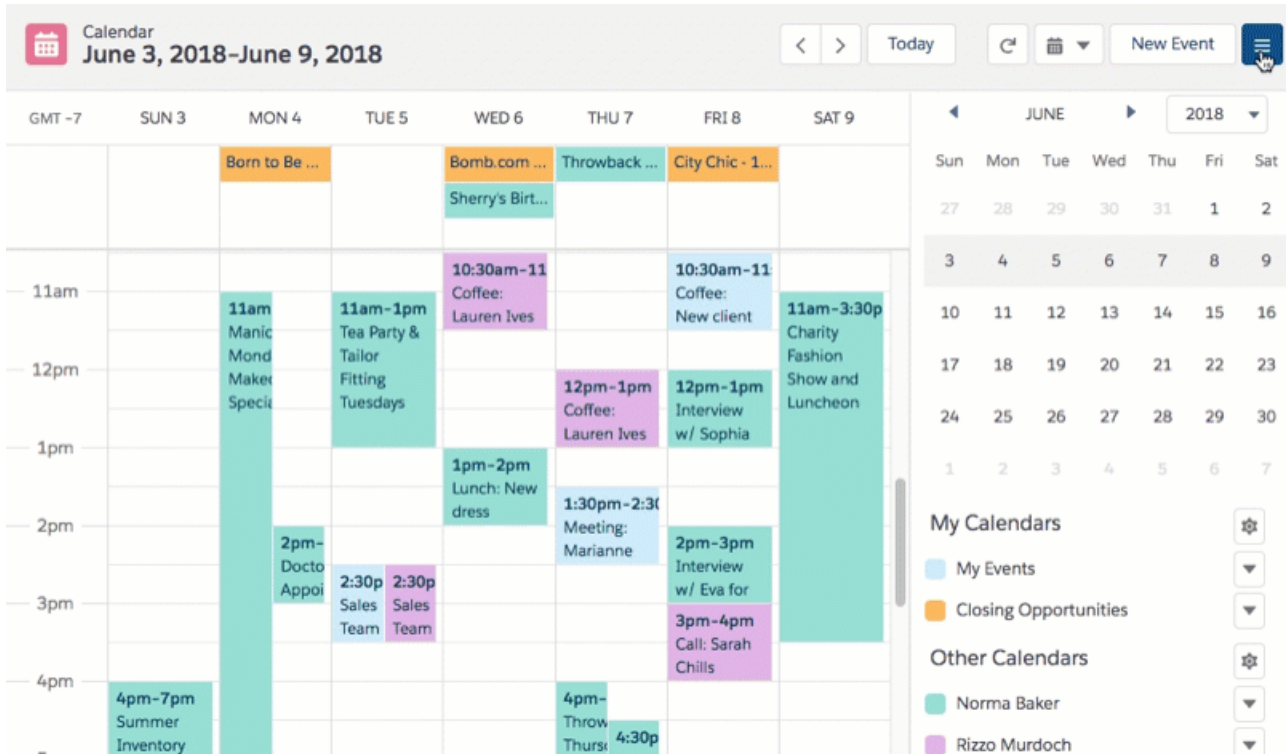
### Lightning Experience のカレンダービューの強化

カレンダーのサイドパネルの詳細を非表示にすることで、行動の詳細の編集や表示が(特に画面が小さなデバイスで)しやすくなります。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:** カレンダーのサイドパネルには役に立つ詳細とオプションが含まれていますが、画面スペースが限られている場合、それらの詳細が貴重な領域を占めてしまうことがあります。今後、より小さなデバイスでもカレンダーの変更がより簡単になります。より集中して今後の行動を確認することもできます。





## Lightning Experience でのカレンダーの [新規行動] ボタンの上書き

[新規行動]アクションをビジネスプロセスにとって最も重要なアクションになるようにカスタマイズし、チームがカレンダーから直接そのアクションを実行できます。カスタム Lightning コンポーネントを使用すると、これが可能になります。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:** [新規行動] ボタンを Lightning コンポーネントで上書きし、行動のデザインをカスタマイズします。たとえば、チームがページで操作するインターフェース要素を変更できます。ユーザは行動の場所をテキスト項目内で入力するのではなく地図やドロップダウンメニューから選択できます。これで、Lightning Experience でカレンダーから行動を作成したときに、チームにこのカスタマイズを表示できます。

[新規行動] のカスタマイズにはいくつかの制限があります。たとえば、上書きで使用する Lightning コンポーネントに含めることができるのは、標準の行動項目のみです。また、カレンダーの時間枠をクリックしたチームメンバーには、カスタマイズしたアクションではなく、標準の行動アクションが引き続き表示されます。

**方法:** まず、開発者と協力して、適切なインターフェースを実装するカスタム Lightning コンポーネントを作成します。次に、[設定] で、行動のオブジェクト管理設定から、[ボタン、リンク、およびアクション] に移動します。ここで、標準の [新規行動] ボタンをカスタム Lightning コンポーネントで上書きします。

以前に[新規行動]の上書きを行っている場合は、ボタンが現在参照している場所を確認します。これまで上書きはサポートされませんでした。ボタンプロパティを編集して変更を保存することはできました。Summer '18から、[新規行動]への既存のすべての上書きが Lightning Experience でチームに表示されるようになります。

関連トピック:


[生産性の機能: Lightning Experience の考慮事項](#)

[Salesforce アプリケーションでは機能上の差異があるか使用不可となる Summer '18 の機能](#)

## セールスコンソール: 固定サイドバー、Lightning コンソール API など

セールスコンソールで使用できる Lightning コンソールアプリケーションは、常に改善されています。レコード情報を左右のサイドバーに固定する機能が追加されました。また、Lightning コンソール Javascript API に、以前は Salesforce Classic でのみ使用可能だったメソッドが追加されました。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Sales Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** Lightning コンソールアプリケーションは、まだ Salesforce Classic コンソールアプリケーションと完全に同じ機能を使用できるわけではありません。たとえば、転送通知やマルチモニターサポートなどの Salesforce Classic コンソールアプリケーションの一部の機能は、Lightning コンソールアプリケーションでは使用できません。[詳細はこちら](#)。

Salesforce Classic コンソールアプリケーションを Lightning Experience にアップグレードまたは移行することはできません。

**方法:** セールスコンソールでは次の新機能を使用できます。

### 新しい Lightning コンソール JavaScript API を使用したタブ更新の自動化、ナビゲーション項目の変更、ユーティリティ項目のクリックのリスン

Salesforce は Lightning コンソール JavaScript API に、より多くのメソッドを追加するよう取り組んできました。Salesforce コンソールインテグレーションツールキットの JavaScript API で実行できたいくつかの機能が Lightning Experience で使用できるようになりました。Lightning コンソール JavaScript API に新しく追加されたメソッドは、`focusNavigationItem()`、`getNavigationItems()`、`getSelectedNavigationItem()`、`refreshNavigationItem()`、`refreshTab()`、`onUtilityClick()` です。

### ワークスペースと有効なサブタブをアドレスバーからコピーして共有

エージェント、営業担当、および他のコンソールユーザは URL をアドレスバーから直接コピーしてワークスペースと有効なサブタブをすばやく共有できます。

### ワークスペースタブとサブタブでカスタム Lightning コンポーネントを開く

URL が古くなることを心配する必要はなくなりました。`openTab()` と `openSubtab()` を新しい `lightning:isUrlAddressible` コンポーネントと共に使用して、カスタム Lightning コンポーネントをワークスペースで直接開きます。

### コンソールアプリケーションで右サイドバーと左サイドバーを固定

固定領域は、ユーザが Lightning コンソールアプリケーションのサブタブ間を移動しても、表示されたままになっています。前回のリリースでは、固定領域 Lightning ページテンプレートが導入されました。このリリースでは、別のテンプレートが導入されます。[コンソール: 固定された左右のサイドバー] テンプレート

を使用して Lightning コンソールアプリケーションをカスタマイズすると、ユーザは両側のサイドバーでコード情報を参照したり、使用したりできます。

### Lightning Experience と Salesforce モバイルアプリケーションの新しい URL 形式

正式なサポートです。新しい URL 形式が現れました。ポインタを組織の領域に設定した場合、短くてわかりやすい URL を利用できるようになりました。

## Inbox: メールインサイトおよび活動ダッシュボードへの追加アクセス

Einstein メールインサイトにより、受信箱がさらにスマートになります。さらに、すべての Inbox ユーザが活動ダッシュボードを表示できます。

- 🔗 **メモ:**一部のサービスおよびサブスクリプションでは、この機能が有料オプションで用意されています。価格設定についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

### Einstein メールインサイトを使用した優先度の予測

Einstein メールインサイトを使用して、受信箱で費やす時間を削減し、次の商談を成立させるために多くの時間を割けるようになります。Einstein は、受信箱の中の重要なメールにフラグを付け、返信方法の推奨事項を提供します。この変更は iOS および Android の Salesforce Inbox に適用されます。

### すべての Inbox ユーザに Activities ダッシュボードへのアクセス権を付与

Inbox ライセンスで Einstein 活動キャプチャを使用する場合、すべての Inbox ユーザに Activities ダッシュボードへの参照のみアクセス権が付与されます。Activities ダッシュボードでは、Einstein 活動キャプチャによって追加された活動など、営業活動の概要が提供されます。

### 推奨されるコネクションを使用したネットワークの拡大

ネットワーク内の重要なコネクションを表示して、営業担当が Einstein で新規ビジネスを発見できるようにします。次に、見込み客にコンタクトした同僚のプロファイルを表示してメールを送信し、インサイトや紹介を求めることができます。

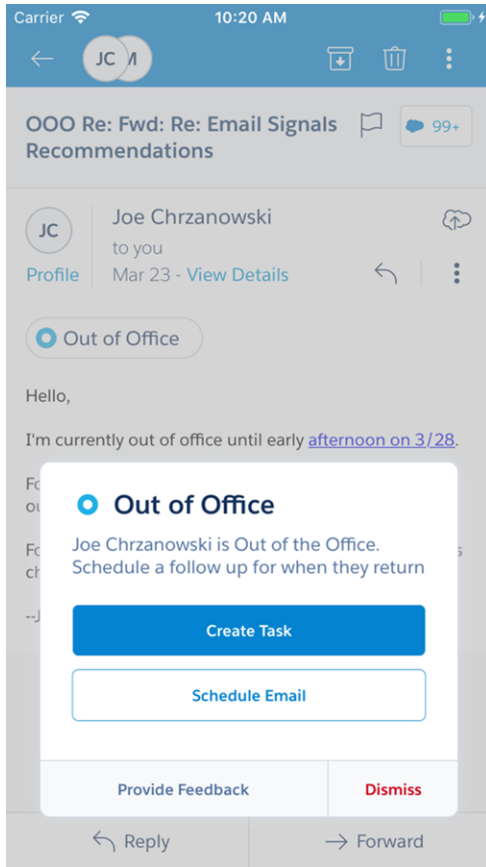
## Einstein メールインサイトを使用した優先度の予測

Einstein メールインサイトを使用して、受信箱で費やす時間を削減し、次の商談を成立させるために多くの時間を割けるようになります。Einstein は、受信箱の中の重要なメールにフラグを付け、返信方法の推奨事項を提供します。この変更は iOS および Android の Salesforce Inbox に適用されます。

**対象:**この変更は、Lightning Experience および Salesforce Inbox モバイルアプリケーションのすべてのバージョンに適用されます。

**理由:**メールを従来よりも簡単に管理できる 4 つのインサイトがあります。

- **エグゼクティブ関与済み:**新しいエグゼクティブレベルの意思決定者にコピーされているメールが顧客から送信されてきました。
- **スケジュール Intent:** ミーティングをスケジュールする行動要請が含まれたメールを受信しました。
- **価格設定記載済み:**受信したメールの件名または本文中に価格設定の記載がありました。
- **不在通知:**現在、連絡先の担当者が席を外しています。誰か他の人でフォローアップする必要があります。



**方法:** Einstein がメールインサイトがあると判断すると、メールの上部に通知が表示されます。営業担当がインサイトをタップすると、フォローアップアクションのリストが表示されます。たとえば、誰かの不在を Einstein が検出した場合、営業担当は ToDo を作成またはメールをスケジュールできます。

## すべての Inbox ユーザに Activities ダッシュボードへのアクセス権を付与

Inbox ライセンスで Einstein 活動キャプチャを使用する場合、すべての Inbox ユーザに Activities ダッシュボードへの参照のみアクセス権が付与されます。Activities ダッシュボードでは、Einstein 活動キャプチャによって追加された活動など、営業活動の概要が提供されます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザ:** Inbox ユーザが Activities ダッシュボードを表示するには、「参照のみライセンス付きのテンプレートとアプリケーションにアクセス」権限が必要です。

**理由:** これまで、Einstein 活動キャプチャを Inbox ライセンスで使用していた場合、Activities ダッシュボードへのアクセス権は 5 ユーザにしか付与できませんでした。他の Inbox ユーザにこのダッシュボードへの参照のみアクセス権を付与すれば、全員がデータをより深く理解できます。

**方法:** Summer '18 で Inbox を初めて使用する場合、「参照のみライセンス付きのテンプレートとアプリケーションにアクセス」権限は、Einstein 活動キャプチャ権限セットにより Inbox 内ですでに有効になっています。Summer '18 より前に Inbox を使用していた場合、「参照のみライセンス付きのテンプレートとアプリケーションにアクセス」権限は、Einstein 活動キャプチャ権限セットまたはカスタム権限セットにより Inbox に含まれるようにな

りました。権限を有効にするだけです。その後、営業担当は [Activities ダッシュボード] タブをクリックして Activities ダッシュボードを表示できます。

## 推奨されるコネクションを使用したネットワークの拡大

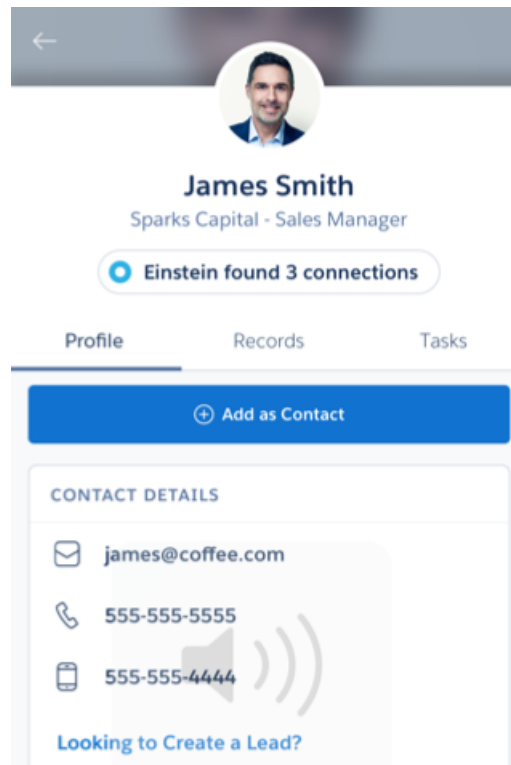
ネットワーク内の重要なコネクションを表示して、営業担当が Einstein で新規ビジネスを発見できるようにします。次に、見込み客にコンタクトした同僚のプロファイルを表示してメールを送信し、インサイトや紹介を求めることができます。

内容: Einstein には、コネクションの強みやその要因が表示されます。たとえば、コネクションの強みは、同僚と見込み客間で多くのメールやミーティングが行われていることに起因します。

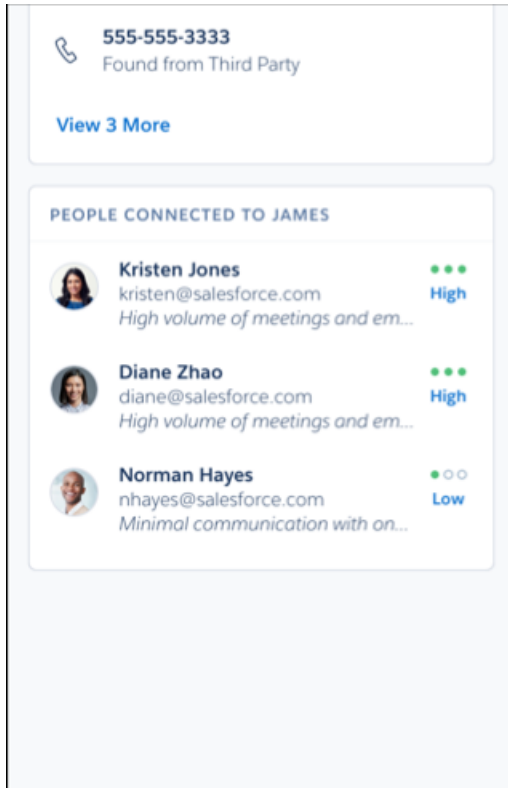
対象: この変更は、Inbox for iOS/Android に適用されます。

理由: あなたと見込み客の共通の知人があなたを見込み客に紹介すれば、見込み客がメールを開く可能性が高くなります。

方法: 営業担当は、取引先責任者カードの上部から Einstein によって検出された新規コネクションをクリックし、どの同僚が見込み客と最も強いコネクションを持っているのかを確認します。次に、同僚を選択して、プ



ロファイルを表示して同僚にメールを送信します。



## データ品質: 重複管理、Lightning Data

カスタムオブジェクトで重複ジョブを実行して重複レコードを特定します。またLightning Dataにより、使いやすさの向上、一致率の向上、より正確な状況、および通貨の換算という利点が得られます。

このセクションの内容:

### 重複管理: カスタムオブジェクトでの重複ジョブの実行

重複ジョブの対象は、取引先、取引先責任者、およびリードのみではなくなりました。ビジネスプロセスをサポートするために作成したカスタムオブジェクトで、ジョブを実行できるようになりました。項目ごとの比較とレコードの結合はサポートされていません。

### Lightning Data: より明確な表示ラベル、項目の対応付けの制御、レビュー済み状況、通貨の換算

アカウントマネージャがレコードのデータが更新されたか確認するとき、より明確なインターフェースを使用できれば喜ばれることでしょう。あなたが更新するレコードの項目の対応付けを完全に制御し、レコードの正確なデータ状況を把握できれば誰もが満足することでしょう。Lightning Dataパッケージを使用して換算された通貨の値を取得し、ベンダーIDによる一致を指定します。新しい一致スコア設定を使用して、重要なビジネス上の決定を後押しできます。さらに、営業担当がインポートする会社を選択するときに、Lightning Data クレジットの残りの数が表示されるようになりました。

## 重複管理: カスタムオブジェクトでの重複ジョブの実行

重複ジョブの対象は、取引先、取引先責任者、およびリードのみではなくなりました。ビジネスプロセスをサポートするために作成したカスタムオブジェクトで、ジョブを実行できるようになりました。項目ごとの比較とレコードの結合はサポートされていません。

対象: この変更は、Performance Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: グローバルな重複の管理 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## Lightning Data: より明確な表示ラベル、項目の対応付けの制御、レビュー済み状況、通貨の換算

アカウントマネージャがレコードのデータが更新されたか確認するとき、より明確なインターフェースを使用できれば喜ばれることでしょう。あなたが更新するレコードの項目の対応付けを完全に制御し、レコードの正確なデータ状況を把握できれば誰もが満足することでしょう。Lightning Data パッケージを使用して換算された通貨の値を取得し、ベンダー ID による一致を指定します。新しい一致スコア設定を使用して、重要なビジネス上の決定を後押しできます。さらに、営業担当がインポートする会社を選択するときに、Lightning Data クレジットの残りの数が表示されるようになりました。

このセクションの内容:

### データインテグレーション表示ラベルの変更

明確化するために、データインテグレーションルールのフローの表示ラベルが変更されました。

### Lightning Data 更新時の項目の対応付けの詳細な制御

更新するレコードのデータインテグレーションルールの対応付けで、更新する項目が見つかりませんか? 対応付けに独立したままにする項目が含まれていますか? 特定の Lightning Data パッケージで、対応付けられた項目を追加または削除できるようになりました。

### 信頼できるレビューしたレコードの状況

営業チームの誰かがサードパーティデータサービスからの新規データを却下すると、それらのレコードの状況は [レビュー済み] に変更されます。それらのレコードは、誰かがレコードを手動で更新するか、データサービスレコードが使用できなくなるまで、その状況を保持するようになりました。以前は、[レビュー済み] 状況はデータインテグレーションルールが実行されるたびに [不一致] に戻されていました。

### Lightning Data レコードの通貨の値の換算

経済はグローバルです。あなたのデータはどうでしょうか? Lightning Data パッケージでは、通貨の値が米ドルからレコードの通貨に換算されるようになりました。通貨種別項目に対応付けられた数値項目は、マルチ通貨を有効化したときに定義した換算レートを使用して換算されます。

### ベンダーの一意の ID を使用したデータインテグレーションルールの一致の指定

Salesforce とデータサービス間のレコードの一致を制御する別の方法としてベンダーの一意の ID (たとえば Dun & Bradstreet パッケージの DUNS Number) があります。ID 項目に ID が入力されると、既存の一致は上書きされます。

### Lightning Data の一致の最小信頼性スコアのテストによる重要な決定の後押し

顧客をより深く理解するため、営業のセグメント化などの重要な決定を後押しするデータを特定します。一部の Lightning Data パッケージのルール設定にある新しい一致の信頼性スコアの設定は調整可能で、レコードとの一致の精度を制御できます。データサービスプロバイダが各パッケージのデフォルトのスコアを設定します。パッケージルールを有効化する前に、デフォルトのスコアをテストすることをお勧めします。

### 取引先をインポートする前の Lightning Data クレジットの残りの表示

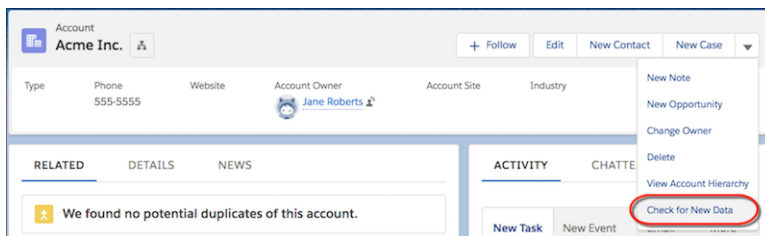
営業担当は会社の検出を使用して、取引先としてインポートする会社の選択時により効果的な戦略を立てられるようになりました。営業担当がインポートする会社を選択するときに、Lightning Data クレジットの残りの数が表示されます。

## データインテグレーション表示ラベルの変更

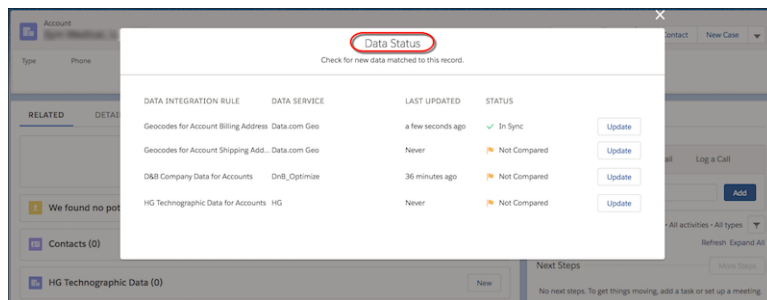
明確化するために、データインテグレーションルールのフローの表示ラベルが変更されました。

対象: これらの変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:



レコードの [インテグレーション状況を確認] アクションは、[新規データの確認] に変更されました。



ユーザがアクションをクリックしたときに開くダイアログボックスのタイトル、[データインテグレーション状況を確認] は、[データ状況] に変更されました。

関連トピック:

[データ品質: 重複管理、Lightning Data](#)



## Lightning Data 更新時の項目の対応付けの詳細な制御

更新するレコードのデータインテグレーションルールの対応付けで、更新する項目が見つかりませんか? 対応付けに独立したままにする項目が含まれていますか? 特定の Lightning Data パッケージで、対応付けられた項目を追加または削除できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、標準オブジェクトに項目を追加する Lightning Data パッケージで使用できます (項目はカスタムオブジェクトへのルックアップです)。

方法: [設定] で [クイック検索] ボックスを使用して、[データインテグレーションルール] を検索し、ルールを開きます。

[項目の対応付けを編集する] をクリックし、[更新] タブをクリックします。項目を追加または削除します。

The screenshot shows a configuration window for mapping data service fields to account fields. The 'UPDATE' tab is active. Under 'DATA SERVICE FIELDS', the 'Primary Address State Province' field is selected. Under 'ACCOUNT FIELDS', the 'Billing State/Province' field is selected. A red circle highlights the 'Add Field' button at the bottom left.

### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: データインテグレーションルールの項目の対応付けの編集 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## 信頼できるレビューしたレコードの状況

営業チームの誰かがサードパーティデータサービスからの新規データを却下すると、それらのレコードの状況は [レビュー済み] に変更されます。それらのレコードは、誰かがレコードを手動で更新するか、データサービスレコードが使用できなくなるまで、その状況を保持するようになりました。以前は、[レビュー済み] 状況はデータインテグレーションルールが実行されるたびに [不一致] に戻されていました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

## Lightning Data レコードの通貨の値の換算

経済はグローバルです。あなたのデータはどうでしょうか? Lightning Data パッケージでは、通貨の値が米ドルからレコードの通貨に換算されるようになりました。通貨種別項目に対応付けられた数値項目は、マルチ通貨を有効化したときに定義した換算レートを使用して換算されます。

**対象:**この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: データインテグレーションルールについて把握すべき事項\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## ベンダーの一意の ID を使用したデータインテグレーションルールの一致の指定

Salesforce とデータサービス間のレコードの一致を制御する別の方法としてベンダーの一意の ID (たとえば Dun & Bradstreet パッケージの DUNS Number) があります。ID 項目に ID が入力されると、既存の一致は上書きされます。

**対象:**この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:**取引先、取引先責任者、またはリードのレイアウトにベンダーの ID 項目を追加します。

## Lightning Data の一致の最小信頼性スコアのテストによる重要な決定の後押し

顧客をより深く理解するため、営業のセグメント化などの重要な決定を後押しするデータを特定します。一部の Lightning Data パッケージのルール設定にある新しい一致の信頼性スコアの設定は調整可能で、レコードとの一致の精度を制御できます。データサービスプロバイダが各パッケージのデフォルトのスコアを設定します。パッケージルールを有効化する前に、デフォルトのスコアをテストすることをお勧めします。

**対象:**この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:**ルールを開き、[ルール設定の編集] をクリックし、[一致の信頼性] 設定を探します。

The screenshot shows the 'Data Integration Rules' configuration page in Salesforce. The 'Match Confidence' section is highlighted with a red circle. It contains the following text: 'Before activating this rule, test the match confidence score.' and 'Minimum score for determining a match: 6'. There are 'Save' and 'Cancel' buttons at the bottom.

この設定は 2 つの方法でテストできます。

- ルールのデータ評価を実行します。設定を調整して別の評価を実行し、一致率を比較します。
- Sandbox でルールを実行します。結果を調べ、期待どおりの一致があるかどうか確認します。特に最小スコアを高くする場合、ルールを実行するたびに Sandbox を更新して一致をクリアします。

高い最小スコアから開始し、最も正確な一致を取得してみてください。そこからスコアを低くして、一致候補の幅を広げます。

レコードが作成されたとき、および Summer'18 より前に一致しなかったレコードで一致が見つかったときにのみ、有効なルールがこの設定に適用されます。既存の一致は保持され、上書きされません。

関連トピック:

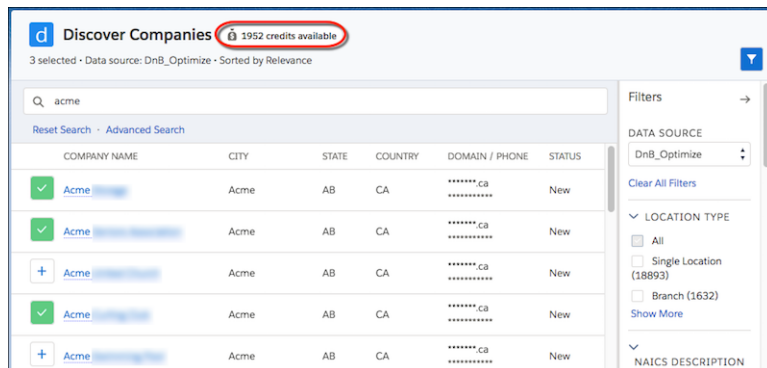
[Salesforce ヘルプ:一致の信頼性スコアのテスト\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## 取引先をインポートする前の Lightning Data クレジットの残りの表示

営業担当は会社の検出を使用して、取引先としてインポートする会社の選択時により効果的な戦略を立てられるようになりました。営業担当がインポートする会社を選択するときに、Lightning Data クレジットの残りの数が表示されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: カウンタには、営業担当に割り当てられたクレジットの残り、または組織全体のクレジットの残りのいずれか少ない方が表示されます。



## Lightning for Gmail: 焦点を絞ったデザインとメールの記録操作の改善

営業担当が Gmail™ と Google Calendar™ で Salesforce レコードをより迅速に処理できるようになりました。アプリケーション機能と Salesforce データが整理されてスペースが最大化され、アクセスしやすくなりました。メールの記録操作が改善され、従来よりも簡単にメールを Salesforce レコードに記録できるようになりました。

このセクションの内容:

### 改良されたデザインで必要な機能に焦点を絞る

Lightning for Google の更新されたデザインで、スペースを最大化し、必要な場所に機能を配置し、必要なものを見つけるためのスクロールする時間が短くなるように、機能と Salesforce データが整理されます。情報はタブを使用して整理され、関連する Salesforce レコード、テンプレート、および ToDo が表示されます。

### 選択したレコードへのメールの記録

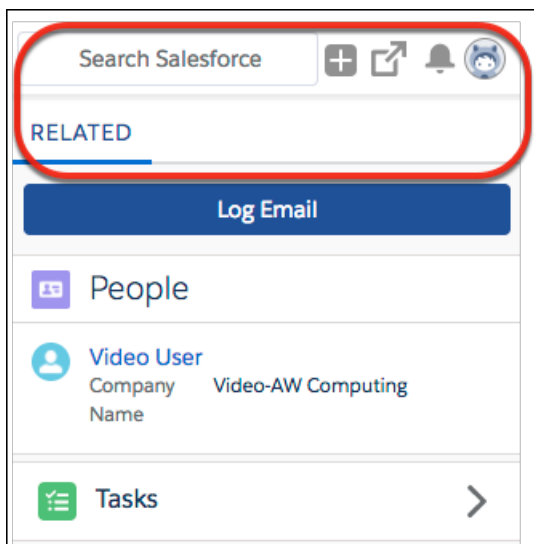
これまででも、メールを Gmail から Salesforce に記録することはできました。新しいメールの記録フローは簡単にアクセスでき、営業担当はメールを関連付ける人とレコードを選択できます。さらに、商談やリードなど、他の Salesforce レコードを1つ選択してメールを関連付けることができます。

## 改良されたデザインで必要な機能に焦点を絞る

Lightning for Google の更新されたデザインで、スペースを最大化し、必要な場所に機能を配置し、必要なものを見つけるためのスクロールする時間が短くなるように、機能と Salesforce データが整理されます。情報はタブを使用して整理され、関連する Salesforce レコード、テンプレート、および ToDo が表示されます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** ナビゲーションヘッダーが自動的に追加されます。デフォルトのメールアプリケーションペインを使用している場合、このタブレイアウトが自動的に適用されます。デフォルトのアプリケーションペインに含まれるタブは1つのみです。カスタムメールアプリケーションペインを使用している場合、この機能を利用するにはタブをカスタムペインに追加します。



関連トピック:

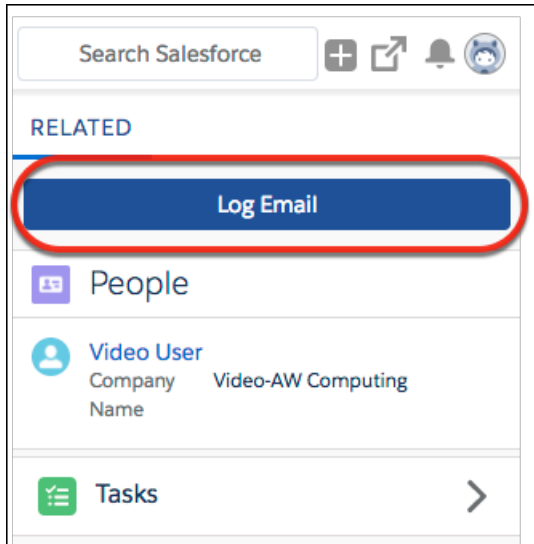
[Salesforce ヘルプ: 営業担当の Lightning for Gmail のカスタマイズ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

### 選択したレコードへのメールの記録

これまででも、メールを Gmail から Salesforce に記録することはできました。新しいメールの記録フローは簡単にアクセスでき、営業担当はメールを関連付ける人とレコードを選択できます。さらに、商談やリードなど、他の Salesforce レコードを1つ選択してメールを関連付けることができます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: メール記録先となる特定の人とレコードを選択すると、メッセージを Salesforce に記録するときに柔軟性が向上します。



## Microsoft® インテグレーション: 焦点を絞ったデザイン、メールの記録操作の改善、Salesforce for Outlook の更新

営業担当は Microsoft® Outlook® で直接、Salesforce の商談の作業ができます。Lightning for Outlook では、商品デザインが更新され、メールの記録操作が改善されました。まだ Salesforce for Outlook を使用している場合は、最新のバグ修正を確認してください。

このセクションの内容:

### Lightning for Outlook: 焦点を絞ったデザインとメールの記録操作の改善

営業担当は Microsoft® Outlook® で迅速に作業できます。アプリケーション機能と Salesforce データが整理されてスペースが最大化され、アクセスしやすくなりました。メールの記録操作が改善され、従来よりも簡単にメールを Salesforce レコードに記録できるようになりました。

### Salesforce for Outlook: 最新バージョンおよび最も強力な機能へのアップグレード

最新のバグ修正を入手するには、Salesforce for Outlook v3.4.3 にアップグレードしてください。または、システム要件を満たしている場合は、Lightning for Outlook および Lightning Sync に移行することで、強化された機能とスムーズなアップグレードを利用することをお勧めします。

## Lightning for Outlook: 焦点を絞ったデザインとメールの記録操作の改善

営業担当は Microsoft® Outlook® で迅速に作業できます。アプリケーション機能と Salesforce データが整理されてスペースが最大化され、アクセスしやすくなりました。メールの記録操作が改善され、従来よりも簡単にメールを Salesforce レコードに記録できるようになりました。

## このセクションの内容:

### 改良されたデザインで必要な機能に焦点を絞る

Lightning for Outlook の更新されたデザインで機能とデータを整理して、スペースを最大化し、必要な場所に機能を配置しました。情報はタブによって整理され、関連する Salesforce レコードを表示したり、ToDo を管理したり、テンプレートを使用したりできます。レコードの追加などのグローバルツールは、新しいナビゲーションツールバーで常に使用できます。

### 選択したレコードへのメールの記録

これまで、メールを Microsoft® Outlook® から Salesforce に記録することはできました。新しいメールの記録フローは簡単にアクセスでき、営業担当はメールを関連付ける人とレコードを選択できます。さらに、商談やリードなど、他の Salesforce レコードを 1 つ選択してメールを関連付けることができます。

### 新しいコンポーネントを使用したカスタムメールアプリケーションペインの作成

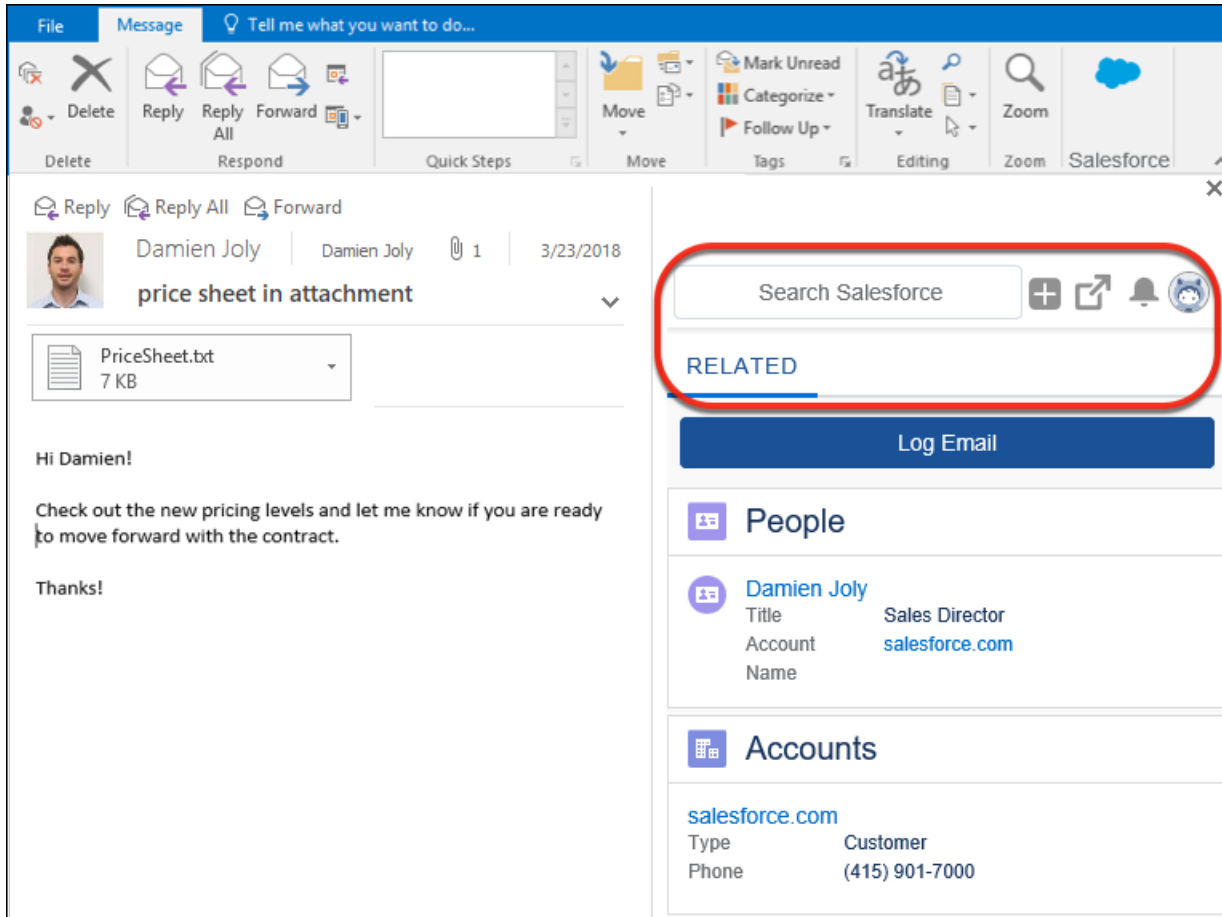
Lightning for Outlook と Inbox Beta for Outlook が営業担当の作業方法に合うように、カスタムメールアプリケーションペインを作成できます。一連の新しい Lightning アプリケーションビルダーコンポーネントによって、営業担当は Microsoft® Outlook® で Salesforce データを処理するときに必要な柔軟性を得ることができます。

## 改良されたデザインで必要な機能に焦点を絞る

Lightning for Outlook の更新されたデザインで機能とデータを整理して、スペースを最大化し、必要な場所に機能を配置しました。情報はタブによって整理され、関連する Salesforce レコードを表示したり、ToDo を管理したり、テンプレートを使用したりできます。レコードの追加などのグローバルツールは、新しいナビゲーションツールバーで常に使用できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** アプリケーションデザインの更新により、必要な情報と機能が適切なタイミングで表示されます。必要なものを見つけたために多くの情報を探さず必要がなくなります。



方法: Lightning for Outlook では、ナビゲーションヘッダーが自動的に適用されます。デフォルトのメールアプリケーションペインを使用している場合、デフォルトのタブレイアウトも表示されます。カスタムメールアプリケーションペインを使用している場合、この機能を利用するにはタブをカスタムペインに追加します。

#### 関連トピック:

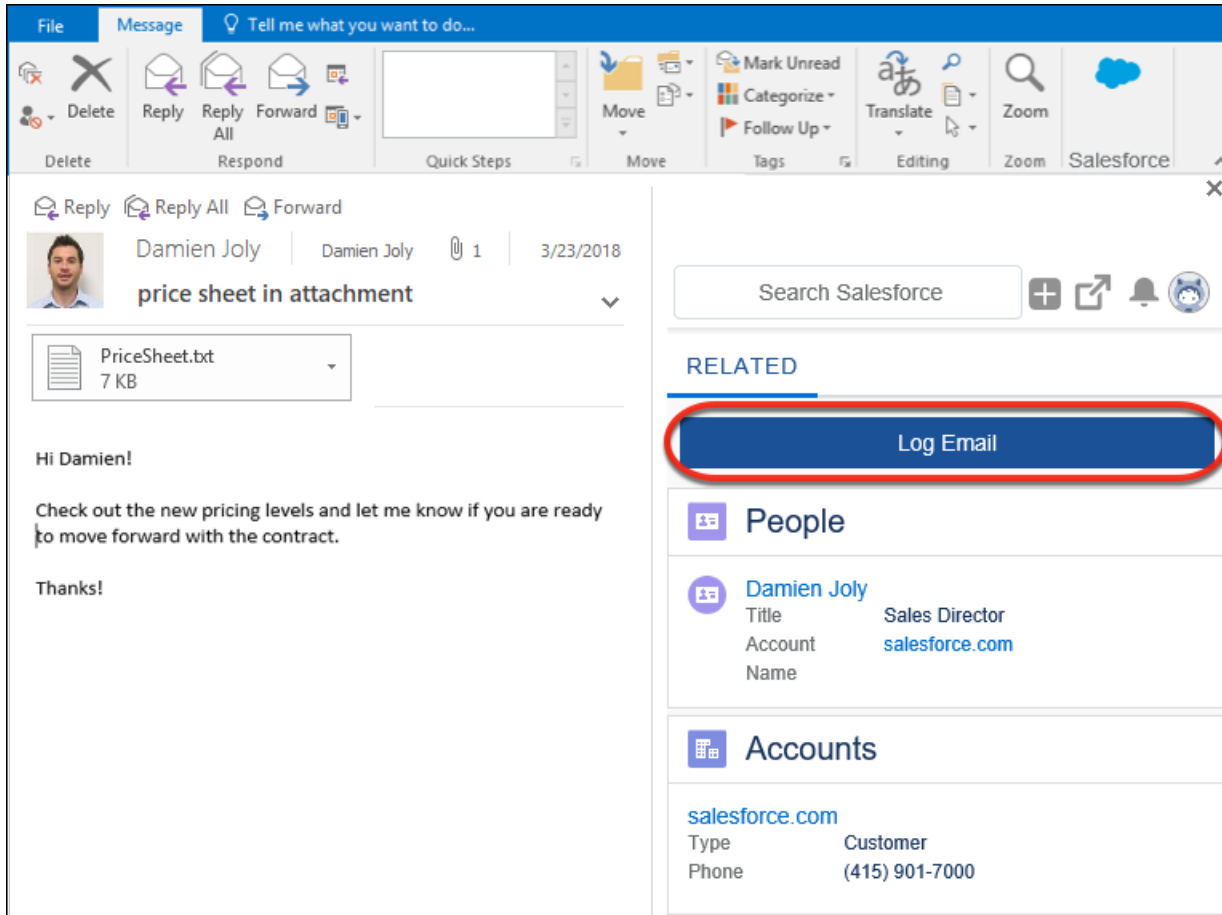
[Salesforce ヘルプ: 営業担当の Lightning for Outlook のカスタマイズ](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

## 選択したレコードへのメールの記録

これまででも、メールを Microsoft® Outlook® から Salesforce に記録することはできました。新しいメールの記録フローは簡単にアクセスでき、営業担当はメールを関連付ける人とレコードを選択できます。さらに、商談やリードなど、他の Salesforce レコードを1つ選択してメールを関連付けることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: [メールを記録] オプションは、メールの閲覧および作成中にいつでも使用できるため、アクセスが容易になります。メールの記録先となる特定の人とレコードを選択すると、メッセージを Salesforce に記録するときに柔軟性が向上します。



#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 営業担当の Lightning for Outlook のカスタマイズ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

### 新しいコンポーネントを使用したカスタムメールアプリケーションペインの作成

Lightning for Outlook と Inbox Beta for Outlook が営業担当の作業方法に合うように、カスタムメールアプリケーションペインを作成できます。一連の新しい Lightning アプリケーションビルダーコンポーネントによって、営業担当は Microsoft® Outlook® で Salesforce データを処理するときに必要な柔軟性を得ることができます。

**対象:** Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

**方法:** Lightning アプリケーションビルダーで、メールアプリケーションペインを作成し、関連するコンポーネントを追加します。営業担当の作業方法に最適になるようにペイン内のコンポーネントを整理します。

- メールを記録。メールの記録フローを開始する [メールを記録] ボタンを挿入します。Einstein 活動キャプチャを使用する場合、このコンポーネントはメール共有オプションを提供します。
- タブ。コンポーネントを整理します。また、メールの参照時や作成時にデフォルトで表示されるコンポーネントを選択できるようにします。



- 取引先、商談、その他。メール受信者または行動参加者に関連する取引先、商談、およびケースを表示します。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 営業担当の Lightning for Outlook のカスタマイズ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## Salesforce for Outlook: 最新バージョンおよび最も強力な機能へのアップグレード

最新のバグ修正を入手するには、Salesforce for Outlook v3.4.3 にアップグレードしてください。または、システム要件を満たしている場合は、Lightning for Outlook および Lightning Sync に移行することで、強化された機能とスムーズなアップグレードを利用することをお勧めします。

**対象:** この変更は、Group Edition、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されません。

**時期:** 2018年6月上旬に、バグ修正の詳細について、Salesforce for Outlook の製品固有のリリースノートを参照してください。

#### このセクションの内容:

[Winter '19 で使用できなくなる Salesforce for Outlook](#)

Winter '19 以降、Salesforce for Outlook を設定したことがない場合や、営業担当が定期的に Salesforce for Outlook を操作していない場合、サービスが使用できなくなります。ですが、ご安心ください。次世代製品の Lightning for Outlook と Lightning Sync は従来よりも機能が優れており、すぐにサービスを提供できます。また、これまでの経験を活かして、Microsoft とのインテグレーションが大幅に改善されています。

#### 関連トピック:

[Salesforce Trailblazer Community: Salesforce for Outlook リリースノート v3.4.3 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Trailhead: Salesforce for Outlook からの移行について学ぶ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## Winter '19 で使用できなくなる Salesforce for Outlook

Winter '19 以降、Salesforce for Outlook を設定したことがない場合や、営業担当が定期的に Salesforce for Outlook を操作していない場合、サービスが使用できなくなります。ですが、ご安心ください。次世代製品の Lightning for Outlook と Lightning Sync は従来よりも機能が優れており、すぐにサービスを提供できます。また、これまでの経験を活かして、Microsoft とのインテグレーションが大幅に改善されています。

**対象:** この変更は、Group Edition、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されません。

**対象ユーザ:** Salesforce for Outlook を設定したことがない場合、新規ユーザは Salesforce からインストール可能なクライアントをダウンロードできなくなります。過去に製品をダウンロードしたユーザでも、定期的にログインしていない場合は接続できなくなります。また、Salesforce システム管理者は、以前に作成した Outlook 設定にアクセスしたり、新しい Outlook 設定を作成したりできません。

定期的にログインしている Salesforce for Outlook ユーザがいる場合、サービスは通常どおり継続されます。これらのユーザは最新のクライアントをダウンロードでき、システム管理者は Outlook 設定を作成および編集できます。

**理由:** Lightning for Outlook と Lightning Sync を使用すると、作業が容易になり、営業担当の生産性が向上します。営業担当は、Salesforce for Outlook と同じ作業を行うことができますが、次の点で最新製品の方が優れています。

- 管理プロセスが簡略化される。Salesforce for Outlook とは異なり、手動アップグレードは不要です。製品の更新がロールアウトされると、年に 3 回の Salesforce リリースのように自動的に取得されます。
- ユーザが Salesforce Classic と Lightning Experience のどちらで作業していても使用可能。
- Microsoft が提供する最新のアプリケーションと互換性があるため、将来の互換性について心配する必要がない。
- これまでで最も革新的な機能(各種ユーザのカスタムレイアウト、改善されたメール環境、設定の手間を省くユーザの同期環境のエンドツーエンド制御)が提供される。

**方法:** 設定手順については、Trailhead や Salesforce ヘルプを参照してください。

## Salesforce CPQ と Salesforce Billing

見積、提案、および契約を迅速かつ正確に提供します。柔軟なツールと規約で請求および支払プロセスを自動化します。Salesforce CPQ と Salesforce Billing は、見積の作成、商談の成立、請求書の決済、収益のレポートを行うための、エンドツーエンドソリューションです。

このセクションの内容:

[Salesforce CPQ: 記帳レポート、迅速な注文作成、拡張された見積品目エディタのナビゲーション](#)

改善されたツールと機能により、記帳のレポート、少ない価格一覧での迅速な注文の生成、および見積品目エディタの項目間の移動が容易になります。

[Salesforce Billing: 新しい収益契約](#)

収益契約を使用して、記帳および請求全体の収益義務の可視性を高めます。柔軟性の高いマルチ通貨の財務期間を作成します。

### Salesforce CPQ: 記帳レポート、迅速な注文作成、拡張された見積品目エディタのナビゲーション

改善されたツールと機能により、記帳のレポート、少ない価格一覧での迅速な注文の生成、および見積品目エディタの項目間の移動が容易になります。

- 📌 **メモ:** Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

- 重要:** Salesforce CPQ 214 (Summer '18) 以降、ユーザは CPQ のメジャーパッチおよびリリースに自動アップグレードされます。この変更は、新規ユーザと既存のユーザの両方に適用されます。

このセクションの内容:

#### 記帳による正確な収益レポートの生成

会社が注文商品のエバーグリーンサブスクリプションを除外する記帳でレポートを生成できるように、注文と注文商品に項目が追加されました。記帳に含めるまたは記帳から除外する注文商品を指定して、注文商品の計算された記帳金額および合計金額を表示します。

#### 少ない手順で請求書および収益ワークフローの最適化

注文商品が有効化されたときに、注文商品の [改訂済み注文商品] および [契約アクション] 項目が入力されるようになります。契約プロセスを実行せずに、請求書品目を組み合わせて、修正の収益スケジュールを生成できます。

#### 少ない価格一覧での迅速な注文の作成

不要な価格一覧の作成を削減して、注文作成プロセスを合理化しました。価格一覧は、利用状況ベースの注文商品にのみ作成するようになりました。

#### サブスクリプション変換項目の廃止

[サブスクリプション変換] 項目は非推奨になりました。より多様なビジネスニーズをサポートするために、いくつかの新しいオプションの評価を進めています。

#### 見積品目エディタ内のすばやい移動

見積品目エディタをより簡単に操作できます。項目セルをクリックするとフォーカスがその項目に移動し、矢印キーまたはタブキーを使用して他のセルに移動できます。項目セルの横にある鉛筆アイコンをクリックして、その項目を編集することもできます。また、読み込み時間と計算時間の短縮によりパフォーマンスも向上しました。

#### Salesforce CPQ のその他の変更

差し込み項目と全体に対する割合の注文商品に加えられたその他の変更について説明します。

### 記帳による正確な収益レポートの生成

会社が注文商品のエバーグリーンサブスクリプションを除外する記帳でレポートを生成できるように、注文と注文商品に項目が追加されました。記帳に含めるまたは記帳から除外する注文商品を指定して、注文商品の計算された記帳金額および合計金額を表示します。

**対象:** この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザ:** Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

**方法:** ページレイアウトに項目を追加するプロセスは、注文や注文商品と同じです。たとえば、[注文記帳] 項目を追加するには、注文のページレイアウトを探します。

- Lightning Experience を使用している場合は、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「オブジェクトマネージャ」と入力し、[オブジェクトマネージャ] を選択します。次に、[注文] をクリックし、[ページレイアウト] セクションまでスクロールします。

- Salesforce Classic を使用している場合は、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「注文」と入力し、[ページレイアウト] を選択します。

CPQ 注文レイアウトの横にある [編集] をクリックします。上部パネルの [クイック検索] ボックスに「記帳」と入力します。空のセクションに項目をドラッグし、変更を保存します。

有効化された後、収益スペシャリストに残る作業は、レポート要件に従って [記帳インジケータ] 項目を設定することのみです。

## 少ない手順で請求書および収益ワークフローの最適化

注文商品が有効化されたときに、注文商品の [改訂済み注文商品] および [契約アクション] 項目が入力されるようになります。契約プロセスを実行せずに、請求書品目を組み合わせて、修正の収益スケジュールを生成できます。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

## 少ない価格一覧での迅速な注文の作成

不要な価格一覧の作成を削減して、注文作成プロセスを合理化しました。価格一覧は、利用状況ベースの注文商品にのみ作成するようになりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

## サブスクリプション変換項目の廃止

[サブスクリプション変換] 項目は非推奨になりました。より多様なビジネスニーズをサポートするために、いくつかの新しいオプションの評価を進めています。


対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

## 見積品目エディタ内のすばやい移動

見積品目エディタをより簡単に操作できます。項目セルをクリックするとフォーカスはその項目に移動し、矢印キーまたはタブキーを使用して他のセルに移動できます。項目セルの横にある鉛筆アイコンをクリックして、その項目を編集することもできます。また、読み込み時間と計算時間の短縮によりパフォーマンスも向上しました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

-  **メモ:** 見積品目エディタのパフォーマンスの拡張機能では、テーブル行のテーマはサポートされません。これが組織で支障になる場合は、拡張機能を無効にするように CPQ サポートに依頼してください。テーブル行のテーマが再び使用可能になった時点でお知らせいたします。パフォーマンスの拡張機能で、テーブル行のテーマが特定の期間内に正式リリースされるか、あるいはリリース自体が行われるかは保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

## Salesforce CPQ のその他の変更

差し込み項目と全体に対する割合の注文商品に加えられたその他の変更について説明します。

**対象:** この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザー:** Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

### 差し込み項目の選択リスト値の表示ラベルの表示

差し込み項目を選択リスト値に関連付けると、生成されたドキュメントの差し込み項目には値の API 参照名ではなく、表示ラベルが表示されるようになりました。

### 全体に対する割合注文商品のワークフローの改善

対象商品の計算方法が変更されました。ユーザーが手動で全体に対する割合の注文商品を注文に追加する代わりに、選択した商品で自動的に計算されるようになりました。全体に対する割合の見積品目に複数の数量が含まれている場合、数量 1 の注文商品に変換されます。全体に対する割合の数量は、単価の計算の乗数として使用されます。見積済み数量の値は、個別の項目で使用できます。部分的な注文の部分的な数量では、見積済み数量を調整できません。

## 差し込み項目の選択リスト値の表示ラベルの表示

差し込み項目を選択リスト値に関連付けると、生成されたドキュメントの差し込み項目には値の API 参照名ではなく、表示ラベルが表示されるようになりました。

**対象:** この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザー:** Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

## 全体に対する割合注文商品のワークフローの改善



対象商品の計算方法が変更されました。ユーザーが手動で全体に対する割合の注文商品を注文に追加する代わりに、選択した商品で自動的に計算されるようになりました。全体に対する割合の見積品目に複数の数量が含まれている場合、数量 1 の注文商品に変換されます。全体に対する割合の数量は、単価の計算の乗数として使用されます。見積済み数量の値は、個別の項目で使用できます。部分的な注文の部分的な数量では、見積済み数量を調整できません。

**対象:** この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

## Salesforce Billing: 新しい収益契約

収益契約を使用して、記帳および請求全体の収益義務の可視性を高めます。柔軟性の高いマルチ通貨の財務期間を作成します。

-  **メモ:** Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。
-  **重要:** Salesforce Billing に最新の更新をインストールする場合、プロセスを開始する前に、すべてのドラフト請求書を転記またはキャンセルすることを強くお勧めします。Salesforce Billing をインストールしてから、インストール前にドラフト作成された請求書を転記すると、その後の関連する注文の請求書でエラーが発生します。Salesforce Billing Winter '18 (以降) は請求書を転記すると次の請求日に関連する注文商品の日付が更新されるため、このエラーが発生します。

このセクションの内容:

### 収益契約を使用した収益スケジュールのグループ化

収益契約では、関連する収益スケジュールを並べて、契約または注文の全体的な収益義務をより簡単に把握できます。収益スケジュールをグループ化すると、記帳(注文商品)と請求(請求書品目、クレジットノート品目、デビットノート品目)全体の義務を追跡できます。

## 収益契約を使用した収益スケジュールのグループ化

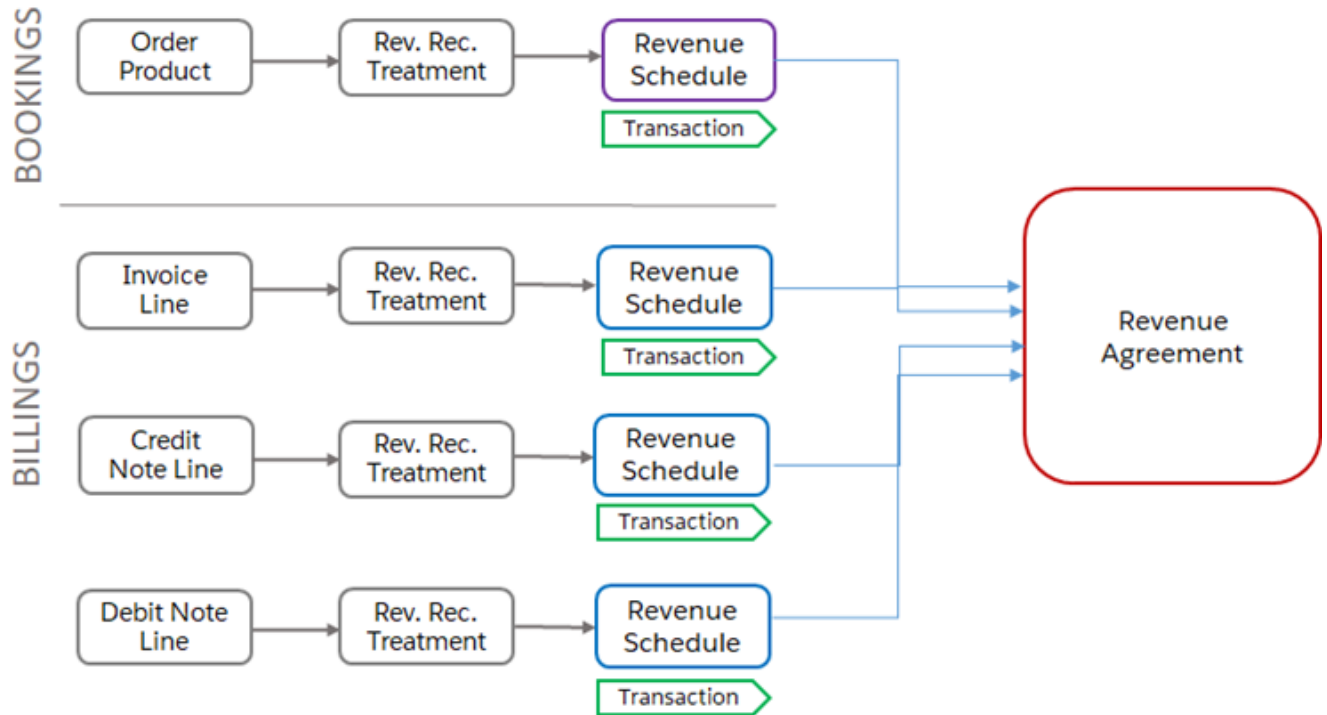
収益契約では、関連する収益スケジュールを並べて、契約または注文の全体的な収益義務をより簡単に把握できます。収益スケジュールをグループ化すると、記帳(注文商品)と請求(請求書品目、クレジットノート品目、デビットノート品目)全体の義務を追跡できます。

対象: この変更は、Salesforce Billing のすべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザー: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

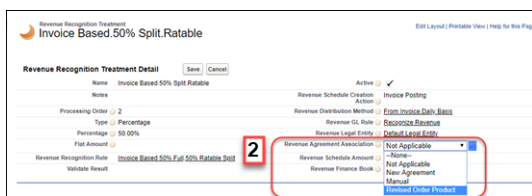
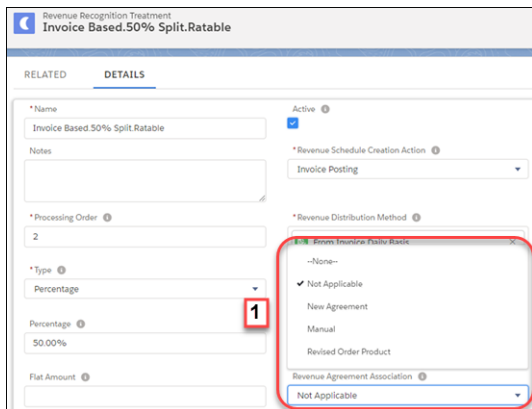
理由: サブスクリプションおよびサービスベースの注文商品は時間と共に変化します。クレジット、デビット、およびキャンセルはすべて、元の契約やサービスに影響します。注文または契約を修正すると、記帳と請求の正味金額が変更され、複数の収益スケジュールが発生します。変更が多いほど収益スケジュールも増え、記帳および請求の合計金額を評価することが難しくなります。

収益契約は、元の注文に関連する収益スケジュールをグループ化し、収益金額および認識された収益の集計を表示します。



方法: グループを設定する収益契約を作成します。収益義務でグループ化することをお勧めしますが、収益スケジュールは必要に応じて自由にグループ化できます。

使用を開始するには、Lightning Experience (1) または Salesforce Classic (2) の収益認識処理の詳細ページの [収益契約の関連付け] でオプションを選択します。



## Pardot: プロスペクトの完全削除、反応型レイアウト、特定のプロスペクトとしてのプレビュー、繰り返し Engagement プログラムなど

ごみ箱からプロスペクトを完全に削除したり、Engage メールにSalesforce ファイルを挿入したり、新しい事前作成済みのレイアウトを使用して反応型ランディングページを作成したり、一致リードコンポーネントを使用して一致率を向上させたりできます。また、特定のプロスペクトとしてメールをプレビューしたり、Engagement プログラムを繰り返すことをプロスペクトに許可したりできます。

このセクションの内容:

### プロスペクトの完全削除

Pardot からの個人データの完全な削除を要求する顧客に応えます。以前は、プロスペクトを削除すると、Pardot はプロスペクトをごみ箱にアーカイブしており、プロスペクトを完全に削除するオプションはありませんでした。

### Pardot でのごみ箱内のプロスペクトの処理方法の変更

一般データ保護規則 (GDPR) など、データ保護とプライバシーの規制に関するユーザの取り組みをサポートするため、ごみ箱の機能を変更しました。Pardot はごみ箱にアーカイブされたプロスペクトを追跡しなくなりました。プロスペクトがフォームを登録した場合にのみプロスペクトは自動的に復元されます。アーカイブされたプロスペクトに Salesforce レコードが関連付けられている場合、Salesforce ユーザが [Pardot に送信]、[Pardot メールを送信]、または [Pardot リストに追加] をクリックしたときに、そのレコードも復元されます。

### Pardot for Lightning の 1 つのプラットフォームでの営業とマーケティングの連携 (ベータ)

Pardot for Lightning アプリケーションを使用すると、Pardot ユーザが Salesforce 内で維持されるため、ユーザの生産性が向上します。アプリケーションが 1 つのタブではなくなったため、Pardot を別のウィンドウで使用したり、複雑なナビゲーションで重複するメニューを使用したりする必要がなくなりました。アプリケーションのナビゲーションがまったく新しいものになり、レイアウトが Lightning Experience に合わせて調整されました。

### ランディングページに反応型レイアウトを使用

Pardot では反応型レイアウトのテンプレートを手動でコードディンクする必要がなくなりました。ブランドのデザインに合わせて編集できる、事前作成済みの反応型レイアウトが提供されるようになりました。事前作成済みの 5 つのレイアウトうちの 1 つをインポートしてカスタマイズし、それを再利用してランディングページのスタイルを設定します。また、デザインに確信を持って公開できるように、テンプレートをプレビューできます。

### Salesforce ファイルを使用した Engage メールのパーソナライズ

Engage メールを Salesforce ファイルでカスタマイズして、プロスペクトのエンゲージメントを高めます。Engage キャンペーンエディタから Salesforce をアップロードおよび選択できるようになりました。

### Salesforce Engage の新しいオプションの設定

Pardot 管理者は、ユーザがトラッキングメールを Engage for Gmail から送信できるかどうかや、オプトアウトしたプロスペクトに 1 対 1 の Engage キャンペーンを送信できるかどうかを制御できるようになりました。



### Web サイトの値がない取引先とリードの一致

一致リードコンポーネントを使用していて、これまで取引先の [Web サイト] 項目のカバー率が低かった場合は、一致率が向上します。取引先の [Web サイト] 項目に値がない場合、取引先のリードの標準一致ルールによって、取引先の最も重要な取引先責任者がスキャンされます。このルールは、それらの取引先責任者のメールサフィックスを集約し、リードのメールサフィックスと照合します。

### 取引先に一致するリードの偽陽性の減少

一致リードコンポーネントを使用する場合、個人メールアドレスに基づく一致は返されなくなりました。取引先のリードの標準一致ルールでは、広く使用されているドメイン (gmail.com や yahoo.com など) で終わるメールアドレスが無視されます。

### プロスペクトによる Engagement プログラムの繰り返しの許可 (ベータ)

1回でプロスペクトが興味を示さない場合や、定期的なマーケティングコンテンツ (更新や季節的なオファーなど) を再送信しなければならない場合があります。プロスペクトが何回でも繰り返すことができる Engagement プログラムを設定できるようになりました。

### 特定のプロスペクトとしてのメールのプレビュー

高度にパーソナライズしたメールを送信するのに神経をすり減らすことがあります。平易な言葉ではなく動的なマーシタグを使用するためです。また、パーソナライズはすぐに複雑になる可能性があります。動的情報をレンダリングした後にメールの外観を正確に確認したいと思ったことがある場合は、[指定した形式でプレビュー] ツールをお試しください。メールを作成するたびに、[プレビュー] タブに移動して [指定した形式でプレビュー] をクリックし、リストの特定のユーザにコンテンツがどのように表示されるかを確認します。

### メールでの絵文字の使用

自社で素晴らしい製品を販売していますよね? メールマーケティングコンテンツにちょっとした楽しみを加えたい場合、親しげな笑顔やキラキラ光る星がぴったりかもしれません。メールの件名行やボディコピーで絵文字ピッカーを使用して、スパイスを加えましょう。

### Engagement Studio でのアドバイスの表示

エンゲージメントプログラムの編集をお急ぎですか? 特定の問題が見つかった場合、ポップアップに [変更内容をご確認ください] という簡単なメモが表示されます。たとえば、問題として、過去の日付や営業時間外へのスケジュールがあります。また、メールテンプレートを再利用している場合に、アカウント設定で再利用が許可されていないときにもそのことが通知されます。問題がない場合は、メッセージを無視してください。または、ステップをレビューして、プロスペクトが必要な情報を取得できるようにしてください。

### Twitter の投稿ポリシーの変更

もちろん、Pardot からソーシャルネットワークにマーケティングコンテンツを引き続き投稿できます。ただし、Twitter のポリシーにいくつか変更があったため、同様のコンテンツを複数のアカウントに同時に投稿できません。ソーシャル投稿を行う場合、一度に使用できる Twitter アカウントは 1 つに制限されるようになりました。

### フランス語、ドイツ語、EU スペイン語での Pardot の使用 (ベータ)

フランス、ドイツ、スペインの Pardot UI をローカライズしました。ローカライズはベータリリースで、すべてのユーザが使用できます。

## プロスペクトの完全削除

Pardotからの個人データの完全な削除を要求する顧客に応えます。以前は、プロスペクトを削除すると、Pardotはプロスペクトをごみ箱にアーカイブしており、プロスペクトを完全に削除するオプションはありませんでした。

**対象:** この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

**対象ユーザ:** Pardot 管理者ユーザはプロスペクトを完全に削除できます。

**理由:** データ削除の要求を受け取ったか、アカウントをクリーンアップする必要が生じたかにかかわらず、プロスペクトの追跡情報を Pardot から完全に削除できるようになりました。特に、一般データ保護規則 (GDPR) など、データ保護とプライバシーの規制を考慮する場合、プロスペクトの完全削除は重要です。

**方法:** この機能は、すべての Pardot アカウントで自動的に有効になります。ごみ箱から、個々のプロスペクトを削除したり、テーブルアクションを使用して一括で削除したりできます。

## Pardot でのごみ箱内のプロスペクトの処理方法の変更


一般データ保護規則 (GDPR) など、データ保護とプライバシーの規制に関するユーザの取り組みをサポートするため、ごみ箱の機能を変更しました。Pardot はごみ箱にアーカイブされたプロスペクトを追跡しなくなりました。プロスペクトがフォームを登録した場合にのみプロスペクトは自動的に復元されます。アーカイブされたプロスペクトに Salesforce レコードが関連付けられている場合、Salesforce ユーザが [Pardot に送信]、[Pardot メールを送信]、または [Pardot リストに追加] をクリックしたときに、そのレコードも復元されます。

**対象:** この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

## Pardot for Lightning の 1 つのプラットフォームでの営業とマーケティングの連携 (ベータ)

Pardot for Lightning アプリケーションを使用すると、Pardot ユーザが Salesforce 内で維持されるため、ユーザの生産性が向上します。アプリケーションが 1 つのタブではなくなったため、Pardot を別のウィンドウで使用したり、複雑なナビゲーションで重複するメニューを使用したりする必要がなくなりました。アプリケーションのナビゲーションがまったく新しいものになり、レイアウトが Lightning Experience に合わせて調整されました。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition (Pardot 付属) の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** Pardot for Lightning はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

**対象ユーザ:** この機能は、Pardot ユーザに対応付けられている、「すべての Pardot 機能へのアクセスを許可」権限を持つ Salesforce ユーザが使用できます。

方法: Salesforce システム管理者はこの機能を有効にする必要があります。[設定] から、検索に「Pardot」と入力し、[使用開始] をクリックします。アプリケーションを有効にします。次に、アプリケーションへのアクセス権が必要なすべてのユーザに割り当てる権限セットに「すべての Pardot 機能へのアクセスを許可」アプリケーション権限を追加します。アプリケーションを有効にすると、このアプリケーション権限が割り当てられたすべてのユーザのアプリケーションランチャーにアプリケーションが表示されます。

## ランディングページに反応型レイアウトを使用

Pardot では反応型レイアウトのテンプレートを手動でコードディングする必要がなくなりました。ブランドのデザインに合わせて編集できる、事前作成済みの反応型レイアウトが提供されるようになりました。事前作成済みの 5 つのレイアウトうちの 1 つをインポートしてカスタマイズし、それを再利用してランディングページのスタイルを設定します。また、デザインに確信を持って公開できるように、テンプレートをプレビューできます。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: 心配はいりません。あなたは何もする必要がありません。この機能は、すべての Pardot アカウントで有効になります。レイアウトテンプレートの編集時に、[レイアウトのインポート] ドロップダウンメニューからレイアウトを選択し、[今すぐインポート] をクリックします。次に HTML エディタを使用してレイアウトをカスタマイズします。

## Salesforce ファイルを使用した Engage メールのパーソナライズ

Engage メールを Salesforce ファイルでカスタマイズして、プロスペクトのエンゲージメントを高めます。Engage キャンペーンエディタから Salesforce をアップロードおよび選択できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Salesforce Engage ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: ユーザのコンテンツ配信と公開リンクを有効化します。次に、ファイルをアップロードするか、Salesforce ファイルを選択します。ファイルへの公開リンクは、添付ファイルのような形式でメッセージに追加されません。営業担当は、メールにインライン画像を挿入することもできます。Engage キャンペーンエディタにアップロードしたファイルは、Salesforce ライブラリに保存されます。

## Salesforce Engage の新しいオプションの設定

Pardot 管理者は、ユーザがトラッキングメールを Engage for Gmail から送信できるかどうかや、オプトアウトしたプロスペクトに 1 対 1 の Engage キャンペーンを送信できるかどうかを制御できるようになりました。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: Pardot のアカウント設定ページで、Salesforce Engage セクションを展開し、設定を行います。

## Web サイトの値がない取引先とリードの一致

一致リードコンポーネントを使用していて、これまで取引先の [Web サイト] 項目のカバー率が低かった場合は、一致率が向上します。取引先の [Web サイト] 項目に値がない場合、取引先のリードの標準一致ルールによって、取引先の最も重要な取引先責任者がスキャンされます。このルールは、それらの取引先責任者のメールサフィックスを集約し、リードのメールサフィックスと照合します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition (Pardot Pro または Pardot Ultimate Edition 付属) の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Pardot 価格設定](#)

## 取引先に一致するリードの偽陽性の減少

一致リードコンポーネントを使用する場合、個人メールアドレスに基づく一致は返されなくなりました。取引先のリードの標準一致ルールでは、広く使用されているドメイン (gmail.com や yahoo.com など) で終わるメールアドレスが無視されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition (Pardot Pro または Pardot Ultimate Edition 付属) の Lightning Experience に適用されます。


関連トピック:

[Pardot 価格設定](#)

## プロスペクトによる Engagement プログラムの繰り返しの許可 (ベータ)

1 回でプロスペクトが興味を示さない場合や、定期的なマーケティングコンテンツ (更新や季節的なオファーなど) を再送信しなければならない場合があります。プロスペクトが何回でも繰り返すことができる Engagement プログラムを設定できるようになりました。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

 **メモ:** 繰り返しプログラムはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。繰り返しプログラムについてフィードバックやご提案がある場合は、[IdeaExchange](#) からお寄せください。アカウントでこの機能を有効にするには、Engagement Studio から有効にするか、サポートチームにお問い合わせください。

対象ユーザ: Pardot の管理者ロールおよびマーケティングロールを持つユーザと Engagement Studio の「作成」権限を持つユーザがこの設定を有効にできます。

方法: Engagement Studio でプログラムを作成するか、まだ送信されていないプログラムを選択します。[開始] ステップで、[プロスペクトに複数回プログラムにエントリすることを許可します]を選択します。Engagement プログラムが実行中の場合、この機能は有効にできません。

## 特定のプロスペクトとしてのメールのプレビュー


高度にパーソナライズしたメールを送信するのに神経をすり減らすことがあります。平易な言葉ではなく動的なマージタグを使用するためです。また、パーソナライズはすぐに複雑になる可能性があります。動的情報をレンダリングした後にメールの外観を正確に確認したいと思ったことがある場合は、[指定した形式でプレビュー] ツールをお試しください。メールを作成するたびに、[プレビュー] タブに移動して [指定した形式でプレビュー] をクリックし、リストの特定のユーザにコンテンツがどのように表示されるかを確認します。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

## メールでの絵文字の使用

自社で素晴らしい製品を販売していますよね? メールマーケティングコンテンツにちょっとした楽しみを加えたい場合、親しげな笑顔やキラキラ光る星がぴったりかもしれません。メールの件名行やボディコピーで絵文字ピッカーを使用して、スパイスを加えましょう。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: Advanced Subject Composer またはメールエディタのツールバーで、 をクリックし、使用する絵文字を選択します。絵文字をプレビューおよびテストして、各種メールクライアントで期待どおりに表示されることを確認します。

## Engagement Studio でのアドバイスの表示

エンゲージメントプログラムの編集をお急ぎですか? 特定の問題が見つかった場合、ポップアップに [変更内容をご確認ください] という簡単なメモが表示されます。たとえば、問題として、過去の日付や営業時間外へのスケジュールがあります。また、メールテンプレートを再利用している場合に、アカウント設定で再利用が許可されていないときにもそのことが通知されます。問題がない場合は、メッセージを無視してください。または、ステップをレビューして、プロスペクトが必要な情報を取得できるようにしてください。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

## Twitter の投稿ポリシーの変更

もちろん、Pardot からソーシャルネットワークにマーケティングコンテンツを引き続き投稿できます。ただし、Twitter のポリシーにいくつか変更があったため、同様のコンテンツを複数のアカウントに同時に投稿できません。ソーシャル投稿を行う場合、一度に使用できる Twitter アカウントは 1 つに制限されるようになりました。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

## フランス語、ドイツ語、EU スペイン語での Pardot の使用 (ベータ)

フランス、ドイツ、スペインの Pardot UI をローカライズしました。ローカライズはベータリリースで、すべてのユーザが使用できます。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

**メモ:** ローカライズされた Pardot はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

方法: ユーザはプロファイルを編集して、ロケールと言語の設定を変更します。Pardot 管理者はデフォルトの言語とロケールをアカウント設定ページから変更します。[Salesforce ユーザの同期] を有効にしているアカウントでは、一致する、ユーザの言語設定が Salesforce から継承されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Pardot for Lightning \(Beta\) \(Pardot for Lightning \(ベータ\)\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## Sales Cloud のその他の変更

Lightning Experience の取引先リストビューをテリトリーで絞り込みます。行動のエクスポート時に主催者、被招集者、および被招集者の状況の項目がエクスポートされなくなりました。

このセクションの内容:

[Lightning Experience の取引先リストビューをテリトリーで絞り込み](#)

エンタープライズテリトリー管理ユーザは、[私のテリトリー] および [私のテリトリーチーム] 条件を使用して自分のテリトリーに割り当てられた取引先を簡単に見つけることができます。

[行動のエクスポート時の主催者と被招集者の詳細のエクスポートの停止](#)

営業担当が行動の詳細ページから行動をエクスポートするときに、主催者、被招集者、および被招集者の状況は .ics ファイルにエクスポートされなくなりました。これはより適切な動作です。エクスポートされたミーティングに招待されている取引先責任者やリードのカレンダーアプリケーションでデータが適切に機能しないという事態を回避できるようになりました。

### Lightning Experience の取引先リストビューをテリトリーで絞り込み

エンタープライズテリトリー管理ユーザは、[私のテリトリー] および [私のテリトリーチーム] 条件を使用して自分のテリトリーに割り当てられた取引先を簡単に見つけることができます。

**対象:** この変更は、Developer Edition と Performance Edition、および Sales Cloud が付属する Enterprise Edition と Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

#### 関連トピック:

[Salesforce Help: Lightning Experience のリストビューの作成またはコピー \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[詳細な検索条件を使用したリストビューの合理化](#)

## 行動のエクスポート時の主催者と被招集者の詳細のエクスポートの停止

営業担当が行動の詳細ページから行動をエクスポートするときに、主催者、被招集者、および被招集者の状況は .ics ファイルにエクスポートされなくなりました。これはより適切な動作です。エクスポートされたミーティングに招待されている取引先責任者やリードのカレンダーアプリケーションでデータが適切に機能しないという事態を回避できるようになりました。

**対象:** この変更は、Group Edition、Contact Manager Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** Salesforce からエクスポートして別のカレンダーアプリケーションにインポートすると、特に招待されている取引先責任者やリードの場合、それらの項目のデータが適切に機能しくなくなります。

**方法:** Microsoft® Exchange、Office 365®、または Google G Suite を使用しているユーザが洗練された行動および招待管理を設定するには、Lightning Sync を使用して Salesforce と統合します。

## サービス: Einstein ボット、Lightning のガイド付きエンゲージメント、および Lightning コミュニティの Field Service

チームのワークロードを軽減するために、パスワード要求のようなお決まりのケースをチームには転送しない Einstein ボットを構築します。Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用して、エージェントがフローの順序付きリストに従って、コールスクリプトをはじめとした複数のステップのアクションをコンソール内から直接実行できるようにします。Lightning のガイド付きエンゲージメントは Live Agent チャットでも使用できます。Snap-in の予定管理 (ベータ)、Lightning コミュニティの完全サポート、最適化ルールといった堅牢なフィールドサービス機能を活用して、スケジュールの中断に対処します。オムニチャネルのスキルベースのルーティングやオムニチャネルの外部ルーティングなど、作業項目のエージェントへの転送方法の選択肢が増えています。横並び比較、翻訳記事のスマートリンク、Lightning Knowledge 移行ツールなど、Lightning Knowledge の翻訳管理機能を使用します。最後に、ケースチームやメールドラフトを使用してケースを効率的に管理します。

#### このセクションの内容:

[Einstein ボットによる解決: ボットを使用したサービスチームの生産性の向上 \(正式リリース\)](#)

Einstein ボットを使用して、サービスエージェントが作業しやすくします。よく発生する定型的な顧客の要求をボットで処理できます。これによって、エージェントは、人間が処理することが望ましい複雑な課題に時間を割けるようになります。顧客からの注文状況の単純な確認、パスワードのリセット、店舗の営業時間や所在地の問い合わせであれば、問題ありません。休んでいる間に Einstein ボットが処理します。

### ケース管理: Lightning フローのガイド付きエンゲージメント、ケースチーム、およびオムニチャネルのスキルベースのルーティング

システム管理者とエージェントがケースを効率的に管理するのに役立つ、一連の堅牢な機能を導入します。Lightning フローのガイド付きエンゲージメントを使用して、エージェントがビジネスプロセスを確認できるようにします。Lightning Experience でケースチームを利用すれば、エージェントらが協力のもと業務を遂行しやすくなります。そして、オムニチャネルのスキルベースのルーティングにより、コンタクトセンターが作業を最適なエージェントに転送できます。

### Field Service: Lightning コミュニティのサポート、作業種別に関する記事、パス

フィールドサービスオブジェクトを Lightning コミュニティに追加することで、パートナーや顧客にフィールドサービスプロセスを表示できます。作業種別およびメンテナンス計画の改善によってチームの効率が上がり、サービスレポートテンプレートの拡張された条件検索は、洗練されたサービスレポートの作成に役立ちます。いくつかのフィールドサービスオブジェクトには Shield Platform Encryption、条件に基づく共有、パスが含まれるようになりました。パスは、レコードの状況を示す、見やすい進行状況バーです。

### チャネル: Live Agent 設定フロー、Lightning Experience の API、Snap-in チャットのオフラインサポート

新しい Live Agent と Snap-in チャット設定フローを使用して、すばやく立ち上げて実行できます。Lightning コンソール JavaScript API で使用できる Live Agent メソッドが追加されました。また、チャットエージェントがオフラインの場合には、顧客がケースを登録することもできます。

### Knowledge: 翻訳管理、スマートリンク、および Lightning Knowledge 移行ツール (ベータ)

翻訳によって意味不明になることがありますか? Lightning Knowledge はユーザの言語で表示されます。翻訳申請アクションや公開アクションなどの Salesforce Classic の翻訳管理機能を Lightning Knowledge で使用できます。その他の機能強化として、Lightning コンポーネントでの翻訳とマスタ記事バージョンの横並びビューや、言語スイッチャコンポーネントの更新などがあります。リッチテキスト項目で他の記事にリンクするスマートリンクが使用できるようになりました。待望の Lightning Knowledge 移行ツールは、Salesforce Classic のナレッジベースを Lightning Knowledge の拡張機能に移行するシンプルなソリューションを備えています。

### Service Cloud Mobile: 外出先でのケース管理 (ベータ)

Service Cloud でよく利用されるケース管理のすべての機能がモバイルデバイスで使用できるようになります。Salesforce アプリケーションの代わりとなる軽量の Service Cloud Mobile は、サポートエージェントが外出先で顧客のケースを処理するときに役立つように設計されています。アプリケーションは Android と iOS モバイルデバイスの両方で使用できます。

### Service Cloud のその他の変更

Service Cloud に加えられたその他の変更について説明します。

## Einstein ボットによる解決: ボットを使用したサービスチームの生産性の向上 (正式リリース)

Einstein ボットを使用して、サービスエージェントが作業しやすくなります。よく発生する定型的な顧客の要求をボットで処理できます。これによって、エージェントは、人間が処理することが望ましい複雑な課題に時間を割けるようになります。顧客からの注文状況の単純な確認、パスワードのリセット、店舗の営業時間や所在地の問い合わせであれば、問題ありません。休んでいる間に Einstein ボットが処理します。



**対象:** Einstein ボットは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できません。

**対象ユーザー:** Einstein ボットは Service Cloud と Live Agent の両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。Einstein ボットパフォーマンスページを最大限活用するには、Service Cloud 分析も必要です。

**理由:** ボットが顧客情報を収集および評価して、よくある問題を解決したり、エージェントがすばやく解決できるようにシームレスにエスカレーションしたりします。Live Agent を使用している場合、ボットを設定して、取引先責任者の詳細やケース番号などの事前チャット情報を収集できます。ボットのおかげで、エージェントの時間を大幅に節約できます。

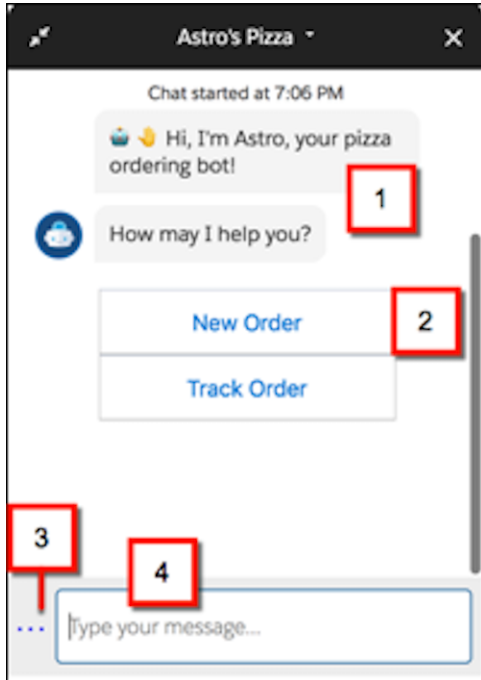
Einstein ボットの特徴は次のとおりです。

- CRM データ、企業のカスタマーサービスデータ履歴、既存のビジネスプロセスに接続される。
- 事前チャットメソッドと連動し、情報を収集して、エージェントの時間を節約するように設計されている。
- Einstein ボットビルダーで簡単に作成およびリリースされる。メニューまたはボタン駆動のみのボットを作成できます。また、チャットウィンドウの顧客の入力を理解するようにボットを訓練できます。

 **メモ:** 目的を解釈できるのは顧客の入力が英語の場合のみです。

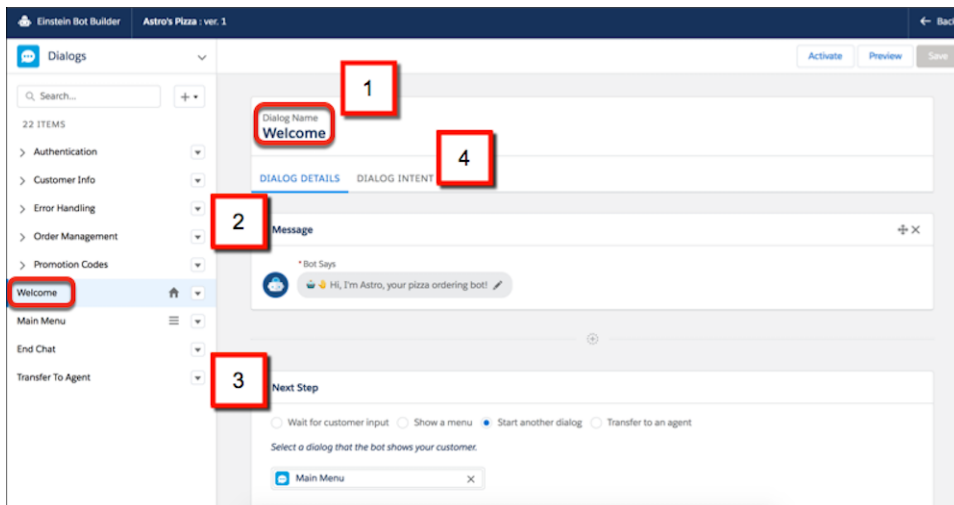
**方法:** 顧客には次のようなチャット環境が表示されます。

- 最初にボットが自己紹介しています (1)。
- 次に、期待事項を設定して、顧客に端的な値のメニューボタンを示しています (2)。
- ボットオプションメニューには、[Transfer to Agent (エージェントに転送)] (3) など、チャットウィンドウで常時使用できるオプションがいくつか表示されます。
- 省略可能なダイアログ Intent を使用すると、チャットウィンドウ (4) の顧客の入力を理解するようにボットを訓練できます。



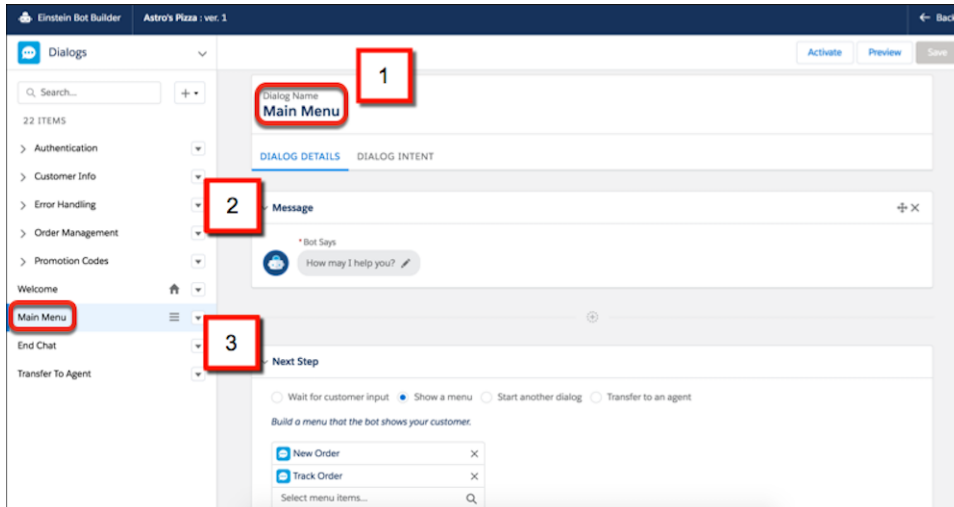
Einstein ボットビルダーを使用して、ボットを定義するダイアログを組み立てます。例について説明します。

- [Welcome (ようこそ)] ダイアログ (1) でボットを紹介し、その内容を説明しています (2)。
- [Next Step (次のステップ)] でボットに [Main Menu (メインメニュー)] ダイアログを表示するよう指示しています (3)。
- 各ダイアログに関連付ける省略可能な Intent を使用すると、チャットウィンドウの顧客の入力を理解するようにボットを訓練できます (4)。



例について説明します。

- [Main Menu (メインメニュー)] ダイアログ (1) で、顧客にメッセージを送信するようボットに指示しています (2)。
- [Next Step (次のステップ)] に、期待事項を設定して顧客に端的な値を示すメニューを表示しています (3)。



ボットを使用し始める前に、主要な要素をいくつか準備しておく必要があります。

1. [Live Agent 設定フロー](#)を実行します。
2. コミュニティまたはサイトに顧客用の [Snap-in チャット](#) ボタンを設定します。
3. Einstein ボットのプレビューとテストの実行には、[Snap-in チャットを有効にします](#)。
4. Einstein ボットで顧客にナレッジ記事を案内する場合は [Salesforce ナレッジ](#) を有効にします。

上記の主要な要素を設定したら、いよいよボットを構築できます。

## 開発者のための関連更新

開発者は、メタデータ API を使用して、Einstein ボットを設定および構成できます。次の種別を使用します。

- ボット
- BotVersion
- MIDomain

### 関連トピック:

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

[Salesforce ヘルプ: Service Cloud の Einstein ボット \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[メタデータ API 開発者ガイド \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## ケース管理: Lightning フローのガイド付きエンゲージメント、ケースチーム、およびオムニチャネルのスキルベースのルーティング

システム管理者とエージェントがケースを効率的に管理するのに役立つ、一連の堅牢な機能を導入します。Lightning フローのガイド付きエンゲージメントを使用して、エージェントがビジネスプロセスを確認できるようにします。Lightning Experience でケースチームを利用すれば、エージェントらが協力のもと業務を遂行しやすくなります。そして、オムニチャネルのスキルベースのルーティングにより、コンタクトセンターが作業を最適なエージェントに転送できます。

このセクションの内容:

### サービスコンソール: Lightning のガイド付きエンゲージメント、ケースチーム、メールの機能強化

エージェントがサービスコンソールを使いやすくなります。Lightning のガイド付きエンゲージメントは、サービスエージェントにビジネスプロセスの手順を示します。ケースチームを Lightning Experience で使用できるようになり、エージェントのグループがより簡単に連携できるようになりました。さらに、メールの機能強化により、適切な人のコピーや添付ファイルの追加が容易になりました。

### ケース: ケースチーム、メールドラフト、Apex メール項目など

Salesforce は、あなたとエージェントに満足していただきたいと考えています。そのために、Lightning Experience でケースチームとメールドラフトを使用できるようにしました。エージェントは、さらに多くのオブジェクトで一括クイックアクションを実行できます。また、添付ファイルのドラッグアンドドロップや返信アクションへのクイックアクションといった機能により、顧客からのメールへの応答がさらに容易になります。Apex を使用してデフォルトメール項目を設定する場合は、さらに朗報があります。Apex コードは Lightning Experience で機能します。

### オムニチャネル: Lightning Experience の作業項目の転送オプションの増加

オムニチャネルのスキルベースのルーティング(正式リリース)とオムニチャネルの外部ルーティング(正式リリース)を使用して、自由に作業項目を転送できます。スキルベースのルーティングと外部ルーティングでサポートされるようになったオムニスーパーバイザを使用して、エージェントの作業負荷や未割り当ての作業項目を監視できます。オムニチャネルユーティリティで新しい作業項目と受け入れられた作業項目を一目で確認できます。オムニチャネル設定は、Lightning Experience でアクセスします。

### 生産性ツール: マクロとクイックテキストの軽微な改善

Salesforce は、ユーザが愛用している機能を微調整することに喜びを感じます。マクロの作成時に、ユーザがカーソル位置にテキストを挿入できるようになりました。クイックテキストを操作するとき、所有者をキューに割り当てることができます。

### エンタイトルメント管理: エージェントが誤ってマイルストーンを完了としてマークすることの防止

マイルストーンを使用すると、エージェントはタイムリーに顧客に対応できます。エージェントが誤ってマイルストーンを完了としてマークすることを防ぐには、マイルストーンコンポーネントの [完了としてマーク] リンクを非表示にします。このリンクを削除すると、マイルストーンは条件が満たされた場合にのみ自動的に完了としてマークされます。ただし、エージェントがマイルストーンレコードページに移動してマイルストーンを完了としてマークすることも引き続き可能です。

## サービスコンソール: Lightning のガイド付きエンゲージメント、ケースチーム、メールの機能強化

エージェントがサービスコンソールを使いやすくなります。Lightning のガイド付きエンゲージメントは、サービスエージェントにビジネスプロセスの手順を示します。ケースチームを Lightning Experience で使用できるようになり、エージェントのグループがより簡単に連携できるようになりました。さらに、メールの機能強化により、適切な人のコピーや添付ファイルの追加が容易になりました。

このセクションの内容:

### サービスコンソールでのフローおよびケースチームを使用したより迅速なケースの解決

ガイド付きアクションリストコンポーネントをレコードページに追加して、ケースを解決するためにエージェントが従うフローをリスト表示します。エージェントをケースチームに追加して、ケースの解決に向けて協力できるようにします。また、新しい Lightning コンソール JavaScript API を使用して、コンソールをカスタマイズすることもできます。

### Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したコンソールでのサービスプロセスの実施(正式リリース)

エージェントがコールスクリプトなど、複数のステップのアクションをコンソール内から直接実行できるようにします。順序付きフローのリストを使用することで、エージェントの引き継ぎ時にプロセスを円滑に進めることができます。エージェントがどこから取り組むかを把握しているため、顧客が繰り返し説明する必要がありません。Live Agent チャットを使用している場合は、エージェントがチャットとフローリストを同時に表示できる固定領域テンプレートが新設されました。この最大の利点は、すべての素晴らしい機能をコードではなく、クリック操作で設定できることです。


関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience コンソールの制限事項\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

### サービスコンソールでのフローおよびケースチームを使用したより迅速なケースの解決

ガイド付きアクションリストコンポーネントをレコードページに追加して、ケースを解決するためにエージェントが従うフローをリスト表示します。エージェントをケースチームに追加して、ケースの解決に向けて協力できるようにします。また、新しい Lightning コンソール JavaScript API を使用して、コンソールをカスタマイズすることもできます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** Lightning コンソールアプリケーションは、まだ Salesforce Classic コンソールアプリケーションと完全に同じ機能を使用できるわけではありません。たとえば、転送通知やマルチモニターサポートなどの Salesforce Classic コンソールアプリケーションの一部の機能は、Lightning コンソールアプリケーションでは使用できません。[詳細はこちら](#)。

Salesforce Classic コンソールアプリケーションを Lightning Experience にアップグレードまたは移行することはできません。

**方法:** サービスコンソールで使用できる新機能を確認します。

**Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したコンソールでのサービスプロセスの実施 (正式リリース)**

ガイド付きアクションリストコンポーネントを使用して、エージェントがビジネスプロセスフローに従って作業できるようにします。

**Community 360 でのより多くのオブジェクトの活動の表示、レコード検索条件の追加**

記事およびディスカッション活動に加えて、サポートエージェントは納入商品、契約、カスタムオブジェクト、注文、商品、およびToDoの各オブジェクトに対するコミュニティ活動を参照できるようになりました。エージェントは、顧客がサポートに電話をする前にこのいずれかの項目を参照したかどうかを確認できます。この確認によって、エージェントはより関連性の高い情報を提供し、顧客と会社の時間を節約し、ケースをより短時間で完了することができます。

**Community 360 を使用してサポートの電話での顧客の雰囲気の評価 (パイロット)**

Community 360 コンポーネントのセンチメント分析 (パイロット) を使用すると、サービスエージェントのコンソールの上部に肯定的または否定的アイコンが表示され、顧客の雰囲気を一目で確認できます。この雰囲気は、コミュニティへの顧客の最近の投稿に基づいて計算されます。センチメント分析は、他の商品への関心のレベルを測定したり、慎重に取り扱う必要があるかを測定したりするのに役立ちます。

**新しい Lightning コンソール JavaScript API を使用したタブ更新の自動化、ナビゲーション項目の変更、ユーティリティ項目のクリックのリスン**

より多くの Salesforce コンソールインテグレーションツールキット JavaScript API を Lightning コンソール JavaScript API で使用できます。コンソールアプリケーションのナビゲーション項目を操作したり、コンソールタブを更新したり、ユーティリティのイベントハンドラを登録したりします。Live Agent とオムニチャネルにも新しいメソッドおよびイベントが追加されました。

**ワークスペースと有効なサブタブをアドレスバーからコピーして共有**

サービスエージェントは、アドレスバーから URL を直接コピーすることによって、主タブや有効なサブタブをすばやく共有できます。

**ワークスペースタブとサブタブでカスタム Lightning コンポーネントを開く**

URL が古くなることを心配する必要はなくなりました。openTab() と openSubtab() を新しい lightning:isUrlAddressible コンポーネントと共に使用して、カスタム Lightning コンポーネントをワークスペースで直接開きます。

**Lightning Experience での Apex を使用したデフォルトメール項目値の設定**

ケースメールのデフォルト値を設定して、カスタマーサービスの質を向上し、エージェントの時間を節約します。ケースがエスカレーションされた場合にマネージャにコピーしたり、特定のメールテンプレートを適用したりするなど、これらのデフォルト値にロジックを配置することもできます。Apex QuickAction.QuickActionDefaultsHandler を Salesforce Classic ですでに使用している場合、Lightning Experience でもそのままの状態でも機能するため、コードを再記述する必要がありません。

**ドラッグアンドドロップによるメールへのファイル添付**

クリックの回数を減らします。メールに添付ファイルを追加するには、ファイルをメールの本文にドラッグします。HTML メールパブリッシャーを使用する任意のメールアクションで添付ファイルをドラッグできますが、プレーンテキストメールパブリッシャーではドラッグを使用できません。

**ケースフィードでメールにすばやく応答**

エージェントは顧客のメールの処理に多くの時間を費やします。そこで、クリックの回数を減らす方法を追加しました。ケースフィードのメールドロップダウンメニューに [返信]、[全員に返信]、および [転送] アクションを含めました。これで、エージェントはメールを展開しなくてもアクションを表示できます。以前は、エージェントはまずケースフィードでメールを展開する必要がありました。

### 個々のケースフィード投稿へのリンクの共有

Lightning Experience のケースフィードで個々の投稿へのリンクを共有できることをエージェントに知らせてください。投稿へのリンクを共有するには、投稿のタイムスタンプをクリックします。新しいタブに投稿が表示され、ここでエージェントは URL のコピーと貼り付けができます。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience コンソールの制限事項\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

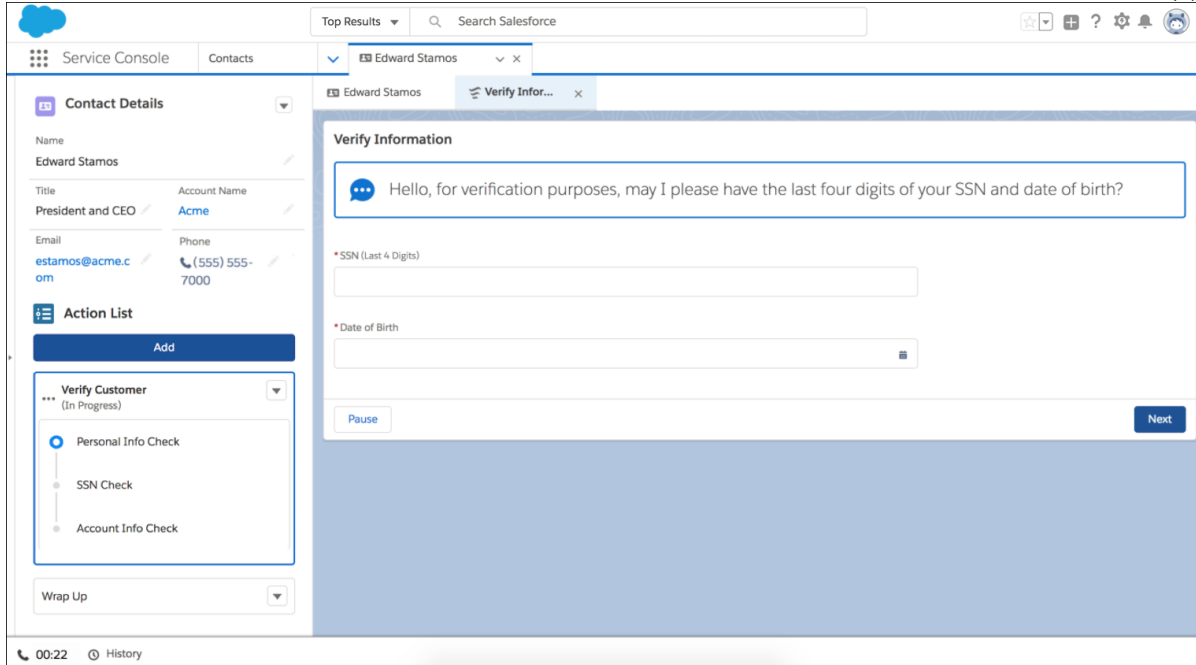
## Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したコンソールでのサービスプロセスの実施 (正式リリース)

エージェントがコールスクリプトなど、複数のステップのアクションをコンソール内から直接実行できるようにします。順序付きフローのリストを使用することで、エージェントの引き継ぎ時にプロセスを円滑に進めることができます。エージェントがどこから取り組むかを把握しているため、顧客が繰り返し説明する必要がありません。LiveAgent チャットを使用している場合は、エージェントがチャットとフローリストを同時に表示できる固定領域テンプレートが新設されました。この最大の利点は、すべての素晴らしい機能をコードではなく、クリック操作で設定できることです。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

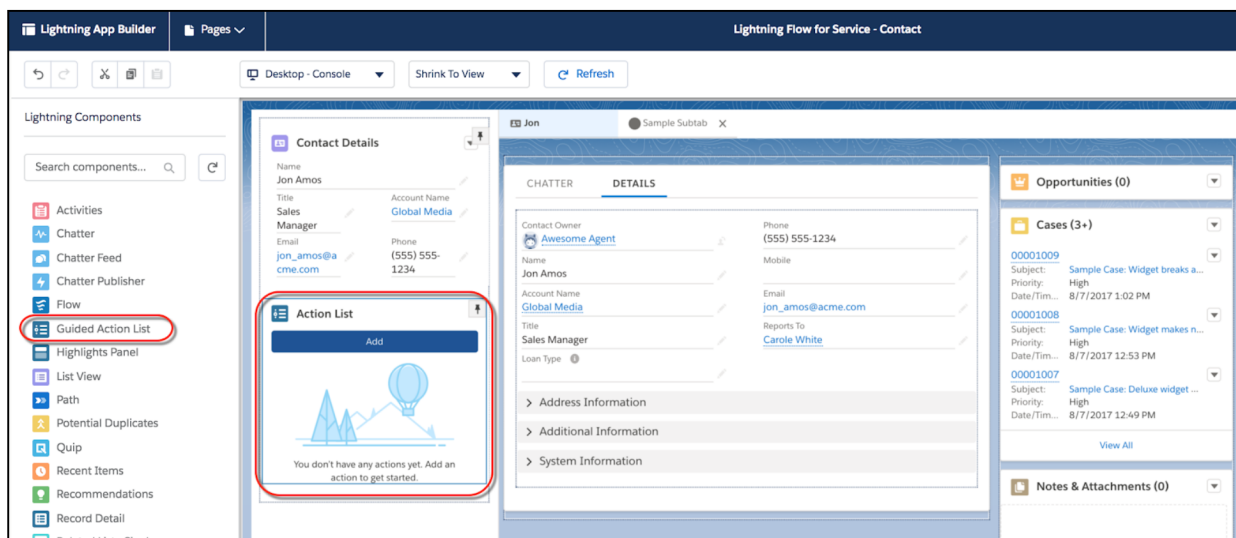
**理由:** ガイド付きアクションリストは、エージェントがすべてのチャンネルで一貫した品質のカスタマーサービスを提供するのに役立ちます。明快なアクションリストにはフローのフェーズを含むビジネスプロセスがエージェントに表示されます。電話やチャットなどのチャンネルごとにデフォルトのフローを設定できるため、どの顧客タッチポイントでもエージェントがケースの処理方法を認識できます。また、固定フローを使用して、エージェントがどのフローを最初と最後に完了する必要があるかを示すこともできます。エージェントは、顧客のニーズに基づいて柔軟にフローを追加することもできます。

次のサービスコンソールアプリケーションのフローでは、エージェントが着信電話の通話者の連絡先情報を確認します。



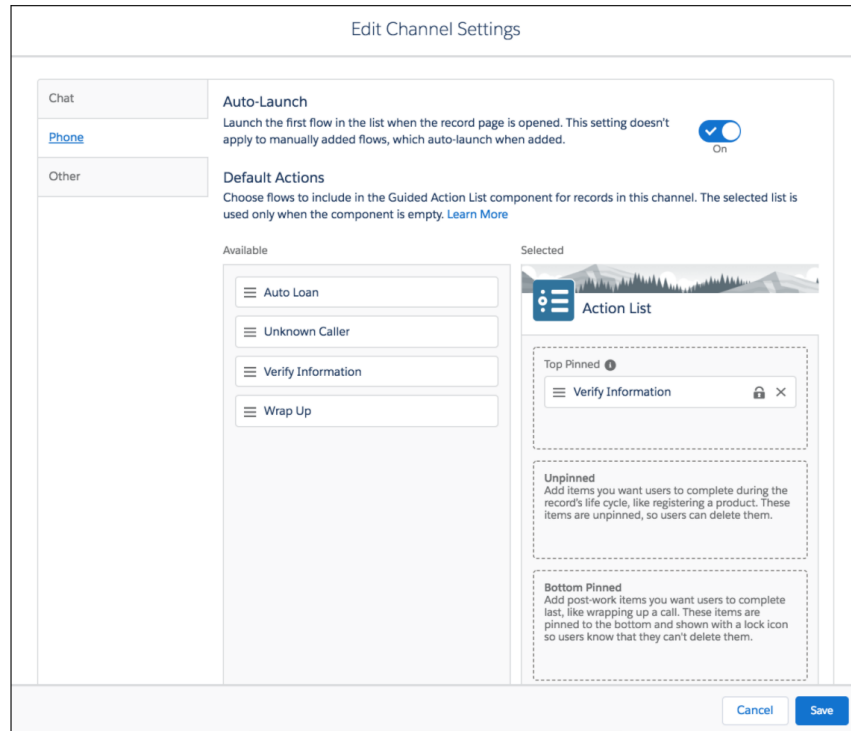
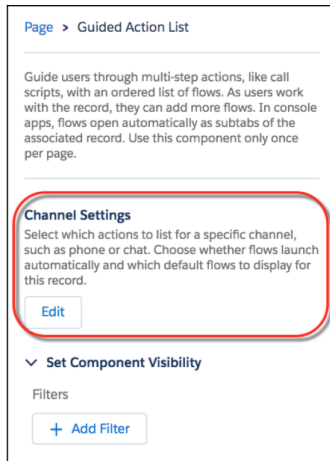
**方法:** Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用すると、フローをコンソールアプリケーションの主タブまたはサブタブとして表示できます。また、新しい RecordAction 連結オブジェクトがあれば、Salesforce 自動化ツールを使用してレコードをフローに関連付けることができます。レコードが開いたときに関連付けられているフローがある場合は、フローがサブタブとして起動します。

フローを作成するには、CloudFlow Designer を使用します。次に、プロセスビルダーで RecordAction 連結オブジェクトを使用して、レコードをフローに関連付けるプロセスを追加します。エージェントにフローを表示するには、Lightning アプリケーションビルダーを使用して、ガイド付きアクションリストコンポーネントをページに追加します。





ベースのルーティング  
 チャンネルにデフォルトのフローを設定するには、Lightning アプリケーションビルダーの [プロパティ] ペインで  
 チャンネル設定を編集します。



LiveAgent チャットを使用している場合は、ガイド付きアクションリストコンポーネントと新しいコンソールレコードのページテンプレートを使用して、エージェントが業務を巧みに処理できるコンソール環境を整えることができます。「[チャットおよび Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したケースの解決](#)」を参照してください。

Lightning ページに Einstein のおすすめコンポーネントを追加することで、特定の条件を満たした場合に、エージェントに推奨フローのリストを表示することもできます。「[Einstein 次善アクション: 戦略を使用した提案アクションとオファー \(パイロット\)](#)」を参照してください。

Lightning のガイド付きエンゲージメントは Lightning プラットフォーム上に構築されているため、パートナーはビジネスニーズに合わせてカスタマイズされたソリューションを含む AppExchange パッケージを作成できます。

#### 関連トピック:

[Lightning Guided Engagement Developer Guide \(Lightning ガイド付きエンゲージメント開発者ガイド\) \(英語のみ\)](#)

## ケース: ケースチーム、メールドラフト、Apex メール項目など

Salesforce は、あなたとエージェントに満足していただきたいと考えています。そのために、Lightning Experience でケースチームとメールドラフトを使用できるようにしました。エージェントは、さらに多くのオブジェクトで一括クイックアクションを実行できます。また、添付ファイルのドラッグアンドドロップや返信アクションへのクイックアクションといった機能により、顧客からのメールへの応答がさらに容易になります。Apex を使用してデフォルトメール項目を設定する場合は、さらに朗報があります。Apex コードは Lightning Experience で機能します。

このセクションの内容:

### Lightning Experience でのケースチームの作成

お客様からのご要望に応じて、Salesforce Classic に加えて Lightning Experience でもすべてのケースチームメンバーが共同作業できるようになりました。ケースチームは、協働してケースを解決するユーザのグループです。たとえば、ケースチームにはサポートエージェント、サポートマネージャ、製品マネージャなどが含まれます。ケースで作業している間、割り当てられたロールに基づいてすべてのチームメンバーを同期できます。

### ケースの非公開メールドラフトで窮地を脱出

メールの安全が保証されているためエージェントは安心して席を離れることができます。メールドラフトが数秒ごとに自動的に保存されるため、重要な情報を失うことはありません。以前は、ドラフトは Salesforce Classic でのみ使用できました。また、ドラフトが保存されると、ケースへのアクセス権を持つユーザにドラフトが表示されていました。Lightning Experience では、デフォルトでは、ケースに関連付けられたエージェントに対してドラフトは非公開です。

### Lightning Experience での Apex を使用したデフォルトメール項目値の設定

ケースメールのデフォルト値を設定して、カスタマーサービスの質を向上し、エージェントの時間を節約します。ケースがエスカレーションされた場合にマネージャにコピーしたり、特定のメールテンプレートを適用したりするなど、これらのデフォルト値にロジックを配置することもできます。Apex `QuickAction.QuickActionDefaultsHandler` を Salesforce Classic ですでに使用している場合、Lightning Experience でもそのままの状態でも機能するため、コードを再記述する必要はありません。

### Lightning Experience でのケースフィードパブリッシャー API の使用

Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API (ケースフィードパブリッシャー API と呼ばれる) を使用した場合、Visualforce コンポーネントおよびページが Lightning Experience で機能するようになりました。コードを再記述する必要はありません。また、Lightning Experience でカスタムコンポーネントを作成し、レコードページでクイックアクションを操作することもできます。

### より多くのオブジェクトに対して一括クイックアクションを実行

一括クイックアクションを使用して、最近参照したリストを除くリストビューで最大 100 個のレコードを編集または作成します。一括クイックアクションは、Lightning Experience のケース、リード、取引先、キャンペーン、取引先責任者、商談、作業指示、カスタムオブジェクトで使用できます。以前は、一括クイックアクションの作成と更新は、Lightning Experience のケース、リード、カスタムオブジェクトに対してのみ機能しました。

### ケースのクローズ時に社内コメントを入力

必要な場所で社内コメントを追加します。エージェントはケースのクローズ時にケースコメントを挿入できます。ケースをクローズする前に[ケースコメント]関連リストに切り替える必要がなくなりました!以前は、[ケースコメント]関連リストに切り替えて、コメントを追加または更新してから、ケースをクローズする必要がありました。

### ケース変更のメール通知の送信

ケースはそのライフサイクル中に何度も変更される可能性があります。エージェントが常に把握できるように、Lightning Experience でメール通知が機能するようになりました。エージェントは、ケース所有者が変更されたり、ケースコメントが追加されたりした場合にメールを受信します。取引先責任者も、ケースが作成または更新されたり、コメントが追加されたりした場合にメール通知を受信できます。これまで、ケースのメール通知は Salesforce Classic でしか機能しませんでした。

### ケースフィードでメールにすばやく応答

エージェントは顧客のメールの処理に多くの時間を費やします。そこで、クリックの回数を減らす方法を追加しました。ケースフィードのメールドロップダウンメニューに[返信]、[全員に返信]、および[転送]アクションを含めました。これで、エージェントはメールを展開しなくてもアクションを表示できます。以前は、エージェントはまずケースフィードでメールを展開する必要がありました。

### ドラッグアンドドロップによるメールへのファイル添付

クリックの回数を減らします。メールに添付ファイルを追加するには、ファイルをメールの本文にドラッグします。HTMLメールパブリッシャーを使用する任意のメールアクションで添付ファイルをドラッグできますが、プレーンテキストメールパブリッシャーではドラッグを使用できません。

### 個々のケースフィード投稿へのリンクの共有

Lightning Experience のケースフィードで個々の投稿へのリンクを共有できることをエージェントに知らせてください。投稿へのリンクを共有するには、投稿のタイムスタンプをクリックします。新しいタブに投稿が表示され、ここでエージェントは URL のコピーと貼り付けができます。

### グローバル検索を使用したケースコメントの検索

ケースに関連付けられたコメントを Lightning Experience のサービスコンソールから検索します。以前は、ケースコメントを検索できませんでした。

## Lightning Experience でのケースチームの作成

お客様からのご要望に応じて、Salesforce Classic に加えて Lightning Experience でもすべてのケースチームメンバーが共同作業できるようになりました。ケースチームは、協働してケースを解決するユーザのグループです。たとえば、ケースチームにはサポートエージェント、サポートマネージャ、製品マネージャなどが含まれます。ケースで作業している間、割り当てられたロールに基づいてすべてのチームメンバーを同期できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

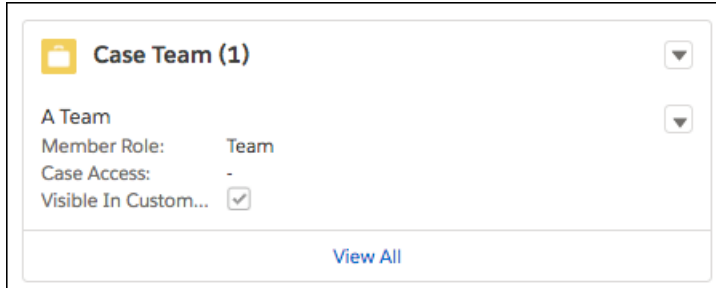
**理由:** ユーザがケースチームを作成し、ケースチームで作業できるようにします。

**方法:** [ケースチーム] 関連リストをケースページレイアウトに追加します。

ケースチームで実行できる操作を次に示します。

- 協働するユーザをユーザがすばやく追加できるようにケースチームを事前に定義する。

- メールからケースが発生した場合など、特定の条件に一致するケースに定義済みのチームを追加する割り当てルールを作成する。
- コメントが追加された場合など、ケースでアクションが実行された場合にチームメンバーに通知するメールアラートを作成する。



ケースチームを設定した後、ユーザは次の操作ができます。

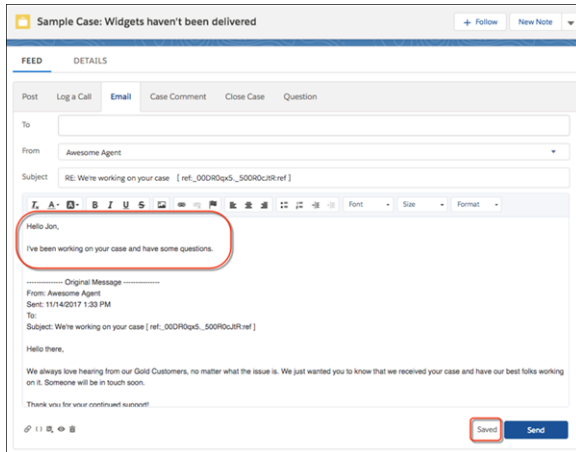
- ケースで [ケースチーム] 関連リストにユーザを追加する。
- ケースに対するユーザの役割を、定義済みの役割から1つ選択する。役割によって、ケースに対するアクセスレベル(「参照のみ」、「参照・更新」などのアクセス権)が決まります。
- 取引先責任者をケースチームに追加する。ただし、取引先責任者がケースにアクセスできるのは、ケースページレイアウトに割り当てられたカスタマーポータルユーザとして取引先責任者が有効になっている場合のみです。カスタマーポータルユーザは、ケースチームを更新したり、ケースチームの役割を参照したりすることはできません。
- ユーザがチームメンバーの場合、[私のケースチーム] を選択してケースリストを絞り込む。
- [参照] 検索条件から [私のチームのケース] を選択して、ケースレポートを実行する。

## ケースの非公開メールドラフトで窮地を脱出

メールの安全が保証されているためエージェントは安心して席を離れることができます。メールドラフトが数秒ごとに自動的に保存されるため、重要な情報を失うことはありません。以前は、ドラフトは Salesforce Classic でのみ使用できました、また、ドラフトが保存されると、ケースへのアクセス権を持つユーザにドラフトが表示されていました。Lightning Experience では、デフォルトでは、ケースに関連付けられたエージェントに対してドラフトは非公開です。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** メールドラフトを使用するには、組織でメール-to-ケースを有効にする必要があります。次に、[設定] の [サポート設定] ページでメールドラフトを有効にします。ドラフトを削除すると、メール項目 ([受信者]、[送信者]、[件名] など) が元の状態にリセットされます。



メールドラフトを使用するときは、次の点に留意してください。

- 標準とカスタムの両方のメールメッセージが保存されますが、自動保存は標準項目の変更によって起動されません。カスタム項目の変更では自動保存は起動されません。
- ドラフトはケースフィードでのみ機能します。現在、ドラフトは、ドッキングされたメールコンポーザではサポートされません。
- マクロでメール項目を更新しても、メールを送信しない場合、メールドラフトは保存されません。エージェントがメール項目に追加の編集を加えるまでドラフトは保存されません。

関連トピック:

[Summer '18 リリースノート: お客様のご要望](#)

## Lightning Experience での Apex を使用したデフォルトメール項目値の設定

ケースメールのデフォルト値を設定して、カスタマーサービスの質を向上し、エージェントの時間を節約します。ケースがエスカレーションされた場合にマネージャにコピーしたり、特定のメールテンプレートを適用したりするなど、これらのデフォルト値にロジックを配置することもできます。Apex

`QuickAction.QuickActionDefaultsHandler` を Salesforce Classic ですでに使用している場合、Lightning Experience でもそのままの状態でも機能するため、コードを再記述する必要がありません。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:** これまで、`QuickAction.QuickActionDefaultsHandler` Apex インターフェースは Salesforce Classic でのみ使用できませんでした。

**方法:** `QuickAction.QuickActionDefaultsHandler` インターフェースを使用する Apex クラスを作成します。このクラスでデフォルトメール項目値とロジックを指定します。次に、[設定] で [サポート設定] ページに移動します。[デフォルトメールテンプレートまたはメールアクションのデフォルトハンドラを有効化] を選択し、新しいクラスを参照します。

次の Apex クラスは、ケースの重要度が [高] の場合に `managers@acme.com` を BCC 項目に追加します。

```
global class EmailPublisherForHighPriorityCases implements
QuickAction.QuickActionDefaultsHandler {
    // Empty constructor
```

```

global EmailPublisherForHighPriorityCases () {
}

// The main interface method
global void onInitDefaults(QuickAction.QuickActionDefaults[] defaults) {
    QuickAction.SendEmailQuickActionDefaults sendEmailDefaults =
    (QuickAction.SendEmailQuickActionDefaults)defaults.get(0);
    EmailMessage emailMessage = (EmailMessage)sendEmailDefaults.getTargetSObject();

    Case c = [SELECT CaseNumber, Priority FROM Case WHERE
    Id=:sendEmailDefaults.getContextId()];

    // If case severity is "High," append "managers@acme.com" to the existing (and
    possibly blank) BCC field
    if (c.Priority != null && c.Priority.equals('High')) { // Priority is 'High'
        emailMessage.BccAddress = 'managers@acme.com';
    }
}
}

```

Lightning Experience での QuickAction.QuickActionDefaultsHandler インターフェースの機能には次のような注意事項があります。

- Apex インターフェースでは、[メール] クイックアクションの定義済み項目値が上書きされます。
- Apex インターフェースは、ケースの標準の [メール] アクションと連動します。また、Apex インターフェースは、ケースオブジェクトのカスタム [メール] アクションでも使用できます。
- Lightning Experience の Apex インターフェースでは、次の操作はサポートされていません。
  - メール添付ファイル
  - カスタムメール項目
  - Visualforce メールテンプレート。これは Salesforce Classic で使用できるメールテンプレートの種別です。
- Apex インターフェースで、差し込み項目を含む Lightning メールテンプレートからメール本文にコンテンツを追加する場合、差し込み項目は未解決で表示されます。差し込み項目は、プレビューおよび送信時に解決されます。
- Apex インターフェースを使用して、既存のコンテンツを含むメールの本文にコンテンツを挿入することはできません。ただし、このインターフェースを使用して、既存のコンテンツを上書きすることはできます。

## Lightning Experience でのケースフィードパブリッシャー API の使用

Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API (ケースフィードパブリッシャー API とも呼ばれる) を使用した場合、Visualforce コンポーネントおよびページが Lightning Experience で機能するようになりました。コードを再記述する必要はありません。また、Lightning Experience でカスタムコンポーネントを作成し、レコードページでクイックアクションを操作することもできます。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

### 関連トピック:


[Lightning クイックアクションおよび Salesforce Classic パブリッシャーの JavaScript API](#)

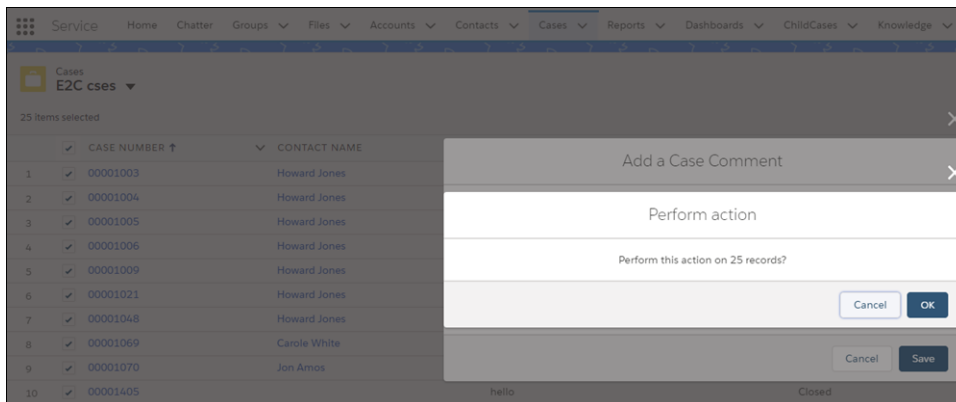
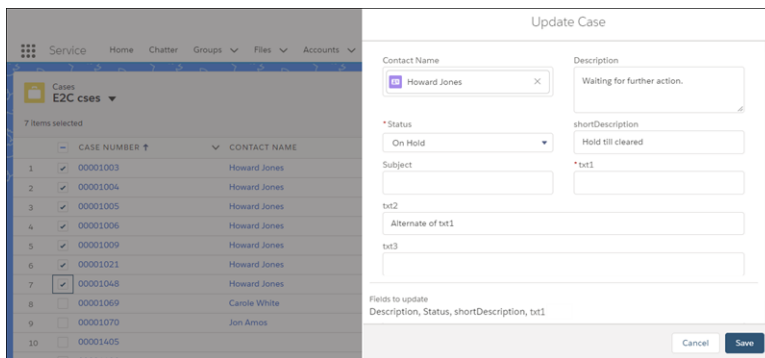
## より多くのオブジェクトに対して一括クイックアクションを実行

一括クイックアクションを使用して、最近参照したリストを除くリストビューで最大100個のレコードを編集または作成します。一括クイックアクションは、Lightning Experience のケース、リード、取引先、キャンペーン、取引先責任者、商談、作業指示、カスタムオブジェクトで使用できます。以前は、一括クイックアクションの作成と更新は、Lightning Experience のケース、リード、カスタムオブジェクトに対してのみ機能しました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** 一括クイックアクションを設定するには、オブジェクトの検索レイアウトをカスタマイズします。定義済みの値をユーザの入力ガイドとして使用することをお勧めします。定義済みの値を使用すると、一貫性が維持され、ユーザはレコードで一括クイックアクションをより速くより簡単に実行できます。またエラーを回避するのに役立ちます。1つのアクションを実行する場合と同様に、一括クイックアクションをまとめて元に戻す方法がないためです。

 **メモ:** 一括アクションをメモに対して実行することはできません。



## ケースのクローズ時に社内コメントを入力

必要な場所で社内コメントを追加します。エージェントはケースのクローズ時にケースコメントを挿入できます。ケースをクローズする前に[ケースコメント]関連リストに切り替える必要がなくなりました!以前は、[ケースコメント]関連リストに切り替えて、コメントを追加または更新してから、ケースをクローズする必要がありました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [ケースのクローズ] アクションを編集するか、新しいアクションを作成します。[社内コメント]項目をアクションのレイアウトに追加します。アクションを作成している場合は、コンソールアプリケーションでアクションをケースページレイアウトに追加していることを確認してください。

The screenshot shows the 'FEED' tab of a Salesforce Case record. At the top, there are tabs for 'Post', 'Log a Call', 'Email', 'Case Comment', 'Close Case', and 'Question'. The 'Close Case' tab is selected. Below the tabs, there is a 'Status' dropdown menu currently set to 'Closed'. Underneath is a text area labeled 'Internal Comments'. At the bottom right of the form is a blue 'Save' button.

## ケース変更のメール通知の送信

ケースはそのライフサイクル中に何度も変更される可能性があります。エージェントが常に把握できるように、Lightning Experienceでメール通知が機能するようになりました。エージェントは、ケース所有者が変更されたり、ケースコメントが追加されたりした場合にメールを受信します。取引先責任者も、ケースが作成または更新されたり、コメントが追加されたりした場合にメール通知を受信できます。これまで、ケースのメール通知はSalesforce Classicでしか機能しませんでした。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning ExperienceとすべてのバージョンのSalesforceアプリケーションに適用されます。

**方法:** ケースのメール通知を設定するには、[設定]の[サポート設定]ページに移動します。次の設定を探します。

### ケース所有権の変更時にケース所有者に通知

[所有者の変更]アクションを使用して新しいケース所有者が割り当てられた場合、新しいケース所有者はメールを受信します。エージェントがケース所有者を変更すると、[メールで通知する]がデフォルトで選択されます。エージェントはチェックボックスをオフにすることで、この設定を上書きできます。



**ヒント:** [ケース所有権の変更時にケース所有者に通知] を有効にしなくても、エージェントは [メールで通知する] 設定を使用できます。ただし、この設定を有効にすると、ユーザおよびキューの変更について、チェックボックスが常にオンになります。

#### ケース所有者に新規ケースコメントを通知する

ケース所有者は、ケース所有者以外のユーザによってケースコメントが追加されるたびにメールを受信します。これには社内および外部のコメントが含まれます。

#### 外部コメント

#### 社内コメント

**メモ:** [社内コメント]項目がインライン編集で更新された場合、メール通知はケース所有者に送信されません。

## 取引先責任者へのケースコメント通知を有効化

ケースの取引先責任者は、ケースコメントが変更されたか、ケースに追加された場合にメールを受信します。これらの通知を送信するには、ケースコメントのテンプレートを指定します。

## ケース作成時のテンプレート

ケースが作成または更新された場合、ケースの取引先責任者はメールを受信します。Lightning Experience では、[メールで取引先責任者に通知する]チェックボックスを表示するには、ケース作成時のテンプレートを指定する必要があります。

## 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サポート設定のカスタマイズ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

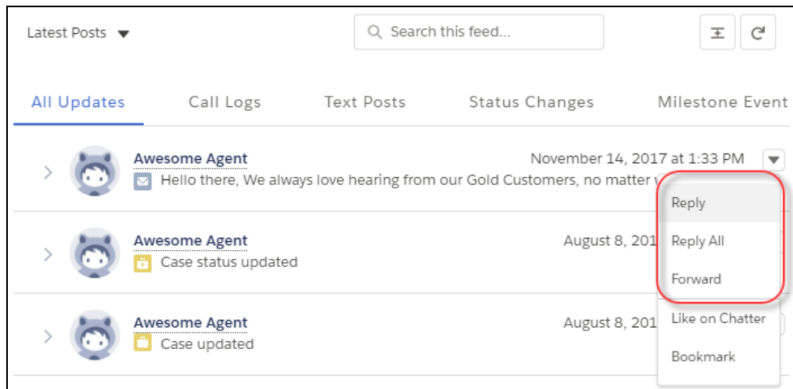
## ケースフィードでメールにすばやく応答

エージェントは顧客のメールの処理に多くの時間を費やします。そこで、クリックの回数を減らす方法を追加しました。ケースフィードのメールドロップダウンメニューに [返信]、[全員に返信]、および [転送] アクションを含めました。これで、エージェントはメールを展開しなくてもアクションを表示できます。以前は、エージェントはまずケースフィードでメールを展開する必要がありました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザ:** 新しいドロップダウンアクションを表示するには、エージェントに「メールの送信」権限が必要です。すでにエージェントがメールに返信している場合、そのエージェントはすでにこの権限を持っています。

**方法:** アクションはケースフィードのドロップダウンにのみ表示されます。取引先責任者レコードページにこれらのメールアクションは表示されません。プレーンテキストおよび HTML メールアクションのドロップダウンに [返信]、[全員に返信]、[転送] アクションが表示されます。ケースレコードページに [メール] アクションがすでに含まれている場合、何もする必要はありません。

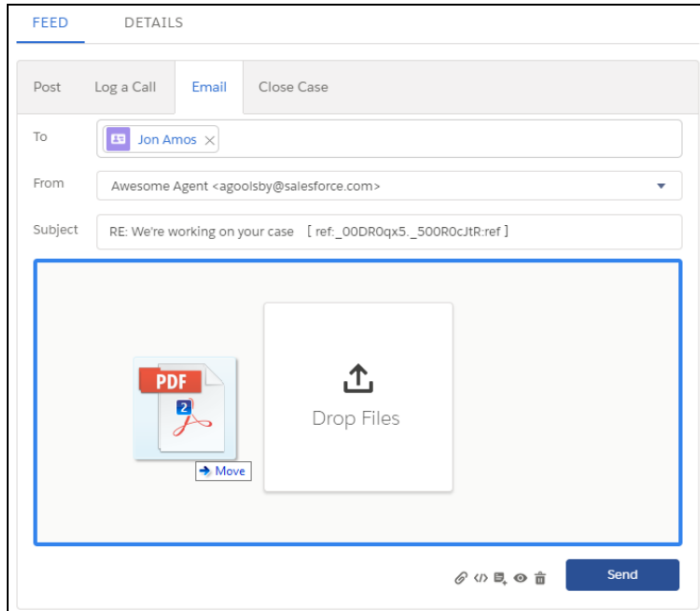


## ドラッグアンドドロップによるメールへのファイル添付

クリックの回数を減らします。メールに添付ファイルを追加するには、ファイルをメールの本文にドラッグします。HTML メールパブリッシャーを使用する任意のメールアクションで添付ファイルをドラッグできますが、プレーンテキストメールパブリッシャーではドラッグを使用できません。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** 新しい組織の場合、ケースレコードページにこのメールアクションがデフォルトで含まれます。レイアウトに、プレーンテキストアクションではなく、HTML アクションが含まれていることを確認してください。2 GB を超えるファイルをドラッグすることはできません。



#### 関連トピック:

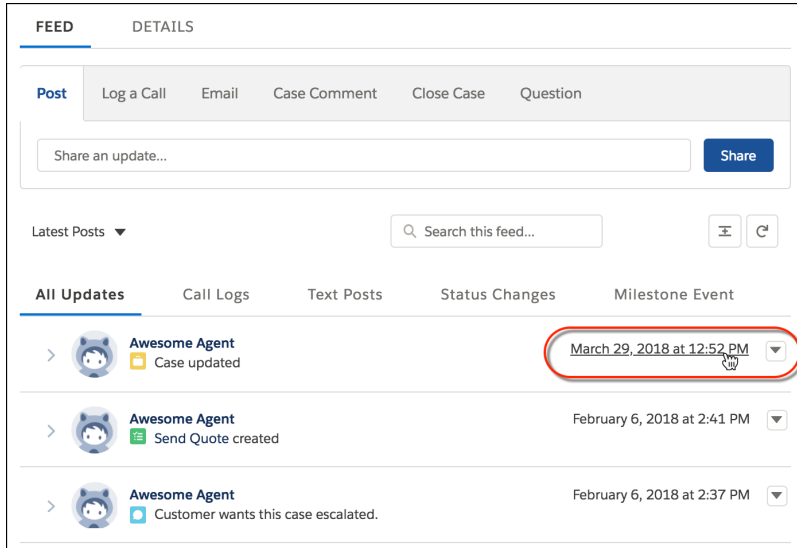
[Salesforce ヘルプ: ケースの \[メールを送信\] クイックアクションの作成 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

### 個々のケースフィード投稿へのリンクの共有

Lightning Experience のケースフィードで個々の投稿へのリンクを共有できることをエージェントに知らせてください。投稿へのリンクを共有するには、投稿のタイムスタンプをクリックします。新しいタブに投稿が表示され、ここでエージェントは URL のコピーと貼り付けができます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:** エージェントは、Salesforce Classic と同様に Lightning Experience でもコラボレーションできるようになりました。

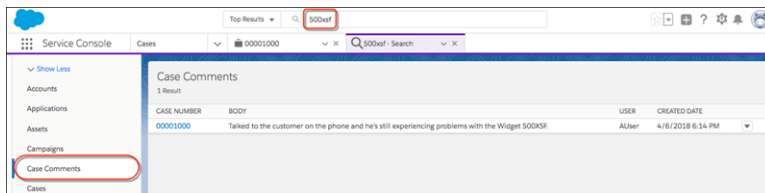


## グローバル検索を使用したケースコメントの検索

ケースに関連付けられたコメントを Lightning Experience のサービスコンソールから検索します。以前は、ケースコメントを検索できませんでした。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** サービスコンソールアプリケーションまたは任意の Lightning アプリケーションで、グローバル検索バーにコメントの詳細を入力します。検索結果ページの左のナビゲーションで[ケースコメント]のヘッダーを探します。すぐに見つからない場合は、[表示件数を増やす]をクリックします。



## オムニチャネル: Lightning Experience の作業項目の転送オプションの増加

オムニチャネルのスキルベースのルーティング (正式リリース) とオムニチャネルの外部ルーティング (正式リリース) を使用して、自由に作業項目を転送できます。スキルベースのルーティングと外部ルーティングでサポートされるようになったオムニスーパーバイザを使用して、エージェントの作業負荷や未割り当ての作業項目を監視できます。オムニチャネルユーティリティで新しい作業項目と受け入れられた作業項目を一目で確認できます。オムニチャネル設定は、Lightning Experience でアクセスします。

## このセクションの内容:

### スキルベースのルーティング (正式リリース) を使用した適切なエージェントへの適切な作業の転送

各エージェントのスキルセットや能力は異なります。顧客のニーズも異なります。オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用すると、コンタクトセンターで最適なエージェントに作業を転送できます。作業に必要なスキルを持つエージェントに作業項目が自動的に転送されるため、カスタマーサービスの品質が向上します。

### 異なるスキルセットへの作業項目の転送

エージェントに顧客ケースを解決する適切なスキルセットがない場合、エージェントはストレスを感じ、問題を解決するのに長い時間待たされている顧客もストレスを感じます。スキルベースのルーティングを使用すると、エージェントは作業項目を適切なスキルがあるエージェントにすばやく転送できます。適切なスキルの組み合わせを持つエージェントが対応できない場合、作業項目は、適合するスキルを持つエージェントが対応可能になるまで待機中としてリストされます。

### Omni-Channel Supervisor でスキルにより転送された作業を確認

コンタクトセンターのスーパーバイザは、Omni-Channel Supervisor でエージェントの作業負荷とスキルベースのルーティングのバックログを監視できます。スーパーバイザは、エージェント名、状況、スキル、作業項目、作業負荷、業務量を一目で確認できます。

### 外部ルーティング (正式リリース) を使用したサードパーティ作業項目の転送

Salesforce 標準 API およびストーリーミング API を使用して、オムニチャネルにパートナーアプリケーションによるサードパーティルーティングを統合します。これにより、エージェントは1つのコンソールですべてのソースの作業を受け入れることができます。エージェントは、外部転送された作業を Salesforce Classic と Lightning Experience の両方で処理できます。コンタクトセンターのスーパーバイザは、外部転送された作業をオムニスーパーバイザで参照できます。

### オムニチャネルユーティリティでの「新規」作業と「私の作業」の確認

サポートエージェントの作業を管理しやすくするタブがオムニチャネルユーティリティに追加されました。サポートエージェントは、受信した作業項目をオムニチャネルユーティリティの [新規] タブで、受け入れた作業項目を [私の作業] タブで参照できます。

### Lightning Experience でのオムニチャネルの設定

オムニチャネルの設定やカスタマイズを行うために Salesforce Classic に切り替える必要はもうありません。これまで愛用してきた最新の Lightning Experience から移動せずに済みます。すべてのオムニチャネル設定ページ ([オムニチャネル設定] など) が Lightning Experience で使用できるようになりました。

## スキルベースのルーティング (正式リリース) を使用した適切なエージェントへの適切な作業の転送

各エージェントのスキルセットや能力は異なります。顧客のニーズも異なります。オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用すると、コンタクトセンターで最適なエージェントに作業を転送できます。作業に必要なスキルを持つエージェントに作業項目が自動的に転送されるため、カスタマーサービスの品質が向上します。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: スキルベースのルーティングでは、作業項目の完了に必要なスキルを確認し、エージェントに割り当てられているスキルと照合します。会社で必要な任意のスキルを定義できます。通常、スキルとは、言語能力、製品知識、資格、ケース発生源、取引先履歴などの属性です。

スキルベースのルーティングは、ケース、リード、注文、カスタムオブジェクトでサポートされています。スキルベースのルーティングでチャットや SOS を転送することはできません。

マネージャは、オムニスーパーバイザとスキルベースのルーティングを併用して、作業中のエージェント、未割り当ての作業項目、作業項目の待機時間を確認できます。

**!** **重要:** キューベースのルーティングまたはスキルベースのルーティングを使用して作業項目をエージェントに転送できます。スキルベースのルーティングを有効にすると、キューベースのルーティングは使用できなくなります(その逆も同様)。

方法: スキルベースのルーティングの使用を開始するには、組織でスキルベースのルーティングを有効にし、設定手順に従ってスキルの定義、エージェントへのスキルの割り当て、カスタム Apex クラスの作成、スキルベースのルーティングをトリガするワークフローの定義を行います。心配はいりません。ステップごとの手順が用意されています。

## 異なるスキルセットへの作業項目の転送

エージェントに顧客ケースを解決する適切なスキルセットがない場合、エージェントはストレスを感じ、問題を解決するの長い時間待たされている顧客もストレスを感じます。スキルベースのルーティングを使用すると、エージェントは作業項目を適切なスキルがあるエージェントにすばやく転送できます。適切なスキルの組み合わせを持つエージェントが対応できない場合、作業項目は、適合するスキルを持つエージェントが対応可能になるまで待機中としてリストされます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: この機能は、組織でオムニチャネルのスキルベースのルーティングが設定されていて、Lightning Experience を使用するエージェントに対して自動的に有効になります。

## Omni-Channel Supervisor でスキルにより転送された作業を確認

コンタクトセンターのスーパーバイザは、Omni-Channel Supervisor でエージェントの作業負荷とスキルベースのルーティングのバックログを監視できます。スーパーバイザは、エージェント名、状況、スキル、作業項目、作業負荷、業務量を一目で確認できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: オムニチャネルのスキルベースのルーティングが組織で有効になっている場合、Omni-Channel Supervisor にはエージェントの作業負荷とスキルの作業項目のバックログを監視するためのタブが自動的に表示されます。

## 外部ルーティング (正式リリース) を使用したサードパーティ作業項目の転送

Salesforce 標準 API およびストリーミング API を使用して、オムニチャネルにパートナーアプリケーションによるサードパーティルーティングを統合します。これにより、エージェントは1つのコンソールですべてのソースの作業を受け入れることができます。エージェントは、外部転送された作業を Salesforce Classic と Lightning Experience の両方で処理できます。コンタクトセンターのスーパーバイザは、外部転送された作業をオムニスーパバイザで参照できます。

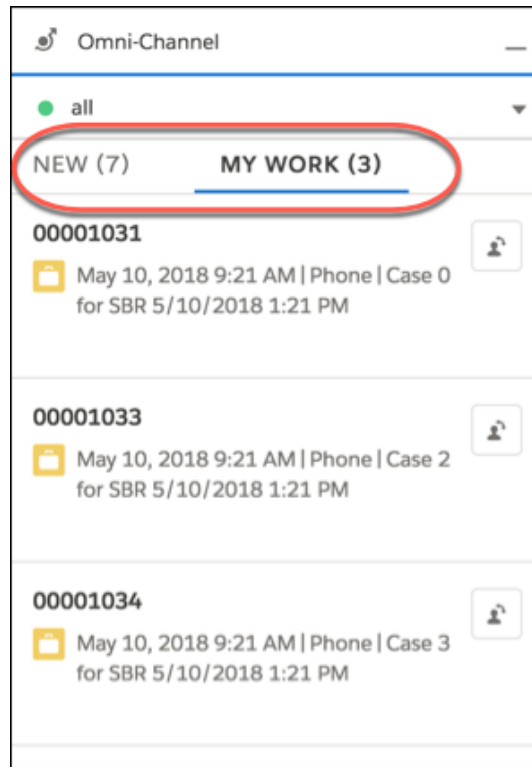
**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

## オムニチャネルユーティリティでの「新規」作業と「私の作業」の確認

サポートエージェントの作業を管理しやすくするタブがオムニチャネルユーティリティに追加されました。サポートエージェントは、受信した作業項目をオムニチャネルユーティリティの [新規] タブで、受け入れた作業項目を [私の作業] タブで参照できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:**



**方法:** Lightning Experience を使用するエージェントでは、この機能は自動的に有効になります。

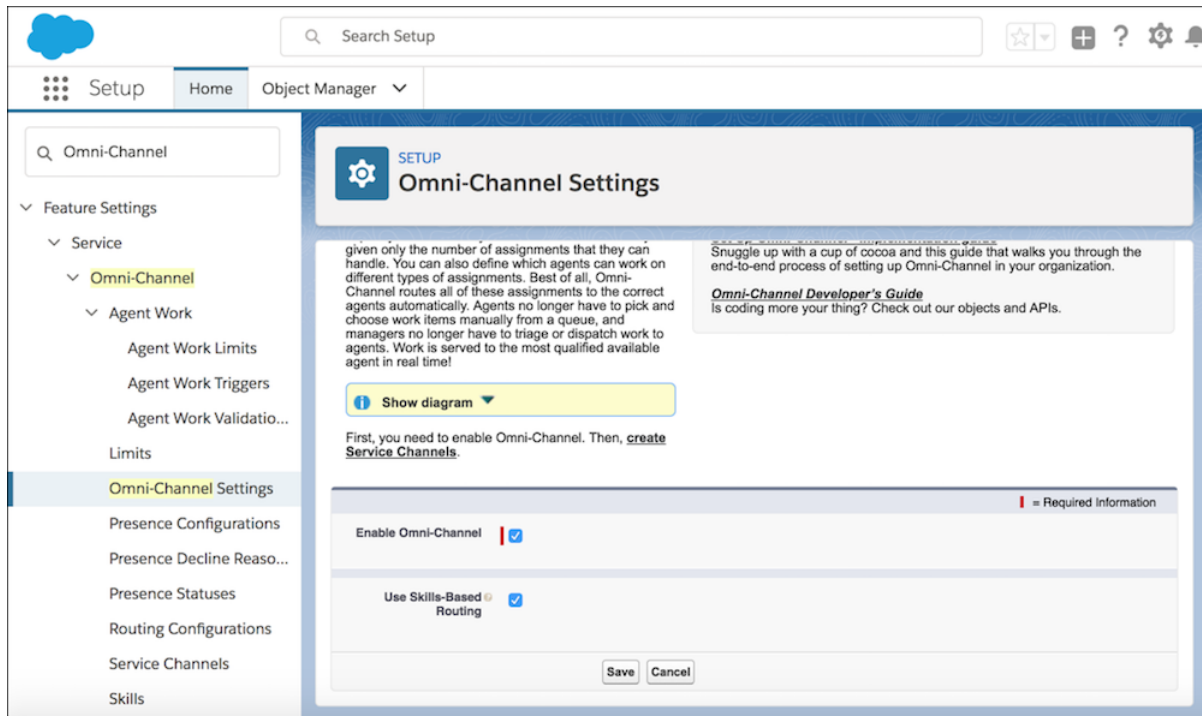


## Lightning Experience でのオムニチャネルの設定

オムニチャネルの設定やカスタマイズを行うために Salesforce Classic に切り替える必要はもうありません。これまで愛用してきた最新の Lightning Experience から移動せずに済みます。すべてのオムニチャネル設定ページ ([オムニチャネル設定] など) が Lightning Experience で使用できるようになりました。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** この変更はすべての組織で使用できます。Lightning Experience の [設定] に移動して、[クイック検索] ボックスに「オムニチャネル」と入力します。すべてのオムニチャネル設定ページが表示されます。



## 生産性ツール: マクロとクイックテキストの軽微な改善

Salesforce は、ユーザが愛用している機能を微調整することに喜びを感じます。マクロの作成時に、ユーザがカーソル位置にテキストを挿入できるようになりました。クイックテキストを操作するとき、所有者をキューに割り当てることができます。

このセクションの内容:

### カーソル位置にテキストを挿入するマクロの作成

これまで、マクロの作成時には、既存のテキストを置き換えるか、テキストの前後に情報を追加することしかできませんでした。今後は、カーソル位置にテキストを挿入できます。

### クイックテキスト所有者からキューへの変更

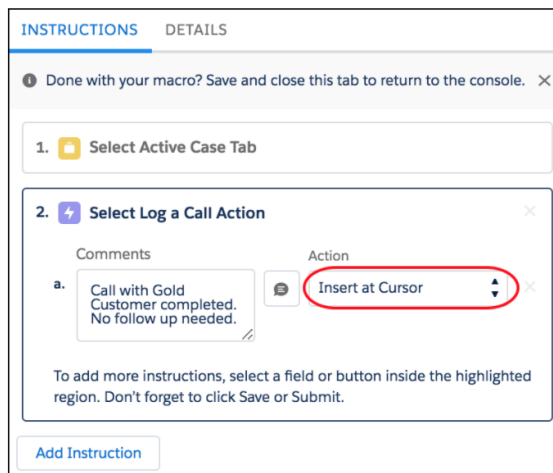
コラボレーションを促進して、クイックテキストのメンテナンスを共有するには、キューを所有者として割り当てます。クイックテキストを使用すると、キューのユーザは挨拶、よくある質問への回答、短いメモなど、定義済みのメッセージを挿入できます。これまで、所有者として割り当てることができたのは個人のみでした。

### カーソル位置にテキストを挿入するマクロの作成

これまで、マクロの作成時には、既存のテキストを置き換えるか、テキストの前後に情報を追加することしかできませんでした。今後は、カーソル位置にテキストを挿入できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** マクロの作成時に、アクションドロップダウンから [カーソル位置に挿入] を選択します。



[カーソル位置に挿入] アクションで作成したマクロを使用する前に、必ずテキストを追加する位置にカーソルを置いて初期設定します。そうしないと、マクロが項目の先頭に挿入します。

- 📌 **メモ:** [既存のテキストの後に挿入] 命令を使用するマクロを Spring '18 以前の Lightning Experience で作成している場合、マクロの更新が必要になる場合があります。場合によって、[既存のテキストの後に挿入] を使用して作成したマクロは意図どおりに動作しないことがありました。マクロ命令を慎重にレビューし、更新してください。

#### 関連トピック:

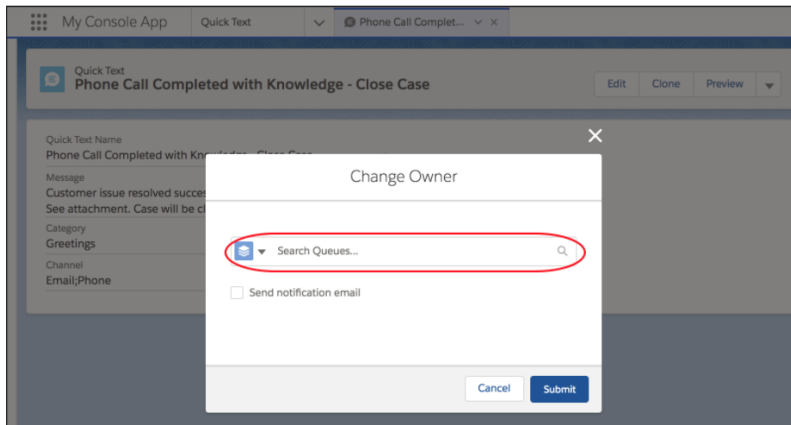
[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のマクロ \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## クイックテキスト所有者からキューへの変更

コラボレーションを促進して、クイックテキストのメンテナンスを共有するには、キューを所有者として割り当てます。クイックテキストを使用すると、キューのユーザは挨拶、よくある質問への回答、短いメモなど、定義済みのメッセージを挿入できます。これまで、所有者として割り当てることができたのは個人のみでした。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** クイックテキストの所有者を変更するには、ドロップダウンから [キュー] を選択します。



### 関連トピック:

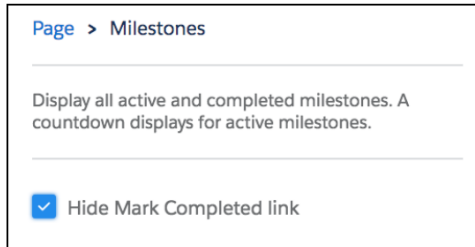
[Salesforce ヘルプ: クイックテキストの設定と使用 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## エンタイトルメント管理: エージェントが誤ってマイルストーンを完了としてマークすることの防止

マイルストーンを使用すると、エージェントはタイムリーに顧客に対応できます。エージェントが誤ってマイルストーンを完了としてマークすることを防ぐには、マイルストーンコンポーネントの [完了としてマーク] リンクを非表示にします。このリンクを削除すると、マイルストーンは条件が満たされた場合にのみ自動的に完了としてマークされます。ただし、エージェントがマイルストーンレコードページに移動してマイルストーンを完了としてマークすることも引き続き可能です。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** リンクを非表示にするには、Lightning アプリケーションビルダーで、マイルストーンコンポーネントのプロパティを編集します。[[完了としてマーク] のリンクを非表示] を選択します。これはデフォルトでは選択解除されています。



#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: マイルストントラッカーの設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## Field Service: Lightning コミュニティのサポート、作業種別に関する記事、パス

フィールドサービスオブジェクトをLightningコミュニティに追加することで、パートナーや顧客にフィールドサービスプロセスを表示できます。作業種別およびメンテナンス計画の改善によってチームの効率が上がり、サービスレポートテンプレートの拡張された条件検索は、洗練されたサービスレポートの作成に役立ちます。いくつかのフィールドサービスオブジェクトにはShield Platform Encryption、条件に基づく共有、パスが含まれるようになりました。パスは、レコードの状況を示す、見やすい進行状況バーです。

#### このセクションの内容:

##### 作業種別へのナレッジ記事の追加

作業を正常に完了するための必要な情報で技術者を武装し、現場に送り込みます。ナレッジ記事を作業種別に添付すると、その作業種別を使用する作業指示および作業指示品目に記事が表示されます。Lightning Experience のナレッジコンポーネントから、作業指示と作業指示品目に関する記事の添付と添付解除もできます。以前は、これらのレコードに関する記事はLightning Experience では参照のみでした。

##### Field Service のパスを使用したチームのガイド

パス (レコード詳細ページ上の目を引く進行状況バー) を使用して、ライフサイクル内のレコードのフェーズをすばやく追跡します。パスを使用して、作業指示、作業指示品目、およびサービス予定の状況を追跡できるようになりました。

##### メンテナンス計画の作業指示の自動生成

椅子にくつろいで、机に両足を上げたまま、入ってくる作業指示を眺めます。作業指示の現在のバッチの完了が近づくと、メンテナンス計画の新機能により作業指示の新規バッチの生成が起動されます。新規バッチをどの程度前に生成するかを選択できます。また、現在のバッチの最後の作業指示が未完了の場合に生成を一時停止するように選択することもできます。

##### 取引先、取引先責任者、および場所に関連するメンテナンス計画の表示

[メンテナンス計画] 関連リストを取引先、取引先責任者、および場所のページレイアウトに追加することで、サポートチームの作業を容易にします。この関連リストを使用すると、エージェントは、取引先または取引先責任者の有効なメンテナンス計画、および場所 (顧客のサイトなど) がメンテナンス計画に関連付けられているかどうかをすばやく確認できます。

### 作業指示とサービス予定に保存されたデータの Shield による暗号化

Shield Platform Encryption と項目監査履歴が作業指示、作業指示品目、およびサービス予定の特定の項目で使用できるようになりました。項目値を最長10年間保存できるほか、サポートされる項目を暗号化して顧客のデータをより強固に保護できます。

### フィールドサービスに対する条件ベースの共有ルールの作成

誰がレコードを参照および更新できるかを制御します。条件ベースの共有は、7つのフィールドサービスオブジェクトに対して新しく使用できるようになりました。各オブジェクトに、最大50件の条件に基づく共有ルールを定義できます。

### サービスレポートの関連リストの絞り込み (正式リリース)

膨大なサービスレポートにうんざりしていませんか? サービスレポートテンプレートに検索条件を追加して、サービスレポートの関連リストに表示するレコードの数を減らします。これにより、顧客は必要なレコードのみを表示できます。

### Lightning コミュニティでのフィールドサービスの管理

フィールドサービスデータをパートナー、請負業者、顧客と共有するのがより簡単になりました。すべての Field Service Lightning 標準オブジェクトが Lightning コミュニティで使用できるようになりました。フィールドサービスオブジェクトは、Salesforce Tabs + Visualforce を使用して構築されたコミュニティでは以前からすでに使用できましたが、Lightning コミュニティで使用できたのは、作業指示、作業指示品目、サービス予定のみでした。

### より大きなサービステリトリー階層の作成

サービステリトリーの階層に最大10,000件のサービステリトリーを含めることができるようになりました。以前は、最大で500件でした。テリトリーの使用方法によっては、階層数が増大する可能性があるため、制限を緩和し、ユーザの頭痛を和らげることにしました。

### タイムシートの通貨コードの編集

時として、予期しない方法で支払いが行われることがあります。サービス予定で使用される通貨に合わせて、派遣作業員がタイムシートに表示される通貨を変更できるようにします。タイムシートの通貨ISOコードとタイムシートエントリがユーザインターフェースで編集可能になりました。

### Snap-In 予定管理: 顧客が予定を予約、変更、キャンセルできるようにする (ベータ)

Snap-In 予定管理 (ベータ) では、顧客はモバイル環境の従業員の予定を容易にスケジュール、変更、キャンセルできます。環境が Visual Workflow で強化されているため、完璧なインタラクションを作成できるほか、作業指示などの関連レコードをいつどのように作成するかを決定できます。

### Field Service 管理パッケージ: リソーススケジュールの最適化、ガントチャートのライブ更新、カスタムリスト検索条件

緊急の変更を適切に処理できるようにリソースの1日を最適化します。ガントチャートで変更がすぐに更新される様子を眺めます。派遣担当者がカスタム検索条件を使用して独自のリストビューを作成できるようにします。

**モバイル用** Field Service: Android 4.0

バージョン 4.0 では、以前は iOS バージョンでのみ使用できた人気のある機能の一部が Field Service Lightning の Android バージョンに取り込まれます。レイアウトを使用して、プロファイルタブでのリソース不在の表示を制御します。連動選択リストを使用して、ユーザの成功をサポートします。複数の在庫ロケーションから商品を消費します。クイックアクションを使用して、フローをユーザに提供します。オフラインからでも Chatter への投稿をキューに登録します。便利な画像をナレッジ記事に提供します。スケジュール画面をユーザが制御するための複数のカスタムリストビューを提供します。特定の関連リストを表示するときに Salesforce アプリケーションにリンクします。

## 作業種別へのナレッジ記事の追加

作業を正常に完了するための必要な情報で技術者を武装し、現場に送り込みます。ナレッジ記事を作業種別に添付すると、その作業種別を使用する作業指示および作業指示品目に記事が表示されます。Lightning Experience のナレッジコンポーネントから、作業指示と作業指示品目に関する記事の添付と添付解除もできます。以前は、これらのレコードに関する記事は Lightning Experience では参照のみでした。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。組織にナレッジが設定されている必要があります。

**対象ユーザ:** 作業種別に対する「参照」アクセス権を持つエージェントは記事の添付と添付解除ができます。作業種別に関する記事を参照するには、作業種別と記事タイプに対する「参照」アクセス権が必要です。

**理由:** 作業種別は、チームが毎回同じ方法で特定のフィールドサービス作業を完了するのに役立ちます。これにナレッジ記事を投入して組み合わせると、プロセスをさらに簡単に標準化できます。たとえば、「Solar Panel Replacement (ソーラーパネル交換)」という作業種別がある場合は、ソーラーパネルの交換方法を説明する記事を添付できます。この作業種別を使用するすべての作業指示に記事が自動的に含まれるため、この作業指示に割り当てられた人員は指示を手元で簡単に確認することができます。経験豊富な技術者は、記事の更新を提案することで知識を容易に共有させることもできます。

**方法:** 新機能の使用を開始する手順は、次のとおりです。

- 作業種別のページレイアウトに [記事] 関連リストを追加する
- Lightning Experience で、ナレッジコンポーネントを作業種別、作業指示、および作業指示品目のページレイアウトに追加する

Lightning Experience と Lightning Experience コンソールのナレッジコンポーネント、および Salesforce Classic と Salesforce Classic コンソールの [記事] 関連リストから、記事を作業種別に添付します。Lightning Experience と Lightning Experience コンソールの作業指示や作業指示品目のナレッジコンポーネント、Salesforce Classic の [記事] 関連リスト、および Salesforce Classic コンソールの Knowledge One ウィジェットから、記事を作業指示や作業指示品目に添付します。

作業種別に関する記事は、作業指示および作業指示品目に関する記事とは少し異なります。

- 記事のページレイアウトでは [リンクされた作業種別] 関連リストを使用できないため、記事がどの作業種別に関連付けられているかを確認できません。
- コンソール内の作業種別に対して Knowledge One ウィジェットは使用できませんが、[記事] 関連リストは使用できます。
- 作業指示と作業指示品目とその作業種別から記事を継承する場合、組織の [ナレッジの設定] のデフォルト言語で公開された記事の最新バージョンが継承されます。

**メモ:**

- Knowledge One コンソールウィジェットとは異なり、Knowledge Lightning コンポーネントには、作業指示、作業指示品目、作業種別の記事の提案が含まれます。
- この変更をサポートするため、リンクされた記事の項目 [記事バージョン]、[ナレッジの記事ID]、および [リンクされたレコードID] が必須になりました。作業種別にリンクされた記事では、[記事バージョン] は引き続き省略可能です。

**関連トピック:**

[Salesforce ヘルプ: 作業指示でのナレッジの使用に関するガイドライン](#) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

## Field Service のパスを使用したチームのガイド

パス(レコード詳細ページ上の目を引く進行状況バー)を使用して、ライフサイクル内のレコードのフェーズをすばやく追跡します。パスを使用して、作業指示、作業指示品目、およびサービス予定の状況を追跡できるようになりました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Lightning コミュニティに適用されます。Field Service オブジェクトのパスは、Salesforce Classic、Salesforce モバイルアプリケーション、または Field Service Lightning モバイルアプリケーションでは使用できません。

**理由:** あなたは商談やリードなどのセールスレコードでパスを表示したことがあるかもしれません。パスを使用すると、チームはレコードの状況や、完了までのレコードの位置をすばやく確認できるほか、パス上で目的の値をクリックして状況を更新できます。

レコードタイプごとに1つのパスを設定できます。パスのステップ (1) は状況選択リスト値に対応します。パスの各ステップの下に最大5個の重要な項目と、ステップ固有の役に立つガイダンスを表示してエージェントをサポートします (2)。重要な項目とガイダンスはデフォルトで折りたたまれています。展開するには、パスの左にあるキャレットをクリックします。

作業指示、作業指示品目、およびサービス予定には、レコードの結果を表すことができるいくつかの状況があります ([キャンセル]、[完了できません]、[完了]、および [クローズ済み])。このため、ユーザはレコードを完了するときに最終状況を選択するように求められます。否定的な最終状況 ([キャンセル] または [完了できません])

は赤で表示され、肯定的な状況は緑で表示されます。パスのステップの順序は[状況]選択リストの値の順序に基づきますが、結果を表す状況は最終ステップにグループ化されます。

方法:[設定]の[パス設定]ページで、パスを有効化して、作業指示、作業指示品目、またはサービス予定オブジェクトのパスを作成します。パスは[状況]項目またはカスタム選択リストに基づいて設定できます。

[設定]で、各オブジェクトの項目設定から、状況のカテゴリを各状況の値に割り当てます。状況カテゴリによって、パスの最終状況ステージにグループ化される状況が決まります。

Status Picklist Values				
Action	Values	API Name	Status Category	Default
<a href="#">Edit</a>   <a href="#">Deactivate</a>	New	New	New	<input checked="" type="checkbox"/>
<a href="#">Edit</a>   <a href="#">Del</a>   <a href="#">Deactivate</a>	In Progress	In Progress	In Progress	<input type="checkbox"/>
<a href="#">Edit</a>   <a href="#">Del</a>   <a href="#">Deactivate</a>	On Hold	On Hold	On Hold	<input type="checkbox"/>
<a href="#">Edit</a>   <a href="#">Del</a>   <a href="#">Deactivate</a>	Completed	Completed	Completed	<input type="checkbox"/>
<a href="#">Edit</a>   <a href="#">Del</a>   <a href="#">Deactivate</a>	Closed	Closed	Closed	<input type="checkbox"/>
<a href="#">Edit</a>   <a href="#">Del</a>   <a href="#">Deactivate</a>	Cannot Complete	Cannot Complete	Cannot Complete	<input type="checkbox"/>
<a href="#">Edit</a>   <a href="#">Del</a>   <a href="#">Deactivate</a>	Canceled	Canceled	Canceled	<input type="checkbox"/>

パスを作成したら、Lightning アプリケーションビルダーを使用して組織の適切な Lightning レコードページにパスコンポーネントをドラッグするか、コミュニティビルダーを使用して Lightning コミュニティページにパスコンポーネントをドラッグします。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ:パスによるユーザのガイド\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ:パスの考慮事項\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## メンテナンス計画の作業指示の自動生成

椅子にくつろいで、机に両足を上げたまま、入ってくる作業指示を眺めます。作業指示の現在のバッチの完了が近づくと、メンテナンス計画の新機能により作業指示の新規バッチの生成が起動されます。新規バッチをどの程度前に生成するかを選択できます。また、現在のバッチの最後の作業指示が未完了の場合に生成を一時停止するように選択することもできます。

**対象:**この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**理由:**メンテナンス計画を使用すると、顧客の納入商品に関連する定期訪問の作業指示を一括して作成できます。たとえば、エレベータのサービス契約で毎月の予防メンテナンスの訪問が規定されている場合、最大2,500件の作業指示のバッチを将来の訪問に向けて作成できます。

以前は、作業指示の新規バッチを生成するには、メンテナンス計画でボタンをクリックする必要がありました。現在は、現在のバッチの完了が近づいたときに作業指示の新規バッチを生成するように選択できるようになりました。このオプションは、継続的なメンテナンスを受ける納入商品のメンテナンススケジュールを把握するのに役立ちます。



新規設定の概要を次に示します。

- メンテナンス計画の [作業指示を自動生成] チェックボックスは、メンテナンス計画の作業指示バッチの自動生成をオンにして、[作業指示を生成] アクションを使用して作業指示の手動生成を禁止します。
- メンテナンス計画の [生成対象期間 (日数)] 数値項目は、バッチ生成のタイミングを引き上げます。
- メンテナンス計画の [完了時に新規バッチを生成] チェックボックスがオンの場合、メンテナンス計画から生成された最後の作業指示が完了するまで作業指示の新しいバッチは生成されません。
- 作業指示の参照のみの [メンテナンス計画から生成] チェックボックスは、作業指示が手動生成ではなくメンテナンス計画から生成されたことを示します。
- メンテナンスアセットの [次のバッチの最初の作業指示の日付] 日付項目には、メンテナンスアセットの作業指示の推奨サービス日 (作業指示の作成日ではない) がリストされます。これは、作業指示の推奨メンテナンス日に対応し、各バッチの生成後に自動的に更新されます。

方法: 新規項目は、Summer'18以降に作成された組織のデフォルトページレイアウトに自動的に表示されます。Summer '18 より前に作成された組織の場合、項目をページレイアウトに追加し、その項目レベルセキュリティを設定します。

関連トピック:

#### 変更されたオブジェクト

[Salesforce ヘルプ: メンテナンス計画の作成 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: メンテナンス計画の項目 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: メンテナンス計画からの作業指示の生成に関するガイドライン \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## 取引先、取引先責任者、および場所に関連するメンテナンス計画の表示

[メンテナンス計画] 関連リストを取引先、取引先責任者、および場所のページレイアウトに追加することで、サポートチームの作業を容易にします。この関連リストを使用すると、エージェントは、取引先または取引先責任者の有効なメンテナンス計画、および場所 (顧客のサイトなど) がメンテナンス計画に関連付けられているかどうかをすばやく確認できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] のページレイアウトエディタから、[メンテナンス計画] 関連リストを取引先、取引先責任者、および場所の詳細ページにドラッグします。

## 作業指示とサービス予定に保存されたデータの Shield による暗号化

Shield Platform Encryption と項目監査履歴が作業指示、作業指示品目、およびサービス予定の特定の項目で使用できるようになりました。項目値を最長 10 年間保存できるほか、サポートされる項目を暗号化して顧客のデータをより強固に保護できます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザ:** Shield Platform Encryption では、Salesforce Shield を購入する必要があります。項目を暗号化するには、「設定・定義を参照する」権限と「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

**理由:** 暗号化は顧客のデータのセキュリティを強化するほか、ライバシーポリシー、規制要件、契約義務への準拠に役立ちます。作業指示、作業指示品目、およびサービス予定の Shield Platform Encryption で次の項目が使用できるようになりました。


- 説明
- 件名
- 住所 ([町名・番地] および [市区郡] のみ)

 **メモ:** 暗号化は緯度および経度項目ではサポートされません。

項目監査履歴 (Shield サービスパッケージのコンポーネント) も作業指示、作業指示品目、およびサービス予定上にあるサポートされるデータ型のすべての項目で使用できるようになりました。項目履歴管理とは関係なく、アーカイブ済みの項目履歴データを保持するポリシーを定義できます。デフォルトでは、データは本番組織では 18 か月後にアーカイブされ、Sandbox 組織では 1 か月後にアーカイブされます。アーカイブされたすべてのデータは 10 年間保存されます。

**方法:** これらの項目を暗号化するには、[設定] で項目を暗号化ポリシーに追加します。[件名] 項目と [住所] 項目は確定的暗号化と確率的暗号化をサポートしますが、[説明] 項目は確率的暗号化のみをサポートします。

項目監査履歴を有効にした場合、保持する必要があるデータを含む項目に対して、項目履歴データの保持ポリシーの設定を開始できます。

 **メモ:** 項目を暗号化しても、既存の値は暗号化されません。既存のデータの暗号化については、Salesforce にお問い合わせください。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 項目の新規データの暗号化 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Shield Platform Encryption の一般的な考慮事項 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 項目監査履歴実装ガイド \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## フィールドサービスに対する条件ベースの共有ルールの作成

誰がレコードを参照および更新できるかを制御します。条件ベースの共有は、7つのフィールドサービスオブジェクトに対して新しく使用できるようになりました。各オブジェクトに、最大50件の条件に基づく共有ルールを定義できます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザ:** システム管理者は、共有ルールを作成するには、「共有の管理」ユーザ権限が必要です。

理由: 条件ベースの共有を使用すると、より詳細に共有設定を制御できます。今回のリリースで、次のフィールドサービスオブジェクトに対して使用できるようになりました。

- Location
- 製品項目
- 返品注文
- サービス予約
- サービスリソース
- サービステリトリー
- 作業種別

たとえば、製品項目の[ロケーション]項目を使用して共有ルールを設定することで、サンフランシスコの倉庫にあるすべての製品項目レコードを倉庫のマネージャと共有します。

方法: 共有ルールは、[設定]の[共有設定]ページから作成します。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 条件に基づく共有ルール\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: 共有ルール\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## サービスレポートの関連リストの絞り込み (正式リリース)

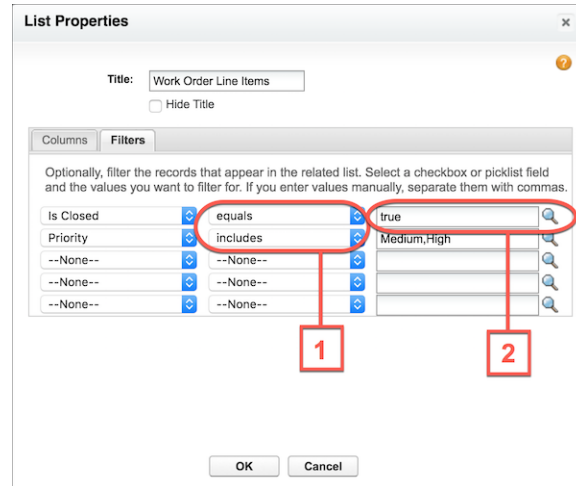
膨大なサービスレポートにうんざりしていませんか? サービスレポートテンプレートに検索条件を追加して、サービスレポートの関連リストに表示するレコードの数を減らします。これにより、顧客は必要なレコードのみを表示できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: サービスレポートテンプレートの関連リストの検索条件を使用すると、不要なレコードをサービスレポートから取り除くことができます。検索条件を使用してサービスレポートを洗練させる方法を次にいくつか示します。

- 作業指示サービスレポートテンプレートで、完了した品目のみを表示する検索条件を [作業指示品目] 関連リストに作成します。
- 作業指示サービスレポートテンプレートで、作業指示品目を状況によって分割する2つの関連リスト(「Line Items On Hold (保留中の品目)」と「Completed Line Items (完了した品目)」)を作成します。

サービスレポートの関連リストの絞り込みのベータ版では、関連リストごとに1つの検索条件のみを作成でき、選択リスト項目のみを絞り込むことができました。現在は、関連リストごとに最大5個の検索条件を作成でき、検索条件を選択リストまたはチェックボックス (Boolean) 項目に適用できるようになりました。



次の検索条件の演算子 (1) を使用できます。

- 選択リスト項目: [次の値を含む] または [次の値を含まない]
- チェックボックス項目: [次の文字列と一致する] または [次の文字列と一致しない]

有効なチェックボックス値 (2) は [True] と [False] です。

方法: 検索条件を設定するには、サービスレポートテンプレートを開き、絞り込む関連リストのレンチアイコンをクリックします。[検索条件] タブから、検索条件を最大 5 個定義します。検索条件項目で選択された値を含むレコードのみが、テンプレートを使用するサービスレポートに表示されます。

#### メモ:

- 無効化された選択リスト値はルックアップに表示されませんが、手動で入力できます。
- 検索条件の設定は、[検索条件] タブからのみ表示できます。
- 契約品目名の [状況] 項目は絞り込みに使用できません。また、[検索条件] タブは Internet Explorer 8 では使用できません。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: サービスレポートテンプレートの作成 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: サービスレポートテンプレートのカスタマイズに関するガイドライン \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[作業指示およびサービス予定の項目の暗号化](#)

## Lightning コミュニティでのフィールドサービスの管理

フィールドサービスデータをパートナー、請負業者、顧客と共有するのがより簡単になりました。すべての Field Service Lightning 標準オブジェクトが Lightning コミュニティで使用できるようになりました。フィールドサービスオブジェクトは、Salesforce Tabs + Visualforce を使用して構築されたコミュニティでは以前からすでに使用できましたが、Lightning コミュニティで使用できたのは、作業指示、作業指示品目、サービス予定のみでした。


**対象:** この変更は、Lightning コミュニティ、Salesforce タブ+Visualforce コミュニティ、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

**理由:** コミュニティを使用してビジネスパートナー、従業員、または顧客とつながっている場合、常にコミュニケーションを取れるようにしておくことが、フィールドサービスの成功の鍵です。たとえば、返品注文と返品注文品目を追加すると、顧客が返品の状況を参照できます。または、サービスリソースを追加すると、パートナーがリソースのスキルと開始日を参照できます。


Lightning コミュニティに追加できるフィールドサービスオブジェクトは次のとおりです。

- 住所
- アセットリレーション
- 割り当て済みリソース
- 関連付けられたロケーション
- Location
- メンテナンスアセット
- メンテナンス計画
- 業務時間
- 消費した製品
- 製品項目
- 製品項目トランザクション
- 製品リクエスト
- 製品リクエスト品目
- 必要製品
- 製品移送
- リソース不在
- リソース設定
- 返品注文
- 返品注文品目
- サービス予定 (以前から使用可能)
- サービスクルー
- サービスクルーメンバー
- サービスレポート
- サービスリソース
- サービスリソース業務量
- サービスリソーススキル
- サービステリトリー
- サービステリトリーロケーション
- サービステリトリーメンバー
- Shipment
- スキル要件 ID

- TimeSheet
- タイムシートエントリ
- 稼働時間
- 作業指示 (以前から使用可能)
- 作業指示品目 (以前から使用可能)
- 作業種別

 **メモ:** このリストには、フィールドサービスに固有でないオブジェクト (納入商品、取引先、取引先責任者など) は含まれていません。また、リンクされた記事 (フィールドサービスオブジェクトに添付されたナレッジ記事) は Lightning コミュニティではサポートされません。

**方法:** Lightning コミュニティでフィールドサービスオブジェクトを公開するには、コミュニティビルダーのページマネージャでオブジェクトページを新規作成します。メッセージが表示されたら、オブジェクトを選択します。ページマネージャによって、新規オブジェクトページに3種類の関連ページ (レコード詳細ページ、レコードリストページ、関連リストページ) が作成されます。コミュニティのナビゲーションバーにオブジェクトを追加すれば、設定はすべて完了です。

 **ヒント:** コミュニティに追加するオブジェクトの項目レベルのセキュリティを確認し、顧客とパートナーに必要な項目のみが表示されるようにします。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: コミュニティテンプレートの標準のコンポーネントおよびページでサポートされるオブジェクト \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Field Service Lightning オブジェクト \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: コミュニティでのフィールドサービスの設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## より大きなサービステリトリー階層の作成

サービステリトリーの階層に最大10,000件のサービステリトリーを含めることができるようになりました。以前は、最大で500件でした。テリトリーの使用方法によっては、階層数が増大する可能性があるため、制限を緩和し、ユーザの頭痛を和らげることにしました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** 通常、サービステリトリーは、フィールドサービスチームが作業する地域を表します。ただし、機能テリトリー (フィールドセールスとフィールドサービスなど) を作成することもできます。

**方法:** 親サービステリトリー項目と [子サービステリトリー] 関連リストを使用して、サービステリトリーを階層にまとめます。最上位レベルのテリトリーを最初に作成することをお勧めします。新しい制限はフィールドサービス顧客に自動的に適用され、セットアップは不要です。

## タイムシートの通貨コードの編集

時として、予期しない方法で支払いが行われることがあります。サービス予定で使用される通貨に合わせて、派遣作業員がタイムシートに表示される通貨を変更できるようにします。タイムシートの通貨 ISO コードとタイムシートエントリがユーザインターフェースで編集可能になりました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザ:** [通貨 ISO コード] 項目は、組織でマルチ通貨機能が有効になっている場合のみ使用できます。タイムシートに対する編集権限を持つすべてのユーザが通貨コードを更新できます。


**理由:** 以前は、タイムシートの [通貨 ISO コード] 項目とタイムシートエントリは API を使用してのみ更新可能でした。今回のリリースでは、必要に応じて、移動時間や作業時間を記録する技術者が通貨を更新できるようになりました。たとえば、ドイツの派遣担当者がデンマークにいるチームのサービス予定を作成した場合に、技術者は、通貨を EUR (ユーロ) から DKK (デンマーククローネ) に変更して現地通貨で支払いを受けることができます。

**方法:** チームがタイムシートの通貨を更新できるようにするには、[通貨 ISO コード] 項目 (API 参照名: CurrencyIsoCode) がタイムシートおよびタイムシートエントリのページレイアウトに追加されていることを確認します。

## Snap-In 予定管理: 顧客が予定を予約、変更、キャンセルできるようにする (ベータ)

Snap-In 予定管理 (ベータ) では、顧客はモバイル環境の従業員の予定を容易にスケジュール、変更、キャンセルできます。環境が Visual Workflow で強化されているため、完璧なインタラクションを作成できるほか、作業指示などの関連レコードをいつどのように作成するかを決定できます。

**対象:** この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされ、バージョン 5.0 以降の Snap-in コードスニペットを使用している Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** Snap-in 予定管理はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

**対象ユーザ:** 「FSL セルフサービス」権限セットを持つコミュニティユーザ。「FSL システム管理者」権限セットを持つシステム管理者。

**方法:** このベータ機能には、Field Service Lightning と Field Service Lightning 管理パッケージを使用する確立済みのフィールドサービスシステムと、有効な Salesforce コミュニティが必要です。コミュニティで顧客が予定を管理

できるようにするには、Snap-in の予定の予約を有効にして、FSL スケジュールフローをインストールし、設定する必要があります。

関連トピック:

[サポートコミュニティ予定管理 \(ベータ\)](#)

## Field Service 管理パッケージ: リソーススケジュールの最適化、ガントチャートのライブ更新、カスタムリスト検索条件

緊急の変更を適切に処理できるようにリソースの1日を最適化します。ガントチャートで変更がすぐに更新される様子を眺めます。派遣担当者がカスタム検索条件を使用して独自のリストビューを作成できるようにします。

このセクションの内容:

### 一度に1人のリソースの日を最適化

サービス日の動的な特性により、完璧なスケジュールが台無しになることがあります。リソーススケジュールの最適化を使用して、直前のスケジュールの変更に対応できます。リソーススケジュールの最適化は、他のスケジュールに影響を与えることなく、1人の技術者のスケジュールをすばやく最適化します。

### ガントチャートのライブ更新による派遣担当者の操作性の改善 (ベータ)

ガントチャートオブジェクトがライブ更新されます。ガントチャートで、リソースの不在、サービス予定、割り当て済みリソース、サービスリソース業務量、サービスリソース (現在位置)、最適化リクエストへの変更がリアルタイムで反映されます。以前は、派遣担当者に最新情報が表示されるまでに1~10秒かかっていたいました。

### カスタム検索条件を使用したディスパッチャコンソールリストビューのカスタマイズ

Field Service 管理パッケージのリストビューは、Salesforce で馴染みがあるリストビューと同様になりました。派遣担当者は Boolean 式に基づくカスタムリスト検索条件を使用して、必要なリストビューを作成できます。対象期間の日付またはガントチャートの日付で期間を決定し、複雑な条件ロジックを適用できます。検索条件を非公開にするか、他のユーザと共有できます。

### セカンダリテリトリーメンバーの業務時間の適用

スケジュール設定エンジンに、リソースのセカンダリテリトリーでの対応可能状況が適用されるようになりました。さらに、テリトリー内で対応可能な技術者を参照するときに、セカンダリテリトリーメンバーがそのテリトリーで対応可能な時間が表示されるようになりました。

### ディスパッチャコンソールの操作性の強化

Summer'18で、派遣担当者用のディスパッチャコンソールに多数の機能強化が行われました。システム管理者は、ガントチャートの読み込み時間を短縮するようにディスパッチャコンソール設定を変更できます。派遣担当者がコンソールで行った変更が記憶されるようになりました。

### ディスパッチャコンソールタスクの合理化

Summer'18以降、派遣担当者のルート確認の成功率が高くなり、技術者の推定移動時間がより正確になり、最適化エラーがより明確になります。



### サポートコミュニティ予定管理 (ベータ)

Field Service Lightning 管理パッケージには、コミュニティ予定管理の新しい Snap-in (ベータ) をサポートする新しい権限セットがあります。

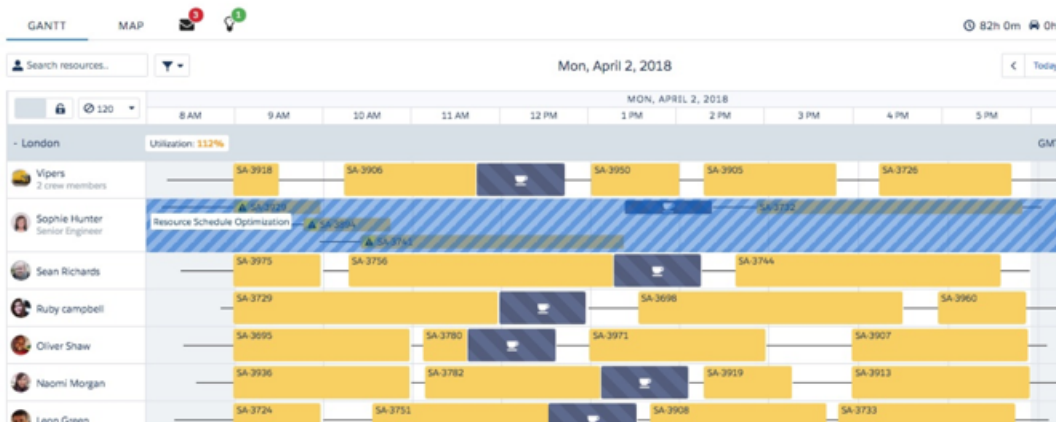
## 一度に1人のリソースの日を最適化

サービス日の動的な特性により、完璧なスケジュールが台無しになることがあります。リソーススケジュールの最適化を使用して、直前のスケジュールの変更に対応できます。リソーススケジュールの最適化は、他のスケジュールに影響を与えることなく、1人の技術者のスケジュールをすばやく最適化します。

**対象:** この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザ:** 「FSL Dispatcher (FSL 派遣担当者)」権限セットと「Resource Schedule Optimization (リソーススケジュールの最適化)」カスタム権限を持つ派遣担当者。

**方法:** システム管理者が個々のリソースで最適化を実行する派遣担当者に「Resource Schedule Optimization (リソーススケジュールの最適化)」カスタム権限を割り当てる必要があります。派遣担当者は、ガントチャートでリソーススケジュールの最適化を参照および使用します。



## ガントチャートのライブ更新による派遣担当者の操作性の改善 (ベータ)

ガントチャートオブジェクトがライブ更新されます。ガントチャートで、リソースの不在、サービス予定、割り当て済みリソース、サービスリソース業務量、サービスリソース(現在位置)、最適化リクエストへの変更がリアルタイムで反映されます。以前は、派遣担当者に最新情報が表示されるまでに1~10秒かかっていました。


**対象:** この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**メモ:** ガントチャートのライブ更新はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して

Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

**対象ユーザ:** 「FSL Dispatcher (FSL 派遣担当者)」権限セットと「FSL Streaming API (FSL ストリーミング API)」カスタム権限セットを持つ派遣担当者。「FSL Admin (FSL システム管理者)」権限セットと「FSL Streaming API (FSL ストリーミング API)」カスタム権限セットを持つシステム管理者。

**方法:** 有効にするには、Field Service Admin アプリケーションに移動します。[Field Service Settings (Field Service 設定)] から [Dispatcher Console UI (ディスパッチャコンソール UI)] > [Updating the Gantt (ガントチャートの更新)] に移動し、[Gant Updates are Enabled Org Wide (組織全体でガントチャートの更新が有効)] をクリックします。システム管理者が派遣担当者に「FSL Streaming API (FSL ストリーミング API)」カスタム権限セットを割り当てる必要があります。

 **メモ:** ガントチャートのライブ更新は、サービス予定、サービスリソース、および最適化リクエストオブジェクトで共有モデルが非公開に設定されている場合にのみサポートされます。


## カスタム検索条件を使用したディスパッチャコンソールリストビューのカスタマイズ

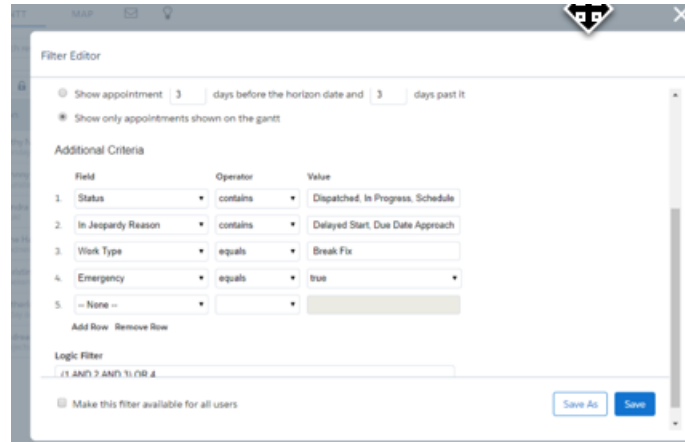
Field Service 管理パッケージのリストビューは、Salesforce で馴染みがあるリストビューと同様になりました。派遣担当者は Boolean 式に基づくカスタムリスト検索条件を使用して、必要なリストビューを作成できます。対象期間の日付またはガントチャートの日付で期間を決定し、複雑な条件ロジックを適用できます。検索条件を非公開にするか、他のユーザと共有できます。

**対象:** この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザ:** ディスパッチャコンソールから個人用カスタム検索条件を作成、編集、削除するには、派遣担当者に「FSL Dispatcher (FSL 派遣担当者)」権限セットと「Create Filter (検索条件を作成)」カスタム権限が必要です。[Make this filter available for all users (すべてのユーザがこの検索条件を使用できるようにします)] 設定でカスタム検索条件を共有または非表示にするには、「Publish Filter (検索条件を公開)」カスタム権限も必要です。

**方法:** カスタム検索条件を有効にするには、Field Service Admin アプリケーションに移動します。[Field Service Settings (Field Service 設定)] から [Dispatcher Console UI (ディスパッチャコンソール UI)] に移動し、[Enable Custom Filters (カスタム検索条件の有効化)] を選択します。カスタム検索条件を作成または編集する場合、[Make this filter available for all users (すべてのユーザがこの検索条件を使用できるようにします)] を選択します。これを選択しないと、検索条件が自分以外のユーザに表示されません。

 **メモ:** Field Service のカスタム検索条件は、既存のカスタムリストビュー機能の代わりに使用されます。そのため、カスタム検索条件を有効にすると、すべての既存のカスタムリストビューにアクセスできなくなります。



## セカンダリテリトリーメンバーの業務時間の適用

スケジュール設定エンジンに、リソースのセカンダリテリトリーでの対応可能状況が適用されるようになりました。さらに、テリトリー内で対応可能な技術者を参照するときに、セカンダリテリトリーメンバーがそのテリトリーで対応可能な時間が表示されるようになりました。

**対象:** この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザ:** 「FSL Dispatcher (FSL 派遣担当者)」 権限セットを持つ派遣担当者。

**メモ:** セカンダリ時間はプライマリテリトリー時間内にある必要があります。たとえば、技術者がプライマリテリトリーで午前8時から午後8時まで対応可能な場合、その技術者をセカンダリテリトリーで午前8時より前や午後8時より後に対応可能にすることはできません。

## ディスパッチャコンソールの操作性の強化

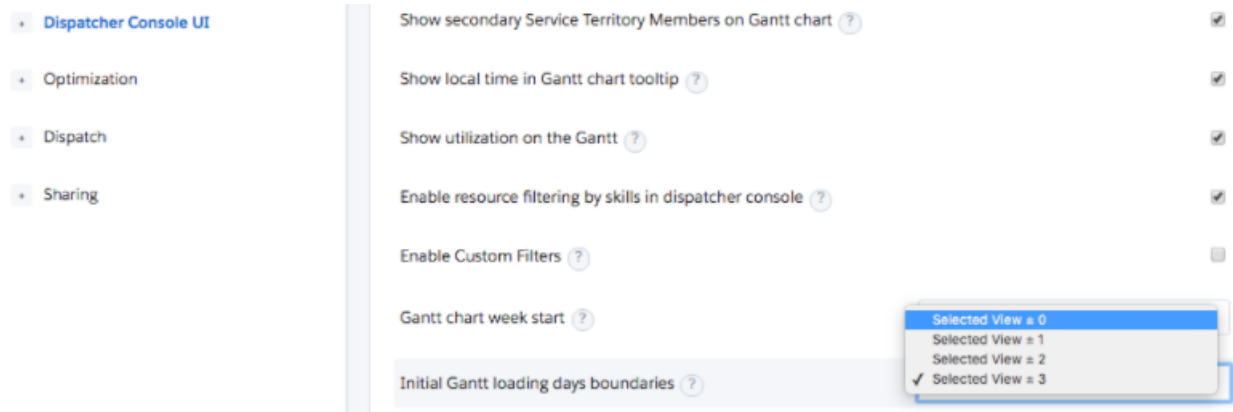
Summer '18 で、派遣担当者用のディスパッチャコンソールに多数の機能強化が行われました。システム管理者は、ガントチャートの読み込み時間を短縮するようにディスパッチャコンソール設定を変更できます。派遣担当者がコンソールで行った変更が記憶されるようになりました。

**対象:** この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

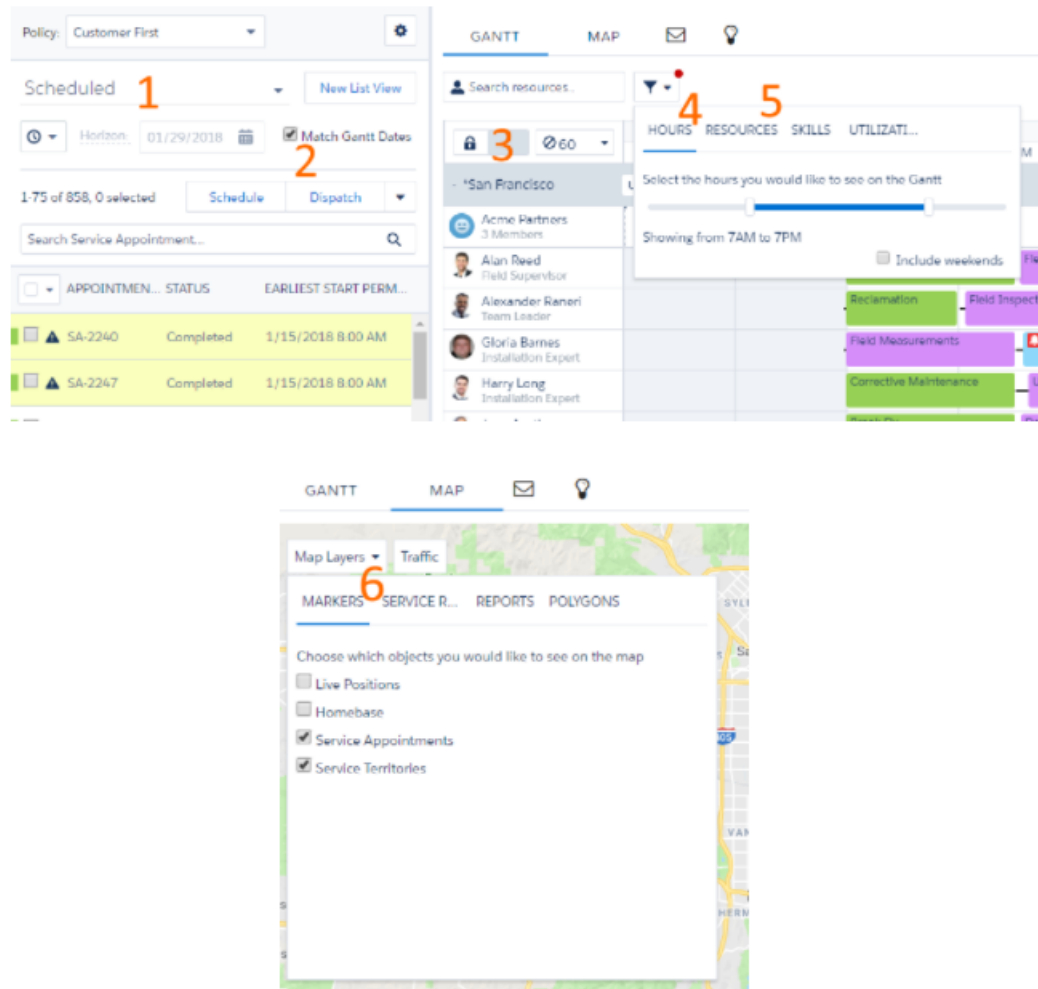
**対象ユーザ:** 「FSL Dispatcher (FSL 派遣担当者)」 権限セットを持つ派遣担当者。

**方法:**

- ガントチャートに読み込まれる日数を制御する: デフォルトでは、ガントチャートは選択した表示分割法について前後2日余分に読み込まれます。たとえば、選択した表示が日次表示で対象期間の日付が5月3日に設定されている場合、ガントチャートには5月1日、2日、3日、4日、5日が読み込まれます。派遣担当者はこれらの日付が読み込まれるのを待たずに、日付間を移動できます。この読み込まれる追加日数を制御できるようになり、対象期間の日付から3、2、1、0日を選択できます。日次サービス予定数が多い組織は、読み込まれる日数を減らし、ガントチャートにより多くの予定が読み込まれるようになります。このように設定するには、Field Service Admin アプリケーションに移動します。[Field Service Settings (Field Service 設定)] から [Dispatcher Console UI (ディスパッチャコンソール UI)] に移動し、[Initial Gantt loading days boundaries (最初のガントチャートの読み込み日数制限)] ピッカーを選択します。



- **Load Gantt chart on Today's Date** (今日の日付でガントチャートを読み込む): デイスパッチャコンソールユーザは、今日の日付でガントチャートを読み込むように設定できるようになりました。通常は将来の日を計画するためにガントチャートを使用するユーザの場合、ユーザが最後に選択した日付で読み込まれる現在の動作が適しています。通常は日常業務を監視するためにガントチャートを使用するユーザの場合、今日の日付で読み込まれる新しい設定を使用すると便利です。この設定を定義するには、デイスパッチャコンソールから設定アイコンをクリックし、[Dispatch console settings (デイスパッチャコンソール設定)] をクリックします。[Load gantt chart in today's date (今日の日付でガントチャートを読み込む)] を選択します。
- **設定の一貫性:** 派遣担当者は、自分にとって最適な表示になるようにインターフェースコントロールを調整できます。デイスパッチャコンソールはユーザの設定を記憶するようになったため、毎回読み込まれた後に表示を再設定する必要はありません。次の設定がデイスパッチャコンソールで記憶されます。
  1. サービス予定リストで選択した検索条件
  2. [Match Gantt Dates (ガントチャートの日付を照合)] チェックボックス
  3. ガントチャートのロック
  4. 時間の検索条件
  5. リソースの検索条件
  6. 地図マーカー



- ガントチャートのスキル検索条件を無効にする: スキル検索条件では、特定のスキルを持つサービスリソースのみを表示するようにガントチャートを絞り込めます。そのため、ディスパッチャコンソールにはすべてのスキル関連データが読み込まれます。リソースごとに多数のスキルがある組織の場合、読み込みに長時間かかったり、Apex CPU 時間制限に達する可能性もあります。今回のリリースで、スキル検索条件を有効にするかどうかを制御できるようになりました。派遣担当者がスキル検索条件を使用していない場合、または多くのスキルがある多数のサービスリソースがガントチャートに表示される場合、スキル検索条件を無効にすることをお勧めします。このように設定するには、Field Service Admin アプリケーションに移動します。[Field Service Settings (Field Service 設定)] から [Dispatcher Console UI (ディスパッチャコンソール UI)] に移動し、[Enable resource filtering by skills in the dispatcher console (ディスパッチャコンソールでのスキルによるリソースの絞り込みを有効化)] を選択します。

## ディスパッチャコンソールタスクの合理化

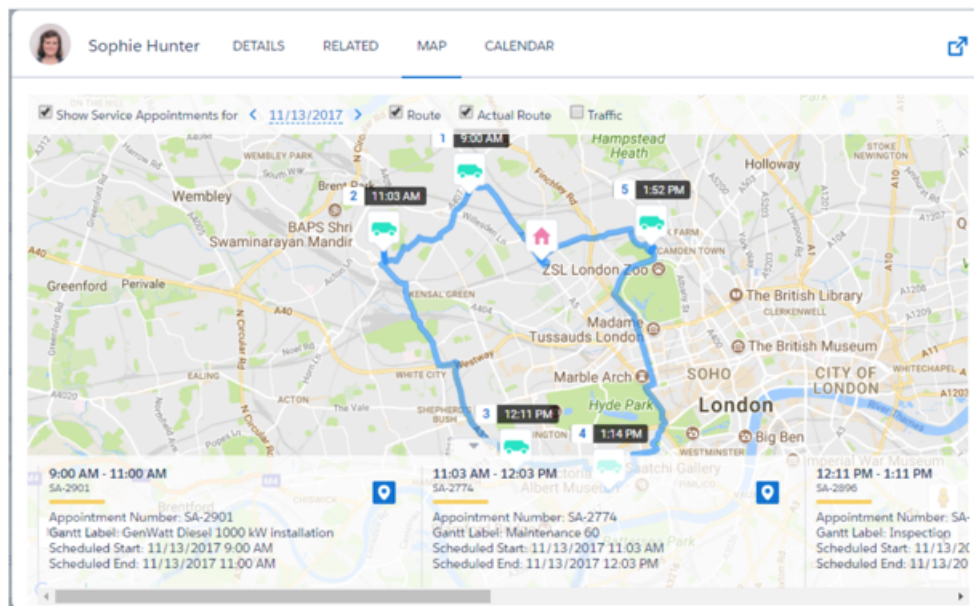
Summer '18 以降、派遣担当者のルート確認の成功率が高くなり、技術者の推定移動時間がより正確になり、最適化エラーがより明確になります。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 「FSL Dispatcher (FSL 派遣担当者)」 権限セットを持つ派遣担当者。

理由:

- リソースの日常ルートの日付を切り替える:より効率的な経路を提案するため、技術者が毎日使用する経路をすばやく確認します。ディスパッチャコンソールでよく使用される機能は、サービスリソースライトボックスからアクセスできる日常ルート地図です。これがさらに便利になり、地図の上部には日付間のナビゲーションが青色で表示され、下部にはサービス予定の詳細ボックスが表示されます。サービスリソースの数日にわたるルート进行评估する場合、以前は日付ピッカーを再度開き、表示する日付をクリックする必要がありました。「次へ」と「前へ」のコントロールを使用して、同じことをよりすばやく簡単に行えるようになりました。

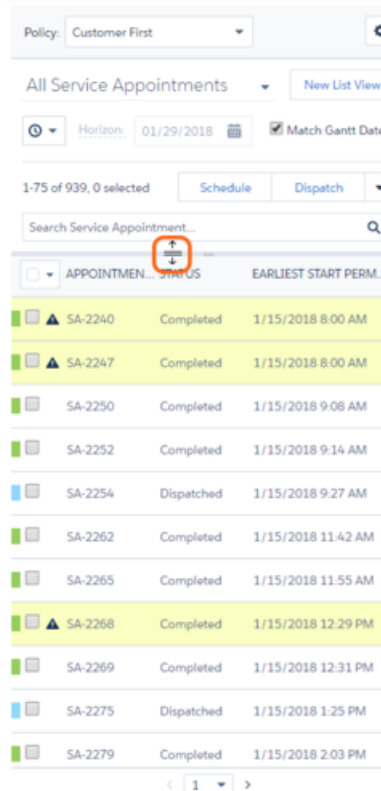


- 技術者のその日の最初と最後の移動を無視する:フィールドサービスのスケジュールで移動時間を最小限に抑えます。派遣作業員が派遣センターにチェックインしない場合、日次作業スケジュールで個人的な移動時間を考慮する必要はありません。その日の最初と最後の移動を無視すると、日次移動時間がより正確になります。
- 最適化エラーに関するより多くの情報にアクセスする:Summer '18 で、スケジュールの最適化に関連付けられたエラーメッセージが更新されました。派遣担当者は、可能性のある問題をより明確に把握できます。
- スナップ先を使用してより簡単に手動でスケジュールする:手動でスケジュールするとき、前のサービス予定の終了直後に適切な移動時間間隔を置いて次のサービス予定を開始すると役立つ場合があります。以前は、トライアルを使用して正しい時間を判断する必要がありました。新しいスナップ先機能を使用して、迅速に同じ結果を出せるようになりました。

移動するサービス予定をドラッグしたら、Ctrlキーを押したままにするだけです。指定された開始時刻と終了時刻の横にあるガントチャートの上に、スナップモードが有効になったことが示されます。隣接するサービス予定の開始または終了に重ねてサービス予定をドロップします。サービス予定が適切な移動時間間隔を置いて正しい順序で自動的に配置されます。

- 検索条件ペインのサイズを調整する:ディスパッチャコンソールの左側には、検索条件ペインとサービス予定リストがあります。検索条件を設定した後にその領域を解放し、より多くのサービス予定を表示できる

と便利です。それが可能になりました。ペインの境界線をドラッグし、割り当てられているサイズを調整するだけです。



## サポートコミュニティ予定管理 (ベータ)

Field Service Lightning 管理パッケージには、コミュニティ予定管理の新しい Snap-in (ベータ) をサポートする新しい権限セットがあります。

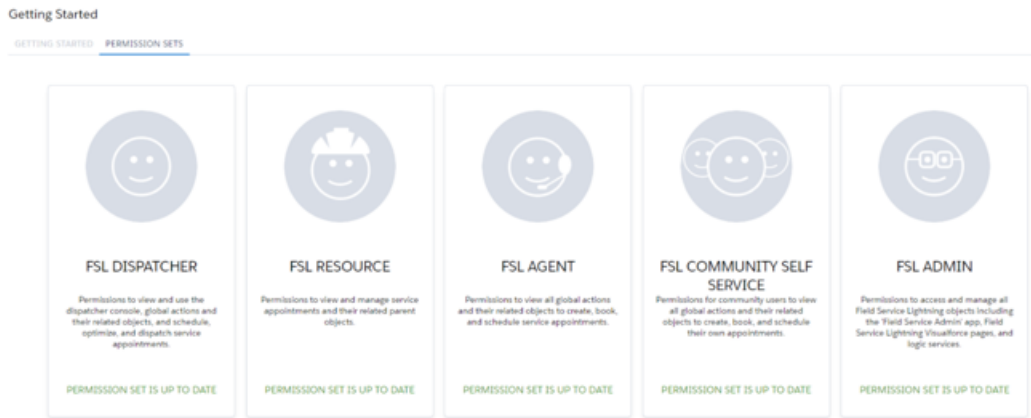
**対象:** この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**メモ:** Snap-in 予定管理はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

**対象ユーザー:** 「FSL Admin (FSL システム管理者)」権限セットを持つシステム管理者。「FSL Self Service (FSL セルフサービス)」権限セットを持つコミュニティユーザ。

**理由:** Snap-in 予定管理 (ベータ) により、お客様は素晴らしい予定管理環境を得られます。

方法: Field Service Admin アプリケーションに移動します。[Field Service Settings (Field Service 設定)] から [Getting Started (使用開始)] > [Permission Sets (権限セット)] に移動し、[FSL Self Service (FSL セルフサービス)] をクリックします。



関連トピック:

[Snap-In 予定管理: 顧客が予定を予約、変更、キャンセルできるようにする \(ベータ\)](#)

## モバイル用 Field Service: Android 4.0

バージョン 4.0 では、以前は iOS バージョンでのみ使用できた人気のある機能の一部が Field Service Lightning の Android バージョンに取り込まれます。レイアウトを使用して、プロファイルタブでのリソース不在の表示を制御します。連動選択リストを使用して、ユーザの成功をサポートします。複数の在庫ロケーションから商品を消費します。クイックアクションを使用して、フローをユーザに提供します。オフラインからでも Chatter への投稿をキューに登録します。便利な画像をナレッジ記事に提供します。スケジュール画面をユーザが制御するための複数のカスタムリストビューを提供します。特定の関連リストを表示するときに Salesforce アプリケーションにリンクします。

**ヒント:** Android 用の Field Service Lightning に対するバージョン 4.0 の更新は、2018 年 7 月中旬に Google Play から入手できます。ユーザはこのセクションに記載された機能を、バージョン 4.0 のインストールまたはバージョン 4.0 へのアップグレード後に利用できます。

このセクションの内容:

[Field Service アプリケーション \(Android および iOS\) での Lightning のアクションの使用](#)

新しいプロファイルベースの設定を使用すると、Field Service Lightning モバイルアプリケーションでレコードに対するモバイルのアクションと Lightning Experience のアクションを表示できます。これらのアクションは、アプリケーション拡張および Salesforce Classic パブリッシャーのアクションの代わりに表示されます。

[オフライン Chatter の機能強化による明確なコミュニケーション](#)

Field Service Lightning for Android では、インターネットアクセスなしで作業するときでもお気に入りの Chatter 機能の多くにアクセスできます。オフラインで作業するユーザは、Chatter フィードの表示、投稿の作成、投稿に対するコメント、プライミングされたレコードの Chatter フィードへの画像のアップロードができます。



### スケジュール画面のカスタムリストビューの作成

派遣作業員がスケジュール画面を制御する方法が追加されました。リストビューでは、さまざまな設定可能な条件に基づいてサービス予定をスケジュール画面に入力することができます。

### 連動選択リストを使用した適切な選択

ユーザの画面に余計なものは必要ありません。連動選択リストを使用してユーザインターフェースに表示されるものを制限できます。連動選択リストでは、選択可能なオプションのサブセットが提供されます。ユーザには、その状況に関連するオプションのみが表示されます。

### ナレッジ記事で画像を使用して要点を説明

ユーザが Field Service Lightning for Android で開くナレッジ記事で画像を表示できるようになりました。ナレッジ記事での画像のサポートにより、ナレッジの著者は要点を視覚的に示す説明を作成できるため、ユーザはすばやく明確に内容を理解できます。

### 複数のロケーションからの製品の消費 (ベータ)

モバイル環境の従業員は作業の完了時に複数のロケーションから [消費した製品] 関連リストに製品を追加できるようになりました。以前は、作業指示または品目の消費した製品を1つのロケーションにしか関連付けることができませんでした。また、消費した製品の新しいロケーション検索条件により、モバイルユーザは製品項目検索を特定のロケーションに絞り込むことができます。

### クイックアクションとしてのフローの接続

CloudFlowDesigner で作成したカスタムフローをクイックアクションによって Android ユーザに提供できます。クイックアクションはページレイアウトで設定されているため、異なるフローを異なるページレイアウトに追加してユーザに割り当てることができます。マルチ言語組織の場合、クイックアクションの表示ラベルをローカライズすることもできます。以前は、フローをアプリケーション拡張として Field Service Lightning に接続する必要がありました。

### 関連リストを使用した Salesforce アプリケーションへのリンク

パフォーマンスを強化するために、オフラインプライミングルールでダウンロードされる関連リストレコードを減らせるようになりました。関連リストの全レコードをダウンロードするのではなく、ユーザが特定の関連リストを表示すると Salesforce アプリケーションにリンクされます。サービス予定、作業指示、作業指示品目、およびアセットの関連リストは引き続き Field Service Lightning for Android によってプライミングされます。

### リソース不在のカスタマイズによる画面スペースの最大化

派遣作業員が Field Service Lightning の [プロファイル] タブでリソース不在を表示するときに表示される項目を制御できます。ユーザが関心を持たない項目は削除し、最も関連性が高い項目を目立つように表示できます。

### バーコードスキャナで時間を節約

よりスマートに効率よく働きましょう。バーコードスキャナを使用すると、派遣作業員がモバイルデバイスのカメラを使用して、1D シリアルバーコードや 2D QR コードを文字列、テキスト領域、数値、および編集モードの reference 項目にコピーできます。

### サービスレポートの複数の署名の取得

複数の署名ブロックがあるテンプレートを使用して、サービスレポートの署名を効率的に取得して記録できます。

## Field Service アプリケーション (Android および iOS) での Lightning のアクションの使用

新しいプロファイルベースの設定を使用すると、Field Service Lightning モバイルアプリケーションでレコードに対するモバイルのアクションと Lightning Experience のアクションを表示できます。これらのアクションは、アプリケーション拡張および Salesforce Classic パブリッシャーのアクションの代わりに表示されます。

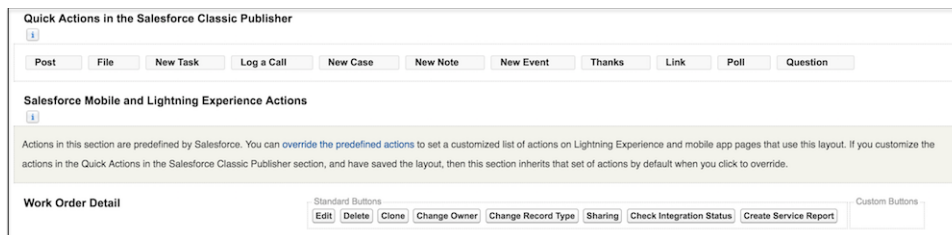
**対象:** この変更は、Salesforce Classic、Lightning Experience、および Android/iOS 用の Field Service Lightning モバイルアプリケーションに適用されます。

**時期:**

**重要:** この設定は、iOS/Android 用の Field Service Lightning アプリケーションがバージョン 5.0 に更新されるまで参照のみです。

**理由:** 以前は、Field Service Lightning モバイルアプリケーションにはアプリケーション拡張および Salesforce Classic パブリッシャーのアクションのみが含まれていました。現在、Lightning Experience およびモバイルのアクションを表示するようにアプリケーションを設定できるようになりました。

レコード詳細ページには、[Salesforce Classic パブリッシャーのクイックアクション] と [Salesforce モバイルおよび Lightning Experience のアクション] の2つのセクションがあります。この2番目のセクションのアクションのみをアプリケーションユーザに表示するように任意の Field Service Lightning モバイル設定を更新できるようになりました。



**方法:** デフォルトでは、この設定はオフです。このため、ユーザが変更を確認できるのは、ユーザに対してこの設定をオンにした場合のみです。1つ以上のユーザプロファイルに対してこの新しい設定を有効にする方法を次に示します。

[設定] の [Field Service モバイル設定] ページから、更新するモバイル設定の横にある [編集] をクリックします。[Salesforce モバイルアクションの使用] を選択し、変更を保存します。[モバイル設定の割り当て] を参照し、適切なユーザプロファイルでこのモバイル設定が使用されていることを確認することをお勧めします。

**メモ:** この設定は、モバイルアプリケーション環境にのみ影響します。Salesforce フルサイトでは、ユーザにこの変更は表示されません。

## オフライン Chatter の機能強化による明確なコミュニケーション

Field Service Lightning for Android では、インターネットアクセスなしで作業するときでもお気に入りの Chatter 機能の多くにアクセスできます。オフラインで作業するユーザは、Chatter フィードの表示、投稿の作成、投稿に対するコメント、プライミングされたレコードの Chatter フィードへの画像のアップロードができます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android に適用されます。

**時期:** 2018 年 7 月中旬にバージョン 4.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

方法: Field Service Lightning Android ユーザは、プライミング(モバイルデバイスにダウンロード)されたレコードに対する Chatter フィードをオフラインで表示できます。レコードは、[Field Service Mobile 設定]のデフォルトリストビューと、割り当てられたサービス予定のユーザのカレンダーに従って自動的にダウンロードされます。デフォルトリストビューに含まれないレコードは、インターネットへの接続中にアプリケーションでユーザが手動で開いたときにダウンロードされます。

オフラインで作業するユーザは、投稿の作成、投稿に対するコメント、プライミングされたレコードの Chatter フィードへの画像のアップロードもできます。Chatter フィードに対する投稿、コメント、または投稿されたファイルは、インターネット接続が復元されるまで待機中のアップロードキューに追加されます。

## スケジュール画面のカスタムリストビューの作成

派遣作業員がスケジュール画面を制御する方法が追加されました。リストビューでは、さまざまな設定可能な条件に基づいてサービス予定をスケジュール画面に入力することができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および Field Service Lightning for Android に適用されます。

時期: 2018 年 7 月中旬にバージョン 4.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

対象ユーザ: カスタムリストビューを作成するには、サービス予定に対する参照アクセス権と「リストビューの作成およびカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。公開リストビューを作成、編集、または削除するには、「公開リストビューの管理」ユーザ権限が必要です。

方法: アプリケーションランチャーを使用して [サービス予定] に移動します。リストビューコントローラを使用して [サービス予定] リストビューを作成します。リストビューの使用事例を設定するには、[リストの検索条件を編集]をクリックします。スケジュール画面でアプリケーションに表示する項目を制御するには、[表示する項目を選択]を使用します。

 **ヒント:** カスタムリストビューに含まれるレコードが自動的にプライミングされることはありません。オフラインで使用可能なのは、[設定]の [Field Service Mobile 設定] で指定可能なデフォルトリストビューのみです。

## 連動選択リストを使用した適切な選択

ユーザの画面に余計なものは必要ありません。連動選択リストを使用してユーザインターフェースに表示されるものを制限できます。連動選択リストでは、選択可能なオプションのサブセットが提供されます。ユーザには、その状況に関連するオプションのみが表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および Field Service Lightning for Android に適用されます。

時期: 2018 年 7 月中旬にバージョン 4.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

## ナレッジ記事で画像を使用して要点を説明

ユーザが Field Service Lightning for Android で開くナレッジ記事で画像を表示できるようになりました。ナレッジ記事での画像のサポートにより、ナレッジの著者は要点を視覚的に示す説明を作成できるため、ユーザはすばやく明確に内容を理解できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android に適用されます。組織にナレッジが設定されている必要があります。

時期: 2018年7月中旬にバージョン 4.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

## 複数のロケーションからの製品の消費 (ベータ)

モバイル環境の従業員は作業の完了時に複数のロケーションから [消費した製品] 関連リストに製品を追加できるようになりました。以前は、作業指示または品目の消費した製品を1つのロケーションにしか関連付けることができませんでした。また、消費した製品の新しいロケーション検索条件により、モバイルユーザは製品項目検索を特定のロケーションに絞り込むことができます。

**メモ:** 複数のロケーションからの製品の消費はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および Field Service Lightning for Android に適用されます。

時期: 2018年7月中旬にバージョン 4.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

**方法:** この複数のロケーション機能を有効にするには、Salesforce Field Service for Android 接続アプリケーションの接続アプリケーション設定を作成します。接続アプリケーション設定を指定するための詳細は、下記のリンクを参照してください。

- メモ:** 次の内容で、複数のロケーションからの製品の消費がサポートされています。
- 最終更新日で並び替えられた最大10個の階層ロケーションまたは最大10個の国境を越えるロケーション
  - 各ロケーションで返される最大1000個の製品項目

## クイックアクションとしてのフローの接続

Cloud Flow Designer で作成したカスタムフローをクイックアクションによって Android ユーザに提供できます。クイックアクションはページレイアウトで設定されているため、異なるフローを異なるページレイアウトに追加してユーザに割り当てることができます。マルチ言語組織の場合、クイックアクションの表示ラベルをローカライズすることもできます。以前は、フローをアプリケーション拡張として Field Service Lightning に接続する必要がありました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および Field Service Lightning for Android に適用されます。

時期: 2018年7月中旬にバージョン 4.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

## 関連リストを使用した Salesforce アプリケーションへのリンク

パフォーマンスを強化するために、オフラインプライミングルールでダウンロードされる関連リストレコードを減らせるようになりました。関連リストの全レコードをダウンロードするのではなく、ユーザが特定の関連リストを表示すると Salesforce アプリケーションにリンクされます。サービス予定、作業指示、作業指示品目、およびアセットの関連リストは引き続き Field Service Lightning for Android によってプライミングされます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android に適用されます。

**時期:** 2018 年 7 月中旬にバージョン 4.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

**方法:** この機能を有効にするための操作は必要ありません。Salesforce アプリケーションがインストールされていないユーザが Field Service Lightning でまだダウンロードされていない関連リストを開こうとすると、Salesforce アプリケーションをダウンロードしてインストールするように要求されます。

## リソース不在のカスタマイズによる画面スペースの最大化

派遣作業員が Field Service Lightning の [プロファイル] タブでリソース不在を表示するときに表示される項目を制御できます。ユーザが関心を持たない項目は削除し、最も関連性が高い項目を目立つように表示できます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、および Field Service Lightning for Android に適用されます。

**時期:** 2018 年 7 月中旬にバージョン 4.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

**方法:** [設定] でサービスリソースのページレイアウトを変更します。サービスリソースのページレイアウトから、リソース不在の関連リストレイアウトを変更します。[開始時刻] および [終了時刻] 項目は、関連リストレイアウトの選択済み項目に含まれていれば、ヘッダーとして目立つように表示されます。さらに、最大3個の指定した項目がヘッダーの下に表示されます。

## バーコードスキャナで時間を節約

よりスマートに効率よく働きましょう。バーコードスキャナを使用すると、派遣作業員がモバイルデバイスのカメラを使用して、1D シリアルバーコードや 2D QR コードを文字列、テキスト領域、数値、および編集モードの reference 項目にコピーできます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android に適用されます。

**時期:** 2018 年 7 月中旬にバージョン 4.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

**方法:** 任意のサポート対象項目から項目のバーコードウィジェットをクリックすると、バーコードスキャナにアクセスできます。

## サービスレポートの複数の署名の取得

複数の署名ブロックがあるテンプレートを使用して、サービスレポートの署名を効率的に取得して記録できます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android に適用されます。

**時期:** 2018 年 7 月中旬にバージョン 4.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

方法:派遣作業員は、複数の署名ブロックのあるサービスレポートで複数の署名を収集できるようになり、サービスレポートに技術者、顧客、パートナーなどから署名してもらうことが可能になりました。各署名ブロックには一意の署名種別があるため、派遣作業員はサービスレポートのどこに誰の署名が必要かを常に把握できます。

関連トピック:

[Winter '18 リリースノート: サービスレポートの複数の署名の機能強化](#)

## チャンネル: Live Agent 設定フロー、Lightning Experience の API、Snap-in チャットのオフラインサポート

新しい Live Agent と Snap-in チャット設定フローを使用して、すばやく立ち上げて実行できます。Lightning コンソール JavaScript API で使用できる Live Agent メソッドが追加されました。また、チャットエージェントがオフラインの場合には、顧客がケースを登録することもできます。

このセクションの内容:

[Live Agent: Lightning Experience でのチャットの改善](#)

Lightning Experience の生産性の機能強化によってエージェントの効率を向上します。Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用してチャットでエージェントをガイドすることもできます。エージェントは点滅するタブによって新しいメッセージ通知を容易に確認でき、チャットに添付されたファイルを Salesforce ファイルブラウザでプレビューできます。

[Snap-In チャット: チャットの改善とバージョン 5.0 コードスニペット](#)

Lightning コンポーネントを使用して、Snap-in チャット最小化時のユーザインターフェースをカスタマイズします。エージェントがオフラインのときに、チャットの顧客にケースフォームを提示します。Snap-in コードスニペットをバージョン 5.0 にアップグレードして、予定管理やその他の新しい機能を使用します。

[モバイルアプリケーション用 Snap-in: 機能性および迅速性が高く、無駄のないアプリケーションの作成](#)

Salesforce Mobile SDK を連動関係に含める必要がなくなり、Snap-in SDK のフットプリントが縮小しました。認証対象のナレッジおよびケース管理の認証プロセスが簡略化されました。また、チャットバブルのデザインや入力インジケータのアニメーションにより、Live Agent チャットのユーザエクスペリエンスが改善されています。

[CTI: フローによるコールセンターエージェントのガイド](#)

Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用して、複数ステップのプロセスでコールセンターエージェントを誘導します。着信電話を、コールセンターエージェントの実行フローのリストと共にレコードページに画面ポップできます。最初のフローを自動起動し、エージェントに開始点を示すこともできます。フローを画面ポップするときに、電話番号や顧客名などのコールデータをフローに直接渡すことができます。

## Live Agent: Lightning Experience でのチャットの改善

Lightning Experience の生産性の機能強化によってエージェントの効率を向上します。Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用してチャットでエージェントをガイドすることもできます。エージェントは点滅するタブによって新しいメッセージ通知を容易に確認でき、チャットに添付されたファイルを Salesforce ファイルブラウザでプレビューできます。

## このセクションの内容:

### チャットおよび Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したケースの解決

エージェントは、Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用してビジネスプロセスを段階的に進めることができます。チャットが受け入れられると、エージェントにはチャット、取引先責任者の詳細、完了する必要がある定義済みのフローが表示されます。フローはチャットの主タブのサブタブとして開くため、エージェントには、チャットの隣に適切なビジネスプロセスが表示されます。Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用すると、この機能のすべてをコードではなく、クリック操作で設定できるため、エージェントだけでなく、システム管理者にも最適です。

### Live Agent の受信メッセージ通知でエージェントの目を引く

顧客がチャットに回答すると、赤いドットに加え、チャットタブがダークブルーに変わり、3回点滅して、新しいメッセージがあることをエージェントに通知します。この機能は、Lightning Experience を使用するエージェントで自動的に有効になります。

### Lightning Experience で Live Agent のファイル添付をプレビュー

サポートエージェントは、Live Agent チャットで送受信した添付ファイルを Lightning Experience でプレビューできます。チャットのファイル添付で、添付ファイルオブジェクトではなく、Lightning Experience で完全にサポートされているファイルオブジェクトが使用されるようになりました。[添付ファイル] 関連リストには、ファイルとファイルサイズのサムネイル画像が表示されます。エージェントはファイルをクリックしてファイルブラウザでプレビューできます。この機能は、Lightning Experience で自動的に有効になります。

### Lightning Experience での Live Chat の訪問者ページのカスタマイズ

Live Agent の [Live Chat 訪問者] ページ用の事前設定済み Lightning ページを追加しました。これにより、独自の Lightning コンソールアプリケーションを設計しているシステム管理者はこのページをカスタマイズできます。以前は、Lightning Experience では [Live Chat 訪問者] ページを使用できませんでした。

### ガイド付き設定フローを使用した Lightning Experience の Live Agent の設定

Lightning Experience で Live Agent を開始するのに、[設定] でいろいろ試している時間はありません。顧客は今、質問があるのです。Live Agent のガイド付き設定フローでは、チャットのオムニチャンネルルーティングを設定し、基本的な Live Agent 設定を作成し、標準の Snap-in チャットエクスペリエンスを設定できます。Web チャットの初心者でも、Lightning Experience に興味がある Live Agent のベテランでも、ガイド付き設定フローですぐに始める準備ができます。

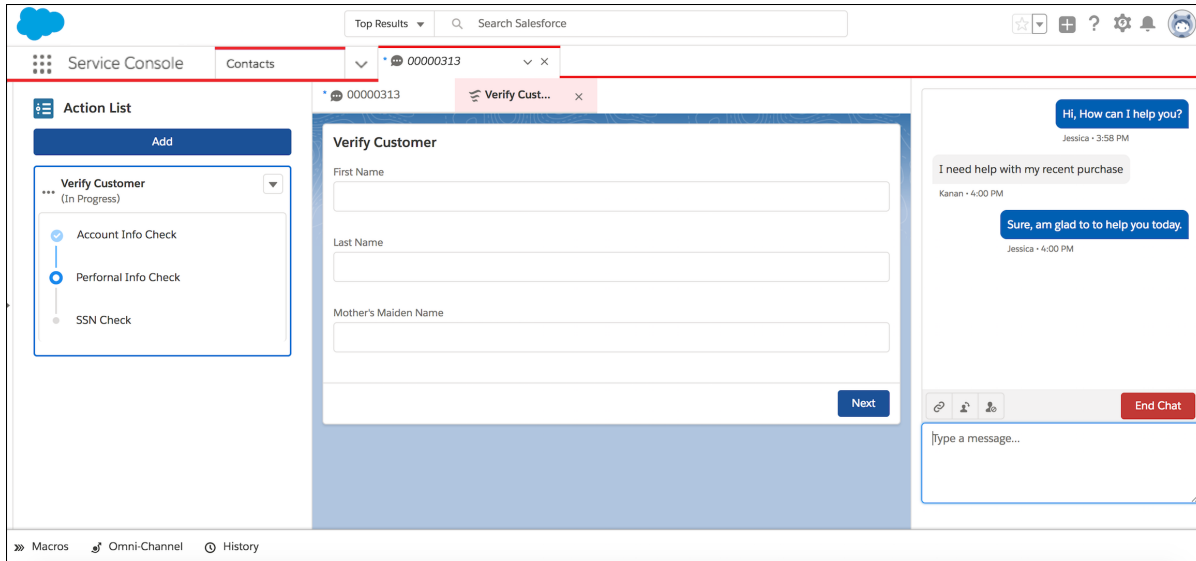
## チャットおよび Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したケースの解決

エージェントは、Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用してビジネスプロセスを段階的に進めることができます。チャットが受け入れられると、エージェントにはチャット、取引先責任者の詳細、完了する必要がある定義済みのフローが表示されます。フローはチャットの主タブのサブタブとして開くため、エージェントには、チャットの隣に適切なビジネスプロセスが表示されます。Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用すると、この機能のすべてをコードではなく、クリック操作で設定できるため、エージェントだけでなく、システム管理者にも最適です。

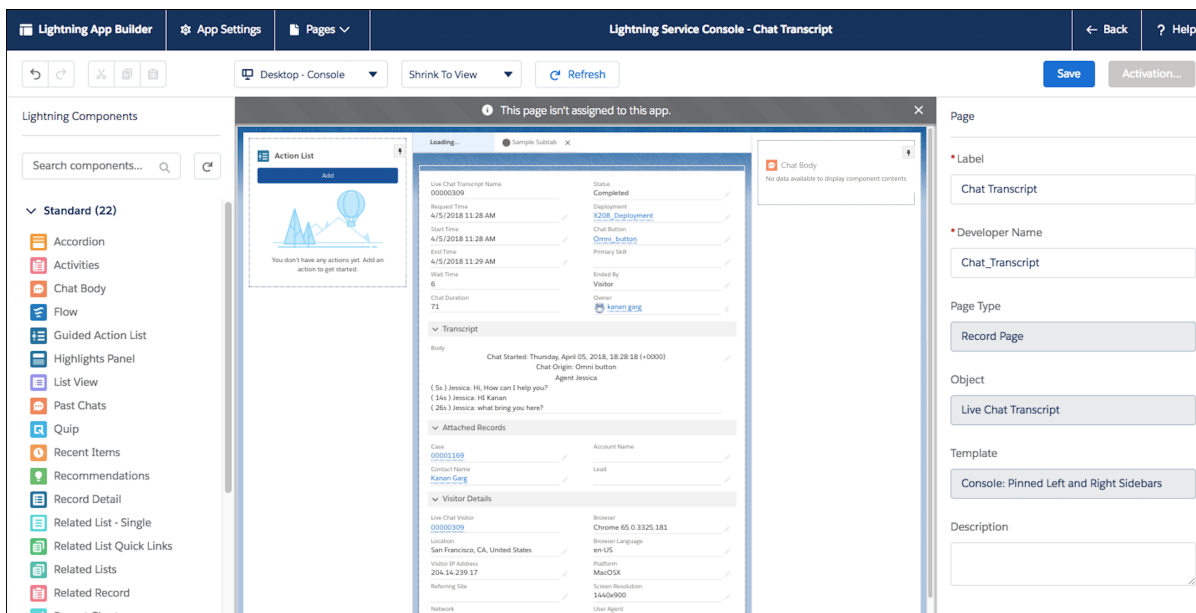
対象: この変更は、次のエディションの Lightning Experience の Live Agent に適用されます。

- 2012 年 6 月 14 日より後に作成された Performance Edition および Developer Edition の組織
- Unlimited Edition (Service Cloud 付属)
- Enterprise Edition および Unlimited Edition (有料オプション)

理由: Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用すると、エージェントは、迅速なケース解決を求めている顧客に一貫した効率のよいサービスを提供できます。エージェントには、実行すべき適切なアクションが、手動で検索しなくても直接前面に表示されます。



方法: Cloud Flow Designer を使用して個々のフローを作成します。その後、プロセスビルダーで RecordAction 連結オブジェクトを使用して、レコードを特定のフローに関連付けるプロセスを追加します。次に、Lightning アプリケーションビルダーに移動し、[コンソール: 左右のサイドバー] ページテンプレートを 사용하여、Live Chat トランスクリプトオブジェクトのレコードページを作成します。ガイド付きアクションリストコンポーネントを左の列に追加し、チャット本文コンポーネントを右の列に配置します。ガイド付きアクションリストコンポーネントのチャンネル設定を使用して、エージェントが最初と最後に実行するフローと、リストの最初のフローを自動的に起動するかどうかを指定します。





## 関連トピック:

[Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したコンソールでのサービスプロセスの実施\(正式リリース\) コンソールサイドバーへの固定領域の追加](#)

[Lightning Guided Engagement Developer Guide \(Lightning ガイド付きエンゲージメント開発者ガイド\) \(英語のみ\)](#)

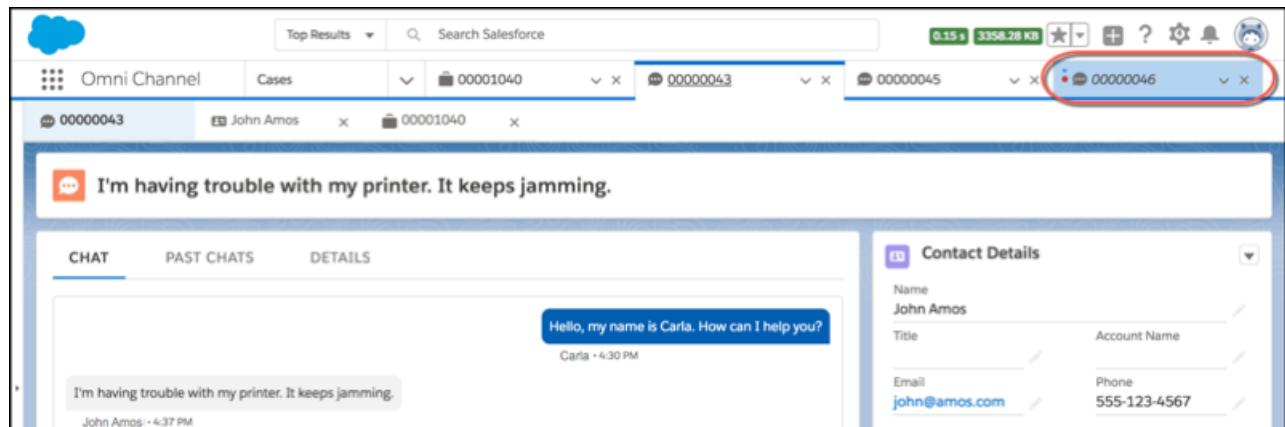
## Live Agent の受信メッセージ通知でエージェントの目を引く

顧客がチャットに応答すると、赤いドットに加え、チャットタブがダークブルーに変わり、3 回点滅して、新しいメッセージがあることをエージェントに通知します。この機能は、Lightning Experience を使用するエージェントで自動的に有効になります。

対象: この変更は次のエディションの Lightning Experience に適用されます。

- 2012 年 6 月 14 日より後に作成された Performance Edition および Developer Edition の組織
- Unlimited Edition (Service Cloud 付属)
- Enterprise Edition および Unlimited Edition (有料オプション)

理由: エージェントがチャットウィンドウで返答を入力すると、赤いドットが消えます。チャットタブがすでに選択されている場合、タブに通知は表示されません。選択されたチャットタブ内でサブタブが開かれている場合、チャットサブタブが点滅します。以前は、チャットタブの赤いドットがエージェントへの唯一の通知でした。



## Lightning Experience で Live Agent のファイル添付をプレビュー

サポートエージェントは、Live Agent チャットで送受信した添付ファイルを Lightning Experience でプレビューできます。チャットのファイル添付で、添付ファイルオブジェクトではなく、Lightning Experience で完全にサポートされているファイルオブジェクトが使用されるようになりました。[添付ファイル]関連リストには、ファイルとファイルサイズのサムネイル画像が表示されます。エージェントはファイルをクリックしてファイルブラウザでプレビューできます。この機能は、Lightning Experience で自動的に有効になります。

対象: この変更は次のエディションの Lightning Experience に適用されます。

- 2012 年 6 月 14 日より後に作成された Performance Edition および Developer Edition の組織

- Unlimited Edition (Service Cloud 付属)
- Enterprise Edition および Unlimited Edition (有料オプション)

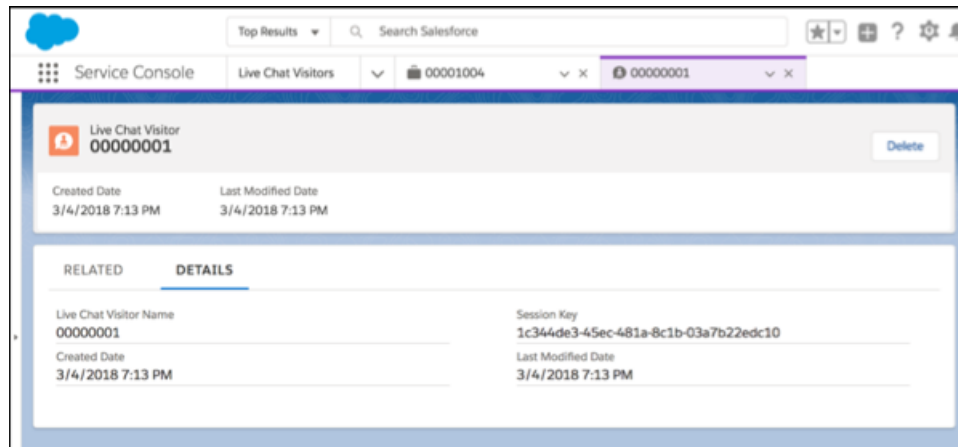
## Lightning Experience での Live Chat の訪問者ページのカスタマイズ

Live Agent の [Live Chat 訪問者] ページ用の事前設定済み Lightning ページを追加しました。これにより、独自の Lightning コンソールアプリケーションを設計しているシステム管理者はこのページをカスタマイズできます。以前は、Lightning Experience では [Live Chat 訪問者] ページを使用できませんでした。

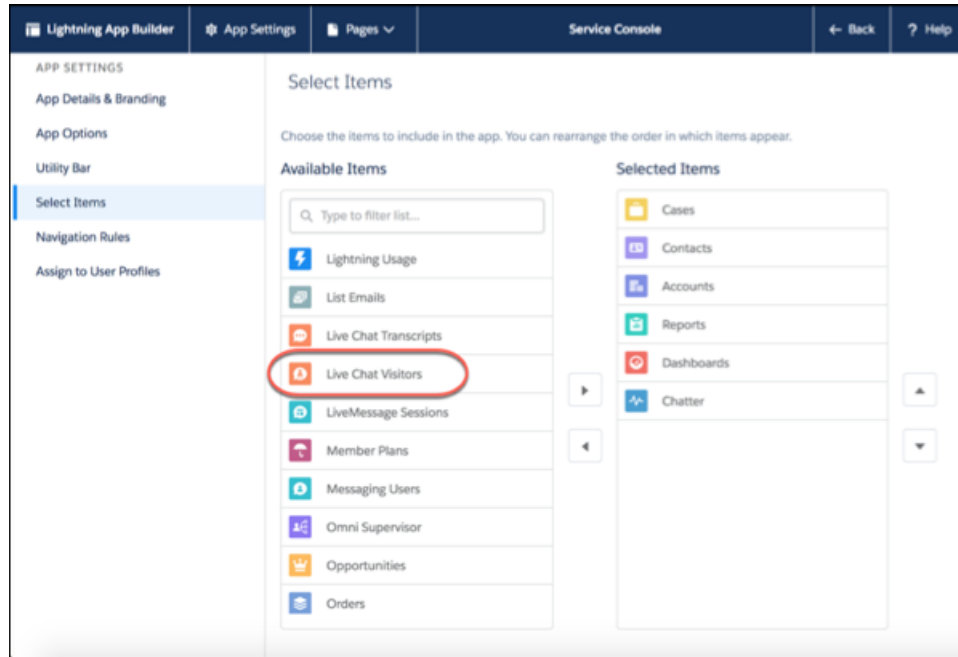
対象: この変更は次のエディションの Lightning Experience に適用されます。

- 2012 年 6 月 14 日より後に作成された Performance Edition および Developer Edition の組織
- Unlimited Edition (Service Cloud 付属)
- Enterprise Edition および Unlimited Edition (有料オプション)

理由: Lightning Experience の [Live Chat 訪問者] ページは Salesforce Classic と同じです。このページには、訪問者レコード、およびチャットに関連付けられた関連レコード (トランスクリプトなど) が表示されます。



方法: [Live Chat 訪問者] ページを Lightning コンソールアプリケーションに追加するには、Lightning アプリケーションビルダーを開き、[項目を選択] ページに移動します。[Live Chat 訪問者] 項目を [項目を選択] リストに追加します。



## ガイド付き設定フローを使用した Lightning Experience の Live Agent の設定

Lightning Experience で Live Agent を開始するのに、[設定] でいろいろ試している時間はありません。顧客は今、質問があるのです。Live Agent のガイド付き設定フローでは、チャットのオムニチャネルルーティングを設定し、基本的な Live Agent 設定を作成し、標準の Snap-in チャットエクスペリエンスを設定できます。Web チャットの初心者でも、Lightning Experience に興味がある Live Agent のベテランでも、ガイド付き設定フローですぐに始める準備ができます。

**対象:** この変更は、すべてのエディション (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** 任意の Lightning Experience アプリケーションから、ギアアイコンをクリックして [サービスの設定] に移動します。[推奨設定] に Live Agent 設定フロータイトルが表示されない場合は、[すべて表示] をクリックして完全なリストを表示します。次に、[Live Agent の設定] を選択します。

## Snap-In チャット: チャットの改善とバージョン 5.0 コードスニペット

Lightning コンポーネントを使用して、Snap-in チャット最小化時のユーザインターフェースをカスタマイズします。エージェントがオフラインのときに、チャットの顧客にケースフォームを提示します。Snap-in コードスニペットをバージョン 5.0 にアップグレードして、予定管理やその他の新しい機能を使用します。

このセクションの内容:

### チャットエージェントの勤務時間外のケースの収集

顧客は昼夜を問わずサポートを必要としますが、必ずしも年中無休のチャットサポートを提供しなければならないわけではありません。エージェントが勤務時間外の場合、顧客を待たせておくのではなく、顧客がチーム宛てにケースを登録できるようにします。エージェントがチャットに対応できないときに、オフラインボタンを顧客に表示するのではなく、ケースフォームを開くボタンを表示できます。顧客がフォームを送信すると、エージェントがオンラインに戻ったときに問題に対応できます。

### Lightning コンポーネントによる Snap-In 最小化時のカスタマイズ

Snap-in 最小化時のユーザインターフェースを調整します。標準の Snap-in にはロゴと簡単なメッセージが表示され、新しいメッセージがあると色が変わります。Lightning コンポーネントを使用して、Snap-in 最小化時の外観と、さまざまなチャットイベントに対するアクションを独自にカスタマイズできるようになりました。

### Lightning コンポーネントでの Snap-ins 設定の取得

事前チャットと Snap-in 最小化時用の Lightning コンポーネントを Snap-in リリースの設定に基づいてカスタマイズします。リリースに割り当てられた Live Agent ボタン ID と Live Agent リリース ID、およびエージェントとチャットボットの画像 URL を取得できます。

### 転送順序の適切な設定 - チャットのエージェントへの割り当て方法の調整

チャットの転送先に複数のエージェントおよびチャットボタンオプションを用意して、顧客が適切にエージェントに転送されるようにします。割り当てられたチャットボタンをユーザ ID とボタン ID のリストに置換します。チャットは、リストの最初の選択可能なユーザまたはボタンに転送されます。

### チャット開始前の顧客の順番の表示

「次にご案内します」と言われるまで、あとどれくらいかかるのかを顧客に知らせます。Snap-in に顧客の順番を表示して、エージェントのキューでの位置を把握できるようにします。

### 独自のチャット用カスタムイベントの作成

カスタムチャットイベントの処理やスタイル設定のために、JavaScript と CSS ファイルを Snap-in チャットに読み込みます。カスタムチャットイベントでは、コンソールで Live Agent 拡張機能による独自のコミュニケーションチャンネルを利用し、チャットイベントを送受信できます。

### 最新機能を使用するためのバージョン 5.0 コードスニペットへの更新

カスタムチャットイベントや転送順序の設定などの新しい Snap-in 機能を活用してください。新しいコードスニペットを追加して、必要な新しいパラメータを取得します。また、Snap-in 予定管理は Snap-in 設定オプションの一部となり、チャットのブランドオプションはコードスニペットから [設定] に移動しました。

### Live Agent 設定フローによる Snap-In チャットのクイックスタート

ライブ Web チャットを開始する場合、[設定] を細かく調整する余裕はありません。顧客の質問にはすぐ対応しなければなりません。新しい Live Agent ガイド付き設定フローは、チャットのオムニチャンネルルーティングを設定し、基本の Live Agent 設定を提供し、標準の Snap-in チャットを使用できるようにします。

### チャット中の送信されたファイルのプレビュー

チャットのファイル添付でファイルオブジェクトが使用されるようになりました。これにより、不要なファイルをダウンロードせずすみずみ。これまでのファイル添付は添付ファイルオブジェクトを使用しており、ファイルのプレビューをサポートしていませんでした。

## チャットエージェントの勤務時間外のケースの収集

顧客は昼夜を問わずサポートを必要としますが、必ずしも年中無休のチャットサポートを提供しなければならないわけではありません。エージェントが勤務時間外の場合、顧客を待たせておくのではなく、顧客がチーム宛てにケースを登録できるようにします。エージェントがチャットに対応できないときに、オフラインボタンを顧客に表示するのではなく、ケースフォームを開くボタンを表示できます。顧客がフォームを送信すると、エージェントがオンラインに戻ったときに問題に対応できます。

対象: この変更は、Snap-in コードスニペットバージョン 5.0 以降を使用する Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Web-to-ケースを有効にし、Snap-in 設定のオフラインサポートを有効にして、ケースフォームを作成します。Snap-in コードスニペットを更新して、それを Web サイトに貼り付けます。スニペットを更新して貼り付けないと、オフラインサポートは機能しません。

## Lightning コンポーネントによる Snap-In 最小化時のカスタマイズ

Snap-in 最小化時のユーザインターフェースを調整します。標準の Snap-in にはロゴと簡単なメッセージが表示され、新しいメッセージがあると色が変わります。Lightning コンポーネントを使用して、Snap-in 最小化時の外観と、さまざまなチャットイベントに対するアクションを独自にカスタマイズできるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 開発者コンソールで新しい `lightningsnapin:minimizedUI` インターフェースを実装する Lightning コンポーネントを作成します。次に、新しい `lightningsnapin:minimizedAPI` コンポーネントで aura メソッドを使用して、最小化時のコンポーネントを作成します。

- `registerEventHandler()` — 各イベントでコールされる独自のハンドラ関数を渡します。
- `maximize()` — 最小化時のユーザインターフェースコンポーネントから Snap-in チャットウィンドウを最大化します。

## Lightning コンポーネントでの Snap-ins 設定の取得

事前チャットと Snap-in 最小化時用の Lightning コンポーネントを Snap-in リリースの設定に基づいてカスタマイズします。リリースに割り当てられた Live Agent ボタン ID と Live Agent リリース ID、およびエージェントとチャットボットの画像 URL を取得できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 開発者コンソールで、Snap-in チャットの事前チャット用 Lightning コンポーネント、または Snap-in 最小化時用の新しい Lightning コンポーネントを作成または編集します。 `lightningsnapin:settingsAPI` コンポーネントを作成し、 `getLiveAgentSettings()` メソッドを使用して目的の Live Agent ID と画像 URL を取得します。

## 転送順序の適切な設定 – チャットのエージェントへの割り当て方法の調整

チャットの転送先に複数のエージェントおよびチャットボタンオプションを用意して、顧客が適切にエージェントに転送されるようにします。割り当てられたチャットボタンをユーザ ID とボタン ID のリストに置換します。チャットは、リストの最初の選択可能なユーザまたはボタンに転送されます。

対象: この変更は、Snap-in コードスニペットバージョン 5.0 以降を使用する Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: コードスニペットをバージョン 5.0 にアップグレードします。

`embedded_svc.settings.fallbackRouting` パラメータを使用して、`buttonId`、`userId`、または `userId_buttonId` の配列を設定します。

## チャット開始前の顧客の順番の表示

「次にご案内します」と言われるまで、あとどれくらいかかるのかを顧客に知らせます。Snap-inに顧客の順番を表示して、エージェントのキューでの位置を把握できるようにします。

**対象:** この変更は、Snap-in コードスニペットバージョン 5.0 以降を使用する Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** Snap-in リリースに割り当てられているチャットボタンで、Live Agent 設定の [キューを有効化] 設定が有効になっていることを確認します。Snap-in 設定で [キューの位置を表示] を選択します。

## 独自のチャット用カスタムイベントの作成

カスタムチャットイベントの処理やスタイル設定のために、JavaScript と CSS ファイルを Snap-in チャットに読み込みます。カスタムチャットイベントでは、コンソールで Live Agent 拡張機能による独自のコミュニケーションチャンネルを利用し、チャットイベントを送受信できます。

**対象:** この変更は、Snap-in コードスニペットバージョン 5.0 以降を使用する Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic に適用されます。カスタムイベントは、Salesforce Classic のみで作成されたコンソールアプリケーションでサポートされます。

**方法:** キャッシュコントロールを公開に設定し、ファイルを静的リソースとしてアップロードします。スペースを含まない覚えやすい名前を付けます。これは、Snap-in チャットではファイルを静的リソース名で参照するためです。

リソースを Snap-in コードスニペットに配列として追加します (コミュニティを使用している場合は、Snap-in チャットコンポーネント設定を使用します)。リソースを指定するときは、ファイル名ではなく、静的リソース名を使用します。たとえば、CustomEvent.js をアップロードして、CustomEvent という名前を付けた場合、「*CustomEvent*」と入力します。

デフォルトではバージョン 5.0 コードスニペットに外部スクリプトおよびスタイルパラメータは含まれていませんが、手動で追加できます。

- `embedded_svc.settings.externalScripts = ["...", "..."]`
- `embedded_svc.settings.externalStyles = ["...", "..."]`

## 最新機能を使用するためのバージョン 5.0 コードスニペットへの更新

カスタムチャットイベントや転送順序の設定などの新しい Snap-in 機能を活用してください。新しいコードスニペットを追加して、必要な新しいパラメータを取得します。また、Snap-in 予定管理は Snap-in 設定オプションの一部となり、チャットのブランドオプションはコードスニペットから [設定] に移動しました。

**対象:** Snap-in 設定は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

**理由:** チャット画像はコードスニペットから [設定] に移動されたため、画像 URL をコードベースで管理する必要はありません。なお今後もコードスニペットで画像を使用する場合、これまで使用していたものと同じパラメータを使用できます。

**方法:** 新しい Snap-in チャット機能を設定する場合、コードスニペットを更新してバージョン 5.0 にアップグレードし、Web サイトに貼り付け直します。

新しいパラメータ、またはバージョン 5.0 で手動で追加できるパラメータは次のとおりです。

- `embedded_svc.settings.fallbackRouting = ["...", "..."]`
- `embedded_svc.settings.offlineSupportMinimizedText = "..."`
- `embedded_svc.settings.externalScripts = ["...", "..."]`(手動で追加)
- `embedded_svc.settings.externalStyles = ["...", "..."]`(手動で追加)
- `embedded_svc.settings.chatbotAvatarImgURL = "..."`(手動で追加)

## Live Agent 設定フローによる Snap-In チャットのクイックスタート

ライブ Web チャットを開始する場合、[設定]を細かく調整する余裕はありません。顧客の質問にはすぐ対応しなければなりません。新しい Live Agent ガイド付き設定フローは、チャットのオムニチャンネルルーティングを設定し、基本の Live Agent 設定を提供し、標準の Snap-in チャットを使用できるようにします。

対象: この変更は、すべてのエディション (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

方法: 任意の Lightning Experience アプリケーションから、ギアアイコンをクリックして [サービスの設定] に移動します。[推奨設定] に Live Agent 設定フローが表示されていない場合は、[すべて表示] をクリックしてリスト全体を表示し、[Live Agent の設定] をクリックします。

## チャット中の送信されたファイルのプレビュー

チャットのファイル添付でファイルオブジェクトが使用されるようになりました。これにより、不要なファイルをダウンロードせずに済みます。これまでのファイル添付は添付ファイルオブジェクトを使用しており、ファイルのプレビューをサポートしていませんでした。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience のコンソールに適用されます。

関連トピック:

[Lightning Experience で Live Agent のファイル添付をプレビュー](#)

## モバイルアプリケーション用 Snap-in: 機能性および迅速性が高く、無駄のないアプリケーションの作成

Salesforce Mobile SDK を連動関係に含める必要がなくなり、Snap-in SDK のフットプリントが縮小しました。認証対象のナレッジおよびケース管理の認証プロセスが簡略化されました。また、チャットバブルのデザインや入力インジケータのアニメーションにより、Live Agent チャットのユーザエクスペリエンスが改善されています。

対象: この更新は、Mobile Apps SDK for iOS (バージョン 212.0.1) および Android (バージョン 212.0.0) 用 Snap-in に適用されます。

新機能についての詳細は、[iOS](#) および [Android](#) に関するリリースノートを参照してください。製品情報は、[「Snap-ins for Mobile Apps \(モバイルアプリケーション用 Snap-in\)」](#) サイトをご覧ください。

## CTI: フローによるコールセンターエージェントのガイド

Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用して、複数ステップのプロセスでコールセンターエージェントを誘導します。着信電話を、コールセンターエージェントの実行フローのリストと共にレコードページに画面ポップできます。最初のフローを自動起動し、エージェントに開始点を示すこともできます。フローを画面ポップするときに、電話番号や顧客名などのコールデータをフローに直接渡すことができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

[Lightning のガイド付きエンゲージメントを使用したコンソールでのサービスプロセスの実施 \(正式リリース\)](#)

## Knowledge: 翻訳管理、スマートリンク、および Lightning Knowledge 移行ツール (ベータ)

翻訳によって意味不明になることがありますか? Lightning Knowledge はユーザの言語で表示されます。翻訳申請アクションや公開アクションなどの Salesforce Classic の翻訳管理機能を Lightning Knowledge で使用できます。その他の機能強化として、Lightning コンポーネントでの翻訳とマスタ記事バージョンの横並びビューや、言語スイッチャコンポーネントの更新などがあります。リッチテキスト項目で他の記事にリンクするスマートリンクが使用できるようになりました。待望の Lightning Knowledge 移行ツールは、Salesforce Classic のナレッジベースを Lightning Knowledge の拡張機能に移行するシンプルなソリューションを備えています。

このセクションの内容:

[Lightning Experience での翻訳申請](#)

翻訳アクションが Salesforce Classic と Lightning Experience の両方で実行できるようになりました。エージェントは、使用可能な言語のリストから選択して、マスタ言語の翻訳バージョンを作成できます。エージェントは、翻訳ドラフトを他のユーザやキューに割り当て、期日を設定し、割り当てられたユーザにメール通知を送信できます。

[翻訳記事とマスタ記事の横並び比較](#)

マスタ記事を表示し、翻訳記事を横に並べて比較します。

[翻訳での作成アクションの使用](#)

Lightning Knowledge の翻訳で、編集、割り当て、公開、削除といった作成アクションを使用できるようになりました。翻訳マネージャは、業務の途中で Salesforce Classic に切り替えることなく翻訳管理ワークフローを完了できます。

[リッチテキスト項目へのスマートリンクの挿入](#)

記事のリッチテキスト項目にスマートリンクを追加します。記事が修正されても (必ず修正されます!)、リンクが壊れないため、バージョンごとに新しいリンクを作成する必要がありません。Lightning Knowledge のスマートリンクには、拡張された検索条件とフロート表示テキストが含まれているため、探しているものをすばやく見つけられます。

[言語スイッチャコンポーネントを使用した言語の即時の切り替え](#)

言語スイッチャコンポーネントを使用すると、使用可能なドラフト言語と公開言語をすぐに表示できます。



### Lightning Knowledge 検索結果における記事のフロート表示テキスト

検索結果にマウスポインタを置くと、記事の詳細から必要な内容をすばやく読み取ることができます。検索の全記事を開いたり閉じたりする必要がなくなりました。

### Service Essentials への Lightning Knowledge の追加

強力ながら手頃なナレッジソリューションをツールキットに追加します。Service Essentials Edition で Lightning Knowledge を使用して、記事を書いたり知識ベースを管理したりします。

### Lightning Knowledge 移行ツールを使用した Lightning Knowledge への移行 (ベータ)

移行ツールを使用すれば、不安を覚えることなく知識ベースデータを移行できます。ツールの簡単な応答画面に従えば、強力な新しいナレッジオブジェクトにデータがまとめられます。

## Lightning Experience での翻訳申請

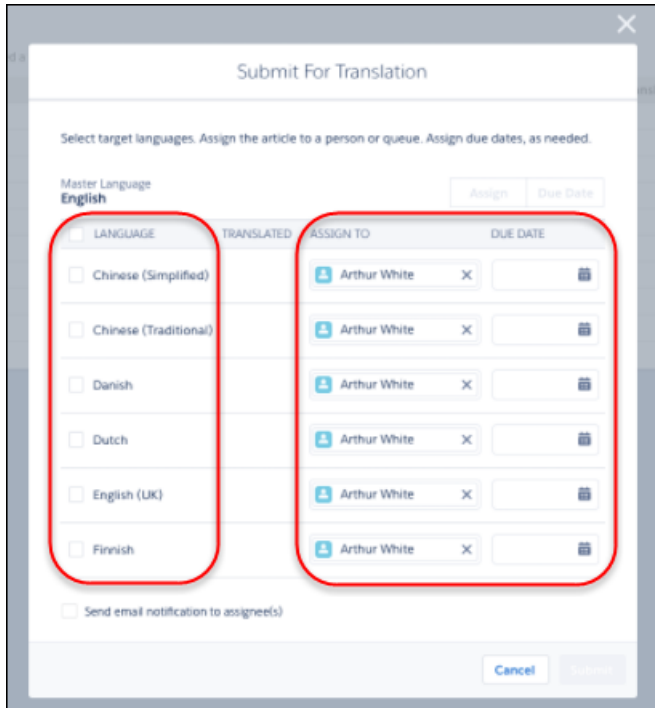
翻訳アクションが Salesforce Classic と Lightning Experience の両方で実行できるようになりました。エージェントは、使用可能な言語のリストから選択して、マスタ言語の翻訳バージョンを作成できます。エージェントは、翻訳ドラフトを他のユーザやキューに割り当て、期日を設定し、割り当てられたユーザにメール通知を送信できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Knowledge に適用されます。Salesforce Knowledge は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Essentials Edition でアドオンとして使用できます。詳細は、Salesforce の担当者にお問い合わせください。

**理由:** [翻訳申請] ボタンは、記事リストビューで自動的に有効になります。また、Lightning Knowledge のレコードホームに追加すると便利です。ユーザプロフィールとレコードタイプのページレイアウトで、表示する場所に追加します。

Article Title	Summary	Article Number	Published Date	Translated	Validation Status
1 How to Choose Climbing Ropes for Newbies	Nam dapibus nec vitae elit fringilla rutra.	500A24240	09/19/2017	✓	Validated
2 How to Choose Snowboards	Vestibulum rutrum quam vitae fringilla tinc.	500A24239	09/27/2017		Validated
3 How to Choose Snowboard boots	Cras quis nulla commodo, aliquam lectus sed.	500A24238	09/20/2017	✓	Wa
4 Backpacking for Beginners	Nam porttitor blandit accumsan. Ut vel dict.	500A24237	06/27/2017		No
5 How to Adjust Snowboard Bindings	Donec facilisis tortor ut augue lacinia, ut.	500A24236	01/02/2017	✓	Wa
6 How to Size a Snowboard	Fusce vehicula dolor arcu, sit amet blandit.	500A24235	09/04/2017	✓	Wa
7 Snowboard Waxing Tips	Fusce vehicula dolor arcu, sit amet blandit.	500A24234	04/01/2017		Wa

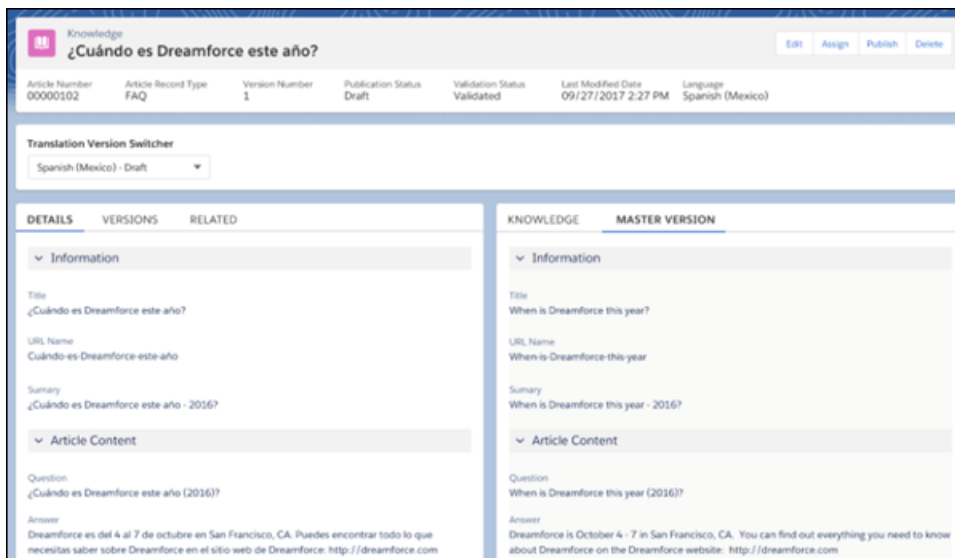
**方法:** 翻訳する記事を選択し、ページの右上隅にある [翻訳申請] アクションをクリックします。[翻訳申請] メニューが表示されます。ユーザは簡単にメニューから翻訳で有効な言語を選択して、著者に翻訳を割り当て、期日を設定し、割り当てられたユーザに通知できます。



## 翻訳記事とマスタ記事の横並び比較

マスタ記事を表示し、翻訳記事を横に並べて比較します。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Knowledge に適用されます。Salesforce Knowledge は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Essentials Edition でアドオンとして使用できます。詳細は、Salesforce の担当者にお問い合わせください。



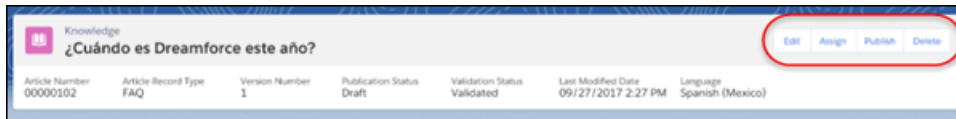
**方法:** システム管理者は、Lightning アプリケーションビルダーを使用して、マスタ記事コンポーネントを Lightning レコードページに追加します。

## 翻訳での作成アクションの使用

Lightning Knowledge の翻訳で、編集、割り当て、公開、削除といった作成アクションを使用できるようになりました。翻訳マネージャは、業務の途中で Salesforce Classic に切り替えることなく翻訳管理ワークフローを完了できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Knowledge に適用されます。Salesforce Knowledge は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Essentials Edition でアドオンとして使用できます。詳細は、Salesforce の担当者にお問い合わせください。

**方法:** システム管理者は、設定にある作成および翻訳管理アクションボタンを翻訳記事ページレイアウトに追加できます。作成および翻訳管理アクションボタンには、編集、割り当て、公開、削除などがあります。



## リッチテキスト項目へのスマートリンクの挿入

記事のリッチテキスト項目にスマートリンクを追加します。記事が修正されても(必ず修正されます!)、リンクが壊れないため、バージョンごとに新しいリンクを作成する必要がありません。Lightning Knowledge のスマートリンクには、拡張された検索条件とフロート表示テキストが含まれているため、探しているものをすばやく見つけられます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Knowledge に適用されます。Salesforce Knowledge は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Essentials Edition でアドオンとして使用できます。詳細は、Salesforce の担当者にお問い合わせください。

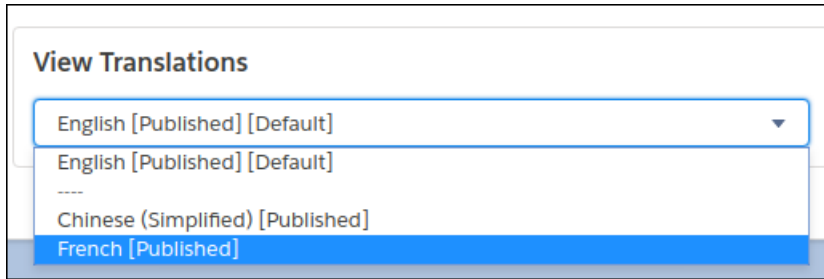
**理由:** エージェントがリッチテキスト項目によってスマートリンクされた記事を使用すると、修正してもリンクが壊れないことを確信できます。

## 言語スイッチャコンポーネントを使用した言語の即時の切り替え

言語スイッチャコンポーネントを使用すると、使用可能なドラフト言語と公開言語をすぐに表示できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Knowledge に適用されます。Salesforce Knowledge は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Essentials Edition でアドオンとして使用できます。詳細は、Salesforce の担当者にお問い合わせください。

**理由:** 言語スイッチャによってスクロール可能なドロップダウンが開かれ、使用可能なドラフト記事と公開記事の全バージョンが使用可能なすべての言語で表示されます。



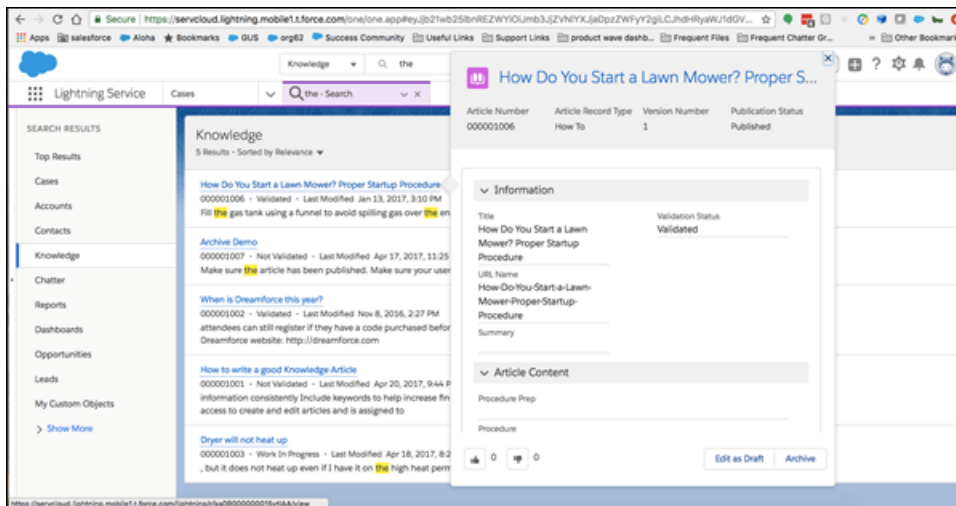
方法:組織ですでに Knowledge の言語が複数有効になっている場合は、デフォルトで翻訳スイッチャが有効になります。

## Lightning Knowledge 検索結果における記事のフロート表示テキスト

検索結果にマウスポインタを置くと、記事の詳細から必要な内容をすばやく読み取ることができます。検索の全記事を開いたり閉じたりする必要がなくなりました。

対象:この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Knowledge に適用されます。Salesforce Knowledge は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Essentials Edition でアドオンとして使用できます。詳細は、Salesforce の担当者にお問い合わせください。

方法: Lightning Experience を使用するエージェントでは、この機能は自動的に有効になります。



## Service Essentials への Lightning Knowledge の追加


強力ながら手頃なナレッジソリューションをツールキットに追加します。Service Essentials Edition で Lightning Knowledge を使用して、記事を書いたり知識ベースを管理したりします。

対象:この変更は、Service Cloud の Essentials Edition で使用する Lightning Knowledge に適用されます。

対象ユーザ: Service Essentials ライセンス保有者がアドオンとして Lightning Knowledge を使用できます。詳細は、Salesforce の担当者にお問い合わせください。Classic ナレッジと Lightning Knowledge のアクセス権はシステム管理者のみに付与できます。その他のユーザは Lightning Knowledge のみにアクセスできます。

## Lightning Knowledge 移行ツールを使用した Lightning Knowledge への移行 (ベータ)

移行ツールを使用すれば、不安を覚えることなく知識ベースデータを移行できます。ツールの簡単な応答画面に従えば、強力な新しいナレッジオブジェクトにデータがまとめられます。

 **メモ:** Lightning Knowledge 移行ツールはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。組織でこの機能の有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Knowledge に適用されます。


**対象ユーザ:** システム管理者権限のあるユーザは、移行ツールを実行できます。Salesforce 製品マネージャが Lightning Knowledge 移行ツールを有効にする必要があります。詳細は、Salesforce の担当者にお問い合わせください。

**方法:** 一定の準備を済ませたら応答画面に従います。大変な作業は移行ツールがやってくれます。Lightning のナレッジオブジェクトは、記事タイプの代わりにレコードタイプ、ファイル項目の代わりにファイルを使用して最適化されます。データモデルの変更後は、Lightning Experience または Salesforce Classic を使用できます。移行後、システム管理者は、新しいナレッジオブジェクトを使用するために手動でカスタマイズを修正する必要があります。

## Service Cloud Mobile: 外出先でのケース管理 (ベータ)


Service Cloud でよく利用されるケース管理のすべての機能がモバイルデバイスで使用できるようになります。Salesforce アプリケーションの代わりとなる軽量の Service Cloud Mobile は、サポートエージェントが外出先で顧客のケースを処理するときに役立つように設計されています。アプリケーションは Android と iOS モバイルデバイスの両方で使用できます。

**対象:** この変更は、新しい Service Cloud Mobile アプリケーションに適用され、Lightning Experience または Salesforce Classic のユーザには影響しません。アプリケーションは、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

 **メモ:** Service Cloud Mobile はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する

Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能についてのフィードバックと提案は、アプリケーション内フィードバックを使用してお寄せください。

**時期:** Service Cloud Mobile は、2018 年 6 月 9 日の週に App Store および Google Play にて無料でダウンロードできます。

 **ヒント:** Service Cloud Mobile のパイロットバージョンを保有しているお客様は、そのパイロットバージョンをアンインストールすることをお勧めします。以前のバージョンを更新するのではなく、AppStore または Google Play から最新バージョンを再インストールしてください。

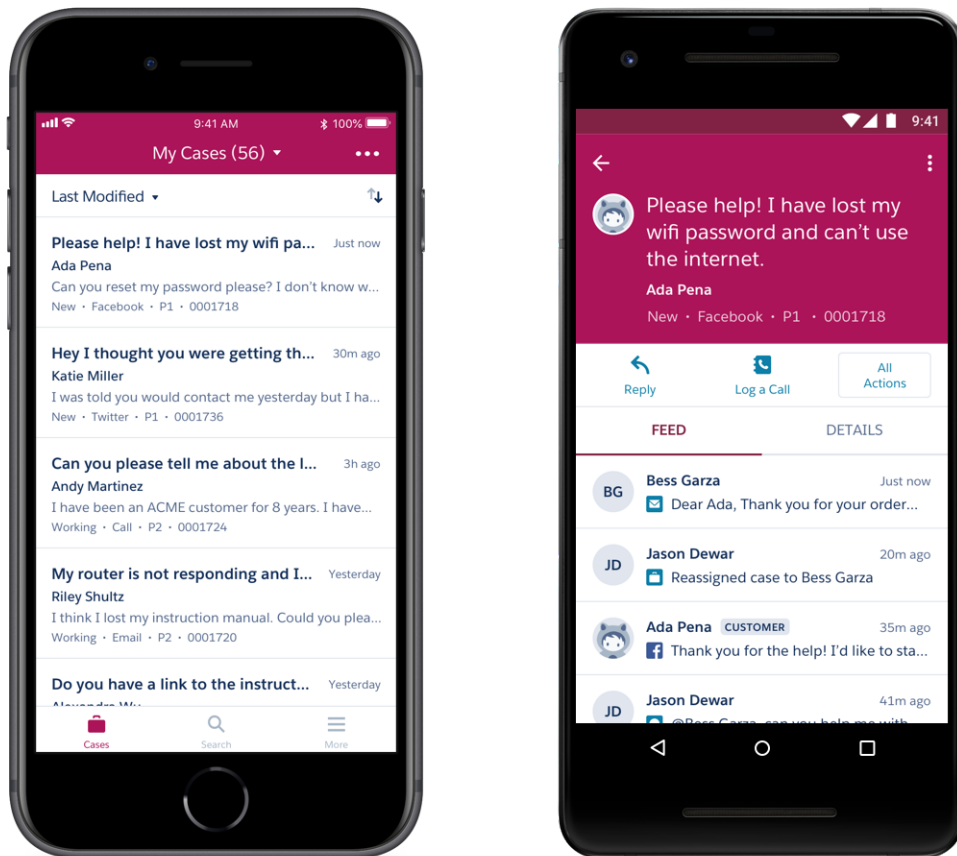
**対象ユーザ:** ケースの参照アクセス権があるユーザは、アプリケーションでケースを参照できます。ケースを編集または削除する場合、ユーザにはケースの更新および削除アクセス権が必要です。

**iOS デバイス要件** — iOS 11 以降。iPad 向けには最適化されていません。

**Android デバイス要件** — Android 5.0 以降、および Google Play サービス 11.8.0 以降。

**理由:** Service Cloud Mobile を使用してエージェントは次のことができます。

- ケースの更新、編集、コラボレーション
- ケースリストの管理
- キューでのケースの表示
- メール、Facebook、Twitter、および Chatter でのコミュニケーション
- 一括アクションの実行
- 取引先責任者と取引先の詳細の検索
- ケースとキューを管理するための通知設定の管理
- アプリケーションの使用に関する Salesforce フィードバックの送信



方法: 組織の [Service Cloud Mobile 管理パッケージ](#) をインストールして、ユーザがアプリケーションからの通知を受信できるようにします。次に、アプリケーションをモバイルデバイスにインストールして、ログインします。

アプリケーションがユーザに Salesforce ログインとパスワードを求めます。認証後、サポートエージェントは手元でケースを確認できるようになります。顧客の期待に応じて、すばやく、効率的にケースを解決するのに必要なすべてのツールを使用できます。

## Service Cloud のその他の変更

Service Cloud に加えられたその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

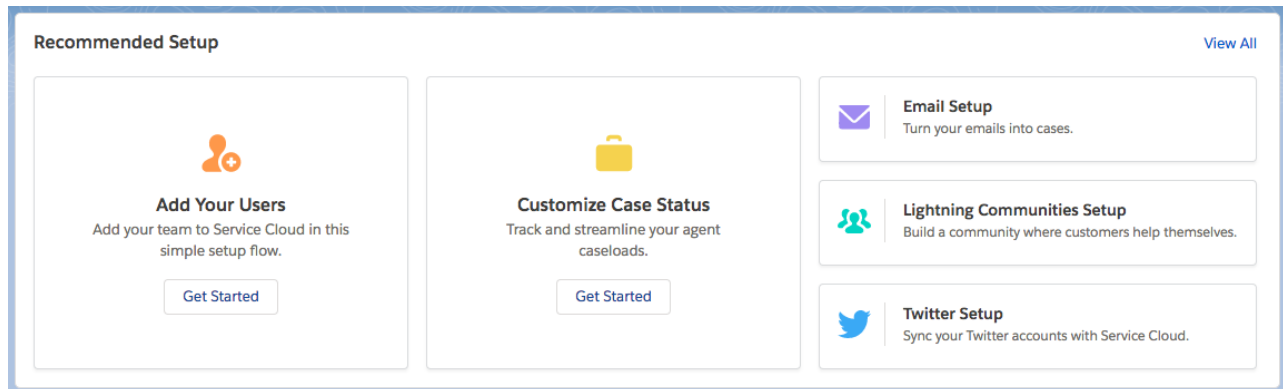
### サービスの設定のデザインの変更

Lightning Experience の [サービスの設定] ページのデザインが変更されて、動的な推奨事項、組織の現在の利用状況の概要、サポートセンターの状況を知らせるダッシュボードが表示されます。[推奨設定] では、設定フロー、1 ステップエクスペリエンス、各種リソース (動画や Trailhead モジュールなど) が提供されます。

## サービスの設定のデザインの変更

Lightning Experience の [サービスの設定] ページのデザインが変更されて、動的な推奨事項、組織の現在の利用状況の概要、サポートセンターの状況を知らせるダッシュボードが表示されます。[推奨設定] では、設定フロー、1ステップエクスペリエンス、各種リソース (動画や Trailhead モジュールなど) が提供されます。

対象: この変更は、すべてのエディション (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。



## Analytics: レポートとダッシュボード、および Einstein Analytics

レポートやダッシュボードについては、Lightning Experience レポートビルダー (正式リリース)、Lightning Experience 結合レポート (ベータ)、拡張サブスクリプションなどがこのリリースで導入されています。Einstein Analytics については、Salesforce オブジェクトの Einstein Discovery のおすすすめが正式リリースされ、ダッシュボードの条件付き書式やその他の数多くの新機能が導入されています。

このセクションの内容:

**レポートおよびダッシュボード: Lightning Experience レポートビルダー (正式リリース)、Lightning 結合レポート (ベータ)、登録の改善**

お待たせしました。Lightning Experience レポートビルダーが正式リリースされました。Lightning Experience 結合レポートベータを使用して、複数のオブジェクトからインサイトを得ることができるようになります。ダッシュボードに他のユーザを登録できます。その他にも多くの操作が可能です。

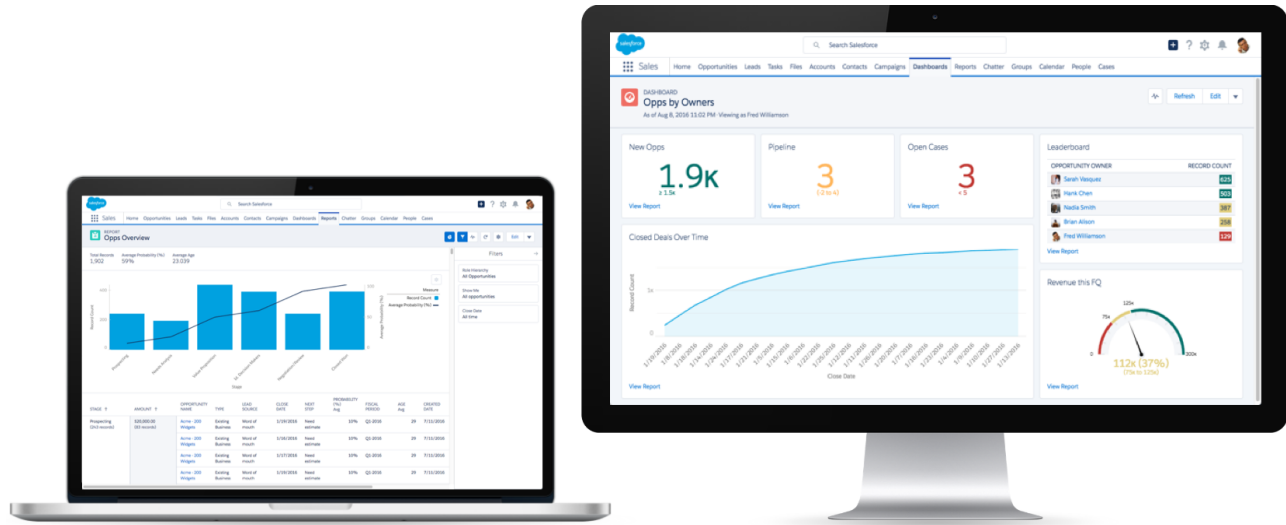
**Einstein Analytics: Einstein Discovery のおすすすめ、条件付き書式、複製のスケジュール**

任意の Salesforce オブジェクトの Einstein Discovery 予測および推奨アクションを取得します。簡単に設定できるしきい値を使用して、ダッシュボードウィジェットの書式設定を自動的に更新します。接続ごとに複製をスケジュールして、さまざまなデータの更新のタイミングを制御します。



## レポートおよびダッシュボード: Lightning Experience レポートビルダー (正式リリース)、Lightning 結合レポート (ベータ)、登録の改善

お待たせしました。Lightning Experience レポートビルダーが正式リリースされました。Lightning Experience 結合レポートベータを使用して、複数のオブジェクトからインサイトを得ることができるようになります。ダッシュボードに他のユーザを登録できます。その他にも多くの操作が可能です。



このセクションの内容:

**レポート:** Lightning レポートビルダー (正式リリース)、改善された実行ページ (ベータ)、Lightning 結合レポート (ベータ)

Lightning レポートビルダーが正式リリースされました。実行ページが改善され、レポートの操作の生産性が向上しています。Lightning 結合レポート (ベータ) を選択して、Lightning Experience で結合レポートを表示できます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

**ダッシュボード:** Lightning テーブルの改善、レポートのグラフ設定の使用、ダッシュボードへのレポートの追加

Lightning テーブルでレコードをグループ化および測定したり、ダッシュボードコンポーネントでレポートグラフを表示したり、ワンクリックのみでレポートをダッシュボードに追加したりできます。

**フォルダ:** サブフォルダを使用した整理、レポートおよびダッシュボードリストのカスタマイズ

フォルダやサブフォルダを使用して、レポートおよびダッシュボードを整理します。最も関心のある情報が表示されるように、[レポート] または [ダッシュボード] ページの列をカスタマイズします。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

**登録:** ダッシュボードの登録の拡張

レポートおよびダッシュボードに他のユーザを登録者として追加し、設定されたスケジュールで最新情報を自動的に共有できるようにします。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

## レポート: Lightning レポートビルダー (正式リリース)、改善された実行ページ (ベータ)、Lightning 結合レポート (ベータ)

Lightning レポートビルダーが正式リリースされました。実行ページが改善され、レポートの操作の生産性が向上しています。Lightning 結合レポート (ベータ) を選択して、Lightning Experience で結合レポートを表示できます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

このセクションの内容:

### Lightning レポートビルダーを使用したレポートの再考 (正式リリース)

Salesforce データを分析する強力な直観的なツールをユーザに提供します。Lightning レポートビルダーの正式リリースにより、レポートの新しい時代がやって来ました。レコードをグループ化、絞り込み、集計し、「南東部の前四半期の収益はどれくらいあったか?」、「最も多く完了した商談を生み出しているリードソースはどれか?」、「すべてのオープンケースの平均経過時間はどれくらいか?」などのビジネスに関する質問への回答を得ます。Lightning レポートビルダーは、前回のリリース以降にいくつかの変更が行われました。

### Lightning Experience での結合レポートの導入 (ベータ)

結合レポートは、複数のレポートタイプをまたがって Salesforce データを分析したり (納入商品が関連するケースと商品が関連する商談の結合など)、オブジェクトの複数のビューを同時に取得したり (成立商談と不成立商談など) するのに最適です。

### 書式設定を保持したレポートのエクスポート

他のユーザとレポートを共有する場合に、Microsoft® Excel® にエクスポートすることがあります。レポートをエクスポートする場合、苦勞して設定した書式はそのまま保持されます。エクスポートされたレポートには、列の集計と合計も含まれます。

### カスタマイズされた日付の粒度でレポートをグループ化

会計四半期別の取引先の状況を確認したり、今月生成された商談を詳しく見たりする必要があるかもしれません。日付の粒度をカスタマイズし、カレンダーまたは会計期間でレコードをグループ化できるようになりました。

### 元の値と新しい値での項目履歴レポートの絞り込み

以前は、項目履歴レポートでは、[元の値]項目と[新しい値]項目を使用して項目レベルの変更を追跡できましたが、元の値と新しい値で絞り込みができませんでした。両方の項目で絞り込むことができるようになったので、項目履歴レポートをさまざまな切り口から分析できます。

### 改善された実行ページによるパフォーマンスの向上 (ベータ)

Lightning Experience のレポートは常に改良されています。今回のリリースには、改善された実行ページ (ベータ) が導入されています。改善された実行ページにより、ユーザインターフェースが改善されます。たとえば、切り替え操作だけでレコードの詳細を表示できます。また、レポート実行時のパフォーマンスも向上しました。

### Lightning Experience のレポートのその他の機能強化

このリリースの主要機能に加えて、レポートにいくつかの小さいながら重要な改善が行われました。

## Lightning レポートビルダーを使用したレポートの再考 (正式リリース)

Salesforce データを分析する強力な直観的なツールをユーザに提供します。Lightning レポートビルダーの正式リリースにより、レポートの新しい時代がやって来ました。レコードをグループ化、絞り込み、集計し、「南東部の前四半期の収益はどれくらいあったか?」、「最も多く完了した商談を生み出しているリードソースはどれか?」、「すべてのオープンケースの平均経過時間はどれくらいか?」などのビジネスに関する質問への回答を得ます。Lightning レポートビルダーは、前回のリリース以降にいくつかの変更が行われました。

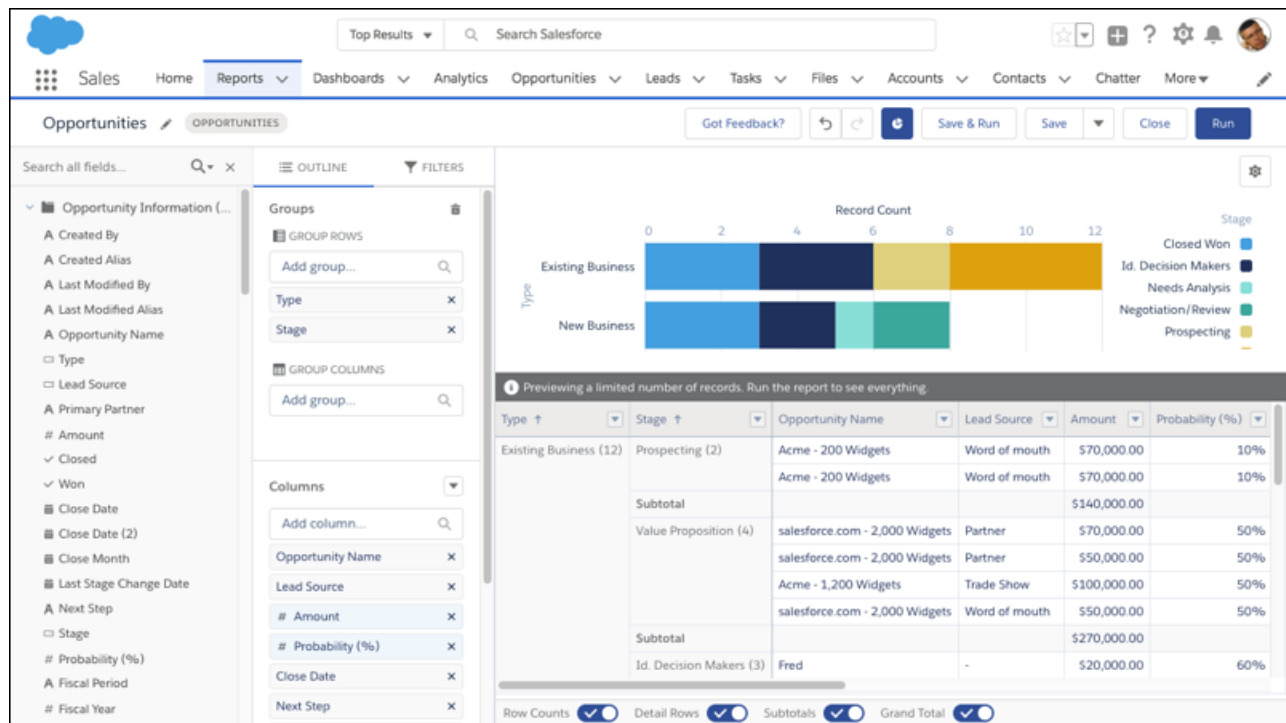
**対象:** この機能は Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

**対象ユーザ:**

- 非公開フォルダでレポートを作成、編集、削除するには、「レポートの作成とカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。
- 公開フォルダでレポートを作成、編集、削除するには、「レポートビルダー」か「レポートビルダー(Lightning Experience)」のいずれかのユーザ権限が必要です。

**方法:** Lightning レポートビルダーでレポートを作成するには、[レポート] タブで、[新規レポート] をクリックします。

**メモ:** Lightning レポートビルダーが正式リリースされたので、[レポートおよびダッシュボードの設定] ページの [Lightning レポートビルダーの有効化 (ベータ)] オプションは [Lightning Experience に埋め込まれた Salesforce Classic レポートビルダーを非表示] に置き換えられました。[Lightning 結合レポートを有効化 (ベータ)] が選択されている場合は、Lightning Experience で引き続き Salesforce Classic レポートビルダーにアクセスできます。




## Spring '18 以降の変更

- カスタマイズされた日付の粒度でレポートをグループ化します。
- レポート名またはレポート名の横の鉛筆アイコンをクリックして、レポートの名前を変更します。
- レポート名の横のグレーのバブル内でレポートのレポートタイプを参照します。
- 変更内容を保存せずにレポートビルダーから移動すると、変更を保存するように促されます。編集内容が失われることはもうありません。

## Lightning Experience での結合レポートの導入 (ベータ)

結合レポートは、複数のレポートタイプをまたがって Salesforce データを分析したり (納入商品が関連するケースと商品が関連する商談の結合など)、オブジェクトの複数のビューを同時に取得したり (成立商談と不成立商談など) するのに最適です。

対象: これは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience のベータ機能です。

 **メモ:** Lightning Experience 結合レポートはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象ユーザ:

- Lightning Experience で結合レポートを表示するには、「レポート実行」ユーザ権限が必要です。
- Lightning Experience に埋め込まれた Salesforce Classic レポートビルダーを使用して結合レポートを作成または編集するには、「レポートの作成とカスタマイズ」、「レポートビルダー」、「レポートビルダー (Lightning Experience)」のいずれかの権限が必要です。

理由: 結合レポートは、最大 5 ブロックで構成されています。各ブロックには 1 つの標準レポートタイプまたはカスタムレポートタイプのデータが表示されるため、結合レポートには最大 5 つの異なるレポートタイプのデータが含まれます。レポートタイプは、相互に共通項目を共有している場合にのみ結合できます。たとえば、商談と取引先は取引先名や取引先 ID などの共通項目を共有しているため、結合できます。各ブロックでは最大 2,000 レコードが返されるため、5 ブロックが含まれる結合レポートでは最大 10,000 レコードが返されません。データをグループ化する場合、ブロックをまたがってデータをグループ化します。つまり、共通項目のみデータをグループ化できます。共通項目は、それぞれのオブジェクトにある項目です。結合レポートを絞り込む場合、各条件はそれぞれのブロックに個別に適用されます。ご想像のとおり、これらの属性によって結合レポートの利便性が大幅に向上します。

たとえば、結合レポートを構築して最終的な売上レポートを作成します。業務の全体像を把握するための 3 つのブロック (取引先、商談、ケース) を結合レポートに追加します。

つまり、カスタマーサービス業務を俯瞰するための結合レポートを構築します。3 つのブロックを追加し、それぞれに [ケース] レポートタイプを割り当てます。ブロック 1 を「状況 次の文字列と一致する オープン」、ブ

ブロック 2 を「状況 次の文字列と一致する 処理中」、ブロック 3 を「状況 次の文字列と一致する クローズ」で絞り込みます。

方法: Lightning Experience で結合レポートの使用を開始するには、Salesforce 組織でベータ機能を使用するように選択します。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「レポート」と入力し、[レポートおよびダッシュボードの設定] を選択します。
2. [Lightning 結合レポートを有効化 (ベータ)] を選択します。
3. [保存] をクリックします。

成功です。結合レポートと Lightning Experience がついに統合されました。

Lightning Experience で結合レポートを表示すると、[条件] パネルにブロック単位で条件が表示されます。

取引先名でグループ化された取引先と商談を表示する簡単な結合レポートを次に示します。

Accounts and Cases									
Accounts Accounts block 1					Opportunities Opportunities block 2				
Account Name ↓	Account Owner	Type	Last Modified Date	Billing State/Province	Opportunity Name	Amount	Close Date	Stage	Probabilit
ZiffCorp	Fred Williamson	Customer	4/5/2018	NY	ZiffCorp - Laptops	\$20,000.00	5/6/2018	Proposal/Price Quote	
					ZiffCorp - Printers	\$1,500,000.00	4/13/2018	Closed Won	1
Subtotal	Count: 1				Count: 2	\$1,520,000.00			
XNet	Fred Williamson	Customer	4/5/2018	CA					
	Fred Williamson	Customer	4/5/2018	CA					
Subtotal	Count: 2								
West Airlines	Fred Williamson	-	4/5/2018	AL	West Airlines - 12 AW 5000 Series Printer	\$1,403,325.00	6/17/2018	Needs Analysis	
					West Airlines - 10 AW 5000 Series Printer	\$20,000.00	6/17/2018	Value Proposition	
Subtotal	Count: 1				Count: 2	\$1,423,325.00			
Vandelay Industries	Fred Williamson	Customer	4/5/2018	NJ	Vandelay Industries - 30 Spider 3 Series Laptops	\$725,500.00	6/17/2018	Needs Analysis	
					Vandelay - Printers	\$16,000.00	5/20/2018	Needs Analysis	
					Vandelay - Laptops	\$36,000.00	4/13/2018	Closed Won	1
Subtotal	Count: 1				Count: 3	\$777,500.00			
Universal Technologies	Fred Williamson	Competitor	4/5/2018	Connecticut	Universal Technologies 3 Star 10 Series Desktops	\$117,700.00	5/30/2018	Closed Lost	
Subtotal	Count: 1				Count: 1	\$117,700.00			
Universal Motors	Fred Williamson	Customer	4/5/2018	MI					

**メモ:** Lightning Experience で結合レポートを使用する準備ができたなら、次のベータの制限事項に注意してください。次の機能は、Lightning 結合レポートのベータバージョンでは使用できませんが、今後のリリースで実装できるように取り組んでいます。

- Lightning レポートビルダーで結合レポートを作成および編集する。代わりに、Lightning Experience に埋め込まれた Salesforce Classic レポートビルダーで結合レポートを作成および編集します。
- グラフ
- 表示中に条件を編集する ([条件] パネルで表示することは可能)
- 登録
- エクスポート

- Quip で開く
- ダッシュボードに追加
- Chatter フィード
- 保存 (別名で保存) は使用可能
- 表示中に列の昇順および降順で並び替える (列の並び替え方法を確認することは可能)
- トレンド
- Einstein データインサイト

## 書式設定を保持したレポートのエクスポート

他のユーザとレポートを共有する場合に、Microsoft® Excel® にエクスポートすることがあります。レポートをエクスポートする場合、苦労して設定した書式はそのまま保持されます。エクスポートされたレポートには、列の集計と合計も含まれます。

**対象:** この機能は Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

**方法:** レポートを Excel にエクスポートする手順は、次のとおりです。

1. [編集] ドロップダウンメニューで [エクスポート] をクリックします。
2. [エクスポート] ダイアログで [フォーマット済みレポート] を選択します。
3. レポートを .xlsx 形式で保存するには、[エクスポート] をクリックします。

The screenshot shows the 'Opportunities this Year' report in Lightning Experience. The 'Export' button in the top right corner is circled in red and labeled '1'. The 'Export View' dialog is open, showing the 'Formatted Report' option selected, which is also circled in red and labeled '2'. The 'Export' button in the dialog is circled in red and labeled '3'.

STAGE	AMOUNT	PROBABILITY (%)	AGE	CLOSE DATE	CREATED DATE	NEXT STEP	LEAD SOURCE
Negotiation/Review	\$500,000.00						Advertisement
Value Proposition	\$50,000.00					Partner	Partner
Value Proposition	\$70,000.00					Partner	Partner
Negotiation/Review	\$500,000.00					Advertisement	New Business
Value Proposition	\$50,000.00					Partner	Existing Business
Value Proposition	\$100,000.00					Trade Show	Existing Business
Needs Analysis	\$20,000.00					Trade Show	New Business
Value Proposition	\$140,000.00					Trade Show	Existing Business
Needs Analysis	\$70,000.00					Trade Show	New Business

- 📌 **メモ:** レポートにレコードだけが必要な場合はどうしたらいいでしょう? 書式設定のないレポートのバージョンが必要な場合は、[エクスポート] ダイアログで [詳細のみ] を選択します。

関連トピック:

<https://success.salesforce.com/ideaView?id=08730000000E010AAC>

<https://success.salesforce.com/ideaView?id=08730000000bjsAAA>

## カスタマイズされた日付の粒度でレポートをグループ化

会計四半期別の取引先の状況を確認したり、今月生成された商談を詳しく見たりする必要があるかもしれません。日付の粒度をカスタマイズし、カレンダーまたは会計期間でレコードをグループ化できるようになりました。

**対象:** この機能は Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

**対象ユーザー:** Lightning Experience で日付の粒度をカスタマイズするには、「レポートの作成とカスタマイズ」ユーザー権限が必要です。

**方法:** 日付項目でレコードをグループ化するとき日付の粒度をカスタマイズするには、レポートをグループ化する日付列を選択します。次に、[集計期間単位...] でカレンダーまたは会計期間を適用します。

Previewing a limited number of records. Run the report to see everything.

Opportunity Name ↑	Close Date (2) ↓	Amount	Probability (%)	Age	Close Date	Created Date
Acme - 1,200 Widgets (2)	3/5/2015 (1)	↑ Sort Ascending	%	591	3/5/2015	8/29/2016
	Subtotal	↓ Sort Descending				
	4/17/2014 (1)	↕ Sort By...	%	591	4/17/2014	8/29/2016
Subtotal		Group Columns by This Field				
Acme - 200 Widgets (3)	3/7/2015 (1)	Group Date By...	✓ Day			8/29/2016
	Subtotal	Make a Detail Column	Calendar Week			
	2/26/2015 (1)	Remove Group	Calendar Month			8/29/2016
	Subtotal		Calendar Quarter			8/29/2016
	4/19/2014 (1)	\$40,000.00	Calendar Year			8/29/2016
Subtotal						
Acme - 600 Widgets (2)	3/6/2015 (1)	\$20,000.00	20%	591	3/6/2015	8/29/2016
	Subtotal					

関連トピック:

<https://success.salesforce.com/ideaView?id=0873A0000003XAJQA2>

## 元の値と新しい値での項目履歴レポートの絞り込み

以前は、項目履歴レポートでは、[元の値]項目と[新しい値]項目を使用して項目レベルの変更を追跡できましたが、元の値と新しい値で絞り込みができませんでした。両方の項目で絞り込むことができるようになったので、項目履歴レポートをさまざまな切り口から分析できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザ:** 項目履歴レポートに条件を追加または編集するには、「レポートの作成とカスタマイズ」、「レポートビルダー」、「レポートビルダー (Lightning Experience)」のいずれかの権限が必要です。

**理由:** 項目履歴レポートでは、[元の値]および[新しい値]列を追加することで、項目の変更を追跡できます。項目履歴レポートでは、各レポート行はレコードへの変更を表します。項目履歴レポートを絞り込むことで、「今会計四半期の現時点で完了している商談はどれか?」といった質問への回答を得ることができます。

[元の値]および[新しい値]項目のすべての検索条件はテキスト条件なので、特別な考慮が必要になる場合があります。[新しい値]で、たとえば[金額]などの数値項目への変更が取得されたとしても、数値はテキストとして取得されます。つまり、「>」や「<」などの絞り込み演算子は期待どおりに動作しません。項目が通貨 (USD 1,000.50 など) を表していて、「新しい値 次の文字列と一致する USD 1,000.50」を表示するようにレポートを絞り込むと、ロケールが異なる同僚にはレコードが返されない場合があります。たとえば、パリの同僚に同じレポート結果を表示するには、ロケールによって数値形式が異なるため、「新しい値 次の文字列と一致する USD 1 000,50」という検索条件が必要になるでしょう。

**方法:** 今会計四半期に完了した商談を確認するには、商談項目履歴レポートタイプに基づいてレポートを作成し、次の検索条件を追加します。

- 標準の [編集日] 検索条件が [当会計四半期] に設定されていることを確認します。
- 新しい値 次の文字列を含む 完了
- 元の値 次の文字列を含まない 完了



The screenshot shows the Salesforce Reports Builder interface for a report titled "Opps Closed in Current FQ". The report is displayed in a table view with the following columns: Opportunity Owner, Edited By, Field / Event, Old Value, New Value, Edit Date, and Opportunity Name. The table contains 11 rows of data. On the left side, there is a "Filters" panel with two filters applied: "New Value contains Closed" and "Old Value does not contain Closed". These two filters are circled in red in the image.

Opportunity Owner	Edited By	Field / Event	Old Value	New Value	Edit Date	Opportunity Name	
1	Fred Williamson	Fred Williamson	Stage	Negotiation/Review	Closed Won	4/13/2018 3:43 PM	ZiffCorp- Printers
2	Fred Williamson	Fred Williamson	Stage	Negotiation/Review	Closed Won	4/13/2018 3:43 PM	Vandelay - Laptops
3	Fred Williamson	Fred Williamson	Stage	Negotiation/Review	Closed Won	4/13/2018 3:43 PM	Dewey, Cheattem, & Howe - 36 Laptops
4	Fred Williamson	Fred Williamson	Stage	Negotiation/Review	Closed Won	4/13/2018 3:43 PM	AmShip Corporation - free memory upgrade
5	Fred Williamson	Fred Williamson	Forecast Category	Pipeline	Closed	4/13/2018 3:43 PM	Dewey, Cheattem, & Howe - 36 Laptops
6	Fred Williamson	Fred Williamson	Forecast Category	Pipeline	Closed	4/13/2018 3:43 PM	AmShip Corporation - free memory upgrade
7	Fred Williamson	Fred Williamson	Forecast Category	Pipeline	Closed	4/13/2018 3:43 PM	Vandelay - Laptops
8	Fred Williamson	Fred Williamson	Forecast Category	Pipeline	Closed	4/13/2018 3:43 PM	ZiffCorp- Printers
9	Fred Williamson	Fred Williamson	Stage	Negotiation/Review	Closed Won	4/13/2018 2:42 PM	Northtech Communications Inc - 16 AW 500
10	Fred Williamson	Fred Williamson	Forecast Category	Pipeline	Closed	4/13/2018 2:42 PM	Northtech Communications Inc - 16 AW 500
11							

商談項目履歴レポートタイプが表示されない場合、または商談が変更されたはずなのに商談項目履歴レポートにレコードが表示されない場合は、項目履歴管理をオンにします。設定方法など、項目追跡についての詳細は、Salesforce ヘルプの「項目履歴管理」を参照してください。

#### 関連トピック:

[https://help.salesforce.com/articleView?id=tracking\\_field\\_history.htm](https://help.salesforce.com/articleView?id=tracking_field_history.htm)

<https://success.salesforce.com/ideaView?id=087300000006PSAAY>

### 改善された実行ページによるパフォーマンスの向上 (ベータ)

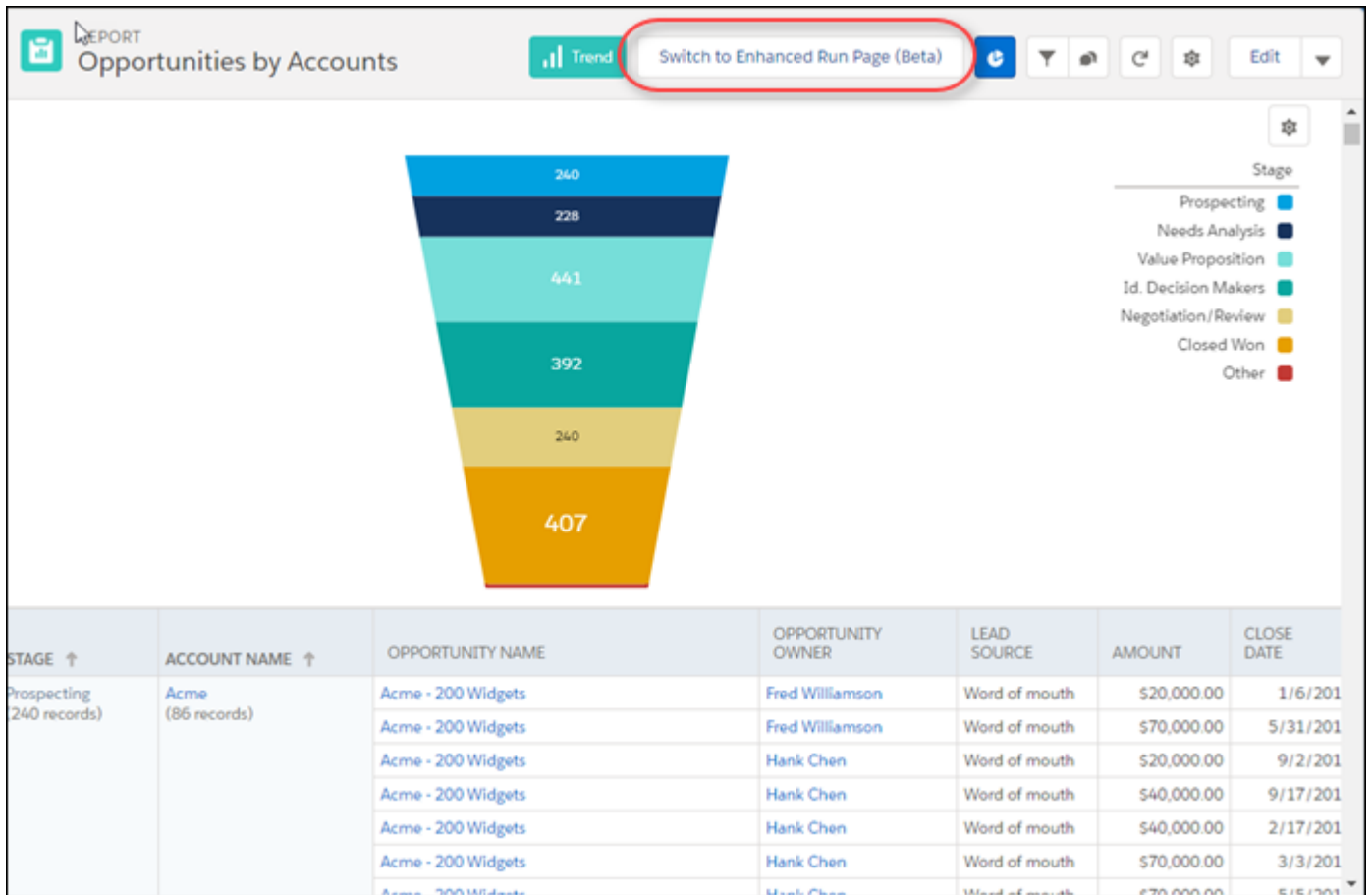
Lightning Experience のレポートは常に改良されています。今回のリリースには、改善された実行ページ (ベータ) が導入されています。改善された実行ページにより、ユーザーインターフェースが改善されます。たとえば、切り替え操作だけでレコードの詳細を表示できます。また、レポート実行時のパフォーマンスも向上しました。

**対象:** この機能は Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience のベータ機能です。

**メモ:** このリリースには、Lightning Experience に改善された実行ページのベータバージョンが含まれています。ベータバージョンは機能の品質は高いですが、既知の制限があります。改善された実行ページは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

**対象ユーザー:** Lightning Experience で改善された実行ページを操作するには、「レポート実行」ユーザー権限が必要です。

方法: Lightning Experience で改善された実行ページを操作するには、[レポート] で [改善された実行ページに切り替え (ベータ)] をクリックします。必要に応じて、[従来の実行ページに切り替え] をクリックすれば、元の実行ページに切り替えることができます。



## Lightning Experience のレポートのその他の機能強化

このリリースの主要機能に加えて、レポートにいくつかの小さいながら重要な改善が行われました。

対象: これらの変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

理由: レポートのその他の機能強化を行った理由は以下のとおりです。

### 選択リスト項目で Null 値が受け入れられる

選択リスト項目で絞り込む場合、空白または「null」値を含むレコードに結果を制限するには、選択リストから [選択なし] を選択し、[適用] をクリックします。

### カスタム日付範囲を無制限にできる

日付項目に検索条件を適用する場合、指定した日より後のレコードが含まれるようにするには、日付列の [検索条件を編集] ボックスで [開始日] のみを指定します。同様に、指定した日より前のレコードが含まれるようにするには、[終了日] のみを指定します。

日付範囲に手動入力値が受け入れられる

日付範囲で日付を選択する代わりに、日付列の [検索条件を編集] ボックスで [開始日] と [終了日] の値を入力できます。

レポートの保存していない変更内容を失う心配がない

変更内容を保存していないレポートから移動すると、作業を保存するように促されます。

## ダッシュボード: Lightning テーブルの改善、レポートのグラフ設定の使用、ダッシュボードへのレポートの追加

Lightning テーブルでレコードをグループ化および測定したり、ダッシュボードコンポーネントでレポートグラフを表示したり、ワンクリックのみでレポートをダッシュボードに追加したりできます。

このセクションの内容:

[ダッシュボードコンポーネントから Web サイトまたは Salesforce レコードへのリンク](#)

ダッシュボード閲覧者にビジネスについてのインサイトを提示した後、Salesforce レコードまたは Web サイトへのワンクリックアクセスを提供して次のステップへと誘導します。

[レポートからダッシュボードへのレポートの追加](#)

レポートの参照、ダッシュボードへのレポートの追加、新規ダッシュボードの作成が必要な場合、そのためのボタンがあります。

[ダッシュボードコンポーネントでのソースレポートグラフの使用](#)

レポート内に表示するグラフがありますか? それをダッシュボードコンポーネントで使用できます。

[Lightning テーブルでのデータのグループ化および測定](#)

ダッシュボードにレコードレベルの詳細を表示する最適な方法である Lightning テーブルでは、グループ化と基準列がサポートされるようになりました。

[Lightning Experience のダッシュボードのグラフの機能強化](#)

ビジネスデータの視覚化とは、ビジネスデータを理解することです。見やすさを向上させるために、ダッシュボードのグラフを改善しました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

[Lightning Experience のダッシュボードのその他の機能強化](#)

このリリースの主要機能に加えて、ダッシュボードに小さいながら重要な改善がいくつか行われました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

## ダッシュボードコンポーネントから Web サイトまたは Salesforce レコードへのリンク

ダッシュボード閲覧者にビジネスについてのインサイトを提示した後、Salesforce レコードまたは Web サイトへのワンクリックアクセスを提供して次のステップへと誘導します。

**対象:** この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で正式リリースされます。


**対象ユーザ:**

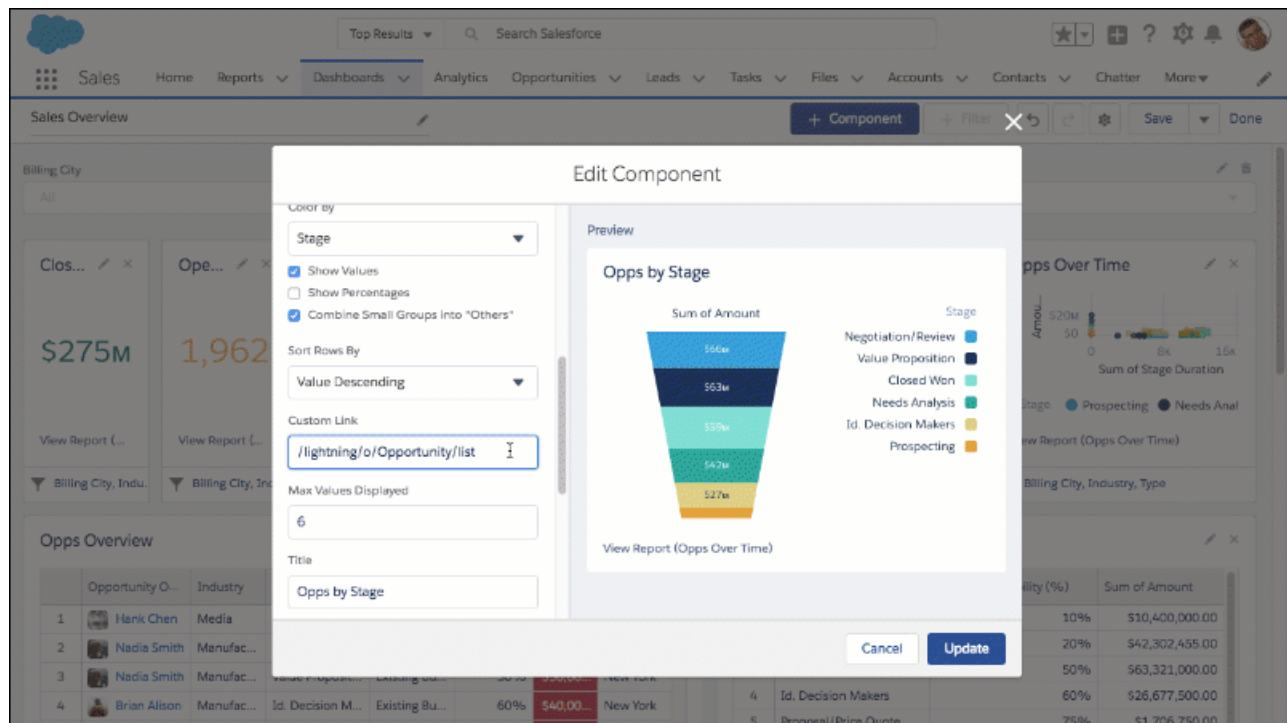
- ダッシュボードコンポーネントからリンクするには、「ダッシュボードの作成とカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。

- 動的ダッシュボードのダッシュボードコンポーネントからリンクするには、「動的ダッシュボードの管理」ユーザ権限が必要です。

理由: Sales Overview ダッシュボードは、パイプラインの全体像を把握できる点で、チームが商談でコラボレーションする優れた方法です。ダッシュボードコンポーネントはすでにソースレポートにリンクされているため詳細を参照できますが、アクションを実行する準備が整っている場合はどうでしょう? ダッシュボード閲覧者がすぐに作業を開始できるように、[商談] タブに直接リンクできるようになりました。

方法: ダッシュボードコンポーネントから [商談] タブにリンクするには、ダッシュボードコンポーネントを追加または編集します。次に、[カスタムリンク] に `/lightning/o/Opportunity/list` と入力します。

リンクされたコンポーネントを展開した後、ダッシュボード閲覧者は  をクリックしてリンク先にアクセスできます。



The screenshot shows the 'Edit Component' dialog in the Salesforce Lightning Experience interface. The dialog is titled 'Edit Component' and has several sections:

- Color by:** A dropdown menu set to 'Stage'. Below it are checkboxes for 'Show Values' (checked), 'Show Percentages' (unchecked), and 'Combine Small Groups into "Others"' (checked).
- Sort Rows By:** A dropdown menu set to 'Value Descending'.
- Custom Link:** A text input field containing the URL `/lightning/o/Opportunity/list`.
- Max Values Displayed:** A text input field set to '6'.
- Title:** A text input field set to 'Opps by Stage'.

On the right side of the dialog, there is a 'Preview' section showing a funnel chart titled 'Opps by Stage'. The chart displays the 'Sum of Amount' for different stages: Negotiation/Review (164k), Value Proposition (593k), Closed Won (539k), Needs Analysis (547k), and Id. Decision Makers (527k). A legend on the right lists the stages with corresponding colored squares.

Webサイトにリンクする場合、サイトのドメインを入力します。たとえば、`https://www.salesforce.com/` などです。`https://` または `http://` あるいは `www.` を必ず含めてください。そうしないと、リンク先がWebサイトとして認識されません。`salesforce.com` (`https://` または `www.` なし) と入力すると、`https://www.salesforce.com/salesforce.com` にユーザが移動されます。

## レポートからダッシュボードへのレポートの追加

レポートの参照、ダッシュボードへのレポートの追加、新規ダッシュボードの作成が必要な場合、そのためのボタンがあります。

対象: この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。


対象ユーザ:

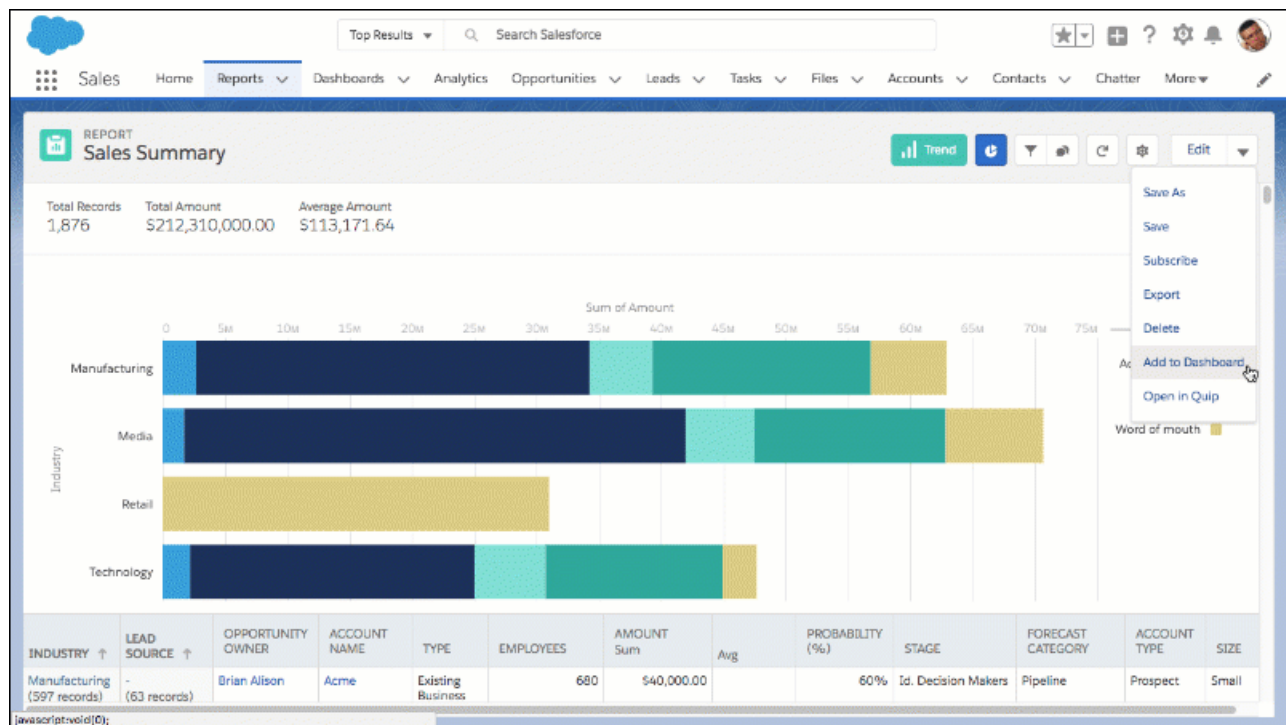
- レポートをダッシュボードに追加するには、「ダッシュボードの作成とカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。
- レポートを動的ダッシュボードに追加するには、「動的ダッシュボードの管理」ユーザ権限が必要です。

理由: これまで、レポートをダッシュボードに追加する方法は1つだけでした。最初にダッシュボードを編集または作成します。次に、コンポーネントを追加します。最後に、目的のソースレポートを見つけて選択します。

この従来の方法はレポートをダッシュボードに追加するには問題ありませんが、一方向です。つまり、ダッシュボードからダッシュボードにしかレポートを追加できません。

今後は、もう1つの方法があります。レポートから新規または既存のダッシュボードにレポートを追加できます。

方法: レポートのホームページから、またはレポートを参照中に、 > [ダッシュボードに追加] をクリックします。レポートの追加先にするダッシュボードを選択するか、新しいダッシュボードを作成し、ダッシュボードコンポーネントの編集を終了します。



## ダッシュボードコンポーネントでのソースレポートグラフの使用

レポート内に表示するグラフがありますか? それをダッシュボードコンポーネントで使用できます。

対象: この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

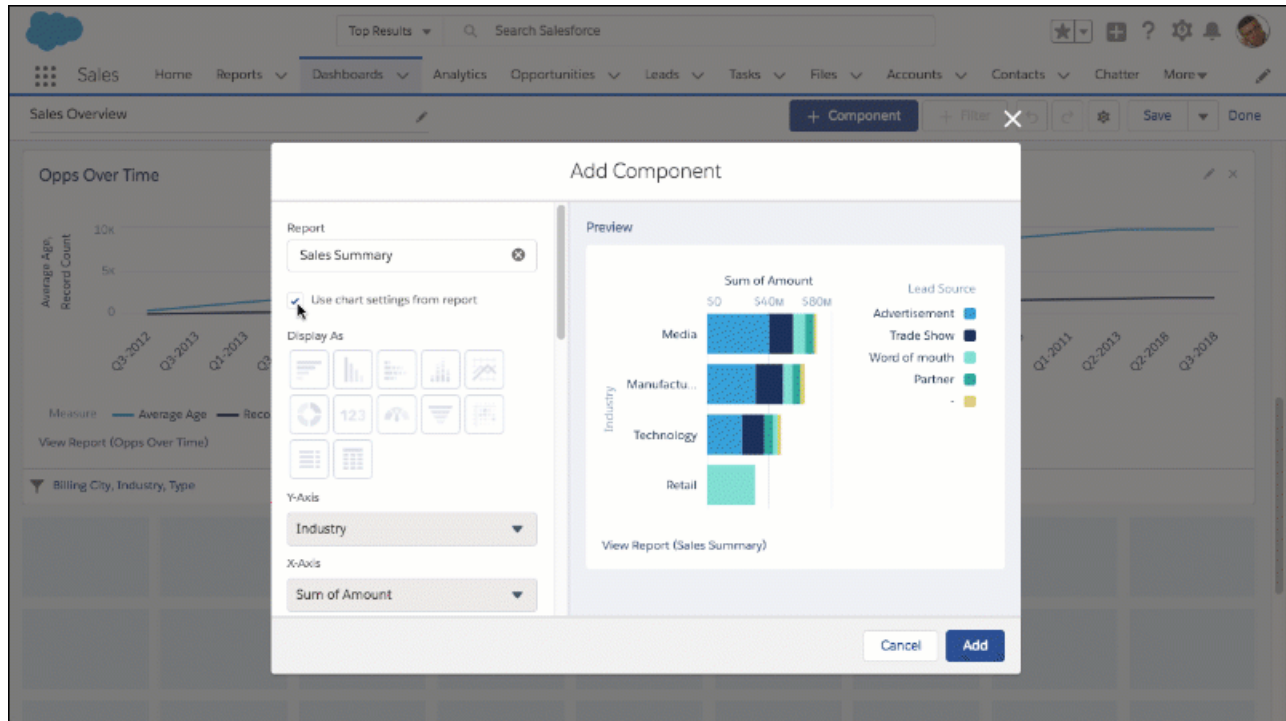
対象ユーザ:

- ダッシュボードコンポーネントでレポートグラフを使用するには、「ダッシュボードの作成とカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。

- 動的ダッシュボードコンポーネントでレポートグラフを使用するには、「動的ダッシュボードの管理」ユーザ権限が必要です。

理由: レポート内に、目的にかなうグラフ化されたデータがすでにある場合、グラフをゼロから作成する代わりに、ダッシュボードコンポーネントにそれを表示します。

方法: ダッシュボードコンポーネントを追加または編集し、[レポートのグラフ設定を使用]を選択します。



## Lightning テーブルでのデータのグループ化および測定

ダッシュボードにレコードレベルの詳細を表示する最適な方法である Lightning テーブルでは、グループ化と基準列がサポートされるようになりました。

対象: この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で正式リリースされます。

対象ユーザ:

- Lightning テーブルダッシュボードコンポーネントのデータをグループ化するには、「ダッシュボードの作成とカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。
- 動的ダッシュボードの Lightning テーブルダッシュボードコンポーネントのデータをグループ化するには、「動的ダッシュボードの管理」ユーザ権限が必要です。

理由: Lightning テーブルでレコードをグループ化できるので、これまで以上に役立つようになりました。

グループ化されていない Lightning テーブルには詳細列が表示されます。詳細列には、個々のレコードに関するレコードあたりの情報が表示されます。

グループ化された Lightning テーブルには基準列が表示されます。数値のみが測定されるため、すべての基準列は数値になります。

たとえば、次の Sales Overview ダッシュボードでは、Lightning テーブルを使用して個々の商談レコードの詳細を表示することができます。2つ目の Lightning テーブルはフェーズでグループ化されており、フェーズ別の合計金額や平均確度といった主要な総計値を参照するのに便利です。

The screenshot shows the Salesforce Sales Overview dashboard. At the top, there's a navigation bar with 'Sales', 'Home', 'Reports', 'Dashboards', 'Analytics', 'Opportunities', 'Leads', 'Tasks', 'Files', 'Accounts', 'Contacts', 'Chatter', and 'More'. Below this is the dashboard header with 'Sales Overview' and filters for 'Billing City', 'Industry', and 'Type'. The main content area contains two tables:

	Opportunity Owner ↑	Industry	Stage	Probability (%)	Amount
1	Brian Alison	Manufacturing	Id. Decision Makers	60%	\$40,000.00
2	Brian Alison	Technology	Closed Won	100%	\$140,000.00
3	Brian Alison	Technology	Closed Won	100%	\$70,000.00
4	Brian Alison	Manufacturing	Id. Decision Makers	60%	\$20,000.00
5	Brian Alison	Manufacturing	Closed Won	100%	\$100,000.00
6	Brian Alison	Manufacturing	Closed Won	100%	\$20,000.00
7	Brian Alison	Technology	Id. Decision Makers	60%	\$70,000.00
8	Brian Alison	Technology	Value Proposition	50%	\$500,000.00
9	Brian Alison	Detail	Nearte Anshale	70%	\$50,000.00

	Stage ↑	Average Probability (%)	Sum of Amount
1	Prospecting	10%	\$10,400,000.00
2	Needs Analysis	20%	\$42,302,455.00
3	Value Proposition	50%	\$63,321,000.00
4	Id. Decision Makers	60%	\$26,677,500.00
5	Proposal/Price Quote	75%	\$1,706,750.00
6	Negotiation/Review	90%	\$66,331,000.00
7	Closed Won	100%	\$59,376,500.00
8	Closed Lost	0%	\$4,422,900.00

At the bottom of the dashboard, there are several summary cards: 'Closed ...', 'Open C...', 'Leads', 'Sum of Closed Opps', 'Opps by Stage', and 'Opps Over Time'.

方法: Lightning テーブルを追加または編集します。[グループを追加...] から、グループ化する項目を選択します。デフォルトの基準列はレコード件数です。レコード件数は削除できませんが、別の基準列を追加した後に眼のアイコン (👁) をクリックして非表示にすることができます。異なる基準列を追加するには、[基準列を追加...] で項目を選択します。ただし、測定できるのは数値項目だけなので、日付、テキスト、選択リストおよび Boolean 項目は使用できません。基準列を追加した後、その基準列をクリックして、[合計]、[平均]、[最大]、または [最小] という基準から最大 4 個を選択します。

## Lightning Experience のダッシュボードのグラフの機能強化

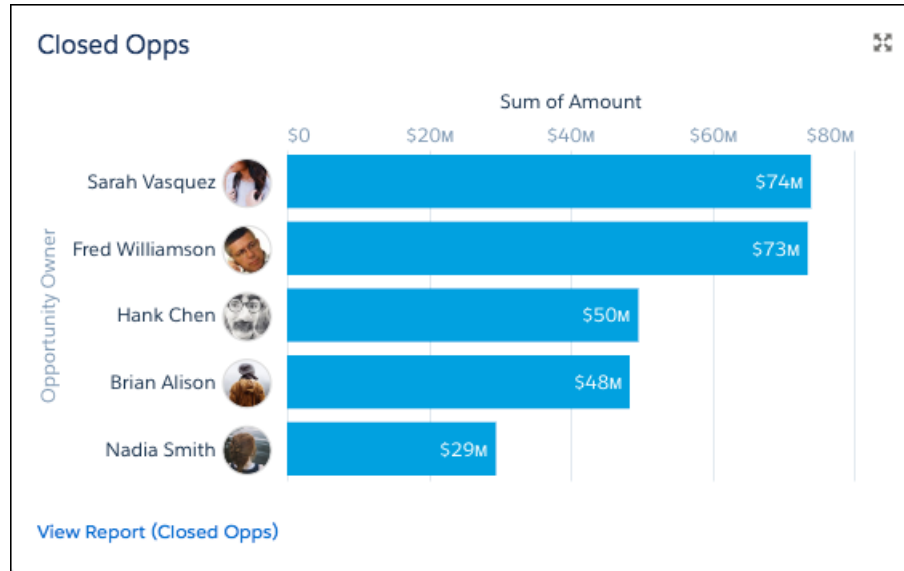
ビジネスデータの視覚化とは、ビジネスデータを理解することです。見やすさを向上させるために、ダッシュボードのグラフを改善しました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

対象: これらの変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

理由: ダッシュボードのグラフの機能強化を行った理由は以下のとおりです。

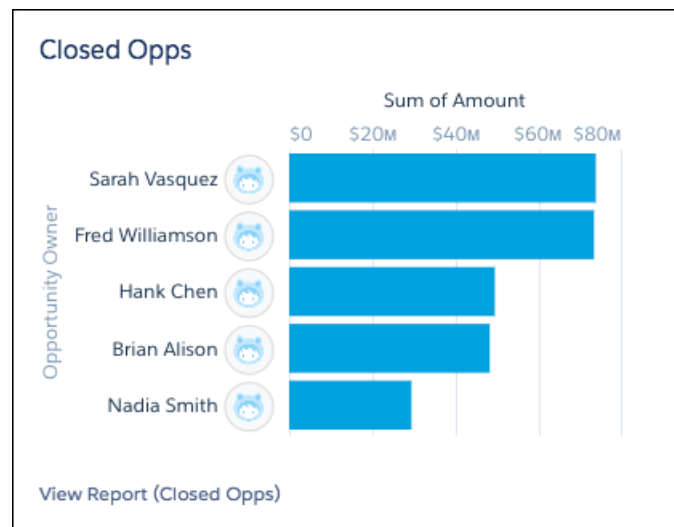
### 横棒グラフに Chatter 写真を表示

横棒グラフはランキング表を視覚化する優れた方法です。Chatter 写真を表示し、ランキング表に個性を加えることができるようになりました。



### ダッシュボードのテーブルコンポーネントに Astro を表示

[コンポーネントの追加]プレビューペインで、Chatter 写真が表示されるようにコンポーネントを設定するときに、ユーザの Chatter 写真のプレースホルダとして Astro が表示されるようになりました。ダッシュボードを保存して更新すると、全員の Chatter 写真が表示されます。



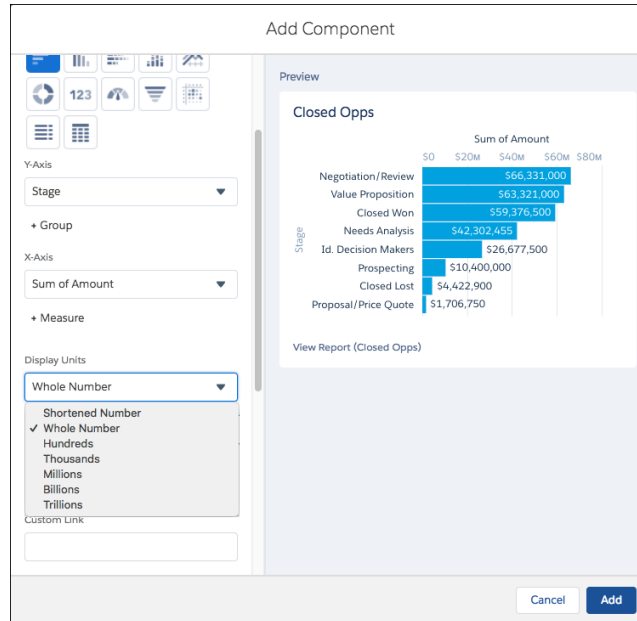
### ダッシュボードグラフの表示単位の設定

[表示単位]を設定して、ダッシュボードグラフの値の表示方法を選択します。短縮数値では、データに適切な単位が自動的に選択され、省略されます。整数では、実際の値が表示されます。その他のオプションとして、百、千、百万、十億、一兆があります。データに最も適切なオプションを選択します。

ダッシュボードコンポーネントの Lightning テーブルでは、カスタム表示単位の設定はサポートされていません。

レポートグラフでは、カスタム表示単位の設定はサポートされていません。





### 折れ線グラフに値を表示

マウスポインタを置かなくても、折れ線グラフの山と谷の値を表示できます。[値を表示]を選択するだけで済みます。

値の表示は、複数の折れ線グラフではサポートされていません。

### 読みやすくなったダッシュボードの複数の折れ線グラフ

ダッシュボードの場合、2つ以上の線を表示する折れ線グラフでは、各線の下領域は塗りつぶされなくなりました。線を1つだけ表示する折れ線グラフでは、引き続き線の下領域が塗りつぶされます。

レポートの場合、複数の折れ線グラフでは、各線の下領域が常に塗りつぶされます。

### 軸タイトルの折り返し

レポートグラフ以外のダッシュボードコンポーネントでは、軸タイトルは切り捨てられずに2行目に折り返されるようになりました。

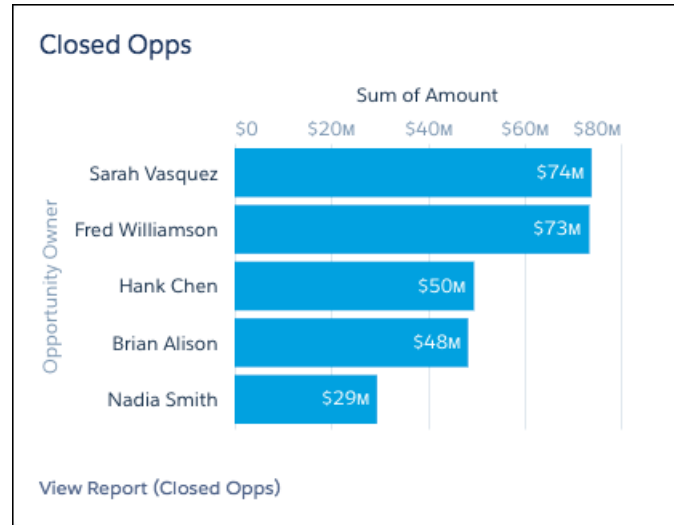
### レポート実行ページのように見えるダッシュボードテーブルコンポーネント

レポートとダッシュボードテーブルのデータを参照するときの一貫性を保つため、ダッシュボードテーブルのデザインをレポートに近づけました。

### グラフおよびテーブルでの通貨記号(\$、¥、€など)の表示

\$100なのか、¥100なのか?ドル、円、ユーロなどの通貨で値が測定される場合、グラフ値に通貨記号が表示されるようになりました。

レポートグラフには通貨記号は表示されません。



## 第2レベルグループに並び替え順が適用されるようになった棒グラフ

以前は、棒グラフでは並び替え順が第2レベルグループではなく、第1レベルグループに適用されていました。今回のリリースでは、両方のグループに並び替え順が適用されるようになりました。

### 関連トピック:

<https://success.salesforce.com/ideaView?id=087300000007hhlAAA>

<https://success.salesforce.com/ideaView?id=0873A000000IDPaQAM>

<https://success.salesforce.com/ideaView?id=0873A000000TtubQAC>

## Lightning Experience のダッシュボードのその他の機能強化

このリリースの主要機能に加えて、ダッシュボードに小さいながら重要な改善がいくつか行われました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

**対象:** これらの変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

**理由:** ダッシュボードのその他の機能強化を行った理由は以下のとおりです。

### 「サポートされていないレポートタイプです」エラーメッセージの改善

以前は、ダッシュボードコンポーネントと互換性のないソースレポートを選択すると、「サポートされていないレポートタイプです」という単純なエラーメッセージが表示されていました。今回のリリースでは、選択したソースレポートと互換性がない理由を説明する有用なエラーメッセージが表示されるようになりました。たとえば、結合レポートを選択すると、結合レポートがサポートされていないことを示す「結合レポートはソースレポートとして使用できません。」というエラーが表示されます。

## フォルダ: サブフォルダを使用した整理、レポートおよびダッシュボードリストのカスタマイズ

フォルダやサブフォルダを使用して、レポートおよびダッシュボードを整理します。最も関心のある情報が表示されるように、[レポート] または [ダッシュボード] ページの列をカスタマイズします。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

このセクションの内容:

### Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードビューの強化

レポートおよびダッシュボードの拡張リストビューにより、最も有益な情報に焦点を絞ることができます。[レポート] および [ダッシュボード] タブで、表示、並び替え、サイズ変更を行う列や、列のテキストの表示方法を決定できるようになりました。また、要望のあった新しいデフォルト列 ([レポートの最終実行日] など) が追加されました。

### Lightning Experience でのレポートおよびダッシュボードフォルダの整理

コンテンツの整理がさらに簡単になりました。サブフォルダを使用して、レポートおよびダッシュボードフォルダの論理構造をすばやく作成できます。地域、役割、機能、または合理的な任意の要素で整理できます。フォルダ間のコンテンツの移動も簡単になりました。

## Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードビューの強化

レポートおよびダッシュボードの拡張リストビューにより、最も有益な情報に焦点を絞ることができます。[レポート] および [ダッシュボード] タブで、表示、並び替え、サイズ変更を行う列や、列のテキストの表示方法を決定できるようになりました。また、要望のあった新しいデフォルト列 ([レポートの最終実行日] など) が追加されました。

対象: これらの変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザー: すべてのユーザーがレポートとダッシュボード一覧をカスタマイズできます。

理由: 必要な情報を一目で確認できると便利です。たとえば、長年蓄積された数多くのレポートがあるが、もはやどのレポートが有益なのかわからなくなっているという場合があります。今回のリリースでは、クリックするだけで、レポートの最終実行日に基づいて並び替えることができるようになりました。最近実行されたレポートや古いレポートをすぐに見つけることができます。サイズ変更や表示する列の決定などのその他の列の操作により、拡張リストビューをさらに調整できます。

方法: [レポート] または [ダッシュボード] タブで、次のいずれかのアクションを試してみてください。

選択した列の並び替え。カーソルを列ヘッダーに移動すると、現在の並び替え順が表示されます。上矢印は、A から Z または最小値から最大値の順序を示し、下矢印はその逆を示します。列の並び替え順を変更するには、列ヘッダーをクリックします。

NAME	CREATED BY	CREATED ON ↑	▼
BW Dashb...	Fred Williamson	7/15/2017, 9:54 AM	
BW Dashb...	Fred Williamson	7/14/2017, 11:41 AM	

列のサイズ変更。列のサイズを変更するには、列の仕切りにカーソルを移動し、仕切りを左右にドラッグします。

NAME	CREATED BY	CREATED ON
BW Dashboard Charts only	Fred Williamson	7/15/2017, 9:54 AM
BW Dashboard Snapshot	Fred Williamson	7/14/2017, 11:41 AM

列のテキストの折り返しまたはクリップ。一部の列には、列幅を超えるコンテンツの表示方法を選択するオプションがあります。列ヘッダーの下向き矢印をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。

- テキストをラップ。すべてのコンテンツが表示されるように、必要に応じて追加の行でテキストを続けます。
- テキストをクリップ。列内に収まるコンテンツのみを表示します。

CREATED ON ↑	LAST MODIFIED BY
8/3/2016, 5:17 PM	WRAP TEXT
8/8/2016, 10:55 PM	✓ CLIP TEXT

表示する列の選択。ギアアイコンをクリックし、[項目の選択]を選択します。矢印を使用して表示する列を3個以上選択します。次に、[保存]をクリックして変更を保存し、レポートまたはダッシュボードリストを表示します。

Select Fields to Display

Select the fields to display when viewing scopes for reports.

Available Fields	Visible Fields
Last Modified By	Report Name
Last Modified Date	Description
Report Last Run Date	Folder
	Created By
	Created On
	Subscribed

Buttons: Cancel, Save

関連トピック:

<https://success.salesforce.com/ideaView?id=08730000000BqWWAA0>

## Lightning Experience でのレポートおよびダッシュボードフォルダの整理

コンテンツの整理がさらに簡単になりました。サブフォルダを使用して、レポートおよびダッシュボードフォルダの論理構造をすばやく作成できます。地域、役割、機能、または合理的な任意の要素で整理できます。フォルダ間のコンテンツの移動も簡単になりました。

**対象:** これらの変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザ:**

- レポートのフォルダやサブフォルダを作成するには、「レポートフォルダの作成」ユーザ権限が必要です。
- ダッシュボードのフォルダやサブフォルダを作成するには、「ダッシュボードフォルダの作成」ユーザ権限が必要です。
- フォルダまたはサブフォルダの名前変更や削除を行うには、フォルダに対する「管理」アクセス権が必要です。
- 他のユーザとフォルダを共有するには、「管理」アクセス権が必要です。ルートフォルダのみを共有します。サブフォルダは、ルートフォルダから共有プロパティを継承します。

誰でもレポートやダッシュボードを移動できますが、更新アクセス権または編集アクセス権のあるフォルダおよびサブフォルダにのみ移動できます。

**理由:** レポートやダッシュボードをフォルダで整理している場合、サブフォルダがあれば非常に便利です。カスタマーサービス組織のレポートを作成するとします。営業と共有している売上レポートフォルダがすでにあるため、営業担当はどのような問題が発生しているのかを確認できます。ただし、各地域の営業担当は、各自

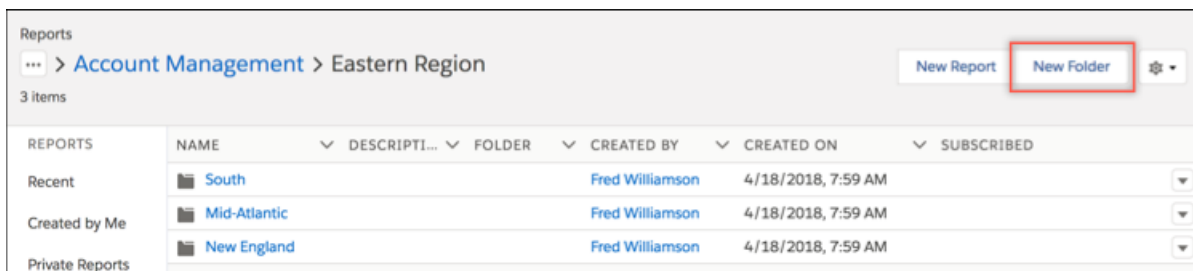
の地域の顧客のレポートのみを確認したいと思っています。必要なことは、売上フォルダに各地域のサブフォルダを作成することだけです。これで、各地域の営業担当には目的の情報のみが表示されます。

それだけではありません。フォルダ間でレポートやダッシュボードを簡単に移動できるようになりました。フォルダまたはサブフォルダを変更するためだけに、レポートやダッシュボードを開く必要はもうありません。レポートやダッシュボードの行レベルアクションの [移動] を選択するだけで済みます。

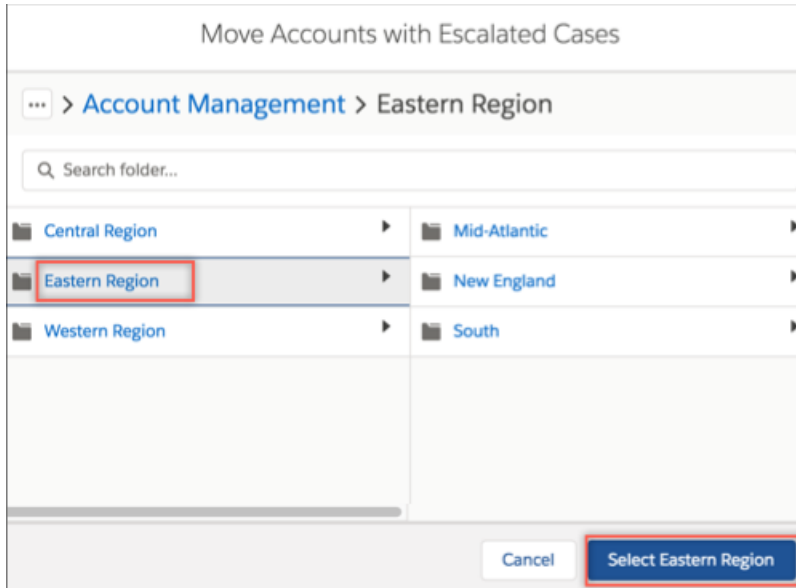
方法: フォルダおよびサブフォルダを操作するときは、次の点に留意してください。

- レポートやダッシュボードのフォルダおよびサブフォルダを使用するには、拡張フォルダ共有が有効になっている必要があります。
- サブフォルダは、ユーザが作成したフォルダでのみ作成できます。非公開フォルダまたは公開フォルダではサブフォルダを作成できません。
- フォルダ共有はルートレベルのみです。サブフォルダを共有するには、そのルートフォルダを共有する必要があります。
- 誰でもサブフォルダへのアクセス権があるユーザを確認できますが、共有設定を変更する場合は、ルートレベルで行う必要があります。

サブフォルダの作成は、フォルダの作成と同じです。サブフォルダを作成するレポートまたはダッシュボードフォルダに移動し、[新規フォルダ] をクリックします。フォルダに名前を付け、[保存] をクリックします。



あるフォルダに含まれているレポートまたはダッシュボードを別のフォルダに移動するにはどうすればよいでしょうか? [レポート] または [ダッシュボード] ページで、行レベルアクションメニューから [移動] を選択します。[フォルダを選択] ダイアログボックスが開きます。ここでは、保存先フォルダに移動して保存することができます。



最後に、サブフォルダの名前を変更したり、削除したりすることもできます。

レポートとダッシュボードのフォルダとサブフォルダを削除するときは、次のルールに留意してください。

- Lightning Experience では、空のリーフフォルダまたは空のフォルダツリーを削除できます。空のリーフフォルダとは、レポートやダッシュボードが含まれていない、サブフォルダのないフォルダを指します。空のフォルダツリーとは、ルートフォルダや他のどのサブフォルダにもレポートとダッシュボードが含まれていないツリーを指します。
- 空ではないフォルダを削除する場合は、そのフォルダにあるレポートまたはダッシュボードを別のフォルダに移動するか、レポートまたはダッシュボードを削除し、Salesforce Classic に切り替えて、削除したレポートとダッシュボードをごみ箱から削除します(現在 Lightning Experience ではごみ箱はサポートされていません)。

関連トピック:

<https://success.salesforce.com/ideaView?id=08730000000BrqLAAS>

## 登録: ダッシュボードの登録の拡張

レポートおよびダッシュボードに他のユーザを登録者として追加し、設定されたスケジュールで最新情報を自動的に共有できるようにします。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

このセクションの内容:

### Lightning Experience での他のユーザのダッシュボード登録の追加

月曜日午前8時の営業ミーティングで営業パイプラインのプレゼンテーションを行っています。SalesPipeline ダッシュボードの登録により、更新されたダッシュボードがメールで届いて確認する時間が十分にあるため、今週のプレゼンテーションの準備はできています。ただし、来週は不在の予定です。同僚が代理を引き受けることに同意しましたが、パイプラインのプレゼンテーションはどうすればよいでしょうか?心配は無用です。ダッシュボードの登録者として他のユーザを追加できるようになりました。追加したすべてのユーザは、設定したスケジュールに従って更新されたダッシュボードをメールで受信します。


## Lightning Experience での他のユーザのダッシュボード登録の追加

月曜日午前8時の営業ミーティングで営業パイプラインのプレゼンテーションを行っています。Sales Pipeline ダッシュボードの登録により、更新されたダッシュボードがメールで届いて確認する時間が十分にあるため、今週のプレゼンテーションの準備はできています。ただし、来週は不在の予定です。同僚が代理を引き受けることに同意しましたが、パイプラインのプレゼンテーションはどうすればよいでしょうか? 心配は無用です。ダッシュボードの登録者として他のユーザを追加できるようになりました。追加したすべてのユーザは、設定したスケジュールに従って更新されたダッシュボードをメールで受信します。

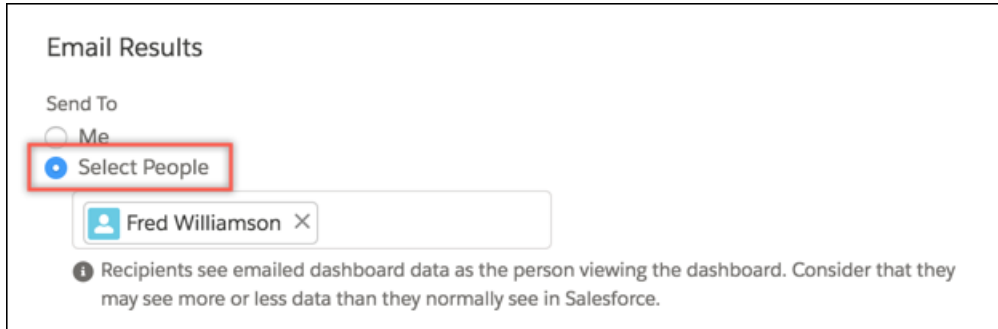
**対象:** これらの変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザ:** ダッシュボードに登録者を追加するには、「ダッシュボードへの登録:受信者の追加」ユーザ権限が必要です。

**理由:** 他のユーザを登録者として追加することは、定期的に更新されたダッシュボードを共有するのに最適な方法です。指定したすべてのユーザは、毎日、毎週、または毎月、同時に同じ情報と視覚化データを受け取ります。

**方法:** [ダッシュボード] ページで、ダッシュボード名の横にある  をクリックし、[登録] を選択します(行レベルアクション矢印を表示するには、右へのスクロールが必要な場合があります)。または、ダッシュボードを開いて [登録] をクリックすることもできます。

登録スケジュールを設定したら、[ユーザを選択] をクリックして登録者を追加します。自分はデフォルトで選択されていますが、他のユーザを追加したり、必要に応じて自分を削除することもできます。追加する他のユーザは、ダッシュボードの参照アクセス権を持っている必要があります。



ダッシュボードへの登録を準備するときは、次の考慮事項と割り当て数に注意してください。

- 組織の各ユーザは最大5つのダッシュボードに登録できます。
- 条件設定済みダッシュボードに登録できますが、ダッシュボード検索条件は、メールで送信されるダッシュボードに適用されません。
- [ダッシュボードのプロパティ]の[次のユーザとしてダッシュボードを参照:]設定でデータを[ダッシュボード閲覧者]として表示するように設定されているダッシュボードは、登録をサポートしません。このダッシュボードには登録できません。



## Einstein Analytics: Einstein Discovery のおすすめ、条件付き書式、複製のスケジュール

任意の Salesforce オブジェクトの Einstein Discovery 予測および推奨アクションを取得します。簡単に設定できるしきい値を使用して、ダッシュボードウィジェットの書式設定を自動的に更新します。接続ごとに複製をスケジュールして、さまざまなデータの更新のタイミングを制御します。

このセクションの内容:

### [Analytics オンボーディング、設定、パーソナライズ、コラボレーション: 学習リソースの増加、通知とアノテーションの機能強化](#)

準備して、さあ始めましょう! ウォークスルーや動画などの新しいオンボーディングリソースを使用すれば、Analytics を簡単に楽しく学習できます。コンテキストを認識する通知を使用して Analytics 環境をパーソナライズします。アノテーションの Chatter 投稿で、条件設定済みダッシュボードビューを共有してコラボレーションを行います。さらに、事前作成済み権限セットを使用して Analytics をすばやく設定します。

### [Analytics アプリケーションの構築: 条件付き書式、地図のカスタマイズ、ダッシュボードページ](#)

ダッシュボードで、条件付き書式が提供されるようになったため、現在の値に基づいてダッシュボードウィジェットの強調表示できます。数回クリックするだけで、カスタマイズされた地図を追加できます。正式リリースされたダッシュボードページ機能により、大きなダッシュボードがわかりやすくなり、ダッシュボードのパフォーマンスが向上します。

### [Analytics データインテグレーション: 新しいコネクタ、接続による複製のスケジュール、レシピへの行の追加](#)

より多くのデータソースに接続し、接続によって複製をスケジュールすることで、データの更新タイミングを詳細に制御します。さまざまなスキーマを持つデータセットをデータフローに追加し、行をレシピに追加します。

### [Analytics 事前作成済みアプリケーション: 新しい Analytics テンプレート、B2B Marketing Analytics の取引先ベースのマーケティング](#)

Analytics プラットフォームでの成功までの時間の短縮に役立つさまざまな Analytics テンプレートが事前作成済み Analytics アプリケーションに含まれるようになりました。取引先別にキャンペーンのパフォーマンスを分析できる B2B Marketing アプリケーションの新バージョンも含まれます。

### [Analytics モバイルアプリケーション: さまざまなグラフ、洗練されたテーブル](#)

iOS と Android 両方のデバイスで、より簡単に Analytics を外出先で使用できるようになりました。最新リリースでは、多数の新しいグラフの種類と、カスタマイズされたテーブルの書式がサポートされます。iOS と Android の両方で、その他多くの機能強化に加えて新規探索機能も使用できます。

### [Salesforce オブジェクトでの Einstein Discovery のおすすめ表示 \(正式リリース\)](#)

Einstein Discovery の予測機能を使用して、日々の業務の意思決定を改善します。いくつかの設定を行うことで、Einstein Discovery は結果を予測したり、選択した Salesforce オブジェクトの方策を推奨したりできます。

## Analytics オンボーディング、設定、パーソナライズ、コラボレーション: 学習リソースの増加、通知とアノテーションの機能強化

準備して、さあ始めましょう! ウォークスルーや動画などの新しいオンボーディングリソースを使用すれば、Analytics を簡単に楽しく学習できます。コンテキストを認識する通知を使用して Analytics 環境をパーソナライズします。アノテーションの Chatter 投稿で、条件設定済みダッシュボードビューを共有してコラボレーションを行います。さらに、事前作成済み権限セットを使用して Analytics をすばやく設定します。

このセクションの内容:

### 事前作成済み権限セットによる Analytics プラットフォームの設定の簡易化

すべての Analytics Platform ライセンスに含まれる 2 つの権限セットは、ほとんどの Analytics の使用事例に対応します。それらをユーザーに割り当てれば、残りは Salesforce に任せて、独自の権限セットを作成する必要はありません。

### ヘルプメニューと Analytics 体験アプリケーションからより多くのことを学ぶ

Analytics の新領域で作業するときは、ヘルプメニューをチェックしてください。動画 (ヘルプメニューから直接参照可能)、ウォークスルー、Einstein Analytics 学習マップなど、新しい学習リソースを見つけることができます。各領域のヘルプメニューでは、利用可能な場所やタイミングで主要情報が提供されます。

### ダッシュボードビューに通知から直接移動

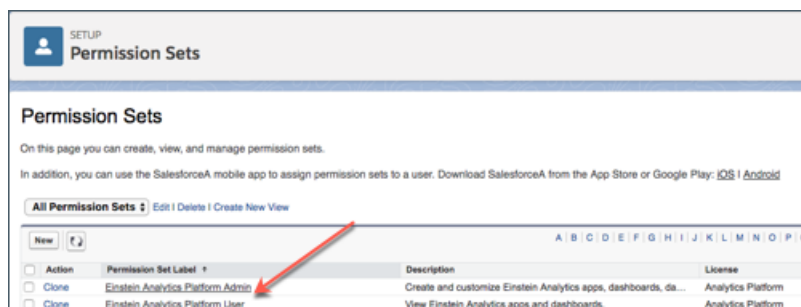
通知のリンクを使用して、通知に関連するダッシュボードビューに移動できるようになりました。これは、通知メール、通知マネージャ、または Analytics ホームページの [通知] セクションのタイル内のリンクで機能します。検索条件と選択内容が設定されたダッシュボードページがすぐに表示され、サイドパネルには通知の設定が表示されます。

### アノテーションを使用したダッシュボードビューの共有

拡張されたアノテーションを使用すると、Chatter 投稿に含まれているリンクで、投稿時の設定のままダッシュボードビューが開きます。また、関連する Chatter フィードと共にアノテーションパネルが開きます。アノテーションのリンクを同僚がクリックすると、すべての検索条件と選択内容が適用された状態でダッシュボードページが表示され、アノテーションパネルで簡単に対応できます。

## 事前作成済み権限セットによる Analytics プラットフォームの設定の簡易化

すべての Analytics Platform ライセンスに含まれる 2 つの権限セットは、ほとんどの Analytics の使用事例に対応します。それらをユーザーに割り当てれば、残りは Salesforce に任せて、独自の権限セットを作成する必要はありません。



**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザ:** 事前作成済み Analytics 権限セットを使用するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。

**理由:** 以前は、組織で Analytics を設定するには、権限セットライセンスを作成し、権限セットを作成してユーザに割り当てる必要がありました。その必要がなくなりました。事前作成済み権限セットを使用するだけです。

また、以前は Sales Analytics や Service Analytics などの Analytics アプリケーションを管理および使用するには、別の権限セットを作成する必要がありました。事前作成済み権限セットでは、同じプロセスを使用して Analytics プラットフォームと Analytics アプリケーションの権限を提供できます。そのため、事前作業とメンテナンス作業が軽減されます。

**方法:** Salesforce の [設定] に移動し、[ユーザ] を選択して [権限セット] を選択します。次に、ユーザのニーズに従って権限セットを選択して割り当てます。

- [Einstein Analytics Platform 管理者] には、Analytics の管理に必要なすべてのユーザ権限 (テンプレートとアプリケーションの作成および管理権限など) が含まれます。
- [Einstein Analytics Platform ユーザ] には、プラットフォームとアプリケーションの機能を使用する権限が含まれます。

引き続き既存の手順を使用して、固有のユーザ要件に対応する独自のカスタム権限セットを作成できます。完全な手順は、Salesforce ヘルプを参照してください。

## ヘルプメニューと Analytics 体験アプリケーションからより多くのことを学ぶ

Analytics の新領域で作業するときは、ヘルプメニューをチェックしてください。動画 (ヘルプメニューから直接参照可能)、ウォークスルー、Einstein Analytics 学習マップなど、新しい学習リソースを見つけることができます。各領域のヘルプメニューでは、利用可能な場所やタイミングで主要情報が提供されます。

**対象:** これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**理由:** ヘルプメニューに加えて、Einstein Analytics 学習体験アプリケーションからより多くのことを学びます。SAQL (Salesforce Analytics Query Language) に関する新しい資料を使用すれば、クエリのカスタマイズから謎がなくなります。

**Ask Complex Questions with SAQL**  
Learn how to write custom queries to answer complex questions

**Complex Features Made Simple**

Using the explorer to build lenses and dashboard widgets is intuitive and easy, but it has its limitations. Sometimes you need to ask more complex questions of your data. How do you do it? With the Salesforce Analytics Query Language (SAQL).

What is SAQL? You're probably already using it! When you build a dashboard using widgets, Einstein Analytics uses SAQL behind the scenes to fetch and process the data. When you're ready to build more sophisticated dashboards, you can use the SAQL editor to write your own queries.

What can you do with SAQL? Quite a lot. For example, you can compare data from two (or more!) datasets in a single chart. Or you can use statistical analysis to get a better understanding of your customer's purchasing patterns.

Click the categories on the left to walk through some common SAQL use cases and to learn how to write your own queries.

方法: ヘルプメニューは Analytics インストールに自動的に含まれています。AppExchange (<https://sfdc.co/zOqd5>) で Einstein Analytics 学習体験アプリケーション (無料) を入手してください。

## ダッシュボードビューに通知から直接移動

通知のリンクを使用して、通知に関連するダッシュボードビューに移動できるようになりました。これは、通知メール、通知マネージャ、または Analytics ホームページの [通知] セクションのタイル内のリンクで機能します。検索条件と選択内容が設定されたダッシュボードページがすぐに表示され、サイドパネルには通知の設定が表示されます。

**Opportunity Details**

Open Pipeline: 85.7M

1 in Opport...

119.2

Lost Opportu...

56.2M

Stage: Open | Won | Lost

Sales Rep: All | Oppty Type: New Busi... | Account: All | Close Date: 1/1/201...

Opportunity Amount

Stage: 01 - Pro... (23M), 02 - Qua... (23M), 03 - Nee... (16M), 04 - Val... (7M), 05 - Per... (7M), 06 - Pro... (7M), 07 - Neg...

New Business: 24M | Quota: 16M

Opportunity Amount over time: Aug (16M), Sep (32M), Oct (16M), Nov (8M), Dec (8M)

Won Opportunities

Active

Tracking on

Last modified on Yesterday at 8:55 PM

Notify me when

Sum of Amount

Equals 120,000,000

With these criteria

Filters: Won: Equals true, Close Date: 1/1/2016 - 12/31/2016, Opportunity Type: Equals New Business

Notify me only the first time conditions are met

At this time

Frequency: Every Weekday

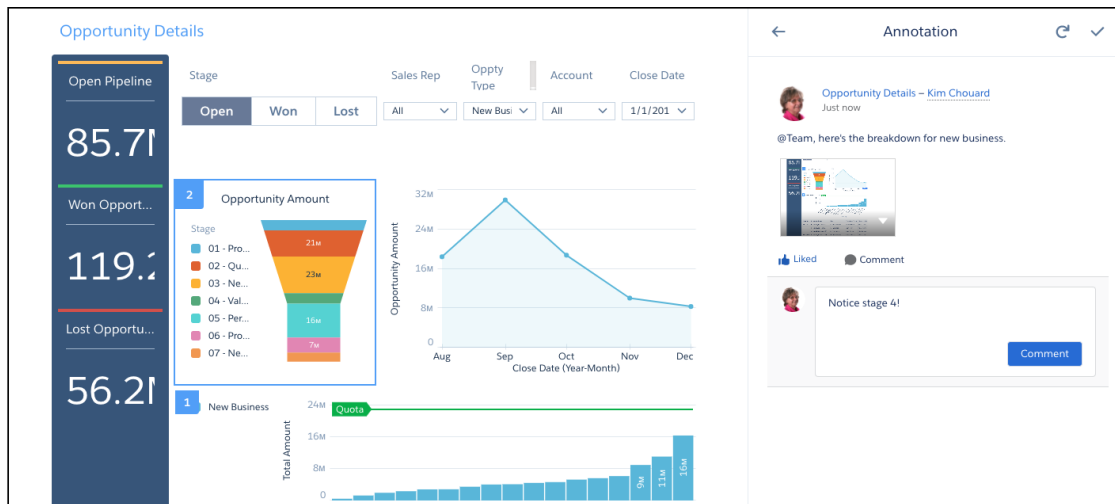
**対象:** この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**方法:** 通知およびダッシュボードビューの機能強化はデフォルトで有効になっています。保存済みビューを無効にするには、[設定] の [Analytics 設定] ページで [Wave ダッシュボード保存済みビューを有効化] をオフにします。

Analytics Studio の [分析] タブで、条件設定済みダッシュボードへのリンクを含む通知を保存できます。条件設定済みダッシュボードを開くリンクは、iOS の Analytics アプリケーションでサポートされます。

## アノテーションを使用したダッシュボードビューの共有

拡張されたアノテーションを使用すると、Chatter 投稿に含まれているリンクで、投稿時の設定のままダッシュボードビューが開きます。また、関連する Chatter フィードと共にアノテーションパネルが開きます。アノテーションのリンクを同僚がクリックすると、すべての検索条件と選択内容が適用された状態でダッシュボードページが表示され、アノテーションパネルで簡単に対応できます。



**対象:** この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**方法:** アノテーションを使用するには、システム管理者による設定が必要になります。ダッシュボードビューの機能強化は、デフォルトで有効になっています。無効にするには、[設定] の [Analytics 設定] ページで [Wave ダッシュボード保存済みビューを有効化] をオフにします。

条件設定済みダッシュボードへのリンクがあるアノテーションの投稿は、Analytics Studio および [分析] タブで使用できます。条件設定済みダッシュボードを開くリンクは、コミュニティの Analytics および Salesforce モバイル アプリケーションでサポートされています。

## Analytics アプリケーションの構築: 条件付き書式、地図のカスタマイズ、ダッシュボードページ

ダッシュボードで、条件付き書式が提供されるようになったため、現在の値に基づいてダッシュボードウィジェットを強調表示できます。数回クリックするだけで、カスタマイズされた地図を追加できます。正式リリースされたダッシュボードページ機能により、大きなダッシュボードがわかりやすくなり、ダッシュボードのパフォーマンスが向上します。

このセクションの内容:

### 対話形式のクエリの改善による探索用語の拡張 (ベータ)

1~2個の一般的な単語を使用するだけで、データクエリを開始して、自動的に設定されたグラフで回答を参照できます。対話形式の探索はまだベータですが、機能が大幅に強化され、使いやすくなっています。たとえば、複雑なセンテンスを解析できるようになり、基準やグループの数の制限がなくなっています。

### グラフのより簡単な特定

グラフをすばやく特定できるように、グラフギャラリーがグラフの種類に応じて8個のカテゴリに整理されるようになりました。また、ギャラリーが推奨グラフの横に移動され、この2つを切り替える時間が大幅に短縮されました。

### 比較テーブル列の別名のカスタマイズ

特に計算列を作成する場合や、SAQL 関数および数式で計算列を参照する場合、比較テーブル列で文字参照を使用すると混乱が生じる可能性があります。そこで役立つのがユーザ定義の列の別名です。システムデフォルトの列名を意味のある別名に置き換えれば、数式、バインド、SAQL クエリがすぐにわかりやすくなります。

### 条件付き書式を使用したデータの自動強調表示

データの重要な変化を見逃したために重要な決断が遅れるようなことは避けなければなりません。コードではなくクリックで、結果の書式を自動的に設定するルールを追加し、変更をすばやく確認して直ちにアクションを実行します。たとえば、CSAT スコアが80%を下回ったときに棒グラフの取引先を赤で強調表示して、これらの顧客に電話できるようにします。

### 大きなダッシュボードの分割によるパフォーマンス改善 (正式リリース)

コンテンツを複数のページに分割して、ダッシュボードに関する情報を簡単に理解できるようにします。複数のページを使用することで、ダッシュボードの動的な経路を作成し、ストーリーを伝えることができます。ページのレイアウトの仕方によっては、ページ間を移動するときに素晴らしい効果が生まれます。1ページのクエリ数が減少するため、ダッシュボードのパフォーマンスが向上します。

### 地図をズームインして地域に焦点を当てる

地図に表示される一部の地域では業務を行わない場合があります。必要に応じて、地図を編集して境界を変更し、特定の地域に焦点を当てることができます。

### 日付検索条件の迅速な追加

最適な日付検索条件機能がどのウィジェットでも同じように適用されるようになりました。日付ウィジェットとグローバル検索条件ウィジェットの両方で絶対日付、相対日付、プリセット日付を使用して絞り込むことができるようになりました。プリセットにより、静的ステップを定義して[今年]と[先月]の検索条件を作成する必要がなくなり、デフォルトで使用できるようになりました。日付ウィジェットでは、表示する日付(絶対日付、相対日付、プリセット日付)を指定することもできます。

### データセットのディメンション値の表示ラベルと色の変更

ディメンション値の表示ラベルとデフォルトの色を変更して、簡単に理解および特定できるようにします。表示ラベルを変更しても、データセットに保存されている基になるデータや項目のAPI参照名は変更されません。変更は、ユーザインターフェースの外観にのみ影響します。

### テーブルに表示されるデフォルトのデータセット項目の選択

デフォルト項目を選択してテーブルをカスタマイズします。たとえば、最も使用頻度の高い項目を特定の順序で表示します。デフォルトを設定しない場合、最初の5つの基準とディメンションがアルファベット順に選択されます。

### 同期されたアプリケーションのナビゲーションでアセットを整理

アプリケーション間でダッシュボードまたはレンズを移動すると、Analyticsは両方のアプリケーションのナビゲーションを自動的に更新します。アプリケーションからアセットを移動するか削除するかに関係なく、ナビゲーションパネルを開くと、ダッシュボードおよびレンズの更新済みリストが表示されます。

### REST API の更新

REST API と関連表現の最新の更新を確認してください。

### Analytics テンプレートルールファイルのテスト

テンプレートをリリースする前に新しいAPIエンドポイント `jsonxform/transformation` に対してAnalyticsテンプレートファイルをテストし、これらのファイルの作業を正確かつ確実にを行います。テンプレートがライブになるまで待たなくても、すべてのルールが適切に作成されていることを確認できるようになりました。

### Analytics グラフとダッシュボードのその他の機能強化

Analytics グラフの操作性の向上と、どのウィジェットタイプでも同じように基準に適用される一貫性を確認してください。

## 対話形式のクエリの改善による探索用語の拡張 (ベータ)

1～2個の一般的な単語を使用するだけで、データクエリを開始して、自動的に設定されたグラフで回答を参照できます。対話形式の探索はまだベータですが、機能が大幅に強化され、使いやすくなっています。たとえば、複雑なセンテンスを解析できるようになり、基準やグループの数の制限がなくなっています。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザ:** 実行中のアプリケーションやエクスプローラで対話形式のクエリを使用してデータを探索するには、「Analytics の使用」権限が必要です。ダッシュボードデザイナーで対話形式のクエリを使用してデータを探索するには、「Analytics ダッシュボードの作成と編集」権限が必要です。

**理由:** ガイド付きの対話により、データ探索のクリック数が減少し、入力支援が改善されました。新しい対話形式では、次のようなことが可能になります。

- クエリを基準で開始したり、クエリに基準を含めたりする必要がなくなりました。たとえば、「show me industries (業種を表示)」や「agent and case origin (エージェントおよびケース発生源)」のように入力できます。基準を指定しない場合、応答が行数で集計されます。
- 新しい検索条件や関数の用語(「関連しない」、「除外」、「次の値を含まない」、「変化率」など)を使用できます。

- 「revenue, percentage by agent, state, product (収益, エージェントごとのパーセント, 状態, 商品)」のように、複数の基準またはグループをカンマで区切って含めることができます。
- 「amount for industry equals (Agriculture, Banking, Communications) (業種の金額 次の文字列と一致する (農業, 銀行, 通信業))」のように、括弧を使用して複数のディメンション値で絞り込むことができます。

方法: この機能を有効にするには、[設定] の [Analytics 設定] ページで [対話形式の探索を有効化 (ベータ)] を選択します。これで、実行中のアプリケーション、エクスプローラ、ダッシュボードデザイナーで対話を使用できるようになります。

対話を開始するには、\* をクリックします。テキストボックスをクリックして提案を表示するか、各自のクエリの入力を開始します。




#### 関連トピック:

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

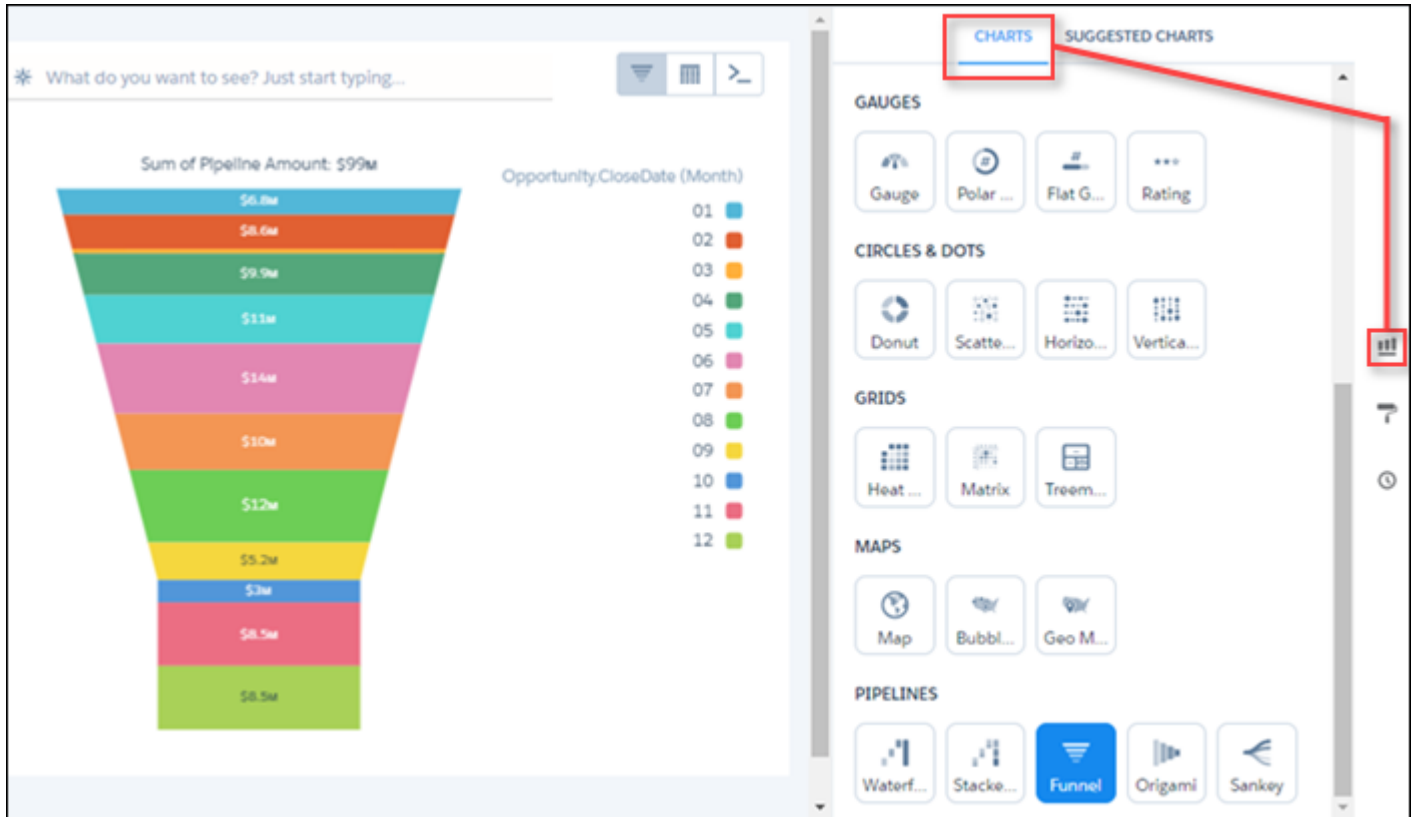
## グラフのより簡単な特定

グラフをすばやく特定できるように、グラフギャラリーがグラフの種類に応じて8個のカテゴリに整理されるようになりました。また、ギャラリーが推奨グラフの横に移動され、この2つを切り替える時間が大幅に短縮されました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition や、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の有料オプションで使用できます。

方法: ギャラリーからグラフを選択するか、推奨グラフを使用するには、クイックアクセスメニューの [グラフ] アイコン () をクリックします。





この変更により、ユーザはエクスプローラの[グラフモード]ボタンからグラフギャラリーにアクセスできなくなりました。

## 比較テーブル列の別名のカスタマイズ

特に計算列を作成する場合や、SAQL 関数および数式で計算列を参照する場合、比較テーブル列で文字参照を使用すると混乱が生じる可能性があります。そこで役立つのがユーザ定義の列の別名です。システムデフォルトの列名を意味のある別名に置き換えれば、数式、バインド、SAQL クエリがすぐにわかりやすくなります。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition や、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の有料オプションで使用できます。

**方法:** 列の別名を入力するには、列のアクションメニューから[この列を編集]をクリックします。[列を編集]ペインで、デフォルトの列の別名を選択した名前に置き換えます。完了したら、[適用]をクリックします。

	A	B
Forecast Category	Avg of Amount	Sum of Amount
Best Case	\$518,826	\$36,836,670
Closed	\$649,740	\$1,508,045,520
Commit	\$475,473	\$25,675,535
Omitted	\$660,281	\$492,569,849
Pipeline	\$666,770	\$514,746,311

EDITING COLUMN

Column Alias  
Enter an alias for column B...

Column Header  
Enter a column header...

Calculation  
Formula  $f(x)$

Functions Fields

Enter a column formula, for example (A\*100)/B...

Close Apply

- ☑ **メモ:** 比較テーブル数式では、デフォルトの列名またはユーザ定義の列の別名で列を参照するときに未加工項目名は使用できません。

## 条件付き書式を使用したデータの自動強調表示

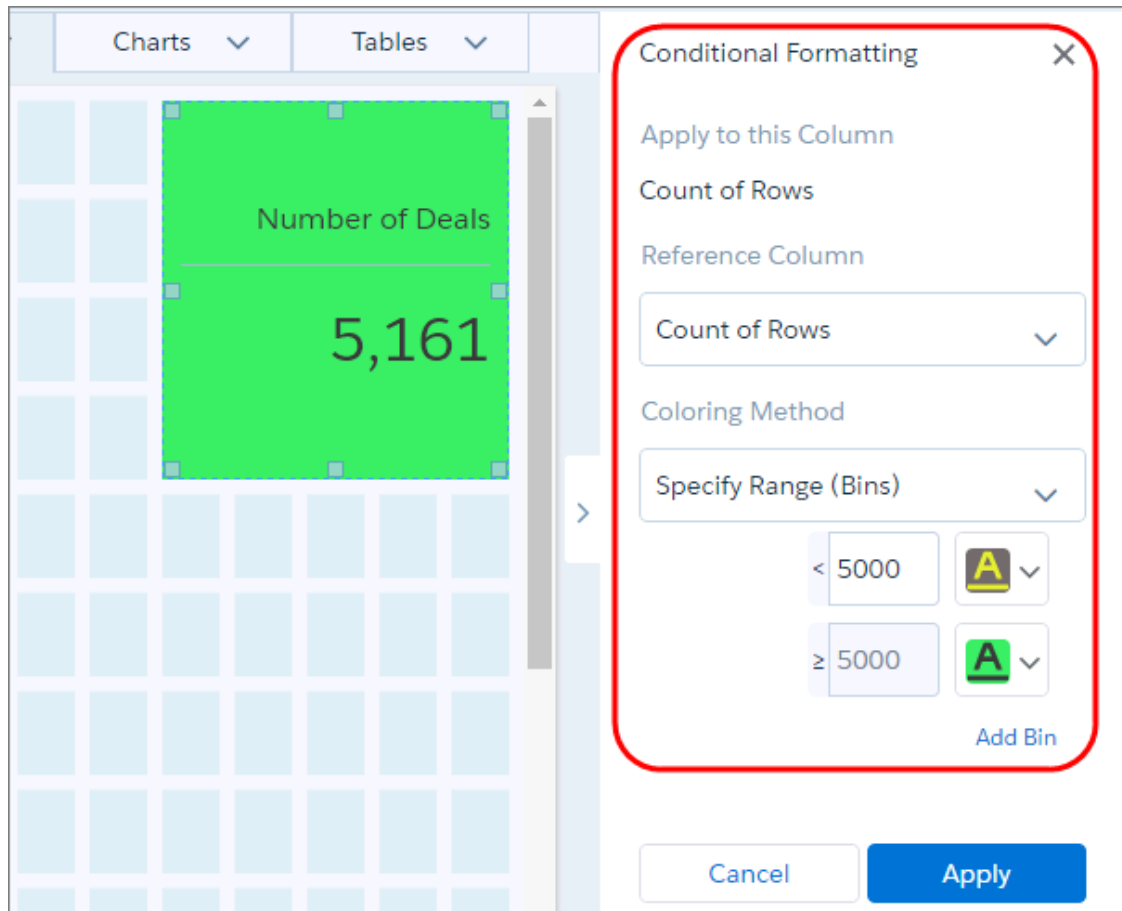
データの重要な変化を見逃したために重要な決断が遅れるようなことは避けなければなりません。コードではなくクリックで、結果の書式を自動的に設定するルールを追加し、変更をすばやく確認して直ちにアクションを実行します。たとえば、CSATスコアが80%を下回ったときに棒グラフの取引先を赤で強調表示して、これらの顧客に電話できるようにします。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics ダッシュボードデザイナー (Classic デザイナーではない) で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

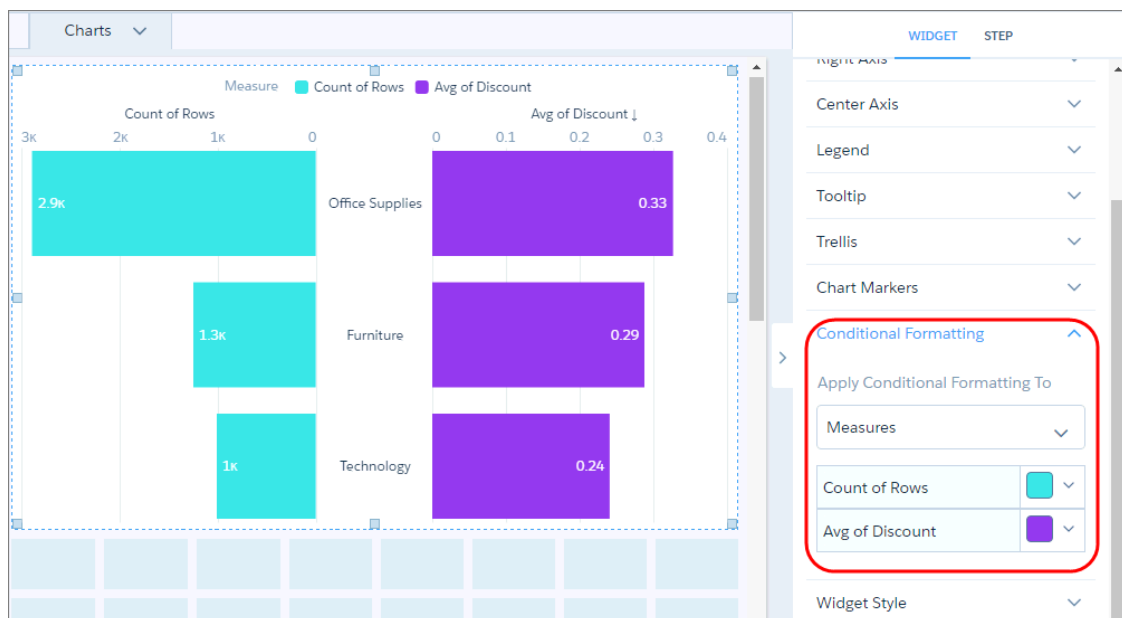
**理由:** ルールを使用して、ダッシュボードのグラフウィジェット、テーブルウィジェット、数値ウィジェットを自動的に強調表示します。指定した範囲と色に基づいて高い値と低い値を強調表示して各 KPI を完全に把握します。または、各基準またはディメンションの値 (グループ) を色分けして識別します。

たとえば、条件付き書式を適用して次の目的を達成できます。

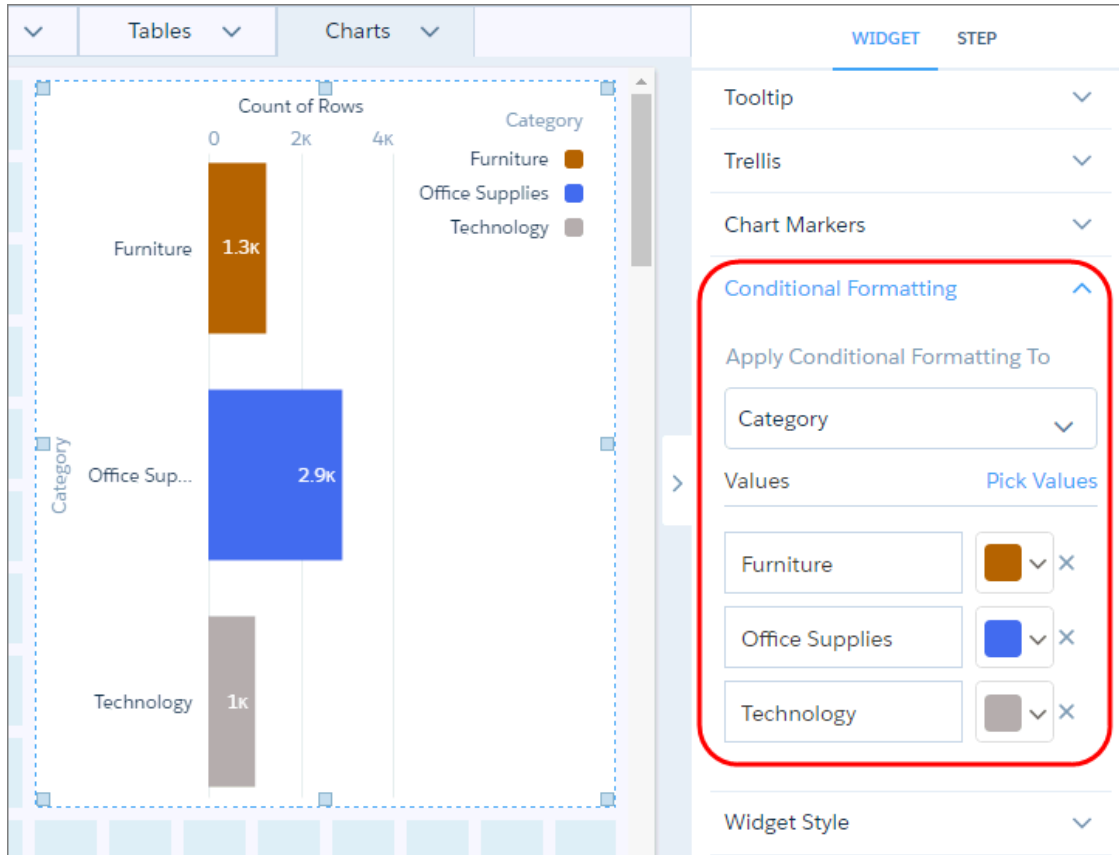
- 値に基づいて数値ウィジェットに色を付けて、特定の KPI に関する進捗状況を判断する。



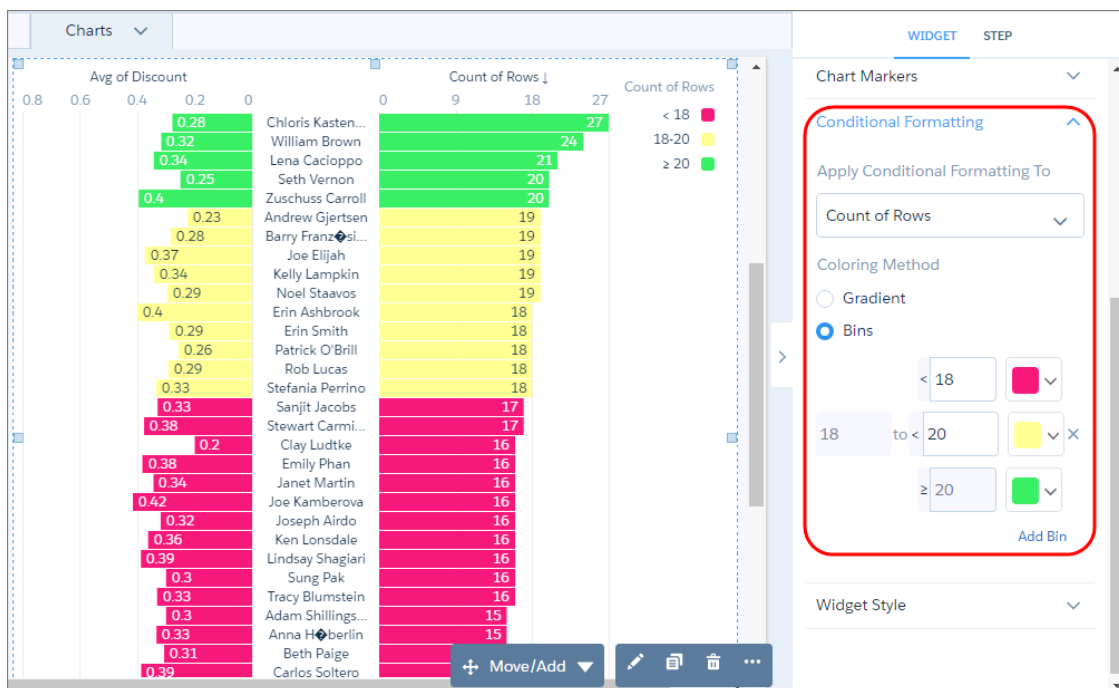
- 固有の色でグラフの各基準を識別する。



- 同様に、各ディメンション値を識別する。



- 数値をカラーピンに分類して、パフォーマンス上位のメンバーとパフォーマンスが下位のメンバーを判別する。最大10件のピンを追加できます。



- 列のセルのテキストまたは背景を色分けして、重要なテーブルレコードに焦点を当てる。次の例では、[セールス]列の値に基づいて[顧客名]列に色が付けられています。

The screenshot shows a table with 9 rows and 5 columns. The 'Sales' column has values ranging from 15 to 95. The 'Customer Name' column has names like Sean O'Don..., Brosina Hoff..., Andrew Allen, Irene Maddox, and Harold Pawlan. The cells in the 'Customer Name' column are colored based on the 'Sales' value: Sean O'Don... (yellow), Sean O'Don... (red), Brosina Hoff... (yellow), Brosina Hoff... (red), Brosina Hoff... (green), Brosina Hoff... (yellow), Andrew Allen (red), Irene Maddox (yellow), and Harold Pawlan (red).

The 'Conditional Formatting' dialog box is open, showing the following configuration:

- Apply to this Column: Customer Name
- Reference Column: Sales
- Coloring Method: Specify Range (Bins)
- Bin 1: < 200 (Red)
- Bin 2: 200 to < 1000 (Yellow)
- Bin 3: ≥ 1000 (Green)

方法:ウィジェットプロパティパネルで条件付き書式を設定します。テーブルのウィジェットプロパティの[列]タブで、書式設定する列を選択し、書式設定に使用するルールを設定します。

The screenshot shows the 'Column' tab of the widget properties panel. The 'Conditional Formatting' section is highlighted, showing the following configuration:

- Choose Column: Customer Name
- Show Data As: Text
- Text Alignment: Left
- Text Style: Regular
- Conditional Formatting: Sales (3 bins: 200, 1000)

条件付き書式はソースステップに適用され、ウィジェットまたはグラフの種類が変更されても保持されます。条件付き書式は、データセットのXMDのディメンション値に設定された色を上書きします。

数値ウィジェットやテーブルウィジェットの複数の参照列に基づいて複雑なルールを設定するには、SAQLを使用します。SAQL クエリでは、ルールを定義して新しい列に色を出力します。色を16進数コード(#CCCC00など)またはRGB色コード(rgb(255,255,255)やrgba(255,255,255,0)など)で指定します。たとえば、次のクエリではルールを指定して、各条件の16進数の色コードを「FormatColor」列に出力しています。

```
"query": "q = load \"Sample_Superstore_with_Goals\";\nresult = group q by 'Segment';\nresult = foreach result generate\n  q.'Segment' as 'Segment',\n  sum(q.'Discount') as 'Discount',\n  sum(q.'Profit') as 'Profit',\n  sum(q.'Quantity') as 'Quantity',\n  sum(q.'Sales') as 'Sales',\n  (case\n    when Segment == \"Consumer\" and sum(q.'Discount') >= 1000 then \"#008000\"\n    when Segment == \"Consumer\" and sum(q.'Discount') < 1000 then \"#CCCC00\"\n    when Segment == \"Corporate\" and sum(q.'Discount') >= 500 then \"#008000\"\n    when Segment == \"Corporate\" and sum(q.'Discount') < 500 then \"#CCCC00\"\n    when Segment == \"Home Office\" and sum(q.'Discount') >= 200 then \"#008000\"\n\n    when Segment == \"Home Office\" and sum(q.'Discount') < 200 then \"#CCCC00\"\n\n    else \"#000000\" end) as 'FormatColor';\nresult = order result by ('Sales' desc);\nresult = limit result 2000;";
```

色をウィジェットに適用するには、ウィジェットプロパティの[参照列]プロパティで新しい色の列(「FormatColor」)を選択し、[色付け方法]オプションで[参照列に色を使用]を選択します。

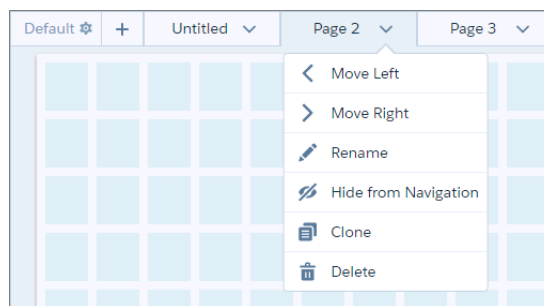
- メモ:** 以前のリリースでは、グラフの色付けオプションがウィジェットプロパティのさまざまなセクションで設定されていました。たとえば、ヒートマップの色付けオプションは、[ヒートマップ]セクションで設定していました。Summer '18以降、これらは[条件付き書式]セクションで設定します。

## 大きなダッシュボードの分割によるパフォーマンス改善 (正式リリース)

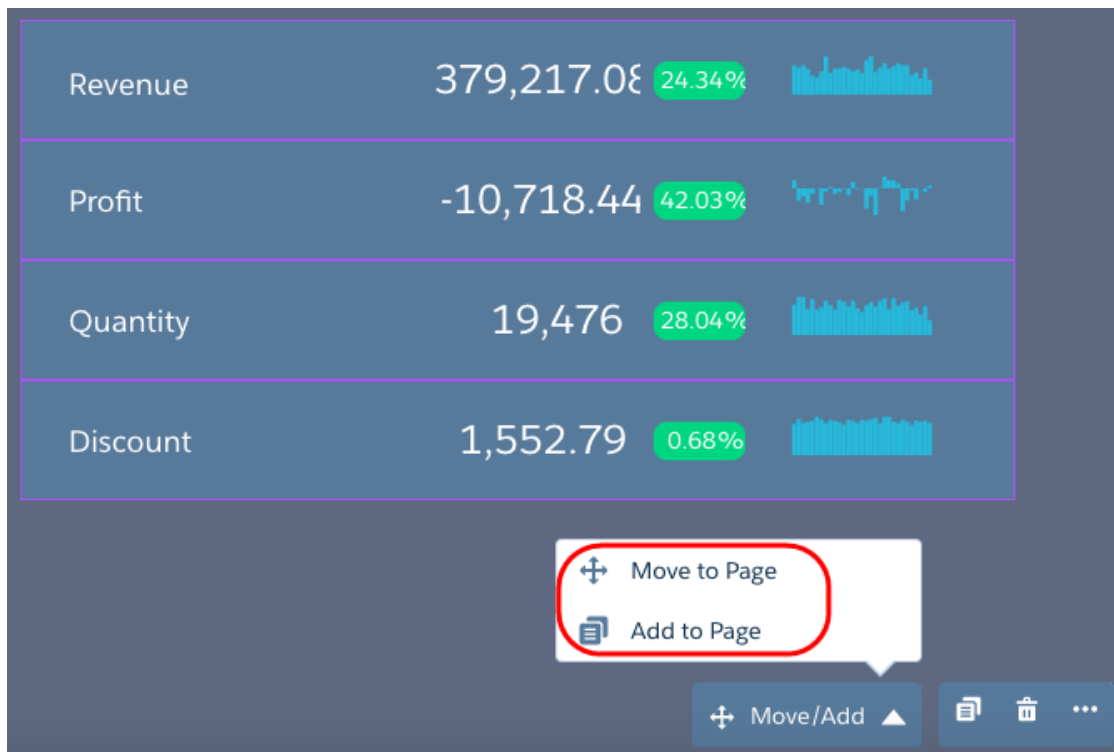
コンテンツを複数のページに分割して、ダッシュボードに関する情報を簡単に理解できるようにします。複数のページを使用することで、ダッシュボードの動的な経路を作成し、ストーリーを伝えることができます。ページのレイアウトの仕方によっては、ページ間を移動するときに素晴らしい効果が生まれます。1ページのクエリ数が減少するため、ダッシュボードのパフォーマンスが向上します。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**方法:** Summer '18 で作成された各ダッシュボードには1つのタイトル未定のページがあります。+ をクリックすると、別のページが追加されます。各ページは個別のタブとして表示されます。1ダッシュボードあたり20ページまで追加できます。ページを設定する(名前を変更したり、ユーザがダッシュボードを表示したときにナビゲーションウィジェットに表示されないようにしたりするには、ページの横にある ▼ をクリックします。



ウィジェットは、ダッシュボードのページにまたがり移動および共有できます。ウィジェットを選択して別のページに追加すると、同じウィジェットのインスタンスがそのページに追加されます。基本的にウィジェットは両方のページで共有されるため、簡単に管理できます。



ダッシュボード閲覧者が他のページに移動できるようにするには、ナビゲーションウィジェットをページに追加します。



すべてのページのナビゲーションを有効にする場合、ページのナビゲーションウィジェットを選択し、[ページに追加] アクションを使用して、他のページに追加します。[ページに追加] を使用すると、ウィジェットに設定したすべてのスタイル設定プロパティが全ページに反映されます。それ以外の場合は、ウィジェットごとに独自のスタイルが設定されます。



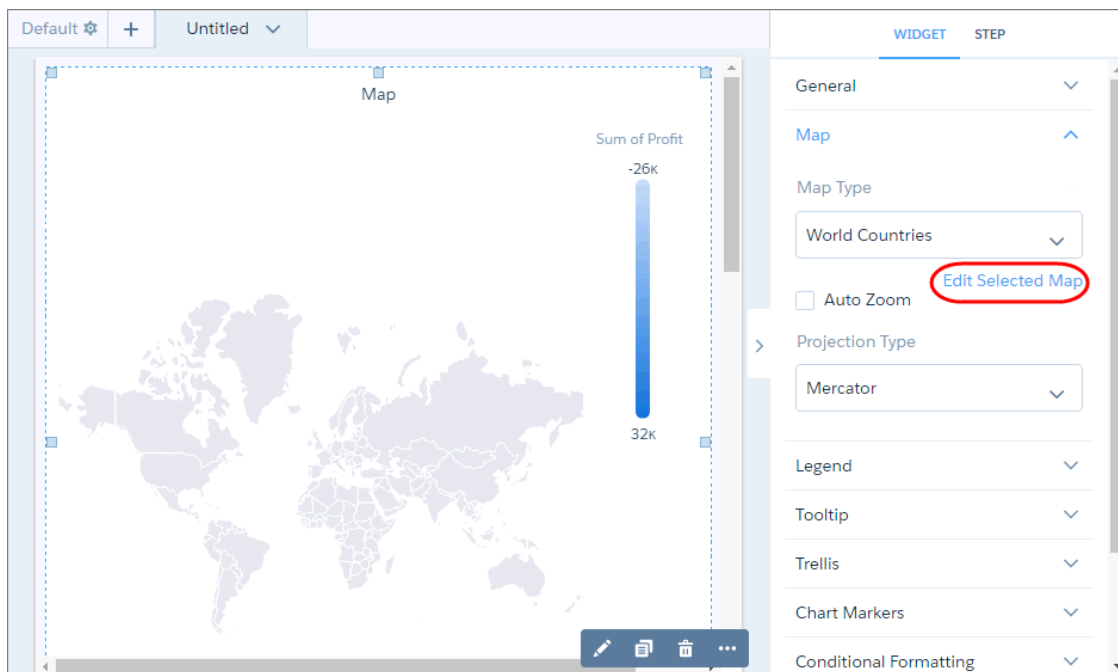
ページは、作成されたときのレイアウトに適用されます。別のレイアウトを開き、ページを追加します。モバイルレイアウトにナビゲーションウィジェットが追加されていない場合、Einstein Analytics モバイルアプリケーションユーザーはスワイプしてページをトラバースできます。ナビゲーションウィジェットが存在する場合、スワイプは無効になります。

## 地図をズームインして地域に焦点を当てる

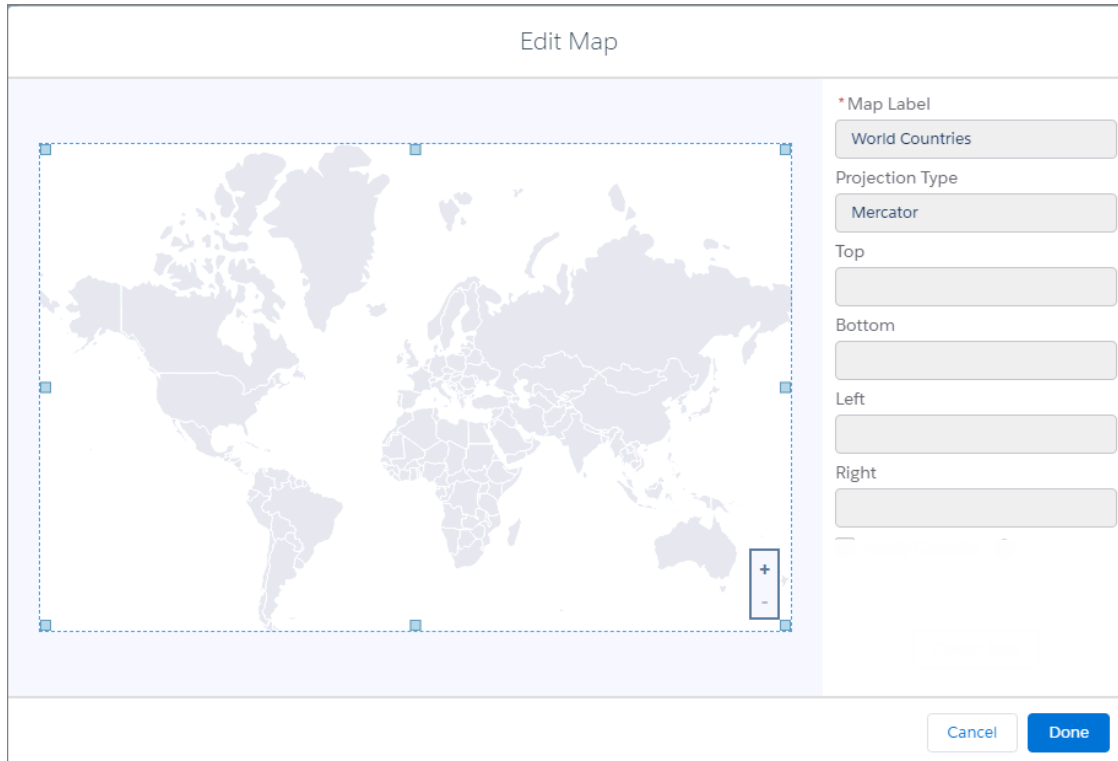
地図に表示される一部の地域では業務を行わない場合があります。必要に応じて、地図を編集して境界を変更し、特定の地域に焦点を当てることができます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**方法:** 地図ウィジェットを選択し、地図の種類を選択して [選択した地図を編集] をクリックします。



地図のハンドルをドラッグして境界を変更したり、特定の地域にズームインしたりします。

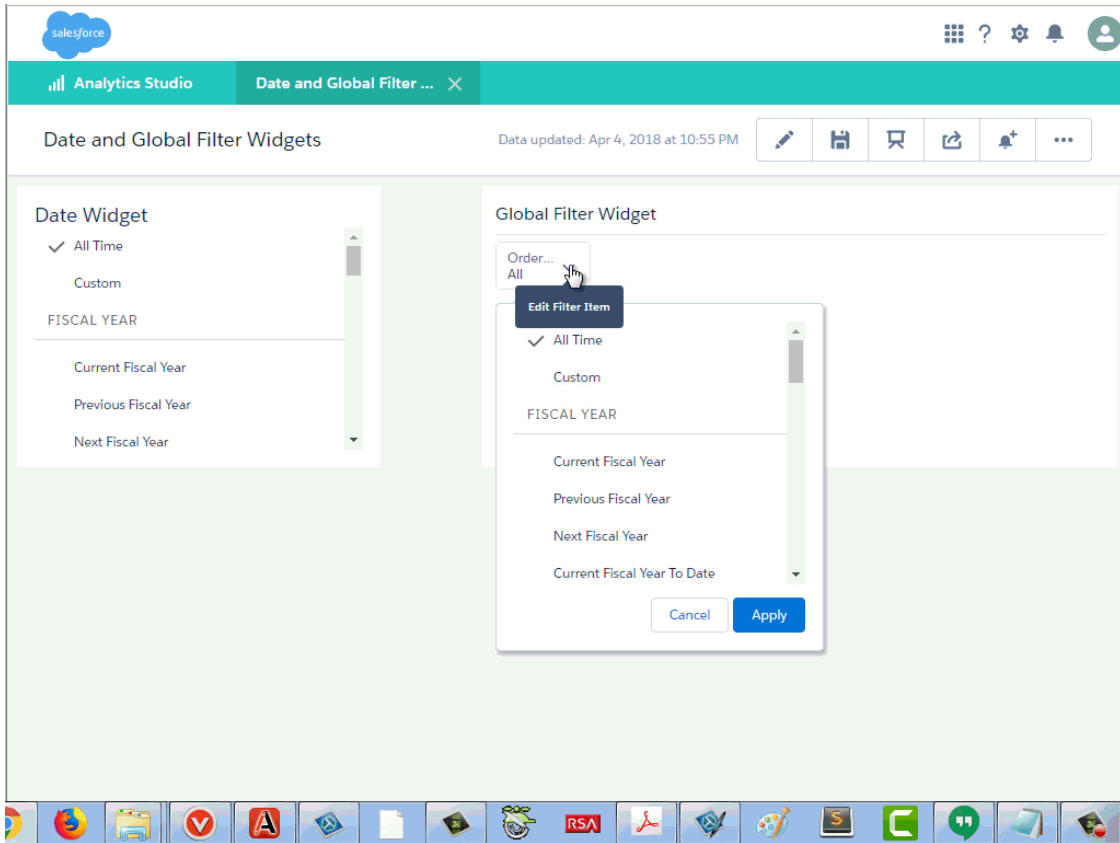


## 日付検索条件の迅速な追加

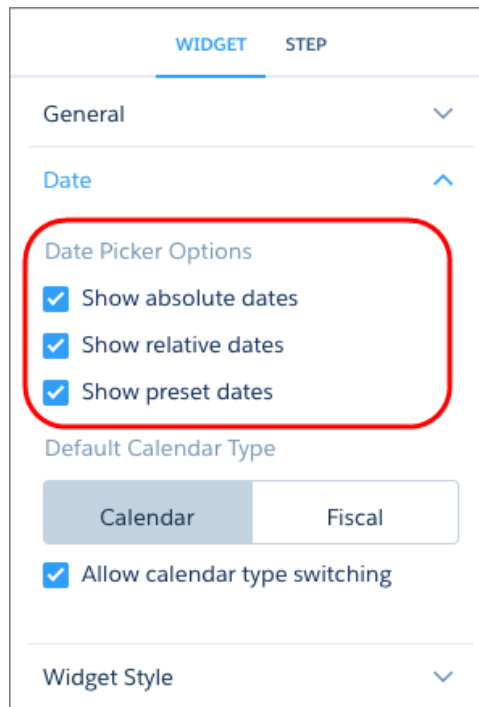
最適な日付検索条件機能がどのウィジェットでも同じように適用されるようになりました。日付ウィジェットとグローバル検索条件ウィジェットの両方で絶対日付、相対日付、プリセット日付を使用して絞り込むことができるようになりました。プリセットにより、静的ステップを定義して[今年]と[先月]の検索条件を作成する必要がなくなり、デフォルトで使用できるようになりました。日付ウィジェットでは、表示する日付(絶対日付、相対日付、プリセット日付)を指定することもできます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**理由:** 日付ウィジェットとグローバル検索条件ウィジェットは類似しており、簡単に日付検索条件を適用できます。



方法: 日付ウィジェットの場合、ユーザがダッシュボードを表示するときに絶対日付、相対日付、プリセット日付を表示または非表示にするようにウィジェットプロパティを設定します。



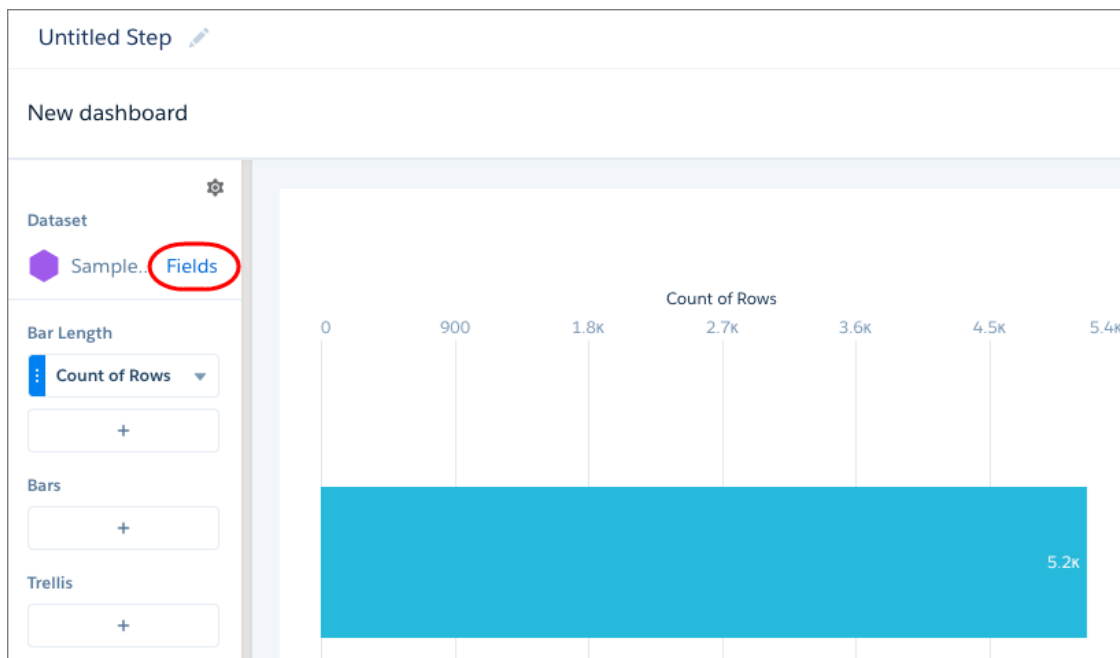
以前のリリースとは異なり、日付ウィジェットで絶対日付または相対日付をデフォルトのモードとして設定して表示することができなくなりました。今回のリリースでは、絶対日付と相対日付を有効にすると、デフォルトで絶対日付が表示されます。デフォルトで相対日付を表示するには、相対日付に基づいて初期選択内容を設定します。

## データセットのディメンション値の表示ラベルと色の変更

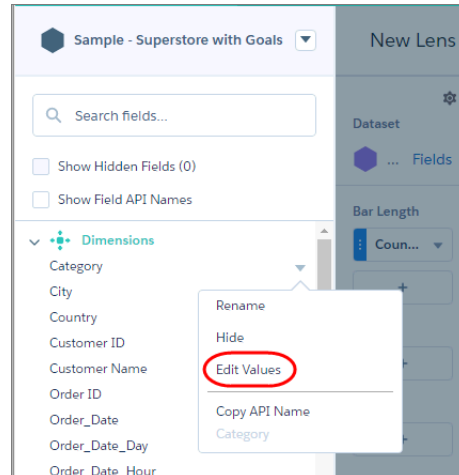
ディメンション値の表示ラベルとデフォルトの色を変更して、簡単に理解および特定できるようにします。表示ラベルを変更しても、データセットに保存されている基になるデータや項目のAPI参照名は変更されません。変更は、ユーザインターフェースの外観にのみ影響します。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

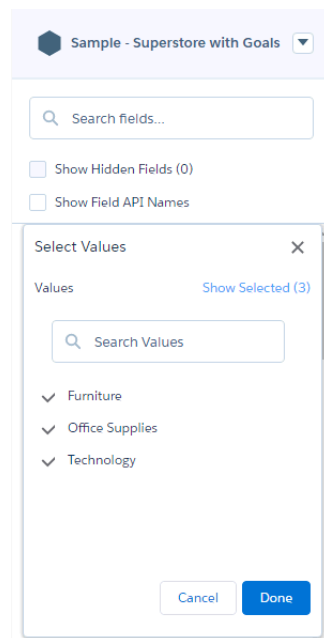
**方法:** レンズとしてデータセットを探索したり、ダッシュボードデザイナーでステップを作成したりしているときに [項目] をクリックします。



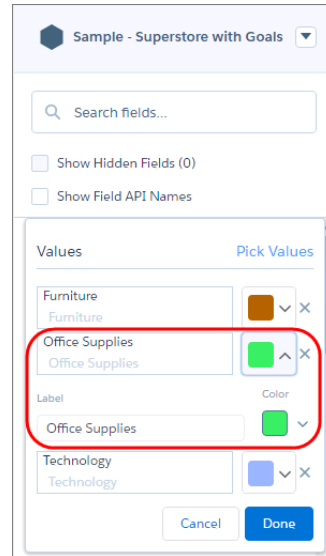
ディメンションの横にあるドロップダウン矢印をクリックし、[値の編集] を選択します。



編集するディメンション値を選択し、[完了]をクリックします。



各ディメンション値のデフォルトの色と表示ラベルを変更できます。



[保存] をクリックして変更を保存します。

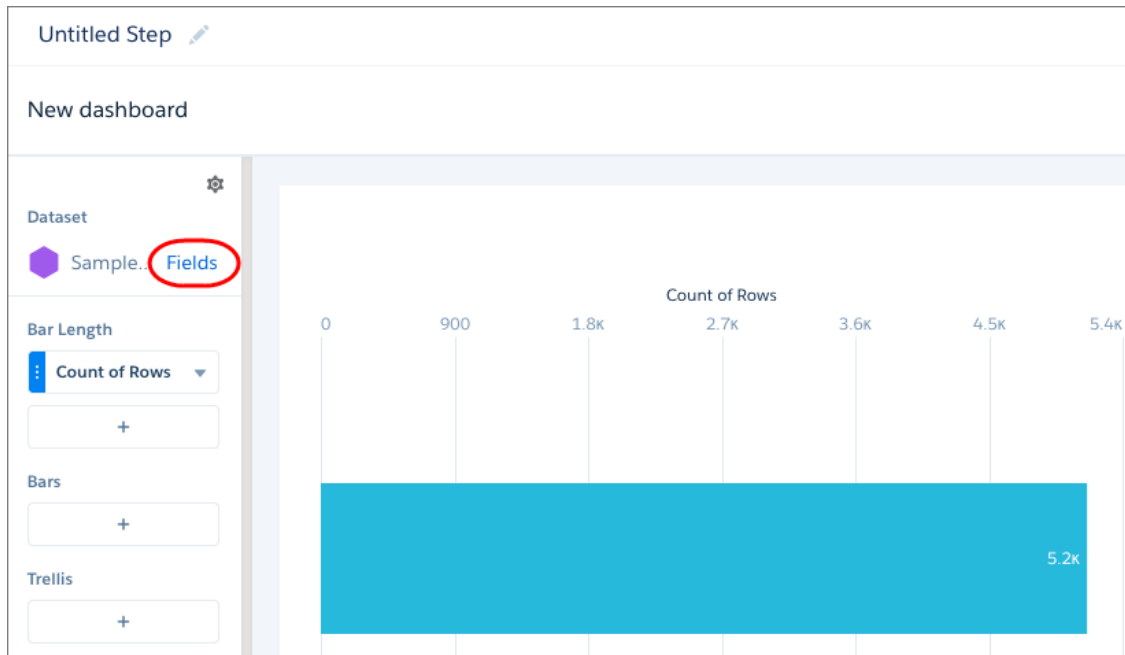
- 📌 **メモ:** これらの変更は、データセットレベルで行われるため、このディメンションを使用するすべてのグラフとテーブルに影響します。ただし、グラフのウィジェットプロパティで条件付き書式を設定して、特定のグラフのデフォルトの色を上書きできます。

## テーブルに表示されるデフォルトのデータセット項目の選択

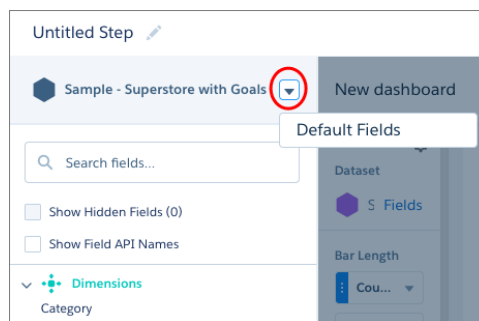
デフォルト項目を選択してテーブルをカスタマイズします。たとえば、最も使用頻度の高い項目を特定の順序で表示します。デフォルトを設定しない場合、最初の5つの基準とディメンションがアルファベット順に選択されます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

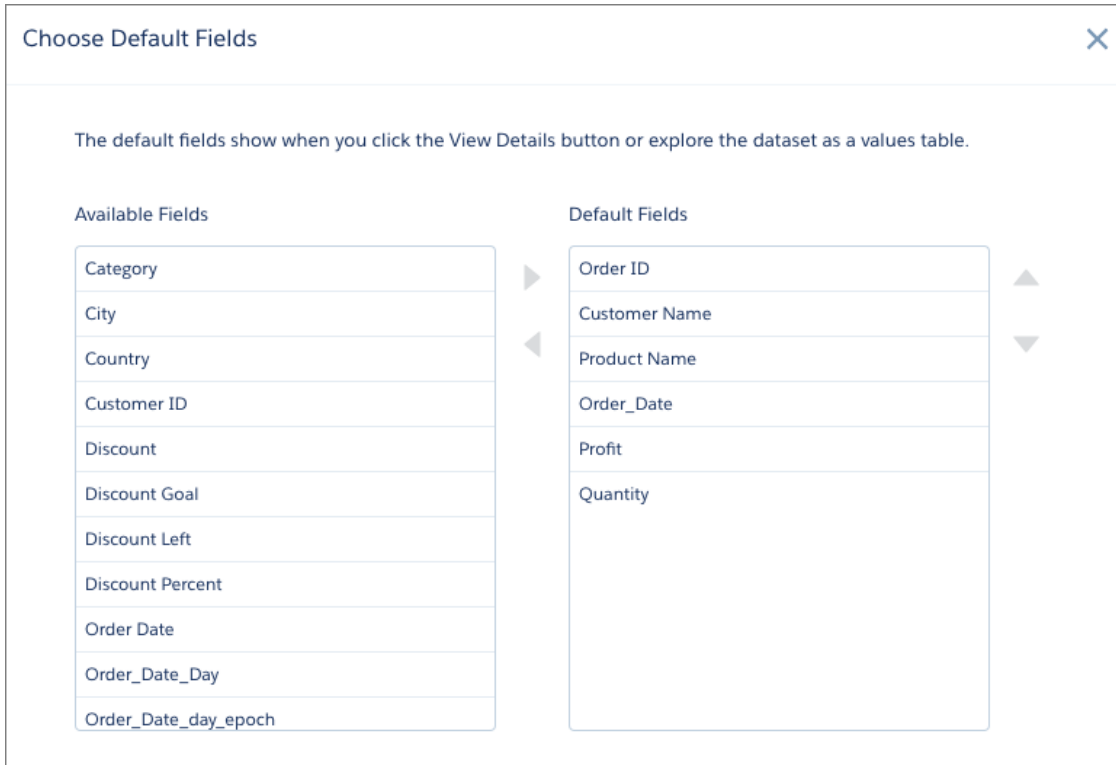
**方法:** レンズとしてデータセットを探索しているときに [項目] をクリックします。



データセット名の横にあるドロップダウン矢印をクリックし、[デフォルト項目]を選択します。



デフォルトで表示される項目を選択し、上下矢印を使用して並び替え、[更新]をクリックします。

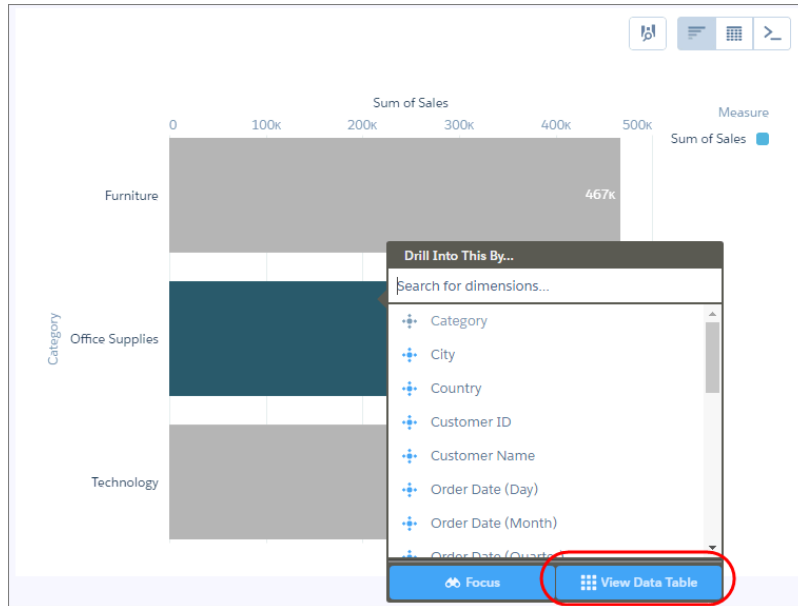


値テーブルとしてデータセットを開くと、選択した項目が指定の順序で表示されます。

#	Order ID	Customer Name	Product Name	Order Date	Profit
1	US-2015-108966	Sean O'Donnell	Bretford CR4500 Series Slim Rectangular Table	10/11/15	-383.03
2	US-2015-108966	Sean O'Donnell	Eldon Fold 'N Roll Cart System	10/11/15	2.5
3	CA-2014-115812	Brosina Hoffman	Mitel 5320 IP Phone VoIP phone	6/9/14	90.72
4	CA-2014-115812	Brosina Hoffman	DXL Angle-View Binders with Locking Rings by Sa...	6/9/14	5.8
5	CA-2014-115812	Brosina Hoffman	Chromcraft Rectangular Conference Tables	6/9/14	85.31
6	CA-2014-115812	Brosina Hoffman	Konfel 250 Conference phone Charcoal black	6/9/14	68.36
7	CA-2017-114412	Andrew Allen	Xerox 1967	4/15/17	5.4
8	CA-2016-161389	Irene Maddox	Fellowes PB200 Plastic Comb Binding Machine	12/5/16	132.59
9	US-2015-118983	Harold Pawlan	Holmes Replacement Filter for HEPA Air Cleaner, ...	11/22/15	-123.86
10	US-2015-118983	Harold Pawlan	Storex DuraTech Recycled Plastic Frosted Binders	11/22/15	-3.8
11	CA-2014-143336	Zuschuss Donatelli	Cisco SPA 501G IP Phone	8/27/14	16.01

[データテーブルを表示] をクリックして表形式でデータを表示すると、同じテーブル列と順序が表示されます。





## 同期されたアプリケーションのナビゲーションでアセットを整理

アプリケーション間でダッシュボードまたはレンズを移動すると、Analytics は両方のアプリケーションのナビゲーションを自動的に更新します。アプリケーションからアセットを移動するか削除するかに関係なく、ナビゲーションパネルを開くと、ダッシュボードおよびレンズの更新済みリストが表示されます。



**対象:** この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

## REST API の更新

REST API と関連表現の最新の更新を確認してください。

**対象:** この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**理由:** 新しいエンドポイントと更新されたエンドポイントにより、データコネクタ、フォルダ、レンズを操作できます。

`/wave/dataConnectors/<connector ID>/ingest`

接続で設定されている取り込みオブジェクトのリストを返します。

`/wave/assets/<asset ID>/xmds/asset`

レンズやダッシュボードなどのアセットに関連付けられた拡張メタデータ (XMD) を返します。

`/wave/folders` および `/wave/folders/<folder ID>`

新しい Boolean パラメータ `mobileOnlyFeaturedAssets` があります。このパラメータを `true` に設定すると、Einstein Analytics モバイルアプリケーションで有効になっているダッシュボードのみが表示されます。

`/wave/lenses/<lens ID or API Name>`

複数のデータセットをサポートするためにレンズの表現が更新され、レンズで使用されるデータセットのリストである `datasets` プロパティが含まれるようになりました。古い `dataset` プロパティは廃止されました。

`/wave/query`

行数メタデータが含まれるように SAQL クエリエンドポイントが変更されました。更新されたメタデータ形式を使用するには、最新バージョンの API を使用するようにコードを更新します。

ダッシュボードおよびエクスペローラにいくつかの変更が適用されます。

- グラフ、テーブル、数値の条件付き書式。
- 新しいページナビゲーションウィジェット、およびページを非表示にする機能。
- 日付ウィジェットの改善。
- カスタム名を設定できるようになった比較テーブルステップ。この名前は数式、バインド、ルックアップで使用できます。

## Analytics テンプレートルールファイルのテスト

テンプレートをリリースする前に新しい API エンドポイント `jsonxform/transformation` に対して Analytics テンプレートファイル进行测试し、これらのファイルの作業を正確かつ確実に実行します。テンプレートがライブになるまで待たなくても、すべてのルールが適切に作成されていることを確認できるようになりました。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザ:** Analytics テンプレートを開発するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。

**理由:** テンプレートをリリースする前に `jsonxform/transformation` に対して Analytics テンプレートの `template-to-app-rules.json` ファイル进行测试することで、これらのファイルの作業を正確かつ確実に実行できます。テンプレートがライブになるまで待たなくても、すべてのルールが適切に作成されていることを確認できるようになりました。

ルールファイルでは、テンプレートが従うルールを定義します。たとえば、組織で特定の Salesforce オブジェクトを使用しない場合にアプリケーションでそれらのオブジェクトをデータフローに含めないということをルー

ルで指定できます。ルールでは、変数の処理方法も定義します。たとえば、テンプレートウィザードでアプリケーションに含める取引先項目を尋ねる場合、`template-to-app-rules.json` で、その選択内容がどのようにダッシュボードに反映されるのかを決定します。

方法: `jsonxform/transformation` を使用するには、ワークベンチにログインし、バージョン 43.0 以上を使用していることを確認します。次に、`post` コールを実行します。ルールが機能していれば、`Jsonxform/transformation` から結果が返されます。機能していなければ、ルールを修正するためのガイダンスと共にエラーが表示されます。

たとえば、指定されたトークンを使用する `post` コールについては、『*Analytics テンプレート開発者ガイド*』の付録を参照してください。

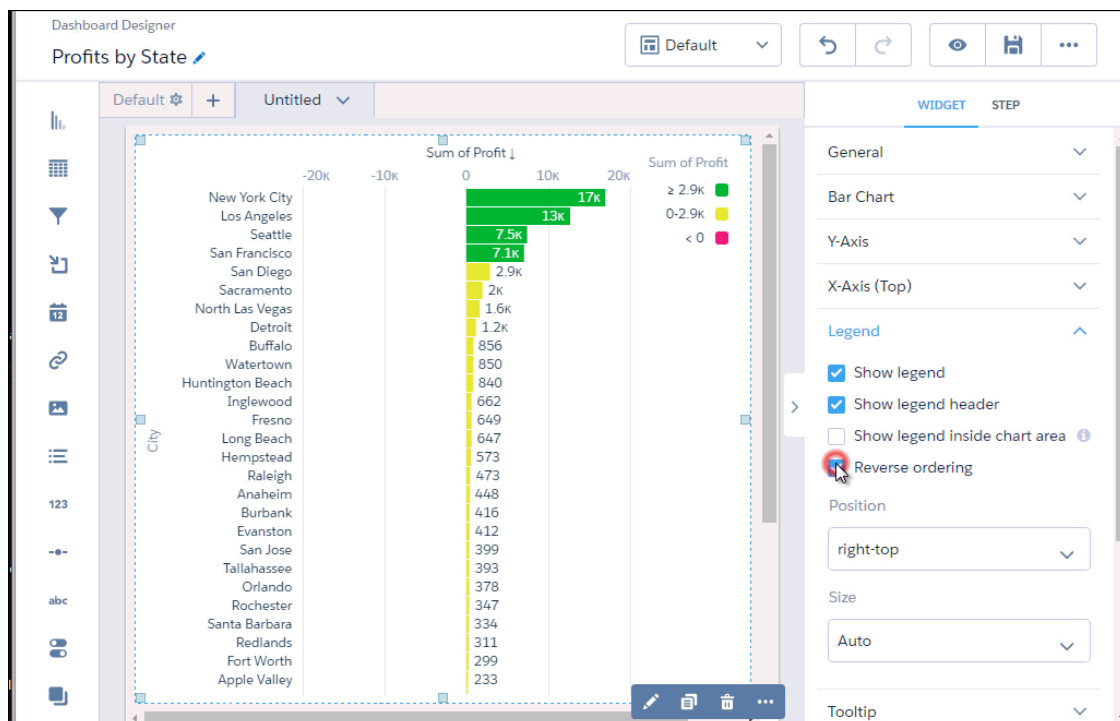
## Analytics グラフとダッシュボードのその他の機能強化

Analytics グラフの操作性の向上と、どのウィジェットタイプでも同じように基準に適用される一貫性を確認してください。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 次の改善はお客様のご要望により追加されました。Analytics をさらに活用するために役立ちます。

- 凡例の順序を逆にします。



- カスタム形式が適用されていない限り、数値ウィジェットとテーブルウィジェットでデフォルトの基準形式 `#####` が使用されるようになりました。複数のレベルでカスタム形式を適用すると、最も高いレベルで設定された形式が Analytics で適用されます。次の優先順位 (高い順) を考慮してください。

1. 数値ウィジェットのプロパティ ([数値を短縮] など) で設定された形式
  2. 比較テーブル列の編集集中に設定された形式
  3. エクスプローラのデータセット項目 (またはデータセットの XMD) に設定された形式
  4. デフォルトの基準形式 #####
- SAQL および SOQL ステップ種別のメタデータ JSON プロパティ (numbers、groups、strings) をバインドできるようにになりました。たとえば、切り替えの選択に基づいて基準をバインドする場合、numbers メタデータプロパティの基準をバインドすることもできます。次の例では、SAQL ステップ種別の空のメタデータプロパティを示しています。

```
"saql": {
  "type": "saql",
  "query": "q = load \"Superstore\";\n
           q = group q by 'Category';\n
           q = foreach q generate 'Category' as 'Category', count() as 'count';\n
           q = order q by 'Category' asc;\n
           q = limit q 2000;",
  "selectMode": "none",
  "broadcastFacet": false,
  "receiveFacet": false,
  "useGlobal": true,
  "numbers": [],
  "groups": [],
  "strings": []
}
```

- データセットの XMD で、新しい conditionalFormatting プロパティがディメンションと派生ディメンションに導入されました。特定のディメンション値のカスタム色は、このプロパティを使用して保存されます。members プロパティは、引き続き特定のディメンション値のカスタム表示ラベルを保存します。このプロパティは UI を使用して設定できます。詳細は、[「条件付き書式を使用したデータの自動強調表示」](#)を参照してください。次の例では、conditionalFormatting の値を示します。

```
{
  "conditionalFormatting": {
    "chartColor": {
      "parameters": {
        "values": [
          {
            "formatValue": "#00B3B4",
            "value": "Mick Fanning"
          },
          {
            "formatValue": "#E8963B",
            "value": "Michel Bourez"
          }
        ]
      }
    },
    "referenceField": "Referral",
    "type": "categories"
  }
},
```

```

    "customActions": [],
    "customActionsEnabled": true,
    "field": "Referral",
    "fullyQualifiedName": "Referral",
    "label": "Referral",
    "linkTemplateEnabled": true,
    "members": [
      {
        "label": "Mick Fanning",
        "member": "Mick Fanning"
      },
      {
        "label": "Michel Bourez",
        "member": "Michel Bourez"
      }
    ],
    "origin": "Referral",
    "recordDisplayFields": [],
    "salesforceActions": [],
    "salesforceActionsEnabled": true,
    "showInExplorer": true
  }

```

## Analytics データインテグレーション: 新しいコネクタ、接続による複製のスケジュール、レシピへの行の追加

より多くのデータソースに接続し、接続によって複製をスケジュールすることで、データの更新タイミングを詳細に制御します。さまざまなスキーマを持つデータセットをデータフローに追加し、行をレシピに追加します。

このセクションの内容:

### 新しいコネクタと制限の改定による接続可能なデータの増加

新しいリモートコネクタにより、接続できるデータソースが増えました。SAP Hana や Microsoft Azure SQL データウェアハウスのデータがありますか? 問題ありません。取り込みましょう。これらの新しいコネクタを最大限に活用するために、接続先または複製元の最大オブジェクト数を 50 個から 100 個に増やしました。

### 接続ごとの複製のスケジュール

すべてのデータが同様に作成されるわけではありません。ローカルのセールスおよびサービスデータは常に変更されますが、リモートの商品データベースはあまり変更されません。Analytics でこのような異なるデータを複製する場合、同時にすべてのデータを更新する必要はありません。代わりに、スケジュールを使用して、異なるデータソースのデータを更新するタイミングを決定します。たとえば、ローカルの Salesforce のセールスおよびサービスの接続は毎日実行し、商品データベースの接続は毎月実行するようにスケジュールします。

### リモート接続の作成権限の変更

外部データへのリモート接続を作成するユーザには、Einstein Analytics Platform ライセンスが必要になりました。接続を作成可能なユーザを追跡できるように、新しい「Analytics リモート接続の追加」権限が Einstein Analytics Platform 管理者権限セットに追加されました。

### より多くの外部データファイルのアップロード

より多くの外部データを Analytics に取り込めるように、直近 24 時間の制限へのファイルアップロードのカウント方法を変更しました。以前は、アップロードできる外部データファイルは最大 50 個でした。この制限がデータセットごとに 50 個になりました。

### より多くのデータフローの作成と実行、フローインジケータを使用した使用量の追跡

複製を有効にすることで、最大 35 個の独立したデータフローを作成し、取り込むすべてのデータを準備できるようにになりました。また、追加のデータフロー定義を最大限活用できるように、直近の 24 時間のデータフロー実行数を 30 から 40 に増加しました。さらに、このすべてのデータフローの追跡と実行数の監視を容易にするためにデータマネージャの [監視] タブを更新しました。

### データの形が崩れていても、データフローへの追加に問題なし

以前の追加変換は厳格であったため、これを使用してデータを追加できるのは、データが同じスキーマを共有している場合に限られていました。現在は、データフローを壊すことなく、異なるスキーマのデータセットをマージできます。この機能をディスジョイントスキーマ追加と呼びます。

### データセットレシピでの行の追加

さまざまなデータセットから行をレシピにすばやく追加します。組み合わせるデータを選択し、項目の対応付けを確認(自動で行われます)すれば完了です。追加を使用して、リモートの Salesforce 組織など、さまざまなソースから関連するレコードを組み合わせたり、ログやセンサーデータなど、急速に変化するデータセットに新しい行を追加したりします。

### 複数選択項目を使用してレシピでの数式の作成を高速化

レシピで複数の項目から数式を容易に作成できるようになりました。プレビューで項目を選択し、提案された関数を選択したら、Analytics が数式を自動で入力します。

### Einstein Analytics で Salesforce 共有設定をより多く継承

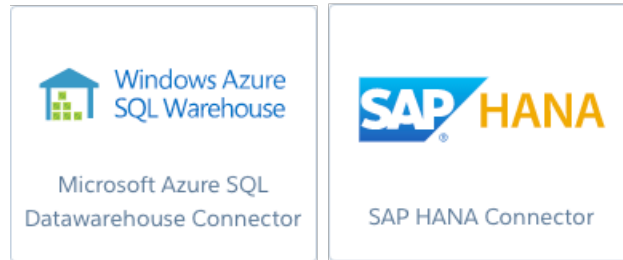
共有継承の向上により管理がさらに簡単になります。共有ルール継承のサポートに取引先責任者およびリードオブジェクトが含まれるようになりました。ソースオブジェクトからユーザが表示できるレコード数が 3,000 に増加しました。

## 新しいコネクタと制限の改定による接続可能なデータの増加

新しいリモートコネクタにより、接続できるデータソースが増えました。SAP Hana や Microsoft Azure SQL データウェアハウスのデータがありますか? 問題ありません。取り込みましょう。これらの新しいコネクタを最大限に活用するために、接続先または複製元の最大オブジェクト数を 50 個から 100 個に増やしました。

**対象:** これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**方法:** これらの新しいコネクタを入手するには、データマネージャの [設定] タブで [複製を設定] をクリックします。リモート接続を追加すると、使い慣れたコネクタと共に新しいコネクタが表示されます。



## 接続ごとの複製のスケジュール

すべてのデータが同様に作成されるわけではありません。ローカルのセールスおよびサービスデータは常に変更されますが、リモートの商品データベースはあまり変更されません。Analytics でこのような異なるデータを複製する場合、同時にすべてのデータを更新する必要はありません。代わりに、スケジュールを使用して、異なるデータソースのデータを更新するタイミングを決定します。たとえば、ローカルのSalesforceのセールスおよびサービスの接続は毎日実行し、商品データベースの接続は毎月実行するようにスケジュールします。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザ:** 複製をスケジュールするには、「Analytics の管理」権限が必要です。

**理由:** 以前は、すべての複製で1つのスケジュールしか設定できませんでした。Salesforce オブジェクトのみを複製する場合や、1つのリモート接続のみを使用する場合はこれで問題ありませんが、複数の接続がある場合、さまざまな理由により1つのスケジュールでは困難だと考えられます。たとえば、次のように指定します。

- すべてのデータを同時に更新する必要はありません。更新する必要のない接続が含まれている複製を実行すると、必要以上に処理に時間がかかります。
- 通常、データフローやレシピで最新の複製データが必要になるタイミングは同じではありません。1つのスケジュールでは、適切なタイミングの決定が難しくなります。

接続ごとのスケジュールがどのように役立つのかを示す例を確認しましょう。

The screenshot shows the 'Setup' page for Replications. On the left, there is a navigation menu with 'Monitor', 'Dataflows & Recipes', 'Datasets', and 'Setup'. The main content area is titled 'Setup' and includes a 'Set Up Replication' button and a search bar. Two replication connections are listed:

- SFDC\_LOCAL (1):** Next run is Today at 11:00 PM. Fields: Account (6), User (3), Opportunity (9).
- CanadaOrgConnection (2):** Next run is May 30, 2018 at 11:00 PM. Fields: Account (6), User (3), Opportunity (9).

ここでは、Salesforce ローカル接続(1)を使用して、セールスデータを毎日複製します。このデータは、日次データフローを使用して統合できる状態になっています。また、Salesforce リモート接続(2)を使用して、カナダのセールスデータを複製します。このデータは、毎週実行するレシピを使用してローカルデータに追加します。

リモート接続の複製を個別にスケジュールすることで、毎週のレシピで必要なときにのみデータを更新できます。ローカル接続の複製も余計な負担がないため時間が短縮されます。

方法: 接続ごとのスケジュールは、複製が接続ごとに整理されるようになったデータマネージャの [設定] タブで実行できます。スケジュールオプションは、各接続のアクションメニューにあります。接続ごとに複製を手動で実行できるようになっています。

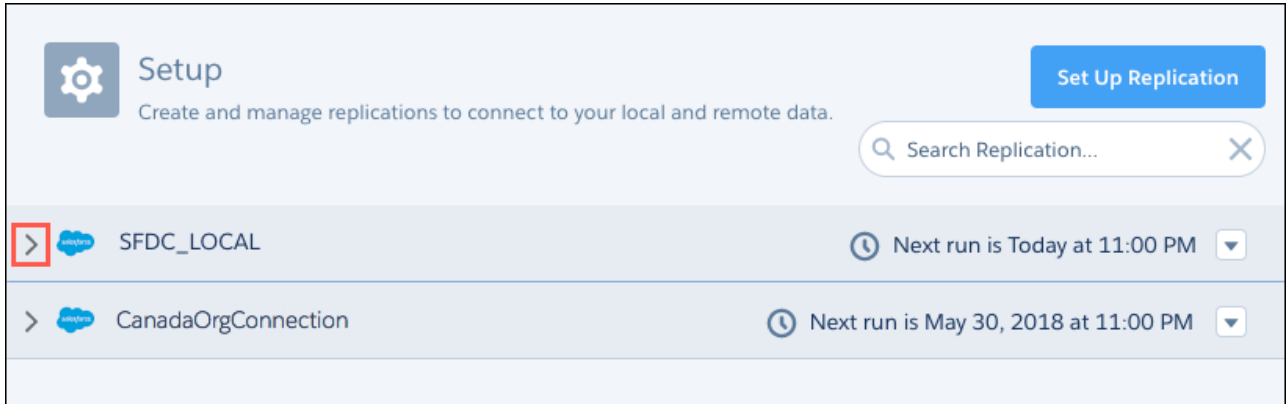
This is a close-up of the SFDC\_LOCAL replication connection table. The 'Not scheduled' dropdown menu is open, showing 'Schedule' and 'Run Now' options. The table shows the replication schedule for Account, User, and Opportunity fields.

NAME	FIELDS	FILTER	INCREMENT	MODIFIED	LA	Schedule
Account	6		✓	Today at 11:2 To		Run Now
User	3		✓	Today at 11:2	Today at 11:4	
Opportunity	9		✓	2 Days Ago at	Today at 11:4	

接続をスケジュールすると、次回の実行の詳細が接続の横に表示されます。

**ヒント:** 接続を折りたたんでみてください。すべてのスケジュールが1か所に表示されます。



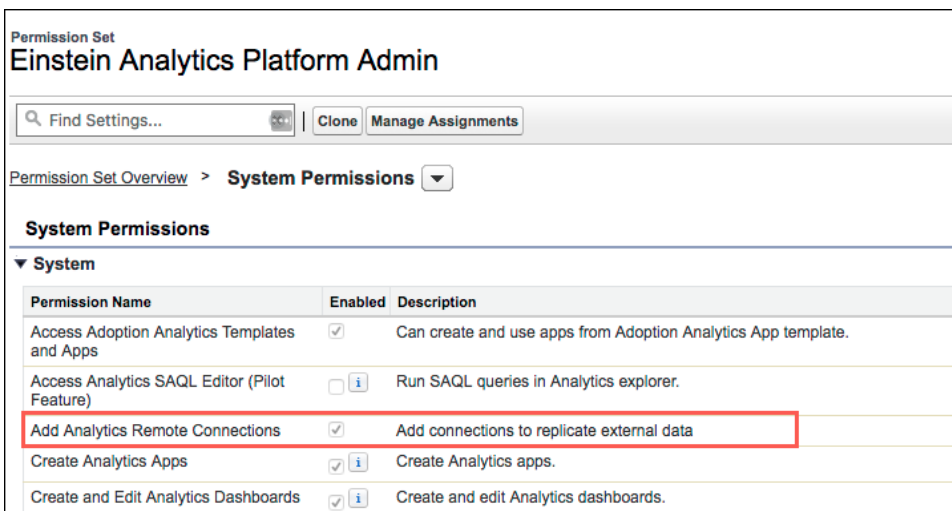


## リモート接続の作成権限の変更

外部データへのリモート接続を作成するユーザには、Einstein Analytics Platform ライセンスが必要になりました。接続を作成可能なユーザを追跡できるように、新しい「Analytics リモート接続の追加」権限が Einstein Analytics Platform 管理者権限セットに追加されました。

**対象:** この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**方法:** 「Analytics リモート接続の追加」権限は、デフォルトで Einstein Analytics Platform ライセンスを持つすべてのユーザに対して有効になっています。



## より多くの外部データファイルのアップロード

より多くの外部データを Analytics に取り込めるように、直近 24 時間の制限へのファイルアップロードのカウンタ方法を変更しました。以前は、アップロードできる外部データファイルは最大 50 個でした。この制限がデータセットごとに 50 個になりました。

**対象:**この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**理由:**外部データファイルから 1 日に何度も増分的に更新するデータセットはありますか? ログやセンサーデータなど、急速に変化するデータはありますか? ある場合、これらの更新により 24 時間のアップロード許容数が短時間で消費され、更新が必要な他のデータセットには何も残らなくなる可能性があります。このため、データを激しく消費するデータセットですべてのアップロードが使い果たされないようにアップロードのカウント方法を変更しました。1 つのデータセットが 50 アップロードの制限に達しても、他のデータセットに影響しなくなりました。

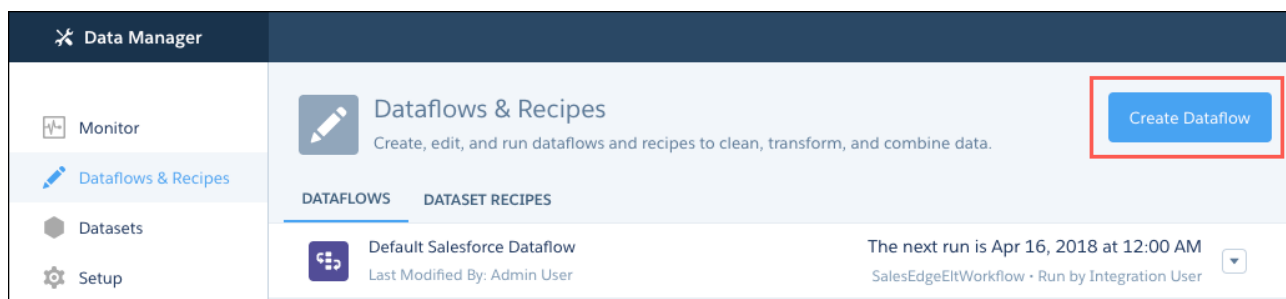
## より多くのデータフローの作成と実行、フローインジケータを使用した使用量の追跡

複製を有効にすることで、最大 35 個の独立したデータフローを作成し、取り込むすべてのデータを準備できるようにになりました。また、追加のデータフロー定義を最大限活用できるように、直近の 24 時間のデータフロー実行数を 30 から 40 に増加しました。さらに、このすべてのデータフローの追跡と実行数の監視を容易にするためにデータマネージャの [監視] タブを更新しました。

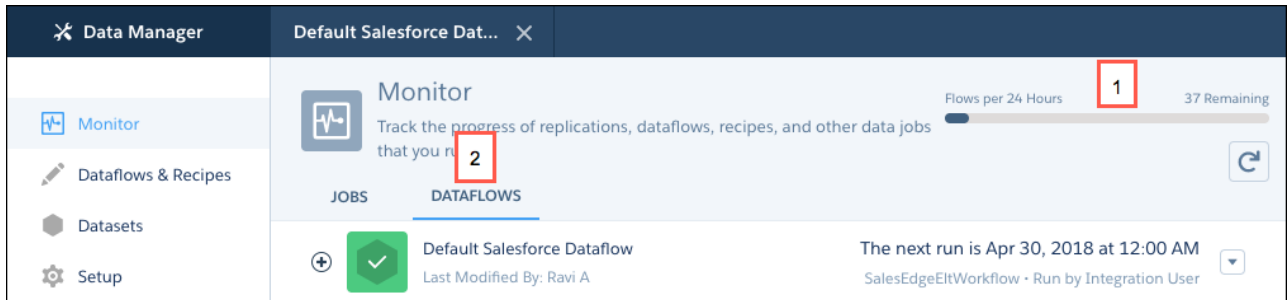
**対象:**この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**理由:**独自の準備要件やスケジュール要件を持っているさまざまなデータソースに接続(セールスやマーケティングからサービスや IoT に接続)できます。データフローと実行の数が増加すると、データの準備をより詳細に制御できます。たとえば、各ソースからデータを準備する独立したデータフローを作成し、最新データが必要になったときに実行するようにデータフローをスケジュールできます。

**方法:**複数のデータフローを作成するには、複製を有効にする必要があります。データマネージャの [データフロー & レシピ] タブで [データフローを作成] をクリックします。



増加した 24 時間のデータフロー実行制限は、複製が有効かどうかに関係なく Analytics で使用できます。このデータフローの実行を追跡するには、データマネージャで [監視] タブを開きます。



新しいフローインジケータ (1) には、直近の 24 時間で実行されたデータフロー数と残りのデータフロー数が示されます。

また、このデータフローの監視に役立つように、ビューセレクトがサブタブ (2) で置き換えられました。これにより、1 回クリックするだけでデータフローにアクセスできます。

**メモ:** 実行時間が 2 分未満のデータフローとレシピの実行、および複製の実行は、24 時間のデータフロー実行制限にカウントされません。

## データの形が崩れていても、データフローへの追加に問題なし

以前の追加変換は厳格であったため、これを使用してデータを追加できるのは、データが同じスキーマを共有している場合に限られていました。現在は、データフローを壊すことなく、異なるスキーマのデータセットをマージできます。この機能をディスジョイントスキーマ追加と呼びます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザ:** データフローを作成または編集するには、「データセットを編集」または「Analytics を管理」権限が必要です。

**理由:** カナダの商談を米国の商談に追加する必要があるとします。

米国のセールス

#	Name	Stage	Amount
1	US Opp1	Negotiation	100
2	US Opp2	Quote	200
3	US Opp3	Prospecting	300
4	US Opp4	Needs Analysis	200

カナダのセールス

#	Name ▲	Currency	Stage	Value
1	Ca Opp1	CAD	Negotiation	100
2	Ca Opp2	CAD	Quote	200
3	Ca Opp3	CAD	Prospecting	300
4	Ca Opp4	CAD	Needs Analysis	200

以前は、追加は各データセットに同じ列が含まれている場合にのみ行うことができました。この例では、うまくいきません。列名が異なります。また、カナダのデータに [Currency(通貨)] 列が含まれます。このような種類の追加の結果には、ディスジョイントスキーマと呼ばれるものが使用されます。これは、データフローでは好まれないスキーマです。データフローが失敗しないようにするには、スキーマを一致させる必要があります。

た。このため、このようなばらつきのあるデータを問題なくマージするためのパラメータを追加変換に追加しました。

方法: 追加ノードを作成するときに、[ディスジョイントスキーマを許可] を選択します。データフロー JSON で作業している場合は、enableDisjointedSchemaMerge パラメータを追加し、その値を true に設定します。

#### データフローエディタ内の追加ノード

Append US & CA Sales: append

ATTRIBUTES OUTPUT FIELDS

Node Name

Append US & CA Sales

Sources

["Extract US Sales","Extract CA Sales"]

Allow disjoint schema


#### データフロー JSON 内の追加ノード

```
"Append US & CA Sales": {
  "action": "append",
  "parameters": {
    "enableDisjointedSchemaMerge": true,
    "sources": [
      "Extract US Sales",
      "Extract CA Sales"
    ]
  }
}
```

データフローを実行すると、データが拒絶されることなくマージされます。

#	Name	Currency	Stage	Amount	Value
1	US Opp1	-	Negotiation	100	-
2	US Opp2	-	Quote	200	-
3	US Opp3	-	Prospecting	300	-
4	US Opp4	-	Needs Analysis	200	-
5	Ca Opp1	CAD	Negotiation	-	100
6	Ca Opp2	CAD	Quote	-	200
7	Ca Opp3	CAD	Prospecting	-	300
8	Ca Opp4	CAD	Needs Analysis	-	200

追加変換では、すべての列がデータセットに追加され、[Name (名前)] など、同じ名前を持つ列の値がマージされます。また、マージ前に行に含まれていなかった列には null 値が追加されます。これは、[Currency (通貨)] 列で確認できます。

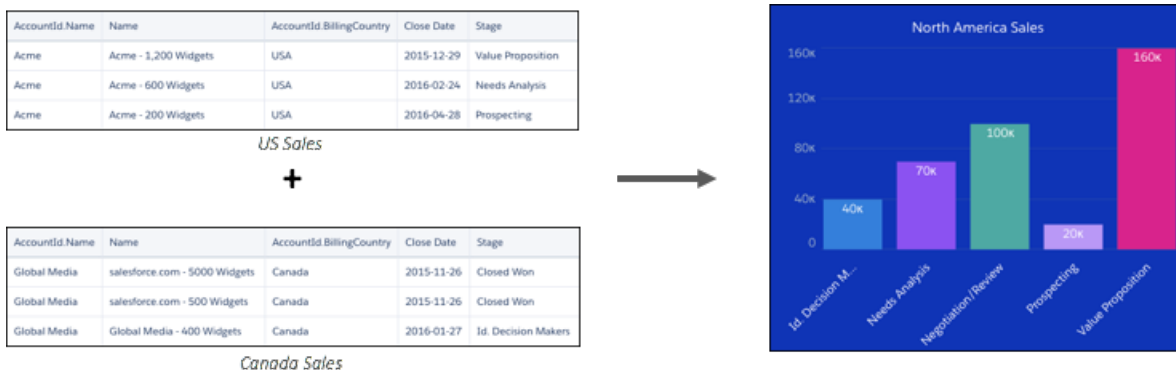
 **メモ:** データセット内の null 基準の処理を組織で有効にしている場合、追加によって、マージ前に行に含まれていなかった列にはゼロが追加されます。

## データセットレシピでの行の追加

さまざまなデータセットから行をレシピにすばやく追加します。組み合わせるデータを選択し、項目の対応付けを確認(自動で行われます)すれば完了です。追加を使用して、リモートの Salesforce 組織など、さまざまなソースから関連するレコードを組み合わせたり、ログやセンサーデータなど、急速に変化するデータセットに新しい行を追加したりします。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**理由:** 行によっては、同類であっても切り離されてしまうものがあります。各地域で別々の Salesforce 組織を使用する国際企業を想像してください。コネクタを使用して各組織の商談を複製した後、レシピ内の追加を使用してこれらの行を1つのグローバルセールスデータセットにまとめることができます。



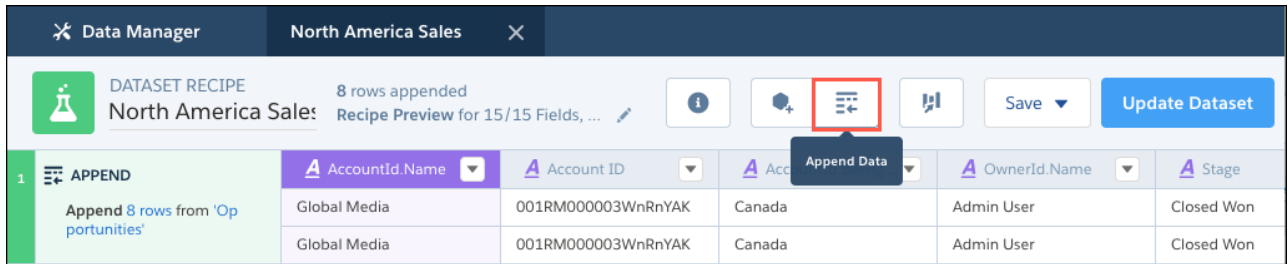
すでに、追加変換を使用すればデータフロー内で行を組み合わせることができます。ただし、レシピ内の追加により、データを組み合わせる前にデータをプレビューできます。また、スマートマッチングを使用して項目が自動的に対応付けられるため、ユーザの時間が節約され、データが適切な列に設定されます。

Map fields to append

FIELD IN RECIPE	FIELD TO APPEND (8 Rows)	SAMPLE APPEND VALUE
<input type="text" value="AccountId.Name"/>	<input type="text" value="AccountId.Name"/>	Global Media
<input type="text" value="Account ID"/>	<input type="text" value="Account ID"/>	001RM000003WnRnYAK
<input type="text" value="AccountId.BillingCountry"/>	<input type="text" value="AccountId.BillingCountry"/>	Canada

自動の対応付けが適切でない場合は、ユーザが自身で項目を対応付けることができます。これは、項目名が完全に同じではない場合や、項目名の言語が異なる場合に役立ちます。

**方法:** レシピで作業している場合は、追加をいつでも使用できます。[データを追加] ボタンを探すだけです。



追加する行を含むデータセットまたは複製済みデータセットを選択し、項目の対応付けを確認すれば作業は終了です。

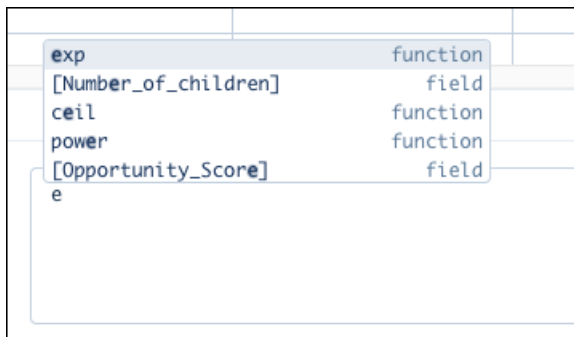
- ☑ **メモ:** レシピ内で追加された行はレシピのプレビューに表示されませんが、レシピを実行すると対象データセットに追加されます。

### 複数選択項目を使用してレシピでの数式の作成を高速化

レシピで複数の項目から数式を容易に作成できるようになりました。プレビューで項目を選択し、提案された関数を選択したら、Analytics が数式を自動で入力します。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**理由:** 特に数式に複数の項目が含まれる場合、数式の作成には時間がかかる可能性があります。入力時に数式ビルダーの優れた機能によって項目が提案されますが、この機能があってもレシピに多くの基準項目がある場合は手間のかかる作業になる可能性があります。



ここで複数選択の出番です。項目をレシピのプレビューから直接選択することで入力時間が短縮され、より多くの時間を楽しい作業（関数と演算子）に使うことができます。

**方法:** たとえば、レシピを使用して、商談をリモートのカナダの組織から現地の米国の商談に追加するとします。すべての金額を米国ドルで表すため、換算レート列を追加しました。これで、数式を使用していつでも通貨換算を行うことができます。

The screenshot displays the 'Global Sales' dataset recipe in Einstein Analytics. The main table shows columns for 'CloseDate', 'Opportunity Name', 'Opportunity Currency', 'Amount', and 'USD Exchange Rate'. A formula bar at the bottom contains the expression  $[Amount] * [USD\_FOR\_Rate]$ . Red boxes indicate the steps: (1) clicking a row in the table, (2) selecting the 'Amount' and 'USD Exchange Rate' fields in the field navigator, and (3) clicking the formula bar to build the expression.

数式に [Amount (金額)] 項目と [USD Exchange Rate (USD 換算レート)] 項目を含めるには、Shift + Ctrl キー (Windows) または Cmd キー (Mac OS) を押しながら、プレビュー内の列をクリックします (1)。列のプロファイルパネルの [ナビゲータ] タブで項目をクリックすることもできます (2)。次に、提案バーで、提案された関数をクリックします (3)。選択した項目が数式ビルダーに表示されます。

The 'Add Transformation' dialog box shows the formula  $[Amount] * [USD\_FOR.Rate]$  entered in the 'Formula' field. An 'Add' button is located to the right of the field. The dialog also includes a 'Help on writing a formula' link and a footer with 'Einstein Suggestions' and function categories like 'Logarithm', 'Power', and 'Square Root'.

数式を完了するにはさらにいくつかの作業が必要になる場合がありますが、少なくとも項目を探す必要はありません。

**ヒント:** 数式ビルダーに表示する項目の順序で列を選択します。

数式を追加すると、その結果はレシピのプレビュー内の新しい列に表示されます。項目表示ラベルはプロフィールパネルの [属性] タブで変更できます。

Opportunity Na...	Opportunity Cur...	Amount	USD Exchange R...	USD Amount
Opportunity for Conner5	CAD	32400	1.29	41796
Opportunity for McDona...	USD	240747	1	240747
Opportunity for Barnes1...	CAD	363400	1.29	468786
Opportunity for Murphy...	USD	2664105	1	2664105
Opportunity for Banks277	CAD	376862	1.29	486151.98
Opportunity for Alexand...	CAD	18960	1.29	24458.4
Opportunity for Watson3...	USD	117480	1	117480
Opportunity for Wise361	USD	1595250	1	1595250
Opportunity for Scott363	USD	788800	1	788800
Opportunity for Rios369	USD	112725	1	112725
Opportunity for Gordon...	CAD	179225	1.29	231200.25
Opportunity for Harringt...	USD	22240	1	22240

USD Amount

PROFILE ATTRIBUTES NAVIGATOR

API Name

formula

Field Label

USD Amount

Field Type

Measure

## Einstein Analytics で Salesforce 共有設定をより多く継承

共有継承の向上により管理がさらに簡単になります。共有ルールの継承のサポートに取引先責任者およびリードオブジェクトが含まれるようになりました。ソースオブジェクトからユーザが表示できるレコード数が3,000に増加しました。

**対象:** この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザ:** 共有継承を有効化または無効化するには、「Analyticsの管理」ユーザ権限が必要です。データセットまたはデータフローの共有継承を設定するには、「Analytics データフローの編集」または「データセットレシピの編集」ユーザ権限が必要です。

**方法:** 新しい組織では、共有継承がデフォルトでオンになります。既存の組織で共有継承を有効にするには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「Analytics」と入力し、[設定] を選択します。[Salesforce から共有を継承] を選択して、[保存] をクリックします。

## Analytics 事前作成済みアプリケーション: 新しい Analytics テンプレート、B2B Marketing Analytics の取引先ベースのマーケティング

Analytics プラットフォームでの成功までの時間の短縮に役立つさまざまな Analytics テンプレートが事前作成済み Analytics アプリケーションに含まれるようになりました。取引先別にキャンペーンのパフォーマンスを分析できる B2B Marketing アプリケーションの新バージョンも含まれます。

このセクションの内容:

### ビジネスインテリジェンスへの近道となる新しいテンプレート

さまざまな新しいテンプレートから選択して、Analytics プラットフォームに基づく構築済みソリューションを即座に作成できます。複雑なデータの統合やダッシュボードの構築に対処することなく、迅速にデータ分析ニーズを満たすことができます。

### Snapshot Analytics アプリケーションを使用した Salesforce の任意のデータのすばやトレンド分析

既存の Einstein Analytics データセットまたは Salesforce オブジェクトのスナップショットを取得するアプリケーションを作成します。



### Adoption Analytics アプリケーションのインサイトを使用した Analytics への投資の最大化

このアプリケーションには、Analytics 採用の測定と監視に役立つ事前作成済みダッシュボードおよびデータセットが用意されています。

### 非営利団体: 自分と自分のデータだけの Analytics アプリケーション

Fundraising Analytics アプリケーションは、Salesforce Nonprofit Success Pack のデータで Analytics の機能を使用できます。

### Analytics Adoption AppExchange パッケージを使用したチームによる Einstein Analytics の利用状況の確認

チームによる Analytics アプリケーション、ダッシュボード、レンズ、データセットの利用状況に関する有意義なインサイトを取得できるデータセットを作成します。データセットの独自の視覚化に基づいて作成するか、成功するアプリケーションを作成するためにはパッケージのインストールが必要な Adoption Analytics アプリケーションを使用できます。

### B2B Marketing Analytics での上位の取引先の識別および追跡

B2B Marketing Analytics の新しい取引先ベースのマーケティングダッシュボードとデータセットを使用すると、キャンペーンのパフォーマンス、影響度、チャンネル活動などをすべて取引先別に分析できます。この新しいツールは、取引先に関する質問に回答し、エンゲージメントが高く、収益が上位の重点をおくべき取引先を識別するのに役立ちます。B2B Marketing Analytics を使用して、このデータの分類とカスタマイズを行います。

## ビジネスインテリジェンスへの近道となる新しいテンプレート

さまざまな新しいテンプレートから選択して、Analytics プラットフォームに基づく構築済みソリューションを即座に作成できます。複雑なデータの統合やダッシュボードの構築に対処することなく、迅速にデータ分析ニーズを満たすことができます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザー:** Analytics テンプレートを使用するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。

**理由:** Analytics プラットフォームで作業を迅速化したくありませんか? 新しい Analytics テンプレートでは、各自の要件に応じて簡単にカスタマイズできる標準搭載のデータセットおよびダッシュボードでこれを実現できます。さまざまな業種および事業部門の使用事例に対応する新しいテンプレートが導入されています。

白紙状態から始める必要がなくなり、複雑なデータモデリングや視覚化の構築に対処することなく開始できます。テンプレートからアプリケーションを作成すれば、Analytics によって Salesforce データが Analytics データセットおよびダッシュボードにインポートされます。そこから、データを追加して、独自の探索を構築します。ニーズに合わせてダッシュボードをカスタマイズしたり、独自のダッシュボードを追加したり、使用できないダッシュボードを削除したりできます。これらは、組織の分析環境の Starter Pack と考えてください。

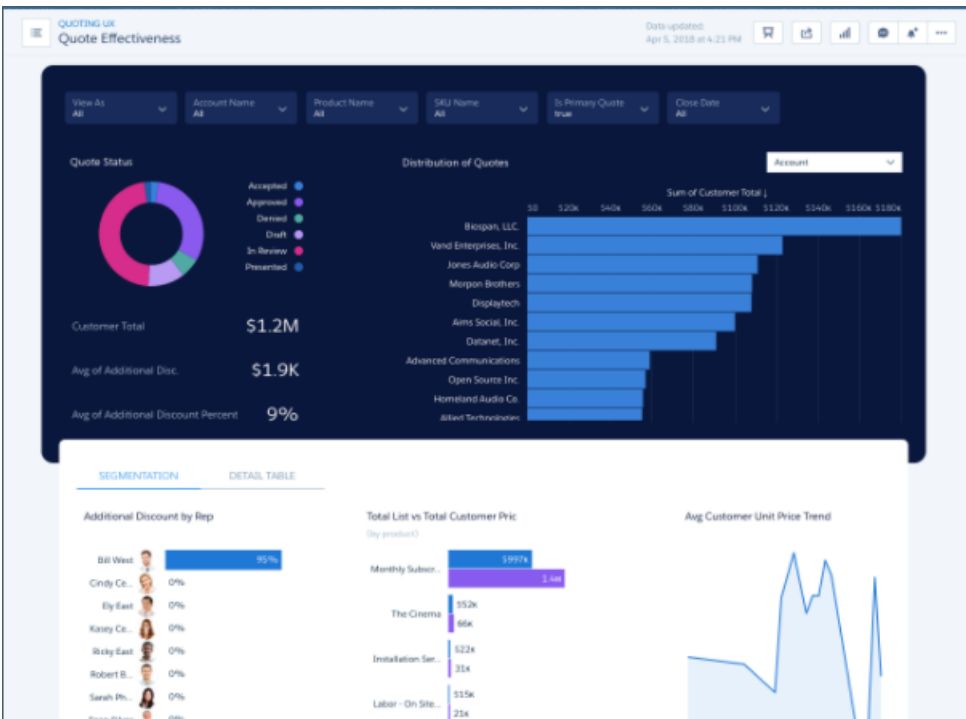
Analytics テンプレートでは、必要な要素のみが提供されます。各テンプレートには選択されたデータセットおよびダッシュボードが含まれており、即座に分析ニーズを満たすことができます。たとえば、非営利団体は、支援や支援者の完全な把握に焦点を当てた Fundraising Analytics パックを使用してすばやく始めることができます。また、configure-price-quote (CPQ) プロセスのインサイトを取得する場合は、Quoting Analytics テンプレートを使用できます。

次のテンプレートカテゴリから選択します。

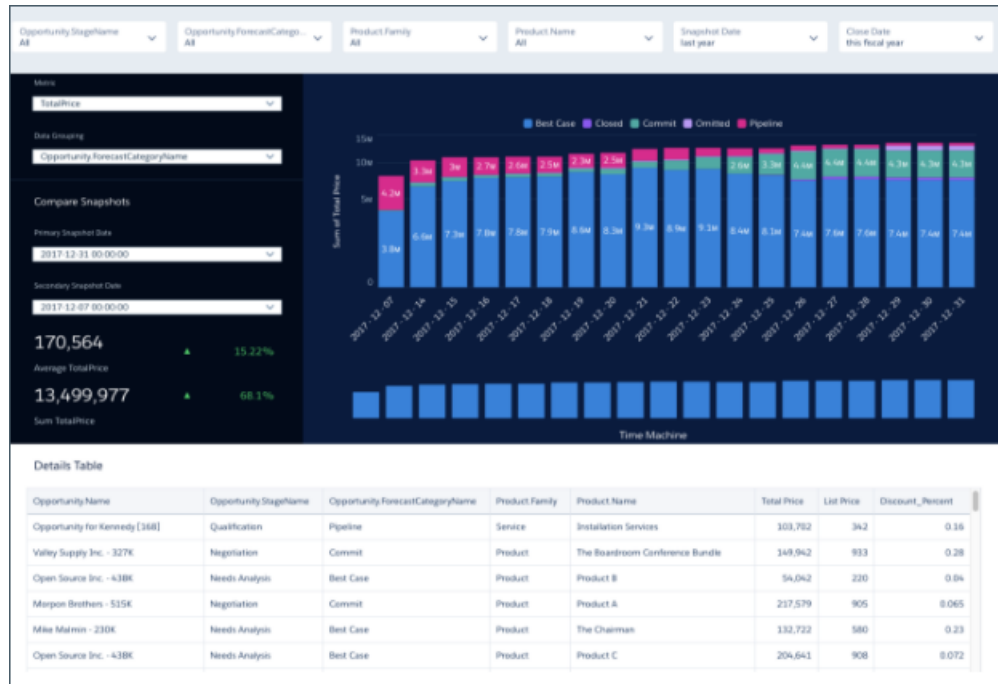
- 金融サービス、ヘルスケア、非営利団体、小売、およびその他のセクタに対応する業種テンプレート。
- 見積、マーケティング、およびその他のビジネスプロセスに対応する事業部門テンプレート。
- データスナップショットの取得、専門的なグラフの作成、Salesforce 組織の変更の分析、およびその他の Analytics 機能を利用するのに役立つ機能固有テンプレート。

最初の新しいテンプレートの例を次に示します。

- **Quoting Analytics**。チームの configure-price-quote (CPQ) プロセスのインサイトを即座に取得します。チーム、地域、商品におけるプロセスとその効果について詳しく調べることができます。Quote Effectiveness ダッシュボードを次に示します。

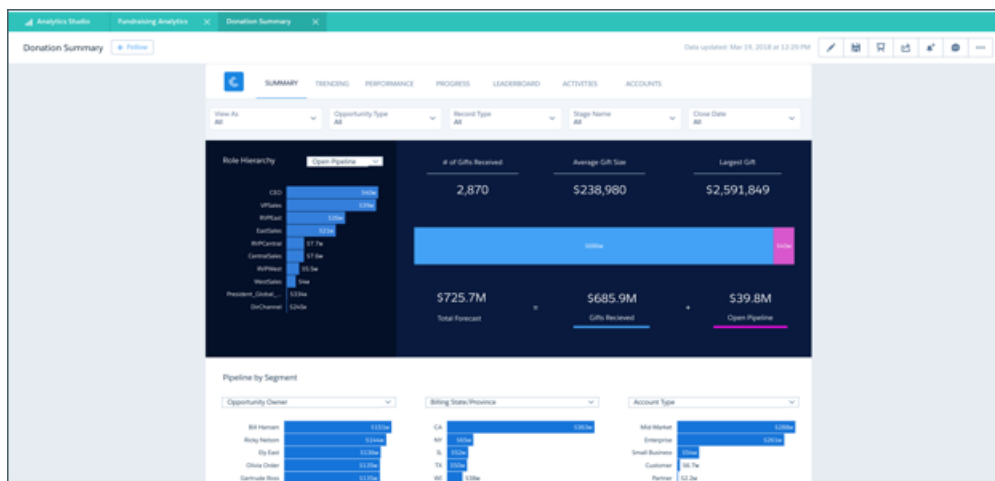


- **Snapshot Analytics**。Salesforce オブジェクトまたはデータセットの履歴データに基づいて視覚的なレポートを提供するカスタムダッシュボードを作成するには、このテンプレートを使用します。スナップショットの



例を次に示します。

- **Change Analytics**。Salesforce オブジェクトの項目履歴データを分析して、チームメンバーがデータを変更する方法、タイミング、場所を確認するには、このテンプレートを使用します。
- **Adoption Analytics**。チームの Analytics アセット (データセット、ダッシュボード、アプリケーション) の採用状況を把握するのに役立つデータセットおよびダッシュボードを作成するには、このテンプレートを使用します。
- **Fundraising Analytics**。非営利団体: Einstein Analytics の機能を Salesforce の非営利団体データに適用するには、このテンプレートを使用します。ダッシュボードの KPI では、支援者や支援に焦点が当てられています。Donation Summary ダッシュボードを次に示します。



- **Waterfall Analytics**。このテンプレートでSalesforce データを使用すると、商品、チーム、場所ごとのセールスパイプラインなどが表示される優れた waterfall ダッシュボードが即座に作成されます。

これらの新しいテンプレートにより、Sales Analytics、Service Analytics、Field Service Analytics、Event Monitoring Analytics、およびその他のアプリケーションテンプレートから始まったサービスが拡張されます。今後数か月のリリースで新しいテンプレートを定期的にリリースし、さまざまな新しいビジネス分析ニーズに対応する予定です。

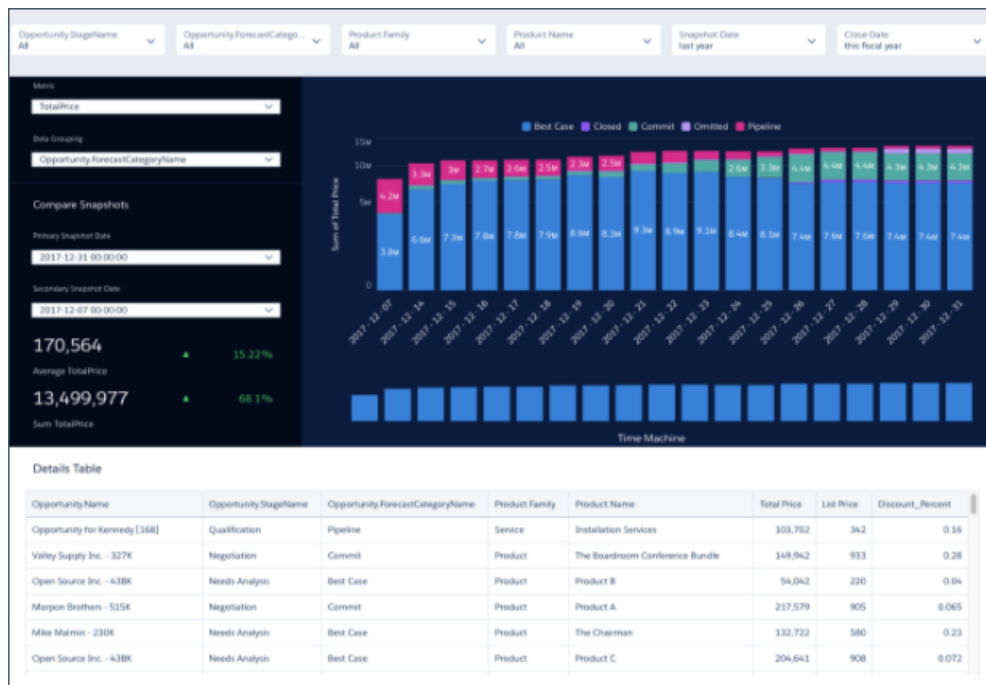
方法: Analytics Studio で通常どおりアプリケーションを作成し、[作成] ウィンドウの左側のパネルでテンプレートを検索します。スクロールダウンしてすべて表示し、目的のテンプレートを選択します。

Analytics によってアプリケーションが構築されたら、Analytics Studio のホームページで開き、探索を開始します。Salesforce ヘルプには、各 Analytics テンプレートの内容についての詳細と、試行可能な一般的なカスタマイズのガイドが記載されています。

今すぐ Analytics Starter Pack の使用を開始して、データからアクション可能なインサイトへと数分で移行しましょう。

## Snapshot Analytics アプリケーションを使用したSalesforceの任意のデータのすばやイトレンド分析

既存の Einstein Analytics データセットまたはSalesforce オブジェクトのスナップショットを取得するアプリケーションを作成します。



**対象:** この機能は、Lightning Experience とSalesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションでEnterprise Edition、Performance Edition、およびUnlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザー:** Snapshot Analytics アプリケーションを使用するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。

**理由:** Snapshot Analytics は Salesforce データのトレンド分析を簡略化します。以前は、データセットを作成してからそのデータをトレンド分析し、ダッシュボードを作成する必要がありました。Snapshot Analyticsによりこのプロセスがすばやく簡単になり、ほぼ自動化されます。

アプリケーションを作成するときに、既存の Analytics データセットを対象にできます。または、Salesforce オブジェクトを選択すれば Analytics がそのデータをデータセットにインポートします。どちらのオプションでも、Analytics がデータのスナップショットを使用して自動的にダッシュボードを作成します。ダッシュボードは Salesforce トレンドレポートタイプに基づいてモデル化され、親、子、孫オブジェクトを選択して2レベルの粒度を使用できます。

**方法:** Sales Analytics や Service Analytics など、他の Analytics 事前作成済みアプリケーションのようなアプリケーションを作成します。Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、Snapshot Analytics テンプレートを探します。必ずデータフローのスケジュールとアプリケーションの共有も行ってください。完全な手順は、Salesforce ヘルプを参照してください。

## Adoption Analytics アプリケーションのインサイトを使用した Analytics への投資の最大化

このアプリケーションには、Analytics 採用の測定と監視に役立つ事前作成済みダッシュボードおよびデータセットが用意されています。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザー:** Adoption Analytics アプリケーションを使用するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。

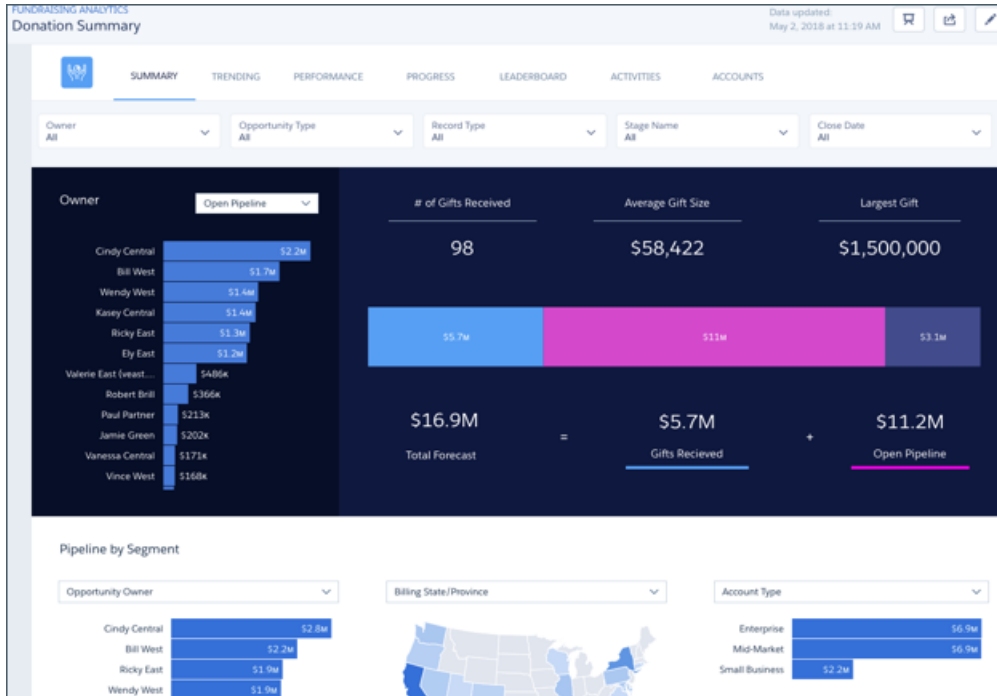
**理由:** アプリケーションの事前作成済みダッシュボードを使用して、Analytics アセット (アプリケーション、ダッシュボード、レンズ、データセット) の人気を分析します。各アセットを最大限に活用しているユーザーを確認し、未使用のアセットや Analytics を使用していないユーザーを特定します。Analytics 採用総計値を使用して、Analytics の使用を促進し、Analytics アセットの操作性の向上に何が必要かを特定できます。ユーザーが必要なトレーニングを提供し、対象ユーザーグループにとって有意義な新しいコンテンツを作成することもできます。

チームによる Analytics の採用状況を把握するための特定の要件に合わせて、アプリケーションをカスタマイズすることもできます。アプリケーションのデータセットを使用して独自の探索を作成し、Analytics アセットの使用に関する質問に答えるダッシュボードにその探索を保存します。または、作業内容に合わせて既存のダッシュボードを編集します。

**方法:** Sales Analytics や Service Analytics など、他の Analytics 事前作成済みアプリケーションのようなアプリケーションを作成します。Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、Adoption Analytics テンプレートを探します。必ずデータフローのスケジュールとアプリケーションの共有も行ってください。完全な手順は、Salesforce ヘルプを参照してください。

## 非営利団体: 自分と自分のデータだけの Analytics アプリケーション

Fundraising Analytics アプリケーションは、Salesforce Nonprofit Success Pack のデータで Analytics の機能を使用できません。



**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザ:** Fundraising Analytics アプリケーションを使用するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。

**理由:** Fundraising Analytics では、Einstein Analytics を使用して資金調達の成功をすぐに分析できます。Salesforce Nonprofit Success Pack を使用する組織用に最適化されたこのアプリケーションは、取引先/個人取引先と支援のデータを Analytics に取り込みます。

**事前作成済みダッシュボードで、すぐに支援のパフォーマンスを視覚化できます。または、アプリケーションのデータセットを使用して独自の探索を作成し、支援に関する質問に答えるダッシュボードにその探索を保存します。または、作業内容に合わせて既存のダッシュボードを編集します。**

**方法:** Sales Analytics や Service Analytics など、他の Analytics 事前作成済みアプリケーションのようなアプリケーションを作成します。Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、Fundraising Analytics テンプレートを探します。必ずデータフローのスケジュールとアプリケーションの共有も行ってください。完全な手順は、Salesforce ヘルプを参照してください。

## Analytics Adoption AppExchange パッケージを使用したチームによる Einstein Analytics の利用状況の確認

チームによる Analytics アプリケーション、ダッシュボード、レンズ、データセットの利用状況に関する有意義なインサイトを取得できるデータセットを作成します。データセットの独自の視覚化に基づいて作成するか、成功するアプリケーションを作成するためにはパッケージのインストールが必要な Adoption Analytics アプリケーションを使用できます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

**対象ユーザー:** Analytics Adoption Metadata パッケージを使用するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。

**理由:** すでに Analytics Studio を使用していくつかの素晴らしいアプリケーションを作成し、チームと共有していることでしょうか。または、データセットといくつかのダッシュボードやレンズを作成したばかりかもしれません。チームがそれらすべてのアセットをどのように使用しているかを確認し、チームによるソリューションの採用率を把握できると便利です。AppExchange で入手可能な Analytics Adoption Metadata パッケージを使用して、これを実現できます。

Analytics アプリケーション、データセット、ダッシュボード、またはレンズを作成するときに、Analytics プラットフォームによってそれぞれに数値 ID が割り当てられます。自分とチームにとってわかりやすいアセットの名前を入力します。コンプライアンス上の理由で、Salesforce のイベントログ行にはユーザーが入力したデータ (これらのわかりやすい名前を含む) を保存できません。

このパッケージにより、指定した名前を不可解な数値アセット ID に対応付けるデータセットが作成されます。このデータセットがないと、視覚化で判読しにくいアセット ID 番号のみが表示されます。データセットを作成すると、行った変更や追加を含めて毎日更新されます。

**方法:** Salesforce AppExchange から Analytics Adoption Metadata パッケージをダウンロードします。パッケージに含まれる指示に従い、パッケージとデータセットをインストールおよび設定します。次に、Analytics Studio でデータセットを開き、組織に Analytics 採用パターンを表示する視覚化を作成します。

パッケージではレンズやダッシュボードは作成されません。Adoption Analytics アプリケーションには、この採用パッケージによって作成されたデータセットに基づくダッシュボードが含まれます。Adoption Analytics アプリケーションを使用する前に、採用パッケージをインストールする必要があります。

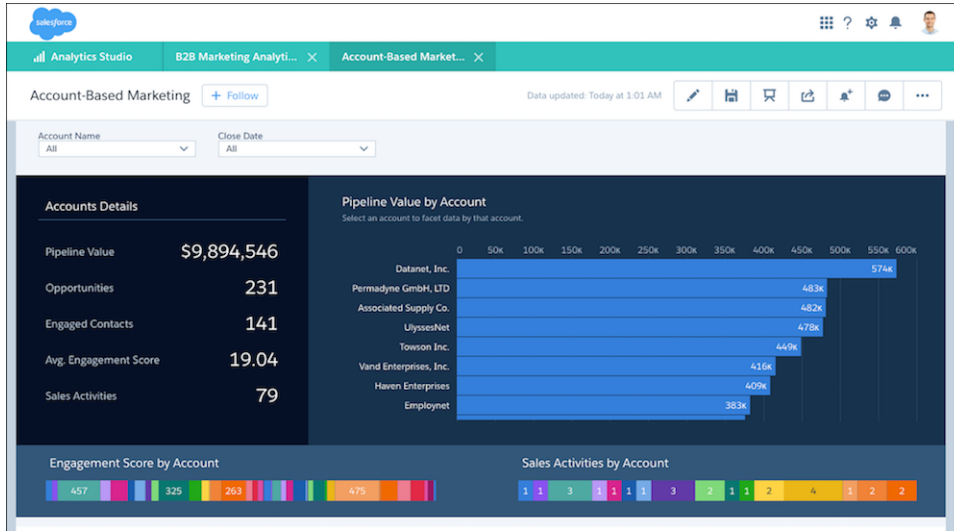
## B2B Marketing Analytics での上位の取引先の識別および追跡

B2B Marketing Analytics の新しい取引先ベースのマーケティングダッシュボードとデータセットを使用すると、キャンペーンのパフォーマンス、影響度、チャネル活動などをすべて取引先別に分析できます。この新しいツールは、取引先に関する質問に回答し、エンゲージメントが高く、収益が上位の重点をおくべき取引先を識別するのに役立ちます。B2B Marketing Analytics を使用して、このデータの分類とカスタマイズを行います。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition (Pardot Pro 付属) または Ultimate Edition (B2B Marketing Analytics 付属) の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザー:** この機能は、B2B Marketing Analytics ライセンスを持つユーザーが使用できます。

**理由:** この取引先ベースのマーケティングダッシュボードは B2B Marketing Analytics アプリケーションにプロビジョニングされ、セールスデータとマーケティングデータが 1 か所にまとめて表示されます。ABM キャンペーンの結果を測定し、セールスファネルを移動する特定の取引先を追跡します。



ダッシュボードでは、次のような内容が視覚化されています。

- 取引先の詳細 — 最上位の取引先の KPI を確認します。
- 取引先別のパイプライン金額 — パイプラインの上位の取引先を金額別に表示します。
- 取引先別のエンゲージメントスコア — エンゲージしているの上位の取引先を識別します。
- 取引先別の営業活動 — 営業チームがエンゲージしている取引先を識別します。
- 商談 — 取引先内のパイプラインおよび商談を確認して、成立率を把握します。
- エンゲージメント (取引先別のキャンペーンインフルエンスや取引先およびリードソース別の収益分配) — 取引先がどのようにマーケティング活動にエンゲージしているのかを確認します。

次の新しいデータセットが Analytics 共有アプリケーションにプロビジョニングされます。

- Salesforce Contacts with Accounts — 取引先に関連付けられている取引先責任者 (営業活動、連絡先情報、リードソース、Pardot のグレードおよびスコアを含む)。このデータは、Salesforce と Pardot から取得します。
- Salesforce Opportunities with Account — 取引先に関連付けられている商談 (完了予定日、関連情報、商談金額、取引先の詳細情報を含む)。このデータは、Salesforce から取得します。
- Salesforce Events with Contact, User, and Account — 取引先責任者、ユーザ、取引先に関連付けられている行動 (行動数、行動期間、活動情報、その他の関連データを含む)。このデータは、Salesforce から取得します。

方法: 新しいデータセットとダッシュボードは、Analytics Studio で指定されたアプリケーションに自動的にプロビジョニングされます。これらのデータセットを共有アプリケーションから B2B Marketing Analytics アプリケーションに移動するには、データセットを編集します。次に、データセットに関連付けられているアプリケーションとして B2B Marketing Analytics を選択します。

- ☑ **メモ:** これらの機能強化が取引先にプロビジョニングされるように Analytics で複製を有効にしておく必要があります。



## Analytics モバイルアプリケーション: さまざまなグラフ、洗練されたテーブル

iOS と Android 両方のデバイスで、より簡単に Analytics を外出先で使用できるようになりました。最新リリースでは、多数の新しいグラフの種類と、カスタマイズされたテーブルの書式がサポートされます。iOS と Android の両方で、その他多くの機能強化に加えて新規探索機能も使用できます。

このセクションの内容:

### Einstein for iOS/Android でのお気に入りのグラフとテーブルの使用

デスクトップで作成できるほぼすべてのグラフとテーブルのサポートにより、モバイルでのデータインサイトの取得が簡単になりました。

### Einstein Analytics for iOS のその他の機能強化

新しい探索環境を使用したり、通知を追跡したり、保存したダッシュボードビューにアクセスしたりできます。

### Einstein Analytics for Android のその他の機能強化

グラフを探索し、保存されたダッシュボードビューにアクセスし、グローバルダッシュボード検索条件を調整できます。

## Einstein for iOS/Android でのお気に入りのグラフとテーブルの使用

デスクトップで作成できるほぼすべてのグラフとテーブルのサポートにより、モバイルでのデータインサイトの取得が簡単になりました。

対象: これらの変更は、Einstein Analytics for iOS/Android に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 最新リリースの機能強化には、次の機能が含まれます。

- テーマ、カスタムスペーシング、ヘッダーとセルのスタイル設定、境界線、色、列に固有のカスタマイズがサポートされたリッチなテーブルを使用できます。
- カスタマイズされたツールチップでは、ダッシュボードの画像のコンテキストが表示されます。画像にツールチップがある場合、画像をタップするだけでテキストが表示されます。
- 慣れ親しんだグラフを使用して、外出先で簡単に Analytics を使用できます。モバイルのダッシュボードとレンズで現在サポートされているグラフを次に示します。
  - 棒
  - 縦棒
  - 積み上げ棒
  - 積み上げ縦棒
  - 散布図
  - ドーナツ
  - ヒートマップ
  - 折れ線
  - 横方向/縦方向のドットプロット
  - タイムライン

- 時間棒
- 時間複合
- ウォーターフォール
- 積み上げ滝
- 複合 (棒および折れ線)
- じょうご
- 総計値レーダー
- 地図
- バブルマップ
- カスタム地図 (iOS のみ)
- ピラミッド
- 極座標
- フラットゲージ
- マトリックス
- ツリーマップ
- 未加工データテーブル
- 比較テーブル (集計行なし)

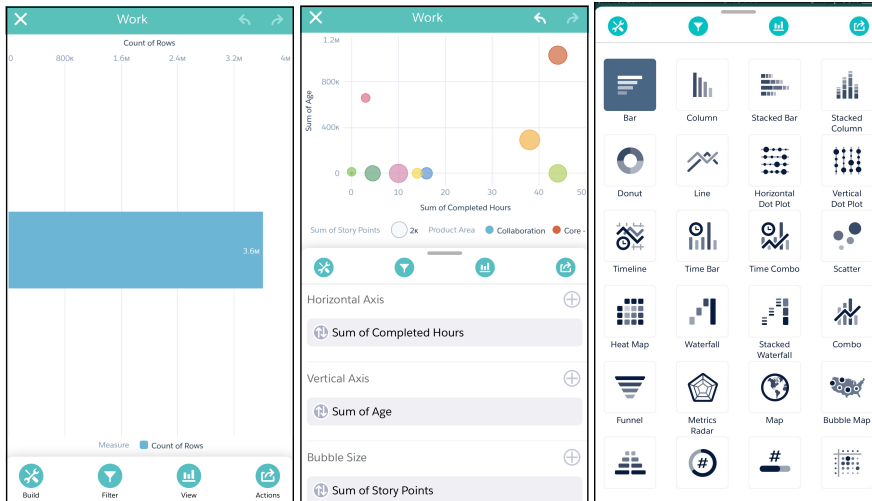
## Einstein Analytics for iOS のその他の機能強化

新しい探索環境を使用したり、通知を追跡したり、保存したダッシュボードビューにアクセスしたりできます。

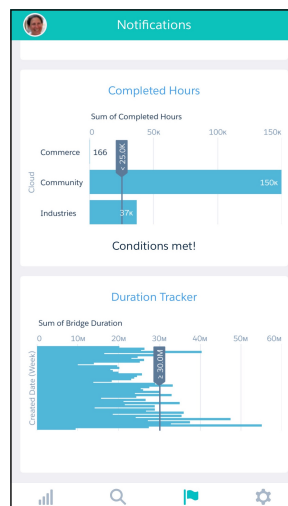
対象: これらの変更は、Einstein Analytics for iOS に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 最新リリースの機能強化には、次の機能が含まれます。

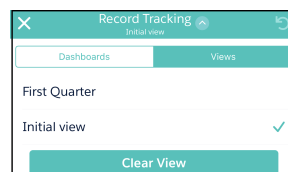
- デスクトップの Analytics と同じ新しい探索環境で、より簡単にデータの意味ある視覚化を作成できます。データセットまたはレンズを開くと、画面下部に [ビルド]、[検索条件]、[ビュー]、保存/共有の [アクション] アイコンが表示されます。[ビルド] では、基準とグループを追加するパネルが開きます。簡単にアクセスできるように、探索作業領域を全画面または半画面に展開します。



- [通知] セクションで、最も重要なビジネス総計値を追跡します。📌 をタップして通知追跡画面を開きます。デスクトップのAnalyticsで通知を設定したら、進行状況を追跡するタイルがここに表示されます。タイルをタップすると、通知を含むダッシュボードに直接移動します。



- すでに特定の検索条件と選択がすべて適用されたダッシュボードビューへのアクセスと共有を行います。ダッシュボードに保存されたビューがある場合、ダッシュボード名の横にあるドロップダウンには、アプリケーションの保存されたビューと他のアセット両方にアクセスする切り替えが含まれます。



- カスタムアプリケーションでの独自の地域データの表示が Einstein Analytics for iOS でサポートされるようになりました。

- Einstein Analytics には腕時計用のスタンドアロンアプリケーションが含まれなくなりました。iPhone と iPad 環境でのユーザーの操作性を向上することに集中するため、Analytics Apple Watch アプリケーションは削除されました。
- Einstein Analytics は iPhone X 向けに最適化されています。

方法: Analytics は iOS 10 以降が実行されているデバイスで使用できます。最新の機能強化を取得するには、App Store から Einstein Analytics をダウンロードします。

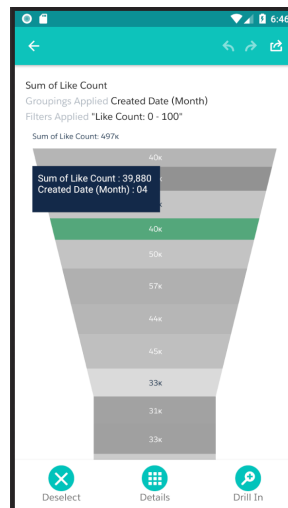
## Einstein Analytics for Android のその他の機能強化

グラフを探索し、保存されたダッシュボードビューにアクセスし、グローバルダッシュボード検索条件を調整できます。

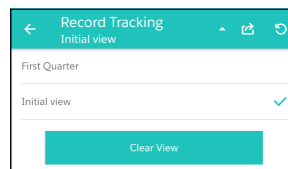
対象: これらの変更は、Einstein Analytics for Android に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 最新リリースの機能強化には、次の機能が含まれます。

- [ドリルイン] および [詳細] アクションによるグラフの探索。ダッシュボードでグラフをダブルタップするか、レンズを開きます。次に、グラフの要素をタップして選択します。画面下部の [詳細] アイコンで、選択した要素の元データを表示できます。[ドリルイン] アイコンでは、そのデータをさらに探索できます。

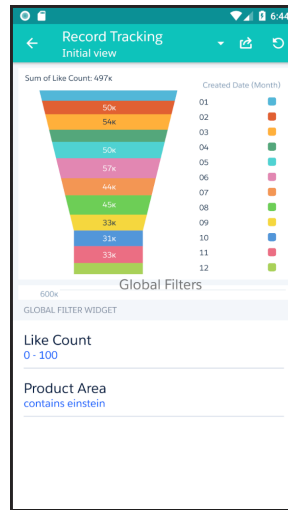


- 絞り込まれたダッシュボードビューへのアクセスと共有。ダッシュボードに複数の保存されたビューがある場合、ダッシュボード名の横にある下矢印をタップして他のビューを選択できます。



- グローバル検索条件ウィジェットを使用したダッシュボード検索条件の管理。ダッシュボードにグローバル検索条件がある場合、画面下部に検索条件アイコン (🔍) が表示されます。それをタップすると [グロー

バル検索条件]パネルが開き、そこで検索条件を調整して、複数のダッシュボードウィジェットへの影響を確認できます。



**方法:** Analytics は Android 5 以降が実行されているデバイスで使用できます。機能強化された最新のものを取得するには、Google Play™ から Einstein Analytics をダウンロードします。

## Salesforce オブジェクトでの Einstein Discovery のおすすめの表示 (正式リリース)

Einstein Discovery の予測機能を使用して、日々の業務の意思決定を改善します。いくつかの設定を行うことで、Einstein Discovery は結果を予測したり、選択した Salesforce オブジェクトの方策を推奨したりできます。

**対象:** この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics と Einstein Discovery は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の有料オプションで使用可能です。また、Developer Edition でも使用可能です。

**対象ユーザ:** Einstein Discovery モデルを Salesforce オブジェクトに接続するには、「Einstein Discovery モデルの接続」権限が必要です。管理パッケージをインストールするには、「アプリケーションのカスタマイズ」権限と「すべてのデータの編集」権限、または「接続アプリケーションの管理」権限が必要です。Apex トリガを定義するには、「Apex 開発」権限が必要です。

**方法:** Einstein Discovery でストーリーを作成し、モデルを Salesforce にリリースします。おすすめを表示する Salesforce のカスタム項目を作成し、Einstein Discovery をカスタム項目に接続します。Apex トリガの作成を支援する管理パッケージをインストールします。次に、Apex トリガを作成し、データ更新のたびに Einstein Discovery 予測を取得します。

関連トピック:

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## コミュニティ:事前作成済みのテーマ、固定された投稿、スレッドの終了

この夏は、Community Cloudがすばらしい新機能で波を起こします。コミュニティビルダーに標準搭載のテーマが導入されました。これでユーザはコミュニティのデザインを数クリックで変更できます。投稿の固定やスレッドの終了など、すばらしい新機能をフィードに追加してください。コミュニティでこれほど楽しいことがあるのだから夏休みは必要ありませんね。

**ヒント:** 最近の Salesforce には多くの Lightning (Lightning Experience、Lightning Bolt、Lightning コンポーネント) があり、それぞれのコミュニティへの適用方法を理解するのは難しいかもしれません。概要は次のとおりです。

Lightning コミュニティは、Lightning Experience と同様、Lightning プラットフォームと Lightning コンポーネントを基盤としています。ただし、これらを使用するために Lightning Experience を有効にする必要はありません。

このセクションの内容:

**Lightning コミュニティ: ターンキーのテーマ、順次表示、利用者の削除によるコミュニティビルダーの改善**  
Lightning ビルダーの標準搭載のテーマを使用して、数回のクリックで Lightning コミュニティのデザインを変更できます。順次表示を使用してコンポーネントの読み込みの優先度を決定し、コミュニティの第一印象を制御できます。不要になった利用者を削除できます。

**Lightning コミュニティ: Lightning の新しいコンポーネントと改善されたコンポーネント**

Lightning コミュニティで使用する新しいコンポーネントを追加しました。また、既存のコンポーネントをさらに改善しました。コミュニティにすべての Salesforce フィールドサービスオブジェクトへのアクセス権を付与できます。また、コミュニティメンバーはコミュニティで一時停止中のフローの表示と再開ができるようになります。

**セキュリティ: パスワードなしのログイン、ログインリンクの有効期間の設定**

ユーザがパスワードの代わりに確認コードを使用して簡単にログインできるようにします。検証に使用する電話番号やメールアドレスをユーザが管理するダッシュボードを作成できます。さまざまなコミュニティログインポリシーを設定して、内部ユーザの要件を緩和できます。さらに、コミュニティ環境を改善するために、ID トークンと検証リンクの有効期間を制御できます。

**コミュニティエンゲージメント: レコグニションバッジ (ベータ) および質問と回答の Journey Builder トリガ**  
活発なコミュニティとメンバーの継続的な関与を維持します。メンバーにマイルストーンに応じたレコグニションバッジを授与し、質問または回答活動の後にメールを送信できます。

**Lightning コミュニティの Chatter: 以降のアクションに対する会話の終了、投稿の固定とクロスコミュニティストリームの正式リリース**

Summer '18では、パイロットまたはベータ状況から正式リリースに移行する成熟した機能が導入されます。クロスコミュニティストリームおよび投稿の固定がパイロットおよびベータを卒業しました。また、新規アクションに対して投稿、質問、アンケートを終了するためのすばらしい新機能もあります。

### Partner Central: 代理取引先管理、利用者ターゲティング、チャンネルプログラムとレベルの共有、その他

パートナーユーザは、拡張された代理管理者を使用して独自のセールスチームを管理できます。システム管理者とチャンネルマネージャは、チャンネルプログラムとレベルに応じてカスタムコミュニティ環境を作成できます。パートナーユーザとマネージャは、強調表示されたキャンペーン、追加のデータ項目、市場開発資金使用時の柔軟性の向上などにより、キャンペーンマーケットプレイスをさらに活用できます。

### ファイル: ライブラリ管理および新しいファイル詳細ページ

コミュニティのライブラリとファイルをビジネスに合わせてカスタマイズします。画像を使用してライブラリタイトルコンポーネントに命を吹き込み、ブランドを強化してユーザを満足させます。標準項目とカスタム項目をファイル詳細ページに追加して、ビジネスで必要な情報を正確に追跡します。

### コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

## Lightning コミュニティ: ターンキーのテーマ、順次表示、利用者の削除によるコミュニティビルダーの改善

Lightning ビルダーの標準搭載のテーマを使用して、数回のクリックで Lightning コミュニティのデザインを変更できます。順次表示を使用してコンポーネントの読み込みの優先度を決定し、コミュニティの第一印象を制御できます。不要になった利用者を削除できます。

### このセクションの内容:

#### Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新

Lightning コミュニティの改善は常に行われていますが、最新のテンプレートを使用しないと、その利点を得ることができません。そのため、まだ更新していない場合は、乗り遅れないようにしてください。

#### カスタマーサービス (Napili) の新しい名前

コミュニティテンプレートの進化と拡張の一環として、カスタマーサービス (Napili) がカスタマーサービスと呼ばれるようになりました。

#### テーマを変更してコミュニティのデザインをすばやく更新

システム管理者と設計者は、コミュニティビルダーの新しいコントロールを使用して、事前作成済みテーマのライブラリから選択したり、コードではなくクリック操作でテーマをカスタマイズしたりできるようになりました。

#### 順次表示による顧客のコミュニティ環境の改善

順次表示を使用してコミュニティの第一印象をより詳細に制御できるようになりました。ページが読み込まれるときにコンポーネントが表示される順序を指定して、サイトの速度を最適化できます。たとえば、長いページの一番上の資料を最初に表示すると共に、画面ビューの外側にあるコンテンツは後で読み込むことができます。

#### Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの構築および配布

拡張された機能を反映するため、Lightning Bolt の名前が Lightning Bolt ソリューションに変更されました。必要に応じて Lightning コミュニティテンプレートまたはページを使用し、カスタムアプリケーションまたはフローを含む、Salesforce ターンキーソリューションを迅速かつ簡単に構築できます。ソリューションを他の組織に配布したり、AppExchange で共有または販売したりできます。

## 利用者の削除

使用されていないか、十分に使用されていない利用者を削除し、利用者のリストを現在の有効な利用者のリストに縮小します。利用者を削除すると、その利用者割り当てもすべて削除されます。利用者がどこかで使用されているかわからない場合もご安心ください。公開コミュニティと非公開コミュニティでその利用者が割り当てられているすべての場所が示されるため、その後の予想がつかます。

### ナビゲーションメニューとタイルメニューの変更をドラフトとして保存

これまで、稼働しているコミュニティのナビゲーションまたはタイルメニューに何かを追加すると、それはすぐに公開されていました。効果的ですが、項目や新しいアイデアを試すには少し注意が必要でした。稼働環境にすぐに移行されるためです。公開したくないものもあります。ナビゲーションメニューまたはタイルメニューに項目を追加すると、項目は公開準備ができるまでドラフト状態で維持されるようになりました。ナビゲーションメニューとタイルメニューへの変更は、[公開] をクリックするとすぐに他のすべてのものと一緒に公開されます。

### CMS Connect JSON を使用したコミュニティへの CMS コンテンツの表示 (正式リリース)

外部のコンテンツ管理システム (CMS) ですでに公開したブログや記事を再利用できるようになりました。CMS で JSON API がサポートされている場合、コンテンツをコミュニティページに取り込むことができます。この機能をベータで使用していた場合は、検索エンジン最適化と操作性が向上しています。コンテンツリストの [ノードパス] はコミュニティビルダーから CMS Connect メニューに移動しました。

### CMS Connect JSON 用の指定ログイン情報の設定 (正式リリース)

指定ログイン情報を使用して CMS Connect (JSON) 経由で認証済みコンテンツにアクセスできます。この機能をベータで使用していた場合、これをデフォルトで使用できることを除き、変更はありません。Salesforce サポートに連絡して有効化する必要はありません。

### SEO の改善によるコンテンツ検出の向上

検出の向上のために公開オブジェクトおよび項目を外部サービスでインデックス化できるようになりました。CMS Connect (JSON) フィードで提供されたコンテンツを含む、公開エンティティを外部サービスでインデックス化できるようにすることで、最小限の労力でより多くの利用者を得られます。インデックス化の対象を制御できます。

### トピックの詳細および検索結果の記事タイトルの <h1> タグを上書きしている場合の <h3> への更新

コミュニティへのアクセシビリティを改善するために、トピックの詳細および検索結果コンポーネントの記事タイトルの <h1> タグが更新されました。<h1> タグを上書きしている場合、作業を続行できるように <h3> に更新してください。

### 一部の Lightning コミュニティコンポーネントの <ui:button> の更新


コミュニティビルダーコンポーネント (ケースデフレクション、ピアツーピアコミュニティのグローバル検索、検索パブリッシャーと投稿パブリッシャー、トピック別上位の記事、関連レコードリスト) の <ui:button> が <lightning:button> に変更されました。

## Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新

Lightning コミュニティの改善は常に行われていますが、最新のテンプレートを使用しないと、その利点を得ることができません。そのため、まだ更新していない場合は、乗り遅れないようにしてください。

**対象:** Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティを更新します。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。



方法: Spring '18 から Summer '18 にコミュニティを更新する場合、コミュニティビルダーの更新フラグ () に連動する内容を次に示します。

- 更新が必要なアップグレード (言語ピッカーをコミュニティにインストールしている場合)。現在の設定は維持されますが、ボタンの外観と動作が少し異なるため、確認してください。
  - プロパティエディタコンテナの改善。
- ❗ 重要:** Summer '18 に更新する前に「[コミュニティの更新](#)」を参照し、更新がコミュニティにどのように影響するのかを確認してください。また、「[Migrate CSS Overrides \(CSS 上書きの移行\)](#)」を参照して、カスタム CSS に影響する可能性のある特定のセレクトタの変更も確認してください。次に、本番組織で更新する前に、Sandbox 組織でテスト実行を行います。
- ❗ 重要:** Winter '18 からコミュニティを更新していない場合は、このリリースノートで重要な情報を確認してください。このヘルプトピックはリリースプレビュー時に古くなるか、利用できなくなる可能性があります。そのため、更新のすべての影響を必ず把握しておいてください。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: コミュニティのテンプレートの更新](#)

[言語ピッカーの名前変更、およびその他の改善](#)

[Salesforce ヘルプ: カスタムテーマレイアウトとテーマレイアウトコンポーネント](#)

## カスタマーサービス (Napili) の新しい名前

コミュニティテンプレートの進化と拡張の一環として、カスタマーサービス (Napili) がカスタマーサービスと呼ばれるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

関連トピック:

[Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新](#)

[Salesforce ヘルプ: コミュニティのテンプレートの更新](#)

## テーマを変更してコミュニティのデザインをすばやく更新

システム管理者と設計者は、コミュニティビルダーの新しいコントロールを使用して、事前作成済みテーマのライブラリから選択したり、コードではなくクリック操作でテーマをカスタマイズしたりできるようになりました。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できません。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

方法: 新しいテーマを選択するには、コミュニティビルダーの [テーマ] メニューで [テーマを変更] を選択します。コミュニティや顧客のニーズに合わせてテーマの設定やコンポーネントを調整します。試しながら最も効果的なものを確認します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: コミュニティのテンプレートの更新](#)

[言語ピッカーの名前変更、およびその他の改善](#)

[Salesforce ヘルプ: カスタムテーマレイアウトとテーマレイアウトコンポーネント](#)

## 順次表示による顧客のコミュニティ環境の改善

順次表示を使用してコミュニティの第一印象をより詳細に制御できるようになりました。ページが読み込まれるときにコンポーネントが表示される順序を指定して、サイトの速度を最適化できます。たとえば、長いページの一番上の資料を最初に表示すると共に、画面ビューの外側にあるコンテンツは後で読み込むことができます。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

方法: この機能を利用するには、コミュニティビルダーの [詳細] 設定でオンにします。その後で、コンポーネントを3つの優先度グループ (最高、高、ニュートラル) のいずれかに割り当てて、個々のページの読み込み操作を制御できます。ページ操作のパフォーマンスが向上せずに低下することがないように、割り当てを公開する前にテストします。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 順次表示の概要](#)

## Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの構築および配布

拡張された機能を反映するため、Lightning Bolt の名前が Lightning Bolt ソリューションに変更されました。必要に応じて Lightning コミュニティテンプレートまたはページを使用し、カスタムアプリケーションまたはフローを含む、Salesforce ターンキーソリューションを迅速かつ簡単に構築できます。ソリューションを他の組織に配布したり、AppExchange で共有または販売したりできます。

関連トピック:

[Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの作成](#)

## 利用者の削除

使用されていないか、十分に使用されていない利用者を削除し、利用者のリストを現在の有効な利用者のリストに縮小します。利用者を削除すると、その利用者割り当てもすべて削除されます。利用者がどこかで使用されているかわからない場合もご安心ください。公開コミュニティと非公開コミュニティでその利用者が割り当てられているすべての場所が示されるため、その後の予想がつかます。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

## ナビゲーションメニューとタイトルメニューの変更をドラフトとして保存

これまで、稼働しているコミュニティのナビゲーションまたはタイトルメニューに何かを追加すると、それはすぐに公開されていました。効果的ですが、項目や新しいアイデアを試すには少し注意が必要でした。稼働環境にすぐに移行されるためです。公開したくないものもあります。ナビゲーションメニューまたはタイトルメニューに項目を追加すると、項目は公開準備ができるまでドラフト状態で維持されるようになりました。ナビゲーションメニューとタイトルメニューへの変更は、[公開]をクリックするとすぐに他のすべてのものと一緒に公開されます。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

## CMS Connect JSON を使用したコミュニティへの CMS コンテンツの表示 (正式リリース)

外部のコンテンツ管理システム (CMS) ですでに公開したブログや記事を再利用できるようになりました。CMS で JSON API がサポートされている場合、コンテンツをコミュニティページに取り込むことができます。この機能をベータで使用していた場合は、検索エンジン最適化と操作性が向上しています。コンテンツリストの[ノードパス]はコミュニティビルダーから CMS Connect メニューに移動しました。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

方法: この機能を初めて使用する場合、CMS 用の接続を作成し、CMS Connect (JSON) コンポーネントをコミュニティページに追加します。JSON 式を使用して、コンポーネントのプロパティを設定します。

#### 関連トピック:

[Lightning コミュニティ開発者ガイド: Reuse Content with CMS Connect JSON \(CMS Connect JSON でのコンテンツの再利用\)](#)

[Lightning コミュニティ開発者ガイド: Example: Connect JSON Content to Your Community \(例: コミュニティへの JSON コンテンツの接続\)](#)

## CMS Connect JSON 用の指定ログイン情報の設定 (正式リリース)

指定ログイン情報を使用して CMS Connect (JSON) 経由で認証済みコンテンツにアクセスできます。この機能をベータで使用していた場合、これをデフォルトで使用できることを除き、変更はありません。Salesforce サポートに連絡して有効化する必要はありません。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。指定ログイン情報を使用して JSON 接続のみを認証できます。

**方法:** CMS 接続を作成する前に、Salesforce 設定で指定ログイン情報を定義します。匿名プロトコルと指定ユーザープロトコルの両方がサポートされますが、ユーザ単位の認証はサポートされません。

コミュニティワークスペースを使用して接続を作成し、接続種別として [認証済み] (1) を選択します。次に、使用する指定ログイン情報 (2) を選択します。

関連トピック:

[Lightning コミュニティ開発者ガイド: Reuse Content with CMS Connect JSON \(CMS Connect JSON でのコンテンツの再利用\)](#)

## SEO の改善によるコンテンツ検出の向上

検出の向上のために公開オブジェクトおよび項目を外部サービスでインデックス化できるようになりました。CMS Connect (JSON) フィードで提供されたコンテンツを含む、公開エンティティを外部サービスでインデックス化できるようにすることで、最小限の労力でより多くの利用者を得られます。インデックス化の対象を制御できます。

対象: この変更はすべてのコミュニティに適用されます。

方法: コミュニティビルダーの [一般設定] で [公開アクセス] を有効にすると、新しい [SEO] タブを使用できます。ゲストユーザプロフィールでオブジェクトおよび項目を公開または非公開として設定し、インデックス化できる対象を制御します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: コミュニティの SEO の設定](#)

## トピックの詳細および検索結果の記事タイトルの <h1> タグを上書きしている場合の <h3> への更新

コミュニティへのアクセシビリティを改善するために、トピックの詳細および検索結果コンポーネントの記事タイトルの <h1> タグが更新されました。<h1> タグを上書きしている場合、作業を続行できるように <h3> に更新してください。

対象: この変更は、Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

## 一部の Lightning コミュニティコンポーネントの <ui:button> の更新

コミュニティビルダーコンポーネント(ケースデフレクション、ピアツーピアコミュニティのグローバル検索、検索パブリッシャーと投稿パブリッシャー、トピック別上位の記事、関連レコードリスト)の <ui:button> が <lightning:button> に変更されました。

対象: この変更は、Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

理由: 次のボタンが <lightning:button> に更新されています。

- [ケースデフレクション] コンポーネントのモバイルモーダルの [閉じる] ボタン
- [ピアツーピアコミュニティのグローバル検索] コンポーネントの [検索] ボタン、[モバイル検索] ボタン、および [閉じる] ボタン
- [検索パブリッシャーと投稿パブリッシャー] コンポーネントの [検索] ボタンと [閉じる] ボタン
- [トピック別上位の記事] コンポーネントの [表示件数を増やす] ボタン
- [関連レコードリスト] コンポーネントの [さらに表示] ボタン

Lightning 名前空間コンポーネントは、一般的な使用事例に合うように最適化されています。Lightning Design System のスタイル設定が装備されているコンポーネントの範囲を超えると、アクセシビリティ、リアルタイム操作、および拡張エラーメッセージが処理されます。

関連トピック:

[Lightning コンポーネント開発者ガイド: Lightning 基本コンポーネントの使用](#)

## Lightning コミュニティ: Lightning の新しいコンポーネントと改善されたコンポーネント

Lightning コミュニティで使用する新しいコンポーネントを追加しました。また、既存のコンポーネントをさらに改善しました。コミュニティにすべての Salesforce フィールドサービスオブジェクトへのアクセス権を付与できます。また、コミュニティメンバーはコミュニティで一時停止中のフローの表示と再開ができるようになります。

## このセクションの内容:

### Lightning コミュニティでのフィールドサービスデータへのアクセス

任意のフィールドサービスオブジェクトを Lightning コミュニティに追加して、レコードをパートナー、コントラクター、および顧客と共有します。以前は、作業指示、作業指示品目、サービス予定のみを Lightning コミュニティで使用できました。

### コミュニティメンバーへの推奨アクションと提案 (Pilot)

新しい[推奨アクション]コンポーネントを追加し、Lightning コミュニティメンバーに表示する提案を決定する戦略を実行します。提案は、一般的なアクションや特別なオファーの提供など、任意の目的に使用できます。戦略の設定時に、特定の提案を表示する条件を付与できます。このコンポーネントは「Einstein 次善アクション」パイロットの一部として使用可能です。

### 一時停止中のフローの表示と再開をユーザに許可

新しい[一時停止中のフロー]コンポーネントを追加すると、Lightning コミュニティメンバーは、自分が所有するすべての一時停止中のフローを表示でき、作業を失うことなく都合の良い時間に再開したり、削除したりできます。フローの設定時に、特定の一時停止ポイントを選択できます。

### コミュニティでの活動タイムラインの使用

コミュニティで活動タイムラインを使用して活動予定や活動履歴を追跡し、それらをレコード情報タブから参照できるようになりました。活動タイムラインは、取引先、キャンペーン、取引先責任者、契約、リード、商談、注文、見積のほか、活動に対応するカスタムオブジェクトでサポートされます。

### コミュニティのカレンダーの柔軟性向上

ユーザは、カレンダーの行動を新しい時間枠にドラッグしてすばやく更新できます。サイドパネルの詳細を表示または非表示にすることもできます。

### 言語ピッカーの名前変更、およびその他の改善

コミュニティビルダーの言語ピッカーコンポーネントの名前を言語セレクトタに変更しました。また、[表示ラベル]項目も追加しました。これは、アクセシビリティに役立ち、ページで言語セレクトタが何をすることをユーザに示します。さらに、ボタンテキスト配置項目がドロップダウンになりました。このドロップダウンで、ボタン上のテキストの表示方法を選択できます。

### カスタマーサポートへの連絡ボタンを使用したコミュニティユーザによるケースの作成

スタンドアロンの[カスタマーサポートへの連絡]ボタンコンポーネントを Lightning コミュニティに追加しました。以前、【カスタマーサポートへの連絡】ボタンは[質問]ボタンコンポーネントとの組み合わせでのみ使用できました。

### ケースデフレクションコンポーネントと【カスタマーサポートへの連絡】フォームコンポーネントでの容易なトピックの選択、[ファイルのアップロード]ボタンの表示ラベルのカスタマイズ、その他

ケースデフレクションコンポーネントと【カスタマーサポートへの連絡】フォームコンポーネントでは多くの改善が行われたため、顧客は質問への答えをより迅速に見つけることができます。システム管理者は、【カスタマーサポートへの連絡】フォームコンポーネントの[ファイルのアップロード]ボタンの表示ラベルを自由にカスタマイズできるようになりました。また、ケースデフレクションコンポーネントのプロパティエディタの[トピックID]項目がドロップダウンメニューになりました。このドロップダウンメニューには、コミュニティの主要トピックとナビゲーショントピックのほか、コミュニティメンバーが追加したすべてのトピックが含まれます。ケースデフレクションコンポーネントにデフォルトで記事が表示されるようになりました。ディスカッションのプレビューは参照のみです。

### 【カスタマーサポートへの連絡】の件名行を監視して顧客の懸念事項を追跡

件名項目 (用語) が [コミュニティのケースデフレクションレポート] カスタムレポートタイプに追加されました。これにより、顧客が【カスタマーサポートへの連絡】フォームコンポーネントを使用してサポートに問い合わせたときに、役に立つ提案を得られなかった件名行についてレポートできます。これが会社にどのように役立つのでしょうか? サポートへの問い合わせ時に顧客が最も使用している件名を見つけることができます。これは、最も多くの問題が発生している商品の領域を示します。結果に基づき、コミュニティにナレッジ記事やトピックを作成できるため、顧客は回答をよりすばやく見つけることができます。また、改善の余地がある領域を強調することができます。

### 顧客によるコミュニティからの予定の予約 (ベータ)

Snap-in 予定管理を使用して、顧客が予定の予約を行うことができるようになります。Field Service と新しい Snap-in を設定したら、コミュニティビルダーの新しい Snap-in 予定管理コンポーネントを使用してコミュニティに追加します。

### Snap-In チャットコンポーネントの活用

チャットのルーティング順序を設定し、チャットを開始する前に顧客の順番を表示することができるようになりました。オフラインサポートを使用する場合、エージェントがオフライン中に Snap-in に表示される表示ラベルを設定できます。さらに、カスタムチャットイベントの作成に使用する外部スクリプトおよびスタイルの静的リソース名を追加できます。

### ユーザ設定の [接続済みソース] タブの非表示

[接続済みソース] タブを非表示にするコントロールがコミュニティビルダーのユーザ設定コンポーネントに含まれるようになりました。このタブがコミュニティにとって便利でない場合、簡単に削除できます。

### Winter '19 での連動選択リストの更新

Lightning コンポーネントの連動選択リストは、Winter '19 リリースで Salesforce Classic と同様に動作するように更新され、デフォルト値を設定できなくなります。これによってサイトが破損することはありませんが、カスタマーエクスペリエンスが変わります。

## Lightning コミュニティでのフィールドサービスデータへのアクセス

任意のフィールドサービスオブジェクトを Lightning コミュニティに追加して、レコードをパートナー、コントラクター、および顧客と共有します。以前は、作業指示、作業指示品目、サービス予定のみを Lightning コミュニティで使用できました。

**対象:** この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic およびすべての種類の Salesforce モバイルアプリケーション経由でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**方法:** 詳細は、「[Lightning コミュニティでのフィールドサービスの管理](#)」を参照してください。

## コミュニティメンバーへの推奨アクションと提案 (Pilot)

新しい [推奨アクション] コンポーネントを追加し、Lightning コミュニティメンバーに表示する提案を決定する戦略を実行します。提案は、一般的なアクションや特別なオファーの提供など、任意の目的に使用できます。戦略の設定時に、特定の提案を表示する条件を付与できます。このコンポーネントは「Einstein 次善アクション」パイロットの一部として使用可能です。

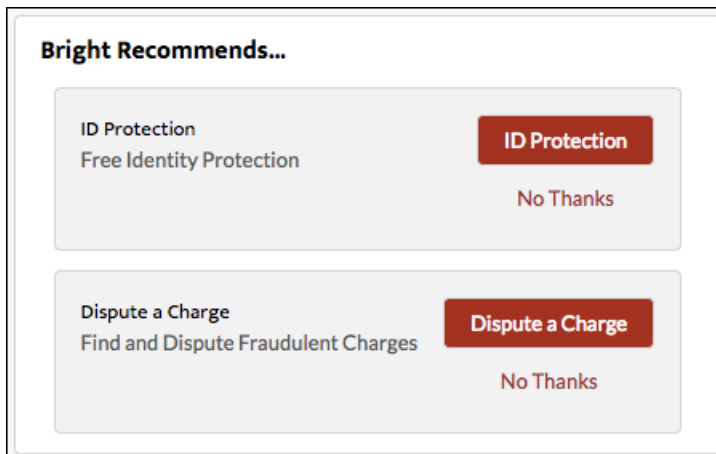


**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**メモ:** Einstein 次善アクションは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Einstein 次善アクションは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Einstein 次善アクションについてのフィードバックと提案は、[IdeaExchange](#) からお寄せください。

**対象ユーザ:** ユーザが提案ボタンをクリックすると、画面フローが起動されます。フローを実行するには、コミュニティメンバーに「フローを実行」権限があるか、コミュニティメンバーのユーザの詳細ページで「フローユーザ」項目が有効になっている必要があります。フローは、認証されていないユーザではサポートされません。

**理由:** 顧客がサポートに関するケースを作成し、その進行状況を追跡するリンクをクリックしたとします。説明に「lost credit card」(クレジットカードの紛失)と記載されている場合、コミュニティに2つの推奨フローが表示されます。1つは、無料の ID 保護を提供するフロー、もう1つは、クレジットカードへの最近の請求に対して顧客が異議を申し立てることができるフローです。



関連トピック:

[Einstein 次善アクション: 戦略を使用した提案アクションとオファー \(パイロット\)](#)

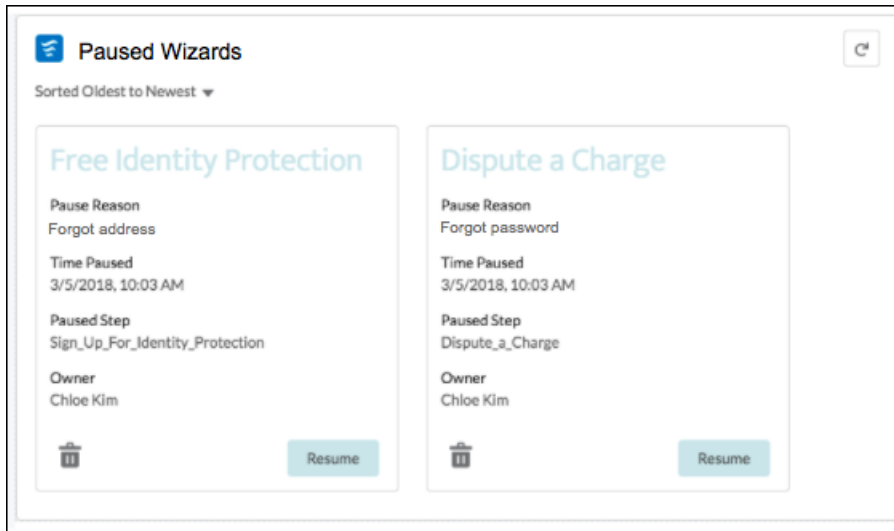
## 一時停止中のフローの表示と再開をユーザに許可

新しい [一時停止中のフロー] コンポーネントを追加すると、Lightning コミュニティメンバーは、自分が所有するすべての一時停止中のフローを表示でき、作業を失うことなく都合の良い時間に再開したり、削除したりできます。フローの設定時に、特定の一時停止ポイントを選択できます。


**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: フローを一時停止するには、コミュニティメンバーに「フローの実行」権限が必要です。

理由: たとえば、金融会社に顧客のクレジットカード申請をサポートするフローがあるとします。いくつかのステップのうちの1つで顧客が行き詰まります(12年前の住所はどこでしたか?)。顧客は[一時停止]を押すことで、前の画面の情報を失うことなく必要な情報を探すことができます。または、顧客はステップを一時停止し、フォームを続行するための支援を必要とするかもしれません。顧客は会社に連絡し、サービスエージェントが代わりにフローを続行できます。



方法: [設定] > [プロセスの自動化設定] で、[フローの一時停止をユーザに許可] を選択します。フローの一時停止ポイントを設定したら、コミュニティビルダーで[一時停止中のフロー] コンポーネントを使用できます。

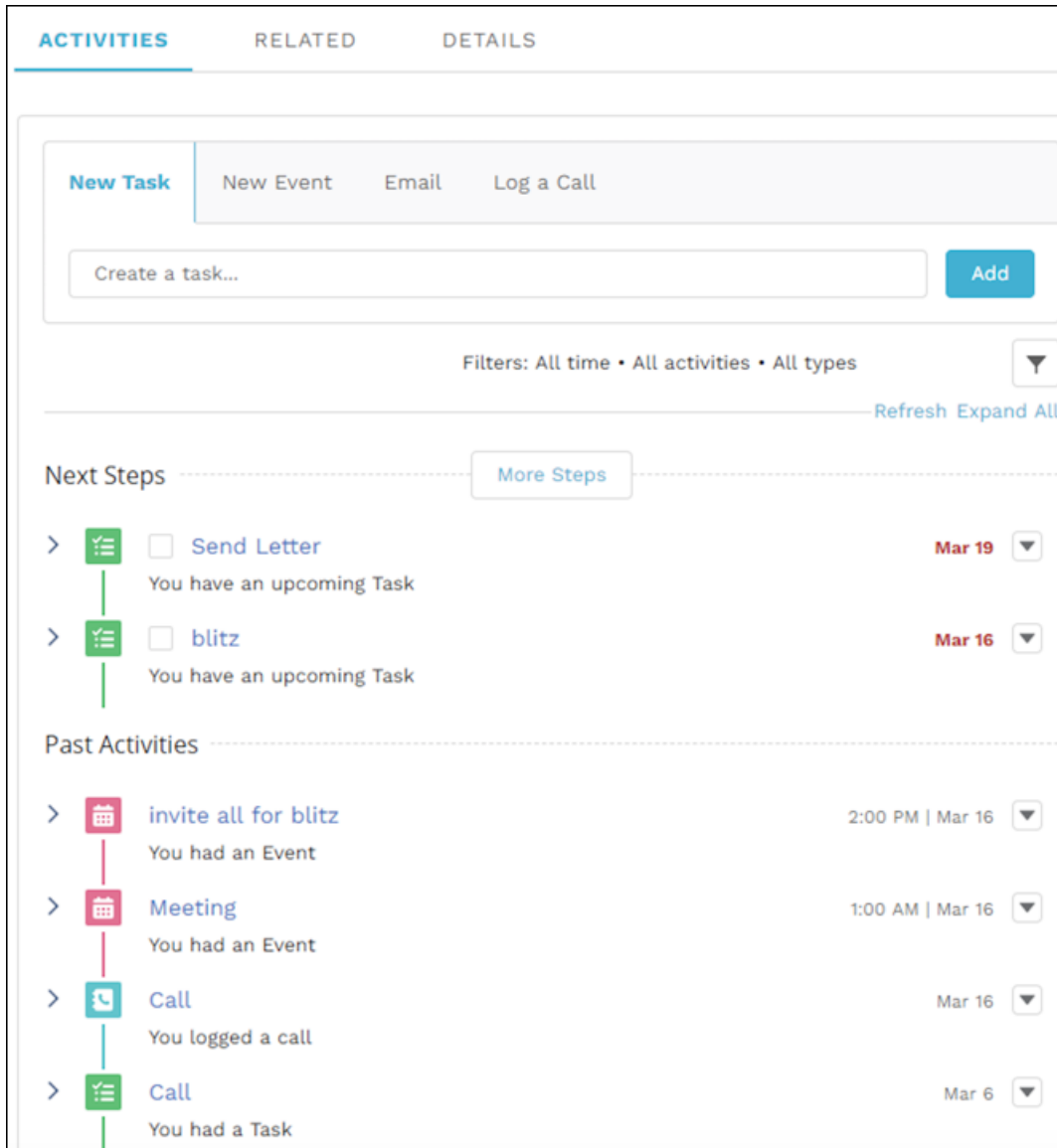
 **メモ:** Salesforce ではこれをフローと呼んでいますが、会社によってはこれをプロセス、フォーム、ステップ、またはウィザードと呼んでいる可能性があります。タイトル項目では、顧客が理解できる命名規則を使用してください。

## コミュニティでの活動タイムラインの使用

コミュニティで活動タイムラインを使用して活動予定や活動履歴を追跡し、それらをレコード情報タブから参照できるようになりました。活動タイムラインは、取引先、キャンペーン、取引先責任者、契約、リード、商談、注文、見積のほか、活動に対応するカスタムオブジェクトでサポートされます。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

パートナーコミュニティから活動タイムラインを使用してすべての活動を追跡および管理できます。



## コミュニティのカレンダーの柔軟性向上

ユーザは、カレンダーの行動を新しい時間枠にドラッグしてすばやく更新できます。サイドパネルの詳細を表示または非表示にすることもできます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

このコンポーネントはコミュニティビルダーにあります。

- 📌 **メモ:** コミュニティカレンダーのサイドパネルを表示または非表示にするオプションは、[カレンダーのサイドバーを表示]に設定されているカレンダーでのみ使用できます。

#### 関連トピック:

[Lightning Experience でカレンダー項目をドラッグして更新](#)

[Lightning Experience のカレンダービューの強化](#)

## 言語ピッカーの名前変更、およびその他の改善

コミュニティビルダーの言語ピッカーコンポーネントの名前を言語セレクトタに変更しました。また、[表示ラベル]項目も追加しました。これは、アクセシビリティに役立ち、ページで言語セレクトタが何をするかをユーザに示します。さらに、ボタンテキスト配置項目がドロップダウンになりました。このドロップダウンで、ボタン上のテキストの表示方法を選択できます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

**方法:** Summer'18で加えられた言語セレクトタへの変更を確認するには、コミュニティビルダーでコミュニティテンプレートを手動で更新する必要があります。

## カスタマーサポートへの連絡ボタンを使用したコミュニティユーザによるケースの作成

スタンドアロンの[カスタマーサポートへの連絡]ボタンコンポーネントを Lightning コミュニティに追加しました。以前、【カスタマーサポートへの連絡】ボタンは[質問]ボタンコンポーネントとの組み合わせでのみ使用できました。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

**理由:** デザインの観点から、これらのアクションとボタンを分離したままの方がよいです。新しい【カスタマーサポートへの連絡】ボタンでは、コミュニティの異なる部分に異なる行動要請を柔軟に配置できます。

## ケースデフレクションコンポーネントと【カスタマーサポートへの連絡】フォームコンポーネントでの容易なトピックの選択、[ファイルのアップロード] ボタンの表示ラベルのカスタマイズ、その他

ケースデフレクションコンポーネントと【カスタマーサポートへの連絡】フォームコンポーネントでは多くの改善が行われたため、顧客は質問への答えをより迅速に見つけることができます。システム管理者は、【カスタマーサポートへの連絡】フォームコンポーネントの[ファイルのアップロード]ボタンの表示ラベルを自由にカスタマイズできるようになりました。また、ケースデフレクションコンポーネントのプロパティエディタの[トピックID]項目がドロップダウンメニューになりました。このドロップダウンメニューには、コミュニティの主要トピックとナビゲーショントピックのほか、コミュニティメンバーが追加したすべてのトピックが含まれます。ケースデフレクションコンポーネントにデフォルトで記事が表示されるようになりました。ディスカッションのプレビューは参照のみです。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

### 【カスタマーサポートへの連絡】の件名行を監視して顧客の懸念事項を追跡


件名項目(用語)が[コミュニティのケースデフレクションレポート]カスタムレポートタイプに追加されました。これにより、顧客が【カスタマーサポートへの連絡】フォームコンポーネントを使用してサポートに問い合わせたときに、役に立つ提案を得られなかった件名行についてレポートできます。これが会社にどのように役立つのでしょうか? サポートへの問い合わせ時に顧客が最も使用している件名を見つけることができます。これは、最も多くの問題が発生している商品の領域を示します。結果に基づき、コミュニティにナレッジ記事やトピックを作成できるため、顧客は回答をよりすばやく見つけることができます。また、改善の余地がある領域を強調することができます。

対象: この機能は、Summer '18 リリースの直後に、Community Cloud の「ケースデフレクション分析」パッケージの一部として使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

### 顧客によるコミュニティからの予定の予約 (ベータ)

Snap-in 予定管理を使用して、顧客が予定の予約を行うことができるようになります。Field Service と新しい Snap-in を設定したら、コミュニティビルダーの新しい Snap-in 予定管理コンポーネントを使用してコミュニティに追加します。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

 **メモ:** Snap-in 予定管理はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は

一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

関連トピック:

[Snap-In 予定管理: 顧客が予定を予約、変更、キャンセルできるようにする \(ベータ\)](#)

## Snap-In チャットコンポーネントの活用

チャットのルーティング順序を設定し、チャットを開始する前に顧客の順番を表示することができるようになりました。オフラインサポートを使用する場合、エージェントがオフライン中に Snap-in に表示される表示ラベルを設定できます。さらに、カスタムチャットイベントの作成に使用する外部スクリプトおよびスタイルの静的リソース名を追加できます。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

関連トピック:

[転送順序の適切な設定 - チャットのエージェントへの割り当て方法の調整](#)

[チャット開始前の顧客の順番の表示](#)

[チャットエージェントの勤務時間外のケースの収集](#)

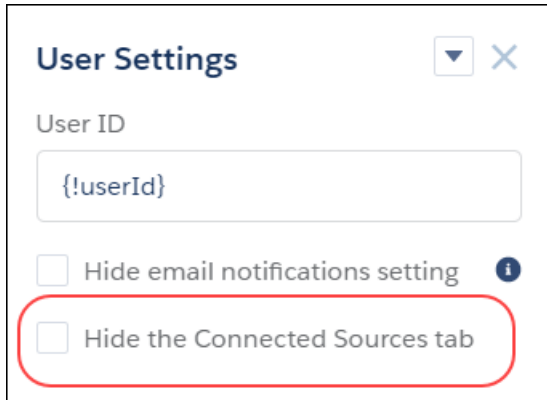
[独自のチャット用カスタムイベントの作成](#)

## ユーザ設定の [接続済みソース] タブの非表示

[接続済みソース] タブを非表示にするコントロールがコミュニティビルダーのユーザ設定コンポーネントに含まれるようになりました。このタブがコミュニティにとって便利でない場合、簡単に削除できます。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

方法: ユーザ設定コンポーネントのプロパティで、[[接続済みソース] タブを非表示] を選択します。



## Winter '19 での連動選択リストの更新

Lightning コンポーネントの連動選択リストは、Winter '19 リリースで Salesforce Classic と同様に動作するように更新され、デフォルト値を設定できなくなります。これによってサイトが破損することはありませんが、カスタマーエクスペリエンスが変わります。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 連動項目の考慮事項](#)

## セキュリティ: パスワードなしのログイン、ログインリンクの有効期間の設定

ユーザがパスワードの代わりに確認コードを使用して簡単にログインできるようにします。検証に使用する電話番号やメールアドレスをユーザが管理するダッシュボードを作成できます。さまざまなコミュニティログインポリシーを設定して、内部ユーザの要件を緩和できます。さらに、コミュニティ環境を改善するために、ID トークンと検証リンクの有効期間を制御できます。

このセクションの内容:

### [取引先ロールを最適化してパフォーマンスの向上と組織の拡張を図る \(正式リリース\)](#)

カスタマーおよびパートナーコミュニティ取引先で使用するロールの数を最小にすることで、パフォーマンスを向上できます。1つのコミュニティユーザが大量の法人取引先を持つことが予想される場合は、取引先ロールの最適化を使用することを考慮してください。このシナリオでは、1人の従業員が所有する、1つのコミュニティユーザを持つすべての取引先が1つの共有個人ロールを使用します。この最適化によって、数千もの取引先ロールが不要になる場合があります。この機能は、Spring '18 ではパイロットでしたが、正式リリースされました。

### [パスワードの代わりに ID 検証方法で容易になったコミュニティユーザのログイン](#)

コミュニティメンバー、顧客、およびその他の外部ユーザがパスワードの代わりに確認コードを使用して簡単にコミュニティにログインできるようにします。たとえば、メールやテキストメッセージで送信したコードを使用して外部ユーザがログインできるようにします。この機能は、パスワードなしのログインと呼ばれます。

### お知らせメールのコミュニティリンクの有効期限

お知らせメールに含めて送信しているコミュニティへの便利なリンクをご存知ですか? このリンクの有効期間を決定できるようになりました。1日ですか? 7日ですか? 180日ですか? あなた次第です。

### 24時間後に期限切れになる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンク

ユーザへのメールに含まれる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンクは24時間後に期限切れになります。以前は、これらのリンクに有効期限がありませんでした。新しい有効期間は、Summer '18 より前に送信されたメールのパスワードのリセットリンクにも適用されます。

### パスワードを忘れた場合のメールに記載されたリンクをすぐに期限切れにしない

誰でもパスワードを忘れてリセットを要求することがありますよね? ユーザの操作環境を改善し、パスワードを忘れた場合のメールに記載されるパスワードのリセットリンクを、ユーザがパスワードリセット要求を確認するまで有効にしておきます。以前は、パスワードを忘れた場合のメールのリンクがクリックされるとその有効期限が切れていました。

### ユーザが確認および管理できるようになった検証方法

ユーザが組織にアクセスするために使用する ID 検証方法をより詳細に制御できるようになりました。管理ツールを使用して、内部ユーザと外部ユーザの両方のカスタム登録画面および検証ダッシュボードを構築できます。カスタムインターフェースにより、ユーザは検証に使用する携帯電話番号とメールアドレスを確認および管理できます。

### ID トークンの発行者 URL から削除された末尾のスラッシュ

ID トークンにルートパスプレフィックス (/) がないコミュニティの発行者 URL に末尾のスラッシュ (/) が追加されなくなりました。これは、OpenID Connect 検出標準に準拠する変更です。

### HTTP または HTTPS が必須になった認証プロバイダエンドポイント

認証プロバイダエンドポイントは、HTTP または HTTPS で始まる必要があります。data://、feed://、ftp:// などの HTTP 以外のプロトコルは、認証プロバイダ URL でサポートされなくなりました。

### ID トークンの有効期間と利用者の設定

接続アプリケーションの認証設定を行うときに、ID トークンの発効後の有効期間を指定できるようになりました。また、ID トークンの複数の利用者を指定することもできます。

### Salesforce ユーザとコミュニティユーザで異なるログインポリシーの設定 (ベータ)

組織でコミュニティを設定している場合、内部ユーザに異なるログインポリシーを指定できます。Salesforce アプリケーションとコミュニティへのアクセスを別個に制御できます。たとえば、内部の信頼できるユーザに対するデバイスの有効化と IP の制約を緩和して、より適切なログイン環境を提供できます。

### コミュニティの外部ユーザの ID を検証するオプションの名前変更

外部ユーザが新しいデバイスまたはブラウザから Salesforce コミュニティにアクセスした場合、追加のセキュリティ対策としてそのユーザの ID を確認できます。外部ユーザのプロファイルの [外部ユーザが新しいブラウザまたはデバイスから Salesforce にアクセスした場合に ID を確認する (デバイスの有効化)] オプションの名前が [デバイスの有効化を有効化] に変更されました。

### ヘッドマークアップが有効であることの確認

カスタムマークアップは <head> マークアップ内にありますか? セキュリティを強化するために、Summer '19 では、既存のコードが動作するにはそのすべてのコードが <head> に準拠する必要があると、新規コードを保存するにはそのすべてのコードがこのマークアップに準拠する必要があります。この機能強化は、Winter '18 で導入された変更に基づきます。その変更では、<head> に特別な制限が適用されました。



## 取引先ロールを最適化してパフォーマンスの向上と組織の拡張を図る (正式リリース)

カスタマーおよびパートナーコミュニティ取引先で使用するロールの数を最小にすることで、パフォーマンスを向上できます。1つのコミュニティユーザが大量の法人取引先を持つことが予想される場合は、取引先ロールの最適化を使用することを考慮してください。このシナリオでは、1人の従業員が所有する、1つのコミュニティユーザを持つすべての取引先が1つの共有個人ロールを使用します。この最適化によって、数千もの取引先ロールが不要になる場合があります。この機能は、Spring'18ではパイロットでしたが、正式リリースされました。

対象: この変更はすべてのコミュニティに適用されます。

方法:

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「共有設定」と入力し、[共有設定] を選択します。
2. [その他の設定] セクションで、[コミュニティ取引先の最初のユーザに対して個人ロールを使用] を有効にします。

## パスワードの代わりに ID 検証方法で容易になったコミュニティユーザのログイン

コミュニティメンバー、顧客、およびその他の外部ユーザがパスワードの代わりに確認コードを使用して簡単にコミュニティにログインできるようにします。たとえば、メールやテキストメッセージで送信したコードを使用して外部ユーザがログインできるようにします。この機能は、パスワードなしのログインと呼ばれます。

対象: この機能は、Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: この機能は、外部 ID またはコミュニティライセンスを持つユーザのみが使用できます。SMS 検証方法 (ベータ) を使用する場合は、Salesforce カスタマーサポートまでお問い合わせください。

関連トピック:

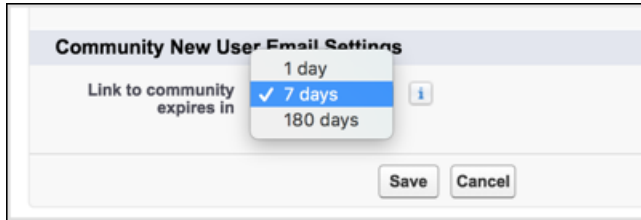
[パスワードなしのログインで容易になった外部ユーザのコミュニティへのログイン](#)

## お知らせメールのコミュニティリンクの有効期限

お知らせメールに含めて送信しているコミュニティへの便利なリンクをご存知ですか? このリンクの有効期間を決定できるようになりました。1日ですか? 7日ですか? 180日ですか? あなた次第です。

対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic およびすべての種類の Salesforce モバイルアプリケーション経由でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

方法: [コミュニティ設定] で、リンクを有効にする期間を選択します。



関連トピック:

[お知らせメールのリンクの有効期限設定](#)

## 24 時間後に期限切れになる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンク

ユーザへのメールに含まれる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンクは 24 時間後に期限切れになります。以前は、これらのリンクに有効期限がありませんでした。新しい有効期間は、Summer '18 より前に送信されたメールのパスワードのリセットリンクにも適用されます。

**対象:**この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべての種類の Salesforce モバイルアプリケーションでアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

[24 時間後に期限切れになる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンク](#)

## パスワードを忘れた場合のメールに記載されたリンクをすぐに期限切れにしない

誰でもパスワードを忘れてリセットを要求することがありますよね? ユーザの操作環境を改善し、パスワードを忘れた場合のメールに記載されるパスワードのリセットリンクを、ユーザがパスワードリセット要求を確認するまで有効にしておきます。以前は、パスワードを忘れた場合のメールのリンクがクリックされるとその有効期限が切れていました。

**対象:**この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべての種類の Salesforce モバイルアプリケーションでアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

[パスワードを忘れた場合のメールに記載されたリンクをすぐに期限切れにしない](#)

## ユーザが確認および管理できるようになった検証方法

ユーザが組織にアクセスするために使用する ID 検証方法をより詳細に制御できるようになりました。管理ツールを使用して、内部ユーザと外部ユーザの両方のカスタム登録画面および検証ダッシュボードを構築できます。カスタムインターフェースにより、ユーザは検証に使用する携帯電話番号とメールアドレスを確認および管理できます。

**対象:** この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic 経由でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

[ユーザが確認および管理できるようになった検証方法](#)

## ID トークンの発行者 URL から削除された末尾のスラッシュ

ID トークンにルートパスプレフィックス (/) がないコミュニティの発行者 URL に末尾のスラッシュ (/) が追加されなくなりました。これは、OpenID Connect 検出標準に準拠する変更です。

**対象:** この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic 経由でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

[ID トークンの発行者 URL から削除された末尾のスラッシュ](#)

## HTTP または HTTPS が必須になった認証プロバイダエンドポイント

認証プロバイダエンドポイントは、HTTP または HTTPS で始まる必要があります。data://、feed://、ftp:// などの HTTP 以外のプロトコルは、認証プロバイダ URL でサポートされなくなりました。

**対象:** この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic 経由でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

[HTTP または HTTPS が必須になった認証プロバイダエンドポイント](#)

## ID トークンの有効期間と利用者の設定

接続アプリケーションの認証設定を行うときに、ID トークンの発効後の有効期間を指定できるようになりました。また、ID トークンの複数の利用者を指定することもできます。

**対象:** この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic 経由でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

[ID トークンの有効期間と利用者の設定](#)

## Salesforce ユーザとコミュニティユーザで異なるログインポリシーの設定 (ベータ)

組織でコミュニティを設定している場合、内部ユーザに異なるログインポリシーを指定できます。Salesforce アプリケーションとコミュニティへのアクセスを別個に制御できます。たとえば、内部の信頼できるユーザに対するデバイスの有効化と IP の制約を緩和して、より適切なログイン環境を提供できます。

**対象:** この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべての種類の Salesforce モバイルアプリケーションでアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

[Salesforce ユーザとコミュニティユーザで異なるログインポリシーの設定 \(ベータ\)](#)

## コミュニティの外部ユーザの ID を検証するオプションの名前変更

外部ユーザが新しいデバイスまたはブラウザから Salesforce コミュニティにアクセスした場合、追加のセキュリティ対策としてそのユーザの ID を確認できます。外部ユーザのプロファイルの [外部ユーザが新しいブラウザまたはデバイスから Salesforce にアクセスした場合に ID を確認する (デバイスの有効化)] オプションの名前が [デバイスの有効化を有効化] に変更されました。

**対象:** この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic 経由でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

[コミュニティの外部ユーザの ID を検証するオプションの名前変更](#)

## ヘッドマークアップが有効であることの確認

カスタムマークアップは <head> マークアップ内にありますか? セキュリティを強化するために、Summer '19 では、既存のコードが動作するにはそのすべてのコードが <head> に準拠する必要があり、新規コードを保存するにはそのすべてのコードがこのマークアップに準拠する必要があります。この機能強化は、Winter '18 で導入された変更に基づきます。その変更では、<head> に特別な制限が適用されました。

**対象:** この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

方法: コードに問題がないかどうか不明な場合は、コミュニティビルダーの [詳細] 設定タブで [ヘッドマークアップ] セクションを確認します。無効なコードがある場合、修正するように通知するアラートが表示されます。コードを追加する場合は、コードウィンドウのインジケータに注意してください。ただし、インジケータを見逃しても、保存時に、問題があるかどうかと問題の場所が通知されます。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: ページの <head> へのマークアップの追加](#)

## コミュニティエンゲージメント:レコグニションバッジ (ベータ) および質問と回答の Journey Builder トリガ

活発なコミュニティとメンバーの継続的な関与を維持します。メンバーにマイルストーンに応じたレコグニションバッジを授与し、質問または回答活動の後にメールを送信できます。

このセクションの内容:

### レコグニションバッジでコミュニティメンバーを祝福 (ベータ)

レコグニションバッジを使用してメンバーの成果を認めることで、メンバーの関与を維持します。Work.com の感謝バッジをベースにして、個々のメンバーを認めるバッジを作成し、授与することができます。すぐに開始できるように、バッジをいくつか用意しました。「祝辞」、「成功」、「感謝」、「ようこそ」です。または、独自のバッジを作成することもできます。バッジは、フィードとメンバーのプロファイルに表示されます。

### マーケティングジャーニーを使用してメンバーの質問および回答活動に褒賞を与える

コミュニティエンゲージメントは、コミュニティフィード活動に基づきます。質問したか、質問に回答したメンバーとつながったり、最近あまり活発でないメンバーに連絡したりして、コミュニティにメンバーが常に関与するようにします。

### 一括投稿を使用して複数のメンバーに一度に連絡

特殊なイベントや通知など、多くのコミュニティメンバーに投稿する必要があるメッセージがあるとします。各メンバーに投稿することは、時間のかかる作業です。代わりに、エンゲージメントキューで一括投稿を使用して、このメッセージを最大 500 人のメンバーに一度に投稿します。

### 更新されたエンゲージメントキューページの外観

エンゲージメントキューのページが他のキューと合った新しいデザインになりました。絞り込みが容易になり、一括アクションのカスタマイズができます。

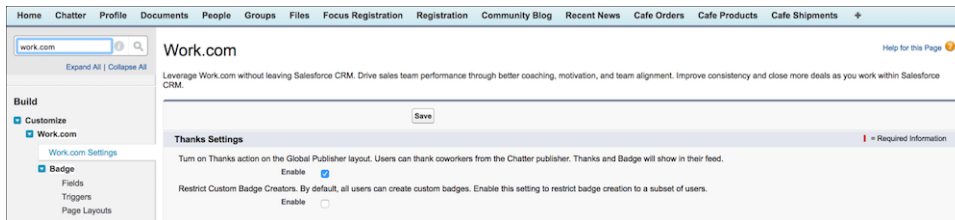
## レコグニションバッジでコミュニティメンバーを祝福 (ベータ)

レコグニションバッジを使用してメンバーの成果を認めることで、メンバーの関与を維持します。Work.com の感謝バッジをベースにして、個々のメンバーを認めるバッジを作成し、授与することができます。すぐに開始できるように、バッジをいくつか用意しました。「祝辞」、「成功」、「感謝」、「ようこそ」です。または、独自のバッジを作成することもできます。バッジは、フィードとメンバーのプロファイルに表示されます。

**対象:**この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

レコグニションバッジと [ゲーミフィケーション] タイルはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。レコグニションバッジは、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。レコグニションバッジに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「[Lightning Community Badges \(Summer 18\)](#)」グループに投稿してください。組織でのこの機能の有効化についての詳細は、Salesforce サポートにお問い合わせください。または、Trailblazer Community で製品マネージャにお問い合わせください。

**方法:** Work.com の感謝機能を有効にします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「work.com」と入力し、[Work.comの設定]を選択します。作成されるカスタムバッジの数を制御し、重複を回避するために、カスタムバッジの作成はコミュニティマネージャのみに許可することをお勧めします。



次に、Lightning コミュニティのワークスペースに移動し、[ゲーミフィケーション] タイルをクリックして、レコグニションバッジのすばらしい世界に入ります。

BADGE NAME	DESCRIPTION	ACTIVE	CREATED BY	CREATED DATE	LAST MODIFIED DATE
Welcome	Welcome! We're glad you're here.	<input checked="" type="checkbox"/>	Michael Manager	3/23/2018, 9:43 AM	3/23/2018, 9:43 AM
Congratulations	Wonderful news!	<input checked="" type="checkbox"/>	Michael Manager	3/23/2018, 9:43 AM	3/23/2018, 9:43 AM
Nice Work	Kudos for a job well done.	<input checked="" type="checkbox"/>	Michael Manager	3/23/2018, 9:43 AM	3/23/2018, 9:43 AM
Thanks	Thank you for being awesome.	<input checked="" type="checkbox"/>	Michael Manager	3/23/2018, 9:43 AM	3/23/2018, 9:43 AM

やる気がわいてきませんか? プロセスビルダーを使用すれば、特定のマイルストーンに達したユーザーにバッジを自動的に授与する方法を作成できます。

## マーケティングジャーニーを使用してメンバーの質問および回答活動に褒賞を与える

コミュニティエンゲージメントは、コミュニティフィード活動に基づきます。質問したか、質問に回答したメンバーとつながったり、最近あまり活発でないメンバーに連絡したりして、コミュニティにメンバーが常に関与するようにします。

**対象:**この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**対象ユーザ:**この機能を使用するには、Community Cloud ライセンスと Marketing Cloud ライセンスの両方が必要です。

**理由:**メンバーの関与を維持することは、コミュニティの健全な状態を維持する上で重要です。Marketing Cloud の Journey Builder が提供するメールジャーニーがそれに役立ちます。コミュニティフィード活動に基づいているため、つながるための多くの機会が生まれます。たとえば、「最良」とマークされた5つの回答を持つメンバーにメールを自動的に送信し、MVP になるように招待することができます。または、Journey Builder を使用して、質問したか、質問に回答したユーザに感謝のメールを送信できます。質問者に、質問に答えたユーザを支持するように求めることができます。しばらく投稿のないメンバーにメモを送信して、再び参加するように促すジャーニーを作成することもできます。

**方法:**Marketing Cloud の Journey Builder ツールを使用してジャーニーを作成し、新しい方法でメンバーにすばやく連絡します。

## 一括投稿を使用して複数のメンバーに一度に連絡

特殊なイベントや通知など、多くのコミュニティメンバーに投稿する必要があるメッセージがあるとします。各メンバーに投稿することは、時間のかかる作業です。代わりに、エンゲージメントキューで一括投稿を使用して、このメッセージを最大 500 人のメンバーに一度に投稿します。

**対象:**この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**方法:**レポートの上部にある[すべて選択]チェックボックスをクリックします。結果に500人を超えるメンバーが含まれる場合、最大限のパフォーマンスを維持する目的で最初の500人のみが選択されます。投稿を完了したら、レポートを再度実行し、一括投稿操作を繰り返します。

## 更新されたエンゲージメントキューページの外観

エンゲージメントキューのページが他のキューと合った新しいデザインになりました。絞り込みが容易になり、一括アクションのカスタマイズができます。

**対象:**この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

## Lightning コミュニティの Chatter: 以降のアクションに対する会話の終了、投稿の固定とクロスコミュニティストリームの正式リリース

Summer '18 では、パイロットまたはベータ状況から正式リリースに移行する成熟した機能が導入されます。クロスコミュニティストリームおよび投稿の固定がパイロットおよびベータを卒業しました。また、新規アクションに対して投稿、質問、アンケートを終了するためのすばらしい新機能もあります。

このセクションの内容:

### コミュニティでの会話の完了

質問が回答され、トピックについてのディスカッションが終了し、アンケートの結果が出ました。では、何をしましょう?会話を終了します。コミュニティ管理者、モデレータ、許可されたメンバーは質問、アンケート、投稿を完了できるようになりました。必要があれば、これらを再度開くこともできます。これは、解決した問題をそれ以上かき回さないようにする良い方法です。

### フィードでの投稿の固定 (正式リリース)

グループおよびトピックフィードの最上部に重要な投稿を固定して、重要な情報を目に付きやすい位置に配置します。投稿の固定が正式リリースされ、フィードに固定できる投稿数が3に増加しました。

### Salesforce 内でのコミュニティストリームの確認 (正式リリース)

Lightning Experience で作業中にコンテキストを切り替えずにコミュニティをすばやく確認できます。Salesforce からコミュニティに移動して戻ることなく、内部組織からコミュニティストリームを開き、最新情報を確認できます。投稿、コメント、質問、アンケートの追加、および通常ストリームで使用できるその他の多くのアクションを実行できます。

### 記事のトピックの非表示

コミュニティビルダーで [記事コンテンツ] コンポーネントのプロパティにある新しい [トピックを表示] オプションを使用すると、記事に割り当てられたトピックの表示と非表示を容易に切り替えることができます。以前は、トピックは常に表示され、非表示にできませんでした。

### モバイルのプロファイルにメッセージボタンを新しく表示

コミュニティのデスクトップビューのプロファイルに表示される [メッセージ] ボタンが、モバイルブラウザアプリケーションのユーザプロファイルで使用できるようになりました。

### メールへのリッチパブリッシャーアプリケーションの表示

メール通知でアプリケーション情報を参照できるようになり、リッチパブリッシャーアプリケーションを共有しやすくなりました。

### プラス投票のメール通知の取得

最新のコミュニティフィードの把握に苦労していませんか? フィードを 10 分ごとにチェックするのではなく、通知を受け取りたいと思いませんか? すべてのフィード活動を追跡できるように、投稿およびコメントにプラス投票されるたびに通知を受け取ることができます。通知には、プラス投票したユーザ、コメントまたは投稿の場所、投稿のコンテンツ、および投稿へのリンクが含まれます。



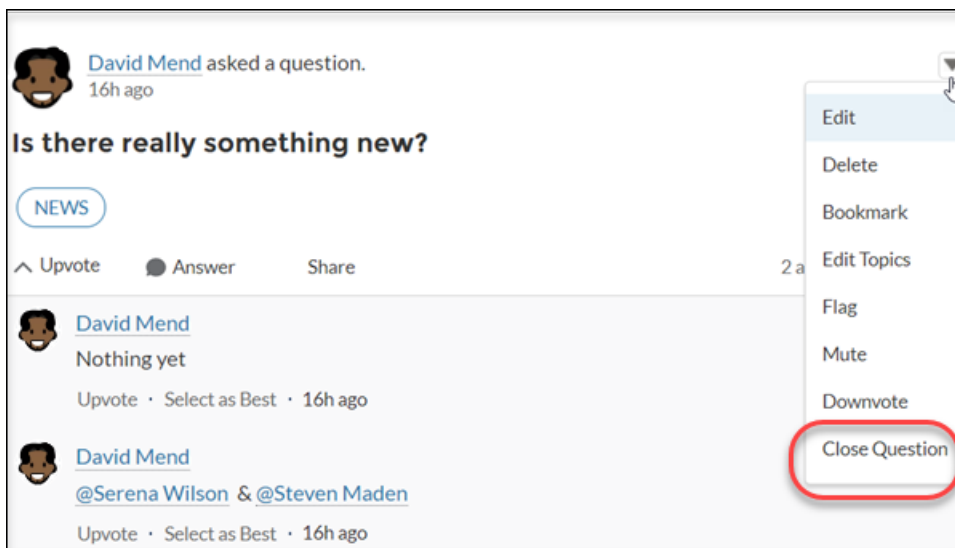
## コミュニティでの会話の完了

質問が回答され、トピックについてのディスカッションが終了し、アンケートの結果が出ました。では、何をしましょう?会話を終了します。コミュニティ管理者、モデレータ、許可されたメンバーは質問、アンケート、投稿を完了できるようになりました。必要があれば、これらを再度開くこともできます。これは、解決した問題をそれ以上かき回さないようにする良い方法です。

**対象:**この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**対象ユーザー:**コミュニティのシステム管理者とモデレータは、特別な設定なしで投稿、アンケート、および質問を終了できます。システム管理者は「会話スレッドの完了」権限をコミュニティメンバーに割り当てることができます。

**理由:**会話の完了は、グループ、トピック、ディスカッション、およびユーザープロファイルのフィードで使用できます。完了アクションは、通常のフィードおよびフィード項目の詳細ビューの両方にある投稿、質問、または投稿のオーバーフローメニューで使用できます。たとえばクロスコミュニティストリームを通じて会話を内部組織に公開する場合、会話の進行中状況または完了状況が考慮されます。



**方法:**通常、会話の完了後に使用できるアクションは、ユーザーのロールまたは権限セットに応じて異なります。完了した会話に対して誰が何をできるかを次に示します。

アクション	完了した会話での使用
コメントの追加	ブロック
質問への回答	ブロック
アンケートへの投票	ブロック
フィード項目またはそのコメント、あるいは回答の編集	著者をブロック。「フィードの会話スレッドの完了」権限のあるシステム管理者、モデレータ、およびユーザーが使用可能
トピックの編集	利用可

アクション	完了した会話での使用
フィード項目またはそのコメント、あるいは回答の削除	著者をブロック。「フィードの会話スレッドの完了」権限のあるシステム管理者、モデレータ、およびユーザが使用可能
確認待機中のコメントの公開(コミュニティモデレーション)	システム管理者とモデレータが使用可能
いいね! またはいいね! の取り消し、プラス投票またはマイナス投票の実施	利用可
最良の回答の選択または削除	著者をブロック。「フィードの会話スレッドの完了」権限のあるシステム管理者、モデレータ、およびユーザが使用可能
会社検証の実施、検証の削除	「Chatter の質問への回答の確認」権限のあるユーザのみが使用可能
フラグの設定	利用可
共有	利用可
ブックマーク	利用可
ミュートおよびミュート解除	利用可
ケースへのエスカレーション	フィード項目をケースにエスカレーションする権限のあるユーザのみが使用可能

Chatter REST API と Chatter in Apex は、完了した会話をサポートします。

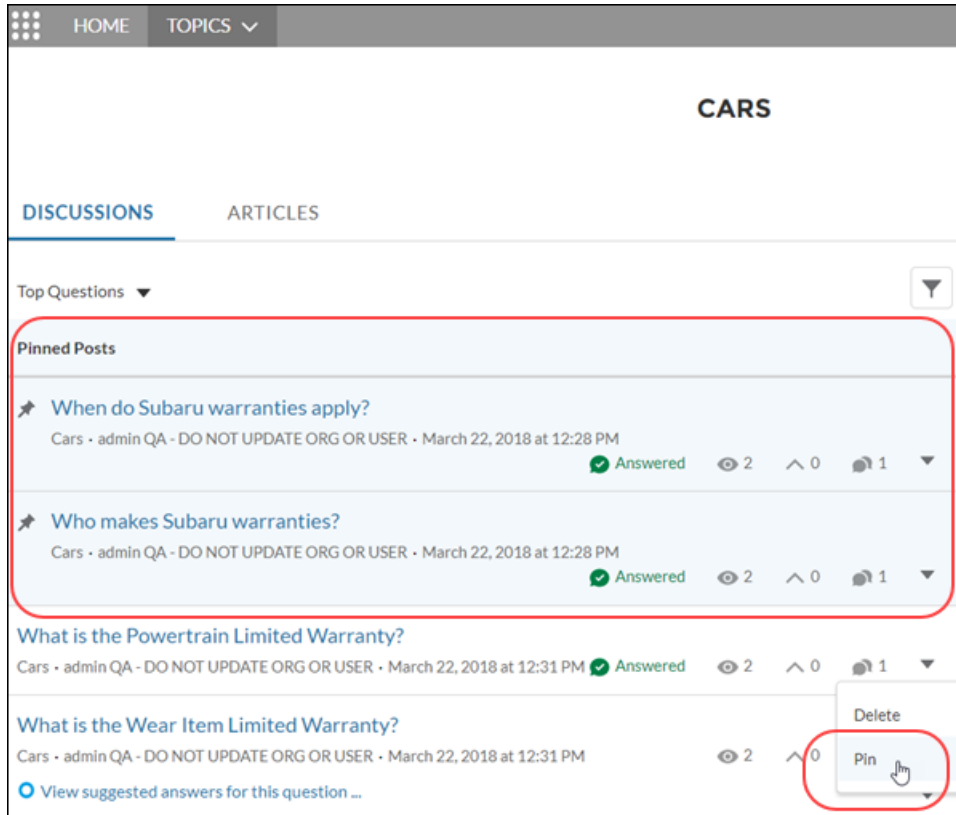
## フィードでの投稿の固定 (正式リリース)

グループおよびトピックフィードの最上部に重要な投稿を固定して、重要な情報を目に付きやすい位置に配置します。投稿の固定が正式リリースされ、フィードに固定できる投稿数が 3 に増加しました。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できません。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

**対象ユーザ:** システム管理者は、[設定] で投稿の固定を有効にし、固定権限を割り当てることができます。投稿の固定を有効にすると、システム管理者、コミュニティマネージャ、およびグループの所有者とマネージャが投稿を固定できます。その他のユーザは、権限が割り当てられれば投稿を固定できます。

**理由:** 投稿を固定することで、投稿が目につきやすくなります。グループまたはトピックフィードの最上部に最大 3 つの投稿を固定できます。



方法: 組織で [設定] > [Chatter 設定] に移動し、[投稿の固定を許可] を選択します。組織で投稿の固定を有効にすると、システム管理者、コミュニティマネージャ、グループ所有者、およびグループマネージャが投稿を固定できます。また、[フィードでの投稿の固定] 権限を、選択したユーザに割り当てることもできます。投稿の固定権限は、[設定] のユーザプロファイルおよび権限セットで割り当てます。

## Salesforce 内でのコミュニティストリームの確認 (正式リリース)

Lightning Experience で作業中にコンテキストを切り替えずにコミュニティをすばやく確認できます。Salesforce からコミュニティに移動して戻ることなく、内部組織からコミュニティストリームを開き、最新情報を確認できます。投稿、コメント、質問、アンケートの追加、および通常ストリームで使用できるその他の多くのアクションを実行できます。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

方法: 内部組織からコミュニティストリームを操作する場合、添付ファイルおよびインライン画像アイコンは使用できません。ただし、コミュニティのストリームで作業するときは使用できます。

## 記事のトピックの非表示

コミュニティビルダーで [記事コンテンツ] コンポーネントのプロパティにある新しい [トピックを表示] オプションを使用すると、記事に割り当てられたトピックの表示と非表示を容易に切り替えることができます。以前は、トピックは常に表示され、非表示にできませんでした。

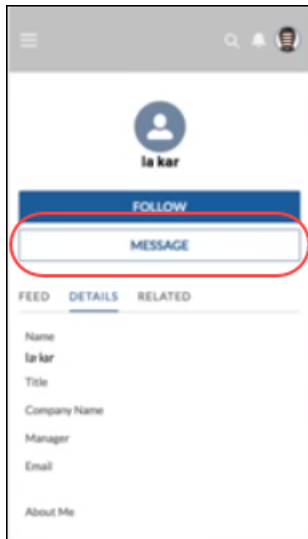
対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

## モバイルのプロファイルにメッセージボタンを新しく表示

コミュニティのデスクトップビューのプロファイルに表示される [メッセージ] ボタンが、モバイルブラウザアプリケーションのユーザプロフィールで使用できるようになりました。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

理由: [メッセージ] ボタンを使用して、別のコミュニティメンバーへのメッセージをそのメンバーのプロファイルから直接開始できます。



## メールへのリッチパブリッシャーアプリケーションの表示

メール通知でアプリケーション情報を参照できるようになり、リッチパブリッシャーアプリケーションを共有しやすくなりました。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

## プラス投票のメール通知の取得

最新のコミュニティフィードの把握に苦労していませんか? フィードを10分ごとにチェックするのではなく、通知を受け取りたいと思っていないませんか? すべてのフィード活動を追跡できるように、投稿およびコメントにプラス投票されるたびに通知を受け取ることができます。通知には、プラス投票したユーザ、コメントまたは投稿の場所、投稿のコンテンツ、および投稿へのリンクが含まれます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**方法:** プラス投票通知をオンにするには、[設定]に移動します。[Chatter]>[メール通知]で[私の投稿またはコメントにいいね! またはプラス投票した]を選択します。

## Partner Central: 代理取引先管理、利用者ターゲティング、チャンネルプログラムとレベルの共有、その他

パートナーユーザは、拡張された代理管理者を使用して独自のセールスチームを管理できます。システム管理者とチャンネルマネージャは、チャンネルプログラムとレベルに応じてカスタムコミュニティ環境を作成できます。パートナーユーザとマネージャは、強調表示されたキャンペーン、追加のデータ項目、市場開発資金使用時の柔軟性の向上などにより、キャンペーンマーケットプレイスをさらに活用できます。

このセクションの内容:

### 外部の代理管理者によるチームの管理 (ベータ)

[取引先管理]の[メンバー]ページを使用して代理管理者がパートナーユーザを常に前進させることができるようにします。代理管理者は数クリックのみでメンバーの有効化と無効化を行うことができます。また、同じページからメンバーのパスワードをリセットすることもできます。

### 代理管理者によるブランドアセットの管理と共有 (ベータ)

外部の代理管理者は [ブランド] ページでパートナーのブランドアセットを保存できます。チャンネルマネージャはこのページにアクセスし、共通のブランドが設定されたメール、マーケティングキャンペーン、および Web サイトを作成できます。パートナーは、[ブランド] ページから収集した情報をパートナー固有のアプリケーションで使用できます。たとえば、企業の詳細の情報 (住所、Web サイト、連絡先情報など) を「Distributor Locator (流通業者ロケータ)」アプリケーションで使用して、最も近い流通業者を見つけることができます。

### キャンペーンマーケットプレイスでより詳細な情報を提供 (正式リリース)

チャンネルマネージャが1つの種別のキャンペーンを強調表示し、重要な側面を示すことで、キャンペーンを実行する上で最も関心のあることをパートナーがすばやく特定できます。また、データ項目を追加して、どのキャンペーンが新規リードを生成しているかや、どのキャンペーンが新商品を売り出しているかなど、詳細な情報を提供することもできます。

### 市場開発資金の機能強化

このリリースでは市場開発資金の機能が強化されました。カスタム参照項目を使用して、キャンペーンを予算に関連付けること、資金の利用可能期間の終了日を延長すること、項目レベルセキュリティを使用してパートナーユーザが状況および金額項目を更新できないようにすること、リクエストまたは要求の状況または金額を更新するワークフローを作成することができます。

### チャンネルプログラムまたはレベルに基づいた利用者のターゲティング

条件項目を使用して、チャンネルプログラムまたはレベルごとに異なるバージョンのページを作成し、各レベルにカスタム環境を提供します。また、条件項目を使用して、表示設定を特定のコンポーネントまたはブランドセットに割り当てすることもできます。


### データをより安全な方法でチャンネルマネージャおよびパートナーユーザと共有

チャンネルプログラムまたはレベル内のメンバーは、他のユーザの取引先と商談を参照できなくなりました。メンバーはデータを参照できませんが、チャンネルマネージャはレポートとダッシュボードにデータを取り込むことで全体像を引き続き把握できます。

## 外部の代理管理者によるチームの管理 (ベータ)

[取引先管理] の [メンバー] ページを使用して代理管理者がパートナーユーザを常に前進させることができるようになります。代理管理者は数クリックのみでメンバーの有効化と無効化を行うことができます。また、同じページからメンバーのパスワードをリセットすることもできます。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic 経由でアクセスする Partner Central コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

 **メモ:** [メンバー] ページはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。[メンバー] ページに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Salesforce Partner Community」グループに投稿してください。

方法:[メンバー] をクリックします。[アクション] 列でメンバーのパスワードの有効化、無効化、リセットができます。

NAME	TITLE	EMAIL	LAST LOGIN	STATUS
Allison Janney	Senior Sales Representative	allison.janney@ctwresellers.com	1/9/2018 at 2:05 PM	Active
Donna Yu	Sales Manager	donna.yu@ctwresellers.com	1/11/2018 at 11:11 AM	Active
Duke Santos	Associate Sales Rep	duke.santos@ctwresellers.com	1/12/2018 at 4:56 PM	Active
Juno MacGuff	Associate Sales Rep	juno.macguff@ctwresellers.com	1/5/2018 at 2:19 PM	Active
John Tran	Sales Director	john.tran@ctwresellers.com	1/5/2018 at 8:51 AM	Active
Kent Davidson	Senior Sales Representative	kent.davidson@ctwresellers.com	1/7/2018 at 1:02 PM	Locked
Margot Stanson	Sales Representative	margot.stanson@ctwresellers.com	1/8/2018 at 5:56 PM	Active
Richard Spielt	Sales Representative	richard.spielt@ctwresellers.com	1/10/2018 at 9:13 AM	Active
Rob Young	Senior Sales Representative	rob.young@ctwresellers.com	12/22/2017 at 11:14 AM	Active
Susan Cooper	Sales Representative	susan.cooper@ctwresellers.com	1/9/2018 at 12:45 AM	Active
Thomas Boyanov	Associate Sales Rep	tthomas@ctwresellers.com	1/2/2018 at 3:14 PM	Inactive

## 代理管理者によるブランドアセットの管理と共有 (ベータ)

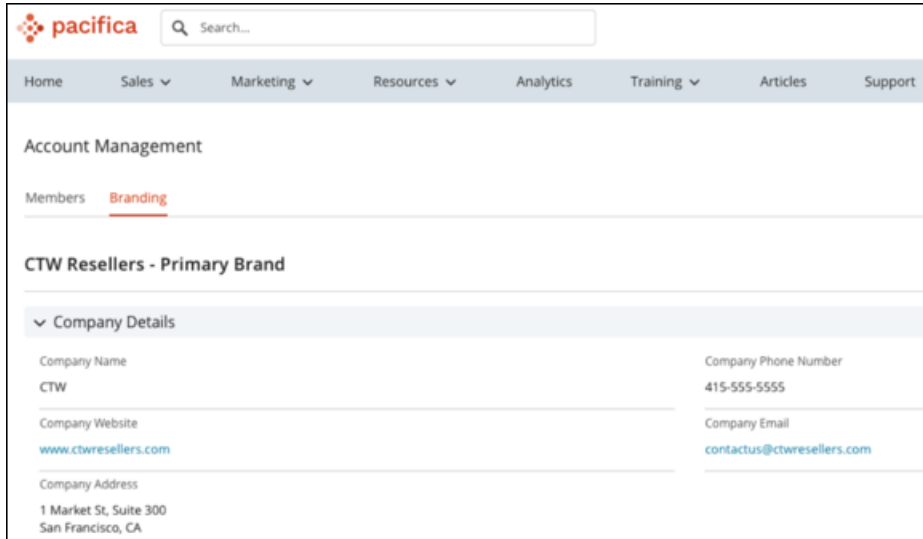
外部の代理管理者は[ブランド]ページでパートナーのブランドアセットを保存できます。チャンネルマネージャはこのページにアクセスし、共通のブランドが設定されたメール、マーケティングキャンペーン、およびWebサイトを作成できます。パートナーは、[ブランド]ページから収集した情報をパートナー固有のアプリケーションで使用できます。たとえば、企業の詳細の情報(住所、Webサイト、連絡先情報など)を「Distributor Locator (流通業者ロケータ)」アプリケーションで使用して、最も近い流通業者を見つけることができます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**メモ:** [ブランド] ページはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。[ブランド] ページに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Salesforce Partner Community」グループに投稿してください。

**対象ユーザ:** パートナーライセンスと代理管理者権限を持つ外部ユーザは [取引先管理] ページにアクセスできます。

パートナーユーザはブランド情報を表示および管理できます。



## キャンペーンマーケットプレイスでより詳細な情報を提供 (正式リリース)

チャンネルマネージャが1つの種別のキャンペーンを強調表示し、重要な側面を示すことで、キャンペーンを実行する上で最も関心のあることをパートナーがすばやく特定できます。また、データ項目を追加して、どのキャンペーンが新規リードを生成しているかや、どのキャンペーンが新商品を売り出しているかなど、詳細な情報を提供することもできます。

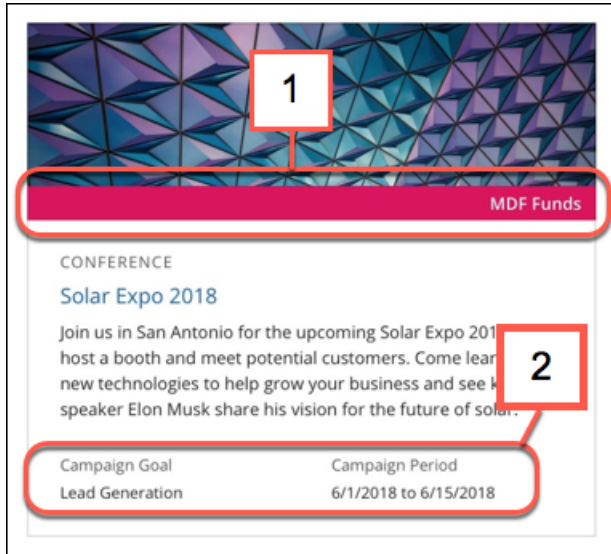
**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**対象ユーザ:** コミュニティを有効にしているパートナーライセンスを持つユーザ、または Distributed Marketing にサインアップしているユーザは、コミュニティビルダーおよび Lightning アプリケーションビルダーでこのコンポーネントにアクセスできます。

**内容:** 強調表示 (1) では、市場開発資金を利用できるすべてのキャンペーンを容易に特定できます。

データ項目 (2) をキャンペーンタイトルに追加して、キャンペーンに関するより詳細な情報をユーザに提供します。





## 市場開発資金の機能強化

このリリースでは市場開発資金の機能が強化されました。カスタム参照項目を使用して、キャンペーンを予算に関連付けること、資金の利用可能期間の終了日を延長すること、項目レベルセキュリティを使用してパートナーユーザが状況および金額項目を更新できないようにすること、リクエストまたは要求の状況または金額を更新するワークフローを作成することができます。

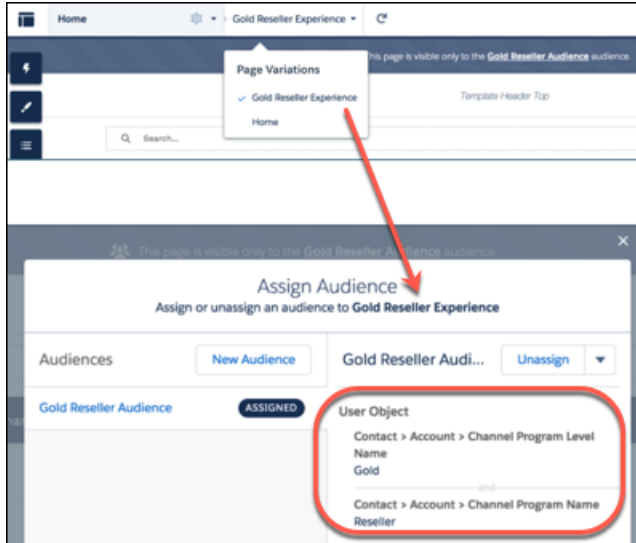
**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できません。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

## チャンネルプログラムまたはレベルに基づいた利用者のターゲティング

条件項目を使用して、チャンネルプログラムまたはレベルごとに異なるバージョンのページを作成し、各レベルにカスタム環境を提供します。また、条件項目を使用して、表示設定を特定のコンポーネントまたはブランドセットに割り当てることもできます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**内容:** システム管理者はチャンネルパートナーのプログラムとレベルに基づいて、チャンネル利用者を構築することができます。



## データをより安全な方法でチャンネルマネージャおよびパートナーユーザと共有

チャンネルプログラムまたはレベル内のメンバーは、他のユーザの取引先と商談を参照できなくなりました。メンバーはデータを参照できませんが、チャンネルマネージャはレポートとダッシュボードにデータを取り込むことで全体像を引き続き把握できます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**方法:** チャンネルプログラムレベルオブジェクトとチャンネルプログラムメンバーオブジェクトに対する組織の共有設定を[非公開]に設定します。各パートナーユーザに個々のレベルおよびメンバーレコードへのアクセス権を付与します。

システム管理者は、チャンネルプログラムとレベルの組織の共有設定を制御できます。

SETUP Sharing Settings		
User	Public Read Only	Private
Activity	Private	Private
Calendar	Hide Details and Add Events	Hide Details and Add Events
Price Book	Use	Use
Access	Private	Private
Account Brand	Private	Private
Badge	Public Read Only	Public Read Only
Channel Program	Private	Private
Channel Program Level	Private	Private
Channel Program Member	Private	Private

## ファイル: ライブラリ管理および新しいファイル詳細ページ

コミュニティのライブラリとファイルをビジネスに合わせてカスタマイズします。画像を使用してライブラリタイトルコンポーネントに命を吹き込み、ブランドを強化してユーザーを満足させます。標準項目とカスタム項目をファイル詳細ページに追加して、ビジネスに必要な情報を正確に追跡します。

このセクションの内容:

### ライブラリの管理

ライブラリの作成、編集、削除、操作が、はるかに簡単になりました。システム管理者は、Lightning Experience でライブラリを更新できます。ユーザーにはコミュニティに反映されたライブラリの変更が表示されます。

### ライブラリメンバーシップの管理 (正式リリース)

ライブラリメンバーの更新、追加、削除、追跡をすべて1か所で行います。誰が内部ユーザか、外部ユーザかもわかります。ライブラリ管理者は、[ファイル] ホームからライブラリメンバーシップを作成および管理できます。ユーザはそれぞれのコミュニティで変更を確認できます。

### コミュニティのライブラリの外観のカスタマイズ

百聞は一見に如かず。ライブラリのブランド設定を使用して、コミュニティのライブラリタイトルコンポーネントにカスタムライブラリアセット画像を作成します。カスタム画像を追加しない場合、デフォルトのライブラリ画像がライブラリに表示されます。

### ファイル詳細ページによるコミュニティファイルの機能強化

新しいファイル詳細ページでコミュニティファイルの機能が強化されました。コミュニティ固有の URL を使用してコミュニティ内でファイルを共有する場合、ファイル詳細ページは情報豊富なランディングページとして機能します。認証されたコミュニティユーザをファイル詳細ページに送り込みます。ここで、ユーザはファイルのダウンロード、以前のバージョンの確認、ファイル情報の取得ができます。標準項目やカスタム項目を追加してファイル詳細ページのレイアウトをカスタマイズし、ビジネスに固有のメタデータを追跡できます。

### コミュニティでの Quip 文書および Quip シートのプレビュー

Summer '18 以降、他の種類のファイルのプレビューと同様に Quip 文書と Quip シートをプレビューできるようになりました。

## ライブラリの管理

ライブラリの作成、編集、削除、操作が、はるかに簡単になりました。システム管理者は、Lightning Experience でライブラリを更新できます。ユーザーにはコミュニティに反映されたライブラリの変更が表示されます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できません。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

**対象ユーザ:** この機能は、ライブラリ管理者が使用できます。

関連トピック:

### 新しい方法でのライブラリ管理

## ライブラリメンバーシップの管理 (正式リリース)

ライブラリメンバーの更新、追加、削除、追跡をすべて1か所で行います。誰が内部ユーザか、外部ユーザかもわかります。ライブラリ管理者は、[ファイル]ホームからライブラリメンバーシップを作成および管理できます。ユーザはそれぞれのコミュニティで変更を確認できます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**対象ユーザ:** この機能は、ライブラリ管理者が使用できます。

関連トピック:

[\[ファイル\]ホームからのライブラリメンバーシップの管理 \(正式リリース\)](#)

## コミュニティのライブラリの外観のカスタマイズ

百聞は一見に如かず。ライブラリのブランド設定を使用して、コミュニティのライブラリタイトルコンポーネントにカスタムライブラリアセット画像を作成します。カスタム画像を追加しない場合、デフォルトのライブラリ画像がライブラリに表示されます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**理由:** 画像はいつでも変更できます。

1/22/2018 9:08 PM

Edit Asset Library

\* Name  
Marketing Material

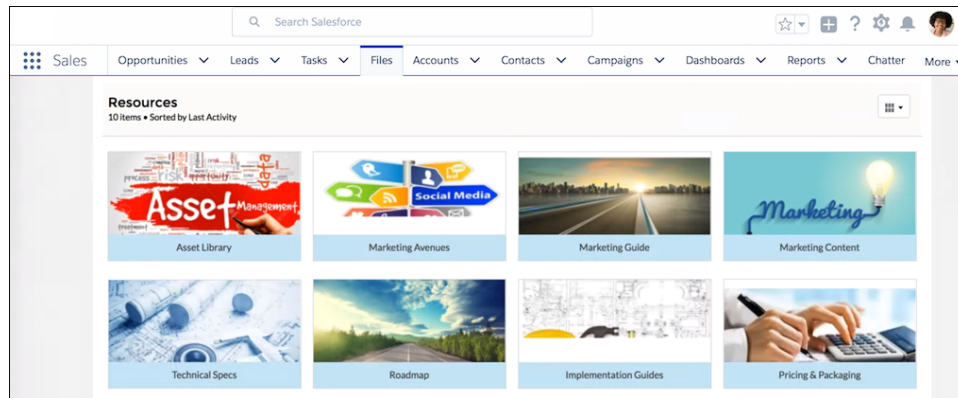
Description

Library Image ⓘ

Upload Image

Cancel Save

- ☑ **メモ:** ブランド設定されたライブラリ画像は、デスクトップの [コミュニティライブラリ] コンポーネント タイルビューにのみ表示されます。権限によっては、一部の外部ユーザはライブラリメンバーでなくてもライブラリアセット画像を表示できます。すべてのユーザに表示する画像を選択します。



方法: コミュニティにライブラリ画像を表示するには、Lightning Experience が有効になっている Salesforce 組織にライブラリ画像をアップロードします。最適な結果を得るには、16:9 のアスペクト比 (480 x 270 ピクセルなど) の画像を選択します。

カスタム画像を追加しない場合、デフォルトのライブラリ画像がライブラリに表示されます。

- ☑ **メモ:** システム管理者は、ビルダーからコミュニティのブランドをオフにできます。

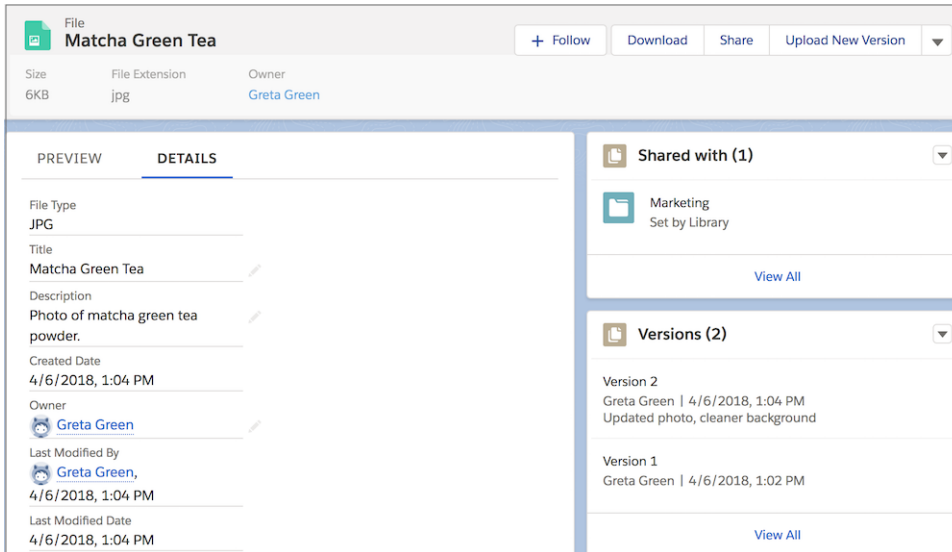
## ファイル詳細ページによるコミュニティファイルの機能強化

新しいファイル詳細ページでコミュニティファイルの機能が強化されました。コミュニティ固有の URL を使用してコミュニティ内でファイルを共有する場合、ファイル詳細ページは情報豊富なランディングページとして機能します。認証されたコミュニティユーザをファイル詳細ページに送り込みます。ここで、ユーザはファイルのダウンロード、以前のバージョンの確認、ファイル情報の取得ができます。標準項目やカスタム項目を追加してファイル詳細ページのレイアウトをカスタマイズし、ビジネスに固有のメタデータを追跡できます。

対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できません。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できません。

理由: 標準項目は、ファイルサイズ、種類、作成者に関する情報を提供します。必要なあらゆるものに対してカスタム項目を作成します。たとえば、商品情報を仕様シートに追加したり、セールスプロセスの部署またはフェーズごとにファイルを識別したりします。ファイル検索やレポートの実行時にもこのデータを使用することができます。公開日、最終更新日、またはダウンロード数に基づいてファイルに関するレポートを実行し、コミュニティライブラリを整理します。

ユーザはファイル詳細ページからファイルをたどることもできます。これは、コミュニティの新機能です。



方法: [設定] からファイル詳細ページを編集するには、Lightning Experience のオブジェクトマネージャで[コンテンツバージョン]を選択します。Classic では、[設定] で「コンテンツバージョンページレイアウト」を検索します。

ファイル詳細ページはファイルプレビューまたは[ファイル]ホームのアクションメニューから、あるいはフィード内やレコード上で表示できます。

**重要:** カスタムのファイル詳細ページを表示するには、コミュニティ管理者はコミュニティを再公開する必要があります。コミュニティが再公開されるまでは、標準のレコード詳細ページのみを使用できます。

## コミュニティでの Quip 文書および Quip シートのプレビュー

Summer '18 以降、他の種類のファイルのプレビューと同様に Quip 文書と Quip シートをプレビューできるようになりました。

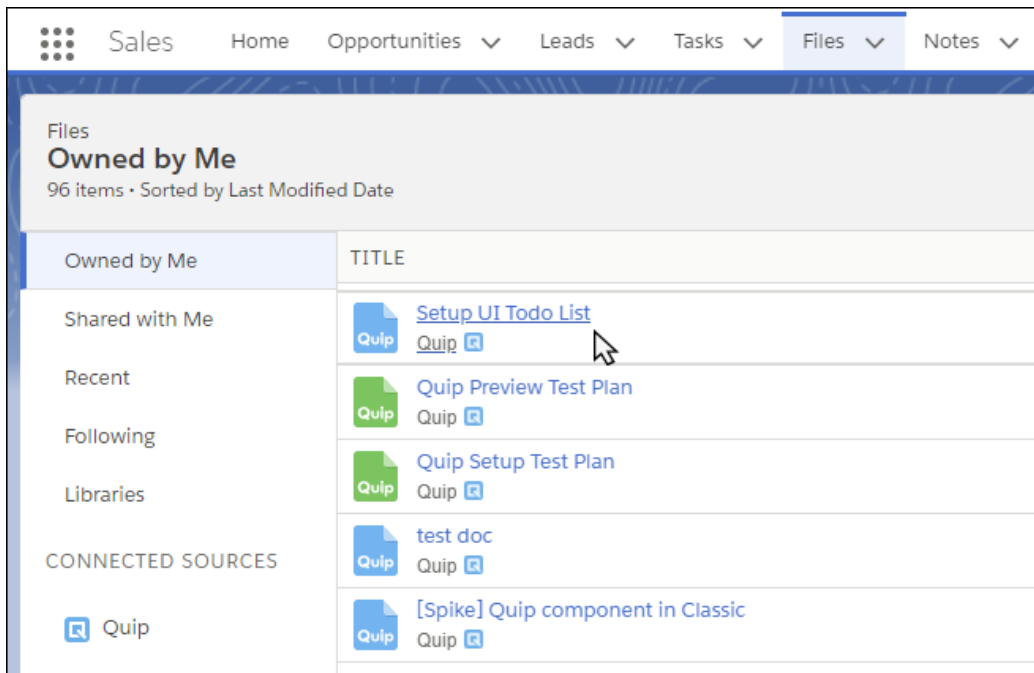
対象: この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

理由: これまで、ユーザが Quip をプレビューしようとする、Quip 文書や Quip シートのプレビューの代わりに「プレビューは使用できません」というメッセージが表示されていました。今回のリリースでは、次の場合および場所でプレビューが可能になりました。

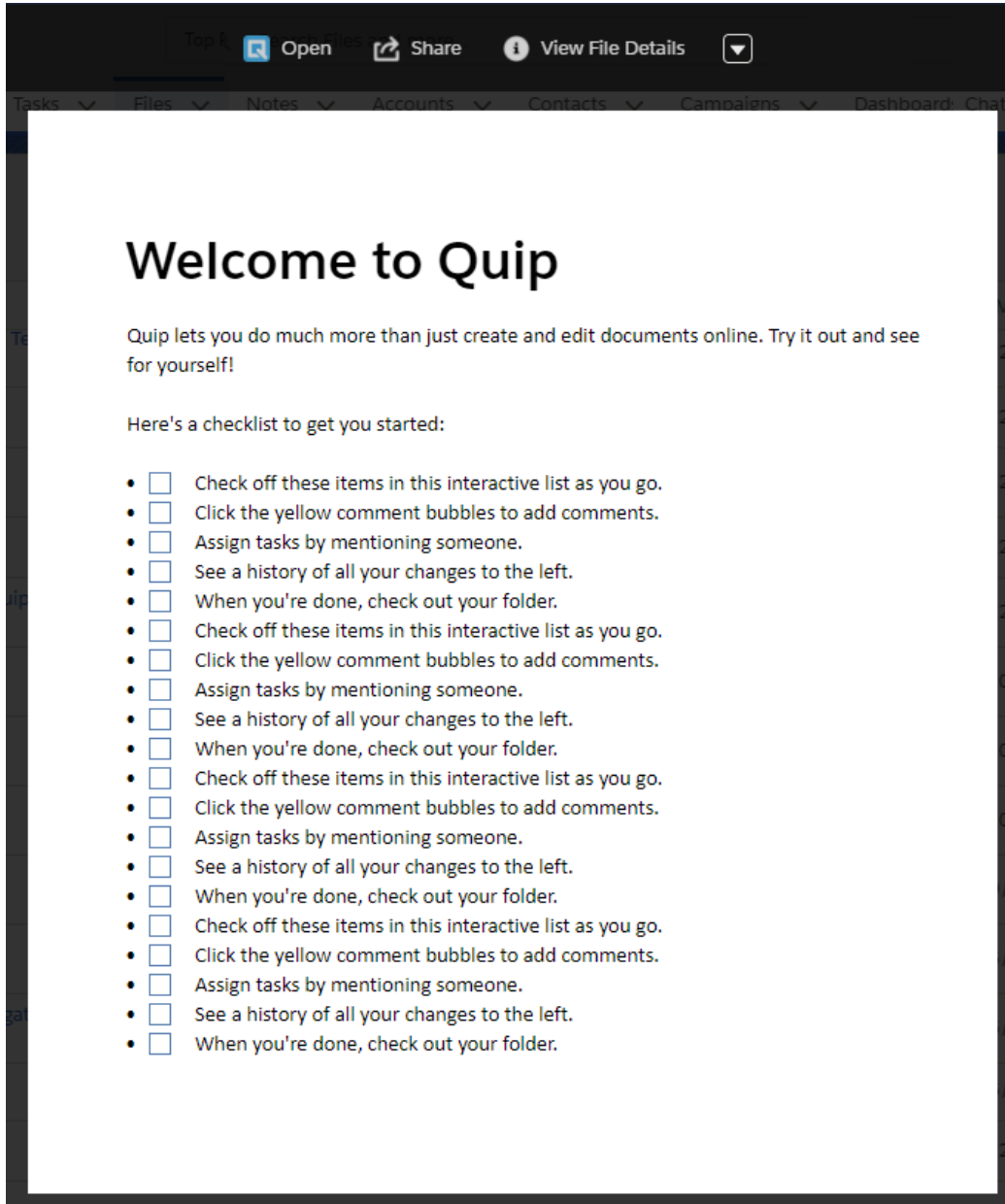
- Chatter フィードに添付されている Quip 文書をクリックしたとき
- ファイル詳細ページ
- [ファイル] ホーム
- メモと添付ファイルコンポーネント

**メモ:** ファイル詳細ページでは、プレビューの最初のページのみが表示されます。

方法: Quip ファイルをクリックすると、プレビューが表示されます。そこから、[開く]、[共有]、または[ファイルの詳細を表示]のアクションを選択します。



そこから、[開く]、[共有]、または [ファイルの詳細を表示] のアクションを選択します。



## コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。



このセクションの内容:

#### コミュニティメンバーによるナレッジ記事の作成

コミュニティメンバーは知識のあるユーザです。そのため、APIを使用してナレッジ記事を作成または改訂することで他のユーザをサポートする機能をコミュニティメンバーに与えます。何らかのコミュニティライセンス種別を持つコミュニティメンバーに参照、作成、編集、および削除権限を付与できるようになりました。

#### ロックアウトメールテンプレートのカスタマイズ

ロックアウトメールテンプレートを会社のブランドに一致させます。顧客のログインの試行に失敗した回数が多すぎて顧客がロックアウトされた場合、顧客はロックアウトメールを受信します。デフォルトテンプレートのコンテンツをカスタマイズし、数式を使用して、以降の手順に関する指示(アカウントにアクセスするための再試行のタイミングなど)を顧客に伝えることができます。

#### Community 360 を使用してサポートの電話での顧客の雰囲気の評価(パイロット)

Community 360 コンポーネントのセンチメント分析(パイロット)を使用すると、サービスエージェントのコンソールの上部に肯定的または否定的アイコンが表示され、顧客の雰囲気を一目で確認できます。この雰囲気は、コミュニティへの顧客の最近の投稿に基づいて計算されます。センチメント分析は、他の商品への関心のレベルを測定したり、慎重に取り扱う必要があるかを測定したりするのに役立ちます。

#### Community 360 でのより多くのオブジェクトの活動の表示、レコード検索条件の追加

記事およびディスカッション活動に加えて、サポートエージェントは納入商品、契約、カスタムオブジェクト、注文、商品、およびToDoの各オブジェクトに対するコミュニティ活動を参照できるようになりました。エージェントは、顧客がサポートに電話をする前にこのいずれかの項目を参照したかどうかを確認できます。この確認によって、エージェントはより関連性の高い情報を提供し、顧客と会社の時間を節約し、ケースをより短時間で完了することができます。

#### コミュニティ管理パッケージからのコミュニティのケースデフレクションダッシュボードの削除

コミュニティのケースデフレクションダッシュボードとそれに対応するすべてのレポートがAppExchangeのSalesforce Community Management パッケージから削除されました。Summer'18のリリース後に、Salesforce Community Management パッケージから独立した、ダッシュボードとそのレポートが含まれる新しいAppExchange パッケージがリリースされます。

#### 「セルフサービスユーザの編集」権限を「カスタマーユーザの管理」に名前変更

「セルフサービスユーザの編集」権限が「カスタマーユーザの管理」に名前変更されました。機能は同じですが、新しい標準プロファイルではこの権限がデフォルトで有効になりません。

#### Salesforce サイトおよびポータルでのトピックの保護(重要な更新)

トピック名は組織のすべてのユーザに公開されます。これには、Summer'13より前に作成された組織のSalesforce サイトおよびポータルのユーザも含まれます。トピックのセキュリティを強化するため、Salesforce サイトおよびポータルのゲストと認証済み外部ユーザに対してトピックが無効になります。

## コミュニティメンバーによるナレッジ記事の作成

コミュニティメンバーは知識のあるユーザです。そのため、APIを使用してナレッジ記事を作成または改訂することで他のユーザをサポートする機能をコミュニティメンバーに与えます。何らかのコミュニティライセンス種別を持つコミュニティメンバーに参照、作成、編集、および削除権限を付与できるようになりました。

対象: Lightning Experience または Salesforce Classic を使用して、Salesforce の [設定] で権限を変更できます。

方法:コミュニティユーザがナレッジ記事を作成できるようにするには、ユーザの詳細ページで[ナレッジユーザ]を選択します。カスタムプロフィールを使用するか、権限セットを作成して、記事タイプに対する適切な権限を付与します。

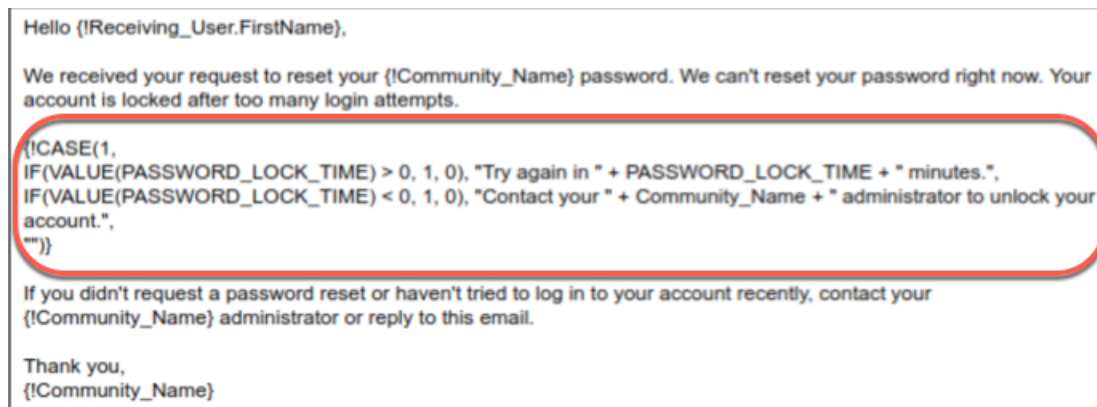
Salesforce タブ + Visualforce を使用して構築されたコミュニティのメンバーは、Salesforce ナレッジ作成インターフェースを使用して記事を作成できます。Lightning コミュニティで、カスタムコンポーネントを作成して、コミュニティメンバーに API を使用した記事の作成を許可します。

## ロックアウトメールテンプレートのカスタマイズ

ロックアウトメールテンプレートを会社のブランドに一致させます。顧客のログインの試行に失敗した回数が多すぎて顧客がロックアウトされた場合、顧客はロックアウトメールを受信します。デフォルトテンプレートのコンテンツをカスタマイズし、数式を使用して、以降の手順に関する指示(アカウントにアクセスするための再試行のタイミングなど)を顧客に伝えることができます。

対象:この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic 経由でアクセスするすべてのコミュニティで使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

顧客が受信するメッセージは、顧客のパスワードポリシー設定に基づいて計算されます。




方法[設定]で[クイック検索]ボックスに「テンプレート」と入力します。[メールテンプレート]をクリックし、[ユーザロックアウト]を探します。

## Community 360 を使用してサポートの電話での顧客の雰囲気の評価(パイロット)

Community 360 コンポーネントのセンチメント分析(パイロット)を使用すると、サービスエージェントのコンソールの上部に肯定的または否定的アイコンが表示され、顧客の雰囲気を一目で確認できます。この雰囲気は、コミュニティへの顧客の最近の投稿に基づいて計算されます。センチメント分析は、他の商品への関心のレベルを測定したり、慎重に取り扱う必要があるかを測定したりするのに役立ちます。

対象:この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

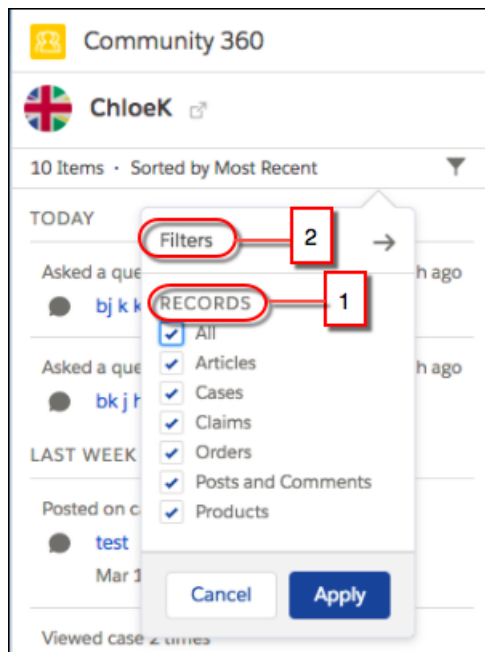
-  **メモ:** センチメント分析は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforceにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。センチメント分析は、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

## Community 360 でのより多くのオブジェクトの活動の表示、レコード検索条件の追加

記事およびディスカッション活動に加えて、サポートエージェントは納入商品、契約、カスタムオブジェクト、注文、商品、およびToDoの各オブジェクトに対するコミュニティ活動を参照できるようになりました。エージェントは、顧客がサポートに電話をする前にこのいずれかの項目を参照したかどうかを確認できます。この確認によって、エージェントはより関連性の高い情報を提供し、顧客と会社の時間を節約し、ケースをより短時間で完了することができます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。オブジェクトの絞り込みは、Lightning Experience でのみ使用できます。

**方法:** 組織で納入商品、注文、または商品をすでに設定し、Community 360 を使用している場合、サポートエージェントにはそれらのオブジェクトに対するコミュニティ活動が自動的に表示されます (1)。表示する必要があるレコードで活動を絞り込むことができます (2)。



## コミュニティ管理パッケージからのコミュニティのケースデフレクションダッシュボードの削除

コミュニティのケースデフレクションダッシュボードとそれに対応するすべてのレポートが AppExchange の Salesforce Community Management パッケージから削除されました。Summer'18 のリリース後に、Salesforce Community Management パッケージから独立した、ダッシュボードとそのレポートが含まれる新しい AppExchange パッケージがリリースされます。

対象: この変更は、AppExchange の Salesforce Community Management パッケージに適用されます。

## 「セルフサービスユーザの編集」権限を「カスタマーユーザの管理」に名前変更

「セルフサービスユーザの編集」権限が「カスタマーユーザの管理」に名前変更されました。機能は同じですが、新しい標準プロファイルではこの権限がデフォルトで有効になりません。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic 経由でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: 「カスタマーユーザの管理」権限は、Customer Community、Partner Community、および Customer Community Plus のユーザのみが使用できます。

**!** **重要:** Winter '19 では、この権限はすべての標準プロファイルから削除されます。カスタマーユーザを管理するユーザに「カスタマーユーザの管理」権限を付与する権限セットを作成して、ユーザのプロファイルに割り当てることができます。

## Salesforce サイトおよびポータルでのトピックの保護 (重要な更新)

トピック名は組織のすべてのユーザに公開されます。これには、Summer'13 より前に作成された組織の Salesforce サイトおよびポータルのユーザも含まれます。トピックのセキュリティを強化するため、Salesforce サイトおよびポータルのゲストと認証済み外部ユーザに対してトピックが無効になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic の Salesforce サイトに適用されます。この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Salesforce Classic の Summer '13 より前に作成されたポータルにも適用されます。この変更は、Summer '13 以降に作成されたコミュニティおよびポータルには適用されません。

時期: この重要な更新は、2018 年 7 月 19 日に適用されます。

方法: 有効化後に Salesforce サイトおよびポータルのゲストユーザや認証済み外部ユーザにトピックへのアクセス権を付与する場合、[設定]の[クイック検索]ボックスに「Chatter」と入力します。[Chatter設定]を選択し、[トピック]セクションで[Salesforce サイトおよびポータルでトピックを許可]を選択します。

## Chatter: ユーザプロフィールの Trailhead バッジ、投稿およびコメント内のレコードリンク、固定表示投稿とコミュニティストリームの正式リリース

ユーザは、獲得した Trailhead バッジを自分のプロフィールページに表示できるようになりました。投稿またはコメントから、組織で使用可能なあらゆるレコードタイプにリンクできます。固定表示投稿およびクロスコミュニティストリームが正式にリリースされました。

このセクションの内容:

[ユーザプロフィールおよびフィード: プロファイルの Trailhead バッジ、投稿およびコメント内のレコードリンク、投稿の固定、クロスコミュニティストリームの正式リリース](#)

ユーザが獲得した Trailhead バッジがユーザプロフィールページに表示されるようになりました。ユーザは、投稿またはコメント内で、組織で有効化されたレコードタイプに簡単にリンクできます。グループまたはトピックフィードの最上部に最大 3 つの投稿を固定できます。投稿の固定およびクロスコミュニティストリームの両方が正式にリリースされました。

[Chatter のその他の変更](#)

Chatter のユーザエクスペリエンスを向上させるその他の変更について説明します。

## ユーザプロフィールおよびフィード: プロファイルの Trailhead バッジ、投稿およびコメント内のレコードリンク、投稿の固定、クロスコミュニティストリームの正式リリース

ユーザが獲得した Trailhead バッジがユーザプロフィールページに表示されるようになりました。ユーザは、投稿またはコメント内で、組織で有効化されたレコードタイプに簡単にリンクできます。グループまたはトピックフィードの最上部に最大 3 つの投稿を固定できます。投稿の固定およびクロスコミュニティストリームの両方が正式にリリースされました。

このセクションの内容:

[自分のプロフィールに Trailhead バッジを表示](#)

自分の成果を表示するビューを使用できるようになりました。獲得した Trailhead バッジがユーザプロフィールに表示されます。これは、自分の努力と経験を紹介する絶好の方法です。

[投稿またはコメントから最も関連性の高いレコードへのリンク](#)

関連レコードのグループについて投稿するとします。投稿を作成しているときにレコードに簡単にリンクできれば間違いなく便利です。それが可能になりました。スラッシュ (/) を入力し、その後にレコード名を入力します。組織で有効になっているレコードタイプ (作業レコード、取引先、商談、ケースなど) にリンクできます。各投稿またはコメントでは、最大 25 件のレコードにリンクできます。

[フィードでの投稿の固定 \(正式リリース\)](#)

グループおよびトピックフィードの最上部に重要な投稿を固定して、重要な情報を目に付きやすい位置に配置します。投稿の固定が正式リリースされ、固定できる投稿数が 3 つに増えました。

### コンテキストを切り替えずにコミュニティストリームを確認 (正式リリース)


Lightning Experience で作業中にコンテキストを切り替えずにコミュニティをすばやく確認できます。Lightning Experience でのコミュニティストリームへのアクセスが正式リリースされました。

## 自分のプロフィールに Trailhead バッジを表示

自分の成果を表示するビューを使用できるようになりました。獲得した Trailhead バッジがユーザプロフィールに表示されます。これは、自分の努力と経験を紹介する絶好の方法です。

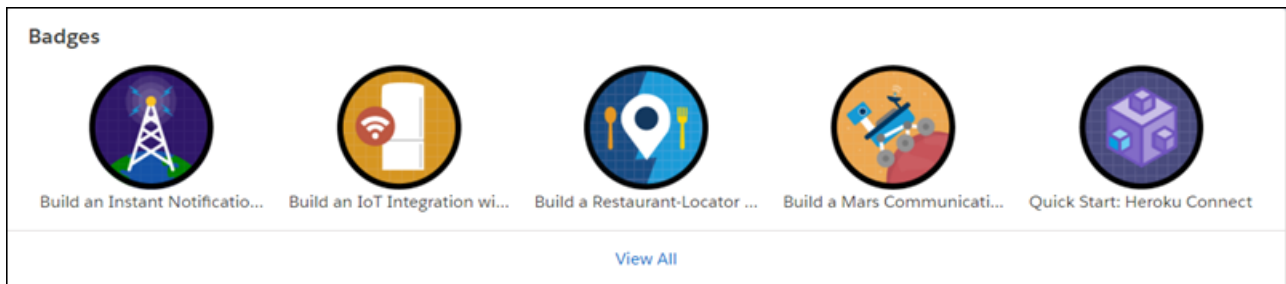
**対象:** この機能は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

**理由:** コンパクトビューでは 3 つの Trailhead バッジ、フルビューでは 5 つの Trailhead バッジが表示されます。[すべて表示] をクリックして Trailhead プロファイルページに移動し、獲得したすべての Trailhead バッジを表示します。

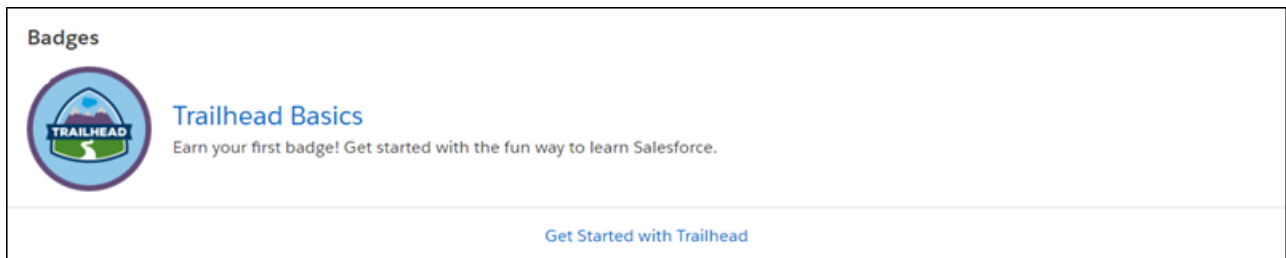
 **メモ:** Trailhead バッジを表示したくない場合は、Trailhead アカウントに移動し、プロフィールを非公開に設定できます。


バッジコンポーネントに表示される内容は、いくつかの条件に応じて変わります。たとえば、ユーザが Trailhead アカウントを持っているか? ユーザに獲得した Trailhead バッジがあるか? ユーザの Trailhead アカウントが公開されているのか、または非公開なのか? 異なるビューが表示されるシナリオをいくつか紹介します。

Trailhead アカウントが公開または非公開であるかに関わらず、自分のビューには自分が獲得した Trailhead バッジが常に表示されます。



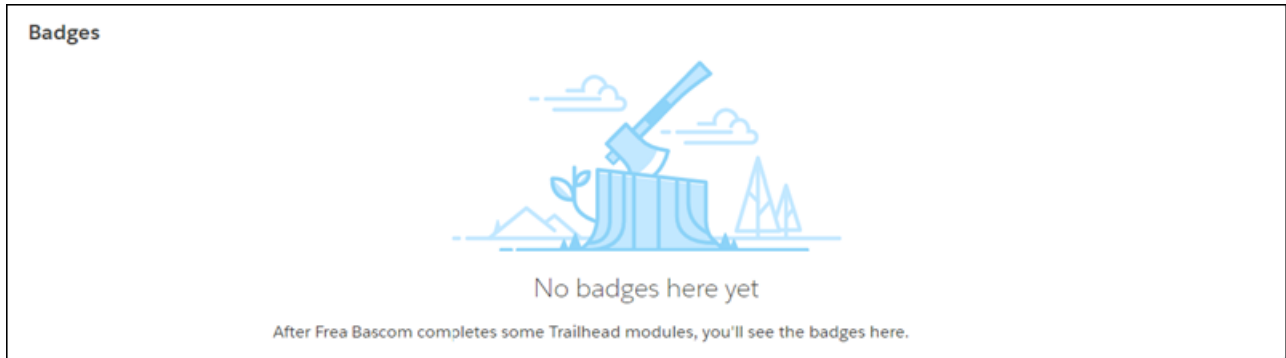
Trailhead アカウントを持っていない、またはアカウントを持っているが Trailhead バッジがない場合は、[Trailhead の基本] へのリンクが表示されます。



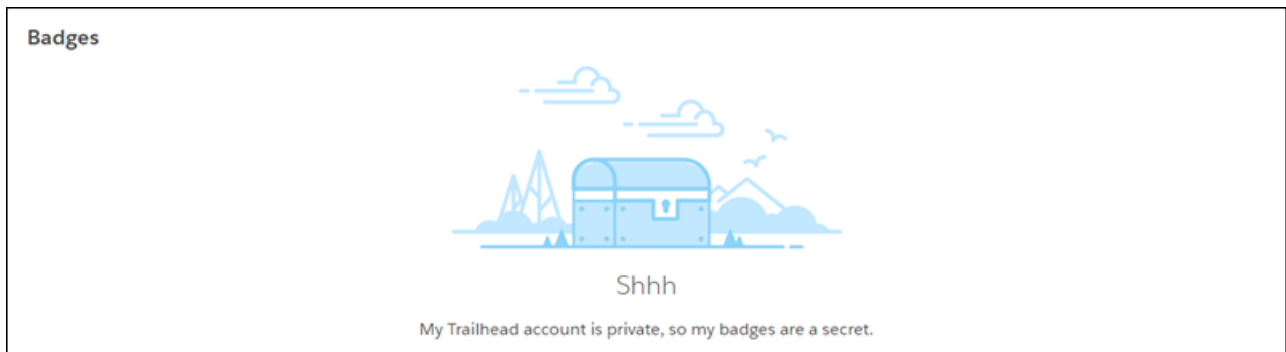
 **ヒント:** Trailhead アカウントを持っていない場合は、<https://trailhead.salesforce.com/modules?modal=signup> からサインアップできます。

ユーザプロフィールおよびフィード: プロファイルの Trailhead バッジ、投稿およびコメント内のレコードリンク、投稿の固定、クロスコミュニティストリームの正

Trailhead アカウントを持っていない、または Trailhead バッジを持っていない別のユーザのプロフィールを表示すると、空状態メッセージが表示されます。



ユーザの Trailhead アカウントが非公開の場合、バッジコンポーネントもそれに従います。



方法: バッジ機能は Salesforce 組織に自動的に含まれます。バッジコンポーネントは、Lightning アプリケーションビルダーでも使用できます。これを使用して、バッジコンポーネントをカスタムページに追加します。

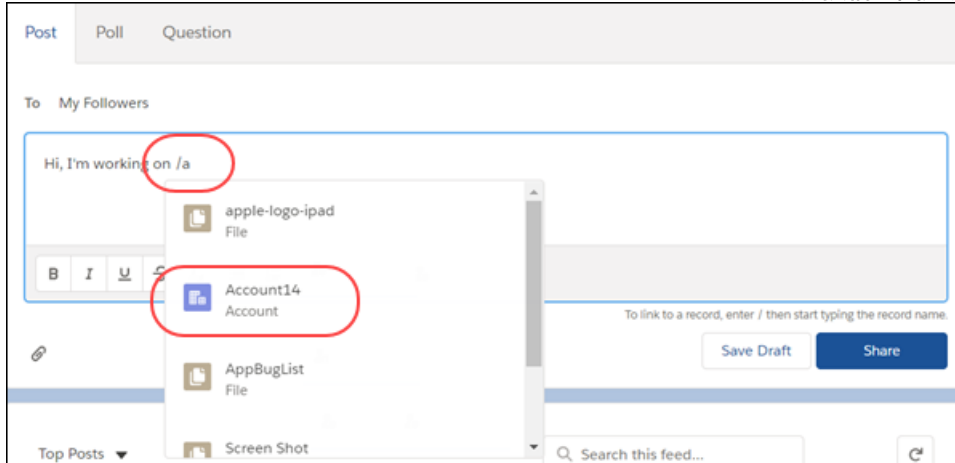
## 投稿またはコメントから最も関連性の高いレコードへのリンク

関連レコードのグループについて投稿するとします。投稿を作成しているときにレコードに簡単にリンクできれば間違いなく便利です。それが可能になりました。スラッシュ (/) を入力し、その後にレコード名を入力します。組織で有効になっているレコードタイプ (作業レコード、取引先、商談、ケースなど) にリンクできます。各投稿またはコメントでは、最大 25 件のレコードにリンクできます。

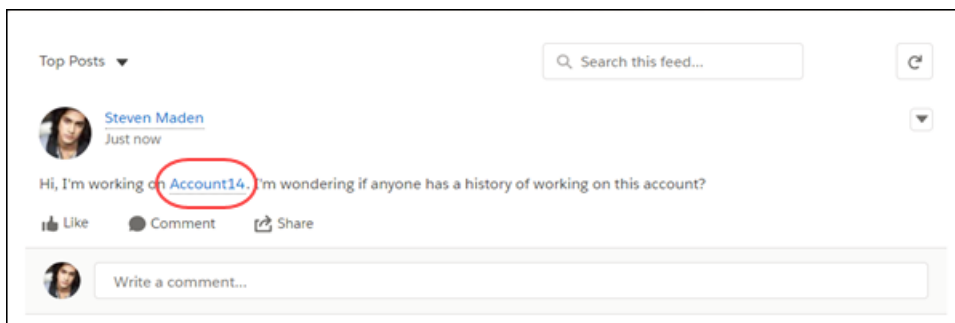
対象: この機能は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

方法: 投稿、コメント、質問の詳細からレコードにリンクできますが、質問自体からはリンクできません。

Account14 という名前前のアカウントにリンクしてみましょう。投稿内で、`/a` と入力し、一致リストを表示します。



対象を選択し、投稿します。



公開すると、レコードへのアクセス権を持つユーザに、レコード名がリンクとして表示されます。アクセス権がないユーザには、「レコードは利用できません」メッセージが表示されます。

Chatter REST API および Apex の Chatter では、投稿およびコメントからのレコードへのリンクがサポートされています。

## フィードでの投稿の固定 (正式リリース)

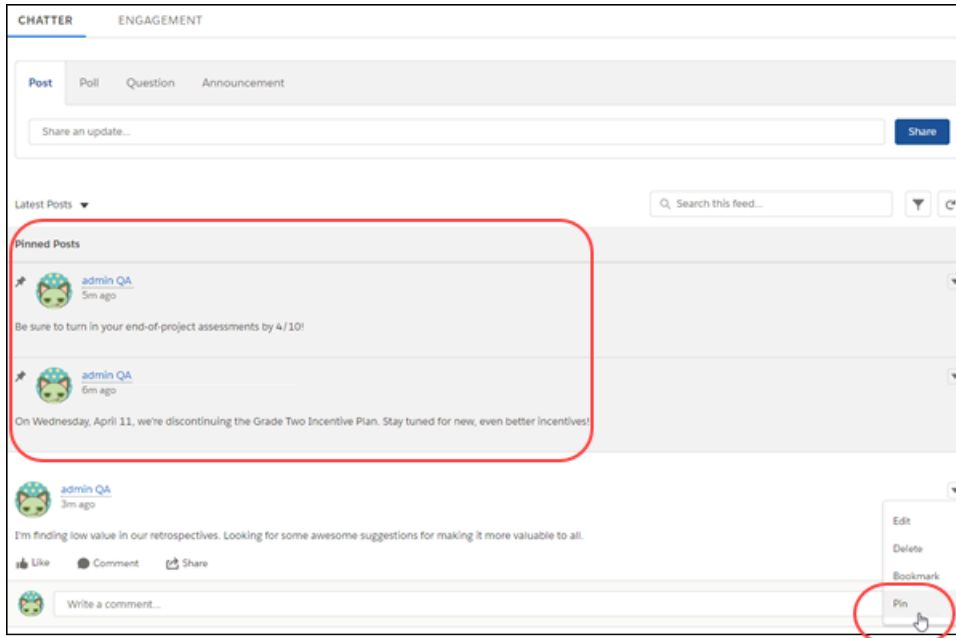
グループおよびトピックフィードの最上部に重要な投稿を固定して、重要な情報を目に付きやすい位置に配置します。投稿の固定が正式リリースされ、固定できる投稿数が3つに増えました。

**対象:** この機能は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

**対象ユーザ:** システム管理者は、[設定] で投稿の固定を有効にし、固定権限を割り当てることができます。投稿の固定を有効にすると、システム管理者、グループの所有者とマネージャが投稿を固定できるようになります。他のユーザは、権限が割り当てられた場合に投稿を固定できます。

**理由:** 投稿を固定することで、投稿が目につきやすくなります。グループまたはトピックフィードの最上部に最大3つの投稿を固定できます。





方法: 組織で [設定] > [Chatter 設定] に移動し、[投稿の固定を許可] を選択します。組織で投稿の固定を有効にすると、システム管理者、グループ所有者、およびグループマネージャが投稿を固定できるようになります。また、[フィードでの投稿の固定] 権限を、選択したユーザに割り当てることもできます。投稿の固定権限は、[設定] のユーザプロファイルおよび権限セットで割り当てます。

## コンテキストを切り替えずにコミュニティストリームを確認 (正式リリース)

Lightning Experience で作業中にコンテキストを切り替えずにコミュニティをすばやく確認できます。Lightning Experience でのコミュニティストリームへのアクセスが正式リリースされました。

対象: この機能は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning コミュニティで使用できます。

関連トピック:

[Salesforce 内でのコミュニティストリームの確認 \(正式リリース\)](#)

## Chatter のその他の変更

Chatter のユーザエクスペリエンスを向上させるその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

### 空状態メッセージの内容の追加

ささいなことですが嬉しくなるニュースです。空状態メッセージが更新されました。空状態メッセージを表示するには、データの無いページに移動します。たとえば、表示されるグループがないグループリストページに移動します。このデザイン変更で、ページの雰囲気は明るくなったと思いませんか。

### Salesforce Classic の Chatter スプラッシュスクリーンの廃止

Lightning Experience の採用の浸透に伴い、インターフェースの整理を行っています。Salesforce Classic で Chatter ホームページまたはホームページを初めて表示したときに表示されるオンボーディングのスプラッシュスクリーンを削除しました。新規ユーザには、他のユーザと同様にスプラッシュを使用せずに、これらのページが表示されるようになりました。

### Summer '18 で廃止される Chatter デスクトップ

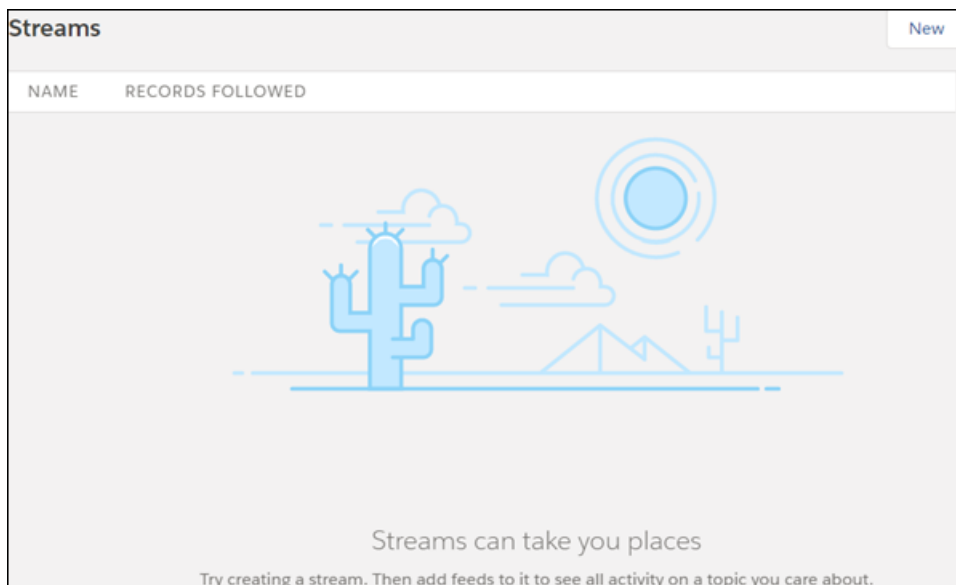
Chatter デスクトップは 2018 年 6 月をもって廃止されます。この機能の廃止後、ユーザはデスクトップクライアントから Chatter にアクセスしたり、更新を受信したりできなくなります。Chatter へはブラウザから引き続きアクセスできます。

## 空状態メッセージの内容の追加

ささいなことですが嬉しくなるニュースです。空状態メッセージが更新されました。空状態メッセージを表示するには、データのないページに移動します。たとえば、表示されるグループがないグループリストページに移動します。このデザイン変更で、ページの雰囲気が明るくなったと思いませんか。

**対象:** この機能は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

**理由:** 新しいメッセージの 1 つを次に示します。



## Salesforce Classic の Chatter スプラッシュスクリーンの廃止

Lightning Experience の採用の浸透に伴い、インターフェースの整理を行っています。Salesforce Classic で Chatter ホームページまたはホームページを初めて表示したときに表示されるオンボーディングのスプラッシュスクリーンを削除しました。新規ユーザには、他のユーザと同様にスプラッシュを使用せずに、これらのページが表示されるようになりました。

**対象:** この機能は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Salesforce Classic で使用できます。

## Summer '18 で廃止される Chatter デスクトップ

Chatter デスクトップは 2018 年 6 月をもって廃止されます。この機能の廃止後、ユーザはデスクトップクライアントから Chatter にアクセスしたり、更新を受信したりできなくなります。Chatter へはブラウザから引き続きアクセスできます。

**対象:** この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Salesforce Classic に適用されます。

詳細は、「[Chatter デスクトップの廃止](#)」を参照してください。

## ファイル: ライブラリ管理の更新、ファイルのトピック、Quip Lightning コンポーネント

---

ファイルのワークフローが円滑になりました。メンバーシップの更新機能や空ライブラリの削除機能などを使用して、ライブラリを Lightning Experience から直接管理します。Quip Lightning コンポーネントをレコードにポップし、ユーザがレコードから Quip に直接アクセスできるようにします。トピックを使用してファイルを選定し、[最近のファイル] ドロップダウンで、最近参照したファイルをすばやく見つけます。

このセクションの内容:

### 新しい方法でのライブラリ管理

システム管理者は、Lightning Experience でライブラリを更新でき、最上位からライブラリを管理できるようになりました。作成したすべてのライブラリは自動的にフォルダに構成されます。ライブラリ作成者はシステム管理者権限を持っているため、ライブラリの最新性と関連性を維持できます。

### [ファイル] ホームからのライブラリメンバーシップの管理 (正式リリース)

ライブラリメンバーの更新、追加、削除、追跡をすべて 1 か所で行います。ライブラリ管理者は、[ファイル] ホームからライブラリメンバーシップを作成および管理できます。外部ユーザには [現在のメンバー] セクションで自動的に「外部バッジ」が表示されるため、外部パートナー、カスタマーコミュニティメンバー、ポータル、Chatter ユーザを区別できます。

### [最近のファイル] ドロップダウンを使用した迅速なファイルの検索

[最近のファイル] ドロップダウンは小さな変更点ですが、大幅に時間を節約できます。最もよく使用するファイルは、毎回探し回るのではなく、上部のメニューにある [最近のファイル] ドロップダウンをクリックして見つけることができます。

### ファイル詳細ページからのファイルトピックの管理

ファイル詳細ページがさらに改善され、ファイルのトピックを詳細ページから直接管理できるようになりました。トピックを使用すると、従来よりも簡単にファイルを見つけて他のレコードと関連付けることができます。

### Salesforce Classic でのファイルプレビューの更新

Salesforce Classic のファイルプレビューの読み込みが速くなり、高解像度モニターで美しく表示されるようになりました。Lightning Experience の洗練されたファイルプレビュー環境が Salesforce Classic でも実現されました。ファイルをダウンロードせずに全画面でプレビューできます。また、プレビューで HTML5 が使用されるようになったため、Adobe Flash Player は不要になりました。

### スキャンされた PDF のプレビューを使用した問題の解決

スキャンまたは圧縮された PDF ファイルのプレビューで問題が生じたことはありませんか。この問題を解決するために、別のファイルの種類を使用するようにプレビューを切り替えることができるようになりました。デフォルトでは、ファイルプレビューは SVG です。これは、高解像度モニターでの表示に適したファイル形式です。一部の組織では、スキャンされた PDF の SVG ファイルのプレビューが完全に表示されない場合や、フルサイズで表示されない場合があります。そのため、プレビューファイルの種類を SVG から JPG に変更する設定が作成されました。

### Quip ファイルへのアクセス

ページに Quip Lightning コンポーネントを追加すると、ユーザは Quip ファイルに簡単にアクセスできます。ユーザは、取引先、商談、リード、および他のほとんどの標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトでコラボレーションを行うことができます。Quip ファイルが手元にあることで、ユーザは最も必要性和使用頻度が高い情報を参照するために何度も切り替える必要がなくなります。最近参照されたファイルは、コンポーネントの右側に表示されます。

### Quip ドキュメントおよびシートのプレビュー

他の種類のファイルのプレビューと同様に、Quip ドキュメントと Quip シートをプレビューします。プレビューは、ファイル詳細ページ、[ファイル]ホーム、[メモと添付ファイル]コンポーネントから使用できるほか、Chatter フィードに添付された Quip ドキュメントをクリックすることで使用できます。

### ファイルのその他の変更

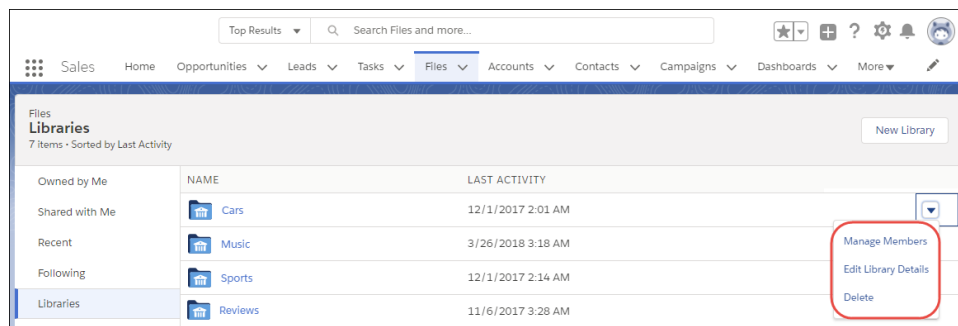
機能廃止と、ファイル操作を向上する小規模な変更について説明します。

## 新しい方法でのライブラリ管理

システム管理者は、Lightning Experience でライブラリを更新でき、最上位からライブラリを管理できるようになりました。作成したすべてのライブラリは自動的にフォルダに構成されます。ライブラリ作成者はシステム管理者権限を持っているため、ライブラリの最新性と関連性を維持できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ライブラリを変更する必要がありますか? [ファイル] ホームから [ライブラリ] 条件にアクセスできます。



各ライブラリの横にあるドロップダウンメニューからライブラリを管理します。

ライブラリを作成するには、[新規ライブラリ]をクリックします。ライブラリを作成または編集するときに、カスタムライブラリタイル画像を追加することもできます。

- ☑ **メモ:** 削除する能力が大きいほど、責任も大きくなるため、空のライブラリのみを削除できます。まずファイルを削除してから、ライブラリを削除します。ファイルを削除してもライブラリが削除できない場合は、ごみ箱を空にします。

関連トピック:

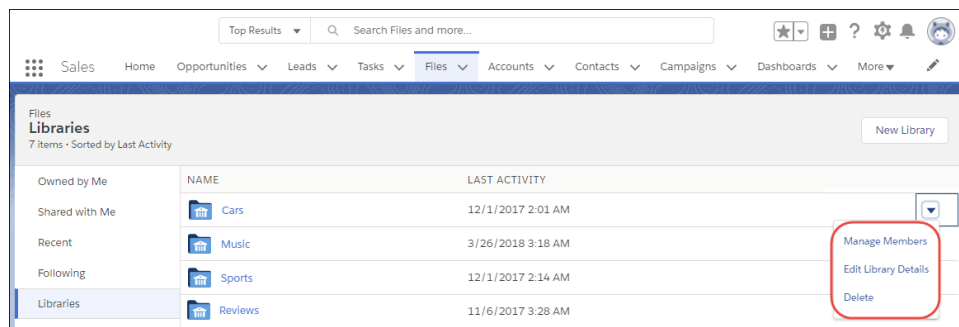
[\[ファイル\]ホームからのライブラリメンバーシップの管理 \(正式リリース\)](#)

## [ファイル]ホームからのライブラリメンバーシップの管理 (正式リリース)

ライブラリメンバーの更新、追加、削除、追跡をすべて1か所で行います。ライブラリ管理者は、[ファイル]ホームからライブラリメンバーシップを作成および管理できます。外部ユーザには[現在のメンバー]セクションで自動的に「外部バッジ」が表示されるため、外部パートナー、カスタマーコミュニティメンバー、ポータル、Chatter ユーザを区別できます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**理由:**



- ユーザおよび公開グループをライブラリに追加またはライブラリから削除する
- ライブラリの詳細を編集する
- ライブラリを削除する

**方法:** ライブラリの最上位から、ライブラリの横にあるドロップダウンをクリックし、アクションを選択します。

関連トピック:

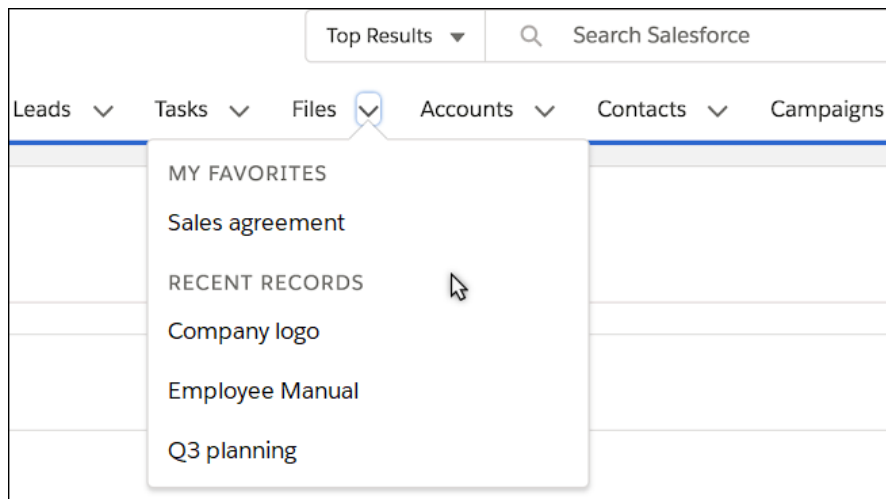
[新しい方法でのライブラリ管理](#)

## [最近のファイル] ドロップダウンを使用した迅速なファイルの検索

[最近のファイル] ドロップダウンは小さな変更点ですが、大幅に時間を節約できます。最もよく使用するファイルは、毎回探し回るのではなく、上部のメニューにある [最近のファイル] ドロップダウンをクリックして見つけることができます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce アプリケーションに適用されます。

**理由:** ドロップダウンには、最近アクセスしたファイルが3つ表示されます。お気に入りとしてマークされているファイルもドロップダウンに表示されるため、1回のクリックでそれらにアクセスできます。

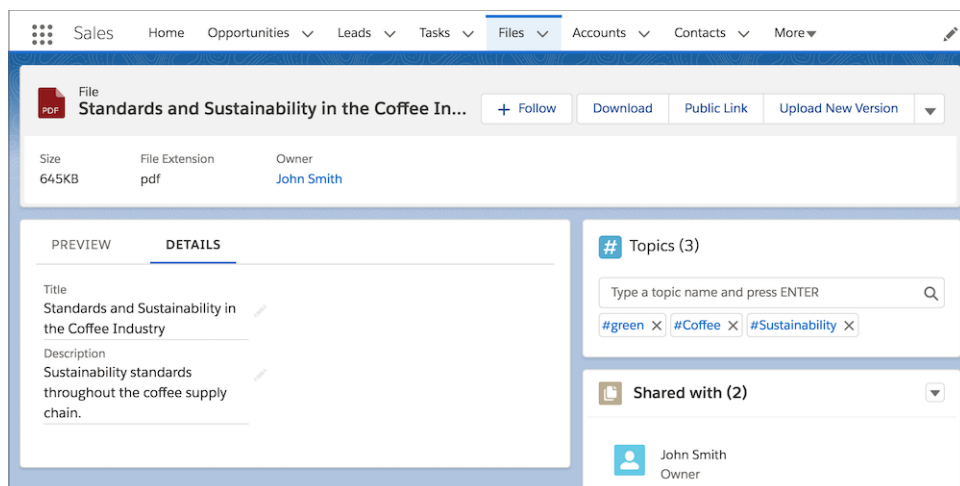


## ファイル詳細ページからのファイルトピックの管理

ファイル詳細ページがさらに改善され、ファイルのトピックを詳細ページから直接管理できるようになりました。トピックを使用すると、従来よりも簡単にファイルを見つけて他のレコードと関連付けることができます。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** アプリケーションビルダーで、トピックコンポーネントをファイル詳細ページにドラッグし、ページを公開します。



関連トピック:

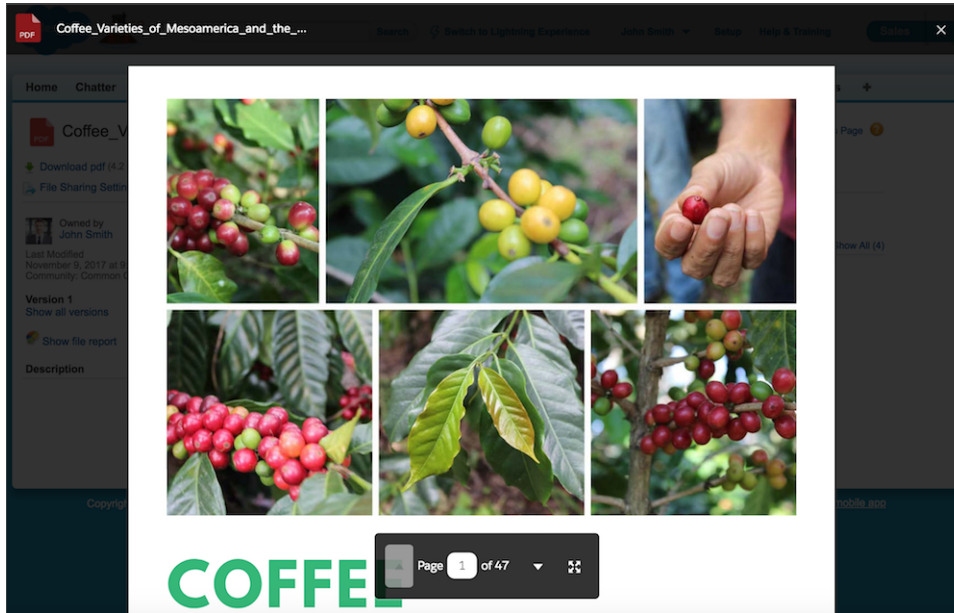
[トピックを使用したレコードの整理](#)

## Salesforce Classic でのファイルプレビューの更新

Salesforce Classic のファイルプレビューの読み込みが速くなり、高解像度モニターで美しく表示されるようになりました。Lightning Experience の洗練されたファイルプレビュー環境が Salesforce Classic でも実現されました。ファイルをダウンロードせずに全画面でプレビューできます。また、プレビューでHTML5が使用されるようになったため、Adobe Flash Player は不要になりました。

**対象:** この変更は、Personal Edition を除くすべてのエディションの Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** ファイルの詳細ページからサムネイルプレビューをクリックすると、ファイルプレビュープレーヤーが起動します。



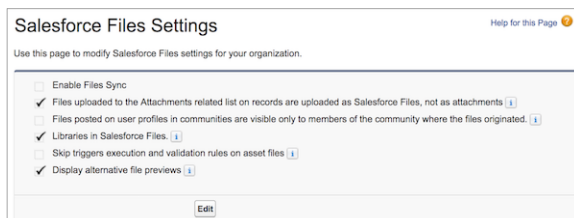
## スキャンされた PDF のプレビューを使用した問題の解決

スキャンまたは圧縮されたPDFファイルのプレビューで問題が生じたことはありませんか。この問題を解決するために、別のファイルの種類を使用するようにプレビューを切り替えることができるようになりました。デフォルトでは、ファイルプレビューはSVGです。これは、高解像度モニターでの表示に適したファイル形式です。一部の組織では、スキャンされたPDFのSVGファイルのプレビューが完全に表示されない場合や、フルサイズで表示されない場合があります。そのため、プレビューファイルの種類をSVGからJPGに変更する設定が作成されました。

- ☑ **メモ:** 代替プレビューは、ユーザがスキャンまたは圧縮されたPDFファイルをプレビューできない場合のみ表示してください。まず、SVGプレビューは高解像度デバイスでより適切に表示されます。代替プレビューを有効にすると、既存のすべてのファイルのプレビューを再度生成する必要があり、ユーザが表示するときに時間がかかる可能性があります。問題がある場合以外は、デフォルトの設定をお勧めします。

**対象:** この機能は、Personal Edition を除くすべてのエディションの Lightning Experience で使用できます。

**方法:** [設定] メニューの [ファイルの設定] の下にある新規設定を確認します。[代替ファイルプレビューを表示] を選択して有効にします。



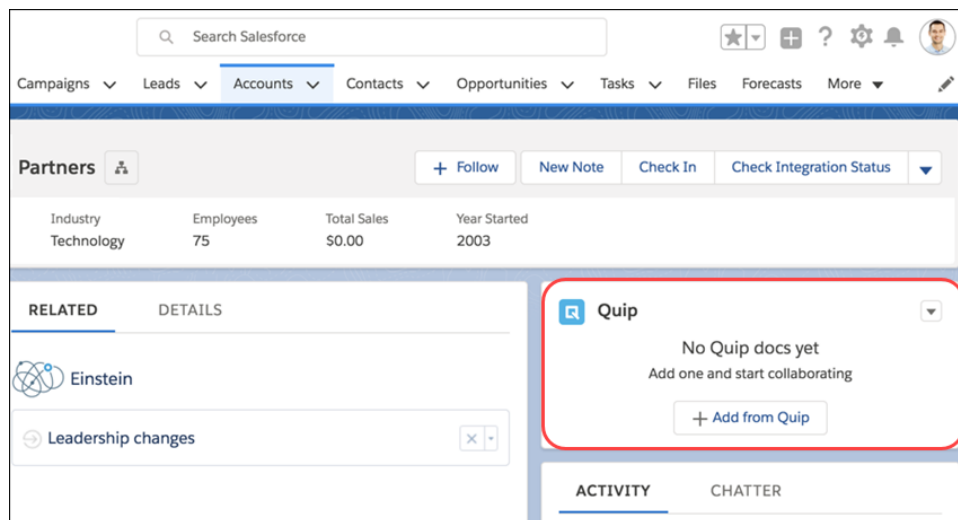


## Quip ファイルへのアクセス

ページに Quip Lightning コンポーネントを追加すると、ユーザは Quip ファイルに簡単にアクセスできます。ユーザは、取引先、商談、リード、および他のほとんどの標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトでコラボレーションを行うことができます。Quip ファイルが手元にあることで、ユーザは最も必要性和使用頻度が高い情報を参照するために何度も切り替える必要がなくなります。最近参照されたファイルは、コンポーネントの右側に表示されます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:** Quip Lightning コンポーネントを使用すると、Quip ドキュメントや Quip シートの確認と編集を簡単に行うことができます。Quip アプリケーションやモバイル環境へのリンクを使用すると、プレビューからコラボレーションへスムーズに移行できます。



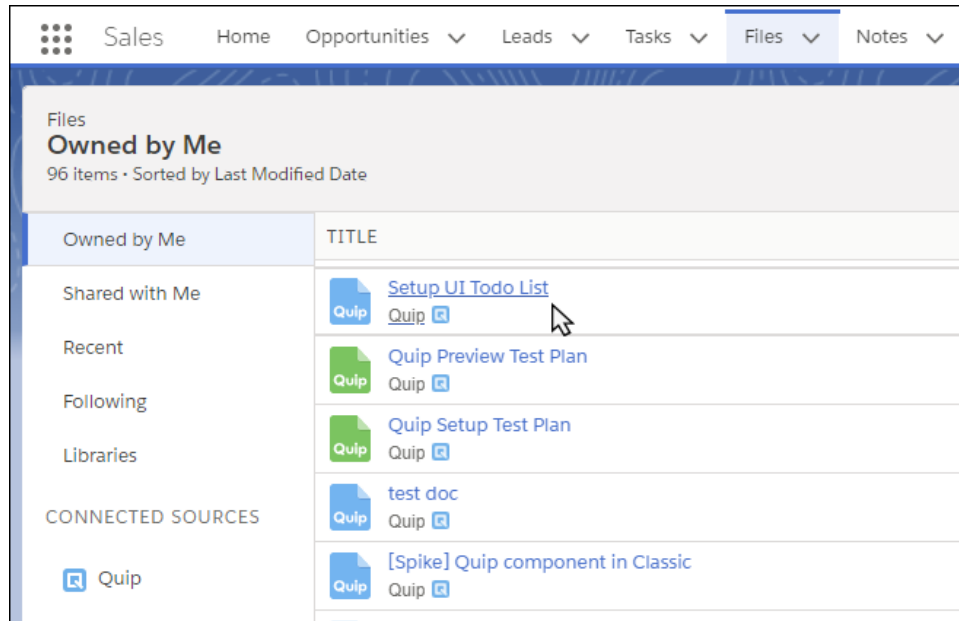
**方法:** Lightning アプリケーションビルダーで Quip コンポーネントを追加します。


## Quip ドキュメントおよびシートのプレビュー

他の種類のファイルのプレビューと同様に、Quip ドキュメントと Quip シートをプレビューします。プレビューは、ファイル詳細ページ、[ファイル] ホーム、[メモと添付ファイル] コンポーネントから使用できるほか、Chatter フィードに添付された Quip ドキュメントをクリックすることで使用できます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce アプリケーションに適用されます。

**方法:** Quip ファイルをクリックすると、プレビューが表示されます。そこから、[開く]、[共有]、または[ファイルの詳細を表示]のアクションを選択します。



 **メモ:** ファイル詳細ページでは、プレビューの最初のページのみが表示されます。

## ファイルのその他の変更

機能廃止と、ファイル操作を向上する小規模な変更について説明します。

このセクションの内容:

### ウィークリーデータのエクスポートへのファイルリンクの追加

ContentDocumentLink オブジェクトデータを使用して、Salesforce ファイルがどのように共有されているのかを確認します。このデータを使用して、ファイルにどのユーザーがアクセスできるのかを監査したり、自動化システムによって作成されたリンクをトラブルシューティングしたりできます。エクスポートされたファイルリンクはデータの移行や統合にも役立つ可能性があるほか、徹底されたバックアップと復元を提供します。

### Flash 廃止への準備

Adobe Flash Player で実行されていた複数の機能が HTML5 を使用するようになりました。Salesforce では、Spring '19 までに Flash が完全に廃止されます。Adobe は、2020 年までに Flash Player のサポート終了を予定しており、一部のブラウザでは現在、Flash がブロックされます。

### SharePoint (社内) 用 Files Connect の廃止

SharePoint (社内) 用の Files Connect は、すべての Salesforce 組織で 2018 年 5 月 18 日に廃止が予定されています。SharePoint Online を使用する Files Connect への移行をお勧めします。

### Files Sync の廃止

Salesforce Files Sync は、2018 年 5 月 25 日にすべての Salesforce 組織で廃止が予定されています。詳細は「Files Sync は 2018 年 5 月 25 日で廃止されます」を参照してください。

## ウィークリーデータのエクスポートへのファイルリンクの追加

ContentDocumentLink オブジェクトデータを使用して、Salesforce ファイルがどのように共有されているのかを確認します。このデータを使用して、ファイルにどのユーザがアクセスできるのかを監査したり、自動化システムによって作成されたリンクをトラブルシューティングしたりできます。エクスポートされたファイルリンクはデータの移行や統合にも役立つ可能性があるほか、徹底されたバックアップと復元を提供します。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザ:** 「ウィークリーデータのエクスポート」 ユーザ権限のあるユーザ

**方法:** [設定] から、[クイック検索] ボックスに「データのエクスポート」と入力し、[今すぐエクスポート] または [エクスポートをスケジュール] を選択します。[データのエクスポート] の下で、ContentDocumentLink のチェックボックスを選択します。

## Flash 廃止への準備

Adobe Flash Player で実行されていた複数の機能が HTML5 を使用するようになりました。Salesforce では、Spring '19 までに Flash が完全に廃止されます。Adobe は、2020 年までに Flash Player のサポート終了を予定しており、一部のブラウザでは現在、Flash がブロックされます。

**対象:** この変更は、すべてのエディションの Salesforce Classic に適用されます。

Salesforce Classic の複数の場所で Flash が置き換えられました。ファイルおよびコンテンツの詳細ページには、アップグレードされたファイルプレビューが表示されるようになりました。ユーザがフィード内のファイルサムネイルや [ファイル] ホーム内のファイルプレビューリンクをクリックすると、ファイル詳細ページに移動します。

関連トピック:

[スキャンされた PDF のプレビューを使用した問題の解決](#)

## SharePoint (社内) 用 Files Connect の廃止

SharePoint (社内) 用の Files Connect は、すべての Salesforce 組織で 2018 年 5 月 18 日に廃止が予定されています。SharePoint Online を使用する Files Connect への移行をお勧めします。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** SharePoint Online を使用して Files Connect を設定するには、[Files Connect のドキュメント](#) を参照し、Microsoft のクラウドシステムを使用する Files Connect の手順に従います。

## Files Sync の廃止

Salesforce Files Sync は、2018 年 5 月 25 日にすべての Salesforce 組織で廃止が予定されています。詳細は「[Files Sync は 2018 年 5 月 25 日で廃止されます](#)」を参照してください。

**対象:** この変更は、Personal Edition を除くすべてのエディションの Salesforce Classic に適用されます。

## モバイル: 外出先で実行できる操作の増加

---

Salesforce モバイルアプリケーションを使用すると、ユーザは外出中も生産性を維持できます。Chatter の機能強化、ケースのメール通知、ToDo と行動の件名などが追加されました。

このセクションの内容:

[Salesforce アプリケーション: 定義済みの件名と Chatter の更新](#)

ユーザが、外出中に作成する ToDo と行動用に定義済みの件名を作成して使用できるようになりました。

Chatter には、アンケート、質問、リッチテキストなど、他の機能も追加されています。この夏の 16.0 アプリケーションリリースでは、転送通知も改善される予定です。

## Salesforce アプリケーション: 定義済みの件名と Chatter の更新

ユーザが、外出中に作成する ToDo と行動用に定義済みの件名を作成して使用できるようになりました。Chatter には、アンケート、質問、リッチテキストなど、他の機能も追加されています。この夏の 16.0 アプリケーションリリースでは、転送通知も改善される予定です。

時期: Salesforce モバイルアプリケーションは、Database.com 以外のすべてのエディションで使用できます。

このセクションの内容:

[Salesforce モバイルアプリケーションへのアクセス](#)

プラットフォームの最小要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce にアクセスする方法は複数あります。

[Salesforce for Android/iOS の新機能](#)

Salesforce アプリケーションの最新リリースはバージョン 16.0 です。バージョン 16.0 アプリケーションの新機能の概要は次のとおりです。

[Salesforce アプリケーションのすべての新機能](#)

Salesforce アプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

[Salesforce アプリケーションでは機能上の差異があるか使用不可となる Summer '18 の機能](#)

Salesforce モバイルアプリケーションには、組織で Lightning Experience と Salesforce Classic のいずれを使用している場合であっても、Salesforce フルサイトの一部の機能が含まれていません。ここでは、使用できない、フルサイトで使用する場合と機能上の差異がある、またはモバイルアプリケーションでの動作が異なる Summer '18 Salesforce の機能強化について説明します。

## Salesforce モバイルアプリケーションへのアクセス

プラットフォームの最小要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce にアクセスする方法は複数あります。

- Salesforce for Android/iOS をインストールします。ユーザは Google Play または App Store からアプリケーションをダウンロードできます。
- 選択した Android、Apple、または Windows モバイルデバイスでサポート対象モバイルブラウザから Salesforce モバイル Web にアクセスします。この方法では、何もインストールする必要はありません。

## Salesforce for Android/iOS の新機能

Salesforce アプリケーションの最新リリースはバージョン 16.0 です。バージョン 16.0 アプリケーションの新機能の概要は次のとおりです。

### Salesforce for Android バージョン 16.0

Salesforce for Android のバージョン 16.0 は、2018 年 6 月 11 日の週に Google Play にリリースされ、数週間で徐々にお客様にロールアウトされます。

Salesforce for Android の新機能を次に示します。

- [よりリッチな完全なコンテンツの転送通知でユーザーに絶えず最新情報を伝達](#) (ページ 411)

### Salesforce for iOS バージョン 16.0

2018 年 6 月 11 日の週初めに、App Store で Salesforce for iOS バージョン 16.0 の提供が開始されます。

Salesforce for iOS の新機能を次に示します。

- [よりリッチな完全なコンテンツの転送通知でユーザーに絶えず最新情報を伝達](#) (ページ 411)

## Salesforce アプリケーションのすべての新機能

Salesforce アプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザーに割り当てられたプロファイルと権限セットによって、各ユーザーが使用できる Salesforce データおよび機能が決定されます。

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	Salesforce モバイル Web	フルサイトの設定
<b>生産性機能</b>				
<a href="#">ToDo と行動の定義済み件名の作成</a>	✓	✓	✓	
<b>カスタマーサービス機能</b>				
<a href="#">ケース変更のメール通知の送信</a>	✓	✓	✓	✓
<b>Chatter</b>				
<a href="#">モバイルで投稿、アンケート、質問を共有</a>			✓	
<a href="#">モバイルでリッチテキストを取得 (正式リリース)</a>			✓	
<a href="#">重複メンションの削除</a>			✓	
<a href="#">自分のプロファイルに Trailhead バッジを表示</a>			✓	
<a href="#">モバイルのプロファイルにメッセージボタンを新しく表示</a>			✓	
<b>通知</b>				

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	Salesforce モバイル Web	フルサイトの設定
よりリッチな完全なコンテンツの転送通知でユーザに絶えず最新情報を伝達	✓	✓		✓
アクセスおよびセキュリティ				
更新された Apple Push Notification Service for iOS 通知		✓		✓

## モバイルで投稿、アンケート、質問を共有

プラットフォーム間で機能を一致させるために、Salesforce モバイルブラウザアプリケーションでの共有が提供されるようになりました。モバイルプラットフォーム間を移動しても、一貫した共有操作ができます。

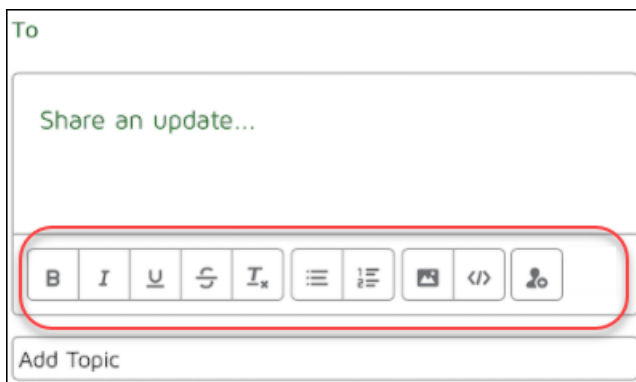
**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition のモバイルアプリケーションブラウザに適用されます。

## モバイルでリッチテキストを取得 (正式リリース)

すべてのプラットフォームで同じ書式設定、リストの作成、およびコードスニペットとインライン画像の挿入ができるようになりました。モバイルデバイスが、外出先で完全な Salesforce 環境を提供するものに、かつてないほど近づいてきました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition のモバイルアプリケーションブラウザに適用されます。

**理由:** Chatter パブリッシャーのリッチテキストエディタによるプラットフォーム間のモバイルブラウザアプリケーションの調整がさらに完全になりました。

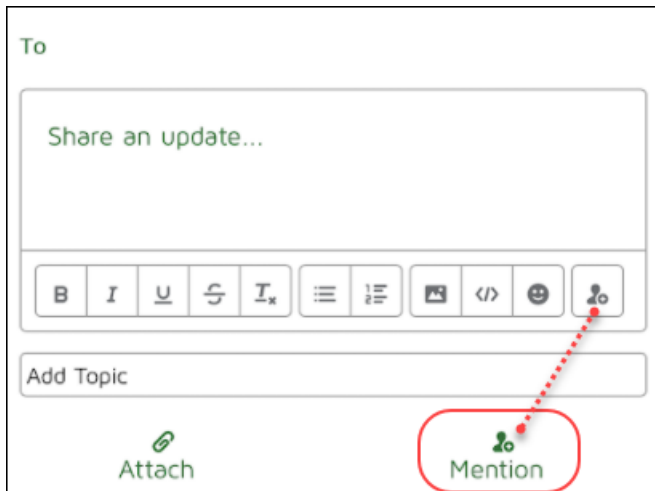


## 重複メンションの削除

家をきれいにするため、モバイルブラウザアプリケーションの Chatter パブリッシャー内にある 2 番目の @メンションアイコンを削除しました。余分なものがなくなり、ユーザが質問を 2 回する必要がなくなりました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition のモバイルアプリケーションブラウザに適用されます。

理由: 一番下のメンションアイコンが削除されたアイコンです。



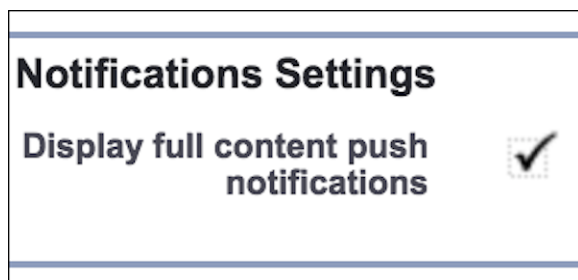
### よりリッチな完全なコンテンツの転送通知でユーザに絶えず最新情報を伝達

完全に暗号化された転送通知から、ユーザは Salesforce で発生しているメンションやその他の重要なビジネスタスクおよび更新についてより多くのコンテキストを得ることができます。Salesforce システム管理者は、転送通知に含める情報の量を制御して、機密情報をアプリケーション内に留めておくことができます。新しいスタイルの転送通知は、外出先で一貫したユーザエクスペリエンスを提供するために Lightning Experience に合わせてあります。

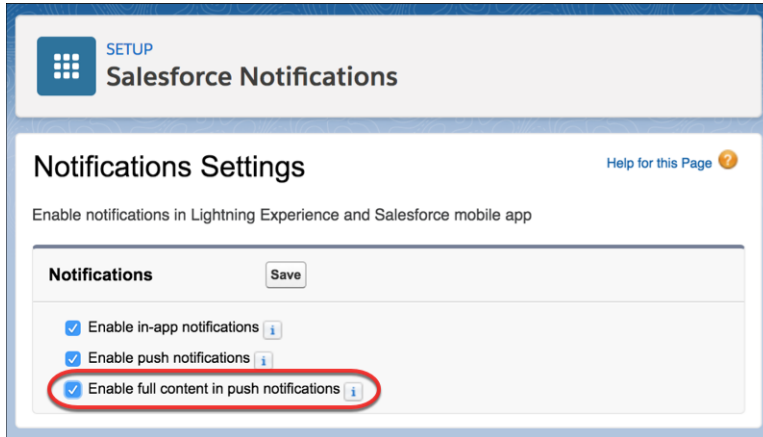
**対象:** この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Salesforce for Android および Salesforce for iOS に適用されます。

**時期:** 新しい転送通知は、この夏に Salesforce for Android および Salesforce for iOS バージョン 16.0 がリリースされるまで表示されません。

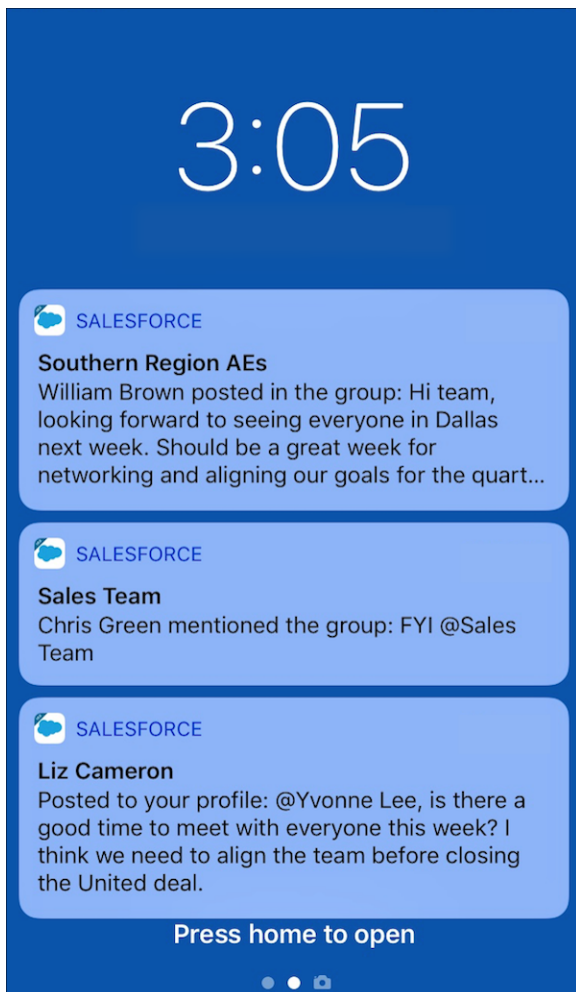
新しい [完全なコンテンツの転送通知を表示] オプションは、Summer '18 リリース以降、[設定] の [接続アプリケーションを管理する] ページに表示されます。



[転送通知で完全なコンテンツを有効化] オプションは、この夏、Salesforce for iOS および Salesforce for Android 16.0 が正式リリースされた後に削除されます。



理由: 新しい完全なコンテンツの転送通知を使用すると、ユーザは Salesforce for iOS/Android を開く前に最新の更新の詳細な通知にすばやく目を通すことができます。





方法: 新しい完全なコンテンツの転送通知は、今後 Summer '18 により組織で有効になります。新しい通知がモバイルデバイスで適切に動作するには、ユーザにバージョン 16.0 の Salesforce for Android および Salesforce for iOS がが必要です。

- ☑ **メモ:** この機能は本番環境では自動的に有効になりますが、Sandbox でテストしている場合は手動でこの機能を有効にする必要があります。[完全なコンテンツの転送通知を表示]を選択し、Salesforce for Android および Salesforce for iOS の 16.0 ベータバージョンをテスト用にダウンロードします。

[完全なコンテンツの転送通知を表示] オプションは Summer '18 リリースで表示されるようになりますが、通知はユーザが Salesforce for Android および Salesforce for iOS バージョン 16.0 に更新し、機能がお客様に対して完全に有効化されるまで機能しません。完全なコンテンツの転送通知を送信除外する場合は、Summer '18 リリース後のいつでも [完全なコンテンツの転送通知を表示] を選択解除してください。

- ☑ **メモ:** Salesforce Chatter や Field Service Lightning など、アプリケーションによってはこの新しいスタイルの転送通知に対応していません。[転送通知で完全なコンテンツを有効化] オプションが削除された後、これらのアプリケーションでは最後に認識された転送通知設定が保持されます。将来的に転送通知設定を変更する場合は、Salesforce サポートにケースを登録してください。

#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Salesforce アプリケーション通知の有効化 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## 更新された Apple Push Notification Service for iOS 通知

Summer '18 では、従来のバイナリプッシュから HTTP/2 プッシュに切り替わります。プッシュメッセージングを有効にするのに、プロバイダ証明書に加え、プロバイダ認証トークンを使用できるようになりました。プロバイダ証明書とは異なり、プロバイダ認証トークンは期限切れにならないため、システム管理者とアプリケーションユーザの時間を節約できます。

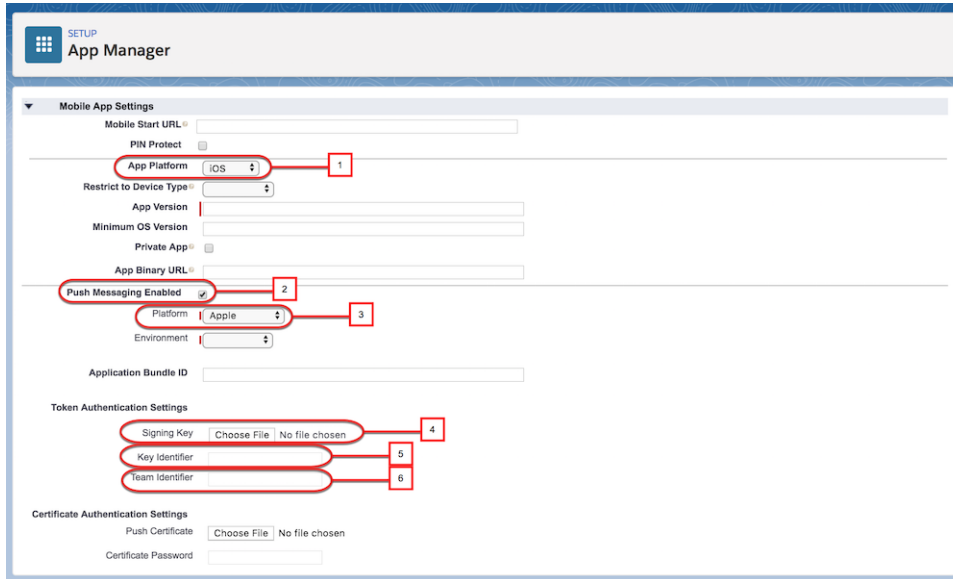
対象: この機能は、Database.com を除くすべてのエディションの Salesforce for iOS で使用できます。

理由: Apple が従来のバイナリプッシュのサポートを将来的に終了すると計画しているため、その変更に合わせて HTTP/2 プッシュに移行します。

方法: プロバイダ認証トークンを使用するには、接続アプリケーションのモバイル設定を更新します。

[設定] で、[クイック検索] ボックスに「アプリケーションマネージャ」と入力し、[新規接続アプリケーション] に移動します。[モバイルアプリケーション設定] で次の手順を実行します。

1. [アプリケーションプラットフォーム] で [iOS] を選択します。
2. [プッシュメッセージングの有効化] を選択します。ダイアログボックスが展開されて他の設定が表示されます。
3. [プラットフォーム] で [Apple] を選択します。
4. Apple 開発者アカウントから [署名鍵] をアップロードします。
5. Apple 開発者アカウントから [鍵識別子] を入力します。
6. Apple 開発者アカウントから [チーム識別子] を入力します。



- ☑ **メモ:** 認証トークン、転送証明書、またはその両方を使用できます。トークンが指定された場合、Salesforce では常にトークンが使用されます。アプリケーションバンドル ID も指定された場合は使用します。転送通知設定での問題を回避するために、アプリケーションバンドル ID を使用することをお勧めします。

#### 関連トピック:

*Salesforce ヘルプ:* 接続アプリケーションの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

*外部リンク:* [Communicating with Apple Push Notification Service](#) (Apple Push Notification Service によるコミュニケーション)

*外部リンク:* [Communicating with Apple Push Notification Service Using Authentication Tokens](#) (認証トークンを使用した Apple Push Notification Service によるコミュニケーション)

## Salesforce アプリケーションでは機能上の差異があるか使用不可となる Summer '18 の機能

Salesforce モバイルアプリケーションには、組織で Lightning Experience と Salesforce Classic のいずれを使用している場合であっても、Salesforce フルサイトの一部の機能が含まれていません。ここでは、使用できない、フルサイトで使用する場合と機能上の差異がある、またはモバイルアプリケーションでの動作が異なる Summer '18 Salesforce の機能強化について説明します。

- ☑ **メモ:** Salesforce アプリケーションとフルサイトの相違点を網羅したリストは、Salesforce ヘルプの「[Salesforce アプリケーションで使用できない機能とその新機能](#)」を参照してください。

## 生産性機能

### カレンダーの [新規行動] ボタンの上書き

カスタム Lightning コンポーネントを作成して、Lightning Experience のカレンダーの [新規行動] ボタンを上書きできます。Lightning コンポーネントは、Salesforce アプリケーションの [新規行動] ボタンの上書きには使用できません。

## Financial Services Cloud: 個人取引先の機能強化、カスタマイズされたグループリレーションビュー、積み上げ集計の機能強化、Salesforce Inbox と Pardot の互換性

---

個人取引先を使用して、統合されたカスタマイズ可能なクライアントプロファイルを表示できます。個人取引先は、Salesforce モバイル、アドバイザー分析、パートナーコミュニティとカスタマーコミュニティで使用できるようになりました。拡張されたグループリレーションビューには、主要なカスタマーリレーションが表示されます。拡張された積み上げ集計を使用すると、ユーザは [プライマリグループ] ビューからすばやくアクションを実行して商談を成功させることができます。ルックアップによる積み上げ集計の計算を無効にして、データ読み込みを高速化します。Financial Services Cloud で Salesforce Inbox と Pardot を使用すると、アドバイザーとバンカーの生産性が向上します。その他にも、TellerAccess (窓口係アクセス) 権限セットや操作性とアクセシビリティの改善など、多くの機能強化があります。

これらの新機能と機能強化を最大限に活用するには、『[Financial Services Cloud システム管理者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

### 個人取引先を使用したユーザエクスペリエンスの向上

個人取引先が Financial Services Cloud のさまざまな場所で活躍します。Salesforce モバイル、アドバイザー分析、パートナーコミュニティとカスタマーコミュニティで使用できるようになりました。個人取引先を使用すれば、ユーザは統合されたクライアントプロファイルですべての顧客情報を表示し、エンゲージメントを促進できます。ユーザは活動の記録、ToDo の作成、または金融口座や商談の作成をすべて同じページで行うことができます。1ステップのアクションでクライアントレコードをフォローおよび共有し、重複レコード管理でデータ品質を改善します。

### グループリレーションビューのカスタマイズ

リレーションの対応付けとグループビルダーの [関連取引先] および [関連取引先責任者] セクションの表示を制御し、ユーザに関連する主要なリレーションを表示します。ユーザのロール (アドバイザー、バンカー、窓口係など) に基づいて、コンポーネントレベルで適切な詳細レベルを提供します。さらに、ユーザ権限に基づいてボタンとアクションを表示または非表示にし、インターフェースを簡略化して顧客データへのアクセス権を制御します。

### プライマリグループへの商談の積み上げ集計

この機能を有効にすると、プライマリグループの関連リストにすべてのグループメンバーの商談が表示されます。ユーザは、プライマリグループからすばやくアクションを実行して商談を成功させることができます。

### 必要に応じたデータ読み込みの高速化

2つのFinancial Services Cloud設定を使用すると、データ読み込みを高速化できます。これらに設定では、ルックアップによる積み上げ集計ルールが組織または特定のプロファイルに対してクエリおよび計算されるかどうかを制御してデータ読み込みを高速化します。

### Apexを使用したルックアップによる積み上げ集計ルール再計算の自動化

Apex ジョブを使用してRBLルールを実行することで、組織のルックアップによる積み上げ集計再計算を自動化します。RBLルールを無効にしてから、再計算を呼び出す Apex ジョブを実行し、金融口座データをすばやくインポートします。

### Salesforce Inbox での生産性の向上

Salesforce Inbox は、Gmail および Outlook のプラグインと Android および iOS モバイルアプリケーションを使用して、ユーザのメールの受信箱と Financial Services Cloud を統合します。ユーザはクライアントの詳細の表示および管理、紹介、リード、および商談の作成、ToDo の割り当て、メールの受信箱からの行動への招待の直接送信を行うことができます。

### Salesforce Pardot を使用したよりスマートなマーケティングの自動化

ユーザは、Financial Services Cloud で使用できるようになった Salesforce Pardot を使用して、マーケティングの自動化を介して顧客および見込み客とつながることができます。Pardot の Engage を使用すれば、ユーザは選択したインターフェースから1対1のメールを送信し、Pardot と Financial Services Cloud にすべてのインタラクションを自動的に記録できます。

### Teller Access (窓口係アクセス) 権限セットによる窓口係の稼働

Teller Access(窓口係アクセス)権限セットにより、窓口係ユーザは、開始に必要なデフォルトの権限と項目レベルセキュリティ設定を得られます。

### 活動と複数の取引先責任者の関連付け

ユーザは、世帯のメンバーだけでなく他の関連取引先責任者にも1つのToDoを関連付けることができるようになりました。ToDoを複数回作成する代わりに、1つのToDoを複数の人物に関連付けてToDoのフォローアップを合理化します。ToDoは、すべての関連付けられたクライアントプロファイルの活動タイムラインに表示されます。

### アクセシビリティの機能強化

Salesforce はすべてのユーザにアクセシビリティを提供するように取り組んでいます。これを念頭に置いて、支援技術を使用しているユーザが Financial Services Cloud をより簡単に操作できるように、キャプション、代替テキスト、その他のアクセシビリティ機能が改善されました。

### すべての Financial Services Cloud ユーザが必要な権限セットライセンス

Financial Services Cloud データにアクセスする必要があるユーザは、ユーザインターフェースとAPIのどちらでアクセスするかに関わらず、Financial Services Cloud Standard または Financial Services Cloud Basic 権限セットライセンスが必要になりました。この変更により、ライセンスを持つユーザのみが Financial Services Cloud 機能にアクセスできるようになります。すでにすべてのユーザに権限セットライセンスを割り当てている場合、特に操作は必要ありません。

## 個人取引先を使用したユーザエクスペリエンスの向上

個人取引先が Financial Services Cloud のさまざまな場所で活躍します。Salesforce モバイル、アドバイザー分析、パートナーコミュニティとカスタマーコミュニティで使用できるようになりました。個人取引先を使用すれば、ユーザは統合されたクライアントプロファイルですべての顧客情報を表示し、エンゲージメントを促進できます。ユーザは活動の記録、ToDo の作成、または金融口座や商談の作成をすべて同じページで行うことができます。1 ステップのアクションでクライアントレコードをフォローおよび共有し、重複レコード管理でデータ品質を改善します。

**対象:** Financial Services Cloud 組織で個人取引先が有効になっている必要があります。この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンのモバイルアプリケーションで使用できます。

**方法:** 現在個人データモデルを使用している場合、個人レコードを Financial Services Cloud の個人取引先に変換することを選択できます。個人取引先に切り替える前に、会社のニーズを評価し、「[Financial Services Cloud の個人取引先の活用](#)」を参照してこの移行が適しているかどうか判断してください。「[Financial Services Cloud の個人取引先への個人データモデルの変換に関する考慮事項](#)」を参照してください。

## グループリレーションビューのカスタマイズ

リレーションの対応付けとグループビルダーの [関連取引先] および [関連取引先責任者] セクションの表示を制御し、ユーザに関連する主要なリレーションを表示します。ユーザのロール (アドバイザー、バンカー、窓口係など) に基づいて、コンポーネントレベルで適切な詳細レベルを提供します。さらに、ユーザ権限に基づいてボタンとアクションを表示または非表示にし、インターフェースを簡略化して顧客データへのアクセス権を制御します。

**対象:** この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できません。

**方法:** Lightning アプリケーションビルダーのリレーションの対応付けコンポーネント設定を使用して、リレーションの対応付けとグループビルダーでのセクション表示を制御します。「[リレーションの対応付けとグループビルダーで誰に何を表示するかを管理](#)」を参照してください。

## プライマリグループへの商談の積み上げ集計

この機能を有効にすると、プライマリグループの関連リストにすべてのグループメンバーの商談が表示されます。ユーザは、プライマリグループからすばやくアクションを実行して商談を成功させることができます。

**対象:** この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンのモバイルアプリケーションで使用できます。

**方法:** 取引先と取引先責任者のリレーションの [ロールアップ] 項目に [商談] 選択リスト値を追加します。「[商談の積み上げ集計の有効化](#)」を参照してください。

## 必要に応じたデータ読み込みの高速化

2 つの Financial Services Cloud 設定を使用すると、データ読み込みを高速化できます。これらに設定では、ルックアップによる積み上げ集計ルールが組織または特定のプロファイルに対してクエリおよび計算されるかどうかを制御してデータ読み込みを高速化します。

**対象:** この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンのモバイルアプリケーションで使用できます。

**方法:** 挿入操作または更新操作を開始する前に、[Wealth Application Config (Wealth アプリケーション設定)] で [Enable Rollup Summary (積み上げ集計を有効化)] と [Enable Group Record Rollup (グループレコードの積み上げ集計を有効化)] をオフにします。

## Apex を使用したルックアップによる積み上げ集計ルール再計算の自動化

Apex ジョブを使用して RBL ルールを実行することで、組織のルックアップによる積み上げ集計再計算を自動化します。RBL ルールを無効にしてから、再計算を呼び出す Apex ジョブを実行し、金融口座データをすばやくインポートします。

**方法:** 積み上げ集計の再計算を呼び出す Apex コードを記述します。「[Force Rollup by Lookup Recalculations \(ルックアップによる積み上げ集計の再計算\)](#)」を参照してください。

## Salesforce Inbox での生産性の向上

Salesforce Inbox は、Gmail および Outlook のプラグインと Android および iOS モバイルアプリケーションを使用して、ユーザのメールの受信箱と Financial Services Cloud を統合します。ユーザはクライアントの詳細の表示および管理、紹介、リード、および商談の作成、ToDo の割り当て、メールの受信箱からの行動への招待の直接送信を行うことができます。

**対象:** Salesforce Inbox は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用できます。

**方法:** 「[Inbox](#)」を参照してください。

## Salesforce Pardot を使用したよりスマートなマーケティングの自動化

ユーザは、Financial Services Cloud で使用できるようになった Salesforce Pardot を使用して、マーケティングの自動化を介して顧客および見込み客とつながることができます。Pardot の Engage を使用すれば、ユーザは選択したインターフェースから 1 対 1 のメールを送信し、Pardot と Financial Services Cloud にすべてのインタラクションを自動的に記録できます。

**対象:** Pardot は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用できます。

**方法:** 「[Pardot と Salesforce の接続](#)」を参照してください。

## Teller Access (窓口係アクセス) 権限セットによる窓口係の稼働

Teller Access (窓口係アクセス) 権限セットにより、窓口係ユーザは、開始に必要なデフォルトの権限と項目レベルセキュリティ設定を得られます。

**対象:** この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できません。

方法: 標準ユーザプロファイルをコピーし、Teller Access (窓口係アクセス) 権限セットを追加します。「[Teller Access \(窓口係アクセス\) 権限セットの割り当て \(省略可能\)](#)」を参照してください。

## 活動と複数の取引先責任者の関連付け

ユーザは、世帯のメンバーだけでなく他の関連取引先責任者にも 1 つの ToDo を関連付けることができるようになりました。ToDo を複数回作成する代わりに、1 つの ToDo を複数の人物に関連付けて ToDo のフォローアップを合理化します。ToDo は、すべての関連付けられたクライアントプロファイルの活動タイムラインに表示されます。

対象: この機能は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンのモバイルアプリケーションで使用できます。

方法: 「[Shared Activities の有効化](#)」を参照してください。

## アクセシビリティの機能強化

Salesforce はすべてのユーザにアクセシビリティを提供するように取り組んでいます。これを念頭に置いて、支援技術を使用しているユーザが Financial Services Cloud をより簡単に操作できるように、キャプション、代替テキスト、その他のアクセシビリティ機能が改善されました。

対象: これらの機能強化は、すべての Financial Services Cloud 組織に適用されます。

方法: Financial Services Cloud がどのようにアクセシビリティ基準に準拠するかについての詳細は、[VPAT\[508\]](#) および [VPAT\[WCAG 2.0\]](#) の Voluntary Product Accessibility Template (VPAT) を参照してください。

## すべての Financial Services Cloud ユーザが必要な権限セットライセンス

Financial Services Cloud データにアクセスする必要があるユーザは、ユーザインターフェースと API のどちらでアクセスするかに関わらず、Financial Services Cloud Standard または Financial Services Cloud Basic 権限セットライセンスが必要になりました。この変更により、ライセンスを持つユーザのみが Financial Services Cloud 機能にアクセスできるようになります。すでにすべてのユーザに権限セットライセンスを割り当てている場合、特に操作は必要ありません。

対象: この変更は、すべての Financial Services Cloud 組織に適用されます。

時期: この変更は、まずは 5 月上旬に Sandbox プレビュー組織に適用されます。6 月上旬に Summer '18 リリースがロールアウトされるときに、この要件が本番組織に適用されます。

方法: [設定] > [会社の設定] > [組織情報] > [権限セットライセンス] に移動し、組織に適切な数の Financial Services Cloud ライセンスが追加されていることを確認します。次に、[設定] > [権限セット] に移動し、ライセンスをユーザに割り当てます。

関連情報:

- [Financial Services Cloud 権限セットライセンスの割り当て](#)
- [Manage Bulk Permission Set License \(PSL\) Assignments for Financial Services Cloud \(Financial Services Cloud の権限セットライセンス \(PSL\) の一括割り当ての管理\)](#)

# Health Cloud: モジュール形式の追加、EHR インテグレーションの簡易化、Field Service Lightning のサポート

Health Cloud は Field Service Lightning をサポートするようになり、HL7 v2 標準を使用して電子健康カルテ (EHR) データを送受信するさまざまな標準の方法から選択できます。

Health Cloud は、Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

このセクションの内容:

## HL7 V2.x での電子健康カルテの操作

HL7 v2.x メッセージを介して重要な電子健康カルテ (EHR) を Health Cloud データモデルに取り込むことができます。事前作成済みのアダプタと対応付けロジックを使用すれば、患者の人口統計、入院、退院、転院、外来予約、アレルギーなどのデータをより簡単に取得できます。独自のニーズに合わせて、アダプタと対応付けを再設定、置換、または拡張します。

## Health Cloud をモバイルデバイスで使用

Field Service Lightning がある場合、ヘルスケア提供者に携帯電話での Health Cloud の操作を許可できます。提供者は Android または iOS モバイルデバイスから、患者データの確認、スケジュールの管理、患者のケアプランの目標と ToDo の対話形式での更新を行うことができます。

## 新しい API による「患者」のサポート

CreatePatient API では、新規患者を表すレコードがプログラムで作成されます。これにより、開発者は取引先、取引先責任者、個人取引先の代わりに、Health Cloud 固有の概念である「患者」を使用できます。CreatePatient は、患者に Health Cloud の個人レコードタイプと個人取引先標準オブジェクトのどちらを使用している場合でも機能します。

## より柔軟な患者情報の表示

「Health Cloud の患者の詳細」 Lightning コンポーネントの各セクションを個別に設定し、個人レコードタイプを使用して Lightning 取引先または取引先責任者レコードページからの情報を表示できます。

## すべての Health Cloud ユーザが必要な権限セットライセンス

Health Cloud データにアクセスする必要があるユーザは、ユーザインターフェースと API のどちらでアクセスするかに関わらず、Health Cloud 権限セットライセンスが必要です。これは今まで必須ではありませんでした。

## Health Cloud でのロシア語、イタリア語、デンマーク語のサポート

サポートされるロケールにデンマーク語 (DA)、ロシア語 (RU)、イタリア語 (IT) が追加されました。

## 操作性の強化

ユーザの作業効率を高めるためにいくつかの改善が行われました。

## 新規追加または変更された Health Cloud Lightning コンポーネント

異なる種別の患者情報を操作する 3 つのコンポーネントが追加されました。



### Health Cloud メタデータ:新しい型

Health Cloud には 3 つの新しいカスタムメタデータ型があります。

## HL7 V2.x での電子健康カルテの操作

HL7 v2.x メッセージを介して重要な電子健康カルテ (EHR) を Health Cloud データモデルに取り込むことができます。事前作成済みのアダプタと対応付けロジックを使用すれば、患者の人口統計、入院、退院、転院、外来予約、アレルギーなどのデータをより簡単に取得できます。独自のニーズに合わせて、アダプタと対応付けを再設定、置換、または拡張します。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザー:** Health Cloud 権限セットライセンスが割り当てられているユーザーがこの機能を使用できます。

**理由:** HL7 v2 アダプタと標準の v2 ADT 対応付けにより、Health Cloud とさまざまな EHR システムの統合の効率とコスト効果がさらに高くなります。

**方法:** この機能を管理するための 3 つの新しいメタデータ型が用意されています。これらは [設定] ツリーの [カスタムメタデータ型] にあります。

### HL7setting

HL7 標準を使用した電子健康カルテの送受信のパーサーサポートを提供します。

### HL7ParserMapping

HL7 セグメントの解析に使用される Apex クラスを決定します。

### ServiceOrchestrationSetting

パーサー操作の実行順序を決定します。

### 関連トピック:

[https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health\\_cloud\\_object\\_reference.meta/health\\_cloud\\_object\\_reference/hl7.htm](https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud_object_reference.meta/health_cloud_object_reference/hl7.htm)

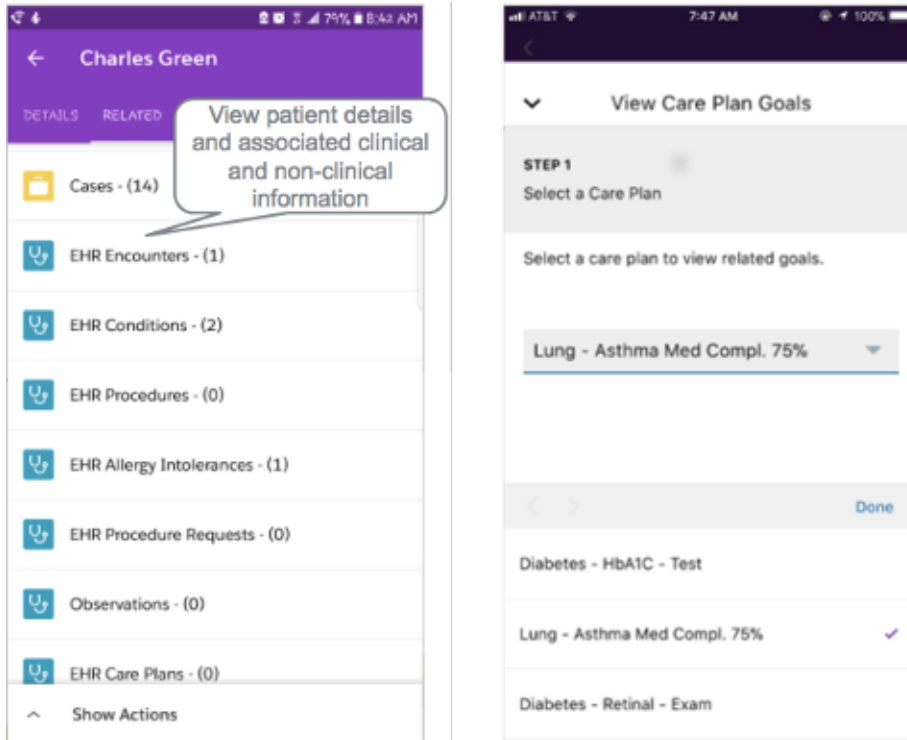
## Health Cloud をモバイルデバイスで使用

Field Service Lightning がある場合、ヘルスケア提供者に携帯電話での Health Cloud の操作を許可できます。提供者は Android または iOS モバイルデバイスから、患者データの確認、スケジュールの管理、患者のケアプランの目標と ToDo の対話形式での更新を行うことができます。

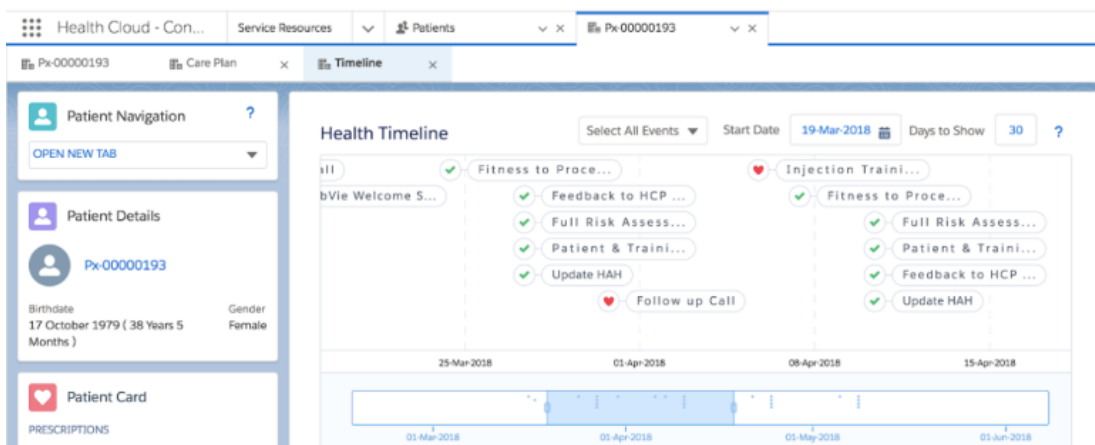
**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、Field Service Lightning アプリケーション、すべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されません。

**対象ユーザー:** Health Cloud 権限セットライセンスと Field Service Lightning 権限セットライセンスが割り当てられているユーザーがこの機能を使用できます。

**理由:** Field Service Lightning で Health Cloud フローを使用すると、患者の自宅や職場、またはキャンパスのさまざまな場所でサービスを提供する人員を管理できます。



ケア提供者は iOS または Android で Field Service Lightning モバイルアプリケーションを使用して、患者情報の表示、患者ケアプランのToDoと目標の操作、患者タイムラインの予定の管理を行うことができます。



**方法:** Field Service Lightning 用の Health Cloud は、未管理パッケージとして提供されます。Field Service Lightning パッケージをインストールしてから、<http://industries.force.com/healthcloudextensionfieldservice> にアクセスして Health Cloud をインストールします。

関連トピック:

[https://help.salesforce.com/articleView?id=fs\\_overview.htm](https://help.salesforce.com/articleView?id=fs_overview.htm)

[https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health\\_cloud.meta/health\\_cloud/health\\_cloud\\_field\\_service.htm](https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud.meta/health_cloud/health_cloud_field_service.htm)

## 新しい API による「患者」のサポート

CreatePatient API では、新規患者を表すレコードがプログラムで作成されます。これにより、開発者は取引先、取引先責任者、個人取引先の代わりに、Health Cloud 固有の概念である「患者」を使用できます。CreatePatient は、患者に Health Cloud の個人レコードタイプと個人取引先標準オブジェクトのどちらを使用している場合でも機能します。

対象ユーザ: Health Cloud 権限セットライセンスが割り当てられているユーザがこの機能を使用できます。

方法: 取引先および取引先責任者オブジェクトの標準項目またはカスタム項目で引数として渡します。カスタム項目には、名前空間と共に対応付けで指定された内容が入力されます。取引先または取引先責任者のカスタム項目と一致しないカスタム項目エントリは無視されます。

取引先または取引先責任者の作成に失敗した場合、トランザクション全体がロールバックされます。

関連トピック:

[https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health\\_cloud\\_object\\_reference.meta/health\\_cloud\\_object\\_reference/apex\\_pages\\_patient.htm](https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud_object_reference.meta/health_cloud_object_reference/apex_pages_patient.htm)

## より柔軟な患者情報の表示

「Health Cloud の患者の詳細」 Lightning コンポーネントの各セクションを個別に設定し、個人レコードタイプを使用して Lightning 取引先または取引先責任者レコードページからの情報を表示できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Health Cloud 権限セットライセンスが割り当てられているユーザがこの機能を使用できます。

方法: 3つの新しいスタンドアロンコンポーネントの任意の組み合わせを使用して、Health Cloud の患者の詳細コンポーネントの3つのセクションにこれまで含まれていた情報を提供します。

- Health Cloud の患者ナビゲーションには、Health Cloud のナビゲーション機能がスタンドアロン Lightning コンポーネントとして含まれるようになりました。
- Health Cloud の患者情報には、Health Cloud の患者の詳細機能がスタンドアロンの Lightning コンポーネントとして含まれるようになりました。
- Health Cloud の患者カードには、Health Cloud の患者カード機能がスタンドアロンの Lightning コンポーネントとして含まれるようになりました。

これらのスタンドアロンコンポーネントをページテンプレートの固定領域に個別にドラッグし、ユーザがサブタブ間を移動しても常に表示される永続的な情報をカスタマイズできます。

既存の Health Cloud の患者の詳細コンポーネントも引き続き使用できます。固定領域のない FlexiPage テンプレートを使用した Health Cloud の現在の実装は機能し続けますが、固定領域ページ(左サイドバーを推奨)に切り替えることをお勧めします。

[Persistent Patient Detail in Subtabs (サブタブ内の永続的な患者の詳細)] カスタム設定が追加されました。この設定は、Lightning コンソールの 1 列内で他の Health Cloud コンポーネントの左側に患者カードが自動的に読み込まれないようにします。これにより、システム管理者が Health Cloud の患者の詳細、Health Cloud の患者ナビゲーション、Health Cloud の患者情報、Health Cloud の患者カードを取引先 FlexiPage の固定されたヘッダーまたはサイドバー内のスタンドアロン Lightning コンポーネントとして設定できます。

各サブタブ内にカスタマイズできない Health Cloud の患者の詳細コンポーネントが表示されないようにするには、[Persistent Patient Detail in Subtabs (サブタブ内の永続的な患者の詳細)] カスタム設定を無効にします。

関連トピック:

[https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health\\_cloud.meta/health\\_cloud/admin\\_patient\\_card\\_overview.htm](https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud.meta/health_cloud/admin_patient_card_overview.htm)

[https://help.salesforce.com/articleView?id=console\\_lex\\_custom\\_pages.htm](https://help.salesforce.com/articleView?id=console_lex_custom_pages.htm)

## すべての Health Cloud ユーザが必要な権限セットライセンス

Health Cloud データにアクセスする必要があるユーザは、ユーザインターフェースと API のどちらでアクセスするかに関わらず、Health Cloud 権限セットライセンスが必要です。これは今まで必須ではありませんでした。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、Field Service Lightning アプリケーション、すべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されません。

**理由:** Health Cloud 権限セットライセンスにより、ライセンスを持つユーザのみが Health Cloud 機能にアクセスできるようになります。6月1日までに、各 Health Cloud ユーザに Health Cloud 権限セットライセンスを付与してください。

**対象ユーザ:** ほとんどのコミュニティ参加者には影響ありません。患者、ケア担当者、その他の顧客は、すでに組織のいずれかのコミュニティライセンスでカバーされています。HealthCloud オブジェクトへのアクセスが必要なコミュニティメンバーがいる場合、必要な PSL について Salesforce の担当者にお問い合わせください。

**時期:** この変更は、まずは 5 月上旬に Sandbox プレビュー組織に適用されます。6 月上旬に Summer '18 リリースがロールアウトされるときに、この新しい要件が本番組織に適用されます。

**方法:** [設定] > [会社の設定] > [組織情報] > [権限セットライセンス] に移動し、組織に適切な数の Health Cloud ライセンスが追加されていることを確認します。次に、[設定] > [権限セット] に移動し、ライセンスをユーザに割り当てます。

関連トピック:


[https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health\\_cloud.meta/health\\_cloud/admin\\_permissionset\\_licenses\\_assign.htm](https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud.meta/health_cloud/admin_permissionset_licenses_assign.htm)

[https://resources.docs.salesforce.com/latest/latest/en-us/sfdc/pdf/bulk\\_psl\\_assign\\_for\\_health\\_cloud.pdf](https://resources.docs.salesforce.com/latest/latest/en-us/sfdc/pdf/bulk_psl_assign_for_health_cloud.pdf)

## Health Cloud でのロシア語、イタリア語、デンマーク語のサポート

サポートされるロケールにデンマーク語 (DA)、ロシア語 (RU)、イタリア語 (IT) が追加されました。

Spring '18 リリースより前に Health Cloud を設定している場合、新しい言語を使用するには、表示を更新する必要があります。[設定] の [クイック検索] ボックスで [オブジェクト] を検索し、[作成] > [オブジェクト] をクリックします。[カスタムオブジェクト] ページで、[患者カードの設定] をクリックします。[カスタム項目 & リレーション] で、[言語] をクリックします。[新規] をクリックし、追加する言語の名前を入力します。

 **メモ:** これは正確な言語名である必要があります。たとえば、*Russian* は機能しますが、*russian* は機能しません。システムで認識されない言語が指定されると、デフォルトで英語が使用されます。

[カスタムオブジェクト] ページで、[タイムラインビューの設定] に移動し、この手順を繰り返します。

新しい言語が表示されていることを確認するには、[患者カードの設定]に戻り、[言語]ドロップダウンにその言語があるかどうかを調べます。

**ヒント:** 会社が英語以外の多言語を使用している場合、翻訳された値が Health Cloud コンポーネントで正しく表示されるように、トランスレーションワークベンチを有効にします。製品ドキュメントは、すべての完全サポート対象言語で用意されています。

**重要:** Health Cloud で言語がサポートされていても、Salesforce がその言語が話されるすべての国の法的コンプライアンス評価を完了しているというわけではありません。Health Cloud を使用する予定の各国でその使用に適用される法規制の要件の有無を判断する必要があります。

## 操作性の強化

ユーザの作業効率を高めるためにいくつかの改善が行われました。

対象: これらの変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

### 各自の言語で表示される言語オプション

Health Cloud でユーザが言語を選択するときに、現在のユーザの言語で言語オプションを表示できるようになりました。たとえば、組織の言語が [英語] に設定されている場合、ポルトガル語のオプションは [Portuguese]、オランダ語は [Dutch] としてリストされます。以前は、言語設定ページには、使用可能な言語の翻訳された名前が表示されていました。たとえば、ポルトガル語は [Português] として表示され、オランダ語は [Nederlands] という表示ラベルになっていました。

Spring '18 リリースより前に Health Cloud を設定している場合、新しいオプションを利用するには、表示を更新する必要があります。[設定] で、[オブジェクト] を見つけ、[作成]>[オブジェクト]>[患者カードの設定] をクリックします。各言語の横にある [編集] をクリックし、その言語オプションの新しい表示ラベルを指定します。

[カスタムオブジェクト] ページに戻って [タイムラインビューの設定] に移動し、この手順を繰り返します。

表示ラベルが期待どおりに表示されていることを確認するには、設定ページに戻って [言語] ドロップダウンにその表示ラベルがあるかどうか調べます。

### ケアプラン

ケアプランを作成すると、患者が自動的にケアチームに追加されるようになりました。

### ToDo の絞り込み

ケアプラン Empower コンポーネントに、「完了」状況の ToDo だけでなくすべての完了済み ToDo が表示されるようになりました。以前は、このコンポーネントは「完了」の ToDo で絞り込まれ、その他の完了済みと同等の状況（「キャンセル」など）は含まれませんでした。

## 新規追加または変更された Health Cloud Lightning コンポーネント

異なる種別の患者情報を操作する 3 つのコンポーネントが追加されました。

**対象:**この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

次のコンポーネントが変更されています。

#### 患者カード

患者カード Lightning コンポーネントは3つの個別のコンポーネントに置き換え可能になりました。

次のコンポーネントが新規追加されました。

#### Health Cloud の患者ナビゲーション

ナビゲーションを有効にします。

#### Health Cloud の患者情報

患者の詳細 (連絡先情報など) を提供します。

#### Health Cloud の患者カード

患者ケア情報 (疾患、処方箋など) を表示します。

## Health Cloud メタデータ: 新しい型

Health Cloud には3つの新しいカスタムメタデータ型があります。

#### HL7setting

HL7 標準を使用した電子健康カルテの送受信のパーサーサポートを提供します。

#### HL7ParserMapping

HL7 セグメントの解析に使用される Apex クラスを決定します。

#### HcServiceOrchestrationSetting

パーサー操作の実行順序を決定します。

#### 関連トピック:

[https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health\\_cloud\\_object\\_reference.meta/health\\_cloud\\_object\\_reference/hl7.htm](https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud_object_reference.meta/health_cloud_object_reference/hl7.htm)

## カスタマイズ: 数クリックでさらに賢くなる、外部サービスと時間項目の正式リリース、エラー処理の改善

新しい Einstein 次善アクション (パイロット) を使用して、今よりもスマートな組織になるための方法をカスタマイズします。外部サービス、カスタム時間項目、フローアクションとしての Lightning コンポーネント、およびフローフェーズの各機能をパイロット版またはベータ版から正式リリースしました。Lightning ページ、プロセス、フローを頻繁に使用している場合は、改善されたエラー処理が役立ちます。

カスタマイズ機能は、オブジェクト、データおよび項目の機能強化、組織の外観の更新、ビジネスプロセスの追加、Webサイトの作成、アプリケーションの作成などで組織を拡張するのに役立ちます。しかもすべてポイント&クリックツールやコードを使用して実行できます。カスタマイズ機能には、組織を管理および保護するツールも含まれます。

## このセクションの内容:

### Einstein 予測ビルダー: コードなしのカスタム AI の使用 (ベータ)

Salesforce のほぼすべての標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトでカスタム予測を使用して、ビジネスプロセスをよりスマートで予測的にすることができます。予測しようとしている内容に標準の Einstein ソリューションが適さない場合は、Einstein 予測ビルダーで独自の予測モデルを作成できます。そして何よりも、それをコードなしで数回クリックするだけで構築できます。

### Einstein 次善アクション: 戦略を使用した提案アクションとオファー (パイロット)

Salesforce の内部および外部のビジネスルール、予測モデル、およびデータを統合し、適切な提案を、適切なタイミングで、適切なユーザに提供します。特定の条件下でのみ関連を持つアクションや提案はないでしょうか。たとえば、特定の顧客にのみ提案する必要があるアップグレードです。または、顧客をサポートするためのサービスエージェント用のアクションが複数あり、最も適切なアクションにエージェントを誘導したいと考えていませんか。その場合は、Einstein 次善アクションを確認してください。

### 外部サービス: 正式リリースと機能強化

ベータリリースの機能に加えて、編集機能、スキーマサイズの拡大、応答コード処理の追加、全画面ウィザードなどの機能強化により、外部サービスが簡単に使用できるようになりました。宣言型ツールを使用することで、コーディングはせずにインポートしたデータを使用して、必要な業務に集中することができます。

### データ保護とプライバシー: 個人オブジェクトの機能強化

一般データ保護規則 (GDPR) など、データ保護とプライバシーの規制を順守しているかどうかに関係なく、顧客から要求されたときは特定のプライバシー設定を追跡します。これには、個人オブジェクトに基づくデータプライバシーレコードが役立ちます。

### Lightning Flow: 改善されたエラー処理とデバッグ、スマートになったフローの設定方法と配布方法

さらに多くのエディションでフローを作成します。プロセスとフローを一括で実行する場合のエラーと制限を回避します。フローをブラウザ、Lightning コンソールアプリケーション、およびコミュニティと完全に統合します。フローのどの場所にいるのかをユーザに示します。詳細な情報を使用してフローをデバッグし、制限に対する使用状況を追跡します。割り当て要素を使用して、コレクションおよび有効なフェーズを容易に操作できます。

### Lightning アプリケーションビルダー: 破損したコンポーネントによるページの破損の解消、コンソールサイドバーの固定領域、新規コンポーネント

Lightning ページ上の破損したコンポーネントによってページは破損されず、破損したコンポーネントは削除されます。ユーザがページ間を切り替えて必要な情報を取得する手間を省くには、コンソールサイドバーの固定領域を使用します。バッジコンポーネントを使用して、Lightning ユーザプロフィールページを拡張します。多数の新規コンポーネントを使用すると、Lightning for Outlook メールアプリケーションペインのメールとタブを管理しやすくなります。

### 項目: 時間データ型の正式リリースおよび数値項目での予測値の表示 (ベータ)

すべてのエディションで時間カスタムデータ型を使用できます。Einstein 予測ビルダーを使用するシステム管理者は、予測値が表示される項目をより詳細に制御できるようになります。

### Salesforce Connect: カスタム HTTP ヘッダー、外部オブジェクトに対するトリガ(ベータ)、その他

Salesforce は、外部データシステムとやり取りするための新たな優れたツールをいくつか追加しています。カスタム HTTP ヘッダーを定義し、有効にすることで、従来よりも多くの要求情報を OData 2.0 および 4.0 の外部データソースに渡して処理できるようになりました。公開ベータリリースになった Salesforce Connect の OData 4.0 アダプタを使用すれば、Salesforce の外部に保存されているデータに加えられた変更に応答できます。さらに、外部システムへの Salesforce Connect コールアウトを追跡するために追加および更新されていた項目が正式リリースされました。

### 正式リリース: Lightning Bolt ソリューション、アクションおよび承認の機能強化

Lightning アプリケーション、Lightning コミュニティ、およびフローを含む、すぐに利用できるソリューションを容易に公開できます。クイックアクションでは、多くの方法を使用して、選択リスト項目の定義済みの値や翻訳された成功メッセージを設定できます。承認申請メールの送信者において組織の共有アドレスがサポートされるようになりました。

### AppExchange: 新しい検索条件とプロファイルの機能強化


クラウド、機能、および特別なログイン情報の新しいフィルタオプションを使用して、ビジネス要件にとって最適なソリューションをすばやく見つけることができます。AppExchange プロファイルの表示と更新も簡単になりました。

## Einstein 予測ビルダー: コードなしのカスタム AI の使用 (ベータ)

Salesforce のほぼすべての標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトでカスタム予測を使用して、ビジネスプロセスをよりスマートで予測的にすることができます。予測しようとしている内容に標準の Einstein ソリューションが適さない場合は、Einstein 予測ビルダーで独自の予測モデルを作成できます。そして何よりも、それをコードなしで数回クリックするだけで構築できます。

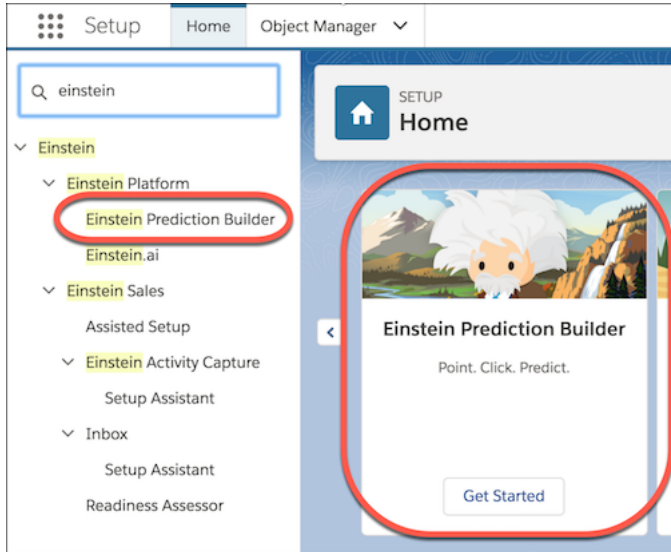
**対象ユーザ:** この機能は EinsteinBuilderFree ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

**対象:** Einstein 予測ビルダーは、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience で使用できます。

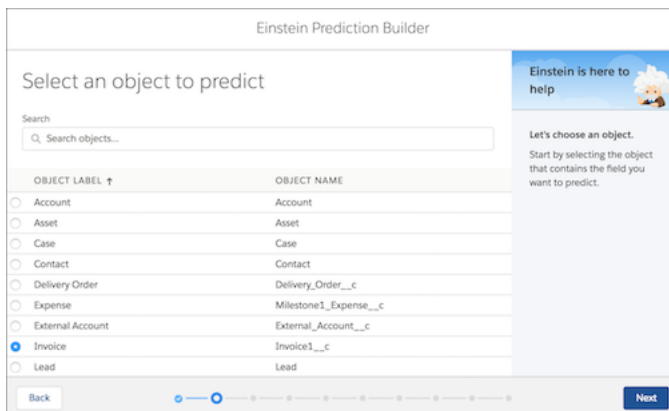
 **メモ:** Einstein 予測ビルダーはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。Einstein 予測ビルダーに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Salesforce Einstein」グループに投稿してください。組織でこの機能の有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。

**方法:** [設定] の [Einstein プラットフォーム] セクションで [Einstein 予測ビルダー] を探します。場合によっては、直接アクセスできる便利なタイルを使用できます。



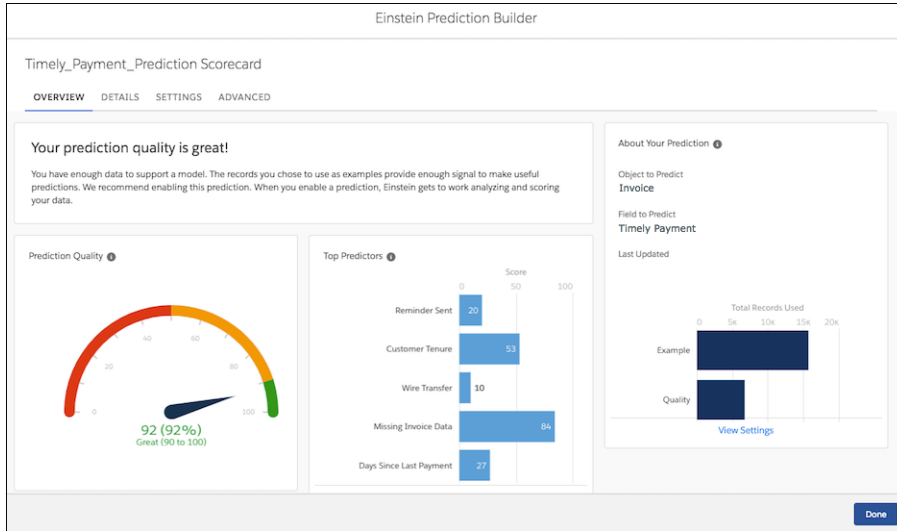


Einstein 予測ビルダーでは何を予測できるでしょうか? ビジネスで発生するほぼすべてを予測できます。たとえば、顧客が請求書を期日通りに支払う可能性を予測するとします。顧客の請求書オブジェクトで予測を作成します。次に、予測する項目を選択します。この場合、顧客が請求書を期日通りに支払うかどうかを表すカスタム項目を選択します。その後数回クリックするだけで、Einstein が予測の構築を開始します。



Einstein は、チェックボックス、特別に作成された数式項目、数値項目を予測できます。

Einstein の処理が完了すると (24時間以内)、予測がどの程度正確な可能性があるかを示すスコアカードが表示されます。予測を有効にすべきかどうか、予測に最適な要素は何か、データセットや予測を改善するために推奨される手順など、必要なすべての情報を一目で確認できます。



予測を構築するとき、Einstein 予測ビルダーによって予測結果を保存する [カスタム項目](#) (ページ 466) が作成されます。このカスタム項目は、[AI 予測] という特別な設定がある数値項目です。これは予測しているオブジェクトに保存されます。必要な作業は、予測を作成するときこの項目に名前を付けることだけです。自分でカスタム項目を作成することもできます。予測を作成するとき、その名前と表示ラベルを入力します。

#### 関連トピック:

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)  
[必要な場所での Einstein 予測の表示 \(ベータ\)](#)

## Einstein 次善アクション: 戦略を使用した提案アクションとオファー (パイロット)

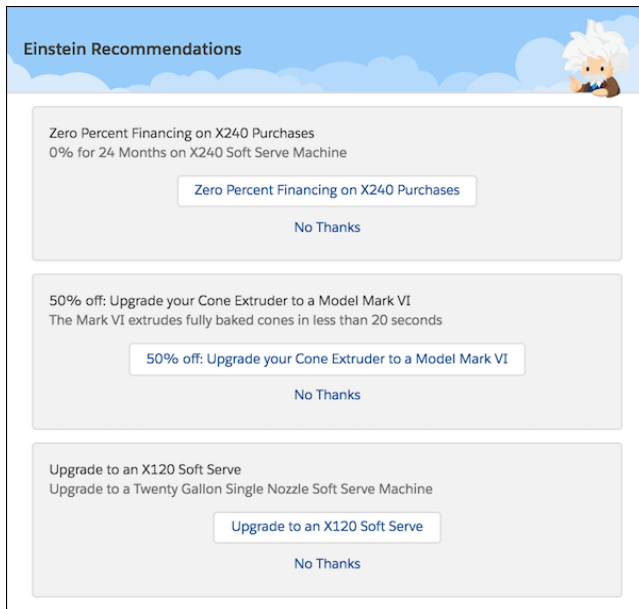
Salesforce の内部および外部のビジネスルール、予測モデル、およびデータを統合し、適切な提案を、適切なタイミングで、適切なユーザに提供します。特定の条件下でのみ関連を持つアクションや提案はないでしょうか。たとえば、特定の顧客にのみ提案する必要があるアップグレードです。または、顧客をサポートするためのサービスエージェント用のアクションが複数あり、最も適切なアクションにエージェントを誘導したいと考えていませんか。その場合は、Einstein 次善アクションを確認してください。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**メモ:** Einstein 次善アクションは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Einstein 次善アクションは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Einstein 次善アクションについてのフィードバックと提案は、[IdeaExchange](#) からお寄せください。

理由: たとえば、営業担当が取引先責任者レコードを開くと、Einstein のおすすめコンポーネントが戦略を実行し、その取引先に対して推奨される提案が表示されます。

- 最初の提案が推奨されるのは、顧客の信用度が特定のしきい値を超えているためです。
- その他の提案が推奨されるのは、顧客の満足度スコアが平均を上回り、アップセルが適切であると判断されたためです。



方法: カスタム提案とアクションを表す提案を作成します。ユーザがボタンをクリックして提案を受け入れると、画面フローが起動します。

データのクエリ、決定、および提案の絞り込みと並び替えを行うおすすめ戦略を構築します。

適切な Lightning コンポーネントをページに追加して、特定の戦略に対するおすすめを表示します。Lightning ページの場合、Einstein のおすすめコンポーネントを追加します。Lightning コミュニティページの場合、推奨アクションコンポーネントを追加します。Visualforce ページの場合、LightningOut を使用して、lightning:nextBestAction コンポーネントを追加します。

## 開発者のための関連更新

### Lightning コンポーネント

新規コンポーネント: [lightning:nextBestActions](#)

### Chatter REST API

新規リソース: 提案を取得する、戦略のおすすめを取得する、おすすめへのユーザの反応を記録する

## Chatter in Apex

**新規メソッド:** 提案を取得する、戦略のおすすめを取得する、おすすめへのユーザの反応を記録する

### 関連トピック:

[コミュニティメンバーへの推奨アクションと提案 \(Pilot\)](#)

[Lightning ユーザへの提案アクションとオファー \(パイロット\)](#)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## 外部サービス: 正式リリースと機能強化

ベータリリースの機能に加えて、編集機能、スキーマサイズの拡大、応答コード処理の追加、全画面ウィザードなどの機能強化により、外部サービスが簡単に使用できるようになりました。宣言型ツールを使用することで、コーディングはせずにインポートしたデータを使用して、必要な業務に集中することができます。

### このセクションの内容:

#### 外部サービスの作成 (正式リリース)

外部サービスを使用して、外部のサービスに接続したり、外部ソースに基づいてメソッドをフローを介して呼び出したり、サービスデータを Salesforce にインポートしたりします。たとえば、Salesforce 取引先の信用度を判断する信用度サービスに接続するとします。支払条件について知りたいですか?外部サービスを使用してください。フローを実行すると、出力に信用度の判断と支払条件 (該当する場合) が表示されます。

#### 外部サービスのユーザインターフェースの改善

合理化された新しいユーザインターフェースを使用して、必要な情報をすべて同じページで入力し、時間を節約します。

#### 外部サービスの編集

変更を加える必要がある場合、別の外部サービスを作成する必要はありません。外部サービスに編集オプションが含まれるようになりました。

#### 外部サービススキーマを使用した取得文字列の増加

ベータ期間中にお客様から、外部サービスを使用して必要なものを実装するためには、さらに多くの文字数が必要だというフィードバックをいただきました。そのため、外部サービススキーマが 100,000 文字まで拡張されました。

#### 外部サービスフローで処理される応答コードの増加

外部サービスのベータ版では、戻り値として成功応答コードのみが含まれていました。Swagger または Interagent スキーマに含まれるすべての応答コードとそれに関連する値を解析および使用することが可能になりました。また、これらの値をフローにインポートすることもできます。これらの値を追加すると、ステップが正常に完了しなかった場合でもフローを使用しやすくなります。

## 外部サービスの作成 (正式リリース)

外部サービスを使用して、外部のサービスに接続したり、外部ソースに基づいてメソッドをフローを介して呼び出したり、サービスデータをSalesforceにインポートしたりします。たとえば、Salesforce取引先の信用度を判断する信用度サービスに接続するとします。支払条件について知りたいですか? 外部サービスを使用してください。フローを実行すると、出力に信用度の判断と支払条件 (該当する場合) が表示されます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**理由:** ユーザを組織に追加するときも、外部サービスを使用することで時間を節約できます。たとえば、新しいユーザを自動的にすべての外部組織関連アプリケーションのコラボレータにします。ユーザIDなど、スキーマで定義できる入力を使用して、外部サービスとフローを作成します。次に、トリガをフローに追加します。ユーザを作成すると、トリガが起動されて、そのユーザはコラボレータとして別のアプリケーションに追加されます。

## 外部サービスのユーザインターフェースの改善

合理化された新しいユーザインターフェースを使用して、必要な情報をすべて同じページで入力し、時間を節約します。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

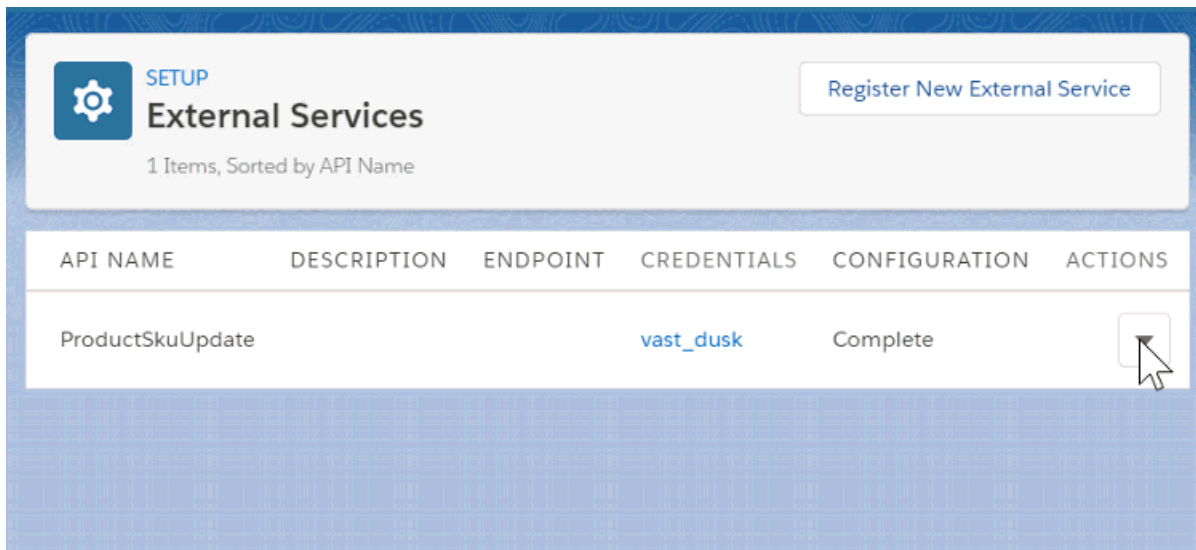
**方法:** [設定] で「外部サービス」と入力します。以前は、外部サービスオプションを見つけるのに「インテグレーション」と入力していました。サービスを登録するには、サービス名とスキーマ情報を入力したページと同じページで指定ログイン情報を選択します。

## 外部サービスの編集

変更を加える必要がある場合、別の外部サービスを作成する必要はありません。外部サービスに編集オプションが含まれるようになりました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** サービスの [アクション] 列の矢印をクリックし、更新するサービスの [編集] を選択します。



## 外部サービススキーマを使用した取得文字列の増加

ベータ期間中にお客様から、外部サービスを使用して必要なものを実装するためには、さらに多くの文字数が必要だというフィードバックをいただきました。そのため、外部サービススキーマが 100,000 文字まで拡張されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

## 外部サービスフローで処理される応答コードの増加

外部サービスのベータ版では、戻り値として成功応答コードのみが含まれていました。Swagger または Interagent スキーマに含まれるすべての応答コードとそれに関連する値を解析および使用することが可能になりました。また、これらの値をフローにインポートすることもできます。これらの値を追加すると、ステップが正常に完了しなかった場合でもフローを使用しやすくなります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

## データ保護とプライバシー: 個人オブジェクトの機能強化

一般データ保護規則 (GDPR) など、データ保護とプライバシーの規制を順守しているかどうかに関係なく、顧客から要求されたときは特定のプライバシー設定を追跡します。これには、個人オブジェクトに基づくデータプライバシーレコードが役立ちます。

このセクションの内容:

### レコードのマージ時にどのデータプライバシーレコードを保持するのかを決定

対応するデータプライバシーレコードを持つリードと取引先責任者とをマージするプロセスを簡素化しました。最後に変更されたデータプライバシーレコードを常に保持する場合は、その設定を [設定] で指定できます。[クイック検索] ボックスに「個人設定」と入力し、[個人設定] を選択するだけです。ここで、[最後に変更されたデータプライバシーレコードを保持] を選択します。

### 個人オブジェクトでの標準オブジェクト機能のサポート

個人オブジェクトに基づいて作成したデータプライバシーレコードを使用すると、顧客の特定のデータプライバシー設定を保存できます。一般データ保護規則 (GDPR) など、データ保護とプライバシーの規制を順守しているかどうかに関係なく、これらのレコードは顧客のプライバシーに関する要求を尊重するのに役立ちます。個人オブジェクトですべての標準オブジェクト機能がサポートされるようになりました。

### ユーザの要求に応じて個人データを Salesforce で使用不可に

Salesforce で個人データが認識されることをユーザが望まない場合、新しい

`System.UserManagement.obfuscateUser` Apex メソッドを使用して完全にスクランブルできます。ただし、このメソッドの使用には注意してください。ユーザにメソッドを使用すると、データは匿名となり、復元できません。

関連トピック:

### データ保護とプライバシーの規制のガイダンスの取得

## レコードのマージ時にどのデータプライバシーレコードを保持するのかを決定

対応するデータプライバシーレコードを持つリードと取引先責任者とをマージするプロセスを簡素化しました。最後に変更されたデータプライバシーレコードを常に保持する場合は、その設定を [設定] で指定できます。[クイック検索] ボックスに「個人設定」と入力し、[個人設定] を選択するだけです。ここで、[最後に変更されたデータプライバシーレコードを保持] を選択します。

対象: この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのエディションの Salesforce アプリケーションの全バージョンで使用できます。

## 個人オブジェクトでの標準オブジェクト機能のサポート

個人オブジェクトに基づいて作成したデータプライバシーレコードを使用すると、顧客の特定のデータプライバシー設定を保存できます。一般データ保護規則 (GDPR) など、データ保護とプライバシーの規制を順守しているかどうかに関係なく、これらのレコードは顧客のプライバシーに関する要求を尊重するのに役立ちます。個人オブジェクトですべての標準オブジェクト機能がサポートされるようになりました。

対象: この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのエディションの Salesforce アプリケーションの全バージョンで使用できます。

理由: 個人オブジェクトは完全な標準オブジェクトになりました。実行できる操作は、次のとおりです。

- 個人のカスタムアクション、ボタン、およびリンクを作成する
- 異なる個人レコードタイプを作成する
- 削除した個人を復元する

- ワークフローまたはプロセスビルダーで個人を使用する

## ユーザの要求に応じて個人データを Salesforce で使用不可に

Salesforce で個人データが認識されることをユーザが望まない場合、新しい


`System.UserManagement.obfuscateUser` Apex メソッドを使用して完全にスクランブルできます。ただし、このメソッドの使用には注意してください。ユーザにメソッドを使用すると、データは匿名となり、復元できません。

**対象:** この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

**理由:** たとえば、転勤する営業担当やコミュニティから外れる外部ユーザは、Salesforce による個人データの追跡が停止されることを望みます。`System.UserManagement.obfuscateUser` Apex メソッドを呼び出します。これにより、ユーザのデータは完全にスクランブルされて、ランダムな文字列に置換されます。ユーザの詳細ページは維持されますが、項目には意味のない文字列が含まれます。

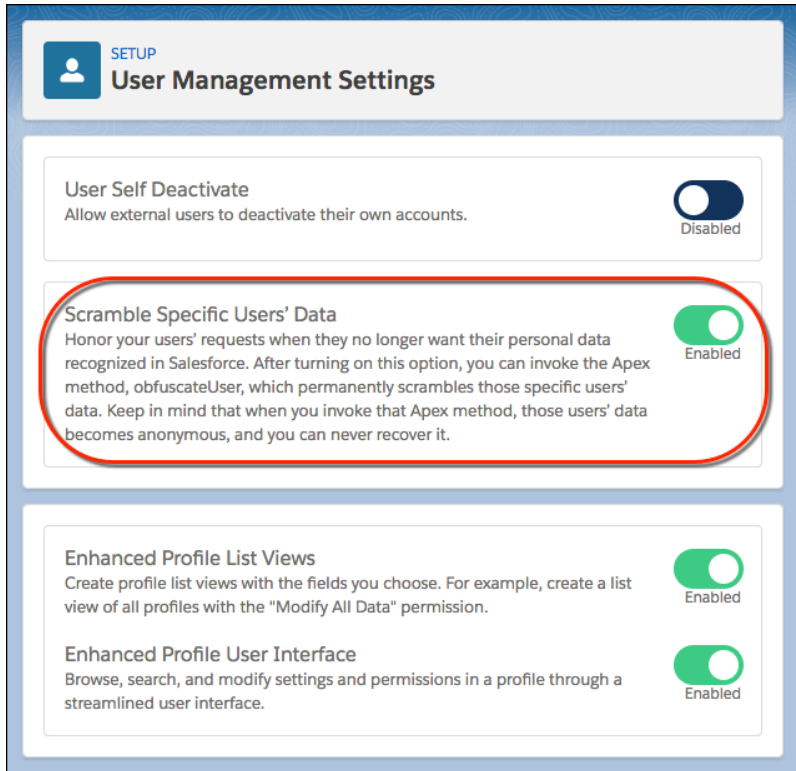
Before	After
<b>Name</b> Admin User	<b>Name</b> 1439ar3xo492
<b>Alias</b> jsmith	<b>Alias</b> rvg4mpwq583
<b>Email</b> jsmith@mycompany.com	<b>Email</b> dsfdfv2djll5@fdsfclm.com
<b>Username</b> jsmith@mydivision.com	<b>Username</b> jsomxr7@r5mpea2s.com

`obfuscateUser()` はユーザオブジェクトの標準項目に影響します (ユーザ ID、タイムゾーン、ロケール、プロフィールなどの一部の項目を除く)。

 **メモ:** このメソッドを使用しても、メール変更通知はトリガされません。

**方法:** この機能を有効にするには、[設定] の [ユーザ管理設定] に移動し、[特定のユーザのデータをスクランブル] を選択します。





次に、Apex トリガ、プロセス、ワークフロー、または開発者コンソールから

`System.UserManagement.obfuscateUser` を呼び出します。このメソッドはユーザオブジェクトのみを変更します。ユーザと他のオブジェクト間の関連付けは削除されますが、他のオブジェクトは変更されません。たとえば、連絡先、ThirdPartyAccountLink (TPAL)、ユーザパスワード認証 (UPA) オブジェクトは変更されずに維持されます。

ユーザに確認を送信する場合、ユーザの ID と後処理のための他の属性(メールアドレスなど)を書き留めることをお勧めします。

この機能は、ユーザの個人データとプライバシー保護の取り組みの一環です。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: データ保護とプライバシー](#)

## Lightning Flow: 改善されたエラー処理とデバッグ、スマートになったフローの設定方法と配布方法

さらに多くのエディションでフローを作成します。プロセスとフローを一括で実行する場合のエラーと制限を回避します。フローをブラウザ、Lightning コンソールアプリケーション、およびコミュニティと完全に統合します。フローのどの場所にいるのかをユーザに示します。詳細な情報を使用してフローをデバッグし、制限に対する使用状況を追跡します。割り当て要素を使用して、コレクションおよび有効なフェーズを容易に操作できます。

### このセクションの内容:

#### フローおよびフロー設計: より多くの方法で Lightning コンポーネントを使用、フェーズの正式リリース、コレクションの代入演算子の増加

Essentials Edition と Professional Edition で Cloud Flow Designer を使用して、フローを構築します。ブラウザで操作を直接実行するようにフローを設定します。たとえば、Salesforce サーバを経由せずにサードパーティシステムにアクセスします。進行状況インジケータまたはブレッドクラムをフローユーザに表示します。新しい代入演算子を使用して、コレクションと有効なフェーズを操作し、カウントします。フロー画面でユーザが日付/時間の値を選択できるようにします。

#### フローの配布: サブタブとしてのフローの起動、推奨フローの表示

エージェントが電話に出たときに Lightning コンソールアプリケーション内で適切なフローをサブタブとして起動します。新しい Einstein 次善アクション (パイロット) を使用して、適切なフローを、適切なタイミングで、適切なユーザに推奨する戦略を構築します。

#### プロセスおよびフローのデバッグ: 実行時のデバッグの詳細、エラーメールの改善、ログ行の増加

リアルタイムデバッグの詳細を使用して、フローのテストとトラブルシューティングを行います。エラーメールを送信した組織を参照し、メールの受信者を変更します。ガバナ制限に対する使用状況を監視します。

#### プロセスおよびフローランタイム: ユーザに表示されるエラーの改善、エラーとロールバックを回避する方法の追加

ユーザのアクションで失敗するプロセスが起動されたときに「フローのトリガに失敗しました」エラーが表示されなくなります。ランタイムエラー、SOQL 制限、不要なトランザクションのロールバックを回避するため、一括でプロセスおよびフローを実行する方法が改善されました。

### 関連トピック:

[Apex でのプロセスおよびフローイベント登録者のテスト](#)

## フローおよびフロー設計: より多くの方法で Lightning コンポーネントを使用、フェーズの正式リリース、コレクションの代入演算子の増加

Essentials Edition と Professional Edition で Cloud Flow Designer を使用して、フローを構築します。ブラウザで操作を直接実行するようにフローを設定します。たとえば、Salesforce サーバを経由せずにサードパーティシステムにアクセスします。進行状況インジケータまたはブレッドクラムをフローユーザに表示します。新しい代入演算子を使用して、コレクションと有効なフェーズを操作し、カウントします。フロー画面でユーザが日付/時間の値を選択できるようにします。

### このセクションの内容:

#### Essentials Edition および Professional Edition でのフローの構築

フローに関する使い慣れたすべての機能が Essentials Edition と Professional Edition で使用できるようになりました。これらのエディションでは、最大5個の有効なフローを持つことができます。フローは、上記のエディションではサポートされない他の機能 (Apex やコミュニティなど) と統合できます。

### フローでの Lightning コンポーネントを使用したローカルアクションの実行 (正式リリース)

オンプレミスまたはプライベートクラウドのデータベースから、Salesforce サーバを介さずに直接、データをフローに取得します。または、特定の URL を開いたり、トーストメッセージによってレコードが作成されたことを確認したりといったことをブラウザで直接実行します。ローカルアクション要素により、Lightning コンポーネントのクライアント側コントローラを使用してブラウザと直接統合できます。この機能は、パイロットリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。

### フェーズを使用したフローの進行状況の追跡 (正式リリース)

新しいフェーズリソースと2つの新しいシステム変数(`$Flow.ActiveStages` および `$Flow.CurrentStage`) を使用して、フローでのユーザの位置を示します。たとえば、ブレッドクラムまたは進行状況インジケータによって、購入フローのどこにユーザがいるのかを示します。この機能は、前回のリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。

### 新しい代入演算子を使用した有効なフェーズとコレクションの更新

コレクション変数や `$Flow.ActiveStages` システム変数を操作しやすくする代入演算子がいくつか新しく追加されました。これによって、指定された項目の削除や、コレクションと有効フェーズの切り捨てを簡単に実行できるようになりました。コレクション項目や有効フェーズの数をカウントし、その数を変数に保存することができます。項目は、最後だけではなく最初にも追加できます。コレクションでこれらの操作を実行するのに Apex コードやループは不要になりました。

### フロー画面での日付/時間値のキャプチャ

行動または予定をスケジュールする場合など、Cloud Flow Designer で新しい日付/時間データ型の画面項目を使用して、フローの時間をキャプチャします。Lightning コンポーネントや他のコードは不要です。

### プロセスビルダーの項目ピッカーでサポートされるオプションのみ表示

プロセスビルダーの項目ピッカーには、サポートされないオプションが表示されなくなりました。以前は、関連オブジェクトのサポートされていない項目を選択できたため、プロセスが実行時に失敗することがありましたが、項目ピッカーの使用時に、サポートされている項目のみがプロセスで参照されるようになりました。

#### 関連トピック:

[Cloud Flow Designer Guide \(Cloud Flow Designer ガイド\)](#)

## Essentials Edition および Professional Edition でのフローの構築

フローに関する使い慣れたすべての機能が Essentials Edition と Professional Edition で使用できるようになりました。これらのエディションでは、最大5個の有効なフローを持つことができます。フローは、上記のエディションではサポートされない他の機能 (Apex やコミュニティなど) と統合できます。

対象: この変更は、Essentials Edition および Professional Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

## フローでの Lightning コンポーネントを使用したローカルアクションの実行 (正式リリース)

オンプレミスまたはプライベートクラウドのデータベースから、Salesforce サーバを介さずに直接、データをフローに取得します。または、特定の URL を開いたり、トーストメッセージによってレコードが作成されたことを確認したりといったことをブラウザで直接実行します。ローカルアクション要素により、Lightning コンポーネントのクライアント側コントローラを使用してブラウザと直接統合できます。この機能は、パイロットリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。ただし、Lightning コンポーネントを含むフローは、Lightning フローランタイムでのみサポートされます。

**理由:** ケースを作成するフローがあるとします。フローの最後に、作成されたケースの詳細ページにユーザがリダイレクトされるようにしたいと考えています。そのためには、Lightning コンポーネントをインストールまたは構築して、対応するローカルアクション要素をフローに追加します。

**方法:** ローカルアクションは、Cloud Flow Designer のパレットの [ローカルアクション] セクションに表示されません。

## 開発者のための関連更新

### Lightning コンポーネント

新しい `lightning:availableForFlowActions` インターフェース。Winter '18 以降の変更点を次に示します。

- インターフェース名が `flowruntime:availableForFlowLocalActions` から `lightning:availableForFlowActions` に変更されました
- インターフェースで `callback` 関数が提供されなくなりました。代わりに、メソッドの実行が終了、または Promise が満たされると、制御がフローに戻されます。

### メタデータ API

Flow メタデータ型の `FlowActionCall` の `actionType` 項目の新しい列挙値。

### 関連トピック:

[Cloud Flow Designer Guide: Extend Your Flow with Lightning Components \(Cloud Flow Designer ガイド: Lightning コンポーネントを使用したフローの拡張\)](#)

[Cloud Flow Designer Guide: Integrate with External Systems from a Flow \(Cloud Flow Designer ガイド: フローからの外部システムとの統合\)](#)

[Lightning コンポーネント開発者ガイド: Create Flow Local Actions Using Lightning Components \(Lightning コンポーネントを使用したフローローカルアクションの作成\)](#)

[IdeaExchange: Flow Designer Needs a Simple Way to "End" a Flow by Navigating to a Record \(Flow Designer でレコードに移動してフローを終了する簡単な方法が必要\)](#)

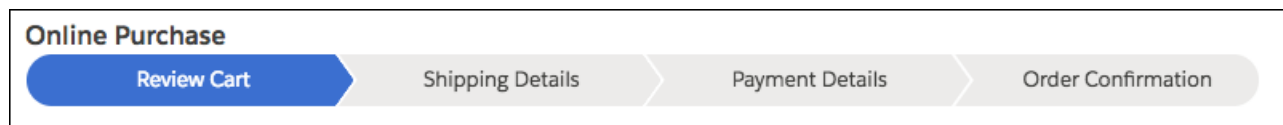
## フェーズを使用したフローの進行状況の追跡 (正式リリース)

新しいフェーズリソースと2つの新しいシステム変数 (`$Flow.ActiveStages` および `$Flow.CurrentStage`) を使用して、フローでのユーザの位置を示します。たとえば、ブレッドクラムまたは進行状況インジケータによって、購入フローのどこにユーザがいるのかを示します。この機能は、前回のリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** たとえば、[Online Purchase (オンライン購入)] フローには、ユーザがカートを確認するフェーズ、納入先の詳細を入力するフェーズ、支払いの詳細を入力するフェーズ、注文を確認するフェーズがあります。フェーズは、実行時にカスタム Lightning コンポーネントを使用して表示されます。

この時点で `$Flow.ActiveStages` には、[Review Cart (カートの確認)]、[Shipping Details (納入先の詳細)]、[Payment Details (支払いの詳細)]、[Order Confirmation (注文の確認)] フェーズが含まれており、`$Flow.CurrentStage` は [Review Cart (カートの確認)] に設定されています。



**方法:** [リソース] タブで、フローの各順列のフェーズを定義します。フェーズのシステム変数に値を割り当てて、フロー全体でどのフェーズがユーザに関連するのかを識別します。

- `$Flow.ActiveStages` は、フローの現在のパスに関連するフェーズを識別します。
- `$Flow.CurrentStage` は、フローの現在のフェーズを識別します。選択したフェーズが `$Flow.ActiveStages` に含まれていることを確認してください。

**ヒント:** 標準フローランタイムは、デフォルトでフローのフェーズを表しません。ただし、Lightning コンポーネントの画面項目を使用して、フローのフェーズを表す独自のコンポーネントを構築し、フローに追加できます。lightning:progressindicator コンポーネントを使用することをお勧めします。

## Winter '18 以降の変更

- 新しい代入演算子を使用することで、有効なフェーズを簡単に追加および削除できます。別の新しい演算子は、有効なフェーズの数をカウントし、その数を変数に割り当てます。
- フローエラーメールで、フロー全体の `$Flow.ActiveStages` および `$Flow.CurrentStage` の値を追跡できるようになりました。
- トランスレーションワークベンチとメタデータ API を使用して、フェーズの表示ラベルを翻訳できます。
- `$Flow.ActiveStages` または `$Flow.CurrentStage` を Lightning コンポーネントの属性に渡すと、フェーズの表示ラベルが使用されます。以前は、フェーズの完全修飾名が使用されていました。
- フェーズを含むフローインタビューが一時停止されると、Salesforce は、FlowStageRelation レコードを使用してインタビューの現在のフェーズと有効なフェーズに関する情報を保存します。

## 開発者のための関連更新

### Lightning コンポーネント

[lightning:flow](#) コンポーネントの新しい `onstatuschange` パラメータ。

**SOAP API**

新しいオブジェクト: [FlowStageRelation](#)

**メタデータ API**

[Flow](#) および [Translations](#) メタデータ型の新しい項目。

**関連トピック:**

[新しい代入演算子を使用した有効なフェーズとコレクションの更新](#)

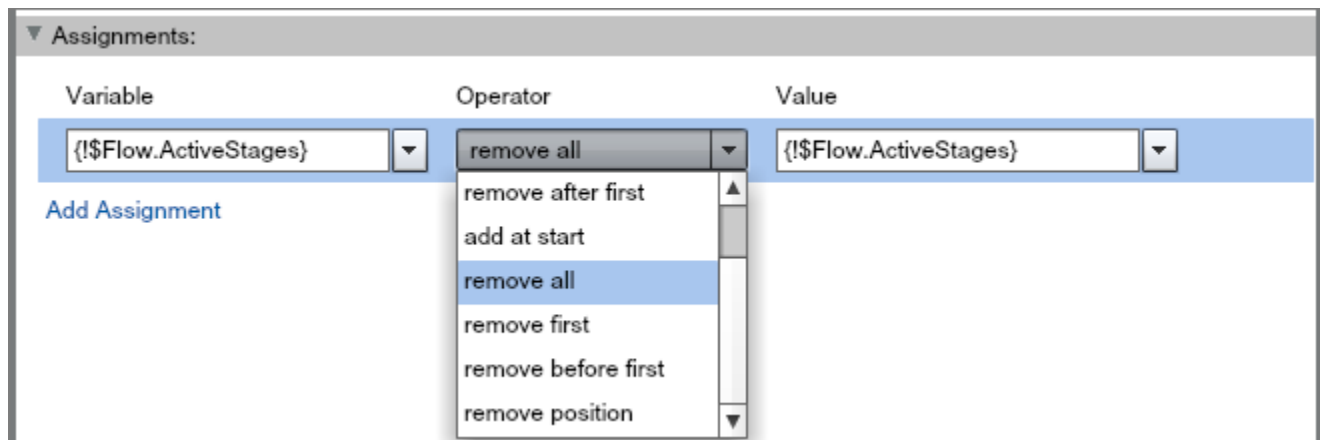
[Cloud Flow Designer Guide: Show Users Progress Through a Flow with Stages](#) (Cloud Flow Designer [ガイド: フェーズを使用したフローの進行状況の表示](#))

**新しい代入演算子を使用した有効なフェーズとコレクションの更新**

コレクション変数や `!$Flow.ActiveStages` システム変数を操作しやすくする代入演算子がいくつか新しく追加されました。これによって、指定された項目の削除や、コレクションと有効フェーズの切り捨てを簡単に実行できるようになりました。コレクション項目や有効フェーズの数をカウントし、その数を変数に保存することができます。項目は、最後だけではなく最初にも追加できます。コレクションでこれらの操作を実行するのに Apex コードやループは不要になりました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** たとえば、割り当て要素を使用して有効なフェーズをすべてクリアするには、[すべて削除] 演算子を選択し、[変数] 列と [値] 列の両方に `$Flow.ActiveStages` システム変数を入力します。



新しい代入演算子は次のとおりです。

演算子	更新する変数	説明
開始時に追加	コレクション変数 <code>\$Flow.ActiveStages</code>	コレクションまたは有効フェーズの最初に項目またはフェーズを追加します。

演算子	更新する変数	説明
次の数と一致する	数値変数	コレクション内の有効フェーズまたは項目の数をカウントし、その数を変数に割り当てます。
先頭の後を削除	コレクション変数 \$Flow.ActiveStages	指定された値の最初のインスタンスより後のすべての項目またはフェーズを削除します。
すべて削除	コレクション変数 \$Flow.ActiveStages	指定された値のすべてのインスタンスを削除します。
先頭の前を削除	コレクション変数 \$Flow.ActiveStages	指定された値の最初のインスタンスより前のすべての項目またはフェーズを削除します。
先頭を削除	コレクション変数 \$Flow.ActiveStages	指定された値の最初のインスタンスを削除します。
位置を削除	コレクション変数 \$Flow.ActiveStages	指定された位置にある項目またはフェーズを削除します。  たとえば、コレクション変数に Red、Green、Blue の 3 つの項目が含まれていて、割り当てにより位置 2 が削除される場合、Green が削除されます。
外れ値を削除	コレクション変数	2 つのコレクションを比較し、両方のコレクションに共通しないすべての項目を削除します。

また、[追加]演算子は、コレクションを同じデータ型またはオブジェクト種別のコレクション変数に追加できるようになりました。ただし、そのような割り当てはメタデータ API からのみ設定できます。Cloud Flow Designer からは、[追加]演算子の [値] 列にコレクション変数を含む割り当て要素は保存できません。

## 開発者のための関連更新

### メタデータ API

[Flow](#) メタデータ型の FlowAssignmentItem の operator 項目の新しい列挙値。

### 関連トピック:

[IdeaExchange: Size of Collections in Flow \(フロー内のコレクションのサイズ\)](#)

[Cloud Flow Designer Guide: Operators in Flow Assignment Elements \(Cloud Flow Designer ガイド: フロー割り当て要素の演算子\)](#)

## フロー画面での日付/時間値のキャプチャ

行動または予定をスケジュールする場合など、CloudFlowDesignerで新しい日付/時間データ型の画面項目を使用して、フローの時間をキャプチャします。Lightning コンポーネントや他のコードは不要です。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** たとえば、次のフローは日付/時間値を使用して電話をスケジュールします。

**Schedule Call**

Schedule a time for us to call you when you're ready.

Requested Time

Reason

Phone Number

10:30 AM

11:00 AM

11:30 AM

**12:00 PM**

12:30 PM

1:00 PM

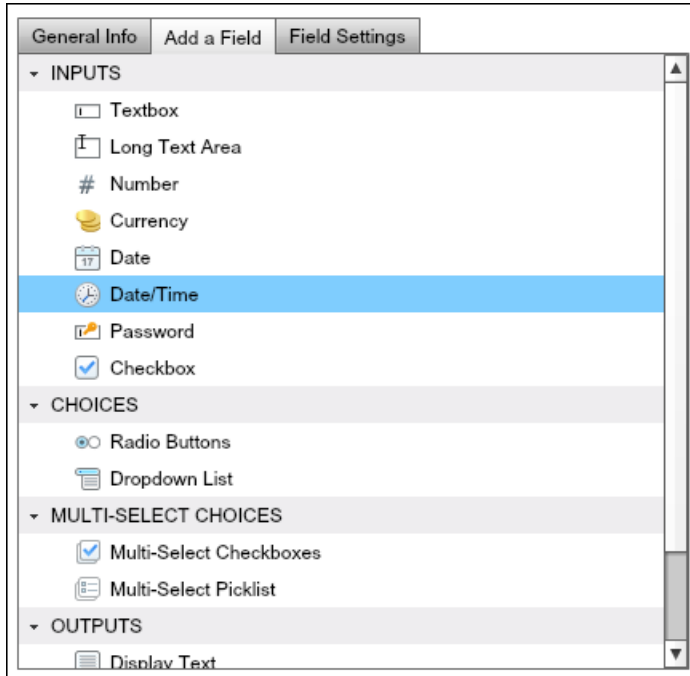
1:30 PM

Pause

Finish

**方法:** 画面要素の [項目の追加] タブに [日付/時間] が他の入力項目の種別と共に表示されます。





## 開発者のための関連更新

### メタデータ API

`DateTime` が、[Flow](#) メタデータ型の `FlowScreenField` の `dataType` 項目で有効な列挙値になりました。

### 関連トピック:

[IdeaExchange: Add Date/Time Field Type to Visual Workflow \(Visual Workflow への日付/時間データ型の追加\)](#)

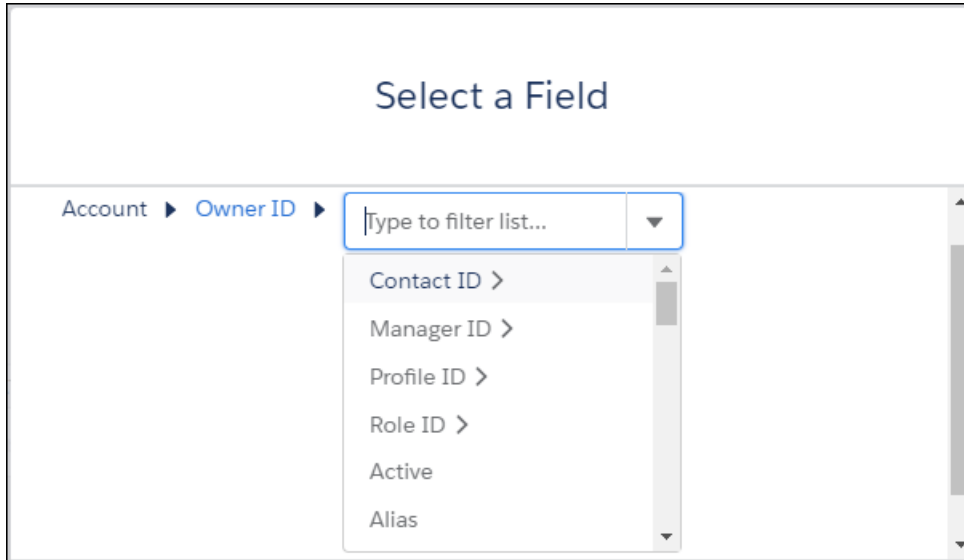
## プロセスビルダーの項目ピッカーでサポートされるオプションのみ表示

プロセスビルダーの項目ピッカーには、サポートされないオプションが表示されなくなりました。以前は、関連オブジェクトのサポートされていない項目を選択できたため、プロセスが実行時に失敗することがありましたが、項目ピッカーの使用時に、サポートされている項目のみがプロセスで参照されるようになりました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** たとえば、以前は取引先オブジェクトに関連付けられているプロセスで `[Account].Owner.AboutMe Contains String 'Engineer'` という条件を選択できました。関連するユーザオブジェクトの `AboutMe` 項目は、取引先ベースのプロセスでサポートされていないため、プロセスは実行時に失敗します。

`AboutMe` などのサポートされていない項目が項目ピッカーにリストされなくなりました。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 項目ピッカー](#)

## フローの配布: サブタブとしてのフローの起動、推奨フローの表示

エージェントが電話に出たときに Lightning コンソールアプリケーション内で適切なフローをサブタブとして起動します。新しい Einstein 次善アクション (パイロット) を使用して、適切なフローを、適切なタイミングで、適切なユーザに推奨する戦略を構築します。

このセクションの内容:

[Lightning コンソールアプリケーションのサブタブとしてフローを起動 \(正式リリース\)](#)

Lightning のガイド付きエンゲージメントおよびガイド付きアクションリストコンポーネントを使用して、複数ステップのプロセスにユーザを誘導します。Salesforce 自動化ツールを使用して、レコードをフローに関連付けます。フローに関連付けられたレコードがコンソールアプリケーションで開かれると、フローはサブタブとして起動します。特定のチャンネル (電話やチャットなど) のフローを設定したり、ユーザが最初と最後に実行するフローを指定したりできます。

[戦略を使用してユーザとコミュニティメンバーにフローを推奨 \(パイロット\)](#)

常にすべてのフローを表示するのではなく、適切なフローを、適切なタイミングで、適切なユーザに表示する、おすすめ戦略を構築します。おすすめ戦略では、Salesforce の内部および外部のビジネスルール、予測モデル、データを統合できます。

関連トピック:

[Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの作成](#)

[一時停止中のフローの表示と再開をユーザに許可](#)

[Cloud Flow Designer Guide: Distribute Your Flow \(Cloud Flow Designer ガイド: フローの配布\)](#)

## Lightning コンソールアプリケーションのサブタブとしてフローを起動 (正式リリース)

Lightningのガイド付きエンゲージメントおよびガイド付きアクションリストコンポーネントを使用して、複数ステップのプロセスにユーザを誘導します。Salesforce自動化ツールを使用して、レコードをフローに関連付けます。フローに関連付けられたレコードがコンソールアプリケーションで開かれると、フローはサブタブとして起動します。特定のチャンネル(電話やチャットなど)のフローを設定したり、ユーザが最初と最後に実行するフローを指定したりできます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。


### 関連トピック:

[Lightningのガイド付きエンゲージメントを使用したコンソールでのサービスプロセスの実施\(正式リリース\)](#)

## 戦略を使用してユーザとコミュニティメンバーにフローを推奨 (パイロット)

常にすべてのフローを表示するのではなく、適切なフローを、適切なタイミングで、適切なユーザに表示する、おすすめ戦略を構築します。おすすめ戦略では、Salesforceの内部および外部のビジネスルール、予測モデル、データを統合できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

 **メモ:** Einstein 次善アクションは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforceにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Einstein 次善アクションは、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Einstein次善アクションについてのフィードバックと提案は、[IdeaExchange](#) からお寄せください。

### 関連トピック:

[Einstein 次善アクション: 戦略を使用した提案アクションとオファー\(パイロット\)](#)

## プロセスおよびフローのデバッグ: 実行時のデバッグの詳細、エラーメールの改善、ログ行の増加

リアルタイムデバッグの詳細を使用して、フローのテストとトラブルシューティングを行います。エラーメールを送信した組織を参照し、メールの受信者を変更します。ガバナ制限に対する使用状況を監視します。

### このセクションの内容:

[Cloud Flow Designer でのフローのデバッグ](#)

Cloud Flow Designer にデバッグオプションが導入され、フローのテストやトラブルシューティングを行えるようになりました。入力変数を簡単に設定し、フローをすばやく再起動し、フロー実行中の処理についての詳細をすべてリアルタイムで参照できます。

### プロセスおよびフローのエラーメール: 組織 ID および受信者制御と共に正式リリース

実行時にプロセス要素またはフロー要素が失敗すると、エラーメッセージと実行された要素に関する詳細を記したメールが Salesforce から送信されます。この機能をベータ版で使用していた場合は、ベータテスト担当者の皆さんからのフィードバックに基づいて行われた機能強化をご確認ください。

### トランザクション単位のガバナ制限に対するプロセスとフローの使用状況の監視

プロセスとフローには強力な機能があります。多くの場合、それらはトランザクション単位の制限にカウントされます。今回のリリースでは、デバッグログを使用して、どのアクションがそれらの制限に最も大きく影響するのかを特定できるようになりました。これらの詳細は、プロセスとフローを有効にして配布する場合に、エラーのトラブルシューティングや使用状況の監視に役立ちます。また、作成中のプロセスとフローをテストするときにこれらの詳細を使用すれば、実行時にガバナ制限に達するのを防ぐこともできます。

### フローおよびプロセスの一括操作がサポートされていることの確認

フローまたはプロセスの一括操作が一括で実行されていないかどうかをチェックするには、新しい `FLOW_BULK_ELEMENT_NOT_SUPPORTED` デバッグログ行を確認します。

## Cloud Flow Designer でのフローのデバッグ

Cloud Flow Designer にデバッグオプションが導入され、フローのテストやトラブルシューティングを行えるようになりました。入力変数を簡単に設定し、フローをすばやく再起動し、フロー実行中の処理についての詳細をすべてリアルタイムで参照できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。ただし、デバッグの詳細を表示すると、組織で Lightning ランタイムが有効になっていない場合でも、フローは Lightning ランタイムで表示されません。

**理由:** これまで、フローの実行中にエラーが発生したとき、根本原因の診断に苦勞したことがあるかもしれません。試行錯誤を繰り返しながら、バックグラウンドでフローが何を実行しているのかが見えればいいのに、と思ったこともあるかもしれません。あるいは、ユーザには必要ない変数値を表示するトラブルシューティング画面を手動で追加したことがあるかもしれません。

もうそのような苦勞から解放されます。フローのデバッグでは、次のことを実行できます。

- 入力変数の値を簡単に指定する。フローの実行後に、それらの値をすばやく変更して、フローを再実行できます。
- サブフロー要素が、参照される各フローの最新バージョンを実行するかどうかを選択する。
- フローの実行中に、すべての操作、アクション、変数割り当てについて、ステップごとの詳細を参照する。
- いつでも (実行の途中でも)、フローをすばやく再起動して、別の分岐を試行する。

**警告:** フローのデバッグでは、フローおよびアクションを実行します (DML 操作および Apex コード実行を含む)。フローを実行する他の場合と同様に、実行の途中にフローを閉じたり、再起動したりすると、それ以前に実行されたアクション、データベースの変更、コールアウトはロールバックされません。

**方法:** Cloud Flow Designer から、フローを開き、[デバッグ]をクリックします。



デバッグオプションと入力変数を設定します。そして、[実行]をクリックします。

### Debug the flow

#### Debug options

- Run the latest version of each flow called by subflow elements
- Show details of what's executed and render flow in Lightning runtime ⓘ

#### Input variables

Enter values for the flow's input variables. For each value left blank, the flow starts with the variable's default value. You can't enter values for collection or sObject variables.

contact\_first\_name

contact\_last\_name

[Run](#)

詳細を表示することを選択すると、右側のパネルに詳細が表示されます。

The screenshot displays the Lightning Flow interface. On the left, a step titled "Find Account From Contact" is shown with the text "Howard Jones's account: Acme" and a "Finish" button. On the right, the "Debug Details" panel provides information about the flow's execution:

- How the Interview Started:** Admin User (005R0000000UF6i) started the flow interview. Some of this flow's variables were set when the interview started.
  - contact\_first\_name = Howard
  - contact\_last\_name = Jones
- RECORD QUERY: Find\_Contact\_s\_Account:** Find one Contact record where:
  - FirstName Equals {!contact\_first\_name} (Howard)
  - LastName Equals {!contact\_last\_name} (Jones)
  - Result:** Successfully found record.
    - {!account\_id} = 001R0000002ahRYIAY
- RECORD QUERY: Get\_Account\_Name:** Find one Account record where:
  - Id Equals {!account\_id} (001R0000002ahRYIAY)
  - Result:** Successfully found record.
    - {!account\_name} = Acme

フローの実行が終了すると、入力を変更するか、前回と同じ入力でもう一度実行することができます。

#### 関連トピック:

[IdeaExchange: Better Debugging Capability for Visual Workflows and Workflow Triggers \(Visual Workflow とワークフロートリガのデバッグ機能の改善\)](#)

[IdeaExchange: GUI Testing/Debugging for Process Builder & Flows \(プロセスビルダーとフローの GUI テスト/デバッグ\)](#)

[Cloud Flow Designer Guide: Why Did My Flow Interview Fail? \(Cloud Flow Designer ガイド: フローインタビューに失敗した原因は?\)](#)

#### プロセスおよびフローのエラーメール: 組織 ID および受信者制御と共に正式リリース

実行時にプロセス要素またはフロー要素が失敗すると、エラーメッセージと実行された要素に関する詳細を記したメールが Salesforce から送信されます。この機能をベータ版で使用していた場合は、ベータテスト担当者の皆さんからのフィードバックに基づいて行われた機能強化をご確認ください。

このセクションの内容:

### フローおよびプロセスのエラーメールの受信者の制御

プロセスやフローインタビューが失敗すると、そのプロセスまたはフローを最後に変更したシステム管理者に詳細なフローエラーメールが送信されます。けれども、何が実行され、何がうまくいかなかったかの詳細を読み、それに対応する適任者はシステム管理者ではない場合もあります。今回のリリースでは、フローエラーメールを [設定] で指定する Apex 例外メール受信者に送信できるようになりました。

### フローまたはプロセスが失敗した組織名の取得

エラーメールに組織名と組織IDが追加され、複数の組織を管理している場合に、どの組織のトラブルシューティングを行うべきかがわかるようになりました。

## フローおよびプロセスのエラーメールの受信者の制御

プロセスやフローインタビューが失敗すると、そのプロセスまたはフローを最後に変更したシステム管理者に詳細なフローエラーメールが送信されます。けれども、何が実行され、何がうまくいかなかったかの詳細を読み、それに対応する適任者はシステム管理者ではない場合もあります。今回のリリースでは、フローエラーメールを [設定] で指定する Apex 例外メール受信者に送信できるようになりました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** フローエラーメールの宛先を変更するには、[設定] の [プロセスの自動化設定] ページに移動します。そして、[プロセスまたはフローのエラーメッセージの宛先] 項目を更新します。

ユーザとメールアドレスを Apex 例外メールの受信者として指定するには、[設定] の [Apex 例外メール] ページに移動します。これらのユーザとメールアドレスは、Apex 例外メールも受信することに注意してください。

関連トピック:

[IdeaExchange: Choose Who To Send Flow Fault Emails and Process Builder Error Emails To \(フロー障害メールとプロセスビルダーエラーメールの送信先の選択\)](#)

[Cloud Flow Designer Guide: Control Who Receives Flow and Process Error Emails \(Cloud Flow Designer ガイド: フローエラーメールとプロセスエラーメールの受信者の制御\)](#)

[Cloud Flow Designer Guide: Emails About Flow Errors \(Cloud Flow Designer ガイド: フローエラーに関するメール\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Apex 例外が発生すると何が行われるか](#)

## フローまたはプロセスが失敗した組織名の取得

エラーメールに組織名と組織IDが追加され、複数の組織を管理している場合に、どの組織のトラブルシューティングを行うべきかがわかるようになりました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** プロセスまたはフローインタビューに失敗すると、関連付けられたプロセスまたはフローを最後に変更したシステム管理者に、エラーに関するメールが送信されます。そのメッセージの [フローの詳細] セクションに組織名と組織IDが含まれるようになりました。





```

... |FLOW_START_INTERVIEW_LIMIT_USAGE|DML rows: 10 out of 10000
... |FLOW_START_INTERVIEW_LIMIT_USAGE|CPU time in ms: 0 out of 15000
... |FLOW_START_INTERVIEW_LIMIT_USAGE|Heap size in bytes: 0 out of 6000000
... |FLOW_START_INTERVIEW_LIMIT_USAGE|Callouts: 0 out of 100
... |FLOW_START_INTERVIEW_LIMIT_USAGE|Email invocations: 0 out of 10
... |FLOW_START_INTERVIEW_LIMIT_USAGE|Future calls: 0 out of 50
... |FLOW_START_INTERVIEW_LIMIT_USAGE|Jobs in queue: 0 out of 50
... |FLOW_START_INTERVIEW_LIMIT_USAGE|Push notifications: 0 out of 10
...
... |FLOW_ELEMENT_LIMIT_USAGE|1 DML statements, total 2 out of 150
... |FLOW_ELEMENT_LIMIT_USAGE|1 DML rows, total 11 out of 10000
...

```

## 開発者のための関連更新

### デバッグログ

**新しいイベント:** FLOW\_START\_INTERVIEW\_LIMIT\_USAGE、FLOW\_ELEMENT\_LIMIT\_USAGE、FLOW\_BULK\_ELEMENT\_LIMIT\_USAGE

### 関連トピック:

[Cloud Flow Designer Guide: Apex Governor Limits that Affect Flows](#) (Cloud Flow Designer [ガイド: フローに影響する Apex ガバナ制限](#))

[Salesforce ヘルプ: プロセスの制限](#)

[Salesforce ヘルプ: デバッグログの設定](#)

[Salesforce ヘルプ: デバッグログ](#)

## フローおよびプロセスの一括操作がサポートされていることの確認

フローまたはプロセスの一括操作が一括で実行されていないかどうかをチェックするには、新しい FLOW\_BULK\_ELEMENT\_NOT\_SUPPORTED デバッグログ行を確認します。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** 開発者コンソールの [Logs (ログ)] タブからデバッグログにアクセスします。または、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「デバッグログ」と入力します。デバッグレベルで、[ワークフロー] を [情報] に設定します。

## 開発者のための関連更新

### デバッグログ

**新しいイベント:** FLOW\_BULK\_ELEMENT\_NOT\_SUPPORTED

### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: デバッグログの設定](#)

[Salesforce ヘルプ: デバッグログ](#)

## プロセスおよびフローランタイム: ユーザに表示されるエラーの改善、エラーとロールバックを回避する方法の追加

ユーザのアクションで失敗するプロセスが起動されたときに「フローのトリガに失敗しました」エラーが表示されなくなります。ランタイムエラー、SOQL制限、不要なトランザクションのロールバックを回避するため、一括でプロセスおよびフローを実行する方法が改善されました。

このセクションの内容:

### ユーザにとってわかりやすいプロセスエラー

ユーザは、レコードの作成や更新などのアクションでプロセスがトリガされ、バックグラウンドで何が実行される可能性があるのかを普通は把握していません。そのため、プロセスが失敗して不可解なエラーメッセージが表示されたときに混乱します。このメッセージがわかりやすくなり、プロセス名とエラーIDが含まれるようになりました。レコードの作成または更新時にエラーが発生した場合、メッセージに技術的な詳細も含まれ、トラブルシューティングに役立つ情報の提供をユーザに求めることができます。このエラーIDを使用して、プロセスが失敗したときに送信された詳細なエラーメールを検索できます。

### スケジュール済みアクションとフローインタビューの細分化された一括処理によるランタイムエラーの回避

Salesforce がスケジュール済みプロセスアクションまたは待機中のフローインタビューを実行するときに、他のスケジュール済みプロセスアクションまたは待機中のフローインタビューとまとめて一括処理します。以前は、異なるユーザによって開始された異なるプロセスまたはフローインタビューがバッチに含まれることがありました。バッチに何が含まれるかわからないため、制限を超えたり、制限付きの操作を実行したりしないようにプロセスまたはフローを設計することが困難でした。制限を回避できるように、同じ実行時間、同じプロセスまたはフローバージョンID、同じユーザIDでトリガされたスケジュール済みアクションまたは待機中のインタビューのみが一括で実行されます。

### フローおよびプロセスのクエリの一括実行の導入(重要な更新)

この更新では、フローとプロセスでクエリが一括処理可能な場合の実行方法が変更されます。Salesforce レコードの作成、更新、削除操作についてはすでに一括処理されています。クエリの一括処理が可能になることで、組織は SOQL 制限に達することを避けやすくなります。この重要な更新が組織の重要な更新コンソールに表示されない場合、その組織ではすでにフローとプロセスの操作が一括で実行されています。

### プロセスでの作成および更新操作の部分的保存の有効化(重要な更新)

この更新は、1つのプロセスが失敗したときにトランザクション内のすべての実行中のプロセスが失敗することを防ぎます。保存に失敗したレコードのみがロールバックされます。

### ユーザセッションの終了時にフローインタビューを終了

Classic ランタイムとの一貫性を保つため、Lightning ランタイムのフローインタビューは、ユーザがログアウトしたときに終了します。フローインタビューの処理中にユーザセッションが期限切れになると、インタビュー中の一部のアクションが失われる可能性があります。

## ユーザにとってわかりやすいプロセスエラー

ユーザは、レコードの作成や更新などのアクションでプロセスがトリガされ、バックグラウンドで何が実行される可能性があるのかを普通は把握していません。そのため、プロセスが失敗して不可解なエラーメッセージが表示されたときに混乱します。このメッセージがわかりやすくなり、プロセス名とエラー ID が含まれるようになりました。レコードの作成または更新時にエラーが発生した場合、メッセージに技術的な詳細も含まれ、トラブルシューティングに役立つ情報の提供をユーザに求めることができます。このエラー ID を使用して、プロセスが失敗したときに送信された詳細なエラーメールを検索できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** 以前は、入力規則に抵触する関連商談の作成を、リードの作成中にプロセスが試行した場合、次のメッセージがユーザに表示されていました。役に立たないフローバージョン ID、および未処理障害とシステム管理者への連絡に関する冗長な記述が含まれています。

Review the errors on this page.

The record couldn't be saved because it failed to trigger a flow. A flow trigger failed to execute the flow with version ID 301xx00000001G6. Flow error messages: <b>An unhandled fault has occurred in this flow</b> An unhandled fault has occurred while processing the flow. Please contact your system administrator for more information. Contact your administrator for help.

この入力規則エラーで、対応策を実行できる情報がユーザに表示されるようになりました。この情報が複雑すぎると感じるユーザは、情報をシステム管理者と共有してトラブルシューティングに役立てることができず。

Review the errors on this page.

We can't save this record because the "LeadToOpportunity" process failed. Give your Salesforce admin these details. This error occurred when the flow tried to create records: FIELD\_CUSTOM\_VALIDATION\_EXCEPTION: Opportunities with this Lead Source are not permitted for Q1. You can look up ExceptionCode values in the SOAP API Developer Guide. Error ID: 1580990638-390990 (-1102192244)

### 関連トピック:

[IdeaExchange: Process Builder: Error Messages \(プロセスビルダー: エラーメッセージ\)](#)

[Salesforce ヘルプ: プロセスが失敗した場合の処理](#)

[フローおよびプロセスのエラーメールの受信者の制御](#)

## スケジュール済みアクションとフローインタビューの細分化された一括処理によるランタイムエラーの回避

Salesforceがスケジュール済みプロセスアクションまたは待機中のフローインタビューを実行するときに、他のスケジュール済みプロセスアクションまたは待機中のフローインタビューとまとめて一括処理します。以前は、異なるユーザによって開始された異なるプロセスまたはフローインタビューがバッチに含まれることがありました。バッチに何が含まれるかわからないため、制限を超えたり、制限付きの操作を実行したりしないようにプロセスまたはフローを設計することが困難でした。制限を回避できるように、同じ実行時間、同じプロセスまたはフローバージョンID、同じユーザIDでトリガされたスケジュール済みアクションまたは待機中のインタビューのみが一括で実行されます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** スケジュール済みアクションまたは待機中のインタビューのバッチは、1つのトランザクションで実行されます。スケジュール済みアクションでプロセスが失敗する場合、そのスケジュール済みアクションが同じバッチ内の他のスケジュール済みアクションの実行を妨げる場合があります。各バッチの範囲を狭くすることで、プロセスとフローがガバナ制限に達したり、混合 DML エラーが発生したりする可能性が低くなります。

使用事例	Spring '18 以前	Summer '18 以降
50 個の SOQL クエリを実行するスケジュール済みアクションがプロセスに含まれています。3セットのスケジュール済みアクションは同じ実行時間ですが、3人の異なるユーザによってトリガされています。	3人すべてのユーザのスケジュール済みアクションはまとめて一括処理され、同じトランザクションで実行されます。トランザクションは Apex ガバナ制限(トランザクションあたり 100 個の SOQL クエリ)を超えるため、このプロセスは失敗します。	スケジュール済みアクションはユーザごとにまとめて一括処理されるため、3つの個別のトランザクションで実行されます。各トランザクションは Apex ガバナ制限(トランザクションあたり 100 個の SOQL クエリ)を超えません。
次のスケジュール済みアクションは同じ実行時間です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>取引先を更新するプロセスのスケジュール済みアクション</li> <li>ユーザロールを更新する別のプロセスのスケジュール済みアクション</li> </ul>	両方のスケジュール済みアクションは、同じトランザクションでまとめて一括で処理されます。標準オブジェクトと設定オブジェクトの両方の DML 操作は 1 つのトランザクションで実行できないため、このバッチは失敗します。	スケジュール済みアクションはプロセスごとにまとめて一括処理され、2つのトランザクションで実行されます。標準オブジェクトの DML 操作は設定オブジェクトの DML 操作とは別に実行されるため、2つのバッチは成功します。

## フローおよびプロセスのクエリの一括実行の導入 (重要な更新)

この更新では、フローとプロセスでクエリが一括処理可能な場合の実行方法が変更されます。Salesforce レコードの作成、更新、削除操作についてはすでに一括処理されています。クエリの一括処理が可能になることで、組織は SOQL 制限に達することを避けやすくなります。この重要な更新が組織の重要な更新コンソールに表示されない場合、その組織ではすでにフローとプロセスの操作が一括で実行されています。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: プログラマは、類似するアクションをまとめて1つのバッチで実行するようにコードを設計できます。たとえば、50件のレコードを50回の別個の操作ではなく1回の操作で作成できます。この概念を一括処理と呼びます。コードを使用しないフローやプロセスでも、一括処理を使用すれば、バッチは1回の操作とカウントされるため、ガバナ制限に達するのを防ぐことができます。メールを送信する操作やレコードを作成、更新、削除、検索する操作は一括処理が可能です。

1つのトランザクションで同じフローまたはプロセスの複数のインタビューが実行される場合、インタビューはそれぞれ一括処理可能な操作に達するまで実行されます。その操作は、トランザクションのすべてのインタビューが同じ操作に達するまで保留されます。そして、すべてのインタビューに対してその操作がまとめて実行されます。

 **メモ:** 一部のオブジェクト (UserRecordAccess や IdeaComment など) では一括操作がサポートされません。それらのオブジェクトに対しては、操作が1つずつ実行されます。

フローでは、次のものが実行されるときにクエリが生成されます。

- レコード更新要素
- レコード削除要素
- レコード検索要素
- 高速検索要素
- 参照されるフローがクエリを作成するサブフロー要素
- 参照される Apex コードがクエリを作成する Apex 要素

プロセスでは、次のものが実行されるときにクエリが生成されます。

- [レコードを更新] アクション
- 参照されるフローがクエリを作成するフローアクション
- 参照される Apex コードがクエリを作成する Apex アクション

この更新が有効になっていない場合、一括処理可能なクエリは保留されますが、一括実行されません。代わりに、1つずつ実行されます。プロセスとフローのデバッグログには、FLOW\_BULK\_ELEMENT で始まるイベントが含まれます。これは、類似するクエリと共に一括処理するためにクエリが保留されたことを示します。それにもかかわらず、一括処理可能なクエリは一括ではなく1つずつ実行されます。

たとえば、100件のケースをアップロードすると、活動管理フローは各ケースを開始し、100件のインタビューが生成されます。

- 50件のインタビューはレコード検索要素の検索イベントで停止します。
- 残りの50件のインタビューはレコード検索要素の検索タスクで停止します

この更新がない場合	この更新がある場合
各クエリは別個に実行されるため、クエリ操作が100回実行されます。	クエリは2つのバッチで実行されるため、クエリ操作が2回実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1回は検索イベントを実行する50件のインタビューに対して実行されます。</li> <li>• もう1回は検索タスクを実行する50件のインタビューに対して実行されます。</li> </ul>

方法: この重要な更新はSandbox内でテストすることをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「重要」と入力して、[重要な更新] を選択します。
2. [フローおよびプロセスのクエリの一括実行の導入] の [有効化] をクリックします。
3. すべてのフローとプロセスをテストします。

問題が発生した場合は、Salesforce カスタマーサポートまでご連絡ください。

関連トピック:

[重要な更新](#)

## プロセスでの作成および更新操作の部分的保存の有効化(重要な更新)

この更新は、1つのプロセスが失敗したときにトランザクション内のすべての実行中のプロセスが失敗することを防ぎます。保存に失敗したレコードのみがロールバックされます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: レコードのバッチが作成または更新されるときに、トリガされるプロセスが失敗し、レコードの保存がブロックされる可能性があります。以前は、失敗したプロセスがバッチ内の1つのレコードの保存をブロックすると、バッチ内のすべてのレコードが保存されませんでした。この重要な更新によって、プロセスに失敗したレコードのみがロールバックされ、プロセスに成功したレコードは3回保存が試行されるようになります。この機能は「部分的保存」と呼ばれます。

この重要な更新が適用されても、一部の種別のプロセスエラーではバッチ全体がロールバックされます。次のいずれかのアクションでエラーが発生した場合、常にバッチ全体がロールバックされます。

- プラットフォームイベントプロセスのアクション
- 呼び出し可能なプロセスのアクション
- レコード変更プロセスのスケジュール済みアクション
- レコード変更プロセスの「オールオアナッシング」ルールに従うルール適用時のアクション

次の表に、レコード変更プロセスでオールオアナッシングルールに従うルール適用時のアクションを示します。

ルール適用時のプロセスアクション	この更新が適用されていない場合	この更新が適用されている場合
Apex	コードによって異なる	コードによって異なる
レコードを作成	オールオアナッシング	部分的な保存
メールアラート	オールオアナッシング	オールオアナッシング
フロー	オールオアナッシング	オールオアナッシング
Chatter への投稿	オールオアナッシング	オールオアナッシング
プロセス	オールオアナッシング	オールオアナッシング

ルール適用時のプロセスアクション	この更新が適用されていない場合	この更新が適用されている場合
クイックアクション	オールオアナッシング	オールオアナッシング
承認申請	オールオアナッシング	オールオアナッシング
レコードを更新	オールオアナッシング	部分的な保存

たとえば、取引先を作成すると、取引先のプロセスは商談を作成し、その商談金額を取引先収益に設定します。商談の入力規則では、商談金額が0よりも大きい必要があります。データインポートウィザードを使用して100件の取引先をインポートしたときに1件の取引先の収益が0に設定されていると、その取引先の商談の作成は失敗します。

この重要な更新が適用されていない場合、100件すべての取引先と商談が作成されません。各取引先の商談を作成するアクションは一括で実行され、オールオアナッシングルールに従います。一括操作で1件の取引先の収益が0の商談の作成に失敗すると、バッチ全体がロールバックされます。

この重要な更新が適用されている場合、99件の取引先と商談が正常に作成されます。部分的な保存により、収益が0の1件の取引先のみが関連商談の作成に失敗し、その取引先の作成はロールバックされます。

方法: この重要な更新はSandbox内でテストすることをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「重要」と入力して、[重要な更新] を選択します。
2. [プロセスでの作成および更新操作の部分的保存の有効化] の [有効化] をクリックします。
3. すべてのフローとプロセスをテストします。

問題が発生した場合は、Salesforce カスタマーサポートまでご連絡ください。

関連トピック:

[IdeaExchange: Process Builder - All or None \(プロセスビルダー - オールオアナッシング\)](#)

[重要な更新](#)

## ユーザセッションの終了時にフローインタビューを終了

Classic ランタイムとの一貫性を保つため、Lightning ランタイムのフローインタビューは、ユーザがログアウトしたときに終了します。フローインタビューの処理中にユーザセッションが期限切れになると、インタビュー中の一部のアクションが失われる可能性があります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: インタビューは、関連付けられているトランザクションが完了するまで、アクション(メールの送信、レコードの作成、編集、削除など)を実行しません。トランザクションは、インタビューが終了したとき、画面要素を実行したとき、待機要素を実行したときのいずれかの時点で完了します。

処理中のインタビューのデータはSalesforce データベースに保存されません。レコードを作成または更新する要素がインタビューで実行されると、その要素で設定された情報のみがSalesforce データベースに保存されます。

**ヒント:** 実行時にフローが中断されるのを避けるには、次のようにします。

- 適切な期間後にユーザをログアウトするようにセッション設定を行う。
- インタビュー中に、セッションがまもなく期限切れになるというアラートに注意を払うようにユーザに促す。
- リリースアップグレード中にフローを実行しないようにユーザに促す。通常、アップグレードにかかる時間は約5分です。

## Lightning アプリケーションビルダー: 破損したコンポーネントによるページの破損の解消、コンソールサイドバーの固定領域、新規コンポーネント

Lightning ページ上の破損したコンポーネントによってページは破損されず、破損したコンポーネントは削除されます。ユーザがページ間を切り替えて必要な情報を取得する手間を省くには、コンソールサイドバーの固定領域を使用します。バッジコンポーネントを使用して、Lightning ユーザプロフィールページを拡張します。多数の新規コンポーネントを使用すると、Lightning for Outlook メールアプリケーションペインのメールとタブを管理しやすくなります。

このセクションの内容:

### 破損したコンポーネントによる Lightning ページの破損の解消

以前は、Lightning ページに破損したコンポーネントがあると、ページが正常に表示されませんでした。この問題が解消されました。今回のリリースでは、破損したコンポーネントは、ページが表示されるときに削除されます。ページは、そのコンポーネントなしで表示され、破損したコンポーネントについてのエラーが表示されます。

### コンソールサイドバーへの固定領域の追加

固定領域は、Lightning コンソールアプリケーションのサブタブに移動しても引き続き表示されます。ユーザは情報を取得するためにページ間を切り替える必要がありません。固定されたサイドバーでユーザがレコード情報を参照および操作できるようにするには、[コンソール: 固定された左右のサイドバー] レコードページテンプレートを使用します。

### バッジ Lightning コンポーネントを使用した獲得済み Trailhead バッジの表示

Lightning 開発者は、ユーザが自分の成果を表示できるようにすることができます。ユーザプロフィールページにバッジ Lightning コンポーネントを追加すると、ユーザが獲得した Trailhead バッジが表示されます。本番環境では、コンポーネントがユーザプロフィールページからユーザ ID を取得するため、設定は必要ありません。

### メールアプリケーションペインの新しいコンポーネント

Lightning for Outlook 用のカスタムメールアプリケーションペインを作成するときに、新しい Lightning アプリケーションビルダーコンポーネントを使用できます。



### Lightning ユーザへの提案アクションとオファー (パイロット)

新しい [Einstein のおすすめ] コンポーネントを追加し、Lightning ユーザに表示する提案を決めるための戦略を実行します。提案は、一般的なアクションや特別なオファーの提供など、任意の目的に使用できます。戦略の設定時に、特定の提案を表示する条件を付与できます。このコンポーネントは「Einstein次善アクション」パイロットの一部として使用可能です。

### Lightning コンポーネントを使用した Visualforce ページでの CSRF 保護

Visualforce ページで [GET 要求の CSRF 保護が必要] オプションを選択すると、セキュリティが強化され、クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) を防ぐことができます。Visualforce ページ Lightning コンポーネントは、この設定を有効にした Visualforce ページをサポートするようになりました。

## 破損したコンポーネントによる Lightning ページの破損の解消

以前は、Lightning ページに破損したコンポーネントがあると、ページが正常に表示されませんでした。この問題が解消されました。今回のリリースでは、破損したコンポーネントは、ページが表示されるときに削除されます。ページは、そのコンポーネントなしで表示され、破損したコンポーネントについてのエラーが表示されます。

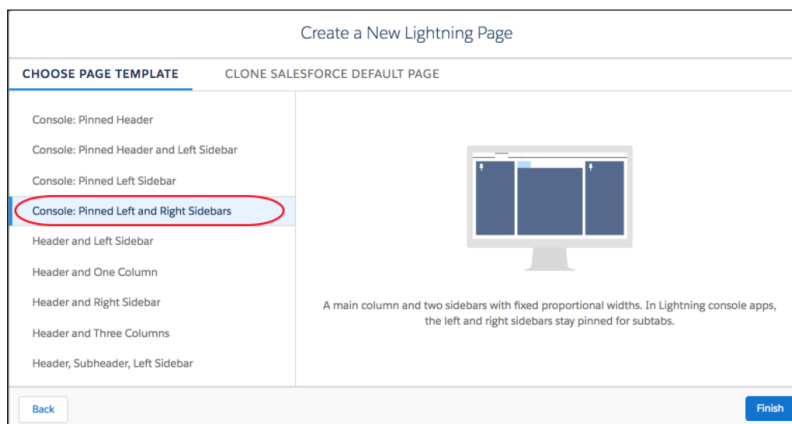
**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

## コンソールサイドバーへの固定領域の追加

固定領域は、Lightning コンソールアプリケーションのサブタブに移動しても引き続き表示されます。ユーザは情報を取得するためにページ間を切り替える必要がありません。固定されたサイドバーでユーザがレコード情報を参照および操作できるようにするには、[コンソール:固定された左右のサイドバー]レコードページテンプレートを使用します。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** 新しいテンプレートを使用してコンソールページを作成するには、Lightning アプリケーションビルダーで [コンソール:固定された左右のサイドバー]テンプレートを選択します。



- 📌 **メモ:** このテンプレートは、標準ナビゲーションを使用するアプリケーションでも動作します。ただし、標準アプリケーションでは固定領域の利点がないため、非固定領域テンプレートを使用することをお勧めします。

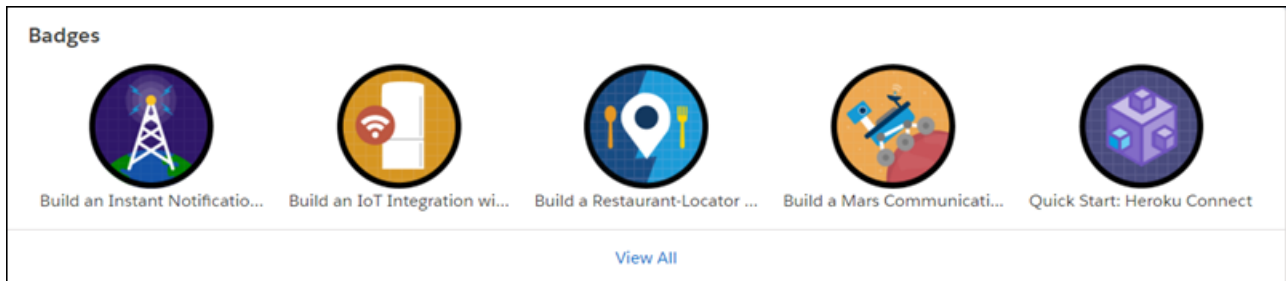
## バッジ Lightning コンポーネントを使用した獲得済み Trailhead バッジの表示

Lightning 開発者は、ユーザが自分の成果を表示できるようにすることができます。ユーザプロフィールページにバッジ Lightning コンポーネントを追加すると、ユーザが獲得した Trailhead バッジが表示されます。本番環境では、コンポーネントがユーザプロフィールページからユーザ ID を取得するため、設定は必要ありません。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Contact Manager Edition の Lightning Experience および Salesforce アプリケーションに適用されます。

**対象ユーザ:** バッジコンポーネントがユーザプロフィールページに配置されると、そのプロフィールへのアクセス権を持つすべてのユーザに表示されます。コンポーネントに表示される情報は、いくつかの条件に応じて変わります。コンポーネントがページの広い領域に配置された場合は、最大5つのバッジが表示されます。コンポーネントがページの狭い領域に配置された場合は、最大3つのバッジが表示されます。コンポーネント下部にある [すべて表示] リンクは、ユーザの Trailhead プロフィールページにリンクします。ユーザがバッジを獲得し、ユーザの Trailhead プロフィールが公開されている場合にバッジが表示されます。ユーザの Trailhead プロフィールが非公開の場合は、その設定が優先され、バッジは表示されません。

**理由:** バッジ Lightning コンポーネントを使用すると、ユーザは獲得したバッジをアピールことができ、他のユーザのバッジを見ることができます。自分のプロフィールを開いたときに、これまでの努力と獲得した知識を示すバッジが表示されることで、士気も高まるでしょう。



**方法:** Lightning アプリケーションビルダーでバッジコンポーネントを追加します。

## メールアプリケーションペインの新しいコンポーネント

Lightning for Outlook 用のカスタムメールアプリケーションペインを作成するときに、新しい Lightning アプリケーションビルダーコンポーネントを使用できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。


関連トピック:

[新しいコンポーネントを使用したカスタムメールアプリケーションペインの作成](#)

## Lightning ユーザへの提案アクションとオファー (パイロット)

新しい [Einstein のおすすめ] コンポーネントを追加し、Lightning ユーザに表示する提案を決めるための戦略を実行します。提案は、一般的なアクションや特別なオファーの提供など、任意の目的に使用できます。戦略の設定時に、特定の提案を表示する条件を付与できます。このコンポーネントは「Einstein 次善アクション」パイロットの一部として使用可能です。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

 **メモ:** Einstein 次善アクションは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Einstein 次善アクションは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Einstein 次善アクションについてのフィードバックと提案は、[IdeaExchange](#) からお寄せください。

対象ユーザ: ユーザが提案ボタンをクリックすると、画面フローが起動されます。フローを実行するには、ユーザに「フローを実行」権限があるか、ユーザの詳細ページで [フローユーザ] 項目が有効になっている必要があります。

関連トピック:

[Einstein 次善アクション: 戦略を使用した提案アクションとオファー \(パイロット\)](#)

## Lightning コンポーネントを使用した Visualforce ページでの CSRF 保護

Visualforce ページで [GET 要求の CSRF 保護が必要] オプションを選択すると、セキュリティが強化され、クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) を防ぐことができます。Visualforce ページ Lightning コンポーネントは、この設定を有効にした Visualforce ページをサポートするようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

## 項目: 時間データ型の正式リリースおよび数値項目での予測値の表示 (ベータ)

すべてのエディションで時間カスタムデータ型を使用できます。Einstein 予測ビルダーを使用するシステム管理者は、予測値が表示される項目をより詳細に制御できるようになります。

このセクションの内容:

### [時間データ型を使用した時間の追跡 \(正式リリース\)](#)

時間データ型は、優先連絡時間など、1つの日付に特定されない時間を追跡します。時間管理、イベント計画、およびプロジェクト管理に使用します。時間データ型は、数式や入力規則で使用できます。この機能は、Spring '18 ではベータリリースでしたが、今回のリリースでは、複数の改善と機能強化が加えられ、正式リリースされました。

**必要な場所での Einstein 予測の表示 (ベータ)**

Einstein 予測ビルダーでは、確度および予測 (顧客が請求書の支払いを予定どおりに行う可能性など) が生成されます。Einstein 予測ビルダーでは、数値項目をオブジェクトに追加してこれらの予測を必要な場所に表示したり、自分で項目を作成したりできます。

**時間データ型を使用した時間の追跡 (正式リリース)**

時間データ型は、優先連絡時間など、1つの日付に特定されない時間を追跡します。時間管理、イベント計画、およびプロジェクト管理に使用します。時間データ型は、数式や入力規則で使用できます。この機能は、Spring'18ではベータリリースでしたが、今回のリリースでは、複数の改善と機能強化が加えられ、正式リリースされました。

**対象:** この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

**理由:** 時間項目は、日付が含まれないタイムスタンプです。業務時間などを追跡するために使用します。たとえば、ホテルのチェックインとチェックアウトが可能な時間を表示できます。

The screenshot shows a form with the following fields:

- Hotel Name:** Cloud Inn
- Check-In Time:** 4:00 PM
- Check-Out Time:** A dropdown menu is open, showing a list of time options: 11:45 AM, 12:00 PM (selected with a checkmark), 12:15 PM, 12:30 PM, and 12:45 PM.

**前回のリリースからの改善点:**

- Lightning UI コンポーネントで時間項目がサポートされます。
- Lightning Experience と Salesforce モバイルアプリケーションでは、時間項目が選択リストとして表示されます。以前は、ユーザが時間値を入力する必要がありました。
- 時間項目をテキスト項目または数値項目に変換できます。
- 時間値をレポートのために絞り込むときに、秒やミリ秒を含める必要がなくなりました。
- 以前は、2つの時間項目の減算結果が負の値になる可能性がありました。現在、減算を実行すると、常に24時間表示の正の値になります。たとえば、営業時間数を計算する場合、 $(\text{ClosedTime} - \text{OpenTime}) / 3600000$  の数式を使用します (1時間が3,600,000ミリ秒であることも考慮します)。

ClosedTime = 午後5時、OpenTime = 午前8時、ClosedTime - OpenTime = 9時間

ClosedTime = 午前 5 時、OpenTime = 午前 7 時、ClosedTime - OpenTime = 22 時間

ClosedTime = 午前 5 時、OpenTime = 午後 11 時、ClosedTime - OpenTime = 6 時間

方法: カスタム項目の作成時に時間データ型を選択します。これで完了です。

さらにカスタマイズを行うには、時間データ型を数式や入力規則で使用します。たとえば、定期的なボランティアシフトを追跡するとします。時間データ型を使用して、シフトの開始を示すカスタム項目を作成します。項目表示ラベルは「Shift Starts」(シフト開始)で、API 参照名は Shift\_Start\_Time です。

すべてのシフトは4時間で、シフトの終了時間を表示したいと考えています。時間データ型を返す数式データ型を使用して、カスタム項目を追加します。数式で時間を表すためにミリ秒を使用すると (4 時間は 14,400,000 ミリ秒)、[Shift Ends (シフト終了)] 項目の数式は次のようになります。

```
Shift_Start_Time__c + 14400000
```

項目は次のように表示されます。

Shift Name	Animal Care
Shift Starts	3:15 PM
Shift Ends	7:15 PM

数式と HH:MM:SS.MS 形式を使用して、時間項目のデフォルト値を設定します。たとえば、午前 10:30 の場合は TIMEVALUE ("10:30:00.000") となります。

時間に関する計算には、新しいTIMEVALUE、TIMENOW関数や、新しいHOUR、MINUTE、SECOND、MILLISECOND関数を使用します。

たとえば、[Shift Ends (シフト終了)] 項目が別の時間項目であれば、次の入力規則によって、シフトが4時間未満にならないようにします。

```
Shift_Ends_Time__c <= (Shift_Start_Time__c + 14400000)
```

時間データ型を使用するときには、次のことに注意してください。

- Cloud Flow Designer で作成された自動化されたフローやプロセスビルダーで設計されたプロセス内のレコードに項目を追加することはできません。
- スキーマビルダーではサポートされません。
- 時間データ型では、SOQL クエリのカスタムインデックスの作成はサポートされません。
- 外部オブジェクトの標準参照関係では使用できません。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: 時刻カスタム項目](#)


[IdeaExchange: Custom Time Field \(カスタム時間項目\)](#)

## 必要な場所での Einstein 予測の表示 (ベータ)

Einstein 予測ビルダーでは、確度および予測(顧客が請求書の支払いを予定どおりに行う可能性など)が生成されます。Einstein 予測ビルダーでは、数値項目をオブジェクトに追加してこれらの予測を必要な場所に表示したり、自分で項目を作成したりできます。


**対象ユーザー:** この機能は EinsteinBuilderFree ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

**対象:** この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。予測項目はすべてのカスタムオブジェクトと一部の標準オブジェクトで使用できます。サポートされている標準オブジェクトのリストについては、Salesforce ヘルプを参照してください。

 **メモ:** Einstein 予測ビルダーはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。Einstein 予測ビルダーに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Salesforce Einstein」グループに投稿してください。組織でこの機能の有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。

**理由:** 予測項目設定により、システム管理者は項目を作成するタイミングをより詳細に制御できます。また、Apex API やメタデータ API を使用すれば、開発者はコードで設定をチェックできます。

**方法:** 自分で数値項目を作成するときに、[AI 予測] チェックボックスをオンにします。項目が有効になったら、Einstein 予測ビルダーを使用して、項目に表示する値を設定します。

 **メモ:** Einstein 予測ビルダーによって項目が作成されると、その項目がすべてのプロフィールに表示されます。

Einstein 予測ビルダーによって作成された項目でも、独自に作成した項目でも、次の制限が適用されます。

- 数値項目の小数点の桁数や文字の長さは、Einstein 予測ビルダーの設定と一致している必要があります。これらの設定は、項目の作成時に Einstein 予測ビルダーによって処理されます。項目を作成する場合、数値や長さが Einstein 予測ビルダーの予測と一致していることを確認してください。
- 権限を作成して項目に付与するには、「プロフィールと権限セットの管理」権限が必要です。通常、この権限は「アプリケーションのカスタマイズ」権限の一部として設定されますが、大規模な組織では「プロフィールと権限セットの管理」を切り離しておくことがあります。
- 項目値は、対応するオブジェクトについて新しい予測が作成されたときのみ変更されます。この項目値の変更によって、プロセスビルダーまたは Apex トリガはトリガされません。
- 項目設定は無効にできません。置き換える必要がある場合は、削除してから別の項目を作成します。
- Einstein 予測ビルダーで参照されている予測項目は削除できません。
- AI 予測項目として有効になっている数値項目は他のデータ型に変換できません。
- [積み上げ集計] 項目の種別では、AI 予測項目はサポートされていません。

- カスタム項目設定は Salesforce Classic で使用できますが、Einstein 予測ビルダーは Lightning Experience でのみ使用できます。
- パッケージに含まれている AI 予測項目として有効になっている項目はアップロードされないため、パッケージで配布できません。

#### 関連トピック:

[Einstein 予測ビルダー: コードなしのカスタム AI の使用 \(ベータ\)](#)

[メタデータ API](#)

[変更された Apex クラス](#)

## Salesforce Connect: カスタム HTTP ヘッダー、外部オブジェクトに対するトリガ (ベータ)、その他

Salesforce は、外部データシステムとやり取りするための新たな優れたツールをいくつか追加しています。カスタム HTTP ヘッダーを定義し、有効にすることで、従来よりも多くの要求情報を OData 2.0 および 4.0 の外部データソースに渡して処理できるようになりました。公開ベータリリースになった Salesforce Connect の OData 4.0 アダプタを使用すれば、Salesforce の外部に保存されているデータに加えられた変更に応答できます。さらに、外部システムへの Salesforce Connect コールアウトを追跡するために追加および更新されていた項目が正式リリースされました。

#### このセクションの内容:

##### [カスタム HTTP ヘッダーを使用して、より多くのコンテキスト情報を外部システムに渡す](#)

カスタム HTTP ヘッダーを定義し、有効にすることで、従来よりも多くの要求情報を OData 2.0 および 4.0 の外部データソースに渡して処理できるようになりました。カスタム HTTP ヘッダーは、地域、組織の詳細、外部オブジェクトを参照しているユーザの役割など、Salesforce からのコンテキスト情報を提供します。

##### [トリガを使用して、OData 4.0 アダプタを使用する外部オブジェクトのデータ変更を追跡 \(ベータ\)](#)

外部の標準オブジェクトおよびカスタムオブジェクトのデータ変更に応答するトリガを使用すれば、独自のビジネスロジックを作成する必要はありません。Salesforce Connect の OData 4.0 アダプタを使用すると、Salesforce 組織の外部に保存されたデータに加えられた変更を追跡できます。その後、この変更に応答して生産性を高めたり、顧客の環境を向上したりするように組織を設定できます。外部オブジェクトへのトリガの追加は Winter '18 ではパイロットリリースでしたが、ベータになりました。

##### [開発者のための関連更新](#)

## カスタム HTTP ヘッダーを使用して、より多くのコンテキスト情報を外部システムに渡す

カスタム HTTP ヘッダーを定義し、有効にすることで、従来よりも多くの要求情報を OData 2.0 および 4.0 の外部データソースに渡して処理できるようになりました。カスタム HTTP ヘッダーは、地域、組織の詳細、外部オブジェクトを参照しているユーザの役割など、Salesforce からのコンテキスト情報を提供します。


対象: この変更は、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。有料オプションで使用可能なエディションは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition です。

方法: OData 外部データソースごとに、データを要求するための HTTP ヘッダーを最大 10 個まで定義します。たとえば、外部データソースへのコールアウトを実行したユーザーを確認するには、ユーザーの名前に解決される数式を使用します。

## トリガを使用して、OData 4.0 アダプタを使用する外部オブジェクトのデータ変更を追跡 (ベータ)

外部の標準オブジェクトおよびカスタムオブジェクトのデータ変更に応答するトリガを使用すれば、独自のビジネスロジックを作成する必要はありません。Salesforce Connect の OData 4.0 アダプタを使用すると、Salesforce 組織の外部に保存されたデータに加えられた変更を追跡できます。その後、この変更に応答して生産性を高めたり、顧客の環境を向上したりするように組織を設定できます。外部オブジェクトへのトリガの追加は Winter'18 ではパイロットリリースでしたが、ベータになりました。

対象: この変更は、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。有料オプションで使用可能なエディションは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition です。

 **メモ:** 外部オブジェクトに対するトリガはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。外部オブジェクトに対するトリガに関するフィードバックや提案は、Lightning Connect の Trailblazer Community に投稿してください。組織でこの機能の有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。

理由: たとえば、組織にさまざまな IT システムがあり、注文、出荷、在庫、請求などを管理しているとします。サプライヤからの価格が下がった場合、そのことがあなたに通知されます。これで、あなたは得意先にバーゲン価格を知らせることができます。

トリガの追加先の外部オブジェクトごとに、トピックチャンネルと、関連付けられた変更イベントエンティティが作成されます。ここで、変更イベント通知が公開されます。登録者を各トピックチャンネルに追加し、ストリーミング API を使用してデータ変更を処理します。変更イベント通知が公開された場合に呼び出される Apex トリガを追加することもできます。

方法: オブジェクトのデータ変更を追跡するように選択して、外部オブジェクトに対するトリガを有効化します。変更追跡を有効にしたら、外部オブジェクトのトピックの下に公開チャンネルが作成されます。たとえば、/data/<オブジェクト名>\_\_ChangeEvent は data/Products\_\_ChangeEvent として表示されます。ここで Products はオブジェクト名です。設定可能な間隔 (5 ~ 30 分) で外部システムがポーリングされ、追跡された変更がないかどうか監視されます。

Apex トリガを使用して、変更イベントを登録します。または、Bayeux クライアントを使用して、公開チャンネルのストリーミング API を登録できます。登録後、外部オブジェクトで DML 操作を実行した後、変更イベント通知を監視します。Salesforce 内から外部オブジェクトに加えられた変更と、Salesforce の外部で寄せられた変更が追跡されます。



## 開発者のための関連更新

### API

新しいオブジェクト種別、CustomHTTPHeader。

### メタデータ API

ExternalDataSource メタデータ型の新しい項目: customHttpHeaders。

### 外部イベント

外部組織間コールアウト、外部カスタム Apex コールアウト、外部 OData コールアウトイベントの新しい項目が正式リリースされました。

## 正式リリース: Lightning Bolt ソリューション、アクションおよび承認の機能強化

Lightning アプリケーション、Lightning コミュニティ、およびフローを含む、すぐに利用できるソリューションを容易に公開できます。クイックアクションでは、多くの方法を使用して、選択リスト項目の定義済みの値や翻訳された成功メッセージを設定できます。承認申請メールの送信者において組織の共有アドレスがサポートされるようになりました。

### このセクションの内容:

#### Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの作成

Lightning Bolt ソリューションを構築すると、新しいインストールを開始し、カスタマイズされたビジネスソリューションを公開できます。独自の組織用であるか、コンサルティングパートナーや ISV として作成するかに関わらず、Lightning Bolt ソリューションを使用すると、ソリューションをすばやく構築し、稼働開始できます。

#### 承認申請メール通知の送信者の上書き

デフォルトでは、承認申請に関するメール通知の送信者は、承認を申請したユーザです。この送信者を、プロセスの自動化設定から組織の共有アドレス (approval@acmewireless.com など) で上書きできるようになりました。

#### アクションの選択リスト項目の定義済み値の設定での数式の使用

クイックアクションの選択リスト項目の定義済み値を 2 通りの方法で設定できるようになりました。選択リスト値セットから項目を指定したり、数式を使用して 2 番目の定義済み値を設定したりできます。定義済み項目値の設定に JavaScript を使用しているために Lightning Experience への移行をためらっていた場合は、その障壁がなくなりました。

#### トランスレーションワークベンチを使用して翻訳されたカスタムクイックアクションの成功メッセージの表示

以前は、トランスレーションワークベンチを使用してカスタムクイックアクションの成功メッセージの翻訳を作成した場合、その翻訳が表示されるべきタイミングで表示されませんでした。この問題が修正され、カスタム成功メッセージの翻訳が期待どおりに表示されます。

### Standard Permission Set のオブジェクト詳細の表示

権限セットライセンスがある場合、権限セットライセンスに関連付けられている Standard Permission Set のオブジェクト権限を表示できるようになりました。この表示により、権限セットが割り当てられているユーザがどの権限を持っているかを理解しやすくなります。以前は、Standard Permission Set のオブジェクト権限を表示できませんでした。権限を表示するには、ユーザインターフェースまたはメタデータAPIを使用します。

### 更新された通貨コード

ペラルーシルーブル、モーリタニアウーギヤ、ベネズエラボリバルソペラノの通貨の更新された通貨コードがサポートされます。以前の通貨の履歴を保持して、以前の通貨コードと新しい通貨コードの両方を使用するには、マルチ通貨を有効にします。

### ペルーの通貨形式の更新

Summer'18から、Salesforceはペルーソルの更新された通貨形式をサポートします。この通貨形式は「1.234,56」から「1,234.56」に変更されました。

### メタデータAPIを使用したカスタム設定リストビューの取得

メタデータAPIを使用してカスタム設定リストビューを取得することで、パッケージを取得したときにカスタム設定リストビューが含まれます。

### ページレイアウトでアクションとして使用されるカスタムボタンの削除禁止

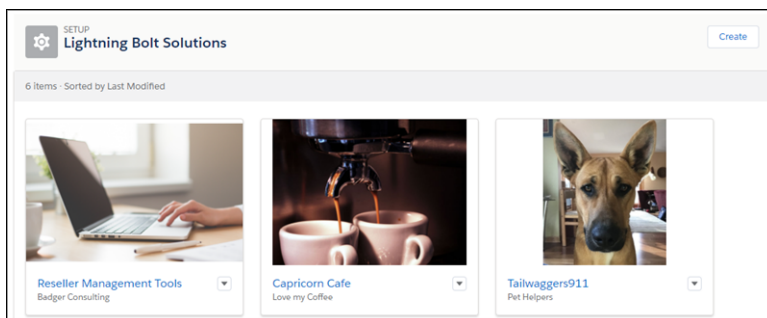
[Salesforce モバイルおよび Lightning Experience のアクション] セクションのアクションとして割り当てられているカスタムボタンを削除すると、ページレイアウトが破損する可能性があるため、削除できなくなりました。

## Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの作成

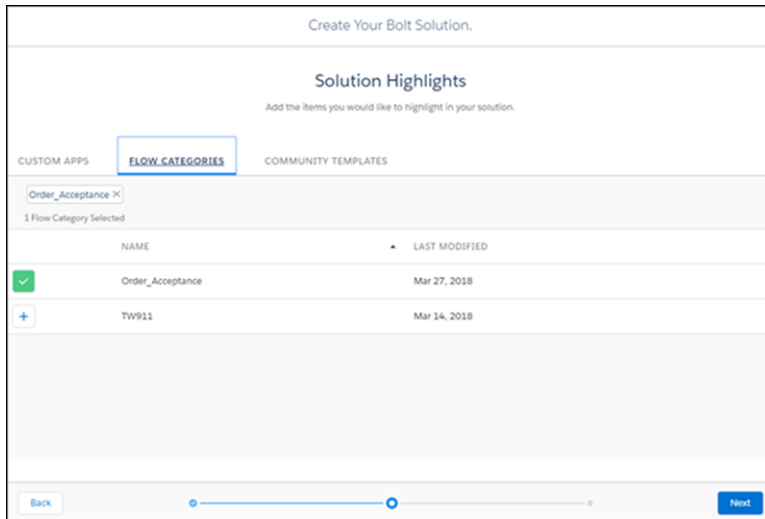
Lightning Bolt ソリューションを構築すると、新しいインストールを開始し、カスタマイズされたビジネスソリューションを公開できます。独自の組織用であるか、コンサルティングパートナーや ISV として作成するかに関わらず、Lightning Bolt ソリューションを使用すると、ソリューションをすばやく構築し、稼働開始できます。

**対象:** この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

**理由:** Lightning Bolt ソリューションを使用すると、他のコミュニティ、組織、または AppExchange で共有または販売するソリューションを作成できます。Lightning Bolt ソリューションは、業界固有のソリューションを作成して配布するための強力な新しいフレームワークです。これにより、製品化までの時間が短縮され、カスタム Lightning アプリケーション、ビジネスプロセス、Lightning コミュニティおよびポータルを迅速にリリースできます。



方法: Lightning Bolt ソリューションに、1つ以上のカスタム Lightning アプリケーション、フロー、Lightning コミュニティテンプレート、コンポーネント、またはページを追加します。フローを含める場合は、まずそれらをフローカテゴリに整理し、カテゴリをソリューションに追加します。アプリケーションやフローはコミュニティテンプレートなしでも配布できますし、コミュニティテンプレートを含めることで特定のデザインを適用することもできます。ソリューションを他の組織または AppExchange で公開するためにパッケージ化します。



#### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Lightning Bolt ソリューション: 作成は一度だけ、配布と利用は何度でも \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Lightning Bolt ソリューションを使用した迅速なビジネスソリューションの稼働開始](#)

## 承認申請メール通知の送信者の上書き

デフォルトでは、承認申請に関するメール通知の送信者は、承認を申請したユーザです。この送信者を、プロセスの自動化設定から組織の共有アドレス (approval@acmewireless.com など) で上書きできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

#### 関連トピック:

[IdeaExchange: Ability to Change the From Email Address in Approval Processes \(承認プロセスの差出人メールアドレスの変更機能\)](#)

## アクションの選択リスト項目の定義済み値の設定での数式の使用

クイックアクションの選択リスト項目の定義済み値を2通りの方法で設定できるようになりました。選択リスト値セットから項目を指定したり、数式を使用して2番目の定義済み値を設定したりできます。定義済み項目値の設定に JavaScript を使用しているために Lightning Experience への移行をためらっていた場合は、その障壁がなくなりました。

**対象:** この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition、および Developer Edition に適用されます。

**方法:** 数式を使用できるのは、単一選択リスト項目の定義済み値を設定する場合のみです。両方の種類の定義済み値を設定すると、クイックアクションが呼び出されたときに、有効な数式値が特定値よりも優先されます。

## トランスレーションワークベンチを使用して翻訳されたカスタムクイックアクションの成功メッセージの表示

以前は、トランスレーションワークベンチを使用してカスタムクイックアクションの成功メッセージの翻訳を作成した場合、その翻訳が表示されるべきタイミングで表示されませんでした。この問題が修正され、カスタム成功メッセージの翻訳が期待どおりに表示されます。

**対象:** この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition、および Developer Edition に適用されます。

## Standard Permission Set のオブジェクト詳細の表示

権限セットライセンスがある場合、権限セットライセンスに関連付けられている Standard Permission Set のオブジェクト権限を表示できるようになりました。この表示により、権限セットが割り当てられているユーザがどの権限を持っているかを理解しやすくなります。以前は、Standard Permission Set のオブジェクト権限を表示できませんでした。権限を表示するには、ユーザインターフェースまたはメタデータ API を使用します。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Professional Edition、Group Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。使用できる各権限セットライセンスは、権限セットおよび関連機能のエディション要件によって異なります。

**方法:** たとえば、Survey Creator Standard Permission Set のオブジェクト権限は次のようになります。

Permission Set

## Survey Creator

☰
Clone
Manage Assignments

[Permission Set Overview](#) > **Object Settings** ▼

## Object Settings

Object Name	Object Permissions
<a href="#">Scorecard Associations</a>	No Access
<a href="#">Survey Invitations</a>	Read, Create, Edit, Delete
<a href="#">Survey Responses</a>	Read, Create, Edit, Delete
<a href="#">Surveys</a>	Read, Create, Edit, Delete

## 更新された通貨コード

ベラルーシルーブル、モーリタニアウーギヤ、ベネズエラボリバルソベラノの通貨の更新された通貨コードがサポートされます。以前の通貨の履歴を保持して、以前の通貨コードと新しい通貨コードの両方を使用するには、マルチ通貨を有効にします。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**理由:** 次の通貨のコードが更新されました。

- ベラルーシルーブル — BYR から BYN に変更されました。
- モーリタニアウーギヤ — MRO から MRU に変更されました。

ベネズエラの通貨は、ボリバルフェルテ (VEF) からボリバルソベラノ (VES) に変更されました。

**方法:** [設定] で [クイック検索] ボックスに「組織情報」と入力します。[組織情報] を選択し、[編集] をクリックします。選択した通貨のロケールが、現在および将来のレコードに使用するデフォルトの通貨になることを確認します。[マルチ通貨の有効化] を選択して、変更を保存します。

関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: マルチ通貨の管理 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## ペルーの通貨形式の更新


Summer '18 から、Salesforce はペルーソルの更新された通貨形式をサポートします。この通貨形式は「1.234,56」から「1,234.56」に変更されました。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

## メタデータ API を使用したカスタム設定リストビューの取得

メタデータ API を使用してカスタム設定リストビューを取得することで、パッケージを取得したときにカスタム設定リストビューが含まれます。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

 **ヒント:** 引き続きカスタム設定を使用する場合は、[カスタムメタデータ型](#)を確認してみてください。カスタムメタデータ型はカスタム設定に似ています。ただし、レコードは、実際のデータではなくメタデータです。カスタムメタデータ型を使用すれば、開発サイクル中に時間を節約できます。

## ページレイアウトでアクションとして使用されるカスタムボタンの削除禁止

[Salesforce モバイルおよび Lightning Experience のアクション] セクションのアクションとして割り当てられているカスタムボタンを削除すると、ページレイアウトが破損する可能性があるため、削除できなくなりました。

**対象:** この変更は、Salesforce Classic と Lightning Experience に適用され、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Contact Manager Edition および Developer Edition で使用できます。

## AppExchange: 新しい検索条件とプロファイルの機能強化

クラウド、機能、および特別なログイン情報の新しいフィルタオプションを使用して、ビジネス要件にとって最適なソリューションをすばやく見つけることができます。AppExchange プロファイルの表示と更新も簡単になりました。

このセクションの内容:

### [新しいフィルタを使用した AppExchange ソリューションのすばやい検索](#)

HealthCloud で使用できるすべてのソリューションをお探しですか? 検討しているソリューションが個人取引先と互換性があるかどうか確認したいですか? ソリューションをすばやく見つけることができるように、AppExchange のフィルタにさらに多くのクラウドと機能が追加されました。会社のニーズを満たす価値と専門知識があるプロバイダを特定できるように、「Pledge 1% (1% の支援約束)」メンバーシップと FedRAMP 認証のフィルタも追加されました。

### [AppExchange プロファイルと設定の管理](#)

ソリューションを試したり、デモを見たり、リストプロバイダに詳細情報を要求したりするときに AppExchange プロファイルの詳細を表示および編集できるようになりました。また、プロバイダから提供される他の製品やサービスに関するコミュニケーション設定をより簡単に制御できるようになりました。

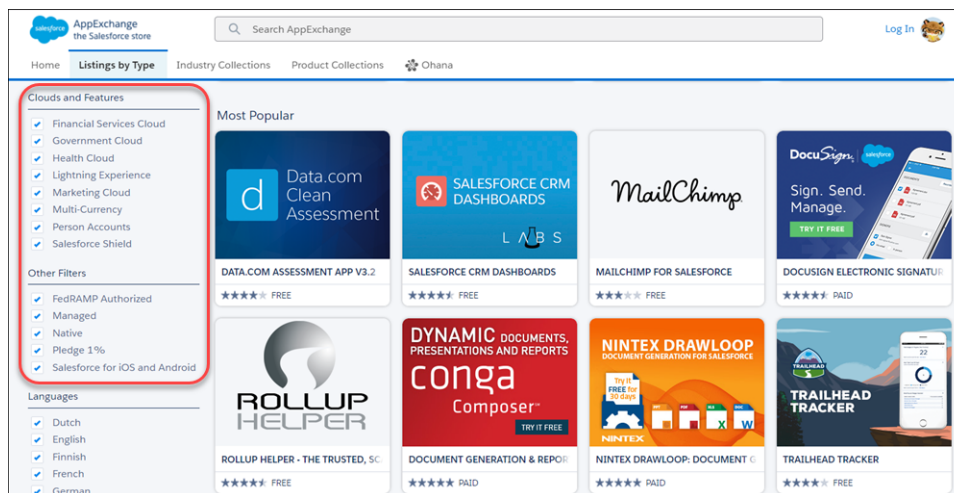
## 新しいフィルタを使用した AppExchange ソリューションのすばやい検索

Health Cloud で使用できるすべてのソリューションをお探しですか? 検討しているソリューションが個人取引先と互換性があるかどうか確認したいですか? ソリューションをすばやく見つけることができるように、AppExchange のフィルタにさらに多くのクラウドと機能が追加されました。会社のニーズを満たす価値と専門知識があるプロバイダを特定できるように、「Pledge 1% (1% の支援約束)」メンバーシップと FedRAMP 認証のフィルタも追加されました。

**対象:** この変更は AppExchange Web サイトに適用されます。

**理由:** 新しいフィルタにより、ビジネス要件を満たす AppExchange ソリューションをより柔軟に検索できます。絞り込んで次の結果を表示できます。

- Financial Services Cloud、Health Cloud、および Government Cloud で機能するように設計されたソリューション。
- 個人取引先、マルチ通貨、および Salesforce Shield をサポートするソリューション。
- 「Pledge 1% (1% の支援約束)」プログラムを介してコミュニティへの資産、時間、商品、または利益の 1% の還元を約束したプロバイダ。
- Federal Risk and Authorization Management Program (FedRAMP) によって承認されたプロバイダ。



## AppExchange プロファイルと設定の管理

ソリューションを試したり、デモを見たり、リストプロバイダに詳細情報を要求したりするときに AppExchange プロファイルの詳細を表示および編集できるようになりました。また、プロバイダから提供される他の製品やサービスに関するコミュニケーション設定をより簡単に制御できるようになりました。

**対象:** この変更は、AppExchange Web サイトに影響します。

**方法:** AppExchange にログインして、機能制限トライアルを利用したり、デモを見たり、詳細情報を要求したり、[今すぐ入手]をクリックしたりすると、プロフィールが表示されます(1)。不足がある場合や最新でない場合、情報をプロバイダに送信する前に変更できます(2)。プロバイダから提供される他の製品やサービスに関する情報が必要かどうかを示すこともできます(3)。

## セキュリティと ID: 新しい検証およびログイン方法、より多くのメールと項目の暗号化、状態チェックの機能強化、簡単になった [私のドメイン] 管理

ID トークンと確認リンクの有効期間を制御できるようになり、顧客が検証コードを使用してログインできるようになりました。より多くの項目を暗号化し、暗号化データを絞り込み、鍵素材をより詳細に制御します。状態チェックスコアをグレードによって一目で評価できます。Salesforce カスタマーサポートに連絡せずにサブドメインの名前を変更できます。

このセクションの内容:

**認証と ID: ID 検証方法の拡張、パスワードなしのログイン、コミュニティセッションのセキュリティ強化**  
 外部 ID コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる機能が追加されました。パスワードではなく ID 検証コードを使用してログインする便利なオプションをユーザに提供します。検証に使用する電話番号やメールアドレスをユーザが管理できるダッシュボードを作成します。さまざまなコミュニティログインポリシーを設定して、内部ユーザの要件を緩和できます。コミュニティや組織へのアクセスに対する ID トークンと確認リンクの有効期間を制御します。ユーザがログアウトしたときに、カスタムアプリケーションロジックをトリガして、たとえば OAuth セッションを取り消すなどします。さらに、認証プロバイダエンドポイントは、http:// または https:// で始まる必要があります。



### Salesforce Shield: より多くの項目の暗号化、ほぼリアルタイムのイベントログ、イベント種別および項目の追加

1時間ごとのイベントログにより、ほぼリアルタイムのイベントデータを取得し、長期間の非同期のコールアウトを監視し、Lightning Experience でのユーザアクティビティの詳細を取得します。項目内のより広範なデータを暗号化し、より多くの機能を使用して暗号化データにアクセスし、Bring Your Own Key サービスを使用して鍵派生を除外します。

### セキュリティ状態チェック: 状態チェックグレードと新しい設定および変更された設定

状態チェックスコアの横にグレードが表示されるようになりました。セキュリティ状態チェックの設定が追加および変更されました。

### その他のセキュリティの変更: 私のドメインとドメイン管理の改善

Salesforce カスタマーサポートに連絡せずにサブドメインの名前を変更できます。また、ドメインを提供する外部サービスプロバイダを使用している場合、[ドメイン管理] で CNAME を直接参照できます。

## 認証と ID: ID 検証方法の拡張、パスワードなしのログイン、コミュニティセッションのセキュリティ強化

外部 ID コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる機能が追加されました。パスワードではなく ID 検証コードを使用してログインする便利なオプションをユーザに提供します。検証に使用する電話番号やメールアドレスをユーザが管理できるダッシュボードを作成します。さまざまなコミュニティログインポリシーを設定して、内部ユーザの要件を緩和できます。コミュニティや組織へのアクセスに対する ID トークンと確認リンクの有効期間を制御します。ユーザがログアウトしたときに、カスタムアプリケーションロジックをトリガして、たとえば OAuth セッションを取り消すなどします。さらに、認証プロバイダエンドポイントは、http:// または https:// で始まる必要があります。

### このセクションの内容:

#### パスワードなしのログインで容易になった外部ユーザのコミュニティへのログイン

コミュニティメンバー、顧客、およびその他の外部ユーザがパスワードの代わりに確認コードを使用して、簡単にコミュニティにログインできるようにします。たとえば、Salesforce がメールまたはテキストメッセージで送信するコードで外部ユーザをログインさせます。この機能は、パスワードなしのログインと呼ばれます。

#### Apex を使用したパスワードなしのログインと検証方法の実装

たとえば、メールまたは電話に送信された確認コードの入力など、ユーザがコミュニティに簡単にアクセスできるようにするカスタムログインページを作成できます。新しい検証方法およびパスワードなしのログインページを実装するには、Apex と Visualforce を使用して、カスタムログインページを作成します。

#### ユーザの電話番号入力に柔軟に対応

ユーザは、電話番号の入力時に、どのような形式にすればよいのか迷わなくなります。国コードの先頭の + 記号や、9 桁の番号の間にダッシュがあるかどうかにかかわらず、入力を受け付けます。ユーザの電話番号の入力形式にバリエーションを持たせます。入力後は `formatPhoneNumber` Apex メソッドを使用して、Salesforce で要求される電話番号形式に番号を変換します。

### ユーザが確認および管理できるようになった検証方法

ユーザが組織にアクセスするために使用する ID 検証方法をより詳細に制御できるようになりました。管理ツールを使用して、内部ユーザと外部ユーザの両方のカスタム登録画面および検証ダッシュボードを構築します。ユーザは検証に使用する携帯電話番号やメールアドレスを確認および管理できます。

### Salesforce ユーザとコミュニティユーザで異なるログインポリシーの設定 (ベータ)

組織でコミュニティを設定する場合、内部ユーザが Salesforce アプリケーションではなくコミュニティにログインしたときに異なるログインポリシーを指定できます。たとえば、内部ユーザがコミュニティにログインしたときには IP 制限を適用せず、Salesforce アプリケーションにログインしたときには IP 制限を適用することができます。Salesforce アプリケーションとコミュニティへのアクセス権を個別に制御することで、信頼できる内部ユーザのデバイスの有効化と IP 制限を緩和して、より快適なログイン環境を提供できます。

### 内部コミュニティユーザのログインの追跡

コミュニティへの従業員のログインという新しいログイン種別では、内部ユーザのコミュニティへのログインを追跡して、セキュリティと監査を強化しています。新しいブラウザまたはデバイスでのログイン時に、ID の確認を目的として従業員に要求するデバイス有効化ポリシーを有効にできます。その後、このログイン種別のログイン履歴を確認して、誰がログインしたのかを確認します。

### ID トークンの有効期間と利用者の設定

接続アプリケーションの認証設定を行うときに、ID トークンの発効後の有効期間を指定できるようになりました。ID トークンに複数の利用者を指定することもできます。

### OAuth 2.0 アセットトークンフローのアセットトークンへの対象ユーザ要求の追加

OAuth 2.0 アセットトークンフローで、Salesforce からの応答のアセットトークン JWT ペイロードに対象ユーザ要求 (sub) が含まれるようになりました。対象ユーザ要求は、JWT の現在のユーザの 18 文字の ID (大文字と小文字を区別しない) を識別します。sub 要求は、すべての新しく生成されたアセットトークンに追加されます。

### お知らせメールのリンクの有効期限設定

お知らせに期限を設定できるようになりました。確認リンクの有効期間を短くすることで、組織のセキュリティが強化されます。お知らせメールのリンクが 1 日、7 日 (デフォルト)、または 180 日後に期限切れになるように設定します。以前は、デフォルトが 6 か月でした。デフォルトの有効期間は、Summer'18 より前に送信されたお知らせメールにも適用されます。

### パスワードを忘れた場合のメールに記載されたリンクをすぐに期限切れにしない

誰でもパスワードを忘れてリセットを要求することがありますよね? ユーザの操作環境を改善し、パスワードを忘れた場合のメールに記載されるパスワードのリセットリンクを、ユーザがパスワードリセット要求を確認するまで有効にしておきます。メールクライアントがプレビューを生成するためにメールのコンテンツをスキャンし、リセットリンクを使用場合があります。このアクションによって、ユーザがリンクをクリックする前に、リンクが無効になります。そのため、以前は、パスワードを忘れた場合のメール内のリンクは、リンクが使用された直後にその有効期限が切れていました。

### 24 時間後に期限切れになる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンク

認証のセキュリティ強化のため、内部ユーザおよび外部ユーザへのメールに含まれる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンクは 24 時間後に期限切れになります。以前は、これらのリンクに有効期限がありませんでした。この変更により、Summer'18 より前に送信されたメールに含まれるすべてのパスワードのリセットリンクも期限切れになります。

### ID トークンの発行者 URL から削除された末尾のスラッシュ

ID トークンにルートパスプレフィックス (/) がないコミュニティの発行者 URL に末尾のスラッシュ (/) が追加されなくなりました。これは、OpenID Connect 検出標準に準拠する変更で、デフォルトですべてのコミュニティに適用されます。

### HTTP または HTTPS が必須になった認証プロバイダエンドポイント

認証プロバイダエンドポイントは、HTTP または HTTPS で始まる必要があります。data://、feed://、ftp:// などの HTTP 以外のプロトコルは、認証プロバイダ URL でサポートされなくなりました。

### OAuth 1.x のコールバック URL の登録

OAuth 1.x による認証を設定する場合、接続アプリケーション用に登録したコールバック URL がクライアントアプリケーションのコールバック URL と一致していることを確認します。たとえば、https://MyCompany.MyApp のようにアプリケーションを識別する値を使用します。Salesforce は、接続アプリケーションとクライアントアプリケーションが同じコールバック URL を使用していることを検証します。

### ユーザがログアウトしたときにカスタムアプリケーションロジックをトリガ(ベータ)

セキュリティを強化するために、Apex トリガを使用してログアウトイベントに登録し、カスタムプロセスを実行します。たとえば、ユーザが組織からログアウトしたときに、すべての OAuth セッションを取り消すことができます。LogoutEventStream オブジェクトが有効になると、Salesforce がログアウトイベントを公開します。LogoutEventStream オブジェクトには新しい項目 SessionLevel と SourceIp もあります。

### 軽量の、連絡先のない外部 ID ユーザの作成(ベータ)

連絡先情報のないユーザを作成して、外部 ID ユーザ管理のオーバーヘッドを軽減します。より多くの機能を備えたコミュニティライセンスにアップグレードする場合など、必要に応じて、連絡先を追加できます。この機能は現在ベータであり、パイロットとして前回のリリースで導入されてから改善されています。

### 外部 ID ユーザのコミュニティセッションの延長による顧客エンゲージメントの向上(ベータ)

セッションの保持時間を長く、必要なログイン数を少なくすることで、顧客とパートナーがコミュニティ内に留まりやすくします。ユーザがブラウザを閉じた後もログインを維持できるようにします。また、無操作状態時に最大 7 日間ログインを維持します。デフォルトでは、外部 ID ユーザのコミュニティセッションは、24 時間の無操作状態の後にタイムアウトします。この機能は、前回のリリースで追加されてから変更されておらず、ベータのままです。

### コミュニティの外部ユーザの ID を検証するオプションの名前変更

外部ユーザが新しいデバイスまたはブラウザから Salesforce コミュニティにアクセスした場合、追加のセキュリティ対策として、ID の確認をユーザに要求できます。外部ユーザのプロファイルの [外部ユーザが新しいブラウザまたはデバイスから Salesforce にアクセスした場合に ID を確認する (デバイスの有効化)] オプションの名前が [デバイスの有効化を有効化] に変更されました。

## パスワードなしのログインで容易になった外部ユーザのコミュニティへのログイン

コミュニティメンバー、顧客、およびその他の外部ユーザがパスワードの代わりに確認コードを使用して、簡単にコミュニティにログインできるようにします。たとえば、Salesforce がメールまたはテキストメッセージで送信するコードで外部ユーザをログインさせます。この機能は、パスワードなしのログインと呼ばれます。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce で使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

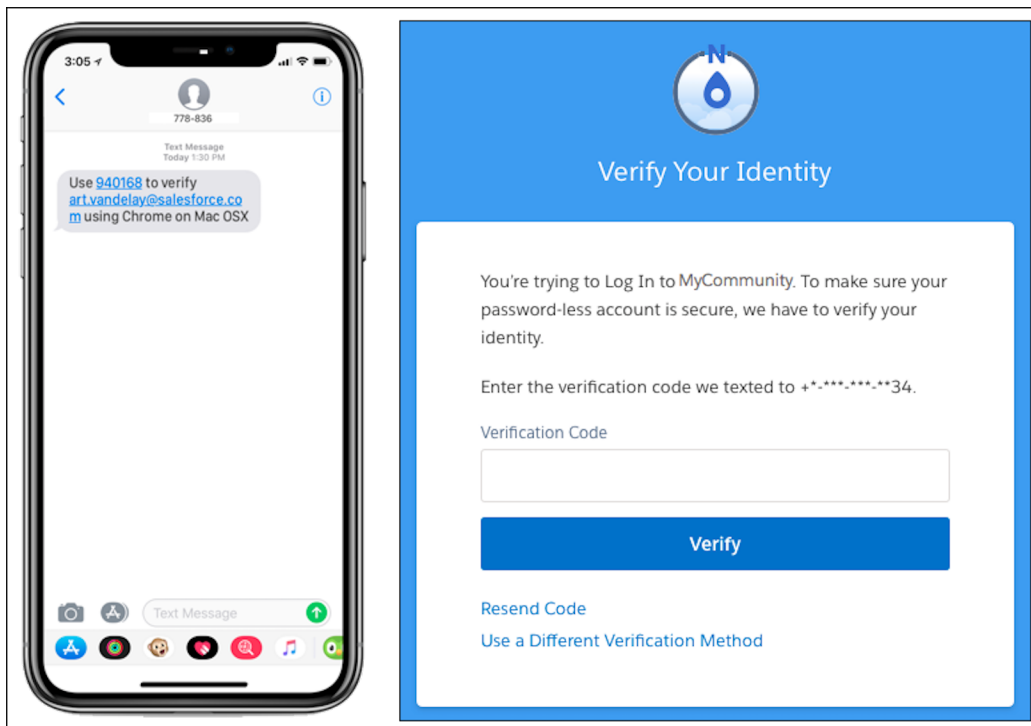
**対象ユーザ:** この機能は、External Identity またはコミュニティライセンスを持つ外部ユーザのみ使用できます。SMS 検証方法 (ベータ) を使用する場合は、Salesforce カスタマーサポートまでお問い合わせください。

**理由:** 多くのユーザが業務の処理にモバイルデバイスを使用するようになってきました。小売業の顧客やサービス担当者のように、モバイルデバイスだけで作業するユーザもいます。ユーザがブラウザを使用するのがモバイルデバイスかデスクトップかにかかわらず、パスワードの記憶は簡単なことではありません。別の方法で ID を確認できるオプションをユーザに提供します。パスワードの代わりに、メールのワンタイムパスワード、Salesforce Authenticator、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP)、または Universal 2nd Factor (U2F) を使用して、外部ユーザは ID を確認できます。また、ユーザはテキストメッセージ (SMS) を使用して ID を確認できます (現在ベータ)。

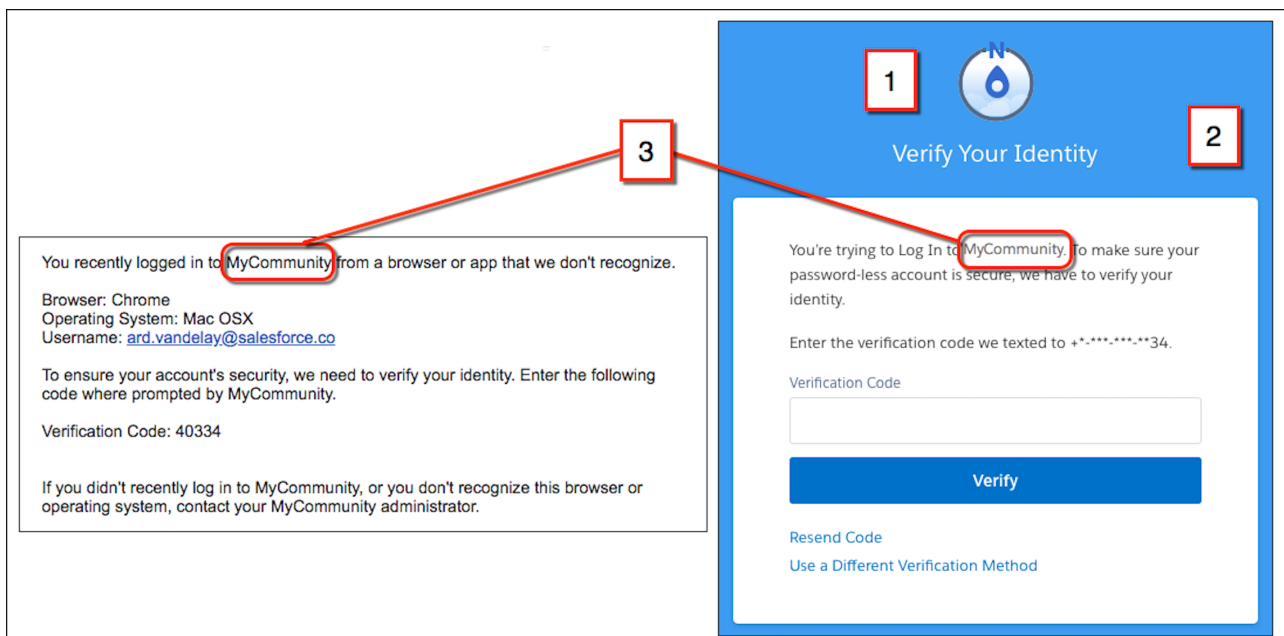
**メモ:** SMS は、暗号化を使用してメッセージの機密性をサポートするように設計されていません。また、ロックされたデバイスに SMS 確認コードが表示される可能性があります。その結果、攻撃者は、移動中のテキストメッセージをインターセプトしたり、ユーザのデバイスにアクセスしたりして、SMS コンテンツを取得できます。一般に、このような攻撃は標的型であり、パスワード違反のように受けやすい攻撃ではありませんが、コミュニティをリスクにさらす可能性があります。認証技術を選択する場合、特に単一要素の認証をリリースするときは、保護する必要があるデータとビジネスプロセスを考慮することが重要です。

**方法:** パスワードの代わりに SMS テキストを使用する、パスワードなしのログインのシナリオは次のとおりです。まず、カスタムログインページでは、ユーザにメールアドレスまたは電話番号のいずれかを入力してサインインするように表示します。

テキストによる確認コードの受信を登録済みのユーザは、電話番号を入力します。確認コードがユーザの電話に送信されます。確認コードを入力すると、ユーザはコミュニティにログインします。



Salesforce が検証プロセスを実行します。IDの確認をユーザに求めるページと、確認コードが含まれるページが生成されます。ユーザ確認ページは、ロゴを追加 (1) したり、背景色を変更 (2) したりしてカスタマイズできます。Salesforce は確認メッセージにコミュニティの名前を表示します (3)。



- 📌 **メモ:** この機能は、外部ユーザのパスワードなしのログインを有効にします。一方、Lightning Login 機能は、内部ユーザのパスワードなしのログインを有効にします。

関連トピック:

[Salesforce External Identity Implementation Guide \(Salesforce External Identity 実装ガイド\): Custom Login Pages \(カスタムログインページ\)](#)

## Apex を使用したパスワードなしのログインと検証方法の実装

たとえば、メールまたは電話に送信された確認コードの入力など、ユーザがコミュニティに簡単にアクセスできるようにするカスタムログインページを作成できます。新しい検証方法およびパスワードなしのログインページを実装するには、Apex と Visualforce を使用して、カスタムログインページを作成します。

**対象:** この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

**対象ユーザ:** この機能は、External Identity またはコミュニティライセンスを持つユーザ向けに作成されたコミュニティで使用します。

**方法:** Apex メソッドを追加して、検証方法を登録および登録解除します (1)。検証方法を定義して、確認の順序を設定します (2)。ID 検証方法と呼び出し、検証が成功すると、ユーザはログインします (3)。

```
System.UserManagement.registerVerificationMethod(Auth.VerificationMethod.TOTP, startUrl);
System.UserManagement.disconnectVerificationMethod(userId, Auth.VerificationMethod.TOTP);

// Add verification methods
public List<Auth.VerificationMethod> methods;

methods = new List<Auth.VerificationMethod>();
methods.add(Auth.VerificationMethod.SMS);
methods.add(Auth.VerificationMethod.U2F);
methods.add(Auth.VerificationMethod.SALESFORCE_AUTHENTICATOR);
methods.add(Auth.VerificationMethod.TOTP);
methods.add(Auth.VerificationMethod.EMAIL);

Site.passwordlessLogin(userId, methods, startURL);
```

過去に登録した検証方法でユーザがログインを試みると、検証コードが送信されます。コードを適切に入力すると、ユーザはコミュニティにログインします。

ID 検証とパスワードなしのログインで使用する Apex メソッドには次が含まれます。

### **UserManagement.registerVerificationMethod**

メールアドレスや電話番号など、ID 検証方法を登録する。

### **UserManagement.deregisterVerificationMethod**

既存の ID 検証方法の登録を解除する。

### **UserManagement.formatPhoneNumber**

更新前に、適切な形式となるように携帯電話番号を書式設定する。

**Site.passwordlessLogin**

過去にユーザが登録した ID 検証方法を使用して、ユーザをコミュニティにログインさせる。

これらのメソッドについての詳細は『Apex 開発者ガイド』を参照してください。

**ユーザの電話番号入力に柔軟に対応**

ユーザは、電話番号の入力時に、どのような形式にすればよいのか迷わなくなります。国コードの先頭の+記号や、9桁の番号の間にダッシュがあるかどうかにかかわらず、入力を受け付けます。ユーザの電話番号の入力形式にバリエーションを持たせます。入力後は `formatPhoneNumber` Apex メソッドを使用して、Salesforce で要求される電話番号形式に番号を変換します。

**対象:** この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

**対象ユーザ:** Apex を使用して、プログラミングでビジネスロジックを追加、またはユーザインターフェースをカスタマイズする開発者。

**理由:** テキストの確認などのために、ユーザに電話番号の入力を要求する場合、まず、`System.UserManagement.formatPhoneNumber` を使用して、携帯電話番号が適切な形式であることを確認します。次に、このメソッドで返された値を使用して、ユーザの `mobile` 項目を更新します。ユーザレコードが更新された場合、携帯電話番号が Salesforce で要求される形式であることが保証されます。

ユーザが電話番号の入力時に使用できる形式を次にいくつか示します。

- +1,(415) 555-1234 (+ 記号、括弧、ダッシュを含む)
- 1,4155551234 (数字のみで記号を含まない)
- 1,415-555-1234 (余分なスペース)

国コードと電話番号が分かれば、`System.UserManagement.formatPhoneNumber` は適切な形式で値を返します。

次に、メソッドの署名を示します。

```
System.UserManagement.formatPhoneNumber(countryCode, phoneNumber)
```

次の例を考えてみます。

- 正しい例:
  - `formatPhoneNumber('1', '4155551234');`
  - `formatPhoneNumber('+1', '(415) 555-1234');`
  - `formatPhoneNumber('1', '415-555-1234');`
- 国コードと電話番号が分かれないため、正しくない例:
  - `formatPhoneNumber(null, '+1 415-555-1234');`
- エラーは発生しないが、適切に機能しない可能性が高い例:
  - `formatPhoneNumber('+1', '+1 (415) 555-1234');`

## ユーザが確認および管理できるようになった検証方法

ユーザが組織にアクセスするために使用する ID 検証方法をより詳細に制御できるようになりました。管理ツールを使用して、内部ユーザと外部ユーザの両方のカスタム登録画面および検証ダッシュボードを構築します。ユーザは検証に使用する携帯電話番号やメールアドレスを確認および管理できます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

**方法:** 独自のダッシュボードとツールを構築できることに加えて、App Exchange の 2 要素認証ダッシュボードアプリケーションによって次の機能が提供されます。

- さまざまな ID 検証方法を使用して誰が登録されているかを確認する。登録の切断や仮の 2 要素認証コードの生成などの管理作業を実行します。
- ダッシュボードやレポートを使用して、組織内の登録の進行状況を監視し、検証活動を監査する。
- 2 要素認証の登録メールテンプレートと一括ユーザメールツールを統合することによって、2 要素認証キャンペーンを作成する。

お客様のインターフェースをサポートするために、[ユーザの検証済み携帯番号]項目と[ユーザの検証済みメール]項目が追加されました。[ID 検証方法]の下に、ユーザが登録済みで携帯電話番号、メールアドレス、またはその両方が検証済みかどうかが表示されます。

また、次の項目の名前が変更されました。

- [検証済みの携帯番号がある]は[管理者の信頼済み携帯番号]になりました。
- [ワンタイムパスワードアプリケーションがある]は[ワンタイムパスワードアプリケーション]になりました。
- [Salesforce Authenticator がある]は[Salesforce Authenticator]になりました。
- [仮のコードがある]は[仮のコード]になりました。
- [U2F セキュリティキーがある]は[U2F セキュリティキー]になりました。

Username	Admin Trusted Mobile Number	User Verified Mobile Number	User Verified Email	One-Time Password App	Salesforce Authenticator	Temporary Code	U2F Security Key
@.com	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
@.com	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
@	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



## Salesforce ユーザとコミュニティユーザで異なるログインポリシーの設定(ベータ)

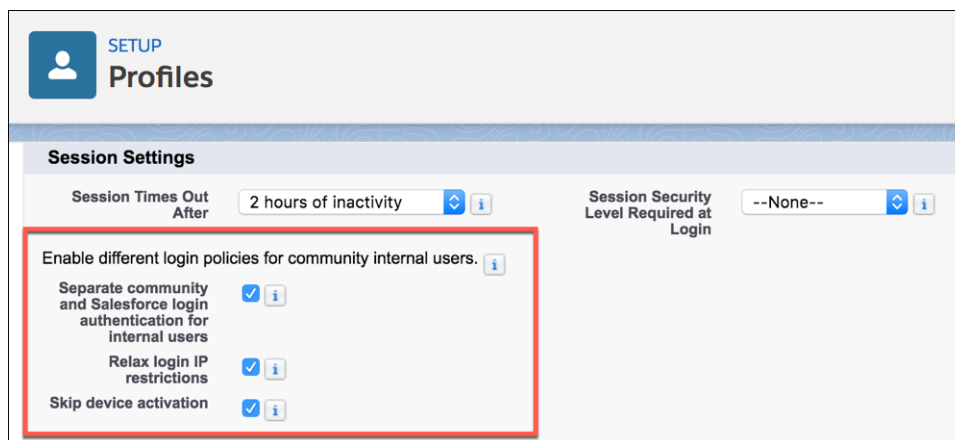
組織でコミュニティを設定する場合、内部ユーザが Salesforce アプリケーションではなくコミュニティにログインしたときに異なるログインポリシーを指定できます。たとえば、内部ユーザがコミュニティにログインしたときには IP 制限を適用せず、Salesforce アプリケーションにログインしたときには IP 制限を適用することができます。Salesforce アプリケーションとコミュニティへのアクセス権を個別に制御することで、信頼できる内部ユーザのデバイスの有効化と IP 制限を緩和して、より快適なログイン環境を提供できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**メモ:** Salesforce ユーザとコミュニティユーザに対する別個のログインポリシーはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。Salesforce ユーザとコミュニティユーザに対する別個のログインポリシーに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Salesforce Identity」グループに投稿してください。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「プロファイル」と入力し、内部ユーザのプロファイルを編集します。[セッションの設定] で、[内部ユーザについてはコミュニティと Salesforce のログイン認証を分割する] を選択します。制限がより緩いログインポリシーを設定するには、[ログイン IP 制限を緩和]、[デバイスの有効化をスキップ]、またはその両方を選択します。

**メモ:** プロファイルでこれらのオプションが定義された内部ユーザに対しては、コミュニティドメインで OAuth を使用した認証はサポートされません。また、これらのオプションが有効になっている内部ユーザは、コミュニティワークスペースに移動するときに、コミュニティに再度ログインするように求められます。これらのオプションが有効になっており、必要な権限を持っているユーザは、コミュニティを引き続き作成できます。



## 内部コミュニティユーザのログインの追跡

コミュニティへの従業員のログインという新しいログイン種別では、内部ユーザのコミュニティへのログインを追跡して、セキュリティと監査を強化しています。新しいブラウザまたはデバイスでのログイン時に、IDの確認を目的として従業員に要求するデバイス有効化ポリシーを有効にできます。その後、このログイン種別のログイン履歴を確認して、誰がログインしたのかを確認します。

**対象:** この機能は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティおよび Salesforce タブ + Visualforce で使用できます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

**対象ユーザ:** この機能は、External Identity またはコミュニティライセンスを持つユーザのみが使用できます。この変更は従来のポータルライセンスにも適用されます。

**方法:** ログイン履歴の [コミュニティへの従業員のログイン] ログイン種別を確認します。[設定] から、「ログイン履歴」と入力し、[ログイン履歴] を選択します。

## ID トークンの有効期間と利用者の設定

接続アプリケーションの認証設定を行うときに、ID トークンの発効後の有効期間を指定できるようになりました。ID トークンに複数の利用者を指定することもできます。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

この変更は、認証に OpenID Connect プロトコルを使用しているアプリケーションに適用されます。

**時期:** この機能は、Summer '18 リリース時にローリング方式でリリースされます。複製されたコンシューマーテーブルにデータが保存されているため、新しい設定は、Summer '18 リリースにすべてのインスタンスが配置された後に使用可能になります。

**方法:** 接続アプリケーションの OAuth 設定を有効にするときに、ID トークンの有効期間と利用者を設定します。[ID トークンを設定] を選択した後に、アクセストークン応答と更新トークン応答で ID トークンコンテンツを制御するセカンダリ設定を指定します。次の新しい設定を指定します。

### トークンの有効期間

ID トークンの発行後、ID トークンが有効な期間。指定できる期間は 1 ~ 720 分です。デフォルトは 2 分です。

### ID トークンの利用者

ID トークンの対象コンシューマ。たとえば、ID トークンを使用する対象サービス ([https://your\\_service.com](https://your_service.com) など) です。

The screenshot shows the 'API (Enable OAuth Settings)' configuration page. Under the 'Configure ID Token' section, the 'Token Valid for' is set to 2 minutes. The 'ID Token Audiences' field contains the URL 'https://your\_service.com'. Below this, there are three checkboxes: 'Include Standard Claims' (checked), 'Include Custom Attributes' (unchecked), and 'Include Custom Permissions' (unchecked).

## OAuth 2.0 アセットトークンフローのアセットトークンへの対象ユーザ要求の追加

OAuth 2.0 アセットトークンフローで、Salesforce からの応答のアセットトークン JWT ペイロードに対象ユーザ要求 (sub) が含まれるようになりました。対象ユーザ要求は、JWT の現在のユーザの 18 文字の ID (大文字と小文字を区別しない) を識別します。sub 要求は、すべての新しく生成されたアセットトークンに追加されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

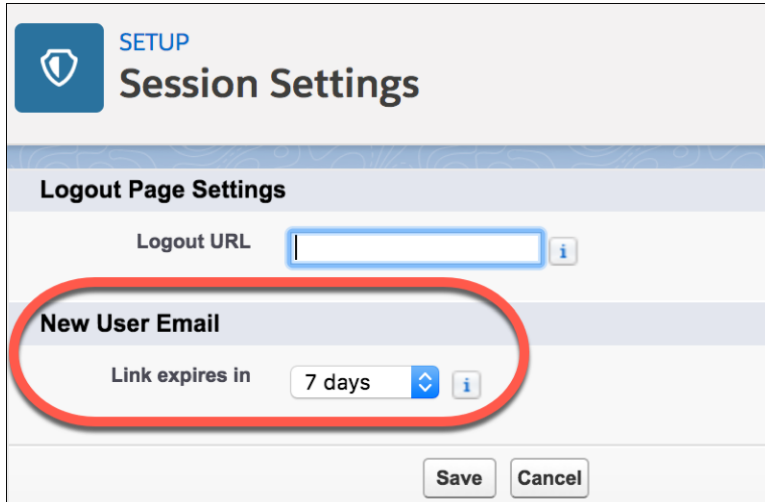
## お知らせメールのリンクの有効期限設定

お知らせに期限を設定できるようになりました。確認リンクの有効期間を短くすることで、組織のセキュリティが強化されます。お知らせメールのリンクが 1 日、7 日 (デフォルト)、または 180 日後に期限切れになるように設定します。以前は、デフォルトが 6 か月でした。デフォルトの有効期間は、Summer '18 より前に送信されたお知らせメールにも適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: セッションセキュリティ設定を変更するには、「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。

方法: [セッションの設定] ページの [新規ユーザメール] セクションで、[リンク有効期限] を設定して、お知らせメールの確認リンクの有効期間を制御します。この設定を更新すると、その変更はすでに送信されたお知らせメールのリンクに適用されます。たとえば、2 日前にユーザを追加してお知らせメールを送信し、その時点ではリンクの有効期間が 7 日間だったとします。設定を更新して、リンクの有効期間を 1 日にすると、2 日前に送信したメールのリンクは有効ではなくなります。



関連トピック:

[お知らせメールのコミュニティリンクの有効期限](#)

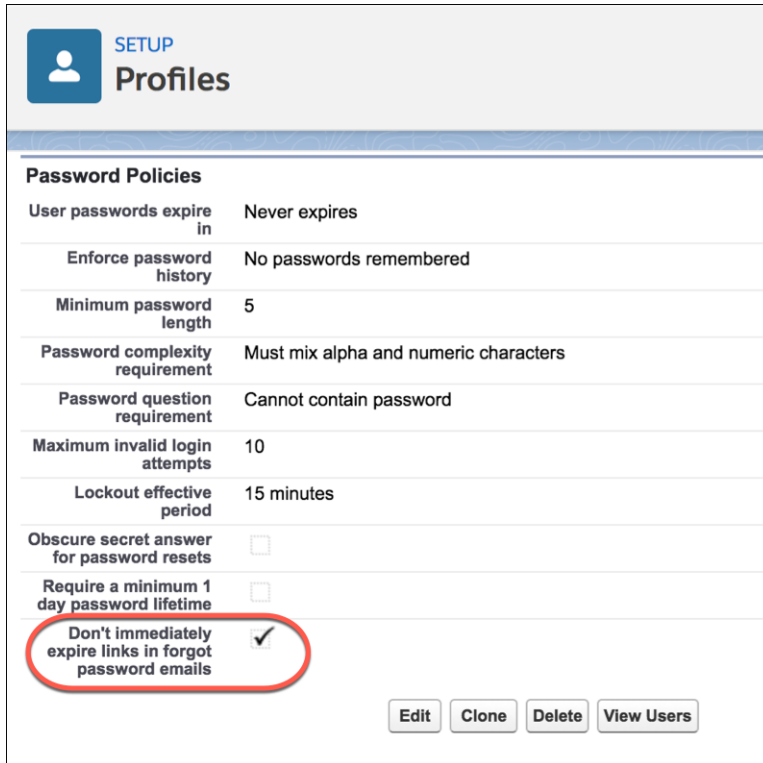
## パスワードを忘れた場合のメールに記載されたリンクをすぐに期限切れにしない

誰でもパスワードを忘れてリセットを要求することがありますよね? ユーザの操作環境を改善し、パスワードを忘れた場合のメールに記載されるパスワードのリセットリンクを、ユーザがパスワードリセット要求を確認するまで有効にしておきます。メールクライアントがプレビューを生成するためにメールのコンテンツをスキャンし、リセットリンクを使用する場合があります。このアクションによって、ユーザがリンクをクリックする前に、リンクが無効になります。そのため、以前は、パスワードを忘れた場合のメール内のリンクは、リンクが使用された直後にその有効期限が切れていました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: パスワードを忘れた場合のメール内のリンクの有効期限が、ユーザアクションが行われるまで切れないようにするには、[プロフィール]ページの[パスワードポリシー]セクションで[パスワードを忘れた場合のメールに記載されたリンクをすぐに期限切れにしない]を選択します。

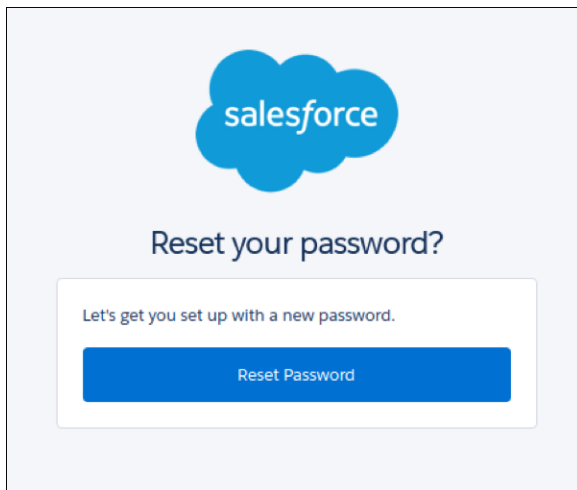
パスワードを忘れた場合のメール内のリンクをユーザがクリックすると、Webページが開き、ユーザはそこでパスワードのリセット要求を確認します。メール内のリンクは、ユーザが要求を確認した後にのみ有効期限が切れます。ユーザは、引き続き、24時間以内に忘れたパスワードをリセットする必要があります。そうしないと、<https://login.salesforce.com/secur/forgotpassword.jsp>にアクセスするなどして、もう一度要求を送信する必要があります。



The screenshot shows the 'Profiles' page in the Salesforce Setup interface. The 'Password Policies' section is expanded, displaying a list of settings. The setting 'Don't immediately expire links in forgot password emails' is checked and highlighted with a red circle. Below the list are buttons for 'Edit', 'Clone', 'Delete', and 'View Users'.

Password Policies	
User passwords expire in	Never expires
Enforce password history	No passwords remembered
Minimum password length	5
Password complexity requirement	Must mix alpha and numeric characters
Password question requirement	Cannot contain password
Maximum invalid login attempts	10
Lockout effective period	15 minutes
Obscure secret answer for password resets	<input type="checkbox"/>
Require a minimum 1 day password lifetime	<input type="checkbox"/>
Don't immediately expire links in forgot password emails	<input checked="" type="checkbox"/>

パスワードのリセット確認ページは次のようになります。



The screenshot shows the Salesforce password reset confirmation page. It features the Salesforce logo at the top, followed by the heading 'Reset your password?'. Below this is a message: 'Let's get you set up with a new password.' and a prominent blue button labeled 'Reset Password'.

## 24 時間後に期限切れになる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンク

認証のセキュリティ強化のため、内部ユーザおよび外部ユーザへのメールに含まれる、システム管理者によって開始されたパスワードのリセットリンクは 24 時間後に期限切れになります。以前は、これらのリンクに有効期限がありませんでした。この変更により、Summer '18 より前に送信されたメールに含まれるすべてのパスワードのリセットリンクも期限切れになります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この機能は、Summer '18 リリース時にローリング方式でリリースされます。

## ID トークンの発行者 URL から削除された末尾のスラッシュ

ID トークンにルートパスプレフィックス (/) がないコミュニティの発行者 URL に末尾のスラッシュ (/) が追加されなくなりました。これは、OpenID Connect 検出標準に準拠する変更で、デフォルトですべてのコミュニティに適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 次の例は、末尾のスラッシュ (/) がある場合とない場合の発行者 URL を示します。

- この変更前の発行者 URL  
`https://mycommunity.force.com/`
- この変更後の発行者 URL  
`https://mycommunity.force.com`

## HTTP または HTTPS が必須になった認証プロバイダエンドポイント

認証プロバイダエンドポイントは、HTTP または HTTPS で始まる必要があります。data://、feed://、ftp:// などの HTTP 以外のプロトコルは、認証プロバイダ URL でサポートされなくなりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 認証プロバイダ設定を編集するには、「アプリケーションのカスタマイズ」および「認証プロバイダの管理」ユーザ権限が必要です。

## OAuth 1.x のコールバック URL の登録


OAuth 1.x による認証を設定する場合、接続アプリケーション用に登録したコールバック URL がクライアントアプリケーションのコールバック URL と一致していることを確認します。たとえば、`https://MyCompany.MyApp` のようにアプリケーションを識別する値を使用します。Salesforce は、接続アプリケーションとクライアントアプリケーションが同じコールバック URL を使用していることを検証します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

## ユーザがログアウトしたときにカスタムアプリケーションロジックをトリガ (ベータ)

セキュリティを強化するために、Apex トリガを使用してログアウトイベントに登録し、カスタムプロセスを実行します。たとえば、ユーザが組織からログアウトしたときに、すべての OAuth セッションを取り消すことができます。LogoutEventStream オブジェクトが有効になると、Salesforce がログアウトイベントを公開します。LogoutEventStream オブジェクトには新しい項目 `SessionLevel` と `SourceIp` もあります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic で使用できます。

 **メモ:** LogoutEventStream オブジェクトはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。LogoutEventStream オブジェクトに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Salesforce Identity」グループに投稿してください。組織でこの機能の有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。


方法: LogoutEventStream オブジェクトは、UI からの正常なユーザログアウトのみを記録します。SourceIp 項目は、ログアウトするクライアントのソース IP アドレスを提供します。

SessionLevel 項目は、ユーザがログアウトするセッションのセッションレベルセキュリティを示します。セッションレベルのセキュリティは、接続アプリケーションやレポートなど、このセキュリティをサポートする機能へのユーザのアクセス権を制御します。使用可能な値は、LOW、STANDARD、HIGH\_ASSURANCE です。

## 軽量な、連絡先のない外部 ID ユーザの作成 (ベータ)

連絡先情報のないユーザを作成して、外部 ID ユーザ管理のオーバーヘッドを軽減します。より多くの機能を備えたコミュニティライセンスにアップグレードする場合など、必要に応じて、連絡先を追加できます。この機能は現在ベータであり、パイロットとして前回のリリースで導入されてから改善されています。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

 **メモ:** 今回のリリースには、External Identity ユーザ向けの連絡先のないユーザのベータバージョンが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。External Identity ユーザ向けの連絡先のないユーザは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

対象ユーザ: この機能は、External Identity ライセンスを持つユーザのみ使用できます。このライセンスは顧客やパートナーの製品の ID を持つユーザに適用されます。この機能は、他のコミュニティライセンスでは使用できません。この機能を有効にするには、Salesforce カスタマーサポートにご連絡ください。

理由: 通常、Salesforce で外部 ID ユーザが作成される場合、連絡先が追加されます。ただし、外部ユーザの連絡先情報が実装で必要ない場合、連絡先をなしにすることを検討します。連絡先がなければ、ユーザと連絡先レ

コードを常に同期する手間が省かれます。ユーザデータベースを ID のみを目的として管理できます。たとえば、コミュニティに登録するユーザの条件が整うまで、連絡先の作成を延期できます。

方法: Salesforce SOAP API User オブジェクトを使用して、連絡先のない外部 ID ユーザをプログラミングで作成します。

```
User u = new User();
u.FirstName = 'James';
u.LastName = 'James';
u.Email = 'jjames@test.com';
u.Alias = 'James';
u.Username = 'jjames@test.com';
u.CommunityNickname = 'James';
u.LocaleSidKey = 'en_US';
u.TimeZoneSidKey = 'GMT';
u.ProfileID = '00exx000000jvN4'; // Profile that's associated with the EI license
u.LanguageLocaleKey = 'en_US';
u.EmailEncodingKey = 'UTF-8';
insert u;
```

連絡先のない外部 ID ユーザに連絡先を追加するには、連絡先を作成し (1)、連絡先をユーザに関連付けます (2)。


```
Account a = (SELECT Id FROM Account WHERE Id = '001xx000003DIyf');
Contact c = new Contact() // Create contact
c.FirstName = 'James';
c.LastName = 'James';
c.AccountId = a.id;
insert c;
User u = (SELECT Id FROM User WHERE Id = '005xx000001Tl1f');
u.ContactId=c.id // Associate contact with user
update u;
```

外部 ID をコミュニティライセンスにアップグレードするには、外部 ID に連絡先が含まれることを確認します。次に、Salesforce ヘルプの手順に沿って、コミュニティユーザライセンスにアップグレードします。

## 外部 ID ユーザのコミュニティセッションの延長による顧客エンゲージメントの向上 (ベータ)

セッションの保持時間を長く、必要なログイン数を少なくすることで、顧客とパートナーがコミュニティ内に留まりやすくします。ユーザがブラウザを閉じた後もログインを維持できるようにします。また、無操作状態時に最大 7 日間ログインを維持します。デフォルトでは、外部 ID ユーザのコミュニティセッションは、24 時間の無操作状態の後にタイムアウトします。この機能は、前回のリリースで追加されてから変更されておらず、ベータのままです。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

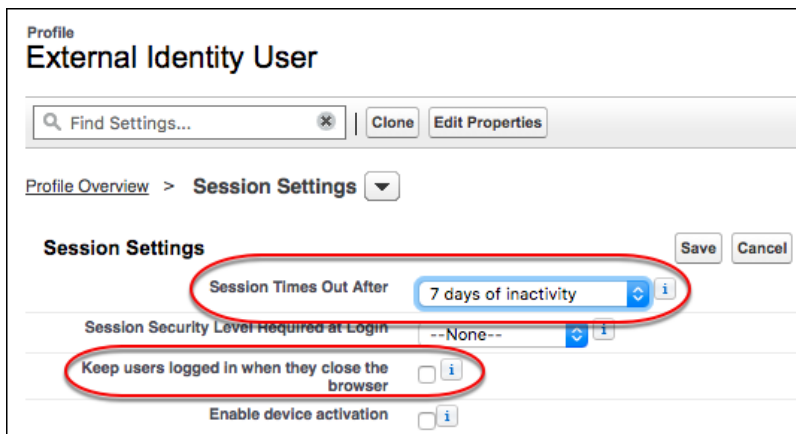
 **メモ:** 今回のリリースには、External Identity ユーザの延長セッションのベータバージョンが含まれていません。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。この機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースある



いはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

**対象ユーザ:** この機能は、External Identity ライセンスを持つユーザのみ使用できます。このライセンスは顧客やパートナーの製品の ID を持つユーザに適用されます。この機能は、他のコミュニティライセンスでは使用できません。この機能を有効にするには、Salesforce カスタマーサポートにご連絡ください。

**方法:** External Identity プロファイルの外部 ID セッション設定を変更します。プロファイルのセッション設定の下にある、これらの設定を確認します。[セッションタイムアウトの開始条件]ドロップダウンからタイムアウト値を選択します。[ユーザがブラウザを閉じた場合にユーザのログインを維持する]を選択する場合、セッションを終了するにはログアウトが必要であることをユーザに通知します。



## コミュニティの外部ユーザの ID を検証するオプションの名前変更

外部ユーザが新しいデバイスまたはブラウザから Salesforce コミュニティにアクセスした場合、追加のセキュリティ対策として、ID の確認をユーザに要求できます。外部ユーザのプロファイルの [外部ユーザが新しいブラウザまたはデバイスから Salesforce にアクセスした場合に ID を確認する (デバイスの有効化)] オプションの名前が [デバイスの有効化を有効化] に変更されました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザ:** 外部ユーザとは、Customer Community、Customer Community Plus、Partner Community、または External Identity ライセンスを持つユーザです。この変更は従来のポータルライセンスにも適用されます。

**方法:** [設定] から、[クイック検索] ボックスに「プロファイル」と入力し、外部ユーザのプロファイルを編集します。[セッションの設定] で、[デバイスの有効化を有効化] を選択し、プロファイルを保存します。



## Salesforce Shield: より多くの項目の暗号化、ほぼリアルタイムのイベントログ、イベント種別および項目の追加

1時間ごとのイベントログにより、ほぼリアルタイムのイベントデータを取得し、長期間の非同期のコールアウトを監視し、Lightning Experienceでのユーザアクティビティの詳細を取得します。項目内のより広範なデータを暗号化し、より多くの機能を使用して暗号化データにアクセスし、Bring Your Own Key サービスを使用して鍵派生を除外します。

このセクションの内容:

[Shield Platform Encryption: 活動データ、カスタムオブジェクト名、絞り込みを保持する暗号化、鍵管理オプションの追加](#)

Shield Platform Encryption ユーザはより広範なデータを暗号化でき、より多くの機能を使用して暗号化データにアクセスできます。リストメール、Field Service Lightning、Einstein Analytics との互換性が提供されます。活動、メール、リッチテキストエリア項目(パイロット)、カスタムオブジェクト名項目(ベータ)を暗号化します。カスタムおよび標準の一致ルール(ベータ)を使用して完全一致とあいまい一致を見つけることができますが、鍵管理タスクのための高保証セッションが必要です。絞り込み対応の暗号化スキーマを選択するか、鍵派生を除外するかを選択します。

[イベント監視: 1時間ごとのイベントログ、継続コールアウトサマリーイベント種別、Lightning イベント種別のデータの追加](#)

1時間ごとのイベントログが正式リリースされ、ほぼリアルタイムに組織のアクティビティを確認できるようになりました。新しいイベント種別を使用することで、長時間の非同期コールアウトを監視できます。また、新しいLightning イベント項目では、Lightningでのユーザアクティビティについての詳細が提供されません。

## Shield Platform Encryption: 活動データ、カスタムオブジェクト名、絞り込みを保持する暗号化、鍵管理オプションの追加

Shield Platform Encryption ユーザはより広範なデータを暗号化でき、より多くの機能を使用して暗号化データにアクセスできます。リストメール、Field Service Lightning、Einstein Analytics との互換性が提供されます。活動、メール、リッチテキストエリア項目 (パイロット)、カスタムオブジェクト名項目 (ベータ) を暗号化します。カスタムおよび標準の一致ルール (ベータ) を使用して完全一致とあいまい一致を見つけることができますが、鍵管理タスクのための高保証セッションが必要です。絞り込み対応の暗号化スキーマを選択するか、鍵派生を除外するかを選択します。

このセクションの内容:

### リストメールの暗号化

リストメールに含まれる機密情報にまでセキュリティポリシーを拡張します。Shield Platform Encryption を特定のリストメール項目で使用できるようになりました。これにより、マーケティングキャンペーンの機密情報の保護を一層強化できます。

### 作業指示およびサービス予定の項目の暗号化

Shield Platform Encryption を Field Service Lightning データで使用できるようになりました。これにより、現場スタッフとパートナーが収集およびアクセスするデータのセキュリティを一層強化することができます。

### 活動の暗号化項目 (正式リリース)

ToDo コメントと行動の説明を暗号化して、ワークフローの保護を一層強化します。

### カスタムオブジェクト名の暗号化 (ベータ)

カスタムオブジェクトのデータの保護を一層強化します。カスタムオブジェクト名項目の暗号化では、確定的暗号化スキームと確率的暗号化スキームの両方がサポートされます。

### メール-to-ケースフィードおよびメールメッセージの暗号化 (ベータ)

メールと時間管理ツールは毎日のワークフローにおいて重要な役割を果たします。セキュリティとコンプライアンスの制御を一層強化するために、メールとメール-to-ケースのメッセージを暗号化できるようになりました。メールの暗号化に使用する鍵のライフサイクルを制御することで、コンプライアンスと規制の義務を果たすことができます。

### リッチテキストエリア項目の暗号化 (ベータ)

Shield Platform Encryption でリッチテキストエリア項目の暗号化がサポートされるようになり、より広範なデータのセキュリティが一層強化されます。カスタムオブジェクトと標準オブジェクトのリッチテキストエリア項目を暗号化できます。

### Shield の絞り込みを保持する暗号化により大文字と小文字を区別する完全一致を取得 (正式リリース)

確定的暗号化スキームでは、絞り込み機能を失うことなくデータのセキュリティを一層強化し、単一性に関連するサービスを実行できます。確定的暗号化を項目ごとに適用することで、データのセキュリティと機能を詳細に制御できます。

### Einstein Analytics データの暗号化の有効化 (正式リリース)

Einstein Analytics Encryption を使用すると、データを安心して分析できます。Einstein Analytics データセットのセキュリティを一層強化できるようになりました。

### 重複管理で使用される一致ルールでの暗号化項目の参照 (ベータ)

Shield Platform Encryption であいま一致および重複ジョブとの互換性がサポートされるようになり、より広範なデータを維持することができます。カスタム一致ルールに加えて、標準一致ルールを使用して暗号化項目を参照することもできます。

### 鍵の管理タスクでの高保証セッションの必要性 (正式リリース)

2要素認証はデータとリソースへのアクセスをセキュリティ保護するための強力なツールです。鍵と証明書生成、循環、アップロードなどの鍵の管理タスクに、2要素認証を要求できるようになりました。システム管理者は暗号化鍵を管理するときに、Salesforce Authenticator アプリケーションや U2F セキュリティキーなどの2つ目の認証方法を使用する必要があります。暗号化鍵素材を扱うセキュリティ管理者が、実際にその業務を目的として雇用された (信頼できる) 人物であることを確認できるため、安心です。

### BYOK による鍵派生の除外 (正式リリース)

Shield Platform Encryption の Bring Your Own Key (BYOK) サービスを使用すると、アップロードした鍵素材を詳細に制御できます。UI と API を使用して鍵ごとに鍵派生を除外できるようになりました。除外すると、鍵を完全に制御し、Shield Platform Encryption サービスによって提供されるすべての鍵循環機能にアクセスできます。鍵ごとに除外できるため、いつでもデフォルトの BYOK サービスを使用することもできます。デフォルトのサービスは、アップロードされた鍵素材を主秘密と組み合わせて、一意のデータ暗号化鍵を派生します。除外すると、Shield 鍵管理サービスでデータの暗号化と復号化に使用する完全なデータ暗号化鍵をアップロードできます。

## リストメールの暗号化

リストメールに含まれる機密情報にまでセキュリティポリシーを拡張します。Shield Platform Encryption を特定のリストメール項目で使用できるようになりました。これにより、マーケティングキャンペーンの機密情報の保護を一層強化できます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

**理由:** リストメールの次の項目を暗号化できます。

- 差出人名
- 送信元アドレス
- 返信先アドレス項目

リストメール送信結果の [メール] 項目も暗号化できます。確定的暗号化をサポートするのは [差出人名] 項目のみです。

**方法:** これらの項目を暗号化するには、[設定] で項目を暗号化ポリシーに追加します。

関連トピック:

### [リストメールの暗号化](#)

## 作業指示およびサービス予定の項目の暗号化

Shield Platform Encryption を Field Service Lightning データで使用できるようになりました。これにより、現場スタッフとパートナーが収集およびアクセスするデータのセキュリティを一層強化することができます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザー:** サービス予定オブジェクトの項目を暗号化するには、Field Service Lightning ライセンスが必要です。

**理由:** 作業指示、作業指示品目、およびサービス予定の次の項目を暗号化できます。

- 住所 ([町名・番地] および [市区郡] のみ)
- 説明
- 件名

サービス予定と作業指示の [住所] 項目と [件名] 項目、および作業指示品目の [住所] 項目と [件名] 項目で確定的暗号化を使用できます。

**方法:** これらの項目を暗号化するには、[設定] で項目を暗号化ポリシーに追加します。

関連トピック:

[作業指示とサービス予定に保存されたデータの Shield による暗号化](#)

## 活動の暗号化項目 (正式リリース)

ToDo コメントと行動の説明を暗号化して、ワークフローの保護を一層強化します。


**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

**方法:** 活動項目の暗号化を有効にするには、Salesforce に連絡してください。その後、[設定] の [暗号化ポリシー] ページで [活動の説明] を選択します。[活動の説明] 項目を暗号化すると、[ToDo コメント] 項目も暗号化されます。

## カスタムオブジェクト名の暗号化 (ベータ)

カスタムオブジェクトのデータの保護を一層強化します。カスタムオブジェクト名項目の暗号化では、確定的暗号化スキームと確率的暗号化スキームの両方がサポートされます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** カスタムオブジェクト名の Shield Platform Encryption はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的とします。加えて、無保証で提供されるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。カスタムオブジェクト名の Shield Platform Encryption に関するフィードバックや提案は、[IdeaExchange](#) または [Trailblazer Community](#) に投稿してください。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。

**対象ユーザー:** カスタムオブジェクト名項目の暗号化を有効にする場合は、Salesforce にお問い合わせください。システム管理者に「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

方法: Lightning Experience では、[オブジェクトマネージャ]でオブジェクトを見つけて、[項目とリレーション]をクリックします。項目メニューから[編集]を選択し、[この項目のコンテンツを暗号化する]を選択します。

Salesforce Classic では、[設定]でオブジェクトに移動し、[標準項目]を選択します。カスタムオブジェクト名の横にある[編集]を選択します。[この項目のコンテンツを暗号化する]を選択し、[保存]をクリックします。

## メール-to-ケースフィードおよびメールメッセージの暗号化 (ベータ)

メールと時間管理ツールは毎日のワークフローにおいて重要な役割を果たします。セキュリティとコンプライアンスの制御を一層強化するために、メールとメール-to-ケースのメッセージを暗号化できるようになりました。メールの暗号化に使用する鍵のライフサイクルを制御することで、コンプライアンスと規制の義務を果たすことができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** メール-to-ケースおよびメールメッセージの Shield Platform Encryption はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的とします。加えて、無保証で提供されるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。メール-to-ケースおよびメールメッセージの Shield Platform Encryption に関するフィードバックや提案は、[IdeaExchange](#) または [Trailblazer Community](#) に投稿してください。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。

理由: メールメッセージの次のデータ要素を暗号化できます。

- 差出人名
- 送信元アドレス
- 宛先アドレス
- CC アドレス
- BCC アドレス
- 件名
- テキスト内容
- HTML 内容
- ヘッダー

メールメッセージ関連オブジェクトの[リレーションアドレス]項目も暗号化できます。

方法: メール-to-ケースおよびメールメッセージの暗号化を有効にするには、Salesforce に連絡してください。その後、[設定]の[暗号化ポリシー]ページでこれらの項目に暗号化を適用します。これらの項目に確率的または確定的暗号化を適用することもできます。

## リッチテキストエリア項目の暗号化 (ベータ)

Shield Platform Encryption でリッチテキストエリア項目の暗号化がサポートされるようになり、より広範なデータのセキュリティが一層強化されます。カスタムオブジェクトと標準オブジェクトのリッチテキストエリア項目を暗号化できます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** リッチテキストエリア項目の Shield Platform Encryption は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されます。リッチテキストエリア項目の Shield Platform Encryption は変更される可能性があり、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。


**対象ユーザー:** リッチテキストエリア項目の Shield Platform Encryption のパイロットに参加するには、アカウントエグゼクティブまたは Salesforce カスタマーサポートまでお問い合わせください。リッチテキストエリア項目の暗号化を有効にするには、システム管理者に「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です

**方法:** リッチテキストエリア項目を作成または編集するときに暗号化を有効にできます。

Lightning Experience では、[オブジェクトマネージャ] からカスタムまたは標準オブジェクトを選択して、[項目とリレーション] を選択します。リッチテキストエリア項目を作成または編集するときに、項目の詳細ページで [暗号化] を選択します。

Salesforce Classic では、[設定] でオブジェクトに移動し、[項目] を選択します。[カスタム項目 & リレーション] セクションで [新規] を選択し、項目の詳細ページで [暗号化] を選択します。

リッチテキストエリア項目に入力されるすべての新しいデータが暗号化されます。既存のデータを暗号化するには、Salesforce にバックグラウンド暗号化サービスを依頼してください。

 **メモ:** リッチテキストエリア項目内のリンクは暗号化されません。リッチテキストエリア項目内の画像を暗号化するには、[設定] の [暗号化ポリシー] ページから [ファイルと添付ファイルを暗号化] を選択します。

## Shield の絞り込みを保持する暗号化により大文字と小文字を区別する完全一致を取得 (正式リリース)

確定的暗号化スキームでは、絞り込み機能を失うことなくデータのセキュリティを一層強化し、単一性に関連するサービスを実行できます。確定的暗号化を項目ごとに適用することで、データのセキュリティと機能を詳細に制御できます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザー:** 確定的暗号化を使用するには、「アプリケーションのカスタマイズ」権限および「設定・定義の参照」権限が必要です。

**理由:** 絞り込みを保持する確定的暗号化スキームでは、次の場合に完全一致、大文字と小文字を区別する比較がサポートされます。

- 絞り込みを行う場合の完全一致
- 暗号化された次の値の、大文字と小文字を区別する比較

- レポート
- ダッシュボード
- リストビュー
- SOQL および WHERE クエリ。
- 外部 ID
- カスタム項目の一意の設定
- 標準項目およびカスタム項目のカスタムインデックス
- 2列インデックス

大文字と小文字を区別する場合、会社が「Acme」のリードオブジェクトに対する SOQL クエリは「Acme」のみを返し、「acme」や「ACME」は返しません。同様に、絞り込みを保持するスキームで単一性(ユニーク性)をテストする場合、「Acme」の各バージョンがユニークになります。複合名項目および複合住所項目はサポートされません。たとえば、Name の単一の検索条件で FirstName と LastName を連結することはできません。代わりに、AND を使用して FirstName と LastName を照会します。

```
SELECT Id FROM Contact WHERE FirstName = 'William' AND LastName = 'Spock'
```

方法: 確定的暗号化を有効にする前に、暗号化鍵をすでに生成してアップロードしていることを確認します。次に、[高度な設定] ページで、[確定的暗号化] を有効にします。確定的に暗号化するデータ専用の鍵素材を生成してアップロードします。標準項目とカスタム項目で確定的暗号化スキームと確率的暗号化スキームを組み合わせることができます。

有効な [Salesforce のデータ (確定的)] 鍵素材を使用して既存のデータを暗号化するには、Salesforce サポートにお問い合わせください。項目の暗号化スキームを確定的から確率的に変更する場合は、Salesforce に問い合わせ、有効な [Salesforce のデータ] 鍵素材を使用してその項目のデータを再暗号化してください。

## Einstein Analytics データの暗号化の有効化 (正式リリース)

Einstein Analytics Encryption を使用すると、データを安心して分析できます。Einstein Analytics データセットのセキュリティを一層強化できるようになりました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic、Lightning Experience、すべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**対象ユーザー:** Einstein Analytics Encryption には、Shield Platform Encryption ライセンスと Einstein Analytics Platform ライセンスの両方が必要です。「暗号化鍵の管理」権限が必要です。

**理由:** Einstein Analytics Encryption サービスは Einstein Analytics プラットフォームにネイティブに組み込まれているため、データのセキュリティが一層強化されます。Einstein Analytics Encryption では、Advanced Encryption Standard (AES) に従う確率的暗号化と、書き込みごとに CTR モードを使用する 256 ビット鍵を使用して、保存されたデータを暗号化します。すべての操作 (並び替えやグループ化を含む) は、暗号化なしの場合と同様に機能します。



方法: Einstein Analytics Encryption は、[設定] の [プラットフォームの暗号化] ページから有効にできます。まず、[鍵の管理] ページで、Analytics 種別のテナントの秘密を生成します。次に、[暗号化ポリシー] ページで [Einstein Analytics を暗号化] ボックスをオンにします。

関連トピック:


[Salesforce ヘルプ: Einstein Analytics Encryption \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: Einstein Analytics データの暗号化 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## 重複管理で使用される一致ルールでの暗号化項目の参照 (ベータ)

Shield Platform Encryption であいまい一致および重複ジョブとの互換性がサポートされるようになり、より広範なデータを維持することができます。カスタム一致ルールに加えて、標準一致ルールを使用して暗号化項目を参照することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

 **メモ:** 一致ルールでの Shield Platform Encryption はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的とします。加えて、無保証で提供されるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。一致ルールでの Shield Platform Encryption に関するフィードバックや提案は、[IdeaExchange](#) または [Trailblazer Community](#) に投稿してください。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。

理由: 一致ルールでの暗号化を使用して、暗号化データの大文字と小文字を区別しない (あいまい) 一致と大文字と小文字を区別する (完全) 一致を返すことで、データをクリーンかつ整理された状態に保ちます。たとえば、[名前] 項目を暗号化し、一致ルールでその項目を参照した場合、そのルールは「Kate」と「kate」だけでなく「Kate」と「Katherine」も一致として識別できます。重複管理で使用する一致ルールでの暗号化では、確率的暗号化データはサポートされません。

方法: カスタム一致ルールで参照する項目に暗号化を追加するには、[プラットフォームの暗号化] の [高度な設定] ページで、確定的暗号化を有効にします。次に、Salesforce に連絡して重複管理との暗号化の互換性を有効にするように依頼します。

暗号化する項目を参照している既存のカスタムルールを一時的に無効化する必要があります。このルールを無効化しない場合、暗号化設定を保存できません。[暗号化ポリシー] ページで、暗号化する項目を選択し、その項目に確定的暗号化スキームを適用して、保存します。次に、カスタムルールを再有効化します。

標準一致ルールは、そのルールで参照している項目に暗号化が追加されたときに自動的に無効化されます。暗号化が有効になっていることを確認するメールを受信した後、該当の項目を参照するルールを再度有効化します。

**重要:** 正確な一致結果を得るには、既存のベータユーザは、暗号化項目を参照するすべての一致ルールを無効化した後、再有効化する必要があります。カスタム一致ルールの再有効化に失敗した場合は、Salesforce に連絡して、一致インデックスの再有効化を依頼してください。

## 鍵の管理タスクでの高保証セッションの必要性 (正式リリース)

2要素認証はデータとリソースへのアクセスをセキュリティ保護するための強力なツールです。鍵と証明書の生成、循環、アップロードなどの鍵の管理タスクに、2要素認証を要求できるようになりました。システム管理者は暗号化鍵を管理するときに、Salesforce Authenticator アプリケーションや U2F セキュリティキーなどの2つ目の認証方法を使用する必要があります。暗号化鍵素材を扱うセキュリティ管理者が、実際にその業務を目的として雇用された (信頼できる) 人物であることを確認できるため、安心です。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

**方法:** ユーザに「暗号化鍵の管理」権限を割り当てる場合、ユーザが特定のタスクを実行するときに2要素認証を要求できます。

[設定] の [ID 検証] ページで、[セッションセキュリティレベルポリシー] に移動します。[暗号化鍵の管理] の横のドロップダウンから [セッションを高保証に上げる] を選択します。必ず、セキュリティ管理者に時間ベースのワンタイムパスワードを取得する手段を提供します。このパスワードは、2番目の認証要素になります。そうしないと暗号化鍵関連のタスクを実行できません。

## BYOK による鍵派生の除外 (正式リリース)

Shield Platform Encryption の Bring Your Own Key (BYOK) サービスを使用すると、アップロードした鍵素材を詳細に制御できます。UI と API を使用して鍵ごとに鍵派生を除外できるようになりました。除外すると、鍵を完全に制御し、Shield Platform Encryption サービスによって提供されるすべての鍵循環機能にアクセスできます。鍵ごとに除外できるため、いつでもデフォルトの BYOK サービスを使用することもできます。デフォルトのサービスは、アップロードされた鍵素材を主秘密と組み合わせて、一意のデータ暗号化鍵を派生します。除外すると、Shield 鍵管理サービスでデータの暗号化と復号化に使用する完全なデータ暗号化鍵をアップロードできます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

**対象ユーザ:** 鍵派生を除外するには、「暗号化鍵の管理」権限が必要です。

**方法:** この機能を有効にするには、Salesforce に連絡してください。その後、[設定] の [プラットフォームの暗号化] の [高度な設定] ページで、[BYOK による鍵派生の除外を許可] を有効にします。これで、鍵素材をアップロードするときに [Salesforce 鍵派生を使用] オプションを選択または選択解除できます。API を使用して鍵をアップロードする場合、鍵ごとに除外することもできます。

関連トピック:

[変更されたオブジェクト](#)

## イベント監視:1時間ごとのイベントログ、継続コールアウトサマリーイベント種別、Lightning イベント種別のデータの追加

1時間ごとのイベントログが正式リリースされ、ほぼリアルタイムに組織のアクティビティを確認できるようになりました。新しいイベント種別を使用することで、長時間の非同期コールアウトを監視できます。また、新しい Lightning イベント項目では、Lightning でのユーザアクティビティについての詳細が提供されます。

このセクションの内容:

### 1時間ごとのイベントログ取得によるアクティビティの可視性の改善(正式リリース)

アクティビティの 24 時間後のイベントログファイルに加えて、最近のアクティビティの 1 時間ごとのイベントログファイルを受信できるようになりました。1時間ごとのイベントログファイルは直近のデータが提供され、セキュリティの異常やカスタムコードのパフォーマンスの問題をすばやく確認できます。

### イベントログファイルでの非同期コールアウトのパフォーマンスの測定

EventLogFile オブジェクトの継続コールアウトサマリーイベント種別には、トランザクション中に実行されたすべての非同期コールアウト、その応答状況コード、実行時間、URL エンドポイントが取得されます。非同期コールアウトは、Visualforce ページから実行され、Visualforce ページにコールバックメソッドで応答が返されるコールアウトです。非同期コールアウトは、継続とも呼ばれます。

### イベントログファイルを使用した外部のオブジェクトデータコールアウトの追跡(正式リリース)

外部システムへの Salesforce Connect コールアウトを追跡するために追加および更新していた項目が正式リリースされました。クエリ操作なのか、書き込み操作なのか、コールがいつ発生したのか、どのユーザが外部データにアクセスしたのかをコールアウトごとに確認できます。

### 新しい項目による Lightning Experience のユーザアクションのより包括的な追跡

Lightning Experience と Salesforce アプリケーションでのユーザの行動をより正確に把握できるように、Lightning エラー、Lightning インタラクション、Lightning ページビューの各イベント種別に新しい項目が追加されました。項目の詳細は、「変更されたオブジェクト」の「EventLogFile」を参照してください。

### API イベント種別のクエリ項目の廃止

データ保護を強化するため、EventLogFile 標準オブジェクトの API イベント種別で QUERY 項目を廃止しました。

### 安全でない外部アセットイベント種別への一意の ID 項目の追加

安全でない外部アセットのデバッグを容易にするため、UNIQUE\_ID 項目を EventLogFile 標準オブジェクトの [安全でない外部アセット] イベント種別に追加しました。UNIQUE\_ID は、安全でない外部アセットイベントデータが見つかったイベントログファイルのランダムな 32 文字の ID です。

### ログインタイムアウトのユーザ向けのわかりやすい表示

ログインセキュリティポリシー要求を十分に速く処理できない場合、ログインの試行はブロックされます。ユーザはログインページにリダイレクトされるようになりました。これにより再試行できます。

### トランザクションセキュリティ Entity イベント種別のリソースオプションの更新

Entity イベント種別では、ClientBrowser、AuthSession、LoginIP リソースがサポートされなくなりました。これらのリソースはセキュリティポリシーのトリガを妨げる可能性があるため、[設定] および API から削除しました。これらのリソースを参照するセキュリティポリシーがある場合、該当するポリシーを更新してください。更新しない場合、ポリシーは定義済みアクションをトリガまたは実行できません。Entity イベント種別は、今後も認証プロバイダと Chatter リソースをサポートします。

### Event Monitoring Analytics アプリケーションの設定の新しい名称

他の Einstein Analytics アプリケーションは今後 [イベント監視] に統合される予定です。それに合わせて [設定] のオプションのテキストを変更しました。

## 1時間ごとのイベントログ取得によるアクティビティの可視性の改善 (正式リリース)


アクティビティの 24 時間後のイベントログファイルに加えて、最近のアクティビティの 1 時間ごとのイベントログファイルを受信できるようになりました。1 時間ごとのイベントログファイルは直近のデータが提供され、セキュリティの異常やカスタムコードのパフォーマンスの問題をすばやく確認できます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。1 時間ごとのファイルは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは Salesforce に連絡しないと使用できません。

**対象ユーザー:** 1 時間ごとのイベントログファイルをクエリまたは参照するには、「API の有効化」、「イベントログファイルを参照」、および「すべてのファイルの参照」権限が必要です。

**理由:** たとえば、ユーザーの異常な行動を監視するセキュリティアナリストであるとします。より頻繁にセキュリティシステムに更新情報を取り込むことで、1~2 日後ではなく数時間以内に不審なイベントを確認できます。

**方法:** 24 時間ごとのイベントログファイルのほかに、約 1 時間ごとのログファイルを自動的に受信します。1 時間ごとのイベントログファイルも、24 時間のログファイルと同じ方法で照会して取得しますが、[Interval (間隔)] 項目を [Hourly (1 時間ごと)] に設定する点が異なります。詳細は、『REST API 開発者ガイド』を参照してください。次の点に注意してください。

- Event Monitoring Analytics アプリケーションと 1 時間ごとのイベントログファイルのインテグレーションは、ベータ機能であり、リクエストにより提供されます。Event Monitoring Analytics アプリケーションで 1 時間ごとのイベントログファイルが有効化されると、1 日ごとのイベントログファイルデータは使用できなくなります。1 日ごとと 1 時間ごとのどちらのログファイルが使用されるかに関係なく、アプリケーションではデータが 1 日に 1 回更新されます。
-  **メモ:** Event Monitoring Analytics アプリケーションと 1 時間ごとのイベントログファイルのインテグレーションはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。
- イベント配信と最終処理時間によっては、イベントの発生時からログファイルでイベントが使用できるようになるまで 3~6 時間かかることが予想されます。ただし、これより長くかかることもあります。
- イベント送信に失敗して回復に時間がかかり過ぎる場合、ログファイルが少なくとも 1 回は必ず配信されるようにログファイルが再送信されます。その結果、潜在的なログファイルでイベントデータが重複することがあります。アプリケーションで潜在的なログファイルが使用されている場合は、重複しているイベント配信がアプリケーションで処理されることを確認します。

- Salesforce サイトの切り替え時、インスタンスの更新時、または計画外のシステム停止時にデータが失われる可能性があります。たとえば、Salesforce が本番組織インスタンスを移動した場合、イベントログファイルのデータにギャップが生じる可能性があります。Salesforce はイベントログファイルのデータの整合性を維持し、データ損失を回避するための商業的に合理的な努力を払っています。Salesforce がサイトの切り替えやインスタンスの更新を実行する場合、自動化プロセスを使用してイベントログを複製します。
- 1時間ごとのイベントログが提供され、短い間隔で組織のイベントを確認できます。ただし、特にサイトの切り替え時、インスタンスの更新時、または計画外のシステム停止時に、1時間ごとのイベントログファイルで一部のイベントログデータを取得できない可能性があります。完全なデータについては、1日ごとのログファイルを使用してください。

#### 関連トピック:

[REST API 開発者ガイド: 1時間ごとのイベントログファイルの生成\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## イベントログファイルでの非同期コールアウトのパフォーマンスの測定

EventLogFile オブジェクトの継続コールアウトサマリーイベント種別には、トランザクション中に実行されたすべての非同期コールアウト、その応答状況コード、実行時間、URL エンドポイントが取得されます。非同期コールアウトは、Visualforce ページから実行され、Visualforce ページにコールバックメソッドで応答が返されるコールアウトです。非同期コールアウトは、継続とも呼ばれます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

**理由:** たとえば、Apex 継続データを分析して、長時間の非同期コールアウトのパフォーマンス(または実行時間)を測定できます。

**方法:** お客様がイベント監視を使用している場合は、ユーザが長時間の非同期コールアウトを実行したときに、自動的に継続コールアウトサマリーイベントログデータが取得されます。

#### 関連トピック:

[Salesforce および Lightning Platform のオブジェクトリファレンス: 継続コールアウトサマリーイベント種別\(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

[Apex 開発者ガイド: Visualforce ページでの長時間コールアウトの実行](#)

## イベントログファイルを使用した外部のオブジェクトデータコールアウトの追跡(正式リリース)

外部システムへの Salesforce Connect コールアウトを追跡するために追加および更新していた項目が正式リリースされました。クエリ操作なのか、書き込み操作なのか、コールがいつ発生したのか、どのユーザが外部データにアクセスしたのかをコールアウトごとに確認できます。

**対象:** この変更は、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。有料オプションで使用可能なエディションは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition です。これらのイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

**理由:** 外部オブジェクトデータへの組織のアクセスの履歴アクティビティを監査できるようになりました。

方法: 外部組織間コールアウト、外部カスタム Apex コールアウト、外部 OData コールアウトイベント種別の新しい項目および更新された項目を使用します。詳細は「[変更されたオブジェクト](#)」の EventLogFile を参照してください。

#### 関連トピック:

- [Salesforce および Lightning Platform のオブジェクトリファレンス: 外部のクロス組織コールアウトイベント種別](#)
- [Salesforce および Lightning Platform のオブジェクトリファレンス: 外部のカスタム Apex コールアウトイベント種別](#)
- [Salesforce および Lightning Platform のオブジェクトリファレンス: 外部の OData コールアウトイベント種別](#)

## 新しい項目による Lightning Experience のユーザアクションのより包括的な追跡

Lightning Experience と Salesforce アプリケーションでのユーザの行動をより正確に把握できるように、Lightning エラー、Lightning インタラクション、Lightning ページビューの各イベント種別に新しい項目が追加されました。項目の詳細は、「[変更されたオブジェクト](#)」の「EventLogFile」を参照してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

理由: たとえば、ユーザの URL パスを表示できるようになり、これを解読することで、ユーザがいたページやそこで何を行っていたかを特定できます。別の例として、ユーザが Lightning Experience で参照またはダウンロードした具体的なレコード ID と種別を表示することができ、データ損失の調査に役立ちます。

方法: お客様がイベント監視を使用している場合は、ユーザが Lightning Experience または Salesforce アプリケーションで操作を行ったときに、イベントログデータに自動的にこれらの項目が取得されます。

#### 関連トピック:

- [Salesforce および Lightning Platform のオブジェクトリファレンス: Lightning エラーイベント種別 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)
- [Salesforce および Lightning Platform のオブジェクトリファレンス: Lightning インタラクションイベント種別 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)
- [Salesforce および Lightning Platform のオブジェクトリファレンス: Lightning ページビューイベント種別 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)
- [変更されたオブジェクト](#)

## API イベント種別のクエリ項目の廃止

データ保護を強化するため、EventLogFile 標準オブジェクトの API イベント種別で QUERY 項目を廃止しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

#### 関連トピック:

- [Salesforce および Lightning Platform のオブジェクトリファレンス: API イベント種別 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)
- [変更されたオブジェクト](#)

## 安全でない外部アセットイベント種別への一意の ID 項目の追加

安全でない外部アセットのデバッグを容易にするため、UNIQUE\_ID 項目を EventLogFile 標準オブジェクトの [安全でない外部アセット] イベント種別に追加しました。UNIQUE\_ID は、安全でない外部アセットイベントデータが見つかったイベントログファイルのランダムな 32 文字の ID です。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

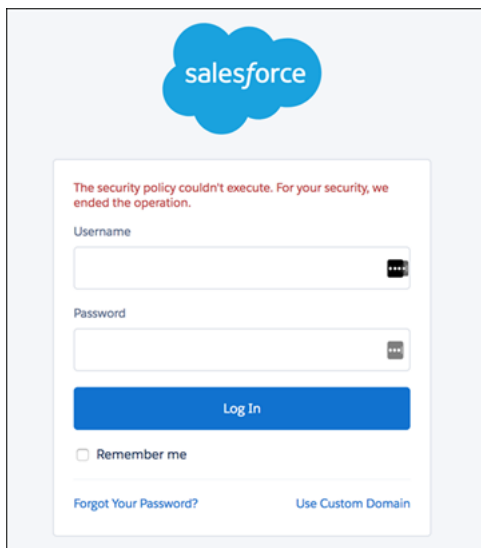
方法: UNIQUE\_ID は Salesforce カスタマーサポートが、発生した問題のトラブルシューティングを行うために使用します。

## ログインタイムアウトのユーザ向けのわかりやすい表示

ログインセキュリティポリシー要求を十分に速く処理できない場合、ログインの試行はブロックされます。ユーザはログインページにリダイレクトされるようになりました。これにより再試行できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

理由: システム全体で読み込みが調整されるように、ポリシーは測定されます。これまで、測定によってログインポリシーがブロックされた場合、ユーザのリダイレクト先はわかりにくいブラウザページでした。その点が改善されます。何が起こったのかをわかりやすく説明するメッセージがログインページでユーザに表示されるようになりました。



関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: トランザクションセキュリティの測定](#)

## トランザクションセキュリティ Entity イベント種別のリソースオプションの更新

Entity イベント種別では、ClientBrowser、AuthSession、LoginIP リソースがサポートされなくなりました。これらのリソースはセキュリティポリシーのトリガを妨げる可能性があるため、[設定] および API から削除しました。これらのリソースを参照するセキュリティポリシーがある場合、該当するポリシーを更新してください。更新しない場合、ポリシーは定義済みアクションをトリガまたは実行できません。Entity イベント種別は、今後も認証プロバイダと Chatter リソースをサポートします。

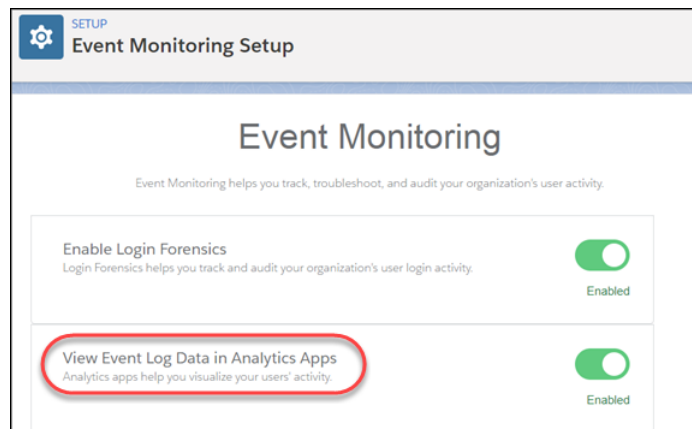
**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

## Event Monitoring Analytics アプリケーションの設定の新しい名称

他の Einstein Analytics アプリケーションは今後 [イベント監視] に統合される予定です。それに合わせて [設定] のオプションのテキストを変更しました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** [イベント監視] のユーザには、[イベント監視設定] ページで次のように表示されます。[設定] の [クイック検索] ボックスに「イベント監視」と入力し、[イベント監視設定] をクリックします。



### 関連トピック:

[Salesforce ヘルプ: Analytics および イベント監視の Analytics とのインテグレーションの有効化 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

[REST API 開発者ガイド: イベント監視の使用](#)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)



## セキュリティ状態チェック: 状態チェックグレードと新しい設定および変更された設定

状態チェックスコアの横にグレードが表示されるようになりました。セキュリティ状態チェックの設定が追加および変更されました。

このセクションの内容:

### 状態チェックのグレードによるセキュリティの評価

セキュリティ状態チェックでは、スコアに加えてグレードが表示され、組織の全体的なセキュリティ状況を従来よりも簡単に判断できるようになりました。常に100%を目指す必要はありません。グレードが「非常に良い」で十分な場合もあります。

### 状態チェックの新しいセキュリティ設定および変更されたセキュリティ設定

セキュリティを強化し、潜在的なリスクを判別しやすくするため、セキュリティ状態チェックに2つの設定を追加しました。また、ある1つの設定について、名称とリスクを変更しました。

## 状態チェックのグレードによるセキュリティの評価

セキュリティ状態チェックでは、スコアに加えてグレードが表示され、組織の全体的なセキュリティ状況を従来よりも簡単に判断できるようになりました。常に100%を目指す必要はありません。グレードが「非常に良い」で十分な場合もあります。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

**方法:** 状態チェックスコアの横にあるグレードを確認します。



スコアとグレードは次のように対応します。

- 90% 以上 = 非常に良い
- 80 ~ 89% = かなり良い
- 70 ~ 79% = 良い
- 55 ~ 69% = 悪い
- 54% 以下 = 非常に低い

## 状態チェックの新しいセキュリティ設定および変更されたセキュリティ設定

セキュリティを強化し、潜在的なリスクを判別しやすくするため、セキュリティ状態チェックに2つの設定を追加しました。また、ある1つの設定について、名称とリスクを変更しました。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

**方法:**

次の高リスク設定が追加されました。

- 期限切れの証明書の数

次の情報設定が追加されました。

- セキュアな接続 (HTTPS) が必要なデフォルトの force.com サブドメインを持つすべてのサイトおよびコミュニティの HSTS を有効化

[証明書有効期限] 設定が低リスクから情報に変更され、その名称が「有効期限までの日数」に変更されました。

**関連トピック:**

[Salesforce ヘルプ: カスタムベースラインファイルの要件 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

[Salesforce ヘルプ: \[状態チェック\] のスコアの計算方法 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります\)](#)

## その他のセキュリティの変更: 私のドメインとドメイン管理の改善

Salesforce カスタマーサポートに連絡せずにサブドメインの名前を変更できます。また、ドメインを提供する外部サービスプロバイダを使用している場合、[ドメイン管理] で CNAME を直接参照できます。

**このセクションの内容:**

### 必要に応じた私のドメインの名前の変更

既存の [私のドメイン] サブドメインを保有する場合、Salesforce カスタマーサポートに連絡せずに名前を変更できるようになりました。[私のドメイン] では自社ブランドを強調できることから、会社の名前やブランド戦略の変更時に簡単に変更できるようにしました。

### Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新)

この重要な更新により、URL からインスタンス名が削除されます。Spring '18 よりも前のリリースでは、Sandbox の [私のドメイン] URL に組織のインスタンス名が含まれていました。今回の更新後、Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が除外されます。

### Salesforce での外部ホスト名の値の指定

外部コンテンツ配信ネットワーク (CDN) プロバイダまたは独自のサーバを使用してカスタムドメインを提供する場合、Salesforce で直接参照できます。カスタムドメインを組織に追加すると、Salesforce も内部正規名 (CNAME) を作成します。そのため、整合性があり、信頼できる、組織の固有 DNS エントリポイントを保有できます。内部 CNAME は外部ホスト名を参照します。

## 必要に応じた私のドメインの名前の変更


既存の [私のドメイン] サブドメインを保有する場合、Salesforce カスタマーサポートに連絡せずに名前を変更できるようになりました。[私のドメイン] では自社ブランドを強調できることから、会社の名前やブランド戦略の変更時に簡単に変更できるようにしました。

**対象:** この変更は、Developer Edition を除くすべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**対象ユーザー:** [私のドメイン] の名前変更は、トライアル組織および Sandbox 組織では実行できません。

**方法:**

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「私のドメイン」と入力し、[私のドメイン] を選択します。
2. [私のドメインの設定] で、[編集] を選択します。新しいドメイン名を入力します。
3. [使用可能か調べる] を選択し、ドメイン名を使用できる場合は [保存] を選択します。

 **メモ:** [私のドメイン] サブドメインの名前を変更した後すぐに、以前の [私のドメイン] が無効になります。ドメインを変更すると Salesforce ユーザーに一時的な中断が生じるため、通常の営業時間外に変更することをお勧めします。[私のドメイン] を変更する前に、ユーザーへのこの変更の連絡方法を検討します。

## Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新)

この重要な更新により、URL からインスタンス名が削除されます。Spring '18 よりも前のリリースでは、Sandbox の [私のドメイン] URL に組織のインスタンス名が含まれていました。今回の更新後、Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が除外されます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** 既存の Sandbox 組織がある場合、本番組織と各 Sandbox 組織で重要な更新を有効にします。この重要な更新を本番組織で有効にすると、新しい Sandbox 組織と更新対象の Sandbox 組織にのみその更新が適用されます。

## Salesforce での外部ホスト名の値の指定

外部コンテンツ配信ネットワーク (CDN) プロバイダまたは独自のサーバを使用してカスタムドメインを提供する場合、Salesforce で直接参照できます。カスタムドメインを組織に追加すると、Salesforce も内部正規名 (CNAME) を作成します。そのため、整合性があり、信頼できる、組織の固有 DNS エントリポイントを保有できます。内部 CNAME は外部ホスト名を参照します。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ドメイン」と入力し、[ドメイン] を選択します。外部ホストまたは CDN を使用する既存のドメインを追加または編集して、外部ホスト名を指定します。

# Salesforce IoT: トラッカーを使用したオーケストレーションの トラブルシューティングおよび活動ログを使用したオーケストレー ションの監視

Salesforce IoT Explorer Edition を使用して、接続デバイスからのイベントをほぼリアルタイムで処理し、顧客との有意義なインタラクションを作成します。このリリースには、新しいオーケストレーションの問題のトラブルシューティングに役立つ新しいトラッカー機能が含まれます。また、本番稼働中のオーケストレーションを監視するための活動ログも含まれており、すべてが適切に機能していることを確認できます。

このセクションの内容:

## 本番で有効化する前にトラッカーを使用してオーケストレーションをトラブルシューティング

オーケストレーションを有効化する前に、トラッカーを使用してオーケストレーションの問題を特定し、トラブルシューティングします。オーケストレーションの最近の活動およびイベントの詳細な履歴がキーごとにトラッカーにより提供されるため、問題の特定と修正ができます。ワークフローを検証できるため、処理ロジックが予定どおりに機能することを確認できます。


## 活動ログを使用したオーケストレーションの継続的なパフォーマンスの監視

本番でのオーケストレーションの監視と問題の解決に役立つように、活動ログはオーケストレーションのアクションとイベントに関する詳細なリストを提供します。このリストには、オーケストレーションインスタンスがエラー状態になったなどのイベントが含まれる可能性があります。また、オーケストレーションが有効化または無効化されたなど、さまざまな定期アクションが表示されます。たとえば、同じスイミングプールの温度を監視する2つのオーケストレーションがあるとします。この場合、すべての活動を追跡し、両方のオーケストレーションが適切に動作していることを確認し、問題が発生したときに問題を修正できます。

## 本番で有効化する前にトラッカーを使用してオーケストレーション をトラブルシューティング

オーケストレーションを有効化する前に、トラッカーを使用してオーケストレーションの問題を特定し、トラブルシューティングします。オーケストレーションの最近の活動およびイベントの詳細な履歴がキーごとにトラッカーにより提供されるため、問題の特定と修正ができます。ワークフローを検証できるため、処理ロジックが予定どおりに機能することを確認できます。

**対象:** この変更は Lightning Experience に適用されます。トラッカーは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で利用できます。

**方法:** トラッカーを設定するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに 「IoT」 と入力し、[オーケストレーション] を選択します。オーケストレーションを選択して、 をクリックします。キー値を入力して、[トラッカーを開始] をクリックします。

## 活動ログを使用したオーケストレーションの継続的なパフォーマンスの監視

本番でのオーケストレーションの監視と問題の解決に役立つように、活動ログはオーケストレーションのアクションとイベントに関する詳細なリストを提供します。このリストには、オーケストレーションインスタンスがエラー状態になったなどのイベントが含まれる可能性があります。また、オーケストレーションが有効化または無効化されたなど、さまざまな定期アクションが表示されます。たとえば、同じスイミングプールの温度を監視する2つのオーケストレーションがあるとします。この場合、すべての活動を追跡し、両方のオーケストレーションが適切に動作していることを確認し、問題が発生したときに問題を修正できます。

**対象:** この変更は Lightning Experience に適用されます。活動ログは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で利用できます。

**方法:** 活動ログにアクセスするには、[設定] から [クイック検索ボックス] に 「IoT」 と入力し、[活動ログ] を選択します。

## 開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

インテリジェンスが向上し、コンポーネントや API が新規追加および更新され、優れた開発ツールが導入されました。Lightning コンポーネント、Visualforce、または Apex を使用しても、あるいはお気に入りのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用しても、次の機能強化は、優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

[Lightning コンポーネント: ユーザレベルのデバッグモード、新しいナビゲーション API、コンポーネントライブラリの正規リリース](#)

組織の他のユーザの Salesforce のパフォーマンスに影響を与えることなく、個々のユーザに対してデバッグモードを有効にします。新しいナビゲーション API では、コンポーネントへの移動を詳細に制御できます。コンポーネントライブラリが正式にリリースされました。

[Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理](#)

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、独自のカスタム分類子をトレーニングして、あらゆる専門分野の画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

[Visualforce: Lightning Experience のスタイル設定とセキュリティ強化](#)

Visualforce を使用して、組織をカスタマイズするアプリケーションを開発します。このリリースでの変更は、Lightning Experience の外観を使用したアプリケーションの開発や、ページのセキュリティ強化に役立ちます。

[Apex](#)

switch ステートメント、レコードタイプの API 参照名をより簡単に取得できるメソッド、およびその他の機能強化が Apex で提供されるようになりました。

## メタデータ

APIバージョン43.0では、より多くのメタデータ型とToolingAPIオブジェクトにアクセスできます。組織データへのアクセス権が付与されなくても、ユーザがメタデータを変更できるようになります。カスタムメタデータレコードを使用して、複数の入力規則の共有値を一度に更新できます。メタデータAPIを使用してカスタムメタデータ型リストビューを取得できます。

### API

APIバージョン43.0では、使いやすく、強力で安全なアプリケーションプログラムインターフェースを使用して組織のより多くの情報にアクセスできます。

### デバッグ: 新しいデバッガ、更新されたデバッグログの形式と制限、フローとプロセスのログの変更

VS Code 向け Salesforce 拡張機能に、デバッグログを使用してデバッグセッションをシミュレーションする Apex Replay Debugger が含まれるようになりました。デバッグログの行にわずかな、ただし重要な変更が加えられました。大きなログを保存できるようになりましたが、すべてのユーザをサービスの低下から保護するために、制限がいくつか加えられました。フローとプロセスのログが一段と堅牢になりました。

### VS Code 向け Salesforce 拡張機能: 新しいデバッガ

毎週のリリースに加えられている機能強化のほか、VS Code v43 向け Salesforce 拡張機能には重要な機能強化である Apex Replay Debugger が含まれています。この機能は、2018年6月9日の VS Code v43 向け Salesforce 拡張機能のリリース時に使用可能になります。

### Salesforce CLI: プラグイン開発サポート、合理化されたパッケージ化コマンド、拡張されたデバッグログ

Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) を使用することで、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクル全体の制御が容易になります。この新機能および変更された機能は、2018年6月9日に Salesforce CLI v43 がリリースされた時点で使用できます。

### スクラッチ組織: 使用可能な新機能

スクラッチ組織の新機能がいくつか提供されています。

### エンタープライズメッセージング: プラットフォームイベントの Apex テストの機能強化、大規模プラットフォームイベント (パイロット)、および変更データキャプチャ (パイロット)

イベントを使用すると、ビジネスシステム間の通信が簡略化されます。このリリースには、フローおよびプロセスイベント登録者の Apex テストサポートと、テストイベントのオンデマンド配信が含まれます。大規模プラットフォームイベントで数百万件のイベントを効率よく配信できます。変更データキャプチャを使用して Salesforce レコードを外部システムに複製できます。

### パッケージ化: パートナー以外もパッケージ化する時代へ

パッケージには、バージョン管理された配信可能なアーティファクトを対象に、そのライフサイクルの各フェーズ間で追跡している変更がすべてカプセル化されます。第一世代および第二世代のパッケージを作成できます。

### ISVforce: AppExchange 公開環境の改善

ISVforce ツールを使用して AppExchange でアプリケーション、Lightning コンポーネント、およびその他のソリューションを配布します。Lightning Bolt ソリューションの公開時の柔軟性が向上し、カスタムアプリケーション、プロセスフロー、コミュニティテンプレート、ページがサポートされるようになりました。公開コンソールを使用して、ソリューションのロゴとタイル画像をマーケティングチームと共有します。

## Lightning コンポーネント: ユーザレベルのデバッグモード、新しいナビゲーション API、コンポーネントライブラリの正規リリース

組織の他のユーザの Salesforce のパフォーマンスに影響を与えることなく、個々のユーザに対してデバッグモードを有効にします。新しいナビゲーション API では、コンポーネントへの移動を詳細に制御できます。コンポーネントライブラリが正式にリリースされました。

詳細は、『[Lightning コンポーネント開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

### 重要な更新「暗黙的な共有を行う @AuraEnabled Apex コントローラに対して without sharing を使用」の延期

この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Summer '18 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '19 に延期されました。

### 必要なユーザにのみデバッグモードを有効化

Lightning コンポーネント JavaScript コードをデバッグするときに、組織の他のユーザの Salesforce のパフォーマンスに影響を与えることなく、積極的にデバッグするユーザに対してのみデバッグモードを有効にします。Salesforce は、デバッグモードで実行されているときにパフォーマンスが低下します。他のユーザからの苦情を心配することなく、気づかれることさえなく、本番環境でのみ発生する問題をデバッグできるようになりました。

### Lightning コンポーネントの新しい Lightning ナビゲーション API

`lightning:isUrlAddressable` インターフェースを使用して、プログラムで開くことができる Lightning コンポーネントを制御するようになりました。 `v.pageReference` 属性を使用して URL パラメータを取得し、そのパラメータ値をコンポーネントで使用できるようになりました。 `lightning:navigation` コンポーネントでは、 `lightning:isUrlAddressable` を実装するカスタムコンポーネントに移動するための `pageReference` オブジェクトを定義し、コンポーネントで許可される属性を設定します。

### Lightning コンポーネントライブラリの正式リリース

開発者ガイドとコンポーネントライブラリを行ったり来たりするのに疲れていませんか?参照ドキュメントの信頼できる情報源が1つにまとまりました。コンポーネント、インターフェース、イベントに関する必要なドキュメントは、コンポーネントライブラリを参照してください。この情報は、『Lightning コンポーネント開発者ガイド』から削除されました。システムタグの参照ドキュメントは『Lightning コンポーネント開発者ガイド』で引き続き参照できます。

### コンポーネントの CSS クラス名の更新

Lightning コンポーネントで使用される CSS クラス名は、Salesforce Lightning Design System (SLDS) が現在使用している BEM (Block-Element-Modifier: ブロック-要素-修飾子) 表記に合わせて変更されました。この変更は、組織のカスタムコンポーネントに影響する可能性があります。

### `slds-form_inline` スタイルの削除

`slds-form_inline` (以前の `slds-form--inline`) スタイルが削除されました。このスタイルが適用されると、要素の幅を変更できなくなります。 `slds-form_inline` または `slds-form--inline` は削除されたため、CSS でこのスタイルを使用すると問題が発生します。

### Lightning コンテナコンポーネントのセキュリティの新たな機能強化

<lightning:container> コンポーネントでは、コンポーネントの名前空間がその静的リソースの名前空間と一致するかどうかを確認されます。また、未加工の <iframe> 要素が使用されないようにする確認トークンも生成します。

### Locker Service の変更

Locker Service アーキテクチャレイヤでは、個々の Lightning コンポーネントが各自のコンテナで分離され、適切なコーディングプラクティスが適用されるため、セキュリティが向上します。このフレームワークでは、コンテンツセキュリティポリシー (CSP) を使用して、ページに読み込むコンテンツのソースを制御します。Locker Service の互換性は、このリリースで改善されています。

### サーバから Blob を返すときに汎用エラーが発生しない

Blob を返すと、デバッグが困難な汎用エラーが発生することがよくありました。Blob は文字列「Blob (sizeofBlobInBytes)」を返すようになりました。クライアントで実際の Blob コンテンツにアクセスするには、代わりに JSON 逐次化が可能な型 (文字列や整数など) として値を返します。クライアントでは、返された値を目的のデータ構造に JavaScript で変換できます。

### 新規追加または変更された Lightning コンポーネント

さまざまな新しいコンポーネントを使用することで、すばやくユーザインターフェースを構築できます。

### 新規追加または変更された Lightning イベント

Lightning イベントはコンポーネント間のコミュニケーションを容易にし、アプリケーションのインタラクションを向上させます。

### 新規追加または変更された Lightning インターフェース

Lightning インターフェースを使用すると、コンポーネントをさまざまなコンテキストで使用したり、コンポーネントで追加のコンテキストデータを受信したりできます。

### 非推奨になった JavaScript API メソッド

AuraLocalizationService の次のメソッドが非推奨になりました。

## 重要な更新「暗黙的な共有を行う @AuraEnabled Apex コントローラに対して without sharing を使用」の延期

この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Summer '18 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '19 に延期されました。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

### 関連トピック:

[Spring '18 リリースノート: 暗黙的な共有を行う @AuraEnabled Apex コントローラに対して without sharing を使用 \(重要な更新\)](#)



## 必要なユーザにのみデバッグモードを有効化

Lightning コンポーネント JavaScript コードをデバッグするときに、組織の他のユーザの Salesforce のパフォーマンスに影響を与えることなく、積極的にデバッグするユーザに対してのみデバッグモードを有効にします。

Salesforce は、デバッグモードで実行されているときにパフォーマンスが低下します。他のユーザからの苦情を心配することなく、気づかれることさえなく、本番環境でのみ発生する問題をデバッグできるようになりました。

**対象:** この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

**対象ユーザ:** すべての Salesforce ユーザがデバッグモードを自分で有効にできます。Salesforce システム管理者と、Lightning コンポーネントへのアクセス権を持つ開発者は、デバッグ作業を行う組織のユーザに対して、必要に応じてデバッグモードを有効にできます。

以前のリリースでは、デバッグモードは組織全体の設定でした。1人のユーザの問題をトラブルシューティングする場合、組織全体をデバッグモードで実行する必要がありました。この理由により、デバッグモードは Developer Edition と Sandbox 組織でのみ使用することをお勧めしていました。

このリリースでは、組織の他のユーザの Salesforce のパフォーマンスに影響を与えることなく、個々のユーザに対してデバッグモードを有効にできます。この変更により、他のユーザからの苦情を心配することなく、気づかれることさえなく、本番環境でのみ発生する問題をデバッグできます。

**方法:** 組織のユーザに対してデバッグモードを有効にするには、[設定] で新しい [デバッグモードのユーザ] ページに移動します。リストで関連するユーザを見つけて、そのユーザの名前の横にあるチェックボックスをオンにして、[有効化] をクリックします。デバッグをオフにするには、[無効化] をクリックします。

**SETUP**  
User Debug Mode

**User Debug Mode** Help for this Page

Enable debug mode to make it easier to debug JavaScript code.

View: All Create New View

A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L | M | N | O | P | Q | R | S | T | U | V | W | X | Y | Z | Other | **All**

<input type="checkbox"/>	Full Name ↑	Debug Mode	Alias	Username	Last Login	Role	Profile
<input type="checkbox"/>	Chatter Expert	<input type="checkbox"/>	Chatter	chatty.00drm0000005tv02ai.e628ifuqsbuu@chatter.salesforce.com			Chatter Free User
<input type="checkbox"/>	Jones, Mary	<input type="checkbox"/>	mjone	mjones@universalsamples.org			Standard User
<input type="checkbox"/>	Lime, Harry	<input checked="" type="checkbox"/>	HLime	malderete@universalsamples.org	3/7/2018, 1:39 PM		System Administrator

### 関連トピック:

[Lightning コンポーネント開発者ガイド: Lightning コンポーネントのデバッグモードの有効化](#)

## Lightning コンポーネントの新しい Lightning ナビゲーション API

`lightning:isUrlAddressable` インターフェースを使用して、プログラムで開くことができる Lightning コンポーネントを制御するようになりました。 `v.pageReference` 属性を使用して URL パラメータを取得し、そのパラメータ値をコンポーネントで使用できるようになりました。 `lightning:navigation` コンポーネントでは、 `lightning:isUrlAddressable` を実装するカスタムコンポーネントに移動するための `pageReference` オブジェクトを定義し、コンポーネントで許可される属性を設定します。

**対象:** この変更は、 Lightning Experience およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。これらのリソースは、 Visualforce の Lightning コンポーネント、 LightningOut、コミュニティなど、他のコンテナではサポートされていません。 Lightning Experience や Salesforce モバイルアプリケーション内でこれらのコンテナにアクセスする場合も同じです。


**理由:** 標準ナビゲーション Lightning アプリケーションで、 `lightning:navigation` コンポーネントを使用し、 `lightning:isUrlAddressable` を実装するカスタムコンポーネントに移動できます。

`lightning:navigation` と `pageReference` の併用は、現在は非推奨になっている標準 Lightning アプリケーションの `force:navigateToComponent` に比べて次の利点があります。

- コンポーネントをプログラムで開くことができるかどうか、コンポーネントが開かれたときにどの属性を動的に設定できるかを制御できる。
- コンポーネントで使用される URL パラメータを制御および管理する。
- アプリケーションの URL 形式の今後の変更に対応できる。
- これらのコンポーネントのわかりやすい URL を生成する。

ページ参照は、該当の種別のすべてのページに適用可能な一連の属性を提供する特定の種別に関連付けられます。次のデータ型がサポートされています。

- ナレッジ記事ページ
- Lightning コンポーネント (`lightning:isUrlAddressable` を実装する必要があります)
- 名前付きページ
- ナビゲーション項目ページ
- オブジェクトページ
- レコードページ
- レコードリレーションページ

 **メモ:** `lightning:isUrlAddressable` インターフェースを使用すると、 `force:navigateToComponent` で取得する Base-64 エンコードされたルートではなく、パターン `/cmp/componentName` を使用して、わかりやすい Lightning コンポーネント用 URL を生成できます。現在は非推奨になっている `force:navigateToComponent` の代わりに `lightning:isUrlAddressable` を使用することをお勧めします。

Lightning コンソールアプリケーションでは、ユーティリティからでも、 `openSubtab()` を介して `lightning:isUrlAddressable` を実装するカスタムコンポーネントを開くことができます。

「ワークスペースタブとサブタブでカスタム Lightning コンポーネントを開く」を参照してください。

関連トピック:

[Lightning コンポーネント開発者ガイド: pageReference の型](#)  
[新規追加または変更された Lightning イベント](#)

## Lightning コンポーネントライブラリの正式リリース

開発者ガイドとコンポーネントライブラリを行ったり来たりするのに疲れていませんか? 参照ドキュメントの信頼できる情報源が1つにまとまりました。コンポーネント、インターフェース、イベントに関する必要なドキュメントは、コンポーネントライブラリを参照してください。この情報は、『Lightning コンポーネント開発者ガイド』から削除されました。システムタグの参照ドキュメントは『Lightning コンポーネント開発者ガイド』で引き続き参照できます。

対象: コンポーネントライブラリは、[developer.salesforce.com/docs/component-library](https://developer.salesforce.com/docs/component-library)にあります。コンポーネントライブラリは、<https://<myDomain>.lightning.force.com/componentReference/suite.app>で、認証された環境として利用することもできます。<myDomain> はユーザのカスタム Salesforce ドメインの名前です。

<aura:component> のようなシステムタグなどについては、『Lightning コンポーネント開発者ガイド』([developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.lightning.meta/lightning/](https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.lightning.meta/lightning/))を参照してください。

Spring'18では、インターフェースの参照ドキュメントはコンポーネントライブラリで入手できることが発表されました。Summer'18では、イベントの参照ドキュメントもコンポーネントライブラリで入手できます。

## コンポーネントの CSS クラス名の更新

Lightning コンポーネントで使用される CSS クラス名は、Salesforce Lightning Design System (SLDS) が現在使用している BEM (Block-Element-Modifier: ブロック-要素-修飾子) 表記に合わせて変更されました。この変更は、組織のカスタムコンポーネントに影響する可能性があります。

対象: この変更は、名前にダブルダッシュが含まれる SLDS を実装する、コンポーネント固有の CSS があるカスタム Lightning コンポーネントに影響します。この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

理由: ダブルダッシュが含まれるクラス名は、ダブルダッシュの代わりにシングルアンダースコアが使用されるようになりました。たとえば、CSS クラス `slds-p-around--small` は `slds-p-around_small` になります。ダブルダッシュが含まれる SLDS クラスを参照するコンポーネント内にカスタム CSS を作成している場合、シングルアンダースコアを使用するようにセレクタを更新します。

関連トピック:

[Salesforce Lightning Design System FAQ](#)

## slds-form\_inline スタイルの削除

`slds-form_inline` (以前の `slds-form--inline`) スタイルが削除されました。このスタイルが適用されると、要素の幅を変更できなくなります。`slds-form_inline` または `slds-form--inline` は削除されたため、CSS でこのスタイルを使用すると問題が発生します。

**対象:** この変更は、label-hidden バリエーション (lightning:input、lightning:combobox、lightning:dualListbox、lightning:radioGroup、lightning:select、lightning:textarea) をサポートする Lightning コンポーネントに適用されます。このスタイルは label-hidden バリエーションの使用時に適用されなくなりましたが、コンポーネントの表示の違いに気付くことはほとんどありません。

**理由:** slds-form\_inline スタイルは、label-hidden バリエーションによって誤って適用されていました。このスタイルは、カスタムコンポーネントで直接使用されることを目的としていませんでしたが、コンポーネントの固定幅を設定するために使用されることがありました。代わりに、<https://lightningdesignsystem.com/utilities/sizing/> に記載されているスタイルを使用できます。

## Lightning コンテナコンポーネントのセキュリティの新たな機能強化

<lightning:container> コンポーネントでは、コンポーネントの名前空間がその静的リソースの名前空間と一致するかどうかを確認されます。また、未加工の <iframe> 要素が使用されないようにする確認トークンも生成します。

**対象:** この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**方法:** たとえば、<lightning:container> コンポーネントの名前空間が「vendor1」である場合、静的リソースの名前空間も「vendor1」である必要があります。名前空間が異なる場合、エラーメッセージが表示されません。

```
<aura:component>
  <lightning:container
    src="{!$Resource.vendor1__resource + '/code_belonging_to_vendor1'}"
    onmessage="{!c.vendor1__handles}"/>
</aura:component>
```

未加工の <iframe> 要素は、Lightning コンテナコンポーネントでは認められません。このルールは、ユーザーセッションごとに一意の ID を生成する、必須クエリパラメータ \_CONFIRMATIONTOKEN によって適用されません。<lightning:container> コンポーネントのリソース URL を作成するには、代わりに \$Resource グローバル値プロバイダを使用します。

```
<aura:component>
  <lightning:container
    src="{!$Resource.vendor2__resource + '/index.html' }"/>
</aura:component>
```

### 関連トピック:

[Lightning コンポーネント開発者ガイド: Lightning Container Component Security Requirements \(Lightning コンテナコンポーネントのセキュリティ要件\)](#)

## Locker Service の変更

Locker Service アーキテクチャレイヤでは、個々の Lightning コンポーネントが各自のコンテナで分離され、適切なコーディングプラクティスが適用されるため、セキュリティが向上します。このフレームワークでは、コンテンツセキュリティポリシー (CSP) を使用して、ページに読み込むコンテンツのソースを制御します。Locker Service の互換性は、このリリースで改善されています。

## eval() を使用可能

厳格な CSP が有効化されている場合であっても、eval() 関数を LockerService で使用できるようになりました。この追加により、コードを動的に評価するサードパーティライブラリのサポートが改善されます。

**制限:** LockerService では、eval() は常に名前空間のグローバルスコープ内で機能します。eval() 関数は、コールされたスコープ内のローカル変数にアクセスできません。通常、eval() には2つの実行モードがあります。eval() を直接呼び出すと、ローカルスコープで機能します。参照経由で呼び出すと、グローバルスコープで機能します。LockerService では後者のみがサポートされます。

たとえば、次のコードを実行するとします。

```

window.foo = 1;
function bar() {
  var foo = 2;
  return eval("foo");
}

```

bar() をコールすると、評価がローカルスコープで実行された場合は2が返され、グローバルスコープで実行された場合は1が返されます。ローカルスコープから変数を使用する必要がある場合は、コードをリファクタリングします。Function() を使用し、ローカル変数をパラメータとして宣言して引数として渡し、return ステートメントを追加します。

```

window.foo = 1;
function bar() {
  var foo = 2;
  return Function("foo", "return foo")(foo);
}

```

## パフォーマンスの最適化

LockerService 内でのコード実行が速くなりました。これは、新しい静的参照システムによって、ブラウザのジャストインタイムオプティマイザが実行を加速できるようになったためです。

## クリーンなデバッグ

これまで、LockerService ではコードを Sandbox 化するプロセスにより、コードの周囲にさまざまなラッパーが追加されていました。デバッグ中、こうしたラッパーが表示され、ユーザを混乱させていました。更新されたエンジンでは、ラッパーが不要になり、LockerService がオンかオフかに関係なく、コードは同じように表示されます。

## サーバから Blob を返すときに汎用エラーが発生しない

Blob を返すと、デバッグが困難な汎用エラーが発生することがよくありました。Blob は文字列

「Blob(sizeOfBlobInBytes)」を返すようになりました。クライアントで実際の Blob コンテンツにアクセスするには、代わりに JSON 逐次化が可能な型 (文字列や整数など) として値を返します。クライアントでは、返された値を目的のデータ構造に JavaScript で変換できます。

**対象:** この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

方法: サーバ側のコントローラから次の方法で Blob を返すことができます。

- ContentNote など、Blob オブジェクトを含むオブジェクトを返す
- Blob 項目を参照する SOQL クエリの結果を返す
- Blob 型の項目を含む Apex オブジェクトを返す

すべての場合で、返される値は、そのサイズを記述する文字列です。

## 新規追加または変更された Lightning コンポーネント

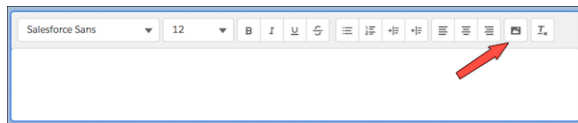
さまざまな新しいコンポーネントを使用することで、すばやくユーザインターフェースを構築できます。

### 新しいコンポーネント

次のコンポーネントは新規追加されたもので、API バージョン 43.0 以降が必要です。

#### lightning:insertImageButton

lightning:inputRichText リッチテキストエディタのツールバーに画像の挿入ボタンを追加します。このボタンでネイティブファイルブラウザが開き、アップロードする画像を選択してテキストエリアにインラインで画像を挿入できます。このコンポーネントは、lightning:inputRichText コンポーネント内のサブコンポーネントとしてのみ使用できます。




#### lightning:navigation

ページの種別、属性、状態を記述する、指定された pageReference オブジェクトの URL を生成します。詳細は、「[Lightning コンポーネントの新しい Lightning ナビゲーション API](#)」を参照してください。

#### lightning:navigationItemAPI

項目メニューにナビゲーション項目を表示する Lightning コンソールアプリケーションのナビゲーション項目をプログラムで制御する方法にアクセスできます。このコンポーネントでは、次の Lightning コンソール JavaScript API メソッドにアクセスできます。

- focusNavigationItem()
- getNavigationItems()
- getSelectedNavigationItem()
- refreshNavigationItem()

 **メモ:** このコンポーネントは、Salesforce Classic で利用可能な Salesforce コンソールインテグレーション ツールキットのいくつかの JavaScript API に似た機能を提供します。

詳細は、「[Salesforce コンソール API](#)」を参照してください。

#### lightning:nextBestActions (パイロット)

おすすめ戦略を実行し、結果として作成された提案を表示します。各提案により画面フローが起動されます。詳細は、「[Einstein 次善アクション: 戦略を使用した提案アクションとオファー \(パイロット\)](#)」を参照してください。

**メモ:** Einstein 次善アクションは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Einstein 次善アクションは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Einstein 次善アクションについてのフィードバックと提案は、[IdeaExchange](#) からお寄せください。

### lightning:quickActionAPI

Lightning ページのクイックアクションでやりとりする方法にアクセスできます。このコンポーネントを使用して、Lightning クイックアクションの JavaScript API をコールします。このコンポーネントは、Salesforce Classic パブリッシャーの JavaScript API に似た機能を提供します。詳細は、「[Lightning クイックアクションおよび Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API](#)」を参照してください。

### lightning:recordForm

レコードを追加、表示、または更新するフォームの作成を合理化します。このコンポーネントでのレコードフォームの作成は、`lightning:recordEditForm` と `lightning:recordViewForm` を使用して手動で作成するよりも簡単です。mode 属性を `view`、`edit`、または `readonly` に設定して、フォームの種別を指定します。次のフォームは、レコードを追加するために `mode="edit"` を指定して作成されました。

### lightningsnapin:minimizedAPI

Snap-in チャットで最小化された Snap-in のユーザインターフェースのカスタマイズを有効にします。

### lightningsnapin:settingsAPI

Live Agent ボタン ID と Live Agent リリース ID にアクセスし、Snap-in チャットのカスタム事前チャットコンポーネントと最小化されたコンポーネントで使用できるようにします。

## 変更されたコンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

**lightning:container**

このコンポーネントは、その名前空間が静的リソースの名前空間と一致することを確認するようになりました。また、未加工の `<iframe>` 要素が使用されないようにする確認トークンも生成します。詳細は、「[Lightning コンテナコンポーネントの新しいセキュリティの機能強化](#)」を参照してください。

**lightning:datatable**

このコンポーネントは一括インライン編集をサポートするようになったため、複数のテーブルセル内のコンテンツを編集し、その変更を 1 ステップで保存できます。変更を適用する前に、複数の項目を更新するかどうかを確認されます。

列で、`cellAttributes` プロパティを使用した横方向の配置がサポートされるようになりました。

次の属性が新規追加されました。

- `errors` — セルレベル、行レベル、およびテーブルレベルのエラーに関する情報を含むオブジェクトを指定します。これに応じてエラーメッセージがテーブルに表示されます。
- `oncellchange` — インライン編集の後、セルの値が変更されたときにトリガされるアクション。`draftValues` オブジェクトを返します。
- `oncancel` — インライン編集中にテーブルフッターの [キャンセル] がクリックされたときにトリガされるアクション。
- `onsave` — インライン編集中にテーブルフッターの [保存] がクリックされたときにトリガされるアクション。`draftValues` オブジェクトを返します。

次の列プロパティが新規追加されました。

- `editable` — 列でインライン編集をサポートするかどうかを指定します。デフォルトは `false` です。

`type` 列プロパティの次の値が新規追加されました。

- `boolean` — Boolean データ型の列にチェックボックスを表示します。
- `date-local` — 日時項目ではなく、日付項目のみを表示します。

`cellAttributes` 列プロパティの次の属性が新規追加されました。

- `alignment` — 列内でデータを横方向に配置する場所を指定します。使用できる値は、`center`、`right`、または `left` です。

**lightning:flow**

`onstatuschange` 属性は `activeStages` および `currentStage` を返します。Spring '18 ではベータだったこれらの追加パラメータが正式リリースされました。

**lightning:icon**

<https://lightningdesignsystem.com/icons>にあるアイコンに加えて、独自のカスタムアイコンを使用できるようになりました。新しい `src` 属性を使用して、SVG スプライトなどのカスタムアイコンのリソースへのパスを指定します。たとえば、次のように指定できます。

```
src="path/to/customSvgSprite.svg#my-icon".
```

**lightning:input**

次の種別で Lightning Design System スタイル設定が実装されるようになりました。

- `color`
- `date`



- `datetime`
- `time`

`datetime` 入力種別で新しい `timezone` 属性がサポートされるため、Salesforce のタイムゾーン設定とは異なるタイムゾーンを指定できます。

#### **lightning:inputAddress**

次の属性が新規追加されました。

- `fieldLevelHelp` — 住所複合項目の目的と機能の詳細を説明するヘルプテキスト。

#### **lightning:inputName**

次の属性が新規追加されました。

- `fieldLevelHelp` — 名前複合項目の目的と機能の詳細を説明するヘルプテキスト。

#### **lightning:inputRichText**

このコンポーネントは、ブラウザウィンドウからコピーしたインライン画像のテキストエディタへの貼り付けをサポートするようになりました。macOS の Chrome と Safari では、デスクトップからコピーしたインライン画像を貼り付けることもできます。

すべてのプラットフォームで、新しい `lightning:insertImageButton` を子コンポーネントとして使用できます。このコンポーネントは、デスクトップから画像をアップロードできるボタンをエディタのツールバーに追加します。

次の属性が新規追加されました。

- `label` — リッチテキストエディタのテキスト表示ラベル。
- `labelVisible` — 表示ラベルが表示されるか、スクリーンリーダーのみで検出可能にするかを指定します。デフォルトは `false` です。

#### **lightning:tree**

次の属性が新規追加されました。

- `metatext` — ユーザに補足情報を提供し、識別および曖昧さ回避に役立つテキスト。

#### **lightning:utilityBarAPI**

このコンポーネントには新しいメソッドがあります。

- `onUtilityClick()` — ユーティリティのイベントハンドラを登録します。このイベントハンドラは、ユーティリティがクリックされるとコールされます。

詳細は、「[Salesforce コンソール API](#)」を参照してください。

#### **lightning:workspaceAPI**

このコンポーネントには新しいメソッドがあります。

- `refreshTab()` — `tabId` で指定されたワークスペースタブまたはサブタブを更新します。最初のサブタブの `tabId` は、ワークスペースタブと同じになります。
- `disableTabClose()` — ワークスペースタブまたはサブタブが閉じられないようにします。このメソッドは、タブまたはサブタブから [閉じる] ボタンを削除し、タブまたはサブタブを閉じるキーボードショートカットを無効にします。

詳細は、「[Salesforce コンソール API](#)」を参照してください。

## 新規追加または変更された Lightning イベント

Lightning イベントはコンポーネント間のコミュニケーションを容易にし、アプリケーションのインタラクションを向上させます。

### 新しいイベント

次のイベントが新規追加されました。

#### **forceCommunity: deflectionSignal**

`lightningcommunity: deflectionSignal` イベントは、コミュニティユーザが問題を解決するプロセスを実行しているときに起動され、問題を早期解決できる可能性があるデフレクション項目をユーザに表示します。たとえば、ユーザがコミュニティでケースを作成するフォームに入力しているときに、役に立つおすすすめ記事が表示されます。その記事が役立つことが証明された場合、コミュニティユーザはサポートケースを申請する必要がなくなります。このイベントは、Lightning コミュニティでのみ使用できます。

### 非推奨になったイベント

これらのアプリケーションイベントはアプリケーションのコンポーネントごとに起動できます。コンポーネントがスタンドアロンアプリケーションで完全に独立した状態で実行されておらず、Lightning Experience や Salesforce モバイルアプリケーションなどの複雑なアプリケーションに含まれている場合、コンテナアプリケーションはイベントハンドラを複数回トリガすることがあります。この動作により、各イベントを適切に処理することが困難になります。

次のシステムイベントが非推奨になりました。

#### **aura: doneRendering**

代わりに、アプリケーションまたはコンポーネントで `render event` を使用します。

#### **aura: doneWaiting**

アクションが完了したことを判断するには、代わりにアクションのコールバック内の応答状況を使用します。

#### **aura: waiting**

このイベントを使用する代わりに、アクションをキューに配置した後にロジックを実行します。コンポーネントは、アクションのコールバックが呼び出されるまで、アクションの応答を待機します。

`force:navigateToComponent` イベントは非推奨になりました。このイベントはコンポーネントを base64 エンコードしますが、これはクロスサイト攻撃を受けやすくなります。代わりに、ターゲットコンポーネントに `lightning:isUrlAddressable` インターフェースを実装し、`standard__component` ページ種別で `lightning:navigation` コンポーネントを使用してそのコンポーネントに移動します。このプロセスでは、`/cmp/{componentName}?myAttr=attrValue` 形式のルートが生成されます。このワークフローは、セキュリティ上の懸念を発生させることなくタブとサブタブ内でカスタムコンポーネントを開きます。

## 新規追加または変更された Lightning インターフェース

Lightning インターフェースを使用すると、コンポーネントをさまざまなコンテキストで使用したり、コンポーネントで追加のコンテキストデータを受信したりできます。

## 新しいインターフェース

次のインターフェースが新規追加されました。

### lightning:availableForFlowActions

コンポーネントのクライアント側コントローラをフロー内のアクションとして使用できるようにします。詳細は、「[フローでの Lightning コンポーネントを使用したローカルアクションの実行\(正式リリース\)](#)」を参照してください。

### lightning:hasPageReference

コンポーネントに `pageReference` オブジェクトを属性として含めることができます。このインターフェースは `lightning:isUrlAddressable` によって使用されます。

### lightning:isUrlAddressable

URL からコンポーネントに直接移動できるようにします。詳細は、「[Lightning コンポーネントの新しい Lightning ナビゲーション API](#)」を参照してください。

### lightningsnapin:minimizedUI

最小化されたときに Snap-in のカスタム Lightning ページコンポーネントとしてコンポーネントを使用できるようにします。Snap-in チャットでのみ使用できます。

## 非推奨になった JavaScript API メソッド

`AuraLocalizationService` の次のメソッドが非推奨になりました。

- `getLocalizedDateTimeLabels()`
- `isPeriodTimeView()`
- `toISOString()`

## Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、独自のカスタム分類子をトレーニングして、あらゆる専門分野の画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

このセクションの内容:

### 無料の予測が 2 倍に増加

無料サービスに、カレンダー月あたり 2,000 件の予測が含まれるようになりました (1,000 件から増加)。予測は、Einstein Vision と Einstein Language で同じように使用できます。

### Einstein プラットフォームサービスの非公開鍵のリセット

Einstein アカウントにサインアップすると、`.pem` ファイルの形式で非公開鍵を取得できます。この鍵は、API コールを実行するために必要なアクセストークンを生成するために使用します。ただし、アクシデントが起こることはあるものです。非公開鍵を失った場合は、新しいものを要求できます。

### 更新トークンを使用したアクセストークンの生成

非公開鍵の代わりに更新トークンを使用してアクセストークンを生成できます。更新トークンは、有効期限のない JWT トークンです。更新トークンを使用して、認証された API コールを実行することはできません。

### Einstein Vision: 画像データセットと画像モデルの削除

Einstein Vision では、AI の力を利用して深層学習モデルをトレーニングし、大規模な画像を認識および分類することが可能です。事前にトレーニングされた分類子を活用するか、独自のカスタム分類子をトレーニングして、固有の使用事例を解決します。

### Einstein Language: テキストデータセットとテキストモデルの削除

Einstein Language API を使用して、アプリケーションの自然言語処理を作成し、テキスト内の強力なインサイトを得ます。Language API には、Einstein Intent API と Einstein Sentiment API が含まれます。

## 無料の予測が 2 倍に増加

無料サービスに、カレンダー月あたり 2,000 件の予測が含まれるようになりました (1,000 件から増加)。予測は、Einstein Vision と Einstein Language で同じように使用できます。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

### 関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Rate Limits \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: レート制限\)](#)

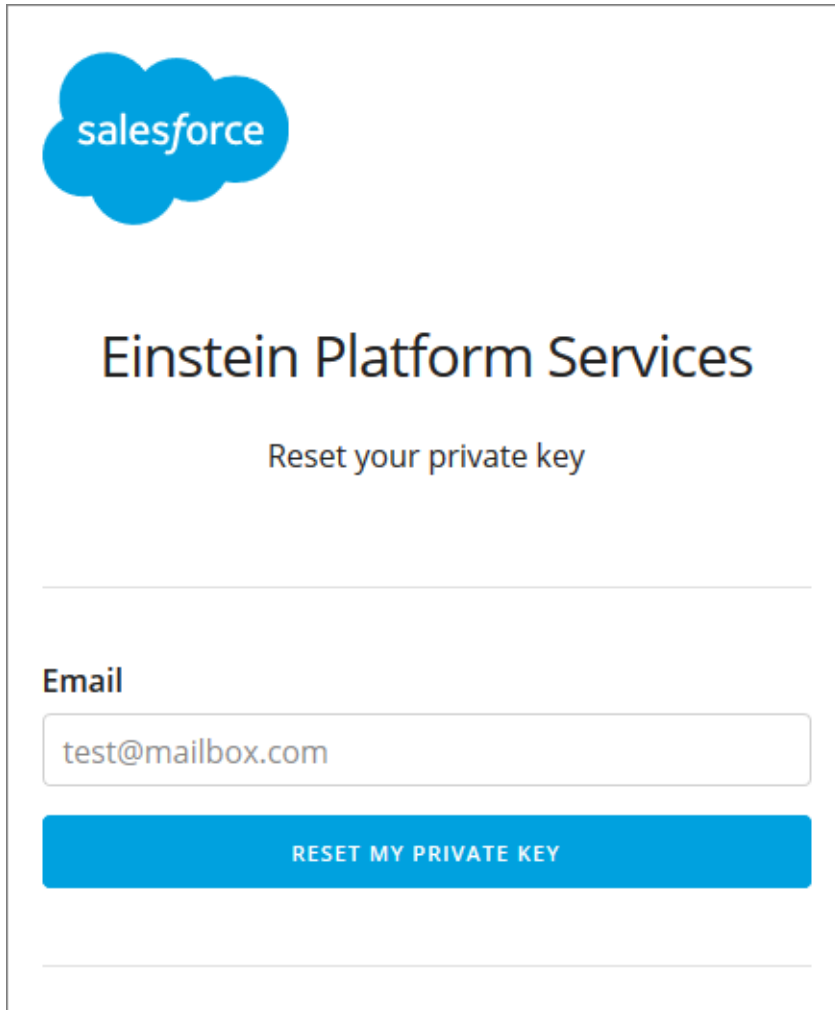
[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## Einstein プラットフォームサービスの非公開鍵のリセット

Einstein アカウントにサインアップすると、.pem ファイルの形式で非公開鍵を取得できます。この鍵は、API コールを実行するために必要なアクセストークンを生成するために使用します。ただし、アクシデントが起こることはあるものです。非公開鍵を失った場合は、新しいものを要求できます。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**方法:** リセットページ (<https://api.einstein.ai/reset>) に移動します。Einstein プラットフォームサービスのアカウントに関連付けられているメールアドレスを入力し、手順に従います。



salesforce

## Einstein Platform Services

Reset your private key

---

Email

RESET MY PRIVATE KEY

鍵をリセットすると新しい鍵が生成されますが、データセットとモデルには引き続きアクセスできます。ただし、以前の鍵は機能しなくなります。

関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Reset Your Private Key \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 非公開鍵のリセット\)](#)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## 更新トークンを使用したアクセストークンの生成

非公開鍵の代わりに更新トークンを使用してアクセストークンを生成できます。更新トークンは、有効期限のない JWT トークンです。更新トークンを使用して、認証された API コールを実行することはできません。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: モバイルアプリケーションなど、アプリケーションが非公開鍵にアクセスできない場合に更新トークンを使用します。サードパーティシステムは、非公開鍵を使用して更新トークンを生成し、それをモバイルアプリケーションに提供できます。アプリケーションは、更新トークンを使用してアクセストークンを生成し、それを使用して Einstein Platform Services API へのコールを実行します。

方法: 更新トークンを使用してアクセストークンを取得するには、まず、.pem ファイルに含まれた非公開鍵を使用して更新トークンを取得する必要があります。次に、更新トークンを使用してアクセストークンを生成します。更新トークンを取得するプロセスは次のとおりです。

- 非公開鍵を読み込みます。
- JWT ペイロードを作成します。JWT ペイロードは次の JSON のようになります。

```
{
  "sub": "<EMAIL_ADDRESS>",
  "aud": "https://api.einstein.ai/v2/oauth2/token",
  "exp": <EXPIRATION_SECONDS_IN_UNIX_TIME>
}
```

- 非公開鍵を使用して JWT ペイロードに署名し、アサーションを生成します。
- API をコールし、アサーション文字列と `scope=offline` パラメータを渡します。cURL を使用した例を次に示します。

```
curl -H "Content-type: application/x-www-form-urlencoded" -X POST
https://api.einstein.ai/v2/oauth2/token -d
"grant_type=urn:ietf:params:oauth:grant-type:jwt-bearer&assertion=<ASSERTION_STRING>&scope=offline"
```

- このコールでは、次の JSON のような応答が返されます。トークン値は、読みやすくするために簡略化しています。

```
{
  "access_token": "SPFPQ5IBLB6DPE6FKPWHMIWW4MCRICX4M4KQ...",
  "refresh_token": "FL4GSVQS4W5CKSFVRVZBLPIVZZJ2K4VIFPLG...",
  "token_type": "Bearer",
  "expires_in": "120"
}
```

これで更新トークンを取得したので、それを使用してアクセストークンを取得できます。/v2/oauth2/token エンドポイントをコールし、更新トークンと次のパラメータを渡します。

- `grant_type` — 文字列 `refresh_token` を指定します。
- `refresh_token` — 作成した更新トークン。
- `valid_for` — アクセストークンの有効期限が切れるまでの秒数。デフォルト値は 60 秒です。最大値は 2592000 秒 (30 日) です。

cURL コール例を次に示します。更新トークンは簡略化しています。

```
curl -H "Content-type: application/x-www-form-urlencoded" -X POST
https://api.einstein.ai/v2/oauth2/token -d
"grant_type=refresh_token&refresh_token=FL4GSVQS4W5CKSFVRVZBLPIVZZJ2K4VIFPLGZ45SJ...&valid_for=60"
```

応答は、次の JSON のようになります。

```
{
  "access_token": "LA5JPHC6J2FOVPXVU36HW7WUF3GNNZC5PINC6NX272CEFCWGQNIBB...",
  "token_type": "Bearer",
  "expires_in": "60"
}
```

関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Generate an OAuth Token Using a Refresh Token \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 更新トークンを使用した OAuth トークンの生成\)](#)

[Einstein Platform Services Developer Guide: Generate an OAuth Token \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: OAuth トークンの生成\)](#)

[Einstein Platform Services Developer Guide: Generate an OAuth Access Token \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: OAuth アクセストークンの生成\)](#)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## Einstein Vision: 画像データセットと画像モデルの削除

Einstein Vision では、AI の力を利用して深層学習モデルをトレーニングし、大規模な画像を認識および分類することが可能です。事前にトレーニングされた分類子を活用するか、独自のカスタム分類子をトレーニングして、固有の使用事例を解決します。

このセクションの内容:

### 画像データセットの削除によって返される状況コードと応答の変更

データセット削除の API コールを行い、正常にデータセットが削除された場合に 204 状況コードが返されなくなりました。代わりに、API は 200 状況コードを返します。この状況コードは、データセット削除応答が正常に受信され、削除はまだ完了していないことを示します。データセットを削除しても、関連付けられたモデルは削除されなくなりました。明示的にモデルを削除する必要があります。

### 明示的な削除による画像モデルの削除

データセットを削除しても、そのデータセットに関連付けられたモデルは削除されなくなりました。代わりに、次の新しい API エンドポイントを使用してモデルを削除します。

### 画像データセットまたはモデルの削除状況の取得

画像データセットまたはモデルを削除するときには、削除はすぐに行われません。データセットまたはモデルが削除されたかどうかを確認するには、次の新しい API エンドポイントを使用します。

関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Vision \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Vision の概要\)](#)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## 画像データセットの削除によって返される状況コードと応答の変更

データセット削除の API コールを行い、正常にデータセットが削除された場合に 204 状況コードが返されなくなりました。代わりに、API は 200 状況コードを返します。この状況コードは、データセット削除応答が正常に受信され、削除はまだ完了していないことを示します。データセットを削除しても、関連付けられたモデルは削除されなくなりました。明示的にモデルを削除する必要があります。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**方法:** 新しい状況コードに加えて、コールは削除 ID を含む JSON 応答を返します。この ID を使用して削除の状況を照会できます。応答は、次の JSON のようになります。

```
{
  "id": "Z2JTFFBF3A7XKIJC5QEJXMO4HSY",
  "organizationId": "108",
  "type": "DATASET",
  "status": "QUEUED",
  "progress": 0,
  "message": null,
  "object": "deletion",
  "deletedObjectId": "1003360"
}
```

### 関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Delete a Dataset \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの削除\)](#)

[Einstein Platform Services Developer Guide: Get Deletion Status \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 削除状況の取得\)](#)

## 明示的な削除による画像モデルの削除

データセットを削除しても、そのデータセットに関連付けられたモデルは削除されなくなりました。代わりに、次の新しい API エンドポイントを使用してモデルを削除します。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**方法:** 次の cURL コールはモデルを削除します。

```
curl -X DELETE -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache" -H "Content-Type: multipart/form-data" https://api.einstein.ai/v2/vision/models/<MODEL_ID>
```

応答は、次の JSON のようになります。

```
{
  "id": "2GAUJLAG3L5WFQE6GYTOM4O2IM",
  "organizationId": "108",
  "type": "MODEL",
  "status": "QUEUED",
}
```



```

    "progress": 0,
    "message": null,
    "object": "deletion",
    "deletedObjectId": "P3NDGNJFA5JG5J7RW54WUZDWGI"
  }

```

モデルを削除した後、id を使用して削除の状況を照会できます。

#### 関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Delete a Model \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: モデルの削除\)](#)

[Einstein Platform Services Developer Guide: Get Deletion Status \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 削除状況の取得\)](#)

## 画像データセットまたはモデルの削除状況の取得

画像データセットまたはモデルを削除するときには、削除はすぐに行われません。データセットまたはモデルが削除されたかどうかを確認するには、次の新しい API エンドポイントを使用します。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**方法:** 次の cURL コールは削除状況を取得します。データセットまたはモデルを削除するコールを実行すると、応答には id 項目が含まれています。<DELETION\_ID> の値をこの項目値に置き換えます。

```

curl -X GET -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache"
https://api.einstein.ai/v2/vision/deletion/<DELETION_ID>

```

応答は、次の JSON のようになります。

```

{
  "id": "C453RKMRAVUCXFJB4ZXGN3PKY4",
  "organizationId": "108",
  "type": "DATASET",
  "status": "SUCCEEDED",
  "progress": 1,
  "message": null,
  "object": "deletion",
  "deletedObjectId": "1003528"
}

```

有効な状況値は次のとおりです。

- QUEUED — オブジェクトの削除は開始されていません。
- RUNNING — オブジェクトの削除は実行中です。
- SUCCEEDED — オブジェクトの削除は完了しました。

- `SUCCEEDED_WAITING_FOR_CACHE_REMOVAL` — オブジェクトは削除されましたが、システムにキャッシュされている関連ファイルが削除されるまで最大 30 日かかる場合があります。

#### 関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Get Deletion Status](#) (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 削除状況の取得)

## Einstein Language: テキストデータセットとテキストモデルの削除

Einstein Language API を使用して、アプリケーションの自然言語処理を作成し、テキスト内の強力なインサイトを得ます。Language API には、Einstein Intent API と Einstein Sentiment API が含まれます。

#### このセクションの内容:

##### テキストデータセットの削除によって返される新しい状況コードと応答

データセット削除の API コールを行い、正常にデータセットが削除された場合に 204 状況コードが返されなくなりました。代わりに、API は 200 状況コードを返します。この状況コードは、データセット削除応答が正常に受信され、削除はまだ完了していないことを示します。データセットを削除しても、関連付けられたモデルは削除されなくなりました。明示的にモデルを削除する必要があります。

##### 明示的な削除によるテキストモデルの削除

データセットを削除しても、そのデータセットに関連付けられたモデルは削除されなくなりました。代わりに、次の新しい API エンドポイントを使用してモデルを削除します。

##### テキストデータセットまたはモデルの削除状況の取得

画像データセットまたはモデルを削除するとき、削除はすぐに行われません。データセットまたはモデルが削除されたかどうかを確認するには、次の新しい API エンドポイントを使用します。

#### 関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Language](#) (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Language の概要)

[Salesforce Einstein: 売上予測、ボット、Discovery のおすすめ、その他の優れた機能の強化](#)

## テキストデータセットの削除によって返される新しい状況コードと応答

データセット削除の API コールを行い、正常にデータセットが削除された場合に 204 状況コードが返されなくなりました。代わりに、API は 200 状況コードを返します。この状況コードは、データセット削除応答が正常に受信され、削除はまだ完了していないことを示します。データセットを削除しても、関連付けられたモデルは削除されなくなりました。明示的にモデルを削除する必要があります。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法:新しい状況コードに加えて、コールは削除IDを含むJSON応答を返します。このIDを使用して削除の状況を照会できます。応答は、次のJSONのようになります。

```
{
  "id": "S3C540PF3UMROLXCR2C3FZA3ZU",
  "organizationId": "108",
  "type": "DATASET",
  "status": "QUEUED",
  "progress": 0,
  "message": null,
  "object": "deletion",
  "deletedObjectId": "1000518"
}
```

関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Delete a Dataset \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの削除\)](#)

[Einstein Platform Services Developer Guide: Get Deletion Status \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 削除状況の取得\)](#)

## 明示的な削除によるテキストモデルの削除

データセットを削除しても、そのデータセットに関連付けられたモデルは削除されなくなりました。代わりに、次の新しいAPIエンドポイントを使用してモデルを削除します。

対象:この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、およびContact Manager EditionのLightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法:次のcURL コールはモデルを削除します。

```
curl -X DELETE -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache" -H
"Content-Type: multipart/form-data" https://api.einstein.ai/v2/language/models/<MODEL_ID>
```

応答は、次のJSONのようになります。

```
{
  "id": "FMEMQAUE3I2HHU5AS6RTTGNXKI",
  "organizationId": "108",
  "type": "MODEL",
  "status": "QUEUED",
  "progress": 0,
  "message": null,
  "object": "deletion",
  "deletedObjectId": "WEQ6PHPBGFYVX5C7QDP6XU3NXY"
}
```

モデルを削除した後、`id` を使用して削除の状況を照会できます。

関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Delete a Model \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: モデルの削除\)](#)

[Einstein Platform Services Developer Guide: Get Deletion Status \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 削除状況の取得\)](#)

## テキストデータセットまたはモデルの削除状況の取得

画像データセットまたはモデルを削除するとき、削除はすぐに行われません。データセットまたはモデルが削除されたかどうかを確認するには、次の新しい API エンドポイントを使用します。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**方法:** 次の cURL コールは削除状況を取得します。データセットまたはモデルを削除するコールを実行すると、応答には `id` 項目が含まれています。<DELETION\_ID> の値をこの項目値に置き換えます。

```
curl -X GET -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache"
https://api.einstein.ai/v2/language/deletion/<DELETION_ID>
```

応答は、次の JSON のようになります。

```
{
  "id": "FMEMQAUE3I2HHU5AS6RTTGNXKI",
  "organizationId": "108",
  "type": "MODEL",
  "status": "SUCCEEDED_WAITING_FOR_CACHE_REMOVAL",
  "progress": 1,
  "message": "The model WEQ6PHPBGFYVX5C7QDP6XU3NXY has been deleted. It may take up to
an additional 30 days to delete some related files cached in the system",
  "object": "deletion",
  "deletedObjectId": "WEQ6PHPBGFYVX5C7QDP6XU3NXY"
}
```

有効な状況値は次のとおりです。

- QUEUED — オブジェクトの削除は開始されていません。
- RUNNING — オブジェクトの削除は実行中です。
- SUCCEEDED — オブジェクトの削除は完了しました。
- SUCCEEDED\_WAITING\_FOR\_CACHE\_REMOVAL — オブジェクトは削除されましたが、システムにキャッシュされている関連ファイルが削除されるまで最大 30 日かかる場合があります。

関連トピック:

[Einstein Platform Services Developer Guide: Get Deletion Status \(Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 削除状況の取得\)](#)

## Visualforce: Lightning Experience のスタイル設定とセキュリティ強化

Visualforce を使用して、組織をカスタマイズするアプリケーションを開発します。このリリースでの変更は、Lightning Experience の外観を使用したアプリケーションの開発や、ページのセキュリティ強化に役立ちます。これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、『[Visualforce 開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

### [Visualforce ページへの Lightning Experience スタイルシートの適用 \(正式リリース\)](#)

朗報です! Winter '18 で導入された Lightning Experience スタイルシート機能が正式リリースされました。Lightning Experience または Salesforce アプリケーションに表示される Visualforce ページに、Lightning Experience のスタイルを設定します。ページを Salesforce Classic に表示するときは、この属性によってスタイルが変更されることはありません。

### [Lightning Experience スタイルシートの更新](#)

Visualforce ページの <body> 要素では、<apex:page> タグで `lightningStylesheets="true"` の場合に CSS 範囲指定クラス `slds-vf-scope` が含まれるようになります。範囲指定クラスは、コンテンツと Lightning Experience UI を照合します。 `lightningStylesheets` 属性が `true` に設定されている場合、 `standardStylesheets` 属性が上書きされます。

### [Lightning Experience スタイルシートでのカスタムテーマのサポート](#)

`lightningStylesheets` 属性では、組織のテーマを Visualforce ページに組み込むことができます。Salesforce の組み込みテーマまたは独自に作成したカスタムテーマを使用して、ページにスタイルを設定します。

### [JavaScript でユーザーに表示する Salesforce テーマをすばやく識別](#)

ページやアプリケーションで多数の JavaScript を使用する場合、Salesforce ユーザーエクスペリエンスを特定すると、JavaScript コードでのナビゲーションが管理しやすくなります。これまでは Salesforce テーマを検出するために、複数のステップとユーティリティ関数が必要でした。合理化されたプロセスでは、 `UITheme.getUITheme()` という新しい関数を 1 つ使用します。

### [Salesforce Classic コンソールでの Visualforce ページのクリックジャック保護の有効化](#)

Salesforce Health Cloud などの Salesforce Classic コンソールで、Visualforce との問題によりクリックジャック保護を無効にしていた場合、Visualforce ページのクリックジャック保護を有効にします。以前は、Salesforce Classic コンソールで Visualforce ページを使用するには、すべての Visualforce ページのクリックジャック保護を無効にする必要がありました。

## Visualforce ページへの Lightning Experience スタイルシートの適用 (正式リリース)

朗報です! Winter '18 で導入された Lightning Experience スタイルシート機能が正式リリースされました。Lightning Experience または Salesforce アプリケーションに表示される Visualforce ページに、Lightning Experience のスタイルを設定します。ページを Salesforce Classic に表示するときは、この属性によってスタイルが変更されることはありません。

対象: この機能は、Lightning Experience、およびすべてのエディションの Salesforce アプリケーションの全バージョンで使用できます。

方法: Visualforce ページにスタイルを設定するには、`<apex:page>` タグに `lightningStylesheets="true"` を設定します。

関連トピック:

[Lightning Experience スタイルシートでのカスタムテーマのサポート](#)

[Visualforce 開発者ガイド: Lightning Experience スタイルシートで既存の Visualforce ページをスタイル設定](#)

## Lightning Experience スタイルシートの更新

Visualforce ページの `<body>` 要素では、`<apex:page>` タグで `lightningStylesheets="true"` の場合に CSS 範囲指定クラス `slds-vf-scope` が含まれるようになります。範囲指定クラスは、コンテンツと Lightning Experience UI を照合します。 `lightningStylesheets` 属性が `true` に設定されている場合、 `standardStylesheets` 属性が上書きされます。

対象: この機能は、Lightning Experience、およびすべてのエディションの Salesforce アプリケーションの全バージョンで使用できます。

方法: `applyBodyTag` または `applyHtmlTag` を `false` に設定した場合、範囲指定クラス `slds-vf-scope` を手動で追加する必要があります。たとえば、次のように指定します。

```
<apex:page lightningStylesheets="true" applyHtmlTag="false" applyBodyTag="false">

<body class="slds-vf-scope">

    <!-- Your Lightning-styled Visualforce content -->

</body>

</apex:page>
```

関連トピック:

[Visualforce ページへの Lightning Experience スタイルシートの適用 \(正式リリース\)](#)

[Lightning Experience スタイルシートでのカスタムテーマのサポート](#)

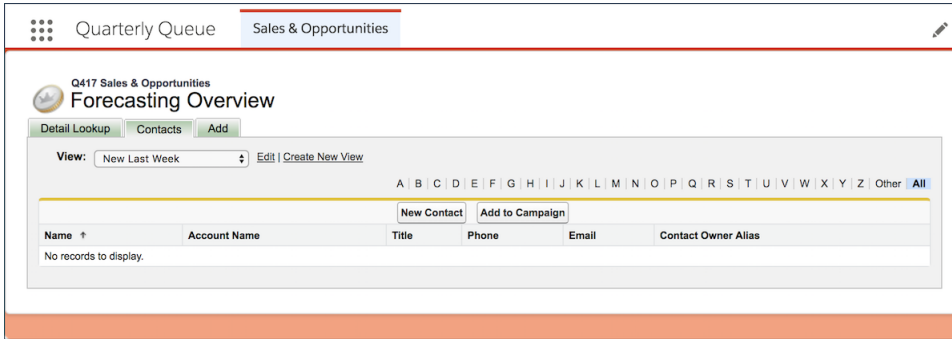
[Visualforce 開発者ガイド: Lightning Experience スタイルシートで既存の Visualforce ページをスタイル設定](#)

## Lightning Experience スタイルシートでのカスタムテーマのサポート

`lightningStylesheets` 属性では、組織のテーマを Visualforce ページに組み込むことができます。Salesforce の組み込みテーマまたは独自に作成したカスタムテーマを使用して、ページにスタイルを設定します。

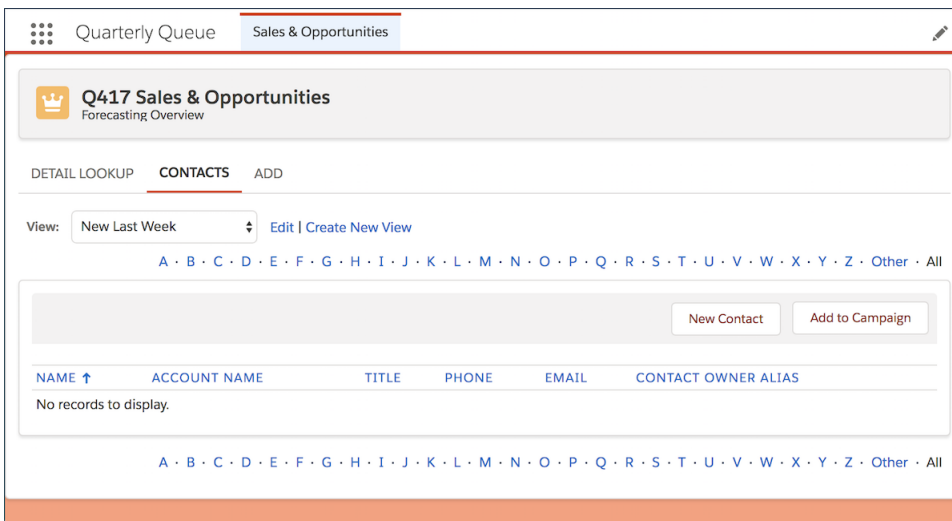
対象: この機能は、Lightning Experience、およびすべてのエディションの Salesforce アプリケーションの全バージョンで使用できます。

理由: テーマを使用することで、組織の特別なイベントと性質を称えることができます。Visualforce ページで組織のテーマ設定がサポートされることで、組織のすべてのページで一貫した感動が維持されます。Lightning Experience 内で使用する標準スタイルの Visualforce ページとカスタムテーマの例を次に示します。



これは機能しますが、あなたのテーマではないような...

lightningStylesheets に追加されたテーマのサポートによりで、すべてのページを飾り立てることができます。



コーディキャニオンの赤は今シーズンの流行の色です。

方法: テーマを設定するには、[設定] で、[クイック検索] ボックスに「テーマおよびブランド設定」と入力し、[テーマおよびブランド設定] を選択します。

代わりにテーマを選択するか、カスタムテーマを作成したら、そのテーマを Visualforce ページで使用できます。そのためには、<apex:page> タグで lightningStylesheets="true" を設定し、ページの API レベルを 43.0 以降に設定します。

関連トピック:

[Visualforce ページへの Lightning Experience スタイルシートの適用 \(正式リリース\)](#)

[Visualforce 開発者ガイド: Lightning Experience スタイルシートで既存の Visualforce ページをスタイル設定](#)

[Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での組織のブランド設定 \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## JavaScript でユーザに表示する Salesforce テーマをすばやく識別

ページやアプリケーションで多数の JavaScript を使用する場合、Salesforce ユーザエクスペリエンスを特定すると、JavaScript コードでのナビゲーションが管理しやすくなります。これまでは Salesforce テーマを検出するために、複数のステップとユーティリティ関数が必要でした。合理化されたプロセスでは、`UITheme.getUITheme()` という新しい関数を 1 つ使用します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: `UITheme.getUITheme()` では、現在のユーザのインターフェースのテーマを示す文字列が返されます。

```
function isLightningDesktop() {  
    return UITheme.getUITheme === "Theme4d";  
}
```

関連トピック:

[Visualforce 開発者ガイド: Determining the Salesforce Style That Users See in JavaScript \(JavaScript 内でユーザに表示する Salesforce スタイルの決定\)](#)


## Salesforce Classic コンソールでの Visualforce ページのクリックジャック保護の有効化

Salesforce Health Cloud などの Salesforce Classic コンソールで、Visualforce との問題によりクリックジャック保護を無効にしていた場合、Visualforce ページのクリックジャック保護を有効にします。以前は、Salesforce Classic コンソールで Visualforce ページを使用するには、すべての Visualforce ページのクリックジャック保護を無効にする必要がありました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Salesforce Classic に適用されます。

理由: [設定] に新しい設定は追加されていませんが、既存の設定が Salesforce Classic コンソールユーザにも適切に対応するようになりました。クリックジャック保護をすでに有効にしている場合、組織のセキュリティが自動的に向上します。

方法: ほとんどの場合、Visualforce ページのクリックジャック保護を有効にするだけです。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「セッションの設定」と入力し、[セッションの設定] を選択します。[標準ヘッダーがある Visualforce ページのクリックジャック保護を有効化] および [ヘッダーが無効化された Visualforce ページのクリックジャック保護を有効化] の設定を有効にします。

 **メモ:** これらの設定を変更するには、「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

ただし、ネットワークインフラストラクチャに特定のプロキシサーバ (最も一般的には CipherCloud などのクラウドアクセスセキュリティブローカー (CASB)) が含まれる場合、問題が発生する可能性があります。クリックジャック保護が有効になっている場合、プロキシサーバが正常に設定されていないと、プロキシサーバが Salesforce Classic コンソールの Visualforce ページへのアクセスをブロックすることがあります。

プロキシサーバが Salesforce への要求 URL を変更している場合、Visualforce ページのクリックジャック保護を無効にします。次に、`X-Frame-Options` HTTP ヘッダーの URL を含むすべての URL を正常に書き換えるようにネットワークインフラストラクチャを設定します。ネットワークインフラストラクチャを設定した後、Visualforce ページのクリックジャック保護を再度有効にします。



## Apex

`switch` ステートメント、レコードタイプの API 参照名をより簡単に取得できるメソッド、およびその他の機能強化が Apex で提供されるようになりました。

これらの機能強化についての詳細は『[Apex 開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

### Apex Switch ステートメントを使用したコードの簡略化

式が複数の値のいずれかと一致するかどうかをテストし、それに応じて分岐する `switch` ステートメントが Apex で提供されるようになりました。

### レコードタイプの API 参照名をより簡単に取得

レコードタイプの API 参照名をより簡単に取得できる Apex メソッドが追加されました。これまで API 参照名には、`describeInformation` を介してではなく、`RecordTypeSObject` の SOQL を介してのみアクセスが可能でした。

### クエリ行単位で制限にカウントされるようになった SOQL `Count()` 関数

Apex では、SOQL クエリで取得できる合計行数が制限されています。SOQL `COUNT()` および `COUNT(fieldName)` 関数が含まれるクエリがこの制限にカウントされる方法が改善されました。

### テスト中の Visualforce ページのメッセージのクリア

新しい `System.Test.clearApexPageMessages()` メソッドを使用して、Apex テストメソッドの実行中に Visualforce ページのメッセージをクリアします。

### リリース時のコンパイル (正式リリース)

メタデータのリリース、パッケージのインストール、またはパッケージのアップグレードを完了する前に各組織の Apex コードが自動的に再コンパイルされるようになりました。この動作の変更により、メタデータのリリースおよびパッケージの更新後のパフォーマンスが改善されます。以前は、リリース、インストール、アップグレードで組織の無効なコードがそのままになり、Apex の再コンパイル中にパフォーマンスが低下することがありました。

### テスト実行時のコードカバレッジ情報の収集の除外

カバレッジデータではなく可否の状況に関するフィードバックをすぐに取得するには、コードカバレッジ情報の収集を除外して Apex テストの実行時間を短縮します。除外すると、Apex テストカバレッジに関するデータは保存されません。

### パッケージの新しい Apex アクセス修飾子の使用

第二世代パッケージ (ベータ) 内の Apex メソッドのアクセシビリティが変更されました。アノテーションを明示的に付加しない限り、Apex インターフェース、クラス、メソッド、プロパティで、名前空間を共有する他のパッケージにアクセスできなくなりました。global としてマークされている Apex の動作は変更されません。修飾子は、名前空間のあるパッケージにのみ適用されます。

### Apex コードサイズの制限の緩和

組織で使用できる Apex コードの最大量が 3 MB から 6 MB に倍増しました。以前に組織で 6 MB を超える増加が承認されている場合、そのまま変更されません。

### Apex 例外メール受信者がプロセスおよびフローエラーメールを受信できる

これまで Apex 例外メールページは、Apex 例外にのみ使用されていました。現在はプロセスおよびフローエラーメールにも使用できるようになりました。

Apex: [新規および変更されたクラス、Enum、およびインターフェース](#)

次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

[ConnectApi \(Chatter in Apex\): 新規および変更されたクラスおよび Enum](#)

Chatter in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。フィード要素をクローズ済みに設定したり、コメントの検証を匿名化したり、投稿およびコメントにレコードへのリンクを含めたりすることができるようになりました。

## Apex Switch ステートメントを使用したコードの簡略化

式が複数の値のいずれかと一致するかどうかをテストし、それに応じて分岐する `switch` ステートメントが Apex で提供されるようになりました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:**

構文は次のとおりです。

```
switch on expression {
  when value1 { // when block 1
    // code block 1
  }
  when value2 { // when block 2
    // code block 2
  }
  when value3 { // when block 3
    // code block 3
  }
  when else { // when else block, optional
    // code block 4
  }
}
```

`when` の値は、1つの値、複数の値、または `SObject` 型のいずれかになります。たとえば、次のように指定します。

```
when value1 {
}
```

```
when value2, value3 {
}
```

```
when TypeName VariableName {
}
```

`switch` ステートメントでは、式が評価されて、一致する `when` の値のコードブロックが実行されます。一致する値がない場合、`when else` ブロックのコードブロックが実行されます。`when else` ブロックがない場合、アクションは実行されません。

- ☑ **メモ:** フォールスルーはありません。特定の `when` ブロックのコードブロックが実行されると、`switch` ステートメントは終了します。

関連トピック:

[Apex 開発者ガイド: Switch Statements \(Switch ステートメント\)](#)

[IdeaExchange: Add "Switch" or "Case" Statement to Apex \(Apex への「Switch」または「Case」ステートメントの追加\)](#)

## レコードタイプの API 参照名をより簡単に取得

レコードタイプの API 参照名をより簡単に取得できる Apex メソッドが追加されました。これまで API 参照名には、describe Information を介してではなく、RecordType SObject の SOQL を介してのみアクセスが可能でした。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

次のメソッドを使用して API 参照名を取得できます。

- `Schema.DescribeSObjectResult.getRecordTypeInfoByDeveloperName()`
- `Schema.RecordTypeInfo.getDeveloperName()`

関連トピック:

[IdeaExchange: Get RecordTypeInfo by API name method \(API 参照名で RecordTypeInfo を取得するメソッド\)](#)

## クエリ行単位で制限にカウントされるようになった SOQL Count() 関数

Apex では、SOQL クエリで取得できる合計行数が制限されています。SOQL `COUNT()` および `COUNT(fieldName)` 関数が含まれるクエリがこの制限にカウントされる方法が改善されました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** 以前は、SOQL `COUNT()` および `COUNT(fieldName)` 関数で照合される個々のレコードがクエリ行制限にカウントされていました。そのため、特に多数のレコードを操作する場合、カウントを要求するとガバナ制限に大きな影響を与える可能性がありました。今回のリリースでは、これらの関数のいずれかを使用するクエリで整数が返される場合に、1つのクエリ行としてガバナ制限にカウントされるようになりました。これらの関数のいずれかを使用するクエリで `AggregateResult` オブジェクトの配列が返される場合、`AggregateResult` オブジェクトの合計数のみが制限にカウントされます。

たとえば、次のクエリを考えてみます。

```
Integer countOfContacts = [SELECT COUNT() FROM Contact WHERE Account.Name = 'Edge Communications'];
```

以前は、このクエリで照合されるレコード数が制限にカウントされていましたが、このクエリが1つのクエリ行として制限にカウントされるようになりました。

次のクエリでは、`COUNT(fieldName)` 関数が使用されています。以前は、返される行数が制限にカウントされていましたが、このクエリが1つのクエリ行としてカウントされるようになりました。

```
AggregateResult ar = [SELECT COUNT(AccountId) rowcount FROM Contact]; // Count contacts
with an account only
Integer rowCount = (Integer)ar.get('rowcount');
```

`COUNT(fieldName)` 関数を使用するクエリに `GROUP BY` 句が含まれている場合、生成された `AggregateResult` オブジェクトの数のみが制限にカウントされます。たとえば、次の例のクエリでは、集計された結果ごとに1つの項目のみが制限にカウントされます。

```
List<AggregateResult> res = [SELECT COUNT(id) FROM Contact GROUP BY AccountId];
System.assertEquals(res.size(), Limits.getQueryRows());
```

以前は、このクエリで照合されるすべてのレコードがクエリ行制限にカウントされていました。

関連トピック:

[IdeaExchange: Count the SOQL count\(\) query as a single row query \(SOQL count\(\) クエリを1行のクエリとしてカウント\)](#)

## テスト中の Visualforce ページのメッセージのクリア

新しい `System.Test.clearApexPageMessages()` メソッドを使用して、Apex テストメソッドの実行中に Visualforce ページのメッセージをクリアします。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** `System.Test.clearApexPageMessages()` メソッドを使用して、コントローラメソッドに対する各コールの成功または失敗をテストできます。 `ApexPages.hasMessages()` および `ApexPages.getMessages()` メソッドと共にこの機能を使用すると、Visualforce コントローラのテストが容易になります。

関連トピック:

[IdeaExchange: Add support for clearing PageMessages via Apex \(Apex を介した PageMessages のクリアのサポート\)](#)

## リリース時のコンパイル (正式リリース)

メタデータのリリース、パッケージのインストール、またはパッケージのアップグレードを完了する前に各組織の Apex コードが自動的に再コンパイルされるようになりました。この動作の変更により、メタデータのリリースおよびパッケージの更新後のパフォーマンスが改善されます。以前は、リリース、インストール、アップグレードで組織の無効なコードがそのままになり、Apex の再コンパイル中にパフォーマンスが低下することがありました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** 本番組織の場合、リリース直後にパフォーマンスが低下しないように、リリース時のコンパイルは自動的に有効になり、無効にすることはできません。Sandbox 組織、開発者組織、トライアル組織、スクラッチ組織の場合、この機能はデフォルトで無効になっており、[設定] の [Apex 設定] で有効にできます。

この機能を使用すると、組織へのリリースで Apex コンパイラが呼び出され、生成されたバイトコードがリリースの一部として保存されます。リリース時間がわずかに増加することがありますが、初回実行時に Apex を再コンパイルする必要がなくなります。そのため、リリース時間のわずかな増加で初回実行時のパフォーマンスの問題を回避できます。

機能テストのために複数のユーザで共有されている、または継続的インテグレーションプロセスで使用されている Sandbox 組織やスクラッチ組織でこの機能を有効にすることを検討してください。

#### 関連トピック:

[IdeaExchange: Run Compile All Classes after package installation and upgrades \(パッケージのインストールおよびアップグレード後の \[すべてのクラスをコンパイル\] の実行\)](#)

## テスト実行時のコードカバレッジ情報の収集の除外

カバレッジデータではなく合否の状況に関するフィードバックをすぐに取得するには、コードカバレッジ情報の収集を除外して Apex テストの実行時間を短縮します。除外すると、Apex テストカバレッジに関するデータは保存されません。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** テスト実行時のコードカバレッジ情報の収集を除外するには、次のいずれかの操作を実行します。

- [設定] から、「Apex テスト実行」を検索します。[テストを選択] を選択し、[コードカバレッジをスキップ] を選択します。
- 開発者コンソールから、[Test (テスト)] > [New Run (新規実行)] > [Settings (設定)] > [Skip Code Coverage (コードカバレッジをスキップ)] を選択します。

## パッケージの新しい Apex アクセス修飾子の使用

第二世代パッケージ (ベータ) 内の Apex メソッドのアクセシビリティが変更されました。アノテーションを明示的に付加しない限り、Apex インターフェース、クラス、メソッド、プロパティで、名前空間を共有する他のパッケージにアクセスできなくなりました。global としてマークされている Apex の動作は変更されません。修飾子は、名前空間のあるパッケージにのみ適用されます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** 新しい @namespaceAccessible アノテーションは、公開 Apex または保護された Apex を、名前空間を共有する他のパッケージで使用可能な Apex としてマークします。このアノテーションは、パッケージ化されていない Apex で使用しても影響はないため、開発組織にリリースできます。

- 📌 **メモ:** 管理およびリリースされた Apex コードでも、@namespaceAccessible アノテーションはいつでも追加または削除できます。追加または削除する前に、アノテーションの機能に依存する連動パッケージがないことを確認してください。

次の例では、@namespaceAccessible アノテーションでマークされた Apex クラスを示します。このクラスは、同じ名前空間内の他のパッケージにアクセスできます。最初のコンストラクタも名前空間内で参照できますが、2番目のコンストラクタは参照できません。

```
// A namespace-visible Apex class
@namespaceAccessible
public class MyClass {
    private Boolean bypassFLS;

    // A namespace-visible constructor that only allows secure use
    @namespaceAccessible
    public MyClass() {
        bypassFLS = false;
    }

    // A package private constructor that allows use in trusted contexts,
    // but only internal to the package
    public MyClass (Boolean bypassFLS) {
        this.bypassFLS = bypassFLS;
    }
}
```

## Apex コードサイズの制限の緩和

組織で使用できる Apex コードの最大量が 3 MB から 6 MB に倍増しました。以前に組織で 6 MB を超える増加が承認されている場合、そのまま変更されません。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[IdeaExchange: Apex usage limit 3,000,000 characters can be increased \(Apex 使用制限 \(3,000,000 文字\) の増加\)](#)

## Apex 例外メール受信者がプロセスおよびフローエラーメールを受信できる

これまで Apex 例外メールページは、Apex 例外にのみ使用されていました。現在はプロセスおよびフローエラーメールにも使用できるようになりました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

[フローおよびプロセスのエラーメールの受信者の制御](#)

## Apex: 新規および変更されたクラス、Enum、およびインターフェース

次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

このセクションの内容:

#### 新規 Apex クラス

このリリースでは、次のクラスが導入されます。

#### 変更された Apex クラス

次の既存のクラスで、メソッドまたは定数が新規追加または変更されました。

#### 新規 Apex Enum

このリリースでは、次の列挙が導入されます。

#### 変更された Apex インターフェース

このセクションでは、更新された既存のインターフェースを示します。

## 新規 Apex クラス

このリリースでは、次のクラスが導入されます。

### EventBus 名前空間の TestBroker クラス

新しい EventBus.TestBroker クラスには、Apex テストでプラットフォームイベントメッセージを配信するメソッドが含まれています。

#### `deliver()`

テストイベントバスにプラットフォームイベントメッセージを配信します。このメソッドを使用して、テストイベントメッセージを複数回配信し、イベント登録者が各ステップでテストイベントを処理したことを確認します。

### System 名前空間の UserManagement クラス

新しい System.UserManagement クラスには、エンドユーザの管理 (検証方法の登録や、Salesforce でエンドユーザが認識されないようにするための要求の処理など) を行うためのメソッドがあります。

#### `deregisterVerificationMethod(userId, method)`

ユーザID検証方法の登録を解除します。このメソッドを使用して、ユーザが既存の検証方法を削除できるようにします。

#### `formatPhoneNumber(countryCode, phoneNumber)`

ユーザの携帯電話番号を書式設定します。ユーザの携帯電話番号を更新する前に、このメソッドをコールして、電話番号が適切に書式設定されていることを確認します。

#### `obfuscateUser(userId)`

Salesforce で個人データが認識されることをユーザが望まなくなった場合に要求に応じてユーザのデータをスクランブルします。ユーザに対してこのメソッドを呼び出すと、データが匿名になり、そのデータを復元することはできなくなります。

#### `obfuscateUser(userId, username)`

Salesforce で個人データが認識されることをユーザが望まなくなった場合に要求に応じてユーザのデータをスクランブルします。ユーザに対してこのメソッドを呼び出すと、データが匿名になり、そのデータを復元することはできなくなります。このメソッドを使用して、スクランブル後にユーザ名を特定の値に設定します。

**registerVerificationMethod(method, startUrl)**

ID 検証方法を登録します。検証方法には、時間ベースのワンタイムパスワード、メールまたはテキストのワンタイムパスワード、Salesforce Authenticator、U2F などがあります。エンドユーザは検証方法を登録します。

## 変更された Apex クラス

次の既存のクラスで、メソッドまたは定数が新規追加または変更されました。

**Schema.DescribeFieldResult** クラス

新しいメソッド

**isAiPredictionField()** (ベータ)

Einsten 予測データを表示するように項目が有効化されているかどうかを示す Boolean を返します。

新しいメソッド

**isFormulaTreatNullNumberAsZero()**

数式項目で null が 0 として処理される場合は true、そうでない場合は false を返します。

**Schema.DescribeSObjectResult** クラス

新しいメソッド

**getRecordTypeInfoByDeveloperName()**

関連付けられたレコードタイプに API 参照名を照合する対応付けを返します。

**Schema.RecordTypeInfo** クラス

新しいメソッド

**getDeveloperName()**

このレコードタイプの API 参照名を返します。

**System.Site** クラス

新しいメソッド

**passwordlessLogin(userId, methods, startUrl)**

パスワードの代わりにメールやテキストなどの ID 検証方法を使用してユーザをコミュニティにログインさせます。パスワードなしのログインは、ユーザをコミュニティに迎え入れるためのモバイルで使いやすい便利な方法です。ログイン時にパスワードを要求する方法の代替手段をコミュニティユーザに提供します。

**System.Test** クラス

新しいメソッド

**clearApexPageMessages()**

Apex テストメソッドの実行中に Visualforce ページのメッセージをクリアします。



## 新しいメソッド

### `getEventBus()`

テストイベントバスブローカのインスタンスを返します。これで Apex テストでプラットフォームイベントメッセージを操作できます。たとえば、`Test.getEventBus().deliver()` をコールして、イベントメッセージを配信できます。

関連トピック:

[必要な場所での Einstein 予測の表示 \(ベータ\)](#)

## 新規 Apex Enum

このリリースでは、次の列挙が導入されます。

### `Auth.VerificationMethod` 列挙

この Enum には、ID 検証方法に対応する次の値があります。

- EMAIL
- SALESFORCE\_AUTHENTICATOR
- SMS
- TOTP
- U2F

### `System.TriggerOperation` 列挙

この Enum には、トリガイイベントに対応する次の値があります。

- AFTER\_DELETE
- AFTER\_INSERT
- AFTER\_UNDELETE
- AFTER\_UPDATE
- BEFORE\_DELETE
- BEFORE\_INSERT
- BEFORE\_UPDATE

関連トピック:

[IdeaExchange: A Trigger Context Enum to represent the current operation and before/after state \(現在の操作と前後の状態を表すトリガコンテキスト列挙\)](#)

## 変更された Apex インターフェース

このセクションでは、更新された既存のインターフェースを示します。

### `QuickAction.QuickActionDefaultsHandler` インターフェース

#### 変更されたメソッド

`QuickAction.QuickActionDefaultsHandler` インターフェースでは、ケースフィードの標準の [メール] アクションのデフォルト値を指定できます。このインターフェースは、Lightning Experience で動作するようになりました。サポートの詳細は、『[Apex 開発者ガイド](#)』を参照してください。

## ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum

Chatter in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。フィード要素をクローズ済みに設定したり、コメントの検証を匿名化したり、投稿およびコメントにレコードへのリンクを含めたりすることができるようになりました。

ConnectApi 名前空間の Apex クラスでは、多くの Chatter REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の ConnectApi クラスが使用されます。ConnectApi 名前空間は、Chatter in Apex と呼ばれます。

Apex では、SOQL クエリとオブジェクトを使用して、一部の Chatter データにアクセスできます。ただし、ConnectApi クラスでは Chatter データがより単純な方法で公開されます。データは、表示用にローカライズされ、構成されます。たとえば、フィードへのアクセスや作成を、多くのコールではなく1回のコールで行うことができます。

 **メモ:** モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Chatter やコミュニティに統合するには、Chatter REST API を使用します。

このセクションの内容:

### 新規および変更された Chatter in Apex クラス

次に、このリリースで新しく追加または変更されたクラスを示します。

### 新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス

次に、このリリースで新しく追加または変更された入力クラスを示します。

### 新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス

次に、このリリースで新しく追加または変更された出力クラスを示します。

### 新規および変更された Chatter in Apex Enum

次に、このリリースで新しく追加または変更された Enum を示します。

## 新規および変更された Chatter in Apex クラス

次に、このリリースで新しく追加または変更されたクラスを示します。

### Chatter フィード

これらの新規および既存のメソッドは、ConnectApi.ChatterFeeds クラスに含まれます。

#### フィード要素をクローズに設定する

- `setFeedElementIsClosed(communityId, feedElementId, isClosed)`

ユーザはクローズされたフィード要素を編集 (具体的にはフィード項目本文またはタイトル) または削除したり、クローズされたフィード要素にコメントしたりできません。クローズされたフィード要素がアンケートの場合、ユーザはそのアンケートに投票できません。ユーザはクローズされたフィード要素へのコメントを編集 (具体的にはコメント本文) または削除できません。また、そのコメントを最良の回答として選択したり、最良の解答状況を削除したりできません。

システム管理者とモデレータは、クローズされたフィード要素の編集、削除、コメントができます。システム管理者とモデレータは、クローズされたフィード要素に対するコメントの最良の回答状況を選択または削除できます。

#### レコードへのリンクのフィード投稿への追加

新しい `ConnectApi.EntityLinkSegmentInput` クラスを指定して、次の既存のメソッドを使用します。

- `postFeedElement (communityId, feedElement)`

#### コメント内のレコードにリンクを含める

新しい `ConnectApi.EntityLinkSegmentInput` クラスを指定して、次の既存のメソッドを使用します。


- `postCommentToFeedElement (communityId, feedElementId, comment, feedElementFileUpload)`

#### コメントを匿名ユーザによって検証済みとマークする

以前にコメントを検証したユーザが活動の削除を要求した場合、このメソッドを使用して検証を維持し、`lastVerifiedByUser` の値を匿名化します。

- `setCommentIsVerifiedByAnonymized (communityId, commentId, isVerified, isVerifiedByAnonymized)`

### 次善アクション (パイロット)

 **メモ:** Einstein 次善アクションは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforceにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。Einstein 次善アクションは、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Einstein次善アクションについてのフィードバックと提案は、[IdeaExchange](#) からお寄せください。

#### 提案を取得する

- `getProposition (propositionId)`

#### 戦略のおすすめを取得する

- `getRecommendations (strategyName, maxResults, contextRecordId)`

#### おすすめへのユーザの反応を記録する

- `setRecommendationReaction (reaction)`

### ユーザ

次の既存のメソッドは、`ConnectApi.ChatterUsers` クラスにあります。

#### ユーザへの投稿とコメントのいいね! を消去する

- `purgeUserActivities (communityId, userId)`

### 新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス

次に、このリリースで新しく追加または変更された入力クラスを示します。

## Chatter フィード

### **ConnectApi.MessageSegmentInput**

このクラスは、ConnectApi.EntityLinkSegmentInput のスーパークラスです。

### **ConnectApi.EntityLinkSegmentInput**

この新しい入力クラスは、ConnectApi.MessageSegmentInput のサブクラスです。次の 1 つのプロパティがあります。

- `entityId` — リンク先のエンティティの ID。

## 次善アクション (パイロット)

### **ConnectApi.NBAReactionInput**

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `contextRecordId` — コンテキストレコードの ID。たとえば、次善アクションがケースの詳細ページにある場合は、ケースの ID になります。
- `executionId` — 元のおすすめ戦略実行の ID。
- `onBehalfOfId` — 反応が起こったユーザまたはエンティティの ID。
- `reactionType` — おすすめに対する反応の種別。値は次のとおりです。
  - Accepted
  - Rejected
- `strategyName` — おすすめ戦略の名前。
- `targetActionId` — 対象アクションの ID。
- `targetActionName` — 対象アクションの名前。
- `targetId` — 反応対象のおすすめの ID。

## 新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス

次に、このリリースで新しく追加または変更された出力クラスを示します。

## Chatter フィード

### **ConnectApi.CloseCapability**

この新しい出力クラスは、ConnectApi.FeedElementCapability のサブクラスです。次のプロパティがあります。

- `canContextUserUpdateIsClosed` — コンテキストユーザがフィード要素をクローズに設定する権限を持っているか (true)、否か (false) を指定します。
- `isClosed` — フィード要素がクローズか (true)、否か (false) を指定します。

### **ConnectApi.FeedElementCapabilities**

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `close` — フィード要素にこの機能がある場合、権限を持つユーザはフィード要素をクローズできます。

### **ConnectApi.VerifiedCapability**

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `isVerifiedByAnonymized` — コメントが匿名ユーザによって検証済みとマークされているか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

## Files Connect

### `ConnectApi.AbstractRepositoryFile`

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `contentBody` — 可能な場合はファイルのコンテキストのテキスト。それ以外の場合は `null`。

## 次善アクション (パイロット)

### `ConnectApi.AbstractNBARecommendation`

この新しい出力クラスは、`ConnectApi.NBARecommendationProposition` のスーパークラスです。次のプロパティがあります。

- `actionReference` — 実行するアクションの参照。たとえば、起動するフロー。
- `description` — おすすめの説明。
- `id` — おすすめのエンティティの ID。
- `name` — おすすめのエンティティの名前。
- `url` — おすすめのエンティティの URL。

### `ConnectApi.NBARecommendationReaction`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `contextRecord` — コンテキストレコードの参照。
- `createdBy` — 反応の作成者の参照。
- `createdDate` — 反応の作成日。
- `id` — 反応レコード ID。
- `onBehalfOf` — おすすめに間接的に反応しているユーザまたはレコードの参照。
- `reactionType` — おすすめに対する反応の種別。値は次のとおりです。
  - `Accepted`
  - `Rejected`
- `strategy` — 対象レコードをおすすめした戦略。
- `targetAction` — おすすめの対象アクション。
- `targetRecord` — 対象アクションの参照。

### `ConnectApi.NBARecommendationProposition`

この新しい出力クラスは、`ConnectApi.AbstractNBARecommendation` のサブクラスです。その他のプロパティはありません。

### `ConnectApi.NBARecommendations`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `debug` — おすすめ戦略実行時に記録されたランタイムデバッグ情報。
- `errors` — おすすめ戦略実行時に発生したランタイムエラー。
- `executionId` — おすすめ戦略実行の ID。

- `onBehalfOfId` — 実行されたおすすめ戦略の対象のユーザまたはエンティティの ID。
- `recommendations` — おすすめ戦略によって返されたおすすめのリスト。

**ConnectApi.Proposition**

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `actionReference` — 実行するアクションの参照。たとえば、起動するフロー。
- `description` — 提案の説明。
- `id` — 提案の ID。
- `name` — 提案の名前。
- `url` — 提案の URL。

**ConnectApi.RecordSnapshot**

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `id` — レコードの ID。
- `nameAtSnapshot` — ID が記録されたときのレコードの名前。

## 新規および変更された Chatter in Apex Enum

次に、このリリースで新しく追加または変更された Enum を示します。

これらの Enum についての詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』の「ConnectApi Enum」を参照してください。

**ConnectApi.FeedElementCapabilityType**

この Enum には、次の 1 つの新しい値があります。

- `Close` — ユーザはクローズされたフィード要素を編集または削除したり、クローズされたフィード要素にコメントしたりできません。フィード要素がアンケートの場合、ユーザはそのアンケートに投票できません。

**ConnectApi.NBAReactionType**

この新しい Enum には次の値があります。

- `Accepted`
- `Rejected`

**ConnectApi.SocialNetworkProvider**

この Enum には、次の 1 つの新しい値があります。

- `InstagramBusiness`

## メタデータ

API バージョン 43.0 では、より多くのメタデータ型と Tooling API オブジェクトにアクセスできます。組織データへのアクセス権が付与されなくても、ユーザがメタデータを変更できるようになります。カスタムメタデータレコードを使用して、複数の入力規則の共有値を一度に更新できます。メタデータ API を使用してカスタムメタデータ型リストビューを取得できます。

このセクションの内容:

#### メタデータカバー率を一目で確認

メタデータカバー率レポートには、メタデータ API、ソース追跡、およびロック解除済みパッケージメタデータチャンネルで型がサポートされているかどうかが表示されます。この動的に生成されるレポートは、メタデータカバー率の最適な情報源です。組織でサポートしている最新APIバージョンのカバー率情報が表示されます。

#### カスタムメタデータ型: 複数の入力規則の同時更新、メタデータ API を使用したカスタムメタデータ型リストビューの取得

カスタムメタデータ型がさらに改善されました。複数の入力規則を一度に更新することや、メタデータ API を使用してリストビューを取得することができるようになりました。

#### 新しい変更セットコンポーネント

変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。これらのコンポーネントを変更セットに使用できるようになりました。

#### 変更セットが使用できなくなるタイミング

最近削除または更新したソース Sandbox からリリースされた変更セットは、一時的に対象組織にリリースできるように見えることがあります。変更セットが対象組織にリリースできるように見える期間は、内部データベースのクリーンアッププロセスが完了するまでの時間によって異なります。ソース Sandbox を削除または更新すると、変更セットを対象組織にリリースできなくなるのが想定されます。

#### メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

#### Tooling API

Tooling API で、オブジェクトが新規追加および変更され、SOAP コールと REST リソースが変更されました。

関連トピック:

[API](#)

## メタデータカバー率を一目で確認

メタデータカバー率レポートには、メタデータ API、ソース追跡、およびロック解除済みパッケージメタデータチャンネルで型がサポートされているかどうかが表示されます。この動的に生成されるレポートは、メタデータカバー率の最適な情報源です。組織でサポートしている最新APIバージョンのカバー率情報が表示されます。

対象: メタデータカバー率レポートにアクセスするには、<https://yourOrgUrl/mdcoverage/report.jsp> に移動します。

## カスタムメタデータ型: 複数の入力規則の同時更新、メタデータ API を使用したカスタムメタデータ型リストビューの取得

カスタムメタデータ型がさらに改善されました。複数の入力規則を一度に更新することや、メタデータ API を使用してリストビューを取得することができるようになりました。

このセクションの内容:

#### カスタムメタデータ型レコードを使用した複数の入力規則の更新 (正式リリース)

入力規則内の参照で使用できるカスタムメタデータ型のレコードを使用すれば、値をハードコード化する必要はありません。レコードを入力規則内で直接参照し、同じ値を各ルールに追加することを回避します。カスタムメタデータ型のレコードを参照する機能は、登録者組織にも役立ちます。以前は、入力規則を管理パッケージに追加した場合、登録者はその入力規則を編集できませんでした。現在は、ロジックを定義して、カスタマイズを登録者に任せることができます。

#### メタデータ API を使用したカスタムメタデータ型リストビューの取得

メタデータ API を使用してカスタムメタデータ型リストビューを取得することで、パッケージを取得したときにカスタムメタデータ型リストビューがそこに含まれます。

### カスタムメタデータ型レコードを使用した複数の入力規則の更新 (正式リリース)

入力規則内の参照で使用できるカスタムメタデータ型のレコードを使用すれば、値をハードコード化する必要はありません。レコードを入力規則内で直接参照し、同じ値を各ルールに追加することを回避します。カスタムメタデータ型のレコードを参照する機能は、登録者組織にも役立ちます。以前は、入力規則を管理パッケージに追加した場合、登録者はその入力規則を編集できませんでした。現在は、ロジックを定義して、カスタマイズを登録者に任せることができます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Professional Edition 組織では、カスタムメタデータレコードのみをインストール済みパッケージの型から作成、編集、および削除できます。

**理由:** ブランドの割引を 10% に制限する入力規則について考えます。割引を変更することにしたため、この値を使用する入力規則を更新する必要があります。割引金額をチェックする複数の規則を更新する代わりに、入力規則内でカスタムメタデータレコードを参照します。そして、カスタムメタデータレコードで割引金額を更新すれば、入力規則を変更する必要がありません。

## DiscountLimits

DiscountLimits Edit		Save	Save & New	Cancel
<b>Information</b>				
Label	Sale Discount			
DiscountLimits Name	Sale_Discount			
maxDiscount	15			
		Save	Save & New	Cancel



## メタデータ API を使用したカスタムメタデータ型リストビューの取得

メタデータ API を使用してカスタムメタデータ型リストビューを取得することで、パッケージを取得したときにカスタムメタデータ型リストビューがそこに含まれます。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Professional Edition 組織では、カスタムメタデータレコードのみをインストール済みパッケージの型から作成、編集、および削除できます。

関連トピック:

[メタデータ API 開発者ガイド: カスタムメタデータ型](#)

## 新しい変更セットコンポーネント

変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。これらのコンポーネントを変更セットに使用できるようになりました。

**ボット**

1 つ以上のバージョンを使用できる Einstein ボット設定の定義を表します。有効にできるバージョンは 1 つのみです。

**BotVersion**

ダイアログ、Intent、エンティティ、スロットなど、特定の Einstein ボットバージョンの設定の詳細を表します。Bot および BotVersion コンポーネントは、ボットを変更セットに追加するときに選択されます。

**CMSCoconnectSource**

コンテンツをコミュニティに提供する外部のコンテンツ管理システムの接続情報を表します。

**Midomain (ベータ)**

Einstein Intent セットを表します。

**Snap-in リリース**

Web 開発用の Snap-in を表します。Snap-in リリースは、Snap-in チャットまたは Snap-in 予定管理 (ベータ) の設定です。

### エディション

使用可能なエディション:

**Professional Edition**、  
**Enterprise Edition**、  
**Performance Edition**、  
**Unlimited Edition**、および  
**Database.com Edition**

## 変更セットが使用できなくなるタイミング

最近削除または更新したソース Sandbox からリリースされた変更セットは、一時的に対象組織にリリースできるように見えることがあります。変更セットが対象組織にリリースできるように見える期間は、内部データベースのクリーンアッププロセスが完了するまでの時間によって異なります。ソース Sandbox を削除または更新すると、変更セットを対象組織にリリースできなくなるのが想定されます。

**対象:** この動作は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

## メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

## 新しいメタデータ型

### ボット

1つ以上のバージョンを使用できる Einstein ボット設定の定義を表します。有効にできるバージョンは1つのみです。

### BotVersion

ダイアログ、Intent、エンティティ、スロットなど、特定のEinsteinボットバージョンの設定の詳細を表します。

### CMSConnectSource

コンテンツをコミュニティに提供する外部のコンテンツ管理システムの接続情報を表します。

### EmbeddedServiceFieldService

Snap-in 予定管理 (ベータ) リリースを作成するための設定ノードを表します。

### MLDomain

Einstein Intent セットを表します。

## 更新されたメタデータ型とメタデータ項目

次のメタデータ型が変更され、メタデータ項目も追加または変更されました。

### AuthProvider

次の参照のみ項目が新規追加されました。

#### LinkKickoffUrl

既存の Salesforce ユーザをサードパーティアカウントにリンクするための URL を提供します。

#### OAuthKickoffUrl

サードパーティの OAuth アクセストークンを取得するための URL を提供します。

#### SsoKickoffUrl

サードパーティのログイン情報を使用して、サードパーティから Salesforce へのシングルサインオンを実行するための URL を提供します。

### CustomApplication

次の項目が新規追加されました。

#### isNavAutoTempTabsDisabled

ナビゲーションで一時タブの設定が自動的に作成されるかどうかを示します。

#### isNavPersonalizationDisabled

ナビゲーションのパーソナライズが無効になっているかどうかを示します。

次の項目が変更されています。

#### formFactors

Salesforce モバイルアプリケーションを使用している携帯端末を示す Sma11 値が Lightning アプリケーションでサポートされるようになりました。

### CustomField

次の項目が新規追加されました。

#### isAIPredictionField (ベータ)

項目に Einstein 予測値を表示できるかどうかをチェックします。Einstein 予測ビルダーを使用して、表示するデータと対象項目を決定します。

**ConnectedAppOauthConfig**

次の項目が新規追加されました。

**idTokenConfig**

接続アプリケーションの OAuth 設定の ID トークン設定を指定します。

**idTokenAudience**

OAuth ID トークンが対象とする利用者。

**idTokenIncludeAttributes**

OAuth ID トークンに属性が含まれるかどうかを示します。

**idTokenIncludeCustomPerms**

OAuth ID トークンにカスタム権限が含まれるかどうかを示します。

**idTokenIncludeStandardClaims**

OAuth ID トークンに認証イベントに関する標準要求が含まれるかどうかを示します。

**idTokenValidity**

この分数以降、OAuth ID トークンの処理を受け付けることができません。デフォルト値は 2 分です。

**EmbeddedServiceBranding**

次の項目が新規追加されました。

**Height**

Snap-in の高さ。

**Width**

Snap-in の幅。

**EmbeddedServiceConfig**

次の項目が新規追加されました。

**authMethod**

この Snap-in リリースに選択されたログイン方法のタイプ。

**customMinimizedComponent**

この Snap-in リリースの最小化された Snap-in で使用されているカスタム Lightning コンポーネント。

**shouldHideAuthDialog**

フロー中にユーザが再度ログインしたときに表示される応答画面を非表示にするかどうかを示します。

非表示になっていると、直接ログインページに移動します。

**EmbeddedServiceLiveAgent**

次の項目が新規追加されました。

**isOfflineCaseEnabled**

この Snap-in チャットリリースでオフラインサポートが有効になっているかどうかを示します。

**isQueuePositionEnabled**

この Snap-in チャットリリースで(エージェントを待機している間のチャット訪問者の順番を表示する)キューの位置が有効になっているかどうかを示します。

**offlineCaseBackgroundImg**

この Snap-in のオフラインサポートケースフォームの背景画像。

EmbeddedServiceQuickAction 項目に新しいデータ型 quickActionType が追加されました。

### ExternalDataSource

次の項目が新規追加されました。

#### customHttpHeaders

odata 2.0 または odata 4.0 コネクタで 사용되는カスタム HTTP ヘッダーを表します。

### フロー

stages 項目 (Spring '18 ではベータ) が正式にリリースされました。

次の項目が更新されました。

#### operator (FlowAssignmentItem サブタイプ)

次の列挙値が追加されました。AddAtStart、AssignCount、RemoveAfterFirst、RemoveAll、RemoveBeforeFirst、RemoveFirst、RemovePosition、RemoveUncommon。

Add 演算子は、value 項目でコレクション変数をサポートするようになりました。

#### actionType (FlowActionCall サブタイプ)

component 列挙値が追加されました。

#### dataType (FlowScreenField サブタイプ)

DateTime が有効な列挙値になりました。

### ForecastingSettings

次の値が ForecastingTypeSettings の name 項目に追加されました。OpportunityQuantityProductDate、OpportunityQuantityScheduleDate、OpportunityRevenueProductDate、OpportunityRevenueScheduleDate。

### Network

次の項目が新規追加されました。

#### lockoutTemplate

ログインに失敗した回数が多すぎてユーザが組織からロックアウトされた場合、それらのユーザと通信します。

### ProfilePasswordPolicy

次の項目が新規追加されました。

#### forgotPasswordRedirect

パスワードを忘れた場合のメールに含まれたパスワードのリセットリンクを、ユーザがパスワードリセット要求を確認するまで有効にしておくかどうかを示します。

### QuickAction

FieldOverride サブタイプの formula 項目が、単一選択リスト項目でサポートされるようになりました。

### Translations

次の項目が FlowTranslation サブタイプに追加されました。

#### stages

フローバージョンのフェーズの翻訳のリスト。

## 更新されたデータ型

次のデータ型が変更されました。

### SharingModel

2つの項目値が追加されました。

- `ControlledByCampaign`
- `ControlledByLeadOrContact`

関連トピック:

[必要な場所での Einstein 予測の表示 \(ベータ\)](#)

## Tooling API

Tooling API で、オブジェクトが新規追加および変更され、SOAP コールと REST リソースが変更されました。

『[Tooling API Developer's Guide \(Tooling API 開発者ガイド\)](#)』には、Tooling API に関する情報がすべて含まれています。

このセクションの内容:

[Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト](#)

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

[Tooling API におけるコールおよびリソースの変更](#)

Tooling API で、SOAP コールおよび REST リソースが変更されました。

## Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

### 新しいオブジェクト

#### **ColorDefinition**

タブの色メタデータを表します。

#### **EmbeddedServiceFieldService**

Snap-in 予定管理 (ベータ) リリースを作成するための設定ノードを表します。

#### **IconDefinition**

タブなどで使用されるアイコンを表します。

#### **MetadataComponentDependency (パイロット)**

組織のメタデータコンポーネント間の連動関係を表します。

#### **TabDefinition**

タブを表し、組織で使用可能なすべてのタブを返します。

### 変更されたオブジェクト

#### **ApexExecutionOverlayAction**

次の項目が変更されています。

#### **ExecutableEntityId**

以前はこの項目は必須でしたが、`ExecutableEntityName` が指定されていない場合にのみ必須になりました。`ExecutableEntityName` と `ExecutableEntityId` の両方が指定されている場合、`ExecutableEntityId` が優先されます。

次の項目が新規追加されました。

**ExecutableEntityName**

実行されているクラスまたはトリガの ApexTypeRef。型のルックアップが行われ、typeRef が有効な場合は ExecutableEntityId がクラスまたはトリガの ID に設定されます。

トリガの場合、typeRef は SFDC トリガプレフィックス `__sfdc_trigger/` で始まる必要があります。たとえば、`__sfdc_trigger/YourTriggerName` または `__sfdc_trigger/YourNamespace/YourTriggerName` のようになります。

クラスの場合、`YourClass`、`YourClass$YourInnerClass` または `YourNamespace/YourClass$YourInnerClass` の形式を使用します。

この項目は、ExecutableEntityId が指定されていない場合は必須です。ExecutableEntityName と ExecutableEntityId の両方が指定されている場合、ExecutableEntityId が優先されます。

**ApexTestQueueItem**

次の項目が新規追加されました。

**ShouldSkipCodeCoverage**

Apex テスト実行時にコードカバレッジ情報の収集を除外するかどうかを指定します。

**CustomApplication**

次の項目が新規追加されました。

**IsNavAutoTempTabsDisabled**

ナビゲーションで一時タブの設定が自動的に作成されるかどうかを示します。

**IsNavPersonalizationDisabled**

ナビゲーションのパーソナライズが無効になっているかどうかを示します。

**EmbeddedServiceConfig**

次の項目が新規追加されました。

**AuthMethod**

この Snap-in リリースに選択されたログイン方法のタイプ。

**CustomMinimizedComponentId**

この Snap-in チャットリリースの最小化された Snap-in で使用するカスタム Lightning コンポーネント。

**ManageableState**

パッケージに含まれている指定されたコンポーネントの管理可能な状態を示します。

**NamespacePrefix**

このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。

**ShouldHideAuthDialog**

フロー中に顧客に再ログインを要求する応答メッセージを非表示にするか (true)、否か (false) を指定します。非表示になっていると、直接ログインページに移動します。

**EmbeddedServiceLiveAgent**

次の項目が新規追加されました。

**Enabled**

この Snap-in チャットの Live Agent リリースが有効 (true) かどうかを示します。

**IsOfflineCaseEnabled**

この Snap-in リリースでオフラインサポートが有効化されているか (true)、否か (false) を示します。

**IsQueuePositionEnabled**

この Snap-in チャットリリースで(エージェントを待機している間の顧客の順番を表示する)キューの位置が有効化されているか (`true`)、否か (`false`) を示します。

**LiveAgentChatUrl**

Live Agent チャットの REST エンドポイント。

**LiveAgentContentUrl**

Live Agent コンテンツの REST エンドポイント。

**ManageableState**

パッケージに含まれている指定されたコンポーネントの管理可能な状態を示します。

**NamespacePrefix**

このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。

**OfflineCaseBackgroundImg**

Snap-in チャットのオフラインサポートケースフォームの背景で使用する画像の URL。

**PrechatJson**

Live Agent の設定で選択した事前チャットフォームのすべての項目の JSON オブジェクト

以前は次の項目が使用不可としてマークされていましたが、使用可能になりました。

- AvatarImg
- FontSize
- HeaderBackgroundImg
- PrechatBackgroundImg
- SmallCompanyLogoImg
- WaitingStateBackgroundImg

**EmbeddedServiceQuickAction**

次の項目が追加されました。

**QuickActionType**

クイックアクション種別。次のいずれかの値になります。

- Prechat - 事前チャット
- OfflineCase - オフラインサポート (ケース)

**EntityDefinition**

次の項目が新規追加されました。

**developerName**

レコードタイプの API 参照名。

**PackageInstallRequest**

次の項目が新規追加されました。

**EnableRss**

パッケージがサードパーティ Web サイトからリモートサイトの設定 (RSS) およびコンテンツセキュリティポリシー (CSP) データを送受信できるか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

**Package2**

次の項目が新規追加されました。

**IsDeprecated**

このパッケージが廃止としてマークされているか (`true`)、否か (`false`) を示します。

**Package2Version**

次の項目が新規追加されました。

**IsReleased**

`IsBeta` は、この項目に置き換えられます。パッケージバージョンがリリース済みか (`true`)、ベータ版か (`false`) を示します。

次の項目が削除されました。

**IsBeta**

この項目は、`IsReleased` に置き換えられます。

**Tooling API におけるコールおよびリソースの変更**

Tooling API で、SOAP コールおよび REST リソースが変更されました。

**変更された SOAP コール****`runTestsAsynchronous()`**

次のパラメータが新規追加されました。

**`skipCodeCoverage`**

このパラメータは、Apex テスト実行時にコードカバレッジ情報の収集を除外するかどうかを指定します。

**変更された REST リソース****`/runTestsAsynchronous/`**

次のパラメータが新規追加されました。

**`skipCodeCoverage`**

このパラメータは、Apex テスト実行時にコードカバレッジ情報の収集を除外するかどうかを指定します。

**API**

API バージョン 43.0 では、使いやすく、強力で安全なアプリケーションプログラムインターフェースを使用して組織のより多くの情報にアクセスできます。

- ☑ **メモ:** メタデータ API および Tooling API の更新をお探しですか? この 2 つの API については、リリースノートの新しい「[メタデータ](#)」セクションを参照してください。

このセクションの内容:

**新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト**

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

**[SOQL](#)**

Salesforce Object Query Language (SOQL) の `toLabel(fields)` が更新されました。



### SOSL

Salesforce Object Search Language (SOSL) で、リストビュー内の検索が新しくサポートされるようになりました。

### REST API

REST API では、リソースが新規追加および変更されました。

### SOAP API

SOAP API には、新規、変更、および廃止されたコールが含まれます。

### Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。フィード要素をクローズに設定したり、コメントの検証を匿名化したり、投稿およびコメント内にレコードへのリンクを含めたりできるようになりました。また、認証されていないユーザが、アセットファイルを表示したり、アセットファイルを一度に 100 個まで取得できるようにすることができます。

### レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API の機能強化には、新しいリソースとプロパティが含まれます。

Lightning Experience 結合レポートベータをオンにすると、`/analytics/reports` から結合レポートが返されます。サブフォルダに関する情報を取得します。

### ユーザインターフェース API

Salesforce が Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web を構築するとき使用する API を使用して、ネイティブモバイルアプリケーションおよびカスタム Web アプリケーションの Salesforce UI を構築します。レコード、アクション、お気に入りのカスタムユーザインターフェースに加えて、リストビューや Salesforce アプリケーションのユーザインターフェースも構築できるようになりました。

### Bulk API

Bulk API には、制限の処理と PK Chunking 要求ヘッダーに対する変更が含まれます。

### Lightning クイックアクションおよび Salesforce Classic パブリッシャーの JavaScript API

カスタムコンポーネントで `lightning:quickActionAPI` コンポーネントを使用して、ページのクイックアクションとやりとりします。このコンポーネントは、Lightning クイックアクション JavaScript API のメソッドをコールして、Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API (ケースフィードパブリッシャー API と呼ばれる) と類似の機能を提供します。Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API を使用した場合、Visualforce コンポーネントおよびページは Lightning Experience で自動的に機能するようになりました。コードを再記述する必要はありません。

### Salesforce コンソール API

より多くの Salesforce コンソールインテグレーションツールキット JavaScript API を Lightning コンソール JavaScript API で使用できます。コンソールアプリケーションのナビゲーション項目を操作したり、コンソールタブを更新したり、ユーティリティのイベントハンドラを登録したりします。Live Agent とオムニチャネルにも新しいメソッドおよびイベントが追加されました。

### `$CustomMetadata` グローバル変数

`$CustomMetadata` は入力規則数式のグローバル変数で、`$CustomMetadata.type.record.field` の構文を使用してカスタムメタデータ型を動的に参照します。

## 新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

このセクションの内容:

### 新しいオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加されました。

### 変更されたオブジェクト

次のオブジェクトが変更されました。

## 新しいオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加されました。

### AccountBrand

パートナー取引先のブランドの詳細を表します。

### AccountBrandShare

取引先ブランドレコードの共有エントリを表します。

### AppDefinition

アプリケーションとそのナビゲーション項目のメタデータを表します。現在のユーザがアクセスできるアプリケーションのメタデータのみが返されます。

### AppTabMember

使用可能な各アプリケーションのタブのリストを表します。

### ChannelProgramLevelShare

チャンネルプログラムレベルレコードの共有エントリを表します。

### ChannelProgramMemberShare

チャンネルプログラムメンバーレコードの共有エントリを表します。

### ColorDefinition

カスタムタブの色関係のメタデータを表します。

### CustomHTTPHeader

Salesforce からのコンテキスト情報 (地域、組織の詳細、外部オブジェクトを参照するユーザの役割など) を提供するカスタム HTTP ヘッダーを表します。

### EmailRelay

メールリレーを送信するための設定を表します。メールリレーは、Salesforce から送信されたメールを会社のメールサーバを介して転送します。

### EmailDomainFilter

メールリレーが特定のドメインのリストに制限されるかどうかを判断する条件を表します。

### FlowStageRelation

一時停止したフローインタビューとそのフェーズ間のリレーションを表します。フローインタビューが一時停止されると、Salesforce は `$Flow.CurrentStage` または `$Flow.ActiveStages` システム変数に設定された各フェーズに `FlowStageRelation` レコードを作成します。API バージョン 43.0 以降で利用できます。

**IconDefinition**

カスタムタブのアイコン関係のメタデータを表します。

**LightningToggleMetrics**

Lightning Experience から Salesforce Classic に切り替えたユーザを表します。

**LightningUsageByAppTypeMetrics**

Lightning Experience と Salesforce モバイルのユーザ数を表します。

**LightningUsageByBrowserMetrics**

ユーザのブラウザ別にグループ化された Lightning Experience の利用状況を表します。

**LightningUsageByFlexiPageMetrics**

ユーザが Lightning Experience で最も頻繁に参照したカスタムページを表します。

**LightningUsageByPageMetrics**

ユーザが Lightning Experience で最も頻繁に参照した標準ページを表します。

**RecordAction**

レコードとフロー間のリレーションを表します。特定のレコードに関連付ける各フローの RecordAction を作成します。

**TabDefinition**

カスタムタブを表します。現在のユーザがアクセスできるタブのみを返します。

**UserDevice**

デバイス固有の情報を表します。

**UserDeviceApplication**

Salesforce にアクセスしているデバイスにインストールされているアプリケーションに関する情報を表します。

**UserListView**

リストビューに対してユーザが行ったカスタマイズを表します。

**UserListViewCriterion**

ユーザのカスタマイズされたリストビューの条件を表します。条件は、ユーザが Salesforce モバイルアプリケーションのリストビューに追加した条件や並び替え順で構成されます。

**VoiceCoaching**

通話監視を使用している通話を表します。

**VoiceCoachingShare**

VoiceCoaching レコードの共有エントリを表します。

**VoiceLocalPresenceNumber**

発信先のユーザと同じ市外局番の電話番号を表します。

**変更されたオブジェクト**

次のオブジェクトが変更されました。

**変更されたオブジェクト****AgentWork**

次の項目が更新されました。

- Status

この項目には、あるエージェントから別のエージェント、キュー、またはスキルに作業項目が転送されたことを示す *Transferred* という新しい値があります。

#### ApexTestQueueItem

次の項目が新規追加されました。

- ShouldSkipCodeCoverage

Apex テスト実行時にコードカバレッジ情報の収集を除外するかどうかを指定します。

#### AuthProvider

次の参照のみ項目が新規追加されました。これらの項目では、認証プロバイダを定義した後に生成されるクライアント設定 URL が提供されます。

- LinkKickoffUrl
- OauthKickoffUrl
- SsoKickoffUrl

#### Case

次の項目が新しく追加されました。

- Comments

ケースをクローズする前に社内ケースコメントを挿入するために使用されます。

#### CaseComment

次の項目が新しく追加されました。

- IsNotificationSelected

この項目は、CaseComment が作成または更新されたときに、メール通知がケース取引先責任者に送信されるかどうかを示します。

#### CaseTeamMember

次の項目が新しく追加されました。

- TeamTemplateId

ケースチームメンバーが関連付けられている定義済みチームの ID。

#### ChannelProgramLevel

次の項目が新しく追加されました。

- OwnerId

必須。レコードを所有するユーザの ID。

#### ChannelProgramMember

次の項目が新しく追加されました。

- OwnerId

必須。レコードを所有するユーザの ID。

#### ContentDocumentLink

次の項目が更新されました。

- Visibility

Visibility 項目が更新可能になりました。

### ContentWorkspace

次の項目が新しく追加されました。

- WorkspaceImageId

画像ファイルをライブラリに割り当てるために使用されます。

### Domain

次の項目が新しく追加されました。

- CnameTarget

外部ホストまたはサーバの正規名 (CNAME)。Salesforce 以外のプロバイダ (独自の外部サーバや CDN プロバイダなど) でカスタムドメインを使用してドメインを提供している場合、この項目は外部プロバイダの CNAME を指し示します。

### EmailMessage

次の項目が新しく追加されました。

- IsPrivateDraft

非公開のメールドラフトを読み込みます。

- ValidatedFromAddress

送信者のアドレス、メールが作成された検証済みの組織の共有メールアドレス、またはメール-to-ケースのルーティングアドレスが含まれる選択リスト値。

### EmbeddedServiceDetail

次の項目が新しく追加されました。

- CancelApptBookingFlowName
- CustomMinimizedComponent
- FieldServiceConfirmCardImg
- FieldServiceHomeImg
- FieldServiceLogoImg
- FlowDeveloperName
- Height
- IsFieldServiceEnabled
- IsOfflineCaseEnabled
- IsQueuePositionEnabled
- OfflineCaseBackgroundImg
- ShouldHideAuthDialog
- ShouldShowExistingAppointment
- ShouldShowNewAppointment
- Width

以前は次の項目が使用不可としてマークされていましたが、使用可能になりました。

- AvatarImg
- ContrastInvertedColor
- FontSize
- HeaderBackgroundImg

- PrechatBackgroundImg
- SmallCompanyLogoImg
- WaitingStateBackgroundImg

### EntityDefinition

InternalSharingModel および ExternalSharingModel 項目に次の選択リスト値が追加されました。

- ControlledByLeadOrContact
- ControlledByCampaign

### EventLogFile

API イベント種別で、QUERY 項目が削除されました。

継続コールアウトサマリーイベント種別が新規追加されました。「[非同期コールアウトのパフォーマンスの測定](#)」を参照してください。

次のイベント種別で新規項目が正式にリリースされました。

- 外部のクロス組織コールアウト
- 外部のカスタム Apex コールアウト
- 外部の OData コールアウト

安全でない外部アセットイベント種別で、UNIQUE\_ID 項目が新規追加されました。

Lightning エラーイベント種別で、次の項目が新規追加されました。

- COMPONENT\_NAME
- PAGE\_APP\_NAME
- PAGE\_CONTEXT
- PAGE\_ENTITY\_ID
- PAGE\_ENTITY\_TYPE
- PAGE\_URL

Lightning インタラクションイベント種別で、次の項目が新規追加されました。

- COMPONENT\_NAME
- PAGE\_APP\_NAME
- PAGE\_URL
- RECORD\_TYPE
- RECORD\_ID
- RELATED\_LIST

Lightning ページビューイベント種別で、次の項目が新規追加されました。

- PAGE\_APP\_NAME
- PAGE\_URL
- PREVPAGE\_APP\_NAME
- PREVPAGE\_URL

### FeedItem

IsClosed という参照のみの Boolean 項目が新規追加されました。これは、新しいアクションに対してフィード項目が開いているか、閉じているかを示します。

### FieldHistoryArchive

FieldHistoryType 選択リスト項目に次の値が追加されました。これらの追加は、作業指示、作業指示品目、およびサービス予定の Shield Platform Encryption のサポートに関連します。

- ServiceAppointment
- WorkOrder
- WorkOrderLineItem

### FieldServiceMobileSettings

次の項目が新しく追加されました。

- IsUseSalesforceMobileActions

このプロファイルベースの設定で、Field Service Lightning モバイルアプリケーションのレコードに、アプリケーション拡張および Salesforce Classic パブリッシャーのアクションの代わりに、モバイルおよび Lightning Experience のアクションを表示できます。この設定は、iOS/Android 用の Field Service Lightning アプリケーションがバージョン 5.0 に更新されるまで参照のみです。

### ForecastingAdjustment

Territory2Id 項目が新規追加されました。売上予測対象のテリトリーの ID。

### ForecastingFact

Territory2Id 項目が新規追加されました。売上予測対象のテリトリーの ID。

### ForecastingItem

Territory2Id 項目が新規追加されました。売上予測対象のテリトリーの ID。

### ForecastingOwnerAdjustment

Territory2Id 項目が新規追加されました。売上予測対象のテリトリーの ID。

### ForecastingType

DateType 項目が新規追加されました。

DeveloperName 項目に次の値が新規追加されました。

- OpportunityQuantityProductDate
- OpportunityQuantityScheduleDate
- OpportunityRevenueProductDate
- OpportunityRevenueScheduleDate

### ForecastingQuota

Territory2Id 項目が新規追加されました。売上予測対象のテリトリーの ID。

### ListEmail

このオブジェクトで、search コールがサポートされるようになりました。

### ListViewChartInstance

次の項目が新規追加されました。

- DataQueryWithoutUserFilters

次の項目には、ユーザ条件を除く、グラフ描画用のデータを取得するために実行できる SOQL クエリが含まれます。

### LogoutEventStream (ベータ)

次の項目が新規追加されました。詳細は、「[LogoutEventStream \(ベータ\)](#)」を参照してください。

- SessionLevel
- SourceIp

#### MaintenanceAsset

次の項目が新しく追加されました。

- NextSuggestedMaintenanceDate

この項目には、推奨メンテナンス日が表示されます。メンテナンスアセットの作成時に空白のままにすると、関連メンテナンス計画から継承されます。ユーザインターフェースでの表示ラベルは、[次のバッチの最初の作業指示の日付] です。

#### MaintenancePlan

次の項目が新しく追加されました。

- GenerationHorizon — (整数) 作業指示のバッチ生成のタイミングを上に移動します。
- DoesGenerateUponCompletion — 選択された場合、現在のバッチの最後の作業指示が完了するまで作業指示の新しいバッチは生成されません。
- DoesAutoGenerateWorkOrders — メンテナンス計画の作業指示バッチの自動生成をオンにし、[作業指示を生成] アクションによる作業指示の手動生成を禁止します。

#### Name

Type 項目から次の選択リスト値が削除されました。

- EngagementAlertFilterAction
- EngagementAlterFilterUser
- MasterProfile
- MessageMessage
- MessagingConversation

Type 項目に次の選択リスト値が追加されました。

- AccountBrand
- CarePreauth
- CarePreauthItem
- ContactRequest
- CoverageBenefit
- CoverageBenefitItem
- FlowStageRelation
- FtestConcrete
- FtestConcreteNoSuperType
- IsvHammerRequest
- IsvHammerSubResult
- LandingPage
- PlanBenefit
- PlanBenefitItem
- PropositionReaction
- RecentEngagementActivity



- SetupFlowProgress
- UsageInput
- UsageFactor
- UserDevice
- UserDeviceApplication
- WaveAutoInstallRequest

### NavigationMenuItem

次の項目が新しく追加されました。

- DraftRowID — ドラフトナビゲーションメニュー項目の ID。ID は組織内で一意です。
- Status — ナビゲーションメニュー項目が公開されているかどうかを表します。値は、DRAFT、LIVE、または null のみです。API バージョン 42 以前では、Status 項目が設定されていない場合、項目のデフォルトは LIVE です。照会されたときに Status がクエリ検索条件に含まれていない場合、状況が LIVE の NavigationMenuItem オブジェクトのみが返されます。API バージョン 43 以降では、Status 項目が設定されていない場合、項目のデフォルトは DRAFT です。照会されたときに Status がクエリ検索条件に含まれていない場合、状況に関係なくすべての NavigationMenuItem オブジェクトが返されます。

### Network

次の項目が新しく追加されました。

- OptionsRecognitionBadgingEnabled — レコグニションバッジが有効になっているかどうかを判断します。
- LockoutEmailTemplateId — ユーザがロックアウトされたときに使用されるメールテンプレートの ID。

### Organization

次の項目が追加されました。

- PreferencesAutoSelectIndividualOnMerge
- TimeZoneSidKey — この項目は、組織のデフォルトのタイムゾーンを識別します。

DefaultAccountAccess 項目に次の選択リスト値が追加されました。

- ControlledByCampaign
- ControlledByLeadOrContact

DefaultOpportunityAccess 項目に次の選択リスト値が追加されました。

- ControlledByCampaign
- ControlledByLeadOrContact

DefaultTerritoryOppAccess 項目に次の選択リスト値が追加されました。

- ControlledByCampaign
- ControlledByLeadOrContact

DefaultTerritoryContactAccess 項目に次の選択リスト値が追加されました。

- ControlledByCampaign
- ControlledByLeadOrContact

DefaultTerritoryCaseAccess 項目に次の選択リスト値が追加されました。

- ControlledByCampaign

- `ControlledByLeadOrContact`

#### PartnerFundClaim

次の項目が更新されました。

- `Status`

この項目は `Nillable` になりました。

#### PartnerFundRequest

次の項目が更新されました。

- `Status`

この項目は `Nillable` になりました。

#### PK Chunking ヘッダー

PK Chunking は、`Event`、`EventRelation`、および `CaseHistory` オブジェクトでサポートされます。

#### RecordTypeInfo

次の項目が新しく追加されました。

- `developerName`

このレコードタイプの API 参照名。

#### TenantSecret

次の項目が新しく追加されました。

- `KeyDerivationMode` — 顧客が指定した鍵素材に適用される鍵派生モード。
- `Source` — 暗号化鍵素材のソース。

`Type` 項目に次の選択リスト値が追加されました。

- `Analytics`
- `DeterministicData`

#### TwoFactorMethodsInfo

次の項目が新しく追加されました。

- `HasUserVerifiedEmailAddress` — ユーザがメールアドレスをセルフ登録して検証したかどうかを示します。
- `HasUserVerifiedMobileNumber` — ユーザが携帯電話番号をセルフ登録して検証したかどうかを示します。

#### User

次の項目が新しく追加されました。

- `UserPreferencesUserDebugModePref`

この項目は、ユーザインターフェースの個人設定の [高度なユーザの詳細] ページにある [デバッグモード] オプションに対応します。

`ContactId` 項目の `updateable` プロパティが `true` に変更されました。

`PortalRole` 項目の `updateable` プロパティが `true` に変更されました。

#### UserAppInfo

次の項目が新しく追加されました。

- `AppDefinitionId`

ユーザが最後にログインした Lightning アプリケーションの ID。

#### VerificationHistory

次の項目が更新されました。

- Policy

この項目には、登録済みの検証方法(メール、SMS、Salesforce Authenticator、TOTP など)で外部ユーザがコミュニティにログインしようとしているかどうかを示す `PasswordlessLogin` という新しい値があります。

#### VoiceCall

次の項目が新しく追加されました。

- ConferenceKey

通話に関連する会議キー。この項目は、通話監視が有効な場合にのみ使用できます。

#### WorkOrder

次の項目が新しく追加されました。

- IsGeneratedFromMaintenancePlan

この参照のみの項目は、作業指示が手動生成ではなくメンテナンス計画から生成されたことを示します。

#### WorkRewardFundType

`CurrencyCode` 項目に、MRU および STN という 2 つの選択リスト項目が新規追加されました。

## SOQL

Salesforce Object Query Language (SOQL) の `toLabel(fields)` が更新されました。

## 変更されたコール

### toLabel(fields)

項目履歴オブジェクトの `OldValue` 項目と `NewValue` 項目も `toLabel` をサポートしていますが、サポートされる項目種別の変更追跡のみが翻訳された値を返します。

## SOSL

Salesforce Object Search Language (SOSL) で、リストビュー内の検索が新しくサポートされるようになりました。

## REST API

REST API では、リソースが新規追加および変更されました。

このセクションの内容:

[新しいリソースと変更されたリソース](#)

## 新しいリソースと変更されたリソース

### 新しいリソース

#### 商談商品スケジュールの設定および削除

新しい REST エンドポイントを使用すると、商談商品スケジュールデータを取得したり、商談商品のスケジュールを設定したり、商談商品スケジュールを削除したりできます。

商品スケジュールデータを取得、設定、または削除するには、GET、PUT、または DELETE 要求を `vXX.X/subjects/OpportunityLineItem/OpportunityLineItemId/OpportunityLineItemSchedules` のエンドポイントに送信します。

#### リッチテキストエリア項目から画像を直接取得

新しい REST エンドポイントを使用すると、レコードのリッチテキストエリア項目からバイナリ画像データを取得できます。以前は、GET 要求で画像を取得するときに JavaScript リダイレクトを取得していました。そのため、アプリケーションで JavaScript を解析する必要がありました。今回のリリースでは、これらの画像を Salesforce アプリケーションですばやくシームレスに読み込むことができます。JavaScript や面倒な作業がなくなり、バイナリ画像データを取得するだけで済みます。

バイナリ画像データを取得するには、GET 要求を `vXX.X/subjects/SObjectName/recordId/richTextImageFields/fieldName/contentReferenceId` のエンドポイントに送信します。

### 変更されたリソース

#### Composite 要求でコレクションを使用可能

Composite 要求 `vXX.X/composite` のサブ要求で SObject コレクションリソース (`vXX.X/composite/subjects`) がサポートされるようになりました。

#### 複数言語の記事の翻訳申請

`/knowledgeManagement/articleVersions/translations` リソースに、複数言語、期日、および任命先を指定できる新しいパラメータが追加されました。任命先にメール通知を送信することも選択できます。

このリソースは、既存の翻訳の申請をブロックしなくなり、新しい情報で既存の翻訳を更新します。無効な言語での翻訳の申請はブロックします。

「記事の管理」、「参照」、「作成」、「編集」権限のあるライセンスを持つ知識ベースユーザがこのリソースにアクセスできます。

### SOAP API

SOAP API には、新規、変更、および廃止されたコールが含まれます。

## 新規、変更、および廃止されたコール

### 新しいコール

### 変更されたコール

#### `search()` SearchResult

`search()` コールは、SearchResult オブジェクトを返します。SearchResult オブジェクトは更新され、記事が昇格されたことを検索結果に示す、SearchPromotedMetadata の新しい `searchPromoted` パラメータが含まれるようになりました。システム管理者は、昇格済み用語をナレッジ記事に追加して昇格済み検索語を定義します。このようなキーワードを検索するユーザには、関連付けられた記事が検索結果で最初に表示されません。関連するパラメータ `searchPromotedMetadata` は EntitySearchMetadata にも追加されました。

### 廃止されたコール

## Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。フィード要素をクローズに設定したり、コメントの検証を匿名化したり、投稿およびコメント内にレコードへのリンクを含めたりできるようになりました。また、認証されていないユーザが、アセットファイルを表示したり、アセットファイルを一度に 100 個まで取得できるようになることができます。

 **メモ:** カスタム Chatter とコミュニティの環境を Salesforce で作成するには、[ConnectApi \(Chatter in Apex\)](#): **新規および変更されたクラスおよび Enum** を使用します。

このセクションの内容:

#### 新規および変更された Chatter REST API リソース

このリリースで新しく追加または変更されたリソースを次に示します。

#### 新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ

このリリースで新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

#### 新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

このリリースで新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

## 新規および変更された Chatter REST API リソース

このリリースで新しく追加または変更されたリソースを次に示します。

### Chatter フィード

#### フィード要素をクローズに設定する

新しい `isClosed` パラメータを `true` に設定 (すなわち新しい Closed Capability Input を指定) して、新規 `/chatter/feed-elements/feedElementId/capabilities/close` リソースに対して POST 要求を実行します。

ユーザはクローズされたフィード要素を編集 (具体的にはフィード項目本文またはタイトル) または削除したり、クローズされたフィード要素にコメントしたりできません。クローズされたフィード要素がアンケートの場合、ユーザはそのアンケートに投票できません。ユーザはクローズされたフィード要素へのコメントを編集 (具体的にはコメント本文) または削除できません。また、そのコメントを最良の回答として選択したり、最良の解答状況を削除したりできません。

システム管理者とモデレータは、クローズされたフィード要素の編集、削除、コメントができます。システム管理者とモデレータは、クローズされたフィード要素に対するコメントの最良の回答状況を選択または削除できます。

#### フィード要素のクローズ状況を取得する

新規 `/chatter/feed-elements/feedElementId/capabilities/close` リソースに対して GET 要求を実行します。

#### 投稿内のレコードにリンクを含める

新しい Message Segment Input: Entity Link リクエストボディを指定して、既存の `/chatter/feed-elements/` リソースに対し POST 要求を実行します。

#### コメント内のレコードにリンクを含める

新しい Message Segment Input: Entity Link リクエストボディを指定して、既存の `/chatter/feed-elements/feedElementId/capabilities/comments/items` リソースに対し POST 要求を実行します。

#### コメントを匿名ユーザによって検証済みとマークする


以前にコメントを検証したユーザが活動の削除を要求した場合、このリソースを使用して検証を維持し、`lastVerifiedByUser` の値を匿名化します。

新しい `isVerifiedByAnonymized` パラメータを `true` に設定 (すなわち更新された `VerifiedCapabilityInput` を指定) して、既存の `/chatter/comments/commentId/capabilities/verified` リソースに対し PATCH 要求を実行します。

## コラボレーション売上予測

#### 別のユーザの売上予測へのコンテキストユーザのアクセス権に関する情報を取得する

新規 `/connect/forecasting/user-access/userId/forecastingTypeId` リソースに対して GET 要求を実行します。

 **メモ:** このリソースは、`/connect/forecasting/user-access` リソースの代わりになるものです。

## ファイル

#### 認証されていないユーザにアセットファイルを表示する

アセットファイル作成時の表示を設定するには、新しい `isVisibleByExternalUsers` パラメータを `true` に設定して、既存の `/connect/files/fileId/asset` リソースに対し POST 要求を実行します。

既存のアセットファイルの表示を設定するには、新しい `Asset File Input` を指定して、既存の `/connect/file-assets/assetId` リソースに対し PATCH 要求を実行します。

#### 一度に最大 100 個のアセットファイルを取得する

新規 `/connect/file-assets/batch/assetIds` リソースに対して GET 要求を実行します。`assetIds` は、アセットファイル ID のカンマ区切りリストです。

## 次善アクション (パイロット)

### 提案を取得する

新規 `/connect/propositions/propositionId` リソースに対して GET 要求を実行します。

### 戦略のおすすめを取得する

新規 `/connect/recommendation-strategies/strategyName/recommendations` リソースに対して GET 要求を実行します。

### おすすめへのユーザの反応を記録する

新しい Next Best Action Reaction Input を指定して、新規 `/connect/recommendation-strategies/reactions` リソースに対し POST 要求を実行します。

## ユーザ

### ユーザへの投稿とコメントのいいね! を消去する

既存の `/chatter/users/userId/activities/purge-job` リソースに対して POST 要求を実行します。

## 新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ

このリリースで新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

### Chatter フィード

#### Close Capability Input

この新しいリクエストボディには、1つのプロパティがあります。

- `isClosed` — フィード要素をクローズに設定するか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

#### Message Body Input

このリクエストボディには、変更されたプロパティが1つあります。

- `messageSegments` — Message Segment Input: Entity Link が含まれるようになりました。

#### Message Segment Input: Entity Link

この新しいリクエストボディには、1つのプロパティがあります。

- `entityId` — リンク先のエンティティの ID。

#### Verified Capability Input

この新しいリクエストボディには、1つのプロパティがあります。

- `isVerifiedByAnonymized` — コメントを匿名ユーザによって検証済み (`true`) とマークするかどうかを指定します。

## ファイル

### Asset File Input

この新しいリクエストボディには、1つのプロパティがあります。

- `isVisibleByExternalUsers` — 認証されていないユーザがアセットファイルを表示できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

## 次善アクション (パイロット)

### Next Best Action Reaction Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `contextRecordId` — コンテキストレコードの ID。たとえば、次善アクションがケースの詳細ページにある場合は、ケースの ID になります。
- `executionId` — 元のおすすめ戦略実行の ID。
- `onBehalfOfId` — 反応が起こったユーザまたはエンティティの ID。
- `reactionType` — おすすめに対する反応の種別。値は次のとおりです。
  - `Accepted`
  - `Rejected`
- `strategyName` — おすすめ戦略の名前。
- `targetActionId` — 対象アクションの ID。
- `targetActionName` — 対象アクションの名前。
- `targetId` — 反応対象のおすすめの ID。

## 新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

このリリースで新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

### Chatter フィード

#### Close Capability

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `canContextUserUpdateIsClosed` — コンテキストユーザがフィード要素をクローズに設定する権限を持っているか (`true`)、否か (`false`) を指定します。
- `isClosed` — フィード要素がクローズか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

#### Feed Element Capabilities

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `close` — フィード要素にこの機能がある場合、権限を持つユーザはフィード要素をクローズできます。

#### Verified Capability

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `isVerifiedByAnonymized` — コメントが匿名ユーザによって検証済みとマークされているか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

## コラボレーション売上予測

### Forecasting User Access

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `forecastingTypeId` — 階層に関連付けられた売上予測種別の ID。ユーザロールまたはテリトリーのどちらの階層を確認するかを決定します。
- `territory2Id` — アクセスを確認するテリトリーの ID。



## データインテグレーション

### Data Integration Credit

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `userCreditsTotal` — ユーザがインポートできるレコードの最大数。
- `userCreditsUsed` — ユーザが契約期間中にレコードのインポートに使用したクレジット数。

## Files

### Asset File

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `baseUnauthenticatedAssetUrl` — `isVisibleByExternalUsers` が `true` の場合は認証されていないユーザのアセットのベースダウンロード URL。それ以外の場合は `null`。
- `isVisibleByExternalUsers` — 認証されていないユーザがアセットファイルを表示できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

## Files Connect

### Repository File Detail

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `contentBody` — 可能な場合はファイルのコンテキストのテキスト。それ以外の場合は `null`。

### Repository File Summary

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `contentBody` — 可能な場合はファイルのコンテキストのテキスト。それ以外の場合は `null`。

## 次善アクション (パイロット)

### Next Best Action Reaction

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `contextRecord` — コンテキストレコードの参照。
- `createdBy` — 反応の作成者の参照。
- `createdDate` — 反応の作成日。
- `id` — 反応レコード ID。
- `onBehalfOf` — おすすめに間接的に反応しているユーザまたはレコードの参照。
- `reactionType` — おすすめに対する反応の種別。値は次のとおりです。
  - `Accepted`
  - `Rejected`
- `strategy` — 対象レコードをおすすめした戦略。
- `targetAction` — おすすめの対象アクション。
- `targetRecord` — 対象アクションの参照。

### Next Best Action Recommendation

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `actionReference` — 実行するアクションの参照。たとえば、起動するフロー。
- `description` — おすすめの説明。
- `id` — おすすめのエンティティの ID。
- `name` — おすすめのエンティティの名前。
- `url` — おすすめのエンティティの URL。

#### Next Best Action Recommendations

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `debug` — おすすめ戦略実行時に記録されたランタイムデバッグ情報。
- `errors` — おすすめ戦略実行時に発生したランタイムエラー。
- `executionId` — おすすめ戦略実行の ID。
- `onBehalfOfId` — 実行されたおすすめ戦略の対象のユーザまたはエンティティの ID。
- `recommendations` — おすすめ戦略によって返されたおすすめのリスト。

#### Proposition

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `actionReference` — 実行するアクションの参照。たとえば、起動するフロー。
- `description` — 提案の説明。
- `id` — 提案の ID。
- `name` — 提案の名前。
- `url` — 提案の URL。

#### Record Snapshot

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `id` — レコードの ID。
- `nameAtSnapshot` — ID が記録されたときのレコードの名前。

## レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API の機能強化には、新しいリソースとプロパティが含まれます。Lightning Experience 結合レポートベータをオンにすると、`/analytics/reports` から結合レポートが返されます。サブフォルダに関する情報を取得します。

詳細は『[Reports and Dashboards REST API Developer Guide \(Salesforce レポートおよびダッシュボード REST API 開発者ガイド\)](#)』を参照してください。

### 新しいリソース: `folders/<folderid>/children`

`folders/<folderid>/children` REST API リソースは、指定したフォルダのサブフォルダに関する情報を返します。

リソース URI	サポートされている HTTP メソッド	説明
/services/data/v43.0/folders/<folderid>	GET	指定したフォルダのサブフォルダに関する情報 (ID、表示ラベル、フォルダの種類、URL など) を返します。

### 新しいメソッド: GET folders

folders REST API は、レポートやダッシュボードのフォルダおよびサブフォルダに関する情報を取得できる新しいメソッド GET をサポートします。

リソース URI	サポートされている HTTP メソッド	説明
/services/data/v43.0/folders	GET	レポートやダッシュボードのフォルダおよびサブフォルダに関する情報を取得します。

### 変更されたリソース: /analytics/reports、/analytics/dashboards および folders

レポートリソースは、Lightning Experience 結合レポートベータの一部として結合レポートを返すようになりました。新しいプロパティは、ダッシュボードコンポーネントからのカスタムリンクを記述します。プロパティの変更により、Lightning Experience 結合レポートベータの導入が可能になります。

#### レポート


組織で Lightning Experience 結合レポートベータをオンにすると、/analytics/reports リソースでは、その他すべてのレポート形式に加え、結合レポートが返されるようになりました。以前は、返されるのは表形式レポート、サマリーレポート、マトリックスレポートのみでした。オプトイン方法など、Lightning Experience 結合レポートベータの詳細は、Salesforce リリースノートの「[Lightning Experience での結合レポートの導入 \(ベータ\)](#)」を参照してください。

reportFormat が MULTI\_BLOCK の場合、レポートは結合レポートです。

REST API で結合レポートを使用する準備ができれば、次のベータの制限事項と既知の問題に注意してください。

- 結合レポートに対して POST または PATCH 要求を実行してレポートを編集する場合、一部のプロパティのみを編集できます。
  - hasDetailRows
  - hasRecordCount
  - showSubtotals
  - showGrandTotal

- 結合レポートに対して POST または PATCH 要求を実行して `reportFormat` を変更しようとする、成功コードを取得しますが、`reportFormat` は更新されません。
- `reportFormat` を `MULTI_BLOCK` に変更することはできません。

 **メモ:** Lightning Experience 結合レポートはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対してSalesforceは一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関する義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。

`/analytics/reports/report_ID/describe` リソースに新しいプロパティがあります。

プロパティ	型	説明
<code>dateGranularityInfos</code>	<code>dateGranularityInfos[]</code>	<p>オブジェクトの配列。各オブジェクトは日付項目のグループ化に使用する時間の基準(日、週、月、会計四半期など)を指定します。各オブジェクトには次のプロパティがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>label</code> — アプリケーションに表示される時間基準の名前。</li> <li>• <code>value</code> — 時間基準のAPI参照名。</li> </ul>

`analytics/reports/report_ID/describe` リソースに変更されたプロパティがあります。

プロパティ	型	説明
<code>reportFormat</code>	文字列	<p>Lightning Experience 結合レポートベータの一部として、<code>reportFormat</code> で新しい値を使用できます。新しい値は <code>MULTI_BLOCK</code> で、レポートが結合レポートであることを指定します。</p> <p><code>reportFormat</code> の <code>MULTI_BLOCK</code> プロパティは、APIバージョン 43.0 のベータです。</p>

## ダッシュボード

`/analytics/dashboards/dashboard_ID/describe` リソースに新しいプロパティがあります。

プロパティ	型	説明
<code>drillURL</code>	文字列	ダッシュボードからのカスタムリンク先を指定します。 <code>drillURL</code> が <code>https://</code> または <code>http://</code> ある

プロパティ	型	説明
		いは <code>www.</code> で始まる場合、リンクは Salesforce の外部の Web サイトに移動します。それ以外の場合、リンク先は Salesforce 内のサイトになります。 リンクが設定されていない場合は Null になります。
<code>flexTableType</code>	文字列	テーブルに詳細列またはグループと基準を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><code>tabular</code> — テーブルに詳細列が表示されます。</li> <li><code>summary</code> — テーブルにグループと基準が表示されます。</li> </ul>

`/analytics/dashboards/dashboard_ID/describe` リソースに変更されたプロパティがあります。

プロパティ	型	説明
<code>displayUnits</code>	文字列	<code>displayUnits</code> で新しい値を使用できます。これは、ダッシュボードコンポーネントの数値の表示方法を指定します。値はそれぞれ、百単位 (hundreds)、千単位 (thousands)、百万単位、(millions)、十億単位 (billions)、または一兆単位 (trillions) で数値を表示します。

## フォルダ

`folders` REST API リソースには、新しいプロパティがあります。

プロパティ	型	説明
<code>parentId</code>	文字列	親フォルダの ID を指定します。ルートフォルダの場合、値は <code>null</code> です。

`folders/<folderid>` REST API リソースには、次の新しいプロパティがあります。

プロパティ	型	説明
<code>ancestry</code>	List<FolderSummaryRepresentation>	このフォルダの上位フォルダ (深度順)。
<code>childrenUrl</code>	ConnectUri	指定したフォルダのサブフォルダ。
<code>url</code>	ConnectUri	フォルダ <code>/services/data/v43.0/folders/&lt;folderid&gt;/children</code> の URL

プロパティ	型	説明
depth	Integer	ツリー内のフォルダの深度。深度0のフォルダはルートフォルダです。

## ユーザインターフェース API

Salesforce が Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web を構築するときに使用する API を使用して、ネイティブモバイルアプリケーションおよびカスタム Web アプリケーションの Salesforce UI を構築します。レコード、アクション、お気に入りのカスタムユーザインターフェースに加えて、リストビューや Salesforce アプリケーションのユーザインターフェースも構築できるようになりました。

このセクションの内容:

### リストビューの UI の構築

ユーザインターフェース API の新しいリソースでは、Salesforce UI に表示されるリストビューに関するレコードデータやメタデータを簡単に取得できます。リストビューの UI を構築するには、次のリソースを使用します。

### 最後に使用したリストビューの UI の構築

ユーザインターフェース API の新しいリソースでは、オブジェクトの最後に使用した (MRU) リストビューに関するレコードデータやメタデータを簡単に取得できます。これらのリソースを使用して、MRU リストビューの UI を構築します。

### アプリケーションの UI の構築

ユーザインターフェース API の新しいリソースでは、Salesforce UI のアプリケーションに関するレコードデータやメタデータを簡単に取得できます。これらのリソースを使用して、ユーザの特定のアプリケーションまたはすべてのアプリケーションのメタデータを取得します。

### ユーザインターフェース API のその他の変更

ユーザインターフェース API にも小さな、ただし重要な変更が加えられました。

## リストビューの UI の構築

ユーザインターフェース API の新しいリソースでは、Salesforce UI に表示されるリストビューに関するレコードデータやメタデータを簡単に取得できます。リストビューの UI を構築するには、次のリソースを使用します。

### 新しい List View リソース

次のリソースを使用して、オブジェクトに関連付けられているリストビューのコレクションを取得します。

- `/ui-api/list-ui/{objectApiName}`

### オブジェクトに関連付けられているリストビューの取得

たとえば、取引先に関連付けられているすべてのリストビューを取得するには、次の要求を実行します。

```
/services/data/v43.0/ui-api/list-ui/Account
```

この要求では、指定されたオブジェクトのすべてのリストビューのリストが返されます。

```
{
  "count" : 6,
  "currentPageToken" : "0",
  "currentPageUrl" :
"/services/data/v43.0/ui-api/list-ui/Account?pageSize=20&pageToken=0",
  "eTag" : "d33d58077e8560bcaec18bdc2647c642",
  "lists" : [ {
    "apiName" : "AllAccounts",
    "id" : "00BRM000002KPM42AO",
    "label" : "All Accounts",
    "listUiUrl" : "/services/data/v43.0/ui-api/list-ui/Account/AllAccounts"
  }, {
    "apiName" : "MyAccounts",
    "id" : "00BRM000002KPM2A4",
    "label" : "My Accounts",
    "listUiUrl" : "/services/data/v43.0/ui-api/list-ui/Account/MyAccounts"
  }, {
    "apiName" : "NewLastWeek",
    "id" : "00BRM000002KPMj2AO",
    "label" : "New Last Week",
    "listUiUrl" : "/services/data/v43.0/ui-api/list-ui/Account/NewLastWeek"
  }, {
    "apiName" : "NewThisWeek",
    "id" : "00BRM000002KPMQ2A4",
    "label" : "New This Week",
    "listUiUrl" : "/services/data/v43.0/ui-api/list-ui/Account/NewThisWeek"
  }, {
    "apiName" : "PlatinumandGoldSLACustomers",
    "id" : "00BRM000002KPMg2AO",
    "label" : "Platinum and Gold SLA Customers",
    "listUiUrl" :
"/services/data/v43.0/ui-api/list-ui/Account/PlatinumandGoldSLACustomers"
  }, {
    "apiName" : "RecentlyViewedAccounts",
    "id" : "00BRM000002KPM22AO",
    "label" : "Recently Viewed Accounts",
    "listUiUrl" : "/services/data/v43.0/ui-api/list-ui/Account/RecentlyViewedAccounts"
  } ],
  "nextPageToken" : null,
  "nextPageUrl" : null,
  "previousPageToken" : null,
  "previousPageUrl" : null
}
```

### リストビューの結果の変更

List View リソースで返される結果を変更するには、次の要求パラメータを使用します。

- `pageSize` — 一度に表示されるリストレコードの数。
- `pageToken` — ページのオフセットを表すトークン。
- `q` — リストのクエリに使用されるキーワード。

- recentListsOnly — 最近参照したリストのみを表示します。

たとえば、最近参照したリストのみを表示するには、recentListsOnly パラメータを true に設定します。

```
GET /services/data/v43.0/ui-api/list-ui/Account?recentListsOnly=True
```

## 最後に使用したリストビューの UI の構築

ユーザインターフェース API の新しいリソースでは、オブジェクトの最後に使用した (MRU) リストビューに関するレコードデータやメタデータを簡単に取得できます。これらのリソースを使用して、MRU リストビューの UI を構築します。

### MRU List View リソースの概要

オブジェクトの MRU リストビューのレコードデータやメタデータを取得するには、次のリソースを使用します。

- /ui-api/mru-list-records/\${objectApiName} — オブジェクトの MRU リストビューのレコードデータを取得します。
- /ui-api/mru-list-info/\${objectApiName} — オブジェクトの MRU リストビューのメタデータを取得します。
- /ui-api/mru-list-ui/\${objectApiName} — オブジェクトの MRU リストビューのレコードデータやメタデータを取得します。

### MRU リストビューのメタデータの取得

たとえば、最後に使用した取引先リストビューのレコードデータやメタデータに関する情報を取得するには、次の要求を実行します。

```
/services/data/v43.0/ui-api/mru-list-info/Account
```

この要求では、最後に使用した取引先リストビューのレコードデータやメタデータが返されます。

```
{
  "eTag" : "70eb4acb889c6dc5954f2e4ad25f428c",
  "info" : {
    "cloneable" : false,
    "createable" : true,
    "deletable" : false,
    "displayColumns" : [ {
      "fieldApiName" : "Name",
      "label" : "Account Name",
      "sortable" : true
    }, {
      "fieldApiName" : "Site",
      "label" : "Account Site",
      "sortable" : true
    }, {
      "fieldApiName" : "Phone",
      "label" : "Phone",
      "sortable" : true
    }, {
      "fieldApiName" : "Owner.Alias",
```



```

    "label" : "Account Owner Alias",
    "sortable" : true
  } ],
  "eTag" : "c4f11fa9015eeb2387d301daeabb8b43",
  "filterLogicString" : null,
  "filteredByInfo" : [ ],
  "label" : "Recently Viewed",
  "listReference" : {
    "id" : null,
    "listViewApiName" : null,
    "objectApiName" : "Account",
    "type" : "mru"
  },
  "orderByInfo" : [ ],
  "updateable" : false,
  "userPreferences" : {
    "columnWidths" : {
      "Site" : -1,
      "Owner.Alias" : -1,
      "Phone" : -1,
      "Name" : -1
    },
    "columnWrap" : {
      "Site" : false,
      "Owner.Alias" : false,
      "Phone" : false,
      "Name" : false
    }
  },
  "visibility" : "Public",
  "visibilityEditable" : false
},
"records" : {
  "count" : 6,
  "currentPageToken" : "0",
  "currentPageUrl" :
"/services/data/v43.0/ui-api/mru-list-records/Account?pageSize=50&pageToken=0",
  "listInfoETag" : "c4f11fa9015eeb2387d301daeabb8b43",
  "nextPageToken" : null,
  "nextPageUrl" : null,
  "previousPageToken" : null,
  "previousPageUrl" : null,
  "records" : [ {
    "apiName" : "Account",
    "childRelationships" : { },
    "eTag" : "e4475909d999e4c05a79afcf25b74947",
    "fields" : {
      "CreatedDate" : {
        "displayValue" : null,
        "value" : "2018-04-11T00:37:56.000Z"
      },
      "Id" : {
        "displayValue" : null,
        "value" : "001RM000003UNu0YAG"
      }
    }
  }
]

```

```

    },
    "LastModifiedDate" : {
      "displayValue" : null,
      "value" : "2018-04-11T00:37:56.000Z"
    },
    "Name" : {
      "displayValue" : null,
      "value" : "Grand Hotels & Resorts Ltd"
    },
    "Owner" : {
      "displayValue" : null,
      "value" : {
        "apiName" : "User",
        "childRelationships" : { },
        "eTag" : "671bc4877d13cd4f43d28a671636f873",
        "fields" : {
          "Alias" : {
            "displayValue" : null,
            "value" : "AUser"
          },
          "Id" : {
            "displayValue" : null,
            "value" : "005RM000001cNuJYAU"
          }
        }
      },
      "id" : "005RM000001cNuJYAU",
      "recordTypeInfo" : null
    }
  },
  "OwnerId" : {
    "displayValue" : null,
    "value" : "005RM000001cNuJYAU"
  },
  "Phone" : {
    "displayValue" : null,
    "value" : "(312) 596-1000"
  },
  "Site" : {
    "displayValue" : null,
    "value" : null
  },
  "SystemModstamp" : {
    "displayValue" : null,
    "value" : "2018-04-11T00:37:56.000Z"
  }
},
{id : "001RM000003UNu0YAG",
recordTypeInfo : null
}, {
... Additional records removed for brevity ...
} ]
}
}

```

## リストビューの結果の変更

List View リソースで返される結果を変更するには、次の要求パラメータを使用します。

- `fields` — 表示するために返されたレコードを照会する追加項目。ユーザがアクセスできない項目が指定されると、エラーが発生します。
- `optionalFields` — 表示するために返されたレコードを照会する追加項目。ユーザがアクセスできない項目が指定されても、エラーは発生しません。
- `pageSize` — 一度に表示されるリストレコードの数。
- `pageToken` — ページのオフセットを表すトークン。
- `sortBy` — リストビューの並び替えの基準となる項目の API 参照名。

たとえば、作成日でレコードを並び替える場合、`sortBy` パラメータを `CreatedDate` に設定します。

```
GET /services/data/v43.0/ui-api/mru-list-ui/Account?sortBy=CreatedDate
```

## アプリケーションの UI の構築

ユーザインターフェース API の新しいリソースでは、Salesforce UI のアプリケーションに関するレコードデータやメタデータを簡単に取得できます。これらのリソースを使用して、ユーザの特定のアプリケーションまたはすべてのアプリケーションのメタデータを取得します。

### アプリケーションリソースの概要

アプリケーションのレコードデータやメタデータを取得するには、次のリソースを使用します。

- `/ui-api/apps` — ユーザがアクセスできるすべてのアプリケーションのメタデータを取得します。
- `/ui-api/apps/{appId}` — オブジェクトの MRU リストビューのメタデータを取得します。
- `/ui-api/apps/{appId}` — ユーザが最後に選択したアプリケーションを保存し、そのメタデータを返します。
- `/ui-api/apps/selected` — 現在のユーザが最後に選択したアプリケーションまたは現在のユーザにデフォルトで表示されるアプリケーションを返します。
- `/ui-api/apps/{appId}/user-nav-items` — ユーザのパーソナライズされたナビゲーション項目を取得します。

### ユーザがアクセスできるすべてのアプリケーションのメタデータの取得

ユーザに ID `06mRM000000AFIrYAO` のアプリケーションがあるとします。このアプリケーションのメタデータを取得するには、次の要求を実行します。

```
GET /services/data/v43.0/ui-api/apps/06mRM000000AFIrYAO?formFactor=Large
```

この要求では、アプリケーションとそれに関連付けられているナビゲーション項目のメタデータが返されます。

```
{
  "appId": "06mRM000000AFIrYAO",
  "description": "Manage customer service with accounts, contacts, cases, and more",
  "developerName": "Service",
  "formFactors": ["Large"],
  "headerColor": "#0070D2",
```

```

"iconUrl": "https://yourInstance.salesforce.com/logos/Salesforce/ServiceCloud/icon.png",

"isNavAutoTempTabsDisabled" : false,
"isNavPersonalizationDisabled" : false,
"label": "Service",
"logoUrl": "https://yourInstance.salesforce.com/logos/Salesforce/ServiceCloud/logo.png",

"mobileStartUrl": null,
"navItems": [{
  "availableInClassic": true,
  "availableInLightning": true,
  "color": "EF7EAD",
  "content": "home__desktopDefault",
  "custom": false,
  "developerName": "standard-home",
  "iconUrl": "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/t4v35/standard/home_120.png",

  "id": null,
  "itemType": "Standard",
  "label": "Home",
  "objectApiName": "Home",
  "pageReference": {
    "attributes": {
      "pageName": "home"
    },
    "state": {},
    "type": "standard__namedPage"
  },
  "standardType": "Home"
}, {
  "availableInClassic": false,
  "availableInLightning": true,
  "color": "489DD0",
  "content": null,
  "custom": false,
  "developerName": "standard-Feed",
  "iconUrl": "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/t4v35/standard/feed_120.png",

  "id": null,
  "itemType": "Standard",
  "label": "Chatter",
  "objectApiName": "Feed",
  "pageReference": {
    "attributes": {
      "pageName": "chatter"
    },
    "state": {},
    "type": "standard__namedPage"
  },
  "standardType": "Feed"
}],
"selected": true,
"startUrl": "https://yourInstance.salesforce.com/home/home.jsp?tsid=02uRM000000AFIr",
"uiType": "Classic",

```

```
"userNavItems": []
}
```

## ユーザインターフェース API のその他の変更

ユーザインターフェース API にも小さな、ただし重要な変更が加えられました。

### PATCH 要求での If-Modified-Since のサポート

PATCH 要求を実行してレコードを更新する場合、ユーザが編集を開始してからレコードが変更されていないことを確認します。レコードを保存しても問題ないかどうかを確認するには、要求で `If-Modified-Since` HTTP ヘッダーを渡します。

この変更は、すべての API バージョンに適用されます。

### 参照のみ項目を作成または更新しようとするエラーが発生

API バージョン 43.0 では、PATCH または POST 要求のリクエストボディで参照のみ項目を渡すと、Output レスポンスボディでサーバからエラーが返されます。これには、エラーに関する情報が含まれています。

### 重複レコードを保存するかどうかを決定する

Record Input リクエストボディに、重複レコードを保存するかどうかを指定する `allowSaveOnDuplicate` プロパティが新しく追加されました。デフォルト値は、`false` です。Record Input リクエストボディを次のリソースで使用します。

- レコードの更新: PATCH /ui-api/records/{recordId}
- レコードの作成: POST /ui-api/records

### 新しい項目データの種別

Field レスポンスボディの `dataType` プロパティに新しい値 `ComboBox` が追加されました。

### コミュニティユーザアクセス

Customer Community または Partner Community [ユーザライセンス](#) を持つユーザは、ユーザインターフェース API にアクセスできます。

## Bulk API

Bulk API には、制限の処理と PK Chunking 要求ヘッダーに対する変更が含まれます。

Bulk API では、クエリ結果から返されるバッチサイズに制限が適用されるようになりました。この変更は、JobInfo リソースの `contentType` 項目が XML に設定されているジョブにのみ影響します。

PK Chunking 要求ヘッダーは、Event、EventRelation、および CaseHistory オブジェクトでサポートされるようになりました。

## Lightning クイックアクションおよびSalesforce ClassicパブリッシャーのJavaScript API

カスタムコンポーネントで `lightning:quickActionAPI` コンポーネントを使用して、ページのクイックアクションとやりとりします。このコンポーネントは、Lightning クイックアクション JavaScript API のメソッドをコールして、Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API (ケースフィードパブリッシャー API と呼ばれる) と類似の機能を提供します。Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API を使用した場合、Visualforce コンポーネントおよびページは Lightning Experience で自動的に機能するようになりました。コードを再記述する必要はありません。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API と新しい Lightning クイックアクション JavaScript API には、いくつかの相違点があります。

相違点	Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API	Lightning クイックアクション JavaScript API
実装	<p>実装するには、パブリッシャースクリプトを Visualforce ページまたはコンポーネントに読み込みます。たとえば、次のように指定します。</p> <pre>&lt;script type='text/javascript' src='/canvas/sdk/js/43.0/publisher.js' /&gt;</pre> <p>Sfdc.canvas.publisher オブジェクトからパブリッシャー API を参照できます。たとえば、次のように指定します。</p> <pre>Sfdc.canvas.publisher.selectAction({...})</pre>	<p>実装するには、カスタム Lightning コンポーネントで <code>lightning:quickActionAPI</code> コンポーネントを使用します。たとえば、次のように指定します。</p> <pre>&lt;aura:component implements="flexipage:availableForRecordHome" description="My lightning component"&gt;   &lt;lightning:quickActionAPI     aura:id="quickActionAPI"/&gt; &lt;/aura:component&gt;</pre> <p>コントローラコードでクイックアクション API を参照できます。</p>
サポートされるアクション、ページ、およびアプリケーション	Salesforce Classic アプリケーションのレコードページにある、フィールドに対応しているオブジェクトのクイックアクションと連動します。	任意の Lightning Experience アプリケーションのレコードページにあるクイックアクションと連動します。
使用可能なメソッド	<p>次のメソッドを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>publisher.selectAction</code></li> <li>• <code>publisher.setActionInputValues</code></li> <li>• <code>publisher.invokeAction</code></li> <li>• <code>publisher.customActionMessage</code></li> </ul>	<p>次のメソッドを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>selectAction</code></li> <li>• <code>getSelectedActions</code></li> <li>• <code>setActionFieldValues</code></li> <li>• <code>invokeAction</code></li> <li>• <code>getCustomAction</code></li> <li>• <code>refresh</code></li> </ul>

相違点	Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API	Lightning クイックアクション JavaScript API
Lightning Experience および Salesforce Classic のサポート	<p>Salesforce Classic と Lightning Experience で機能します。</p> <p> <b>ヒント:</b> Salesforce Classic JavaScript パブリッシャー API の API バージョン 43.0 以降、Visualforce コンポーネントおよびページで使用されるメソッドは Lightning Experience で機能します。Visualforce ページでパブリッシャー API スクリプトの最新バージョンをポイントするだけです。</p> <pre data-bbox="435 716 927 852">&lt;script src="/canvas/sdk/js/43.0/publisher.js" type="text/javascript"&gt; &lt;/script&gt;</pre> <p> <b>メモ:</b> portalPostFields 入力値は Lightning Experience ではサポートされていません。</p>	<p>Lightning Experience でのみ機能します。</p> <p>Lightning クイックアクション API を操作する場合、次の点に留意します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 次の項目には API を使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 商談商品</li> <li>- ナレッジ記事</li> <li>- サービスクルーオブジェクトのクルーサイズ項目</li> <li>- ソーシャルカスタマーサービスで提供されるケースフィードパブリッシャーのソーシャルクイックアクション</li> </ul> </li> <li>• lightning:quickActionAPI コンポーネントは、コミュニティでは機能しません。</li> <li>• カスタム Visualforce または Lightning コンポーネントアクション種別で作成されたクイックアクションを操作するには、getCustomAction メソッドを使用します。</li> </ul>

#### 関連トピック:

[パブリッシャーおよびクイックアクションの API 開発者ガイド](#)

## Salesforce コンソール API

より多くの Salesforce コンソールインテグレーションツールキット JavaScript API を Lightning コンソール JavaScript API で使用できます。コンソールアプリケーションのナビゲーション項目を操作したり、コンソールタブを更新したり、ユーティリティのイベントハンドラを登録したりします。LiveAgent とオムニチャネルにも新しいメソッドおよびイベントが追加されました。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** 次のメソッドが API バージョン 43.0 で新規追加または変更されました。

## ナビゲーション項目

**focusNavigationItem()**

選択されたナビゲーションオブジェクトにフォーカスし、オブジェクトのホームページを開きます。通常、標準およびカスタムオブジェクトでは、オブジェクトのリストビューが開かれます。分割ビューが開いている場合、フォーカスは選択されたナビゲーションオブジェクトに当てられたままになります。

**getNavigationItems()**

項目メニューのすべての項目に関する情報を返します。

**getSelectedNavigationItem()**

選択されたナビゲーション項目に関する情報を返します。

**refreshNavigationItem()**

選択されたナビゲーションオブジェクトのホームページを更新します。通常、標準およびカスタムオブジェクトでは、オブジェクトのリストビューが開かれます。分割ビューが開いている場合、ビューが更新されます。

## ワークスペースタブとサブタブ

**refreshTab()**

tabId で指定されたワークスペースタブまたはサブタブを更新します。最初のサブタブの tabId は、ワークスペースタブと同じになります。

**disableTabClose()**

ワークスペースタブまたはサブタブを閉じることができないようにします。このメソッドは、タブまたはサブタブから [閉じる] ボタンを削除し、タブまたはサブタブを閉じるキーボードショートカットを無効にします。

**setTabHighlighted()**

新しい引数は、アニメーションを使用してタブを目立たせます。

**openTab()**

URL 引数の新しい Lightning URL 形式のサポートが追加されました。

**openSubtab()**

URL 引数の新しい Lightning URL 形式のサポートが追加されました。

## ユーティリティ

**onUtilityClick()**

ユーティリティのイベントハンドラを登録します。このイベントハンドラは、ユーティリティがクリックされるとコールされます。

## Live Agent

**endChat()**

エージェントが参加しているチャットを終了します。

**getChatLog()**

特定のチャットキーに関連付けられたチャットのログを返します。

**sendCustomEvent()**

特定のチャットキーを持つチャットのクライアント側のチャットウィンドウにカスタムイベントを送信します。



**sendMessage ()**

特定のチャットキーを持つチャットに、エージェントから新しいチャットメッセージを送信します。

**Omni-Channel****acceptAgentWork ()**

エージェントに割り当てられた作業項目を受け入れます。

**closeAgentWork ()**

作業項目の状況を[完了]に変更し、オムニチャネルユーティリティの作業項目リストから削除します。

**declineAgentWork ()**

エージェントに割り当てられた作業項目を却下します。

**getAgentWorkload ()**

エージェントに現在割り当てられているワークロードを取得します。このメソッドは、対応可能なエージェントに作業を再転送するために使用します。

**getAgentWorks ()**

現在エージェントに割り当てられ、エージェントのワークスペースで開いている作業項目のリストを返します。

**getServicePresenceStatusChannels ()**

オムニチャネルユーザの現在のプレゼンス状況に関連付けられたサービスチャンネルを取得します。

**getServicePresenceStatusId ()**

エージェントの現在のプレゼンス状況を取得します。

**login ()**

エージェントが特定のプレゼンス状況でオムニチャネルにログインします。

**logout ()**

エージェントがオムニチャネルからログアウトします。

**setServicePresenceStatus ()**

エージェントのプレゼンス状況を特定のIDを持つ状況に設定します。指定したエージェントがまだログインしていない場合、プレゼンス状況を使用してエージェントをログインさせます。このメソッドによって、追加のコールを実行する必要がなくなります。

**関連トピック:**

[Salesforce コンソール開発者ガイド \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

[Salesforce Classic Console API Methods Supported in the Lightning Console API \(Lightning コンソール API でサポートされている Salesforce Classic コンソール API メソッド\) \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## \$CustomMetadata グローバル変数

\$CustomMetadata は入力規則数式のグローバル変数で、\$CustomMetadata.type.record.fieldの構文を使用してカスタムメタデータ型を動的に参照します。

## デバッグ: 新しいデバッガ、更新されたデバッグログの形式と制限、フローとプロセスのログの変更

VS Code 向け Salesforce 拡張機能に、デバッグログを使用してデバッグセッションをシミュレーションする Apex Replay Debugger が含まれるようになりました。デバッグログの行にわずかな、ただし重要な変更が加えられました。大きなログを保存できるようになりましたが、すべてのユーザをサービスの低下から保護するために、制限がいくつか加えられました。フローとプロセスのログが一段と堅牢になりました。

このセクションの内容:

### Visual Studio Code の新しいデバッガを使用したバグの排除

デバッグログを使用してデバッグセッションをシミュレーションする Apex Replay Debugger を使用して、すべての組織の問題を排除します。

### 更新されたログ行を使用した効果的なデバッグログの解析

デバッグログ行の形式とコンテンツに変更がいくつか加えられました。また、SYSTEM\_CONSTRUCTOR\_ENTRY イベントの記録方法も修正されました。

### ログ制限の変更によるデバッグログの保存容量の増加

ログごとのデバッグログのサイズ制限が 2 MB から 5 MB に増加しました。最大 250 MB のデバッグログを一度に保存できます。システムログは 7 日後ではなく 24 時間後に自動的に削除されるようになりました。監視ログは引き続き 7 日間保存されます。

### 新しいログ行によるフローとプロセスのトラブルシューティング

フローとプロセスのガバナ制限および一括処理の問題を適切にトラブルシューティングするため、4つの新しいデバッグログ行が追加されました。

## Visual Studio Code の新しいデバッガを使用したバグの排除

デバッグログを使用してデバッグセッションをシミュレーションする Apex Replay Debugger を使用して、すべての組織の問題を排除します。

詳細は、「[Apex Replay Debugger を使用してすべての組織を無料でデバッグ \(ベータ\)](#)」を参照してください。

## 更新されたログ行を使用した効果的なデバッグログの解析

デバッグログ行の形式とコンテンツに変更がいくつか加えられました。また、SYSTEM\_CONSTRUCTOR\_ENTRY イベントの記録方法も修正されました。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**理由:** Salesforce は多くのユーザがデバッグログの解析ツールを構築していることに気づいていましたが、Salesforce 自身でログの解析に手を出すことは控えてきました。この考えを改めて、Apex Replay Debugger の構築を開始しました。このベータリリースは近日公開される予定です。シャンパンを飲んで、さらに高品質なブドウが使えたことに気付きました。

デバッグログに不整合がないかを継続して監視し、お客様からのフィードバックや Salesforce の経験に基づき、必要に応じて改善します。

**方法:** デバッグログを解析する場合、次の変更を考慮してツールを更新します。

- SYSTEM\_CONSTRUCTOR\_ENTRY イベントは CONSTRUCTOR\_ENTRY イベントのように誤って記録されることがなくなりました。
- TypeRef がいくつかのログ行の末尾に追加されます。typeRef の詳細と形式については『[Tooling API](#)』で [ApexExecutionOverlayAction](#) の ExecutableEntityName 項目を参照してください。

- Apex トリガの TypeRef が CODE\_UNIT\_STARTED および CODE\_UNIT\_FINISHED イベントのログエントリの末尾に追加されます。トリガ typeRef にはプレフィックス `__sfdc_trigger/` が含まれます。

古いログ行: 17:30:42.4

```
(4577278) |CODE_UNIT_STARTED| [EXTERNAL] |01qxxxxxxxxxxxxx|YourTrigger on Account trigger event BeforeInsert
```

新しいログ行: 17:30:42.4

```
(4577278) |CODE_UNIT_STARTED| [EXTERNAL] |01qxxxxxxxxxxxxx|YourTrigger on Account trigger event BeforeInsert|__sfdc_trigger/YourTrigger
```

- Visualforce コントローラの TypeRef が VF\_APEX\_CALL\_START および VF\_APEX\_CALL\_END イベントのログエントリの末尾に追加されます。

古いログ行: 17:30:42.4

```
(4683272) |VF_APEX_CALL_START| [EXTERNAL] |01pxxxxxxxxxxxxx|YourApexClass invoke (yourApexMethod)
```

新しいログ行: 17:30:42.4

```
(4683272) |VF_APEX_CALL_START| [EXTERNAL] |01pxxxxxxxxxxxxx|YourApexClass invoke (yourApexMethod) |YourApexClass
```

- Apex クラスまたは内部クラスの TypeRef が CONSTRUCTOR\_ENTRY および CONSTRUCTOR\_EXIT イベントのログエントリの末尾に追加されます。

古いログ行: 17:30:42.4 (33834629) |CONSTRUCTOR\_ENTRY| [5] |01pxxxxxxxxxxxxx|<init> (String)

新しいログ行: 17:30:42.4

```
(33834629) |CONSTRUCTOR_ENTRY| [5] |01pxxxxxxxxxxxxx|<init> (String) |YourClass.YourInnerClass
```

- VARIABLE\_SCOPE\_BEGIN および VARIABLE\_ASSIGNMENT イベントでは、静的変数に名前空間が含まれません (該当する場合)。

古いログ行: 18:17:19.3 (6298966) |VARIABLE\_ASSIGNMENT| [2] |yourString| "Hello World!"

新しいログ行: 18:17:19.3

```
(6298966) |VARIABLE_ASSIGNMENT| [2] |YourNamespace.yourString| "Hello World!"
```

- CODE\_UNIT\_STARTED および CODE\_UNIT\_FINISHED イベントでは、Apex メソッドの署名に括弧が表示されません。

古いログ行: 18:23:34.3

```
(3142744) |CODE_UNIT_STARTED| [EXTERNAL] |01pxxxxxxxxxxxxx|YourApexClass.yourApexMethod
```

新しいログ行: 18:23:34.3

```
(3142744) |CODE_UNIT_STARTED| [EXTERNAL] |01pxxxxxxxxxxxxx|YourApexClass.yourApexMethod()
```

- WF\_RULE\_EVAL\_VALUE イベントでは、0 または 1 ではなく true または false が表示されます。
- 以前は、フローインタビューの開始時にエラーが発生すると、そのエラーは FLOW\_START\_INTERVIEWS\_END に記録されていました。これらのエラーは、FLOW\_START\_INTERVIEWS\_ERROR に記録されるようになりました。

## ログ制限の変更によるデバッグログの保存容量の増加

ログごとのデバッグログのサイズ制限が 2 MB から 5 MB に増加しました。最大 250 MB のデバッグログを一度に保存できます。システムログは 7 日後ではなく 24 時間後に自動的に削除されるようになりました。監視ログは引き続き 7 日間保存されます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**理由:** デバッグログの生成と使用状況を分析すると、ほとんどのログは 5 MB のサイズ制限で切り捨てられないことがわかりました。また、ほとんどの組織が 250 MB を超えるログを一度に保存しないこともわかりました。この新しい制限では、すべてのユーザがサービスの低下から保護されるほか、ほとんどの組織がイベントをすべて記録し、必要なログをすべて保存できます。

**方法:** 組織で 250 MB を超えるデバッグログが蓄積された場合、組織のユーザは追跡フラグを追加したり、編集したりできなくなります。この制限に達した後、さらにログを生成できるように追跡フラグを追加または編集するには、デバッグログをいくつか削除します。デバッグログを削除するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「デバッグログ」と入力し、[デバッグログ] > [削除] を選択します。

システムログを 24 時間以上保存する場合は、ローカルのワークステーションに保存することができます。

## 新しいログ行によるフローとプロセスのトラブルシューティング

フローとプロセスのガバナ制限および一括処理の問題を適切にトラブルシューティングするため、4 つの新しいデバッグログ行が追加されました。

**対象:** この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** デバッグログを使用してフローまたはプロセスの問題をトラブルシューティングする場合、次のイベントを見逃さないようにしてください。

イベント	説明	レベル
FLOW_BULK_ELEMENT_LIMIT_USAGE	トランザクション単位のガバナ制限に対する、一括実行された要素による使用状況を識別します。	FINER (より詳細) 以上
FLOW_BULK_ELEMENT_NOT_SUPPORTED	関連付けられたオブジェクトが一括操作をサポートしないために要素を一括処理できなかったことを識別します。	INFO (情報) 以上

イベント	説明	レベル
FLOW_ELEMENT_LIMIT_USAGE	トランザクション単位のガバナ制限に対する、フロー要素による使用状況を識別します。	FINER (より詳細) 以上
FLOW_START_INTERVIEW_LIMIT_USAGE	フローインタビューが開始されてフロー要素が実行されるまでの、トランザクション単位のガバナ制限に対する使用状況を識別します。	FINER (より詳細) 以上

#### 関連トピック:

[トランザクション単位のガバナ制限に対するプロセスとフローの使用状況の監視](#)

[フローおよびプロセスの一括操作がサポートされていることの確認](#)

[更新されたログ行を使用した効果的なデバッグログの解析](#)

[Salesforce ヘルプ: デバッグログの設定](#)

[Salesforce ヘルプ: デバッグログレベル \(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります\)](#)

## VS Code 向け Salesforce 拡張機能: 新しいデバグ

毎週のリリースに加えられている機能強化のほか、VS Code v43 向け Salesforce 拡張機能には重要な機能強化である Apex Replay Debugger が含まれています。この機能は、2018 年 6 月 9 日の VS Code v43 向け Salesforce 拡張機能のリリース時に使用可能になります。

VS Code 向け Salesforce 拡張機能を開始する方法についての詳細は、Visual Studio Code Marketplace で [salesforcedx-vscode のドキュメント](#) を参照してください。

毎週のリリースに加えられた機能強化についての詳細は、VS Code 向け Salesforce 拡張機能の [変更ログ](#) を参照してください。

#### このセクションの内容:

[Apex Replay Debugger を使用してすべての組織を無料でデバッグ \(Beta\)](#)

Apex Replay Debugger は、トランザクション内のすべての操作を記録するデバッグログを使用してライブデバッグセッションをシミュレーションします。数千ものログ行全体を手動で解析する必要は無くなりました。代わりに、Apex Replay Debugger が対話型デバグと同様に、記録された情報を表示し、これにより、Apex コードをデバッグできます。


[Force.com IDE 2 \(ベータ\) の終了](#)

2018 年 2 月 14 日にお知らせしたとおり、Force.com IDE 2 ベータリリースが終了しました。今後は、VS Code 向け Salesforce 拡張機能の使用をお勧めします。従来のバージョンの Force.com IDE は引き続き使用できます。

## Apex Replay Debugger を使用してすべての組織を無料でデバッグ (Beta)

Apex Replay Debugger は、トランザクション内のすべての操作を記録するデバッグログを使用してライブデバッグセッションをシミュレーションします。数千ものログ行全体を手動で解析する必要は無くなりました。代わりに、Apex Replay Debugger が対話型デバッガと同様に、記録された情報を表示し、これにより、Apex コードをデバッグできます。

**対象:** この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

 **メモ:** Apex Replay Debugger はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。Apex Replay Debugger に関するフィードバックや提案は、GitHub の [salesforcedx-vscode](#) リポジトリの「[Issues](#)」セクションに投稿してください。

**時期:** Apex Replay Debugger は、2018 年 6 月 9 日の VS Code v43 向け Salesforce 拡張機能のリリース時に使用可能になります。

**対象ユーザ:** デバッグログを参照、保持、削除するには、「すべてのデータの参照」ユーザ権限が必要です。

**理由:** Salesforce の対話型デバッガである Apex デバッガは Sandbox およびスクラッチ組織のみをデバッグします。ただし、組織のソースコードとデバッグログがあれば、本番組織を含むあらゆる組織で Apex Replay Debugger を使用できます。Apex Replay Debugger は無料なだけではありません。これはオープンソースです!

**方法:** Apex Replay Debugger を開始する方法についての詳細は、Visual Studio Code Marketplace で [salesforcedx-vscode-apex-replay-debugger](#) のドキュメントを参照してください。

## Force.com IDE 2 (ベータ) の終了

2018 年 2 月 14 日にお知らせしたとおり、Force.com IDE 2 ベータリリースが終了しました。今後は、VS Code 向け Salesforce 拡張機能の使用をお勧めします。従来のバージョンの Force.com IDE は引き続き使用できます。

**対象:** この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**時期:** このツールの今後のリリースは提供されず、2018 年 5 月 3 日以降、このツールはダウンロードできなくなります。2018 年 4 月 23 日の時点で『Force.com IDE 2 開発者ガイド』にアクセスできなくなります。

**理由:** 顧客フィードバックおよび今後のリリースのロードマップの評価後、VS Code 向け Salesforce 拡張機能の方向性は Salesforce の長期計画に沿って調整されます。これらの計画では、言語サーバプロトコルやデバッグアダプタプロトコルなどのオープン標準による、オープンツール作成を重視しています。オープン標準の利用により、Salesforce は優れた機能をいっそう迅速に提供できます。

Salesforce では、同時に 2 つのエディタを構築することは非合理的であると判断しました。1 つのエディタの構築していくことで、顧客とパートナーに最良のサービスを提供することに注力します。また、VS Code 向け Salesforce 拡張機能はオープンソースであり、コミュニティからのプル要求を受け入れます。

Force.com IDE2 ベータを利用し、価値あるフィードバックを提供してくださった皆様に感謝いたします。これからは Visual Studio Code をご活用いただけると幸いです。

方法: VS Code 向け Salesforce 拡張機能をダウンロードするには、[Visual Studio Code Marketplace](#) にアクセスします。

関連トピック:

[Salesforce Spring '18 リリースノート: Force.com IDE 2 \(ベータ\) の終了](#)

[Salesforce 開発者ブログ: All About Salesforce Extensions for VS Code \(VS Code 向け Salesforce 拡張機能のすべて\)](#)

## Salesforce CLI: プラグイン開発サポート、合理化されたパッケージ化コマンド、拡張されたデバッグログ

Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) を使用することで、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクル全体の制御が容易になります。この新機能および変更された機能は、2018 年 6 月 9 日に Salesforce CLI v43 がリリースされた時点で使用できます。

Salesforce CLI の変更は定期的リリースされます。CLI のバージョン 43 または以前のバージョン (42) の最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

これらのコマンドおよびパラメータは、バージョン 43、またはバージョン 42 の週次更新で変更されています。詳細は『[Salesforce CLI Command Reference \(Salesforce CLI コマンドリファレンス\)](#)』のバージョン 43 を参照してください。

### 新しいコマンド

#### **plugins:generate**

Salesforce プラグインジェネレータを使用して、Salesforce CLI のプラグインを作成します。生成された sfdx プラグインとコマンドは、oclif cli フレームワークの先頭に作成されます。詳細は、<https://github.com/forcedotcom/sfdx-plugin-generate> を参照してください。

#### **force:apex:log:get**

このコマンドを使用して、特定のデバッグログを取得、またはデフォルトのスクラッチ組織から直近のログを指定した数だけ取得します。

#### **force:apex:log:tail**

このコマンドを使用して、デバッグログの設定を有効にし、ターミナルにログを出力します。また、デバッグログをファイルに渡せます。

### 変更されたコマンド

#### **force:package** コマンドによる **force:package2** コマンドの置き換え

Salesforce はすべての第二世代パッケージコマンドを合理化しています。また、パッケージの作成を容易にする、より直感的な新しいパラメータをいくつか追加しています。force:package2 コマンドは Winter '19 で廃止されるまで引き続き使用できます。第一世代パッケージバージョンの作成に使用する force:package1 コマンドに変更はありません。

詳細は、「[より容易なパッケージを作成および管理 \(ベータ\)](#)」を参照してください。

**force:source** コマンド

ソース状況の追跡を Lightning Experience テーマで使用できるようになりました。

## 新しいパラメータ

**force:package:install -r | --noprompt**

このパラメータにより、リモートサイトの設定およびコンテンツセキュリティポリシーの Web サイトが確認なしでデータを送受信できるようになります。

## 変更されたパラメータ

**force:apex:test:run -c | --codecoverage**

パフォーマンスを向上するため、`-c | --codecoverage` フラグが指定された場合にのみ `force:apex:test:run` のコードカバレッジを計算し、結果を取得します。

**sfdx force:apex:test:run --resultsformat human**

出力に新しいセクション `=== Failures` が追加されました。このセクションには、失敗したテストのスタック追跡が含まれます。[VS Code 向け Salesforce 拡張機能](#)では、これらのスタック追跡は、コードの行に対する有効なリンクです。

**force:package2:version:create --buildinstance**

このパラメータは内部的に使用されるものであり、意図せず公開されていたため、削除しました。

**sfdx force:apex:test:run --resultsformat human**

出力に新しいセクション `=== Failures` が追加されます。このセクションには、失敗したテストのスタック追跡が含まれます。[VS Code 向け Salesforce 拡張機能](#)では、これらのスタック追跡は、コードの行に対する有効なリンクです。

## インストールと設定に関する変更

**v6 Linux Tarball** のルートディレクトリのバージョン設定

新しい v6 Linux インストーラ `tarball` のルートディレクトリがバージョン設定され、リリースごとに変更されます。ディレクトリ名の一貫性を維持するための手順は、次のとおりです(CIの使用事例で特に重要です)。

1. 次のいずれかの `tarball` を取得します。

```
wget https://developer.salesforce.com/media/salesforce-cli/sfdx-linux-amd64.tar.xz
```

```
wget https://developer.salesforce.com/media/salesforce-cli/sfdx-linux-386.tar.xz
```

2. `sfdx` フォルダを作成します。

```
mkdir sfdx
```

3. 使用する `tarball` バージョンのファイルを抽出します。

```
tar xJf sfdx-linux-amd64.tar.xz -C sfdx --strip-components
```

```
tar xJf sfdx-linux-386.tar.xz -C sfdx --strip-components 1
```

4. `./sfdx/install` を実行します。



### Linux 用 Windows 10 サブシステム

Windows 10 Subsystem for Linux での Salesforce CLI のインストールはサポートされなくなりました。Salesforce CLI は、ネイティブ Windows コマンドプロンプト (cmd.exe) および Microsoft Powershell 内で最適に動作します。

### Windows インストーラの更新

Windows での Salesforce CLI のインストール時、Git をインストールしなくなりました。Salesforce CLI は Git に依存しなくなりました。

## Salesforce プラグインジェネレータ (ベータ)

Salesforce CLI のプラグインの構築に使用できる Salesforce プラグインジェネレータ (ベータ) をリリースしました。生成された sfdx プラグインとコマンドは、オープン CLI フレームワークに基づいて構築されます。詳細は、「Salesforce プラグインジェネレータ」を参照してください。

### プラグイン開発サポート

プラグイン開発をサポートするために、sfdx-project.json ファイルにプラグインセクションを追加しました。このセクションで、プラグインの設定値と設定を追加します。

```
"plugins": {
  "yourPluginName": {
    "timeOutValue": "2"
  }
}
```

プロパティへのアクセスに使用できるコードの例を次に示します。

```
import { Project, SfdxProjectJson } from '@salesforce/core'

const project: Project = await Project.resolve(process.cwd());
const sfdxProject: SfdxProjectJson = await project.retrieveSfdxProjectJson();
const pluginSettings: any = sfdxProject.get('plugins');
this.ux.log('timeOutValue: ${pluginSettings.yourPluginName.timeOutValue}');
```

### 生成済みプラグインの接続種別の改善

既存の生成済みプラグインについて、最新の @salesforce/command ライブラリに更新する場合は、tsconfig.json ファイルを更新します。

1. 生成済みのプラグインで次のコマンドを実行します。

```
yarn add --dev @types/jsforce
```

2. tsconfig.json から次の行を削除します。

```
"baseUrl": "./",
  "paths" : {
    "*" : ["/node_modules/@salesforce/core/typings/*"]
  }
```

## スクラッチ組織: 使用可能な新機能

スクラッチ組織の新機能がいくつか提供されています。

**対象:** この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Professional Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

**対象ユーザー:** 本番組織で開発者ハブを有効にした場合、または DevHub トライアル組織にサインアップした場合に、スクラッチ組織を作成できます。

**理由:** Salesforce DX はスクラッチ組織で次の機能をサポートします。

- `CascadeDelete` — 親を削除した場合に、参照関係の子レコードを削除します。
- `ContactsToMultipleAccounts` — 1つの取引先責任者レコードを複数の取引先に関連付けることで、顧客とその勤務先の法人との間のリレーションを追跡します。
- `StateAndCountryPicklist` — 州選択リストと国選択リストを使用すると、都道府県および国のデータをテキスト項目に入力する代わりに、事前定義の標準化されたリストから選択できます。これにより、データをすばやく簡単に入力できます。

**方法:** 機能をスクラッチ組織定義ファイルに追加します。

```
"features": ["CascadeDelete", "StateAndCountryPicklist"],
```

## エンタープライズメッセージング: プラットフォームイベントの Apex テストの機能強化、大規模プラットフォームイベント (パイロット)、および変更データキャプチャ (パイロット)

イベントを使用すると、ビジネスシステム間の通信が簡略化されます。このリリースには、フローおよびプロセスイベント登録者の Apex テストサポートと、テストイベントのオンデマンド配信が含まれます。大規模プラットフォームイベントで数百万件のイベントを効率よく配信できます。変更データキャプチャを使用して Salesforce レコードを外部システムに複製できます。

このセクションの内容:

### Apex でのプロセスおよびフローイベント登録者のテスト

API バージョン 43.0 以降の Apex でプロセスおよびフローイベント登録者のテストを自動化できるようになりました。Apex テストを作成して、プラットフォームイベントに登録されたフローおよびプロセスが期待どおりに動作することを確認します。Apex テストでプラットフォームイベントメッセージが公開されると、プロセスおよびフローを含むすべての登録者が起動します。API バージョン 42.0 以前で保存された Apex テストの場合、プロセスおよびフローイベント登録者はトリガされず、テストできません。

### オンデマンドでのテストイベントの配信

`Test.getEventBus().deliver()` を使用して、Apex テストのテストイベントを配信します。イベントを配信するためにテストの最後に `Test.stopTest()` を使用する必要がなくなりました。テスト内で複数回テストイベントを配信して、各段階で登録者がテストイベントを処理したことを確認できるようになりました。

### Apex テストでの登録者情報へのアクセス

Apex テストで `EventBusSubscriber` を使用して、登録者状態情報を取得できるようになりました。 `EventBusSubscriber` には、 `LastError` と `Retries` の 2つの項目があります。これらの項目には、再試行された Apex トリガ (`EventBus.RetryableException` が発生したトリガ) に関する情報が含まれています。

**再試行回数が多すぎて Apex トリガが一時停止されている場合に通知を受信**

プラットフォームイベントに登録された Apex トリガが最大再試行回数を超えると、新しいイベントメッセージの処理が停止します。その後、エラー状態に移行します。トリガを修正して新しいイベントメッセージの処理を再開できるようにメールで通知されます。

**プラットフォームイベントの DateTime 項目でのミリ秒数の取得**

CreatedDate などの DateTime 項目に、CometD クライアントに配信される逐次化された JSON イベントメッセージの時間のミリ秒部分が含まれるようになりました。この変更により、DateTime 項目形式が他の Salesforce API の DateTime 形式と同じになります。

## Apex でのプロセスおよびフローイベント登録者のテスト

API バージョン 43.0 以降の Apex でプロセスおよびフローイベント登録者のテストを自動化できるようになりました。Apex テストを作成して、プラットフォームイベントに登録されたフローおよびプロセスが期待どおりに動作することを確認します。Apex テストでプラットフォームイベントメッセージが公開されると、プロセスおよびフローを含むすべての登録者が起動します。API バージョン 42.0 以前で保存された Apex テストの場合、プロセスおよびフローイベント登録者はトリガされず、テストできません。

**対象:** この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

## オンデマンドでのテストイベントの配信

`Test.getEventBus().deliver()` を使用して、Apex テストのテストイベントを配信します。イベントを配信するためにテストの最後に `Test.stopTest()` を使用する必要がなくなりました。テスト内で複数回テストイベントを配信して、各段階で登録者がテストイベントを処理したことを確認できるようになりました。

**対象:** この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** イベントメッセージを複数回配信することは、イベントの連続的な処理をテストする場合に役立ちます。たとえば、同じテスト内のループで登録者の連続アクションを検証できます。

**方法:** `Test.getEventBus().deliver()` を `Test.startTest()` と `Test.stopTest()` のステートメントブロックで囲みます。

```
Test.startTest();
// Create test events
// ...
// Publish test events with EventBus.publish()
// ...
// Deliver test events
Test.getEventBus().deliver();
// Perform validation
// ...
Test.stopTest();
```

## Apex テストでの登録者情報へのアクセス

Apex テストで `EventBusSubscriber` を使用して、登録者状態情報を取得できるようになりました。 `EventBusSubscriber` には、 `LastError` と `Retries` の 2 つの項目があります。これらの項目には、再試行された Apex トリガ (`EventBus.RetryableException` が発生したトリガ) に関する情報が含まれています。

**対象:** この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**理由:** 以前は、テスト以外のコードでのみ `EventBusSubscriber` を介して登録者情報を取得できました。再試行されたトリガの情報は、トリガで `EventBus.TriggerContext.currentContext().retries` および `EventBus.TriggerContext.currentContext().lastError` プロパティを介してのみ取得できました。

**方法:** 次の SOQL クエリでは、 `Order_Event__e` イベントへのすべてのトリガの登録者に関する情報を取得します。

```
SELECT Name, Position, Retries, LastError
FROM EventBusSubscriber
WHERE Topic='Order_Event__e' AND Type='ApexTrigger'
```

## 再試行回数が多すぎて Apex トリガが一時停止されている場合に通知を受信

プラットフォームイベントに登録された Apex トリガが最大再試行回数を超えると、新しいイベントメッセージの処理が停止します。その後、エラー状態に移行します。トリガを修正して新しいイベントメッセージの処理を再開できるようにメールで通知されます。

**対象:** この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** メール通知は、トリガの [最終更新者] 項目で指定された開発者に送信されます。メールは、[設定] の [Apex 例外メール] ページで指定したその他の受信者にも送信されます。最大再試行回数を超えないようにするには、 `EventBus.TriggerContext.currentContext().retries` を使用するか、 `EventBusSubscriber.retries` 項目を照会して、トリガの再試行回数を確認します。

## プラットフォームイベントの DateTime 項目でのミリ秒数の取得

`CreatedDate` などの DateTime 項目に、CometD クライアントに配信される逐次化された JSON イベントメッセージの時間のミリ秒部分が含まれるようになりました。この変更により、DateTime 項目形式が他の Salesforce API の DateTime 形式と同じになります。


**対象:** この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Enterprise Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

**方法:** DateTime 項目の文字列表現は、ISO 8601 標準に準拠し、次の形式になります。

```
YYYY-MM-DDTHH:mm:ss.sssZ
```

新しい DateTime 形式は、API バージョン 43.0 以降を使用している登録クライアントに適用されます。以前は、逐次化された DateTime 項目でミリ秒部分が保持されず、次の形式になっていました。

```
YYYY-MM-DDTHH:mm:ssZ
```

 **メモ:** Apex トリガに配信されるイベントメッセージの場合、Salesforce オブジェクトの DateTime 項目のように DateTime 項目にミリ秒精度が含まれません。

## パッケージ化: パートナー以外もパッケージ化する時代へ

パッケージには、バージョン管理された配信可能なアーティファクトを対象に、そのライフサイクルの各フェーズ間で追跡している変更がすべてカプセル化されます。第一世代および第二世代のパッケージを作成できます。

このセクションの内容:

### パッケージの作成と管理の簡易化 (ベータ)

第二世代パッケージは、合理化されたコマンドと共に Summer'18 で大幅に進化します。Salesforce DX プロジェクトの設定と管理も容易になります。

### パッケージインストール時に有効なレコードが削除されないように拡張検証で予防

取引先レコードタイプを含むパッケージをアンインストールする場合、有効な法人および個人取引先レコードタイプの削除が検証プロセスによって予防されます。これまで、この検証は [レコードタイプ設定] ページから取引先レコードタイプを削除するときのみ発生していました。


### ロック済みパッケージのパイロットの一時停止

入念に検討した結果、ロック済みパッケージのパイロットを一時停止し、そのサポートを Summer '18 で中止することが決定されました。Salesforce CLI パッケージコマンドに、ロック済みパッケージを作成するオプションが含まれなくなりました。

## パッケージの作成と管理の簡易化 (ベータ)

第二世代パッケージは、合理化されたコマンドと共に Summer'18 で大幅に進化します。Salesforce DX プロジェクトの設定と管理も容易になります。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。DevHub は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。スクラッチ組織は、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Professional Edition で使用できます。

 **メモ:** 第二世代パッケージはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は、評価のみを目的としており、本番環境で使用するものではありません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関する義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの規約はすべて、お客様のこの機能の使用にも同様に適用されます。第二世代パッケージについてのフィードバックと提案は、Trailblazer Community の「[Packaging 2 Beta](#)」グループからお寄せください。

時期: この新機能および変更された機能は、2018 年 6 月 9 日に Salesforce CLI v43 がリリースされた時点で使用できます。

理由: パッケージコマンドの使いやすさを向上するため、暗号のようなパッケージ ID よりも覚えやすい別名を導入しました。sfdx-project.json 内で、または CLI パッケージコマンドを実行するときに、ID ではなく名前または文字列を使用できます。ただし、パッケージ ID の使用が望ましい場合は、パッケージ ID を引き続き使用できます。force:packaging2 コマンドは Winter '19 で Salesforce CLI から削除されるまで使用できます。



`force:package1` コマンドを変更する予定はありません。第一世代パッケージバージョンを作成するには、このコマンドを引き続き使用します。

## Salesforce CLI パッケージコマンドの変更

Salesforce CLI コマンドとパラメータの説明については、コマンドライン `--help` または『[Salesforce CLI Command Reference \(Salesforce CLI コマンドリファレンス\)](#)』を参照してください。

廃止されたコマンド (v43 以前)	新しいコマンド (v43)	削除されたパラメータ	新しいまたは変更されたパラメータ
<code>force:package2:create</code>	<code>force:package:create</code>	<code>--containeroptions</code>   <code>-o</code>	<code>--packagetype</code>   <code>-t</code> (フラグは必須です) <code>--path</code>   <code>-p</code>
<code>force:package2:list</code>	<code>force:package:list</code>	なし	なし
<code>force:package2:update</code>	<code>force:package:update</code>	<code>--package2id</code>   <code>-i</code>	<code>--package</code>   <code>-p</code> (別名またはパッケージ ID)
<code>force:package2:version:create</code>	<code>force:package:version:create</code>	<code>--package2id</code>   <code>-i</code>	<code>--definitionfile</code>   <code>-f</code> <code>--package</code>   <code>-p</code> (別名またはパッケージ ID) <code>--versiondescription</code>   <code>-e</code> <code>--versionname</code>   <code>-a</code> <code>--versionnumber</code>   <code>-n</code> <code>--installationkey</code> (フラグが必須になりました) <code>--installationkeybypass</code>   <code>-x</code>
<code>force:package2:version:create:get</code>	<code>force:package:version:create:report</code>	なし	なし
<code>force:package2:version:create:list</code>	<code>force:package:version:create:list</code>	なし	なし
<code>force:package2:version:get</code>	<code>force:package:version:report</code>	<code>--package2versionid</code>   <code>-i</code>	<code>--package</code>   <code>-p</code> (別名またはパッケージ ID)
<code>force:package2:version:list</code>	<code>force:package:version:list</code>	<code>--package2ids</code>   <code>-i</code>	<code>--packages</code>   <code>-p</code> (複数のパッケージのリストを指定できます)
<code>force:package2:version:update</code>	<code>force:package:version:promote</code>	<code>--setasreleased</code>	なし
<code>force:package2:version:update</code>	<code>force:package:version:update</code>	<code>--noprompt</code>   <code>-p</code> <code>--package2versionid</code>   <code>-i</code>	<code>--package</code>   <code>-p</code> (別名またはパッケージ ID)
<code>force:package:install:get</code>	<code>force:package:install:report</code>	なし	なし



廃止されたコマンド (v43 以前)	新しいコマンド (v43)	削除されたパラメータ	新しいまたは変更されたパラメータ
force:package:uninstall:get	force:package:uninstall:report	なし	なし

## Salesforce CLI パラメータの変更

次のコマンドについては、パラメータのみが変更されました。

コマンド名	変更または削除されたパラメータ	新しいパラメータ
force:package:install	--id   -i (必須ではなくなりました) --publishwait の短縮形フラグ (-p) は廃止されました	--package   (短縮形フラグなし)
force:package:uninstall	--id   -i (必須ではなくなりました)	--package   -p

## Salesforce DX プロジェクトの変更

Salesforce DX プロジェクトの設定および維持方法が改善されましたが、Winter '19 までは現在の sfdx-project.json ファイルを使用できます。

### パッケージの別名

パッケージを作成している既存のユーザまたはパートナーであれば、15 および 18 文字のさまざまな種別のパッケージ ID に慣れていますが、これらの ID はパッケージとパッケージバージョンを一意に識別しますが、直感的に理解できるものではありません。CLI パッケージコマンドを実行するときに、Salesforce DX プロジェクトファイルのパッケージ ID にわかりやすい別名を使用できるようになりました。パッケージの別名を作成するためのセクションが sfdx-project.json に含まれます。

```
"packageAliases": {
  "Time Off Manager": "0HoB00000004CFpKAM",
  "External Apex Library@1.0.0-4": "04tB0000000IB1EIAW",
  "Expense Manager": "0HoB00000004CFuKAM"
}
```

パッケージの連動関係を示す場合も、パッケージの別名を使用できます。

```
"dependencies": [
  {
    "package": "Time Off Manager",
    "versionNumber": "4.7.0.LATEST"
  },
  {
    "package" : "External Apex Library@1.0.0-4"
  }
]
```



たとえば、「Expense Manager (経費マネージャ)」パッケージの説明を更新とします。直感的に理解できないパッケージ ID ではなく、パッケージの別名、つまり「Expense Manager (経費マネージャ)」でパッケージを識別できます。

```
sfdx force:package:update --package "Expense Manager" --description "Summer '18 Release"
```

### Salesforce DX プロジェクトファイルの自動更新

手動更新はもう必要ありません。パッケージまたはパッケージバージョンを作成するときに、Salesforce CLI は 0Ho または 04t の ID をパッケージ名または別名に対応付けて、Salesforce DX プロジェクトファイルを自動的に更新します。

パッケージ名を指定してコマンドを実行した場合、CLI は `packageAliases` セクション内で別名を作成し、`packageDirectories` セクションを更新します。後続のコマンドではパッケージの別名を使用してパッケージを参照できます。別名を使用すると、`sfdx-project.json` ファイルが読みやすくなります。別のコマンドを実行して暗号のような ID を取得する必要はなくなりました。

```
sfdx force:package:create --name "Revenue Optimizer" --path "util" --packagetype Unlocked
```

```
"packageDirectories": [
  {
    "path": "util",
    "package": "Revenue Optimizer",
    "versionName": "ver 0.1",
    "versionNumber": "0.1.0.NEXT",
    "default": false
  }
],
"packageAliases": {
  "Revenue Optimizer": "0HoB00000004CUqKAM"
}
```

パッケージバージョンを作成する場合も、CLI は別名を作成します。パッケージバージョンの別名は、パッケージ名とバージョン番号で構成されます。パッケージバージョンを作成する場合に、非同期モードでコマンドを実行するには、待機時間を指定します。待機時間以内にパッケージバージョンが作成された場合、`sfdx-project.json` ファイルは自動的に更新されます。作成されない場合は、プロジェクトファイルを手動で更新する必要があります。

```
sfdx force:package:version:create --package "Revenue Optimizer" --versionnumber 1.0.0.2
--wait 10
```

```
"packageAliases": {
  "Revenue Optimizer@1.0.0-2": "04tB0000000IB1EIAW"
}
```

### Salesforce DX プロジェクトを自動で更新したくない場合は?

場合によっては、`sfdx-project.json` ファイルの自動更新が望ましくないことがあります。詳細な制御が必要な場合は、次の環境変数を使用して、プロジェクトファイルの自動更新を抑制します。


コマンド	次の環境変数を <b>True</b> に設定
<code>force:package:create</code>	<code>SFDX_PROJECT_AUTOUPDATE_DISABLE_FOR_PACKAGE_CREATE</code>
<code>force:package:version:create</code>	<code>SFDX_PROJECT_AUTOUPDATE_DISABLE_FOR_PACKAGE_VERSION_CREATE</code>





## 機能と組織の設定のための外部定義ファイル

以前のリリースでは、パッケージのメタデータで必要とされる、機能と組織の設定を `sfdx-project.json` ファイルで指定していました。このプロセスをスクラッチ組織でのこの情報の定義方法と一致させるには、パッケージで必要とされる、機能と組織の設定を JSON ファイルで指定できます。使用事例に応じて、パッケージとスクラッチの両方の組織に対して単一定義の外部 JSON ファイルを使用するか、異なる JSON ファイルを維持できます。パッケージの場合、`sfdx-project.json` 内で、または `force:package:version:create` コマンドを実行するときに、ファイル名を指定できます。

 **メモ:** Summer'18 中は、機能と組織の設定を引き続き `sfdx-project.json` ファイルで指定できます。ただし、Winter'19 では、外部 JSON ファイルの使用が必要になります。

`sfdx-project.json`:

```
"definitionFile": "config/package-def.json",
```

コマンドライン:

```
force:package:version:create --package "Expense Manager" --definitionfile
config/package-def.json --wait 10
```

## CI オートメーションのサポート

CI スクリプトでは、(あなたのように) `sfdx-project.json` を手動で変更することはできません。CI の使用事例をサポートするには、スクリプトで `force:package:version:create` コマンドを実行するときに `--versionname`、`--versionnumber`、および `--versiondescription` パッケージパラメータを指定できます。これらの値は、`sfdx-project.json` ファイル内の値を上書きします。

```
sfdx force:package:version:create --package "Expense Manager" --versionname "Summer 2018"
--versionnumber "1.3.0.3" --wait 10
```

## これらのすべてのバージョンを区別する方法

`package:version:create` を実行するときに `--versionname` の値を指定しない場合、CLI は `--versionname` を `--versionnumber` に設定します。パッケージ名とバージョン番号の組み合わせは、パッケージバージョンを一意に識別するのに役立ちます。

## パッケージインストール時に有効なレコードが削除されないように拡張検証で予防

取引先レコードタイプを含むパッケージをアンインストールする場合、有効な法人および個人取引先レコードタイプの削除が検証プロセスによって予防されます。これまで、この検証は[レコードタイプ設定]ページから取引先レコードタイプを削除するときのみ発生していました。

**対象:** この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

## ロック済みパッケージのパイロットの一時停止

入念に検討した結果、ロック済みパッケージのパイロットを一時停止し、そのサポートを Summer'18 で中止することが決定されました。Salesforce CLI パッケージコマンドに、ロック済みパッケージを作成するオプションが含まれなくなりました。

この変更は、次のパッケージ種別の新機能をすばやく変革し、リリースするのに役立ちます。

- 顧客およびシステムインテグレータ (SI) 向けのロック解除済みパッケージ
- ISV およびパートナー向けの第二世代管理パッケージ

## ISVforce: AppExchange 公開環境の改善

ISVforce ツールを使用して AppExchange でアプリケーション、Lightning コンポーネント、およびその他のソリューションを配布します。Lightning Bolt ソリューションの公開時の柔軟性が向上し、カスタムアプリケーション、プロセスフロー、コミュニティテンプレート、ページがサポートされるようになりました。公開コンソールを使用して、ソリューションのロゴとタイル画像をマーケティングチームと共有します。

このセクションの内容:

### [Lightning Bolt ソリューションを使用した迅速なビジネスソリューションの稼働開始](#)

Lightning Bolt ソリューションを使用して、業界に特化したソリューションを顧客のために作成します。カスタムアプリケーション、フロー、Lightning コミュニティテンプレート、ページを含む、包括的なビジネスソリューションを配布します。

### [公開コンソールでのマーケティングリソースの送信](#)

Salesforce は、AppExchange パートナーが構築しているソリューションを紹介することをいつでも楽しみにしています。パートナーが Salesforce のマーケティング資料にソリューションを掲載してもらいたい場合、公開コンソールでベクターベースのロゴとタイル画像を送信できるようになりました。

## Lightning Bolt ソリューションを使用した迅速なビジネスソリューションの稼働開始

Lightning Bolt ソリューションを使用して、業界に特化したソリューションを顧客のために作成します。カスタムアプリケーション、フロー、Lightning コミュニティテンプレート、ページを含む、包括的なビジネスソリューションを配布します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

### [Lightning Bolt ソリューションを使用したビジネスソリューションの作成](#)

## 公開コンソールでのマーケティングリソースの送信

Salesforce は、AppExchange パートナーが構築しているソリューションを紹介することをいつでも楽しみにしています。パートナーが Salesforce のマーケティング資料にソリューションを掲載してもらいたい場合、公開コンソールでベクターベースのロゴとタイル画像を送信できるようになりました。

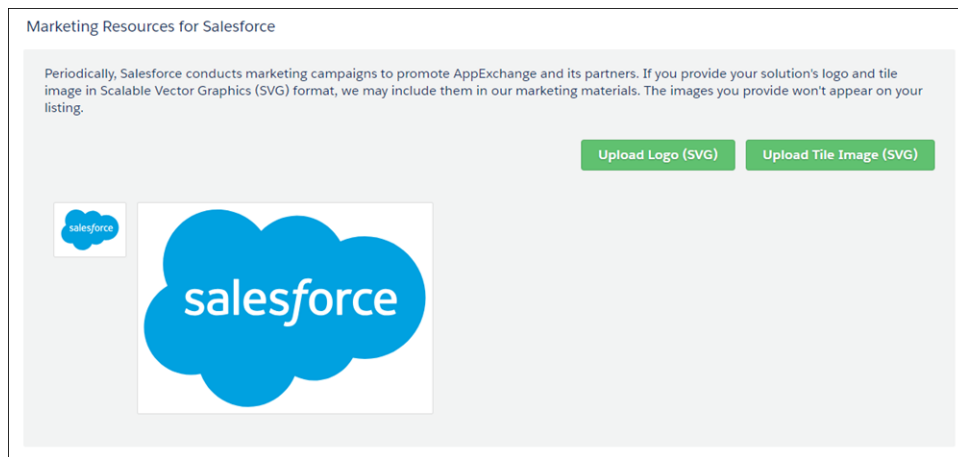
対象: この変更は Salesforce パートナーコミュニティに適用されます。

対象ユーザ: 「リストの管理」権限を持つパートナーコミュニティメンバー。

**理由:**以前は、Salesforce のマーケティング資料でパートナーのソリューションを特集したい場合、Scalable Vector Graphics (SVG) 形式の画像をメールで送信するようにパートナーに依頼していましたが、リストの他の資産と同じようにパートナーが公開コンソールでアップロードできるようになりました。

**方法:** 公開コンソールでリストを開き、[メディア] をクリックします。次に、ソリューションのロゴとタイル画像を SVG 形式でアップロードします。

画像をアップロードすると、ソリューションが最も魅力的に見えるように形式とサイズが確認されます。



## マーケティング: Lightning ホームページ、Google Analytics 360 インテグレーション、およびその他の機能

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。あらゆるソースからの顧客利用データを 1 か所で表示し、ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化できます。最適なタイミングですべてのチャンネルとデバイスにパーソナライズされたコンテンツを配信し、リアルタイムでアプローチを最適化してより優れた結果をもたらすことができるように、ビジネスでの各インタラクションの影響を評価します。

最新機能と機能強化の詳細は、Marketing Cloud リリースノートを参照してください。

- [2018 年 4 月リリース](#)
- [2018 年 1 月リリース](#)
- [2017 年 10 月リリース](#)
- [2017 年 8 月リリース](#)
- [2017 年 6 月リリース](#)

関連トピック:

[Marketing Cloud の概要](#)

[Salesforce Marketing Cloud の Facebook ページ](#)

## 重要な更新

このリリースには、プロセス、フロー、HTML ベースのメールテンプレート、および Sandbox URL に関する新しい重要な更新が含まれます。また、@AuraEnabled Apex コントローラに関する重要な更新が延期されました。

新しいリリースに円滑に移行できるように、それぞれの重要な更新には選択期間が用意されています。この選択期間は、[設定]の[重要な更新]ページに表示される自動有効化日付になると終了します。この期間中は、更新の有効化および無効化を必要に応じて手動で何度でも行って組織への影響を評価し、更新によって影響を受けるカスタマイズを修正することができます。選択期間を過ぎると、更新は有効になります。詳細は、「[重要な更新への対応](#)」を参照してください。

## 新しい重要な更新

Summer '18 の新しい重要な更新を次に示します。

### プロセスでの作成および更新操作の部分的保存の有効化 (重要な更新)

この更新は、1つのプロセスが失敗したときにトランザクション内のすべての実行中のプロセスが失敗することを防ぎます。保存に失敗したレコードのみがロールバックされます。

### フローおよびプロセスのクエリの一括実行の導入 (重要な更新)

この更新では、フローとプロセスでクエリが一括処理可能な場合の実行方法が変更されます。Salesforce レコードの作成、更新、削除操作についてはすでに一括処理されています。クエリの一括処理が可能になることで、組織は SOQL 制限に達することを避けやすくなります。この重要な更新が組織の重要な更新コンソールに表示されない場合、その組織ではすでにフローとプロセスの操作が一括で実行されています。

### 「セルフサービスユーザの編集」権限を「カスタマーユーザの管理」に名前変更

「セルフサービスユーザの編集」権限が「カスタマーユーザの管理」に名前変更されました。機能は同じですが、新しい標準プロファイルではこの権限がデフォルトで有効になりません。

### Salesforce Classic HTML ベースのメールテンプレートの使用をセキュアなブラウザに制限 (重要な更新)

この重要な更新は、Microsoft Internet Explorer から HTML ベースのメールテンプレート (カスタム、Visualforce、標準の HTML テンプレートなど) が使用されることを防ぎます。Internet Explorer は Salesforce コンテンツセキュリティポリシー (CSP) をサポートしていないため、必要なブラウザ保護を提供できません。Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox など、CSP をサポートするブラウザを使用することをお勧めします。

### Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新)

この重要な更新により、URL からインスタンス名が削除されます。Spring '18 よりも前のリリースでは、Sandbox の [私のドメイン] URL に組織のインスタンス名が含まれていました。今回の更新後、Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が除外されます。

### Salesforce サイトおよびポータルでのトピックの保護 (重要な更新)

トピック名は組織のすべてのユーザに公開されます。これには、Summer '13 より前に作成された組織の Salesforce サイトおよびポータルのユーザも含まれます。トピックのセキュリティを強化するため、Salesforce サイトおよびポータルのゲストと認証済み外部ユーザに対してトピックが無効になります。

## 延期された重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新の自動有効化日付が延期されました。

「暗黙的な共有を行う @AuraEnabled Apex コントローラに対して **without sharing** を使用 (重要な更新)」の延期  
この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Summer '18 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '19 に延期されました。

## ヘルプ & トレーニング

---

Trailhead モジュールと手順の動画が追加されました。また、信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

このセクションの内容:

### Trailhead で機能を探索

Salesforce の操作に慣れ、新機能について把握するのに最適な方法があります。それは、Salesforce をガイド付きで楽しく習得できるインタラクティブツール、Trailhead です。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進捗に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

### 動画を見る (英語のみ)

ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について学べるように、説明用の動画を作成および更新しています。

### 信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが更新されました。

## Trailhead で機能を探索

Salesforce の操作に慣れ、新機能について把握するのに最適な方法があります。それは、Salesforce をガイド付きで楽しく習得できるインタラクティブツール、Trailhead です。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進捗に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

<https://trailhead.salesforce.com> で Trailhead を確認し、適切なトレイルを見つけてください。最新のモジュールは次のとおりです。


## 新しいモジュール

### Health Cloud 患者データの表示

患者のニーズに対応するように治療タイムライン、患者カード、およびリスト検索条件を調整します。

## 動画を見る (英語のみ)

ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について学べるように、説明用の動画を作成および更新しています。

- 新しい動画  「Connecting to Salesforce in Outlook (Outlook での Salesforce の接続) (英語のみ)」では、Lightning for Outlook と Inbox for Outlook (ベータ) で使用可能な機能の概要を説明しています。この機能には、レコードの追加、ToDo の管理、メールの記録、および Inbox for Outlook (ベータ) で使用可能な生産性機能が含まれます。

- **新しい動画** 🎥 「Communities and Community Users in Your Salesforce Org (Salesforce 組織のコミュニティおよびコミュニティユーザ)」(英語のみ)では、組織内でコミュニティがどのように存在しているかと、Salesforce アカウントとコミュニティユーザがどのように相互に関連付けられているかを示しています。
- **新しい動画** 🎥 「How Admins Set Up Einstein Activity Capture (システム管理者が Einstein 活動キャプチャを設定する方法)」(英語のみ)では、営業担当が Einstein 活動キャプチャを始められるようにする方法を示しています。Salesforce レコードに特定の活動を追加しないようにする方法、活動の共有方法のデフォルトを設定する方法、機能を使用できるユーザを選択する方法について説明しています。
- **新しい動画** 🎥 「How Users Set Up Einstein Activity Capture (ユーザが Einstein 活動キャプチャを設定する方法)」(英語のみ)では、Einstein 活動キャプチャを設定するのに何を必要とする必要があるかと、個人設定の設定方法を営業担当に示します。
- **更新された動画** 🎥 「Send Personalized Emails to a Group (グループへのパーソナライズされたメールの送信)」(英語のみ)では、Summer '18 リリースでリストメール機能に加えられた変更について説明します。
- **更新された動画** 🎥 「Use Tasks to Boost Your Sales Productivity (ToDo を使用した営業の生産性向上)」(英語のみ)では、Summer '18 リリースで ToDo 機能に加えられた変更について説明します。
- **更新された動画** 🎥 「Search in Salesforce Lightning Experience (Salesforce Lightning Experience での検索)」(英語のみ)では、Summer '18 リリースで検索機能に加えられた変更について説明します。

## 信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが更新されました。

### Infrastructure and Sub-Processors

ドキュメント『Infrastructure and Sub-Processors』に次の変更が加えられました。

Sales Cloud、Service Cloud、Community Cloud、Chatter、Force.com、IoT Explorer、Site.com、Database.com、Einstein Analytics、Work.com、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce CPQ および Salesforce Billing

- **Infrastructure—Customer Data Storage:** 顧客データの送信は Salesforce のデータセンター経由で転送される可能性があり、それらの顧客データのストレージは指定された場所に制限されることが明記されました。
- **Content Delivery Networks:** CDN の使用に関する内容がわかりやすくなりました。

### Commerce Cloud

- **Infrastructure—Customer Data Storage:** Einstein のブランド設定が更新され、Store についての言及が削除されました。
- **Infrastructure—Customer Data Storage:** Amazon Web Services, Inc. は分析に関して使用される顧客データを保存し、分析目的で使用される情報は公開前に匿名化されることが明記されました。
- **Content Delivery Networks:** Digital および Einstein サービス向けの CloudFront (Amazon Web Services, Inc.) CDN が追加されました。動的イメージングサービス機能が Amazon の CloudFront CDN を使用して CloudFront に続いて顧客の CDN を介して画像の保存と配信を行う方法と、CloudFront が Einstein 予測メールの画像をホストする方法の説明が追加されました。

### Data.com

- SFDC アフィリエイトテーブルの形式が変更されました

「Einstein」(Sales Cloud Einstein、Salesforce Inbox、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision および Language サービス、Einstein ボット)

- **Scope:** ドキュメント『Infrastructure and Sub-Processors』に Salesforce Inbox (既存のサービス) と Einstein ボット (新しいサービス) が追加されました。一貫性および統合可能性の目的で、一定のセクションの Salesforce Inbox に関する説明が元の言語と異なっていることがあります。
- **Scope:** ドキュメント『Infrastructure and Sub-Processors』に特定の Sales Cloud および Service Cloud サブスクリプションの一部として無料で含まれる新しい Einstein オプトイン機能が追加されました。
- **Infrastructure—Customer Data Storage:** Einstein 活動キャプチャでドイツおよび米国でいつデータが保存されるかの詳細が追加されました。

#### Heroku

- 更新なし。

Desk.com、Einstein Discovery、LiveMessage、Quip、SalesforceIQ CRM サービス

- **Scope:** ドキュメントの範囲から Salesforce Inbox が削除されました。

#### IoT Cloud

- 更新なし。

#### Marketing Cloud

- **Scope:** Marketing Cloud のドキュメント『Infrastructure and Sub-Processors』から Radian6 が削除されました。
- **Infrastructure—Customer Data Storage:** 予測インテリジェンスデータが保存される可能性がある国のリストにカナダが追加され、ブラジルが削除されました。Marketing Cloud のドキュメント『Infrastructure and Sub-Processors』から Radian6 が削除されました。

#### Pardot

- 更新なし。

#### Salesforce DMP

- 更新なし。

## 通知およびライセンス

通知およびライセンスドキュメントに次の変更が加えられました。

#### Salesforce

- **Acceptable Use and External-Facing Services Policy:** 「Acceptable Use and External-Facing Services Policy」へのリンクが更新されました。

#### Commerce Cloud

- **Third Party Notices:** サードパーティのフロースルー規約が更新されました。
- **Third Party Notices:** 注文管理と相互運用するサードパーティプラットフォームおよび商用エンティティについて、顧客は同意したすべての規約に従う必要があることが追加され、それらのプラットフォームとエンティティのリストが追加されました。

#### Data.com

- 変更はありません。

#### Desk.com

- 変更はありません。

#### Einstein Analytics

- 変更はありません。

#### Einstein Discovery

- 変更はありません。

「Einstein」(Sales Cloud Einstein、Salesforce Inbox、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision および Language サービス、Einstein ボット)

- **Scope:** NLI ドキュメントに Salesforce Inbox (既存のサービス) と Einstein ボット (新しいサービス) が追加されました。
- **Scope:** NLI に特定の Sales Cloud および Service Cloud サブスクリプションの一部として無料で含まれる新しい Einstein オプトイン機能が追加されました。
- 各サービスで使用される非SFDCアプリケーションおよびコンテンツを明確にするためにドキュメントが再構成されました。
- **Salesforce Inbox:** 顧客が開封確認を使用する場合におおよその地理位置情報を提供する、新しい非 SFDC アプリケーションの Maxmind が追加されました。
- **Salesforce Inbox:** 顧客が取引先責任者強化を使用する場合に取引先責任者強化情報の提供に使用される非 SFDC アプリケーションに関する詳細が追加されました。

#### Heroku

- 更新なし。

#### IoT Cloud

- 「IoT Cloud」が「IoT Cloud Services」に変更されました。

#### LiveMessage

- 変更はありません。

#### Marketing Cloud

- **Scope:** 『Notices and License Information』全体から Radian6 が削除されました。「Einstein マーケティングレコメンデーション」が「Einstein レコメンデーション」に変更され、「KruX」が「Salesforce DMP」に変更されました。
- **Acceptable Use and External-Facing Services Policy:** 「Acceptable Use and External-Facing Services Policy」へのリンクが更新されました。

#### Pardot

- 変更はありません。

#### Quip

- **Acceptable Use and External-Facing Services Policy:** 「Acceptable Use and External-Facing Services Policy」へのリンクが更新されました。
- **Interoperation with Other Services:** ライブアプリケーションに関する情報が追加されました。

#### Salesforce DMP

- **Services Covered:** 全体を通して「Covered Services」が「Salesforce DMP Services」に置き換えられ、一貫性を保ち明確化するために定義が簡略化されました。



- **Restricted Uses of Information and Compliance with Self-Regulatory Programs:** 一貫性を保つために「Personal Data」の定義が削除されました。明確化するためにオンボーディングについての言及が削除されました。個人データの実例リストが削除され、個人データ(仮名化個人データおよび IP アドレス)の送信禁止の例外が明記されました。NAI 行動規範との一貫性を保つために「non-personal identifiers」が「device-identifiable information」に変更され、18 歳未満のステータスについての機密データの言及が削除されました。「inferences」を含む機密性の高い健康データを禁止することが明記されました。
- **Notice to Customer's Users:** 必要な通知を明確化し、プライバシーポリシーの例を含めるように記述が更新されました。
- **Distributed Software:** 必要な通知のリストが更新されました。

#### SalesforceIQ (SalesforceIQ CRM および Salesforce Inbox)

- **Scope:** SalesforceIQ NLI ドキュメントから Salesforce Inbox サービスが削除され、Sales Cloud Einstein、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision および Language、Einstein ボットも収録されている統合ドキュメントに Salesforce Inbox が追加されました。
- 一般データ保護規則 (GDPR) に直接関連する権利と義務は SIQ CRM および SalesforceIQ には適用されない通知が追加されました。これは現在「Salesforce Inbox」というブランドのサービスに関する Salesforce の義務には影響しません。

## Security, Privacy, and Architecture

セキュリティ、プライバシー、およびアーキテクチャドキュメントに次の変更が加えられました。

#### Sales Cloud、Service Cloud、Community Cloud、Chatter、Force.com、IoT Explorer、Site.com、Database.com、Einstein Analytics、Work.com、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce CPQ および Salesforce Billing

- **Scope:** 特定の Sales Cloud および Service Cloud サブスクリプションの一部として無料で含まれる新しい Einstein オプトイン機能が Sales Cloud Einstein、Salesforce Inbox、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision および Language、Einstein ボットドキュメントに記載されていることが明記されました。
- **Audits and Certifications:** SOC 監査の範囲を説明する記述が改訂されました。
- **Audits and Certifications:** PCI AoC の範囲から IoT Explorer が除外されたことを説明し、顧客が Salesforce の PCI DSS AoC を利用する場合はプラットフォームの暗号化の使用時に確定的暗号化は実装してはいけないことを示すように改訂されました。
- **Audits and Certifications:** HITRUST 認定情報が追加されました。
- **Deletion of Customer Data:** 終了後のデータ削除のタイムラインを含む新しいテーブルが追加されました。

#### Commerce Cloud

- **Audits and Certifications:** Commerce Cloud は CSA の星による評価を行わなくなり、Salesforce コアサービスと連携しているため、この評価が削除されました。
- **Audits and Certifications:** Einstein 機能は SOC 2 および SOC 3 監査の形式による第三者評価を受ける記述が追加されました。
- **Security Policies and Procedures:** ユーザのパスワードは暗号化されるかソルト化ハッシュを使用して保存されることが明記されました。
- **Intrusion Detection:** Salesforce は Commerce Cloud サービスで未承認の侵入を監視し、(買い物客のアカウントではなく)顧客のアカウントの不正認証を防ぐことを説明するように記述が更新されました。
- **User Authentication:** 注文管理でパスワードが暗号化されることの記述が追加されました。

**Data.com**

- 英国またはヨーロッパに住む個人の連絡先情報の送信制限が追加されました。
- 「Einstein」(Sales Cloud Einstein、Salesforce Inbox、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision および Language サービス、Einstein ボット)
  - **Scope:** ドキュメント『Security, Privacy, and Architecture』に Salesforce Inbox (既存のサービス) と Einstein ボット (新しいサービス) が追加されました。一貫性および統合可能性の目的で、一定のセクションの Salesforce Inbox に関する説明が元の言語と異なっていることがあります。
  - **Scope:** ドキュメント『Security, Privacy, and Architecture』に特定の Sales Cloud および Service Cloud サブスクリプションの一部として無料で含まれる新しい Einstein オプトイン機能が追加されました。
  - **Security Logs:** セキュリティログはすべての対象サービスで保持されます。
  - **Deletion of Customer Data:** 期間の終了時にアクティブなメディアとバックアップストレージから削除されるデータについての明示的なタイムラインを提供するように更新されました。
  - **Sensitive Information:** 機密性の高い個人情報の予測に対する Einstein の使用、および法的な効力がある自動的な決断に対する Einstein の使用の制限が追加されました。

**Heroku**

- **User Authentication:** シングルサインオンを介したユーザ認証の詳細が追加されました。
- **Data Encryption:** 特定の Heroku Postgres プランでの保存時の暗号化の詳細が追加されました。
- **Return of Customer Data:** 契約解除に関する記述が削除されました。
- **Deletion of Customer Data:** 顧客データの削除の期間が明記されました。

**Desk.com、Einstein Discovery、LiveMessage、Quip、SalesforceIQ CRM サービス**

- **Services Covered:** ドキュメントの範囲から Salesforce Inbox が削除されました。
- **Third-Party Functionality:** 上限を超えたサードパーティメッセージングプロバイダによって、そのプラットフォームを使用して送信されたメッセージのコンテンツへのアクセスに関する情報が追加されました。
- **Sensitive Information:** 機密性の高い個人情報の予測に対する Einstein の使用、および法的な効力がある自動的な決断に対する Einstein の使用の制限が追加されました。

**IoT Cloud**

- 更新なし。

**Marketing Cloud**

- **Services Covered:** 全体を通して Radian6 が削除されました。
- **Audits and Certifications:** ExactTarget サービスの HITRUST 認定が追加されました。
- **Security Controls:** 特定のサービスに対する特定のコントロールの機能が明記されました。
- **Reliability and Backup:** バックアップの保持期間が 24 週から 90 日に変更されました。
- **Data Encryption:** トランスポートレイヤの暗号化が明記されました。
- **Deletion of Customer Data:** サービスによる削除のタイムラインを提供するように更新されました。バックアップデータの削除とタイムラインが明記されました。

**Pardot**

- 更新なし。

**Salesforce DMP**

- **Services Covered:** 全体を通して「Covered Services」が「Salesforce DMP Services」に置き換えられ、一貫性を保ち明確化するために定義が簡略化されました。
- **Viruses:** 一貫性を保つために説明が簡略化され、顧客の同意が削除されました。
- **Deletion of Customer Data:** 期間の終了時にアクティブなメディアとバックアップストレージから削除されるデータについての明示的なタイムラインを提供するように更新されました。
- **Sensitive Data:** セクションタイトルが「Sensitive Data」から「Personal Data and Sensitive Data」に変更されました。一貫性を保つために「Personal Data」の定義が削除されました。明確化するためにオンボーディングについての言及が削除されました。個人データの実例リストが削除され、個人データ(仮名化個人データおよびIPアドレス)の送信禁止の例外が明記されました。NAI行動規範との一貫性を保つために「non-personal identifiers」が「device-identifiable information」に変更され、18歳未満のステータスについての機密データの言及が削除されました。「inferences」を含む機密性の高い健康データを禁止することが明記されました。機密データに関する表現が若干変更されました。
- **Analytics:** 「Anonymized Data」の定義が追加され、マーケティングレポートなどのレポートの作成にそれを使用する方法の説明が追加されました。匿名データには個人データが含まれないことが明記されました。

## その他の Salesforce 製品とサービス

---

### Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、「[Heroku Changelog](#)」を参照してください。

### Success Cloud

Salesforce Success Cloud の認定エキスパート、コンサルタント、革新的なツールが、プロフェッショナルサービス、具体的なアドバイス、専門知識を通じて、さまざまな場面をサポートします。